

# 曾國藩家書

曾文正公家書卷一

道光二十年庚子歲二月初九日

中國致公出版社

男國藩跪稟父親母親大人膝下去年十二月十六日男在漢日寄家信付湘潭人和紙行不知已收到否後於廿一日在漢日開車二人共僱二把手小車六輛男占三輛半行三百餘里至河南八里汊度歲正月初二日開車初七日至周家日即換大車僱三套逢車二輛每套錢十五千文男占四套半占二套初九日開車十二日至河南省城拜客航棚四天獲百餘金十六日起行即於是日三更趁風平浪靜徑渡黃河廿八日到京一路清吉平安天氣亦好惟過年二天微雪耳到京在長郡會

李鴻章 編輯 李鴻章 校刊

曾文正公家書卷

合肥李瀚章後泉編輯

合肥李鴻章少荃校刊

合肥張樹聲振軒

六安涂宗瀛朗軒

廬江劉秉璋仲良

衡陽彭玉麟雪琴

開縣李宗羲雨亭

李鸿章曾感叹地说：“吾师道德功业，固不待言，即文章学问，亦卓绝一世。”

毛泽东在《致黎锦熙信》中说：“愚于近人，独服曾文正，观其收洪杨一役，完满无缺，使以今人易其位，其能如彼完满乎？”

著名学者南怀瑾先生在他的《论语别裁》书中说：“清代中兴名臣曾国藩有十三套学问，流传下来的只有一套《曾国藩家书》。”

ISBN 978-7-5145-0095-0



定价：48.00元

# 曾国藩家书

〔清〕曾国藩 著  
〔清〕李瀚章 编  
〔清〕李鸿章 校刊



中国致公出版社

PDG

图书在版编目(CIP)数据

曾国藩家书/(清)曾国藩著;(清)李瀚章编;  
(清)李鸿章校刊. —北京:中国致公出版社,2011.8  
ISBN 978-7-5145-0095-0

I. ①曾… II. ①曾… ②李… ③李… III. ①曾国藩  
(1811~1872)—书信集 IV. ①K827=52

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2011)第 117315 号

---

曾国藩家书

---

著 者:[清]曾国藩  
编 者:[清]李瀚章  
校 刊:[清]李鸿章  
责任编辑:董拯民

---

出版发行:中国致公出版社

(北京市西城区德胜门东滨河路 11 号西门 电话 010-66168543 邮编 100120)

经 销:全国新华书店  
印 刷:北京毅峰迅捷印刷有限公司  
印 数:1—6000

---

开 本:710×1000 1/16 开  
印 张:29.25  
字 数:490 千字

版 次:2011 年 9 月第 1 版 2011 年 9 月第 1 次印刷

---

ISBN 978-7-5145-0095-0 定 价:48.00 元

---

版权所有 翻印必究



## 出版说明

大清一朝的名臣之中，集文治武功、文章道德于一身者，只有曾国藩一人。他一生勤奋读书，推崇儒家学说，讲求经世致用的实用主义，成为继孔子、孟子、朱熹之后又一位“儒学大师”。他在世时即有“道德文章冠冕一代”的美誉，后世曾誉为“千古第一完人”。

曾国藩（1811—1872年），湖南湘乡（今娄底市双峰县）荷叶塘一个乡绅家庭的子弟，原名子城，字伯涵，号涤生。他28岁考取进士，37岁任礼部侍郎。次年，他回乡创建湘军，与太平天国义军对垒，艰难竭蹶，屡败屡战最终彻底剿灭太平军，由此而成为清一代的文人而人武侯的第一人。此后，历任两江总督，直隶总督，官居一品。死后，谥文正。他生逢乱世，却成了力挽狂澜的清代中兴名臣，在政治、军事、文化、经济领域内均影响深远。他由此声名显赫，毁誉交加，后世对他多有评议。

曾国藩之所以长久为人称道，不仅是因为他的文治武功，更是因为他的文章与道德。而他的文章、道德之精粹无不包含于《曾国藩家书》之中。《曾国藩家书》记录了曾国藩在清道光二十年至同治十年前后达30多年的翰苑和从武生涯，涉及修身、劝学、治家、理财、交友、为政、用人等人生课题，可以说将儒家入世哲学悉数贯彻其中，堪称立身之范本，处世之良言。

开国领袖毛泽东和曾国藩同为湖南人，而韶山与荷叶塘只有一山之隔。毛泽东8岁前一直住在湘乡的外婆家，16岁曾在湘乡东山高小读书，所以曾国藩对他的影响是从少年开始的。毛泽东青年时代就下过一番工夫读曾国藩的著作，《曾文正公家书》是其首选。又因其内容极为广泛，大到经邦纬国、进德为宦、朝政军务、治学修身，小到家庭生计、人际琐事、养生之道，事无巨细，无不涉及，所以毛泽东一生珍藏。当年毛泽东读过的《家书》，系光绪年间传忠书局乙卯年的木刻本，现韶山毛泽东同志纪念馆尚收藏有该书的第四、六、七、九卷，每卷的扉页上都有毛泽东手书的“咏芝珍藏”。

1917年8月25日，毛泽东在《致黎锦熙信》中说：“愚于近人，独服曾文正，观其收洪杨一役，完满无缺，使以今人易其位，其能如彼

完满乎？”

蒋介石在审订增补蔡锷所编的《曾胡治兵语录注释》时则说：“大清之所以中兴，太平天国之所以失败者，盖非人才消长之故，而实德业隆替之征也……曾氏标榜道德，力体躬行，以一世之倡，其结果竟给变易风俗，挽回颓靡……其苦心毅力，自立立人，自达达人之道，盖已慢为人之师资矣。”

李鸿章曾感叹地说：“吾师道德功业，固不待言，即文章学问，亦卓绝一世。”

梁启超先生说：“曾文正者，岂惟近代，盖有史以来不一二睹之大人也已；岂惟中国，抑全世界不一二睹之大人也已。然而文正而非有超群轶伦之天才，在并时诸贤杰中，最称钝拙。其所遭值事会，亦终身在拂逆之中，然乃立德、立功、立言三并不朽，所成就震古铄今而莫与京者，其一生得力在立志自拔于流俗，而困而知，而勉而行，历百千艰阻而不挫屈，不求近效，铢积寸累，受之以虚，将之以勤，植之以刚，贞之以恒，帅之以诚，勇猛精进，卓绝坚苦，如斯而已，如斯而已。”

著名学者南怀瑾先生在他的《论语别裁》书中说：“清代中兴名臣曾国藩有十三套学问，流传下来的只有一套《曾国藩家书》。”

1872年，曾国藩逝于两江总督任上。三年后，光绪帝亲自下诏，其门人李瀚章、李鸿章等30多位达官士绅奉诏将其生前著述编辑成书。光绪乙卯年（1879年），《曾文正公家书》由传忠书局刊刻出版，并迅速成为一部人们争相购买的家藏典籍。此后二百年间，《曾国藩家书》多次出版，其版本之多，超过史上任何一部家书，但由传忠书局刊刻的这一版本，则因其编辑之严谨、校勘之精妙以及编校者之声望、地位而始终享誉非凡。编者李瀚章官居湖广总督，而校勘者李鸿章则是一位影响了近代中国近半个世纪的晚清军政重臣。编、校胞兄弟都是曾国藩的门生，较之于其他版本真实无讹，而且名臣编校、删裁得当、言简意赅。就《曾国藩家书》而言，传忠书局刊刻的这一版本毫无疑问当是最佳上品。虽时过境迁，而人们仍可从这部洋洋数十万言的温情故事里，读出生命通达权变的莫大智慧。

我们整理出版的这部《曾国藩家书》，以光绪乙卯年传忠书局刻本为底本，收录了原刻本所有文章。本书仍以原书编年体为序，凡十卷。原书无目录，今已加上。繁体竖排转为简体横排，加以标点以适当今读者。

沈益恒

2011年5月1日

## 目 录

## 曾国藩家书卷之一

道光二十年庚子岁 .....	1
寡父亲母亲大人（二月初九日） .....	1
道光二十一年辛丑岁 .....	2
寡祖父大人（四月十七日） .....	2
寡父亲大人（五月十八日） .....	3
寡祖父大人（六月初七日） .....	4
寡祖父大人（六月二十九日） .....	5
寡父亲大人（八月初三日） .....	6
寡父母亲大人（八月十七日） .....	7
寡叔父大人（八月十七日） .....	8
寡父母亲大人（九月十五日） .....	8
寡父母亲大人（十月十九日） .....	9
寡祖父母大人（十一月十九日） .....	10
寡父母亲大人（十二月二十一日） .....	11
道光二十二年壬寅岁 .....	11
寡父亲大人（正月初七日） .....	11
寡父母亲大人（正月十八日） .....	12
寡父母亲大人（二月二十四日） .....	13
寡父母亲大人（三月十一日） .....	13
寡祖父母大人（四月二十七日） .....	14
寡祖父母大人（六月初十日） .....	15
寡父母亲大人（七月初四日） .....	15
寡祖父母大人（八月初一日） .....	16

## 曾国藩家书

禀父母亲大人（八月十二日）	18
禀祖父母大人（九月十七日）	19
致四位老弟（九月十八日）	20
禀父母亲大人（十月二十六日）	22
致诸位贤弟（十月二十六日）	22
禀父母亲大人（十一月十七日）	24
致诸位贤弟（十一月十七日）	25
禀父母亲大人（十二月二十日）	26
致诸位贤弟（十二月二十日）	27
道光二十三年癸卯岁	29
禀父母亲大人（正月十七日）	29
致诸位老弟（正月十七日）	30
禀父母亲大人（二月十九日）	33
致诸位老弟（三月十九日）	35
禀祖父母大人（三月二十三日）	35
禀父母亲大人（四月二十日）	36
禀祖父母大人（六月初六日）	37
致温甫六弟（六月初六日）	38
致澄侯、叔淳、季洪三弟（六月初六日）	39

## 曾国藩家书卷之二

道光二十四年甲辰岁	41
禀父母亲大人（正月二十五日）	41
致四位老弟（正月二十六日）	42
致四位老弟（二月十四日）	43
禀祖父母大人（三月初十日）	44
致六弟、九弟（三月初十日）	44
致四位老弟（四月二十二日）	49
禀父母亲大人（五月十二日）	49
致四位老弟（五月十二日）	50
禀父母亲大人（六月二十三日）	52
禀父母亲大人（七月二十日）	52
禀祖父母大人（八月二十九日）	53

致四位老弟（八月二十九日） .....	54
寡父母亲大人（九月十九日） .....	54
致四位老弟（九月十九日） .....	55
寡父母亲大人（十月二十一日） .....	56
致四位老弟（十月二十一日） .....	56
寡祖父母大人（十一月二十一日） .....	57
致四位老弟（十一月二十一日） .....	57
寡祖父母大人（十二月十四日） .....	58
致诸位老弟（十二月十八日） .....	59
 道光二十五年乙巳岁 .....	 60
致四位老弟（二月初一日） .....	60
致四位老弟（三月初五日） .....	61
寡父母亲大人（四月十五日） .....	63
致四位老弟（四月十五日） .....	63
致四位老弟（四月二十四日） .....	64
致四位老弟（五月初五日） .....	64
寡父母亲大人（五月二十九日） .....	65
寡父母亲大人（六月十九日） .....	66
寡父母亲大人（七月初一日） .....	66
寡父母亲大人（七月十六日） .....	67
致四位老弟（七月三十日） .....	68
寡叔父母大人（八月二十一日） .....	68
寡叔父大人（九月十七日） .....	69
寡叔父母大人（十月初一日） .....	70
寡父母亲大人（十月二十九日） .....	70
寡父母亲大人（十一月二十日） .....	71
 道光二十六年丙午岁 .....	 72
寡父母亲大人（正月初三日） .....	72
寡父母亲大人（二月十六日） .....	73
寡父母亲大人（三月二十五日） .....	73
致子植、季洪两弟（四月十六日） .....	74
寡父母亲大人（五月十七日） .....	75
寡父母亲大人（闰五月十五日） .....	75

禀父母亲大人（七月初三日） .....	76
禀父母亲大人（九月十九日） .....	77
禀父母亲大人（十月十五日） .....	77

### 曾国藩家书卷之三

道光二十七年丁未岁 .....	79
禀祖父大人（正月十七日） .....	79
禀父母亲大人（正月十八日） .....	79
致澄侯、子植、季洪三弟（二月十二日） .....	80
禀父母亲大人（三月初十日） .....	82
致澄侯四弟、子植九弟、季洪二弟（三月初十日） .....	82
禀祖父大人（六月十七日） .....	84
禀叔父婶母大人（六月十七日） .....	84
致澄侯、子植、季洪三位老弟（六月十八日） .....	85
禀父母亲大人（六月二十七日） .....	86
致澄侯、子植、季洪三弟（六月二十七日） .....	86
禀父母亲大人（七月十八日） .....	87
致四弟、九弟、季弟（七月十八日） .....	88
致澄侯、子植、季洪三弟（八月十八日） .....	89
致澄侯、子植、季洪（九月初十日） .....	90
致澄侯、沅浦、季洪三弟（十月十五日） .....	91
禀父母亲大人（十二月初六日） .....	92
道光二十八年戊申岁 .....	92
致澄侯、子植、季洪（正月二十一日） .....	92
禀父母亲大人（四月十四日） .....	94
禀父母亲大人（五月初十日） .....	94
致澄侯、子植、季洪三弟（五月初十日） .....	95
致澄侯、子植、季洪三弟（六月十七日） .....	96
禀叔父母大人（七月二十日） .....	97
禀叔父母大人（九月十二日） .....	98
致澄侯、子植、季洪三弟（十一月十四日） .....	98
致澄侯、沅浦、子植、季洪四弟（十二月初十日） .....	99

道光二十九年己酉岁 .....	100
致四位老弟（正月初十日） .....	100
稟父母亲大人（二月初六日） .....	102
致澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟（二月初六日） .....	102
致澄侯、温甫、子植、季洪（三月初一日） .....	103
致澄侯、温甫、子植、季洪（三月二十一日） .....	103
致澄侯、温甫、子植、季洪（三月二十一日） .....	105
稟父母亲大人（四月十六日） .....	105
致澄侯、温甫、子植、季洪（四月十六日） .....	106
致澄侯、温甫、子植、季洪（五月十五日） .....	108
致澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟（六月初一日） .....	108
致澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟（六月十四日） .....	109
致澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟（六月二十九日） .....	110
致澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟（七月十五日） .....	110
致澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟（九月二十一日） .....	111
致澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟（十月初四日） .....	112
致澄侯、温甫、子植、季洪四弟（十一月初五日） .....	113
致澄侯、温甫、子植、季洪四弟（十二月初三日） .....	114
道光三十年庚戌岁 .....	115
致澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟（正月初九日） .....	115
稟父母亲大人（三月三十日） .....	116

## 曾国藩家书卷之四

咸丰元年辛亥岁 .....	117
致温甫、沅浦、季洪三弟（三月初四日） .....	117
致澄、温、植、洪四弟（三月十二日） .....	117
致澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟（四月初三日） .....	118
致澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟（五月十四日） .....	119
致澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟（六月初一日） .....	121
致澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟（七月初八日） .....	122
致澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟（八月十三日） .....	123
致澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟（八月十九日） .....	124
致澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟（闰八月十二日） .....	125

致澄侯、温甫、子植、季洪四弟（九月初五日） .....	126
致澄侯、温甫、子植、季洪四弟（十月十二日） .....	127
致澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟（十二月二十二日） .....	128
 咸丰二年壬子岁 .....	129
致澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟（正月初九日） .....	129
字谕纪泽儿（七月二十六日） .....	130
字谕纪泽儿（八月初八日 薪水舟中书） .....	133
字谕纪泽儿（八月十二日 夜在武昌城内发家信） .....	134
字谕纪泽儿（八月十三日 夜在湖北省城） .....	135
字谕纪泽儿（八月二十六日） .....	135
字谕纪泽儿（九月十八日） .....	135
致牧云仁兄（十一月十四日） .....	136
致牧云仁兄（十二月十五日） .....	137
致牧云仁兄（十二月二十五日） .....	138
 咸丰三年癸丑岁 .....	138
致牧云仁兄（正月十二日） .....	138
禀父亲大人（十月初四日） .....	139
 咸丰四年甲寅岁 .....	140
禀父亲大人（三月二十五日） .....	140
致澄、温、植三弟（三月二十五日） .....	141
致澄、温、沅三位老弟（四月初四日） .....	141
致澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟（四月十四日） .....	142
致澄、温、子植、季洪四弟（四月十六日 夜书于长沙妙高峰） .....	143
致澄、温、植、洪老弟（四月二十日） .....	143
致澄、温、沅、洪四弟（四月二十一日） .....	145
致澄、沅、洪三弟（五月初一日） .....	145
致澄、沅、洪三弟（五月初四日） .....	146
致澄、温、沅、季老弟（五月初九日） .....	146
禀父亲大人（五月二十日） .....	147
致澄侯、温甫、子植、季洪老弟（六月初二日） .....	147
致澄、温、沅、季四弟（六月初四日） .....	148



致澄、温、沅、季老弟（六月初六日） .....	148
致澄、温、沅、季四位老弟（六月十二日） .....	149
致澄、温、沅、季老弟（六月十八日） .....	149
致澄、温、沅、季四位老弟（六月二十三日） .....	150
致澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟（七月二十一日） .....	150
致澄侯、温甫、子植、季洪四弟（七月二十七日） .....	151
致澄、温、植、洪四弟（闰七月初二日） .....	151
致澄、温、沅、洪老弟（闰七月初三日） .....	152
致澄侯、温甫、子植、季洪（闰七月初九日） .....	153
致澄、温、沅、洪四弟（闰七月十四日） .....	153
致澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟（闰七月二十七日） .....	154
致澄侯、温甫、子植、季洪四弟（八月十一日） .....	155
致澄、温、沅、季四位老弟（九月十三日） .....	155
寄骆中丞节抄一段 .....	156
致澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟（十月二十二日） .....	157
致澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟（十一月初七日 书于武穴舟中） .....	158
致澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟（十一月二十三日 书于九江舟次） .....	158
致诸位贤弟（十一月二十七日） .....	159

## 曾国藩家书卷之五

咸丰五年乙卯岁 .....	161
致澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟（正月初二日） .....	161
致澄侯、温甫、子植、季洪老弟（正月十八日 书于江西省城） .....	162
致澄侯、温甫、子植、季洪老弟（二月二十九日 书于江西省城） .....	162
致澄侯、温甫、子植、季洪四弟（三月二十日 江西省河七里港舟中书） .....	163
致澄、温、沅、洪四弟（三月二十六日） .....	164
致澄侯、温甫、子植、季洪（四月初八日） .....	164
致澄、温、沅、季四位贤弟（四月二十日 书于南康城外水管） .....	165

致澄、温、沅、季四弟（四月二十五日） .....	166
致澄、温、沅、季四位老弟（五月二十六日） .....	167
致澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟（六月十六日） .....	167
致澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟（七月初八日） .....	168
致澄侯、温甫、子植、季洪四弟（八月十三日） .....	169
致澄侯、温甫、子植、季洪老弟（八月二十七日 书于南康军中） .....	170
致澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟（九月三十日 书于屏风水管） .....	171
致澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟（十月十四日 书于南康府屏风水管） .....	172
致澄侯、温甫、子植、季洪老弟（十月十九日 书于屏风水次） .....	173
致澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟（十一月初四日 书于南康府水管） .....	173
致澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟（十二月初一日 书于南康舟中） .....	174
 咸丰六年丙辰岁 .....	175
致澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟（正月十八日 自江西南康水管发） .....	175
致澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟（二月初八日 书于南康） .....	176
致温六老板（四月初八日） .....	177
致澄侯、沅浦、季洪三位老弟（七月二十七日） .....	177
致澄侯、沅浦、季洪老弟（八月十八日） .....	178
致澄侯、沅浦、季洪三弟（九月初十日 瑞州营次） .....	178
致澄侯四弟（九月初十日） .....	179
致沅浦九弟（九月十七日） .....	179
致沅浦九弟（十月初二日 江西省城寄） .....	180
字谕纪泽儿（十月初二日） .....	181
致澄侯四弟（十月初三日） .....	181
致沅浦九弟（十月初六日） .....	182
致沅浦九弟（十月初九日） .....	182
致沅浦九弟（十月十三日） .....	183

字谕纪泽儿 (十一月初五日) .....	183
致沅浦九弟 (十一月初七日) .....	184
致澄侯四弟 (十一月初七日) .....	185
致沅浦九弟 (十一月十四日) .....	185
致澄侯四弟 (十一月二十九日) .....	185
致澄侯四弟 (十一月二十九日) .....	186
致沅浦九弟 (十二月二十七日) .....	186
致沅浦九弟 (十二月二十七日) .....	187
 咸丰七年丁巳岁 .....	187
致沅浦九弟 (正月十五日) .....	187
致澄侯四弟 (正月十八日) .....	188
致沅浦九弟 (正月二十二日) .....	188
致沅浦九弟 (正月二十六日) .....	189
致沅浦九弟 (二月初三日) .....	189
致沅浦九弟 (九月二十二日) .....	190
致沅浦九弟 (十月初四日) .....	190
致沅浦九弟 (十月初十日) .....	191
致沅浦九弟 (十月十五日) .....	192
致沅浦九弟 (十月十六日) .....	192
致沅浦九弟 (十月二十七日) .....	192
致沅浦九弟 (十一月初五日) .....	193
致沅浦九弟 (十一月二十五日) .....	194
致沅浦九弟 (十二月初六日) .....	194
致沅浦九弟 (十二月十四日) .....	195
致沅浦九弟 (十二月二十一日) .....	196
 咸丰八年戊午岁 .....	197
致沅浦九弟 (正月初四日) .....	197
致沅浦九弟 (正月十一日) .....	198
致沅浦九弟 (正月十四日) .....	199
致沅浦九弟 (正月十九日) .....	199
致沅浦九弟 (正月二十九日) .....	200
致沅浦九弟 (二月初二日) .....	200
致沅浦九弟 (二月十四日) .....	201

## 曾国藩家书

致沅浦九弟（二月十七日）	201
致沅浦九弟（三月初六日）	202
致沅浦九弟（三月十三日）	202
致沅浦九弟（三月二十四日）	203
致沅浦九弟（三月三十日）	203

## 曾国藩家书卷之六

咸丰八年戊午岁	205
致沅浦九弟（四月初九日）	205
致沅浦九弟（四月十七日）	206
致沅浦九弟（四月二十三日）	207
致沅浦九弟（五月初五日）	207
致沅弟（五月初六日）	208
致沅浦九弟（五月十六日）	209
致沅浦九弟（五月三十日）	210
致沅浦九弟（六月初四日）	210
致沅浦九弟（六月十六日）	211
致沅浦九弟（六月二十三日 新堤舟中）	212
致沅浦九弟（六月二十七日 武昌抚署）	212
致沅浦九弟（七月初七日 兰溪发）	212
致沅浦九弟（七月十四日 湖口水管）	213
致澄、季两弟（七月二十日 江西省河下）	214
致沅浦九弟（七月二十八日 瑞洪舟次）	214
致沅浦九弟（八月初四日）	214
致沅浦九弟（八月初六日）	215
致沅浦九弟（八月十四日 河口）	215
致沅浦九弟（八月十七日 弋阳勘）	217
致澄侯、季洪两弟（八月二十二日 弋阳行营）	217
致沅浦九弟（八月二十二日夜 弋阳）	218
致沅浦九弟（八月二十七日 弋阳将拔营时发）	218
致沅浦九弟（八月二十九日 双港行营）	219
致澄侯、季洪两弟（九月二十八日）	219
致澄侯、季洪两弟（十月初三日）	220
致沅浦九弟（十月十五日）	220

致澄侯、沅浦、季洪老弟（十一月十二日） .....	221
致澄侯、沅浦、季洪老弟（十一月二十三日） .....	222
致澄侯、沅浦、季洪三弟（十二月初三日） .....	223
致澄侯、沅浦、季洪三位老弟（十二月十三日） .....	223
致澄侯、沅浦、季洪老弟（十二月十六日） .....	224
致澄侯、沅浦、季洪老弟（十二月二十日） .....	224
 咸丰九年己未岁 .....	 225
致澄侯、沅浦、季洪三弟（正月初一日） .....	225
致澄侯、沅浦、季洪三弟（正月初八日） .....	226
致澄侯、沅浦、季洪老弟（正月十三日） .....	226
致澄侯、沅浦、季洪老弟（正月二十三日 建昌军中） .....	227
致澄侯、沅浦、季洪三弟（正月二十八日） .....	228
致澄侯、沅浦、季洪三弟（二月大祥前一日） .....	228
致澄侯、沅浦、季洪三位老弟（二月十三日 清水辅营次） .....	229
致澄侯、沅浦、季洪老弟（二月二十三日夜） .....	230
致澄侯、沅浦、季洪三弟（三月初三日） .....	231
致澄侯、沅浦、季洪老弟（三月初八日 申刻） .....	231
致澄、沅、季三位老弟（三月十三日） .....	232
致澄侯、沅浦、季洪三弟（三月二十三日 抚州军中） .....	232
致澄侯、沅浦、季洪三位老弟（四月二十三日） .....	233
致澄侯、季洪两弟（五月初三日） .....	233
致澄侯四弟（五月初六日） .....	234
致澄侯四弟（五月十三日） .....	234
致澄侯四弟（五月二十四日早） .....	235
致澄侯四弟（六月初四日） .....	235
致沅浦九弟（六月初六日） .....	235
致澄侯四弟（六月十八日） .....	236
致澄侯四弟（六月三十日） .....	236
致澄侯四弟（七月二十三日 湖口发） .....	236
致澄、沅两弟（八月初五日 九江舟次） .....	237
致澄侯、沅浦两弟（八月十二日 黄州） .....	237
致澄侯、沅浦、季洪三弟（八月二十二日） .....	238
致澄侯四弟（八月二十九日 武昌） .....	238
致澄侯四弟（十月初四日 巴河军次） .....	239

## 曾国藩家书

致澄侯四弟（十月十八日） .....	239
致澄侯、沅浦两弟（十一月初三日） .....	239
致澄侯、沅浦两弟（十一月十四日 宿松军次） .....	240
致澄侯、沅浦两弟（十一月二十四日） .....	240
致澄侯、沅浦两弟（十二月二十四日） .....	241
 咸丰十年庚申岁 .....	241
致澄侯、沅浦两弟（庚申正月初四日） .....	241
致澄侯、沅浦两弟（正月十四日） .....	242
致澄侯、沅浦两弟（正月二十八日） .....	242
致澄侯、沅浦两弟（二月初八日） .....	243
致澄侯、沅浦两弟（二月二十四日） .....	243
致澄侯、沅浦两弟（三月十九日） .....	244
致澄侯、沅浦两弟（三月二十四日） .....	244
致澄侯、沅浦两弟（四月初四日） .....	245
致澄侯、沅浦两弟（四月初十四日） .....	245
致澄侯四弟（四月初二十九日） .....	245
致澄弟（四月初四日） .....	246
致澄侯四弟（四月十四日） .....	246
致澄侯四弟（四月二十四日） .....	246
致澄侯四弟（四月二十九日） .....	247
致澄侯四弟（五月初四日） .....	247
致澄弟（五月十四日） .....	248

## 曾国藩家书卷之七

咸丰十年庚申岁 .....	249
致沅、季弟（六月初十日） .....	249
致沅弟（六月十九日） .....	249
致沅弟（六月二十二日） .....	250
致季弟（六月二十七日） .....	250
致沅、季弟（六月二十八日） .....	251
致沅、季弟（七月初三日） .....	251
致沅、季弟（七月初八日） .....	251
致沅、季（七月十二日） .....	252

致沅弟（七月十五日） .....	252
致沅、季弟（八月初七日） .....	253
致澄侯四弟（九月初四日） .....	253
致沅、季弟（九月初七日） .....	253
致沅弟（九月十四日） .....	254
致沅弟（九月二十一日） .....	254
致沅弟（九月二十三日） .....	254
致沅、季弟（九月二十四日） .....	255
致澄侯四弟（十月初四日） .....	255
致沅、季弟（全 日） .....	256
致沅弟（十月初五日） .....	256
致沅、季弟（十月二十日） .....	257
致澄侯四弟（十月二十四日） .....	257
致澄侯四弟（十一月十四日） .....	257
致沅、季弟（十一月二十一日） .....	258
致澄侯四弟（十二月初四日） .....	258
致沅、季弟（十二月十六日） .....	259
致沅、季弟（十二月二十日） .....	259
致澄侯四弟（十二月二十四日） .....	260
 咸丰十一年辛酉岁 .....	260
致沅浦九弟（正月元旦） .....	260
致澄侯四弟（正月初四日） .....	261
致澄侯四弟（正月十四日） .....	261
致沅弟（正月二十一日） .....	262
致沅弟（正月二十八日） .....	262
致澄侯四弟（二月初四日） .....	262
致沅、季弟（二月初七日） .....	263
致沅、季两弟（二月二十二日） .....	263
致澄侯四弟（二月二十四日） .....	264
致沅、季弟（二月二十六日） .....	265
致沅弟（二月二十九日） .....	265
致澄、沅、季弟（三月初四日 休宁城中） .....	266
致沅、季弟（三月十四日） .....	266
致沅、季弟（三月十七日） .....	266

致沅弟（三月十九日） .....	267
致沅、季弟（三月二十一日） .....	267
致沅弟（三月二十二日） .....	268
致澄侯四弟（三月二十四日） .....	268
致沅弟（三月二十八日） .....	269
致沅弟（三月三十日） .....	269
致沅弟（四月初三日） .....	269
致沅弟（四月初八日） .....	270
致沅弟（四月十二日） .....	271
致沅弟（四月十三日） .....	271
致沅、季弟（四月十五日） .....	272
致沅弟（四月二十一日） .....	272
致澄弟（四月二十四日） .....	272
襄丹阁十叔大人（四月二十四日） .....	273
致沅弟（四月二十六日） .....	273
致沅弟（五月初一日） .....	274
致沅、季弟（五月初四日） .....	274
致沅弟（五月初七日） .....	275
致沅、季弟（五月初九日） .....	275
致沅弟（五月十三日） .....	276
致沅弟（五月二十五日） .....	276
致沅弟（五月三十日） .....	277
致沅弟（六月初五日） .....	277
致沅弟、季弟（六月十二日） .....	277
致澄弟（六月十四日） .....	278
致沅弟（六月十七日） .....	278
致沅弟（六月二十三日） .....	278
致沅弟（六月二十九日） .....	278
致澄侯四弟（七月十四日） .....	279
致沅弟（七月十四日） .....	279
致沅弟（七月十七日） .....	280
致沅弟（七月十九日） .....	280
致季弟（七月二十四日） .....	280
致沅弟（八月初一日） .....	281
致澄侯四弟（八月初四日） .....	281



致沅弟（九月初三日） .....	281
致沅、季两弟（九月初六日） .....	281
致沅弟（九月初十日） .....	282
致沅弟（九月十二日） .....	282
致澄弟（九月十四日） .....	282
致沅弟（九月十七日） .....	283
致沅弟（九月二十三日） .....	283
致沅弟（九月二十五日） .....	284
致沅弟（九月二十六日） .....	284
致澄侯四弟（十月初四日） .....	284
致澄、沅弟（十一月十四日） .....	284
致澄、沅弟（十一月二十四日） .....	285
致澄、沅弟（十二月十四日） .....	285
 同治元年壬戌岁 .....	 286
致澄、沅弟（正月初四日） .....	286
致沅弟（正月十四日） .....	286
致沅弟（正月十八日） .....	287
致季弟（二月初二日） .....	287
致季弟（二月二十一日） .....	288
致沅、季弟（三月初三日） .....	288
致澄弟（三月初四日） .....	288
致沅弟（三月初八日） .....	289
致沅弟（三月二十四日） .....	289
致沅弟（三月二十七日） .....	289
致沅浦九弟（三月二十九日） .....	290

## 曾 国 藩 家 书 卷 之 八

同治元年壬戌岁 .....	291
致季弟（四月初三日） .....	291
致沅弟（四月初四日） .....	291
致季弟（四月初五日） .....	292
致沅弟（四月初六日） .....	292
致沅弟（四月初八日） .....	293

致沅弟（四月十一日） .....	293
致沅弟（四月十二日） .....	293
致澄弟（四月十四日） .....	294
致沅弟（四月二十二日） .....	294
致澄弟（四月二十四日） .....	294
致沅弟（四月二十五日） .....	295
致沅弟（四月二十八日） .....	295
致沅弟（五月初四日） .....	295
致沅、季弟（五月初七日） .....	296
致季弟（五月初八日） .....	296
致沅弟、季弟（五月十五日） .....	296
致沅、季弟（五月二十日） .....	297
致沅弟（五月二十五日） .....	298
致沅、季弟（五月二十八日） .....	298
致沅、季弟（六月初二日） .....	298
致澄弟（六月初四日） .....	299
致沅、季弟（六月初八日） .....	299
致沅、季弟（六月初九日） .....	300
致沅、季弟（六月初十日） .....	300
致沅、季弟（六月十二日） .....	300
致澄弟（六月十四日） .....	301
致沅弟（六月二十日） .....	301
致沅、季弟（六月二十二日） .....	302
致沅弟（六月二十三日） .....	302
致沅、季二弟（六月二十六日） .....	303
致沅、季两弟（六月二十九日） .....	304
致沅、季两弟（七月初一日） .....	304
致沅弟（七月初五日） .....	304
致沅、季弟（七月二十日） .....	305
致澄弟（七月二十四日） .....	305
致沅、季弟（七月二十五日） .....	306
致沅、季弟（七月二十八日） .....	306
致沅、季弟（八月初四日） .....	306
致沅、季弟（八月初七日） .....	307
致沅、季弟（八月二十一日） .....	307

致澄弟 (閏八月初四日) .....	307
致沅浦九弟 (閏八月十六日) .....	308
致沅弟 (閏八月十九日) .....	309
致沅弟 (閏八月二十一日) .....	309
致沅弟 (閏八月二十四日) .....	310
致沅弟 (九月初一日) .....	310
致沅弟 (九月初二日) .....	311
致沅、季弟 (九月初三日) .....	311
致澄弟 (九月初四日) .....	311
致沅弟 (九月初四日) .....	312
致沅弟 (九月初五日) .....	313
致沅、季弟 (九月初七日) .....	313
致沅弟 (九月初八日) .....	313
致沅、季弟 (九月初九日) .....	314
致沅弟 (九月初十日) .....	314
致沅弟 (九月十一日) .....	314
致沅弟 (九月十二日) .....	315
致沅、季弟 (九月十三日) .....	315
致沅弟 (九月十四日) .....	316
致沅弟 (九月十五日) .....	316
致沅弟 (九月十六日) .....	317
致沅弟 (九月十七日) .....	317
致沅弟 (九月十九日) .....	317
致沅弟 (九月二十日) .....	318
致沅弟 (九月二十一日) .....	318
致澄弟 (九月二十四日) .....	319
致沅弟 (九月二十四日) .....	319
致沅弟 (九月二十五日) .....	320
致沅弟 (九月二十六日) .....	320
致沅弟 (九月二十八日) .....	320
致沅弟 (九月二十九日) .....	321
致沅弟 (九月三十日) .....	321
致沅弟 (十月初一日) .....	321
致沅弟 (十月初三日) .....	322
致沅弟 (十月初五日) .....	322

## 曹国藩家书

致沅弟（十月初八日） .....	323
致沅、季弟（十月十二日） .....	323
致沅弟（十月十三日） .....	323
致沅弟（十月十三日） .....	324
致沅弟（十月十四日） .....	324
致沅弟（十月十五日） .....	325
致季弟（十月十六日） .....	325
致沅弟（十月十七日） .....	326
致沅弟（十月十九日） .....	326
致沅弟（十月二十日） .....	326
致沅弟（十月二十三日） .....	327
致沅弟（十月二十四日） .....	327
致沅弟（十月二十五日） .....	328
致沅弟（十月二十七日） .....	328
致沅弟（十月二十八日） .....	329
致沅弟（十一月初一日） .....	329
致沅弟（十一月初四日） .....	330
致沅弟（十一月初六日） .....	330
致沅弟（十一月初八日） .....	330
致沅弟（十一月初九日） .....	331
致沅弟（十一月十一日） .....	331
致沅弟（十一月十八日） .....	331
致沅弟（十一月十九日） .....	332
致沅弟（十一月二十二日） .....	332
致沅弟（十一月二十三日） .....	332
致沅弟（十一月二十四日） .....	333
致沅弟（十一月二十五日） .....	333
致沅弟（十一月二十六日） .....	334
致沅弟（十一月二十八日） .....	334
致沅弟（十一月二十九日） .....	334
致沅弟（十二月初一日） .....	334
致沅弟（十二月初二日） .....	335
致沅弟（十二月初四日） .....	335
致沅弟（十二月初九日） .....	336
致沅弟（十二月初十日） .....	336

致沅弟 (十二月十一日) .....	336
致沅弟 (十二月十二日) .....	336
致沅弟 (十二月十三日) .....	337
致沅弟 (十二月十五日) .....	337
致沅弟 (十二月十七日) .....	337
致沅弟 (十二月十八日夜 湖南会馆) .....	338
致沅弟 (十二月二十日夜) .....	338

## 曾国藩家书卷之九

同治元年壬戌岁 .....	339
致澄弟 (十二月二十二日) .....	339
致沅弟 (十二月二十三日) .....	339
致沅弟 (十二月二十五日) .....	340
致沅弟 (十二月二十七日) .....	340
致澄弟 (除 日) .....	341
同治二年癸亥岁 .....	341
致沅弟 (正月元旦) .....	341
致沅弟 (正月初三日) .....	341
致沅弟 (正月初七日) .....	342
致沅弟 (正月十一日) .....	342
致沅弟 (正月十三日) .....	342
致沅弟 (正月十八日) .....	343
致沅弟 (正月二十日) .....	343
致沅弟 (正月二十四日) .....	344
致沅弟 (正月二十七日) .....	344
致澄弟 (二月十四日 金陵大胜关舟次) .....	345
致沅弟 (二月二十日 裕溪口) .....	345
致沅弟 (三月初六日) .....	346
致沅弟 (三月十二日) .....	346
致沅弟 (三月十四日) .....	346
致沅弟 (三月十六日) .....	347
致沅弟 (三月十八日) .....	348
致沅弟 (三月二十一日) .....	348

致沅弟（三月二十四日） .....	349
致澄弟（全 日） .....	349
致沅弟（三月二十九日） .....	349
致沅弟（四月初一日） .....	350
致沅弟（四月初三日） .....	350
致沅弟（四月初六日） .....	350
致沅弟（四月初十日） .....	351
致沅弟（四月十六日） .....	351
致沅弟（四月二十一日） .....	351
致澄弟（四月二十四日） .....	352
致沅弟（四月二十七日） .....	352
致沅弟（五月初二日） .....	352
致沅弟（五月初四日） .....	353
致沅弟（五月初七日） .....	353
致沅弟（五月初九日） .....	354
致沅弟（五月十四日） .....	354
致沅弟（五月十六日） .....	354
致沅弟（五月二十一日） .....	355
致澄弟（五月二十四日） .....	356
致沅弟（六月初三日） .....	356
致沅弟（六月初六日） .....	356
致沅弟（六月初十日） .....	357
致沅弟（六月十二日） .....	357
致沅弟（六月二十七日） .....	357
致沅弟（七月初一日） .....	358
致沅弟（七月十一日） .....	358
致沅弟（七月十五日） .....	358
致沅弟（七月二十一日） .....	359
致沅弟（七月二十三日） .....	359
致澄弟（七月二十四日） .....	360
致沅弟（七月二十七日） .....	360
致沅弟（八月初二日） .....	361
致沅弟（八月初五日） .....	361
致沅弟（八月初九日） .....	361
致沅弟（八月二十三日） .....	362

致沅弟 (八月三十日) .....	362
致沅弟 (九月十七日) .....	362
致沅弟 (九月二十二日) .....	363
致澄弟 (十月初四日) .....	363
致沅弟 (十月十七日) .....	364
致沅弟 (十月二十二日) .....	364
致沅弟 (十一月初五日) .....	364
致沅弟 (十一月十二日) .....	365
致澄弟 (十一月十四日) .....	365
致澄弟 (十一月二十四日) .....	365
致沅弟 (十二月初一日) .....	366
致沅弟 (十二月初十日) .....	366
致澄弟 (十二月十四日) .....	366
致沅弟 (十二月十八日) .....	367
致沅弟 (十二月二十一日) .....	367
致沅弟 (十二月二十三日) .....	367
致沅弟 (十二月二十六日) .....	368
 同治三年甲子岁 .....	 368
致澄弟 (正月初四日) .....	368
致沅弟 (正月初七日) .....	369
致澄弟 (正月十四日) .....	369
致沅弟 (正月十七日) .....	369
致沅弟 (正月二十三日) .....	370
致澄弟 (正月二十四日) .....	370
致沅弟 (正月二十六日) .....	370
致沅弟 (二月初二日) .....	371
致沅弟 (二月十一日) .....	371
致澄弟 (二月十四日) .....	371
致澄弟 (二月二十四日) .....	372
致澄弟 (三月初四日) .....	372
致沅弟 (三月十二日) .....	372
致澄弟 (三月十四日) .....	373
致沅弟 (三月二十六日) .....	373
致沅弟 (三月二十七日) .....	374

致沅弟 (三月三十日) .....	374
致沅弟 (四月初三日) .....	375
致澄弟 (四月初四日) .....	375
致沅弟 (四月初五日) .....	375
致沅弟 (四月初六日) .....	376
致沅弟 (四月初九日) .....	376
致沅弟 (四月十三日) .....	377
致澄弟 (四月十四日) .....	377
致沅弟 (四月十六日) .....	378
致沅弟 (四月十八日) .....	378
致沅弟 (四月二十日) .....	378
致澄弟 (四月二十四日) .....	379
致沅弟 (四月二十八日) .....	379
致沅弟 (五月初一日) .....	379
致澄弟 (五月初三日) .....	379
致沅弟 (五月初六日) .....	380
致沅弟 (五月初十日) .....	380
致沅弟 (五月十二日) .....	380
致澄弟 (五月十四日) .....	381
致沅弟 (五月十五日) .....	381
致沅弟 (五月十六日) .....	381
致沅弟 (五月十七日) .....	382
致沅弟 (五月十九日) .....	382
致沅弟 (五月二十三日) .....	382
致沅弟 (五月二十五日) .....	383
致沅弟 (六月初一日) .....	383
致沅弟 (六月初四日) .....	383
致澄弟 (全 日) .....	384
致沅弟 (六月初九日) .....	384
致沅弟 (六月初十日) .....	384
致沅弟 (六月十一日) .....	385
致澄弟 (六月十四日) .....	385
致沅弟 (六月十六日) .....	385
致沅弟 (六月十九日) .....	386
致沅弟 (六月二十日) .....	386



## 曾国藩家书卷之十

同治三年甲子岁 .....	387
致澄弟（七月初四日） .....	387
致澄弟（七月十四日） .....	387
致澄弟（七月二十四日） .....	387
致沅弟（七月二十九日） .....	388
致沅弟（八月初二日） .....	388
致澄弟（八月初四日） .....	389
致沅弟（八月初五日） .....	389
致沅弟（八月初九日） .....	389
致澄弟（八月十四日） .....	390
致沅弟（八月二十日） .....	390
致澄弟（八月二十四日） .....	390
致沅弟（八月二十六日） .....	391
致澄弟（九月十四日） .....	391
致澄弟（九月二十四日） .....	391
致澄弟（十月初五日） .....	391
致澄、沅弟（十一月十四日） .....	392
致澄、沅弟（十一月二十四日） .....	392
致澄、沅弟（十二月十六日） .....	392
同治四年乙丑岁 .....	393
致沅弟（正月十四日） .....	393
致沅弟（正月二十四日） .....	393
致澄、沅弟（正月三十日） .....	394
致澄、沅弟（二月初五日） .....	394
致澄、沅弟（三月初四日） .....	394
致澄、沅弟（三月初七日） .....	395
致沅浦弟（三月十八日） .....	395
致澄、沅弟（四月十五日） .....	395
致澄、沅弟（四月二十四日） .....	396
致澄、沅弟（五月初五日） .....	396
致澄、沅弟（五月十五日） .....	397
致澄、沅弟（五月二十五日） .....	397

致澄、沅弟（闰五月二十四日 洪泽湖东口） .....	398
致澄、沅弟（六月初五日） .....	398
致澄、沅弟（六月十五日 临淮） .....	399
致澄、沅弟（六月二十四日） .....	399
致澄、沅弟（七月二十五日） .....	400
致澄、沅弟（八月初六日） .....	400
致澄、沅两弟（八月二十五日） .....	400
致澄、沅弟（九月十六日） .....	401
致澄、沅弟（九月二十五日） .....	401
致澄、沅弟（十月初五日） .....	402
致澄、沅弟（十月十五日） .....	402
致澄、沅弟（十月二十五日） .....	402
致澄、沅弟（十一月初五日） .....	403
致澄、沅弟（十一月十六日） .....	403
致澄、沅弟（十二月初六日） .....	403
致澄、沅弟（十二月十五日） .....	404
致澄、沅弟（十二月二十五日） .....	405
同治五年丙寅岁 .....	405
致澄、沅弟（正月初六日） .....	405
致澄、沅弟（正月十五日） .....	406
致沅弟（二月初一日） .....	406
致沅弟（二月初四日） .....	406
致沅弟（三月初五日） .....	407
致澄、沅弟（三月十六日） .....	407
致澄、沅弟（三月二十六日） .....	408
致沅弟（四月二十一日） .....	408
致沅弟（五月初三日） .....	408
致沅弟（五月十一日） .....	409
致澄弟（六月初五日） .....	409
致沅弟（六月十二日） .....	410
致沅弟（六月二十三日） .....	410
致沅弟（七月初三日） .....	411
致澄弟（七月初六日） .....	411
致沅弟（七月十六日） .....	411

致沅弟 (七月二十四日 临淮) .....	412
致澄弟 (八月初十日) .....	412
致沅弟 (八月十二日) .....	413
致澄弟 (九月初六日) .....	413
致沅弟 (九月十二日) .....	413
致澄弟 (十月初六日) .....	414
致沅弟 (十月二十三日) .....	414
致沅弟 (十月二十六日) .....	415
致沅弟 (十一月初二日) .....	415
致沅弟 (十一月初七日) .....	415
致沅弟 (十一月十二日) .....	416
致澄弟 (十二月初六日) .....	416
致沅弟 (十二月十二日) .....	417
致沅弟 (十二月十八日) .....	417
致沅弟 (十二月二十日) .....	418
致沅弟 (十二月二十二日) .....	418
致沅弟 (十二月二十七日) .....	418
 同治六年丁卯岁 .....	 419
致沅弟 (正月初二日) .....	419
致澄弟 (正月初四日) .....	420
致沅弟 (正月初十日 行次归德府) .....	420
致沅弟 (正月十二日) .....	421
致沅弟 (正月二十二日) .....	421
致沅弟 (正月二十六日) .....	421
致沅弟 (二月初三日) .....	422
致澄弟 (二月初五日) .....	422
致沅弟 (二月二十一日) .....	423
致沅弟 (二月二十九日) .....	423
致沅弟 (三月初二日) .....	423
致澄弟 (三月初七日) .....	424
致沅弟 (三月十二日) .....	424
致沅弟 (四月十二日) .....	425
致沅弟 (四月二十日) .....	425
致沅弟 (五月初一日) .....	425

## 曹国藩家书

致澄弟（五月初五日） .....	426
致沅弟（五月十二日） .....	426
致沅弟（五月二十一日） .....	427
致澄弟（六月初六日） .....	427
 同治九年庚午岁 .....	428
致澄、沅弟（十二月二十一日） .....	428
 同治十年辛未岁 .....	428
致澄、沅弟（正月二十五日） .....	428
致澄、沅弟（二月初七日） .....	429
致澄、沅弟（三月初三日） .....	430
致沅弟（三月十七日） .....	430
致澄、沅弟（四月初一日） .....	431
致澄、沅弟（五月初十日） .....	431
致澄、沅弟（六月二十七日） .....	432
致澄、沅弟（七月二十六日） .....	432
致澄、沅弟（八月初十日） .....	433
致澄、沅弟（九月初十日） .....	433
致澄、沅两弟（十月二十三日） .....	434
致澄弟、沅两弟（十一月初八日） .....	435
致澄、沅弟（十一月十七日） .....	435

## 曾国藩家书卷之一

## 道光二十年庚子岁

二月初九日

男国藩跪禀父亲母亲大人膝下：

去年十二月十六日，男在汉口寄家信，付湘潭人和纸行，不知已收到否？后于二十一日在汉口开车。二人共雇二把手小车六辆，男占三辆半。行三百余里，至河南八里汉度岁。正月初二日开车，初七日至周家口，即换大车。雇三套篷车二辆，每套钱十五千文。男占四套，朱占二套。初九日开车，十二日至河南省城，拜客耽擱四天，获百余金。十六日起行，即于是日三更趁风平浪静径渡黄河。二十八日到京。一路清吉平安，天气亦好，惟过年二天微雪耳。

到京在长都会馆卸车。二月初一日移寓南横街千佛庵。屋四间，每月赁钱四千文，与梅、陈二人居址甚近。三人联会，间日一课。每课一赋一诗书真。初八日是汤中堂老师大课，题“智若禹之行水赋”，以“行所无事则智大矣”为韵，诗题赋得“池面鱼吹柳絮行”得“吹”字。三月尚有大课一次。

同年未到者不过一二人，梅、陈二人皆正月始到。岱云江南、山东之行无甚佳处，到京除偿债外，不过存二三百金，又有八口之家。

男路上用去百金，刻下光景颇好。接家眷之说，郑小璠现无回信。伊若允诺，似尽妥妙。如其不可，则另图善计，或缓一二年亦可，因儿子太小故也。

家中诸事都不挂念，惟请弟读书不知有进境否？须将所作文字诗赋寄一二首来京。丹阁叔大作亦望寄示。男在京一切谨慎，家中尽可放心。

又禀者，大行皇后于正月十一日升遐，百日以内禁剃发，期年禁燕会音乐。何仙槎年伯于二月初五日遽逝。是日男在何家早饭，并未闻其大病，不数刻而凶问至矣。没后，加太子太保銜。其次子何子毅，已于去年十一月物故。自前年出京后，同乡相继殁逝者：夏一卿、李高衡、

## 曾国藩家书

杨宝筠三主事，熊子谦、谢切庵及何氏父子凡七人。光景为之一变。男现慎保身体，自奉颇厚。

季仙九师升正詹，放浙江学政，初十日出京。廖钰夫师升尚书。吴甄甫师任福建巡抚。朱师、徐师灵祿并已回南矣。

詹有乾家墨，到京竟不可用，以胶太重也。拟仍付回，或退或用随便。接家眷事，三月又有信回家中。信来，须将本房及各亲戚家附载详明，堂上各老人须一一分叙，以烦琐为贵。

谨此跪禀万福金安。

## 道光二十一年辛丑岁

四月十七日

祖父大人万福金安：

四月十一日由折差发第六号家信，十六日折弁又到。孙男等平安如常，孙妇亦起居维慎。

曾孙数日内添吃粥一顿，因母乳日少，饭食难喂，每日两饭一粥。今年散馆，湖南三人皆留，全单内共留五十二人，仅三人改部属，三人改知县。翰林衙门现已多至百四五十人，可谓极盛。

琦善已于十四日押解到京。奉上谕派亲王三人、郡王一人、军机大臣、大学士、六部尚书会同审讯。现未定案。

梅霖生同年因去岁咳嗽未愈，日内颇患咯血。同乡各京官宅皆如故。

澄侯弟三月初四在县城发信已经收到，正月二十五信至今未接。兰姊以何时分娩？是男是女？伏望下次示知。

楚善八叔事，不知去冬是何光景。如绝无解危之处，则二伯祖母将穷迫难堪；竟希公之后人，将见笑于乡里矣。孙国藩去冬已写信求东阳叔祖兄弟，不知有补益否？此事全求祖父大人作主。如能救焚拯溺，何难殒枯回生！伏念祖父平日积德累仁，救难济急，孙所知者，已难指数，如廖品一之孤、上莲叔之妻、彭定五之子、福益叔祖之母及小罗巷、樟树堂各庵，皆代为筹画，曲加矜恤。凡他人所束手无策、计无复之者，得祖父善为调停，旋乾转坤，无不立即解危，而况楚善八叔同胞之亲、万难之时乎？孙因念及家事，四千里外杳无消息，不知同堂诸叔

目前光景。又念家中此时亦甚艰窘，辄敢冒昧饶舌，伏求祖父大人宽宥无知之罪。楚善叔事如有说法之处，望详细寄信来京。

兹逢折便，敬禀一二，即跪叩祖母大人万福金安。

## 五月十八日

男国藩跪禀父亲大人万福金安：

自闰三月十四日在都门拜送父亲，嗣后共接家信五封：十五日接四弟在涟滨所发信，系第二号，始知正月信已失矣；二十二日接父亲在二十里铺发信；四月二十八已刻接在汉口寄曹颖生家信；申刻又接在汴梁寄信；五月十五接父亲到长沙发信，内有四弟信、六弟文章五首。诸悉祖父母大人康强，家中老幼平安，诸弟读书发奋，并喜父亲出京一路顺畅，自京至省，仅三十余日，真极神速。

男于闰月十六发第五号家信，四月十一发六号，十七发七号，不知家中均收到否？途际男身体如常。每夜早眠，起亦渐早。惟不耐久思，思多则头昏。故常冥心于无用，优游涵养，以谨守父亲保身之训。

九弟功课有常。《礼记》九本已点完，《鉴》已看至三国，《斯文精萃》诗、文各已读半本。诗略进功，文章未进功，男亦不求速效。观其领悟，已有心得，大约手不从心耳。

甲三于四月下旬能行走，不须扶持，尚未能言。无乳可食，每日一粥两饭。冢妇身体亦好，已有梦熊之喜。婢仆皆如故。

今年新进士龙翰臣得状元，系前任湘乡知县见田年伯之世兄。同乡六人，得四庶常、两知县。复试单已于闰三月十六付回，兹又付呈殿试朝考全单。同乡京官如故。郑莘田给谏服阙来京。梅霖生病势沉重，深为可虑。黎樾乔老前辈处，父亲未去辞行，男已道达此意。广东之事，四月十八得捷音，兹将抄报付回。

男等在京自知谨慎，堂上各老人不必挂怀。家中事，兰姊去年生育，是男是女？楚善事如何成就？伏望示知。

即请母亲大人万福金安。

男谨禀

## 六月初七日

孙男国藩跪禀祖父大人万福金安：

五月十八日，孙在京发第八号家信。内有：六弟文二篇，广东事抄报一纸，本年殿试朝考单一纸，寄四弟、六弟新旧信二封，绢写格言一幅，孙国荃寄呈文四篇，诗十首，字一纸，呈堂上禀三纸，寄四弟信一封。不审已收到否？六月初五日接家信一封，系四弟四月初十日在省城发。得悉一切，不胜欣慰。

孙国藩日内身体平安。国荃于二十三日微受暑热，服药一帖，次日即愈。初三日复患腹泻，服药二帖即愈。曾孙甲三于二十三日腹泻不止，比请郑小珊诊治，次日添请吴竹如，皆云系脾虚而兼受暑气。三日内服药六帖，亦无大效。二十六日添请本京王医，专服凉药，渐次平复。初一二两日未吃药，刻下病已全好。惟脾元尚亏，体尚未复。孙等自知细心调理。观其行走如常，饮食如常，不吃药即可复体，堂上不必挂念。家孙妇身体亦好，婢仆如旧。

同乡梅霖生病于五月中旬日日加重，十八日上床，二十五日子时仙逝，胡云阁先生亦同日同时同刻仙逝。梅霖生身后一切事宜，系陈岱云、黎月乔与孙三人料理。戊戌同年赠仪共五百两。吴甄甫夫子戊戌总裁。进京，赠赠百两。将来一概共可张罗千余金，计京中用费及灵柩回南途费不过用四佰金，其余尚可周恤遗孤。

自五月下旬以至六月初，诸事殷繁，荃孙亦未得读书。六弟前寄文来京，尚有三篇：孙未暇改。广东事已成功，由军功升官及戴花翎、蓝翎者共二百余人。将上谕抄回前半节，其后半截升官人名未及全抄。昨接家信，始知楚善八叔竹山湾田已于去冬归祖父大人承买。八叔之家稍安，而我家更窘迫，不知祖父如何调停？去冬今年如何说法？望于家信内详示。

孙等在京别无生计，大约冬初即须借账，不能备仰事之资寄回，不胜愧悚。吴春冈分发浙江，告假由江南回家，七月初起程。

余容续禀，即禀祖父祖母大人万福金安。

孙国藩



## 六月二十九日

孙男国藩跪禀祖父大人万福金安：

六月初七日发家信第九号。二十九日早接丹阁十叔信，系正月二十八日发。始知祖父大人于二月间体气违和，三月已痊愈，至今康健如常。家中老幼均吉。不胜欣幸。

四弟于五月初九寄信，物于彭山纪处，至今尚未到，大约七月可到。

丹阁叔信内言去年楚善叔田业卖与我家承管，其中曲折甚多。添梓坪借钱三百四十千，其实只三百千，外四十千系丹阁叔兄弟代出。丹阁叔因我家景况艰窘，勉强代楚善叔解危，将来受累不浅。故所代出之四十千，自去冬至今，不敢向我家明言。不特不敢明告祖父，即父亲、叔父之前，渠亦不敢直说。盖事前说出，则事必不成；不成则楚善叔逼迫无路，二伯祖母奉养必阙，而本房日见凋败，终无安静之日矣。事后说出，则我家既受其累，又受其欺，祖父大人必怒，渠更无辞可对，无地自容。故将此事写信告知孙男，托孙原其不得已之故，转禀告祖父大人。现在家中艰难，渠所代出之四十千，想无钱可以付渠。八月心斋兄南旋，孙拟在京借银数十两，付回家中归楚。此项大约须腊底可到，因心斋兄走江南回故也。

孙此刻在京光景渐窘。然当京官者，大半皆东扯西支，从无充裕之时，亦从无冻饿之时。家中不必系怀。孙现经管长郡会馆事，公项存件亦已无几。孙日内身体如恒，九弟亦好。甲三自五月二十三日起病，至今虽全愈，然十分之中，尚有一二分未尽复旧。刻下每日吃炒米粥二餐，泡冻米吃二次，乳已全无，而伊亦要吃。据医云此等乳最不养人，因其夜哭甚，不能遽断乳。从前发热烦躁，夜卧不安，食物不化及一切诸患，此时皆已去尽，日日嬉笑好吃。现在尚服补脾之药，大约再服四五帖，本体全复，即可不药。孙妇亦感冒三天，郑小璠云服凉药后，须略吃安胎药。目下亦健爽如常。

甲三病时，孙妇曾于五月二十五日，跪许装修家中观世音菩萨金身。伏求家中今年酬愿。又言西冲有寿佛神像，祖母曾叩许装修，亦系为甲三而许。亦求今年酬谢了愿。

梅霖生身后事，办理颇如意，其子可于七月扶柩回南。同乡各官如常。家中若有信来，望将王率五家光景写明。

肃此谨禀祖父母大人万福金安。

## 八月初三日

男国藩跪禀父亲大人万福金安：

五月十八日发家信第八号，知家中已经收到。六月初七发第九号，内有男呈祖父禀一件，国荃寄四弟信一件。七月初二发第十号，内有黄芽白菜子。不知俱已收到否？

男等接得父亲归途三次信：一系河间二十里铺发，一汴梁城发，一武昌发。又长沙发信亦收到。六月二十九接丹阁叔信。七月初九彭山纪到京，接到四弟在省所寄《经世文编》一部、慎怡堂《四书》、《周易》各一部、小皮箱三口，有布套龙须草席一床、信一件，又叔父手书。得悉一切：谱已修好，楚善叔事已有成局，彭山纪处兑钱四十千文。外楚善叔信一件，岳父信一件。七月二十七日接到家信二件：一系五月十五在家写，一系六月二十七在省写。外欧阳牧云信一，曾香海信一，心斋家信二，荆七信一，俱收到。彭山纪进京，道上为雨泥所苦，又值黄河水涨，渡河时大费力，行李衣服皆湿。惟男所寄书，架收贮箱内，全无潮损，真可感也。到京又以腊肉、莲、茶送男。渠于初九晚到，男于十三日请酒。十六日将四十千钱交楚。渠于十八日赁住黑市，离城十八里，系武会试进场之地。男必去送考。

男在京身体平安，国荃亦如常。男妇于六月二十三感冒，服药数帖全愈，又服安胎药数帖。孙纪泽自病全愈后，又服补剂十余帖，辰下体已复元。每日行走欢呼，虽不能言，已无所不知。食粥一大碗，不食零物。仆婢皆如常。

周贵已荐随陈云心回南，其人蠢而负恩。萧祥已跟别人，男见其老成，加钱呼之复来。

男目下光景渐窘，恰有俸银接续，冬下又望外官例寄炭资，今年尚可勉强支持。至明年则更难筹画。借钱之难，京城与家乡相仿，但不勒迫强逼耳。

前次寄信回家，言添梓坪借项内，松轩叔兄弟实代出钱四十千，男可寄银回家，完清此项。近因完彭山纪项，又移徙房屋，用钱日多，恐难再付银回家。男现看定屋在绳匠胡同北头路东，准于八月初六日迁居。初二日已搬一番案去，取吉日也。棉花六条胡同之屋，王翰城言冬间极不吉，且言重庆下者不宜住三面悬空之屋。故遂迁移绳匠胡同房。每月大钱十千，收拾又须十余千。心斋借男银已全楚，渠家中付来银五百五十两，又有各项出息。渠言尚须借银出京，不知信否。

广东事前已平息，近又传闻异辞。参赞大臣隆文已病死，杨芳已告

病回湖南。七月间又奉旨派参赞大臣特依顺往广东查办。八月初一日，又奉旨派玉明往天津，哈琅阿往山海关。

黄河于六月十四日开口。汴梁四面水围，幸不淹城。七月十六，奉旨派王鼎、慧成往河南查办。现闻泛滥千里，恐其直注洪泽湖。又闻将开捐名“豫工”，例办河南工程也。

男已于七月留须。楚善叔有信寄男，系四月写，备言其苦。近闻衡阳田已卖，应可勉强度日。戊戌冬所借十千二百，男曾言帮他。曾禀告叔父，未禀祖父大人，是男之罪，非渠之过。其余细微曲折，时成时否，时朋买，时独买，叔父信不甚详明，楚善叔信甚详，男不敢尽信。总之，渠但免债主迫逼，即是好处。第目前无屋可住，不知何处安身？若万一老亲幼子栖托无所，则流离四徙，尤可怜悯。以男愚见，可仍使渠住近处，断不可住衡阳。求祖父大人代渠谋一安居。若有余资，则佃田耕作。又求父亲寄信问朱尧阶，备言楚善光景之苦与男关注之切，问渠所管产业，可佃与楚善耕否？渠若允从，则男另有信求尧阶，租谷须格外从轻。但路太远，至少亦须耕六十亩，方可了吃。尧阶寿屏，托心斋带回。

严丽生在湘乡不理公事，簪簪不伤，声名狼藉。如查有真实劣迹，或有上案，不妨抄录付京，因有御史在男处查访也。但须机密。

四弟、六弟考试，不知如何？得不足喜，失不足忧，总以发愤读书为主。史宜日日看，不可间断。九弟阅《易知录》，现已看至隋朝。温经须先穷一经。一经通后，再治他经，切不可兼营并骛，一无所得。厚二总以书熟为主，每日读诗一首。

右谨禀父母亲大人万福金安。

## 八月十七日

男国藩跪禀父母亲大人万福金安：

八月初三日，男发家信第十一号。信甚长，不审已收到否？十四日接家信，内有父亲、叔父并丹闾叔信各一件。得悉丹闾叔入洋，且堂上各大人康健，不胜欣幸。

男于八月初六日移寓绳匠胡同北头路东。屋甚好，共十八间，每月房租京钱二十千文。前在棉花胡同，房甚逼仄。此时房屋爽垲，气象轩敞。男与九弟言，恨不能接堂上各大人来京住此。

男身体平安，九弟亦如常，前不过小恙，两日即愈，未服补剂。甲三自病体复元后，日见肥胖，每日欢呼趋走，精神不倦。家妇亦如恒。九弟《礼记》读完，现读《周礼》。

心斋兄于八月十六日，男向渠借钱四十千，付至家用。渠允于到湘乡时，送银二十八两，交勤七叔处转交男家，且言万不致误。男订待渠到京日偿还其银。若到家中，不必还他。又男寄冬菜一篓、朱尧阶寿屏一付，在心斋处。冬菜托交勤七叔送至家，寿屏托交朱嘯山转寄香海处，月内准有信去。王睢园处，去冬有信去，至今无回信，殊不可解。

颜字不宜写白折，男拟改临褚、柳。去年跪托叔父大人之事，承已代觅一具，感戴之至，泥首万拜。若得再觅一具，即于今冬明春办就更妙，敬谢叔父，另有信一函。在京一切，自知谨慎。

男跪禀

## 八月十七日

侄国藩敬禀叔父大人侍下：

本年家信三号，正月一号，至今尚未收到。由彭九峰寄之信，七月初九收到。七夕所发之信，八月十四收到。欣悉家中一切。

三月之事，本侄分所当为，情所不得已，何足挂齿。前年跪托之事，蒙在滢前买得顶好料一具，侄谨率弟国荃南望拜谢，感扑难名。更求再买一具，即于今冬明春请木匠办就。其所需之钱，望写信来京，侄可觅便付回。一切经营费心，何能图报！

婢母之病全愈，不知是何光景，曾否服药？尚有不时言笑？若有信来，望详细示知为幸。

肃此恭请叔父母大人万福金安。

侄率弟国荃谨禀

## 九月十五日

男国藩跪禀父母亲大人万福金安：

八月十四接家信三件，内系得父亲信一，叔父信一，丹阁叔信一。十八日男发家信第十二号，不知已收到否？

男等在京，身体平安，甲三母子如常。惟九弟迫思南归，不解何故。自九月初间即言欲归，男始闻骇异，再四就询，终不明言。不知男何处不友，遂尔开罪于弟，使弟不愿同居。男劝其明白陈辞，万不可蕴藏于心，稍生猜疑。如男有不是，弟宜正容责之，婉言导之，使男改过自贲。再三劝谕，弟终无一言。如男全无过愆，弟愿归侍定省，亦宜写信先告知父亲。待回信到时，家中谕令南归，然后择伴束装，尚未为晚。男因弟归志已决，百计阻留，劝其多住四十天。而弟仍不愿，欲与

彭山記同歸。彭會試墨屈，擬九月底南旋，現在尚少途費，待渠家寄銀來京。男目下已告匱，九弟若歸，途費甚難措辦。

英夷在浙江滋擾日甚。河南水災，豫楚一路，飢民甚多，行旅大有戒心。胡咏芝前輩扶棟南歸，行李家眷，雇一大船，頗挾重資。聞昨已被搶劫，言之可慘。九弟年少無知，又無大帮作伴，又無健仆，又無途費充裕，又值道上不甚恬適之際，兼此數者，男所以大不放心，万万不令弟歸。即家中聞之，亦万万放心不下。男現在苦留九弟在此。弟若婉從，則讀書如故，半月內男又有稟呈；弟若執拗不從，則男當責以大義，必不令其獨行。

自從閏三月以來，弟未嘗片語違忤，男亦从未加以詞色，兄弟極為湛樂。茲忽欲歸，男寢憤難安，屢轉思維，不解何故。男万難辭咎。父親寄諭來京，先責男教書不盡職、待弟不友愛之罪，後責弟少年無知之罪，弟當翻然改磨。男教訓不先，鞠愛不切，不睦戕栗待罪之至。伏望父母親俯賜愆責，俾知悔過遵守，斷不敢估過飾非，致兄弟仍稍有嫌隙。男謹稟告家中，望無使外人聞知，疑男兄弟不睦。蓋九弟不過堅執，實无丝毫怨男也。

男謹稟

## 十月十九日

男國藩跪稟父母親大人万福金安：

十月十七日接奉在縣城所發手諭，知家中老幼安吉，各亲戚家并皆如常。七月二十五由黃恕皆處寄信，八月十三日由縣附信寄折差，皆未收到。男于八月初三發第十一號家信，十八發第十二號，九月十六發第十三號，不知皆收到否？

男在京身體平安。近因體氣日強，每天發奮用功。早起溫經，早飯後讀二十三史，下半日閱詩、古文。每日共可看書八十頁，嘗過筆圈點。若有耽擱，則止看一半。

九弟體好如常，但不甚讀書。前八月下旬迫切思歸，男再四勸慰，詢其何故。九弟終不明言，惟不讀書，不肯在上房共飯。男因就弟房二人同食，男婦獨在上房飯。九月一月皆如此。弟待男恭敬如常，待男婦和易如常，男夫婦相待亦如常，但不解其思歸之故。男告弟云“凡兄弟有不是處，必須明言，万不可蓄疑于心。如我有不是，弟當明爭婉諷。我若不聽，弟當写信稟告堂上。今欲一人獨歸，浪用途費，錯過光陰，道路艱險，尔又年少無知，祖父母、父母聞之，必且食不甘味，寢不安枕，我又安能放心？是万万不可也”等語。又写書一封，詳言不可歸之

故，共二千余字。又作诗一首示弟。弟微有悔意，而尚不读书。十月初九，男及弟等恭庆寿辰。十一日，男三十初度，弟具酒食、肃衣冠，为男祝贺。嗣是复在上房四人共饭，和好无猜。

昨接父亲手谕，中有示荃男一纸，言境遇难得，光阴不再等语，弟始愧悔读书。男教弟千万言，而弟不听；父亲教弟数言，而弟遽惶恐改悟。是知非弟之咎，乃男不能友爱，不克修德化导之罪也。伏求更赐手谕，责男之罪，俾男得率教改过。幸甚。

男妇身体如常。孙男日见结实，皮色较前稍黑，尚不解语。男自六月接管会馆公项，每月收房租大钱十五千文，此项例听经管支用，俟交卸时算出，不算利钱。男除用此项外，每月仅用银十一二两。若稍省俭，明年尚可不借钱。比家中用度较奢华，祖父母、父母不必悬念。男本月可补国史馆协修官，此轮次挨派者。

英夷之事，九月十七大胜。在福建、台湾生擒夷人一百三十三名，斩首三十二名，大快人心。

许吉斋师放甘肃知府。同乡何宅尽室南归，余俱如故。同乡京官现仅十余人。敬呈近事，余容续禀。

#### 男谨禀

又，呈附录诗一首云：

松柏翳危岩，葛藟相钩带。兄弟匪他人，患难亦相赖。行酒烹肥羊，嘉宾填门外。丧乱一以闻，寂寞何人会？维鸟有鸛鹖，维兽有狼狽。兄弟审无猜，外侮将予奈？愿为同岑石，无为水下滩。水急不可砥，石坚犹可礪。谁谓百年长，仓皇已老大。我迈而斯征，辛勤共粗糲。来世安可期，今生勿玩愒！

### 十一月十九日

孙男国藩、荃跪禀祖父母大人万福金安：

十一月初二日，孙发家信第十五号，外小鞋四双，由宝庆武举唐君带至湘乡县城罗宅，大约新正可到。

十五日戌刻，孙妇产生一女。是日孙妇饮食起居如故，更初始作势，二更即达生，极为平安。寓中所雇仆妇，因其刁悍，已于先两日遣去，亦未请稳婆。其断脐、洗三诸事，皆孙妇亲自经手。

曾孙甲三于初十日伤风，十七日大愈，现已复元，系郑小珊医治。

孙等在京身体如常。同乡李碧峰在京，孙怜其穷苦无依，接在宅内居住，新年可代伊找馆也。

谨禀

## 十二月二十一日

男国藩跪禀父母亲大人万福金安：

十一月十八，男有信寄呈，写十五日生女事，不知到否？昨十二月十七日奉到手谕，知家中百凡顺遂，不胜欣幸。

男等在京，身体平安。孙男孙女皆好。现在共用四人。荆七专抱孙男，以春梅事多，不能兼顾也。孙男每日清早与男同起，即送出外，夜始接归上房。孙女满月，有客一席。九弟读书，近有李碧峰同居，较有乐趣。男精神不甚好，不能勤教，亦不督责。每日兄弟语笑欢娱，萧然自乐，而九弟似有进境。兹将昨日课文原稿呈上。

男今年过年，除用去会馆房租六十千外，又借银五十两。前日冀望外间或有炭资之赠，今冬乃绝无此项。闻今年家中可尽完旧债，是男在外有负累，而家无负累，此最可喜之事。岱云则南北负累，时常忧贫。然其人忠信笃敬，见信于人，亦无窘迫之时。

同乡京官俞岱青先生告假，拟明年春初出京。男有干鹿肉托渠带回。杜兰溪、周华甫皆拟送家眷出京。岱云约男同送家眷，男不肯送，渠谋亦中止。

彭山纪出京，男为代借五十金，昨已如数付来。心斋临行时，约送银二十八两至勤七叔处转交我家，不知能践言否？

嗣后家中信来，四弟、六弟各写数行，能写长信更好。

男谨禀

## 道光二十二年壬寅岁

### 正月初七日

男国藩、荃跪禀父亲大人万福金安：

去年十二月二十一日，发平安信第十七号，内呈家中信六件，寄外人信九件，不知已收到否？

男与九弟身体清吉，家妇亦平安。孙男甲三体好，每日吃粥两顿，不吃零星饮食，去冬已能讲话。孙女亦体好，乳食最多。合寓顺适。

今年新正，景象阳和，较去年正月甚为暖烘。兹因俞岱青先生南

## 曾国藩家书

回，付鹿脯一方，以为堂上大人甘旨之需。鹿肉恐难寄远，故熏腊附回。此间现熏有腊肉、猪舌、猪心、腊鱼之类，与家中无异。如有便附物来京，望附茶叶、大布而已。茶叶须托朱尧阶清明时在永丰买，则其价亦廉，茶叶亦好。家中之布附至此间，为用甚大，但家中费用窘迫，无钱办此耳。

同县李碧峰苦不堪言，男代为张罗，已觅得馆，每月学俸银三两。在男处将住三月，所费无几，而彼则感激难名。馆地现尚未定，大约可成。

在京一切，自知谨慎。即请父母亲大人万福金安。

## 正月十八日

男国藩跪禀父母亲大人万福金安：

新正初七日，男发第一号家信，并鹿脯一方，托俞岱青先生交彭山纪转寄，不知到否？去年腊月十九发家信，内共信十余封，想已到矣。初七日信，系男荃代书。

初八早，男兄弟率合寓上下焚香祝寿。下半日荃弟患病，发热畏寒，遍身骨节痛，肺气疼痛。次早请小珊诊，系时疫症。连日服药，现已大愈。小珊云凡南人体素阴虚者，入京多患此症。从前彭稼楼夫妇皆患此症，罗苏溪、劳辛阶、郑小珊、周华甫亦曾有此病。男庚子年之病，亦是此症。其治法不外滋阴祛邪，二者兼顾。九弟此次之病，又兼肝家有郁，胃家有滞，故病势来得甚陡。自初八至十三，肺气疼痛，呻吟之声震屋瓦，男等日夜惶惧，初九即请吴竹如医治。连日共请四医，总以竹如为主，小珊为辅。十四日胁痛已止，肝火亦平。十五日已能食粥，日减日退。现在微有邪热在胃。小珊云再过数日，邪热祛尽，即可服补剂，本月尽当可复体还元。

男自己亥年进京，庚子年自身大病，辛丑年孙儿病，今年九弟病，仰托祖父母、父母福荫，皆保万全，何幸如之！因此思丁酉春祖父之病，男不获在家伏侍，至今尚觉心悸。九弟意欲于病起复体后归家，男不敢复留。待他全好时，当借途费，择良伴，令其南归。大约在三月起行。

英逆去秋在浙滋扰，冬间无甚动作。若今春不来天津，或来而我师全胜，使彼片帆不返，则社稷苍生之福也。黄河决口，去岁动工，用银五百余万，业已告竣。腊底又复决口。湖北崇阳民变，现在调兵剿办，当易平息。

余容续禀。

男国藩



## 二月二十四日

男国藩跪禀父母亲大人万福金安：

正月十七日发第二号家信，不知已收到否？男身体平安，男妇亦如常。九弟之病，自正月十六日后，日见强旺，二月一日开葷，现已全复元矣。二月以来，日日习字，甚有长进。男亦常习小楷，以为明年考差之具。近来改临智永《千字文》帖，不复临颜、柳二家帖，以不合时宜故也。孙男身体甚好，每日佻达欢呼，曾无歇息。孙女亦好。

浙江之事，闻于正月底交战，仍尔不胜。去岁所失宁波府城、定海镇海二县城尚未收复。英夷滋扰以来，皆汉奸助之为虐。此辈食毛践土，丧尽天良，不知何日罪恶贯盈，始得棄而歼灭！湖北崇阳县逆贼钟人杰为乱，攻占崇阳、通城二县。裕制军即日扑灭，将钟人杰及逆党擒送京师正法，余孽俱已搜尽。钟逆倡乱不及一月，党羽姻属，皆伏天诛。

黄河去年决口，昨已合龙，大功告成矣。九弟前病中思归，近因难觅好伴，且闻道上有虞，是以不复作归计。弟自病好后，亦安心不甚思家。李碧峰在寓住三月，现已找得馆地，在唐同年李杜家教书，每月俸金二两，月费一千。男子二月初配丸药一料，重三斤，约计费钱六千文。

男等在京谨慎，望父母亲大人放心。

男谨禀

## 三月十一日

男国藩跪禀父母亲大人万福金安：

二月二十三日发家信第三号，不知已收到否？正月所寄鹿脯想已到。三月初奉大人正月十二日手谕，具悉一切。又知附有布匹、腊肉等在黄茅棚处，第不知黄氏兄弟何日进京，又不知家中系专人送至省城，抑托人顺带也。

男在京身体如常，男妇亦清吉。九弟体已复元，前二月间因其初愈，每日只令写字养神。三月以来，仍理旧业，依去年功课。未服补剂，男分丸药六两与他吃，因年少不敢峻补。

孙男女皆好，拟于三月间点牛痘。此间牛痘局系广东京官请名医设局积德，不索一钱，万无一失。

男近来每日习帖，不多看书。同年意为试帖诗课，十日内作诗五

## 曾国藩家书

首，用白折写好公评，以为明年考差之具。又吴子序同年有两弟在男处附课看文。又金台书院每月月课，男亦代人作文。因久荒制艺，不得不略为温习。

此刻光景已窘，幸每月可收公项房钱十五千，外些微挪借，即可过度。京城银钱比外间究为活动。家中去年彻底澄清，余债无多，此真可喜。蕙妹仅存钱四百千，以二百在新窑食租，不知住何人屋？负薪汲水，又靠何人？率五素来文弱，何能习劳！后有家信，望将蕙妹家事琐细详书。

余容后禀。

男谨呈

### 四月二十七日

孙男国藩跪禀祖父母大人万福金安：

三月十一日发家信第四号，四月初十、二十三发第五号、第六号。后两号皆寄省城陈家。因寄有银、参、笔帖等物，待诸弟晋省时，当面去接。四月二十一日接壬寅第二号家信，内祖父父亲叔父手书各一、两弟信并诗文俱收。伏读祖父手谕，字迹与早年相同，知精神较健。家中老幼平安，不胜欣幸。游子在外，最重惟平安二字。

承叔父代办寿具，兄弟感恩，何以图报！湘潭带漆，必须多带。此物难辨真假，不可遽人去同买，反有奸弊。在省考试时，与朋友问看漆之法，多问则必能知一二。若临买时，向纸行遽人同去，则必吃亏。如不知看漆之法，则今年不必买太多，待明年讲究熟习，再买不迟。今年添新寿具之时，祖父母寿具必须加漆。以后每年加添一次。四具同加，约计每年漆钱多少？写信来京，孙付至省城甚易，此事万不可从俭。子孙所为报恩之处，惟此最为切实，其余皆虚文也。孙意总以厚漆为主，由一层以加至数十层，愈厚愈坚。不必多用瓷灰、夏布等物，恐其与漆不相胶粘，历久而脱壳也。然此事孙未尝经历讲究，不知如何而后尽善。家中如何办法，望四弟详细写信告知，更望叔父教训诸弟经理。

家心斋兄去年临行时，言到县即送银二十八两至我家。孙因十叔所代之钱，恐家中年底难办，故向心斋通挪，因果曾挪过孙的。今渠既未送来，则不必向渠借也。家中目下敷用不缺，此孙所第一放心者。孙在京已借银二百两。此地通挪甚易，故不甚窘迫，恐不能顾家耳。

曾孙姊妹二人体甚好。四月二十三日已种牛痘。牛痘万无一失，系广东京官设局济活贫家婴儿，不取一钱。兹附回种法一张，敬呈慈览。湘潭、长沙皆有牛痘公局，可惜乡间无人知之。

英夷去年攻占浙江宁波府及定海、镇海两县。今年退出宁波，攻占乍浦，极可痛恨。京城人心安静如无事时，想不日可殄灭也。

孙谨禀

## 六月初十日

孙男国藩跪禀祖父母大人万福金安：

四月二十七日呈家信第七号，内共四信，不知已收到否？

孙兄弟在京平安，孙妇身体如常。曾孙兄妹二人种痘后，现花极佳。男种六颗出五颗，女种四颗出三颗，并皆清吉。寓内上下平善。

逆夷海氛甚恶，现在江苏滋扰。宝山失守，官兵退缩不前，反在民间骚扰。不知何日方可荡平！天津防堵甚严，或可无虑。

同乡何子贞全家住南京，闻又将进京。谢果堂太守兴峣于六月初进京，意欲捐复，多恐不能。郑莘田世任放贵州贵西道，黎樾乔转京畿道。同乡京官绝少。孙在京光景虽艰，而各处通挪，从无窘迫之时。但不能寄资回家，以奉甘旨之需，时深愧悚。

前寄书征一表叔，言将代作墓志，刻下实无便可寄。惠妹移居后，究不知光景如何？孙时常挂念。若有家信来京，望详明书示。

孙在京自当谨慎，足以仰慰慈廑。

孙谨禀

## 七月初四日

男国藩跪禀父母亲大人万福金安：

六月二十八日接到家书，系三月二十四日所发。知十九日四弟得生子，男等合室相庆。四妹生产虽难，然血晕亦是常事，且此次既能保全，则下次较为容易。男未得信时，常以为虑；既得此信，如释重负。

六月底，我县有人来京捐官。王道隆。渠在宁乡界住，言四月县考时，渠在城内并在彭兴枝、云门寺。丁信风两处面晤四弟、六弟。知案首是吴定五。男十三年在陈氏宗祠读书，定五才发蒙作起讲，在杨畏斋处受业。去年闻吴春冈说定五甚为发奋，今果得志，可谓成就甚速。其余前十名及每场题目，渠已忘记。后有信来，乞四弟写出。

四弟、六弟考运不好，不必挂怀。俗语云：“不怕进得迟，只要中得快。”从前邵丹畦前辈，甲名。四十三岁入学，五十二岁作学政，现任广西藩台。汪郎渠鸣相于道光十二年入学，十三年点状元。阮芸台元前辈于乾隆五十三年县、府试皆未取头场，即于其年入学、中举，五十

四年点翰林，五十五年留馆，五十六年大考第一，比放浙江学政，五十九年升浙江巡抚。些小得失，不足患，特患业之不精耳。两弟场中文若得意，可将原卷领出寄京；若不得意，不寄可也。

男等在京平安。纪泽兄妹二人体甚结实，皮色亦黑。

逆夷在江苏滋扰，于六月十一日攻陷镇江，有大船数十只在大江游弋。江宁、扬州二府颇可危虑。然而天不降灾，圣人在上，故京师人心镇定。

同乡王翰城继贤，黔阳人，中书科中书。告假出京。男与陈岱云亦拟送家眷南旋，与郑莘田、王翰城四家同队出京。郑名世任，给事中，现放贵州贵西道。男与陈家本于六月底定计，后于七月初一请人扶乩，另纸录出大仙示语。似可不必轻举妄动，是以中止。现在男与陈家仍不送家眷回南也。

同县谢果堂先生兴皖来京，为其次子捐盐大使。男已请至寓陪席。其世兄与王道樵尚未请，拟得便亦须请一次。

正月间俞仿青先生出京，男寄有鹿脯一方，托找彭山杞转寄。俞后托谢吉人转寄，不知到否？又四月托李崑冈荣灿寄银寄笔，托曹西垣寄参，并交陈季牧处，不知到否？前父亲教男养须之法，男仅留上唇须，不能用水浸透。色黄者多，黑者少。下唇拟待三十六岁始留。

男每接家信，嫌其不详，嗣后更愿详示。

男谨禀

## 八月初一日

孙男国藩跪禀祖父母大人万福金安：

七月初五日发第九号信，内言六月二十四日后，孙与岱云意欲送家眷回南，至七月初一谋之于神，乃决计不送。

初五日发信后，至初八日九弟仍思南归，其意仍坚，不可挽回。与孙商量，孙即不复劝阻。九弟自从去年四月父亲归时，即有思归之意。至九月间，则归心似箭。孙苦苦细问，终不明言其所以然。年少无知，大抵厌常而喜新。未到京则想京，既到京则思家，在所不免。又家中仆婢，或对孙则恭敬，对弟则简慢，亦在所不免。孙于去年决不许他归，严责曲劝，千言万语，弟亦深以为然。几及两月，乃决计不归。今年正月病中又思归，孙即不敢复留矣。三月复元后，弟又自言不归。四、五、六月读书习字，一切如常。至六月底，因孙有送家眷之说，而弟之归兴又发。孙见其意，是为远离膝下，思归尽服事之劳。且逆夷滋扰，外间讹言可畏。虽明知襄尔螳臂，不足以当车辙，而九弟既非在外服

官，即宜在家承欢，非同有职位者，闻警而告假，使人笑其无胆，骂其无义也。且归心既动，若强留在此，则心如悬挂，不能读书，徒废时日。兼此数屋，故孙比即定计，打发他回，不复禁阻。恰好郑莘田先生名世任，长沙人，癸酉拔贡，小京官，由御史升给事中，现放贵州兵备道。将去贵州上任，迂道走湖南省城，定于十六日起程。孙即将九弟托他结伴同行。此系初八九起议，十四日始决计。即于数日内将一切货物办齐，十五日雇车。

郑宅大车七辆，渠已于十三日雇定。九弟雇轿车一辆，价钱二十七千文。时价轿车本只要二十三千，孙见车店内有顶好官车一辆，牲口亦极好，其车较常车大二寸，深一尺，坐者最舒拂，故情愿多出大钱四千，恐九弟在道上受热生病。雇底下人名向泽，其人新来，未知好歹。观其光景，似尚有良心者。昨九弟出京七日，在任丘县寄信来京，云向泽伺候甚好。十六日未刻出京，孙送至城外二十里。见道上有积潦甚多，孙大不放心，恐路上有翻车陷车等事，深为懊悔。二十三日接到弟在途中所发信，始稍放心。兹将九弟原信附呈。孙交九弟途费纹银三十二两整，先日交车行上脚大钱十三千五百文及上车现大钱六千文两项在外。外买货物及送人东西另开一单，九弟带回。外封银十两，敬奉堂上六位老人吃肉之资。孙对九弟云，万一少途费，即扯此银亦可，若到家后，断不可以他事借用此银。然途费亦断不至少也。向泽订工费大钱二千文，已在京交楚。郑家与九弟在长沙分队，孙嘱其在省换小船到县，向泽即在县城开销他。向泽意欲送至家，如果至家，留住几日打发，求祖父随时斟酌。

九弟自到京后，去年上半年用功甚好。六月因甲三病，耽擱半月余。九月弟欲归，不肯读书，耽擱两月。今春弟病耽擱两月。其余工夫，或作或辍，虽多间断，亦有长进。计此一年半之中，惟书法进功最大。外此则看《纲鉴》三十六本，读《礼记》四本，读《周礼》一本，读《斯文精萃》两本半，因《周礼》读不熟，故换读《精萃》。作文六十余篇，读文三十余首。父亲出京后，孙未尝按期改文，未尝讲书，未能按期点诗文。此孙之过，无所逃罪者也。读文作文全不用心，凡事无恒，屡责不改。此九弟之过也。好与弟谈伦常、讲品行，使之扩见识、立远志，目前已颇识为学之次第，将来有路可循。此孙堪对祖父者也。待兄甚敬，待侄辈甚慈，循规蹈矩，一切匪彝悖淫之事毫不敢近，举止大方，性情挚厚。此弟之好处也。弟有最坏之处，在于不知艰苦。年纪本轻，又未尝辛苦，宜其不知；再过几年，应该知道。

九弟约计可于九月半到家。孙恐家中骇异，疑兄弟或有嫌隙，致生忧虑，故将在京出京情形，述其梗概。至琐细之故，九弟到家详述，使

## 曾国藩家书

堂上大人知孙兄弟绝无纤介之隙也。

孙身体如常，惟常耳鸣，不解何故。孙妇及曾孙兄妹二人皆好。丫环因其年已长，其人太蠢，已与媒婆兑换一个，京城有官媒婆，凡买卖婢，皆由她经纪。彼此不找一钱。此婢名双喜，天津人，年十三岁。貌比春梅更陋，而略聪明。寓中男仆皆如故。

同县谢果堂先生为其子捐盐大使，王道三庵王恒信之侄。捐府经历，黄鉴之子捐典史，以外无人。

孙在京一切自宜谨慎，伏望堂上大人放心。

孙谨禀

## 八月十二日

男国藩跪禀父母亲大人万福金安：

八月初二日发第十号家信，内载九弟南旋事甚详，不审到否？九弟自七月十六出京，二十三即有信来京，嗣后在道上未发信来，刻下想已到樊城矣。不知道上果平安否？男实难放心。

黄河决口百九十余丈，在江南桃源县之北，为患较去年河南不过三分之一。逆夷在江南半月内无甚消息，大约和议已成。

同县有黄鉴者，为口外宣化巡检。去年回家，在湘乡带一老妈来京。因使用不合，仍托人携带南归。现寄居男寓，求男代觅地方附回，途费则黄自出。

谢果堂先生已于八月初六出京，住京两月，与男极相投洽，临别依依难舍。同乡如唐镜海、俞岱青、谢果堂三前辈，皆老成典型，于男皆青眼相待。何子贞全家皆已来京。男妇及孙男女身体如常。

此次折差于七月十六在省起身，想父亲彼时尚在省城，不知何以无信？陈岱云家信，言学院十六封门。四弟、六弟府考，渠亦不知。彭王姑墓志铭，九弟起程时，仓卒未及写，今写毕，又无便寄，求告知征一表叔。正月十二所办寿具，不知已漆否？万不可用黄二漆匠。此人男深恶之，他亦不肯尽心也。彭宫五亦不可用，彼未学过，且太迟钝。余俟续禀。

男谨禀

## 九月十七日

孙男国藩跪禀祖父母大人万福金安：

九月十三日接到家信，系七月父亲在省所发，内有叔父信及欧阳牧云致函。知祖母于七月初三日因占犯致恙，不药而愈，可胜欣幸。

高丽参足以补气，然身上稍有寒热，服之便不相宜，以后务须斟酌用之。若微觉感冒，即忌用。此物平日康强时，和人丸药内服最好。然此时家中想已无多，不知可供明年一单丸药之用否？若其不足，须写信来京，以便觅便寄回。四弟、六弟考试又不得志，颇难为怀。然大器晚成，堂上不必以此置虑。闻六弟将有梦熊之喜，幸甚。近叔父为婶母之病劳苦忧郁，有怀莫宣。今六弟一索得男，则叔父含怡弄孙，瓜瓞日蕃，其乐何如！唐镜海先生德望为京城第一，其令嗣极孝，亦系兄子承继者。先生今年六十五岁，得生一子，人皆以为盛德之报。

英夷在江南，抚局已定。盖金陵为南北咽喉，逆夷既已扼吭而据要害，不得不权为和戎之策，以安民而息兵。去年逆夷在广东曾经就抚，其费去六百万两。此次之费，外间有言二千一百万者。又有言此项皆劝绅民捐输，不动帑藏者。皆不知的否。现在夷船已全数出海，各处防海之兵陆续撤回，天津亦已撤退。议抚之使，系伊里布、耆英及两江总督牛鉴三人。牛鉴有失地之罪，故抚局成后即革职拿问。伊里布去广东代奕山为将军，耆英为两江总督。自英夷滋扰，已历二年，将不知兵，兵不用命，于国威不无少损。然此次议抚，实出于不得已。但使夷人从此永不犯边，四海宴然安堵，则以大事小，乐天之道，孰不以为上策哉！

孙身体如常，孙妇及曾孙兄妹并皆平安。同县黄晓潭荃荐一老妈吴姓来。渠在湘乡苦请他来，而其妻凌虐婢仆，百般惨酷，黄求孙代为开脱。孙接至家住一月，转荐至方夔卿太守家处，托其带回湖南。大约明春可到湘乡。

今年进学之人，孙见题名录，仅认识彭惠田一人。不知二十三十四都进人否？谢宽仁、吴光煦取一等，皆少年可慕。一等第一，题名录刻黄生平，不知即黄星平否？

孙每接家信，常嫌其不详，以后务求详明。虽乡间田宅婚嫁之事，不妨写出，使游子如神在里门。各族戚家，尤须一一示知。幸甚。

敬请祖父母大人万安。余容后呈。

孙谨禀

## 九月十八日

四位老弟足下：

九弟行程，计此时可以到家。自任丘发信之后，至今未接到第二封信，不胜悬悬。不知道上不甚艰险否？四弟、六弟院试，计此时应有信，而折差久不见来，实深悬望。

予身体较九弟在京时一样，总以耳鸣为苦。问之吴竹如，云只有静养一法，非药物所能为力。而应酬日繁，予又素性浮躁，何能着实静养？拟搬进内城住，可省一半无谓之往还，现在尚未找得。予时时自悔，终未能洗涤自新。

九弟归去之后，予定刚日读经，柔日读史之法。读经常懒散不沉着。读《后汉书》，现已丹笔点过八本；虽全不记忆，而较之去年读《前汉书》，领会较深。九月十一日起同课人议每课一文一诗，即于本日申刻用白折写。予文、诗极为同课人所赞赏。然予于八股绝无实学，虽感诸君奖借之殷，实则自愧愈深也。待下次折差来，可付课文数篇回家。予居家懒做考差工夫，即借此课以摩厉考具，或亦不至临场窘迫耳。

吴竹如近日常往来极密，来则作竟日之谈，所言皆身心国家大道理。渠言有寒兰泉者，号，云南人。见道极精当平实。寒亦深知予者，彼此现尚未拜往。竹如必要予搬进城住，盖城内镜海先生可以师事，倭艮峰先生、寒兰泉可以友事。师友夹持，虽懦夫亦有立志。子思、朱子言为学譬如熬肉，先须猛火煮，然后用慢火温。予生平工夫全未用猛火煮过，虽略有见识，乃是从悟境得来。偶用功，亦不过优游玩索已耳。如未沸之汤，遽用慢火温之，将愈煮愈不熟矣。以是急思搬进城内，屏除一切，从事于克己之学。镜海、艮峰两先生亦劝我急搬。而城外朋友，予亦有思常见者数人，如邵蕙西、吴子序、何子贞、陈岱云是也。

蕙西尝言：“‘与周公瑾交，如饮醇醪’，我两人颇有此风味。”故每见辄长谈不舍。子序之为人，予至今不能定其品。然识见最大且精，尝教我云：“用功譬若掘井，与其多掘数井而皆不及泉，何若老守一井，力求及泉而用之不竭乎？”此语正与予病相合。盖予所谓掘井多而皆不及泉者也。

何子贞与予讲字极相合，谓我“真知大源，断不可暴弃”。予尝谓天下万事万理皆出于乾坤二卦。即以作字论之：纯以神行，大气鼓荡，脉络周通，潜心内转，此乾道也；结构精巧，向背有法，修短合度，此坤道也。凡乾以神气言，凡坤以形质言。礼乐不可斯须去身，即此道



也。乐本于乾，礼本于坤。作字而优游自得、真力弥满者，即乐之意也；丝丝入扣、转折合法，即礼之意也。偶与子贞言及此，子贞深以为然，谓渠生平得力，尽于此矣。陈岱云与吾处处痛痒相关，此九弟所知者也。

写至此，接得家书。知四弟、六弟未得入学，怅怅然。科名有无迟早，总由前定，丝毫不能勉强。吾辈读书，只有两事：一者进德之事，讲求乎诚正修齐之道，以图无忝所生；一者修业之事，操习乎记诵词章之术，以图自卫其身。进德之事难以尽言，至于修业以卫身，吾请言之：

卫身莫大于谋食。农工商劳力以求食者也，士劳心以求食者也。故或食禄于朝，教授于乡，或为传食之客，或为人幕之宾，皆须计其所业，足以得食而无愧。科名者，食禄之阶也，亦须计吾所业，将来不至尸位素餐，而后得科名而无愧。食之得不得，穷通由天作主，予夺由人作主；业之精不精，则由我作主。然吾未见业果精，而终不得食者也。农果力耕，虽有机懂，必有丰年；商果积货，虽有壅滞，必有通时。士果能精其业，安见其终不得科名哉？即终不得科名，又岂无他途可以求食者哉？然则特愿业之不精耳。

求业之精，别无他法，曰专而已矣。谚曰“艺多不养身”，谓不专也。吾掘井多而无泉可饮，不专之咎也。诸弟总须力图专业。如九弟志在习字，亦不必尽废他业。但每日习字工夫，断不可不提起精神，随时随事，皆可触悟。四弟、六弟，吾不知其心有专嗜否？若志在穷经，则须专守一经；志在作制义，则须专看一家文稿；志在作古文，则须专看一家文集。作各体诗亦然，作试帖亦然，万不可以兼营并鹜，兼营则必一无所能矣。切嘱切嘱，千万千万。此后写信来，诸弟各有专守之业，务须写明。且须详问极言，长篇累牍。使我读其手书，即可知其志向识见。凡专一业之人，必有所心得，亦必有疑义。诸弟有所心得，可以告我共赏之；有疑义，可以问我共析之。且书信既详，则四千里外之兄弟不啻晤言一室，乐何如乎？

予生平于伦常中，惟兄弟一伦抱愧尤深。盖父亲以其所知者尽以教我，而我不能以吾所知者尽教诸弟，是不孝之大者也。九弟在京年余，进益无多，每一念及，无地自容。嗣后我写诸弟信，总用此格纸，弟宜存留，每年装订成册。其中好处，万不可忽略看过。诸弟为信寄我，亦须用一色格纸，以便装订。

谢果堂先生出京后，来信并诗二首。先生年已六十余，名望甚重，与予见面，辄彼此倾心，别后又拳拳不忘，想见长辈爱才之笃。兹将诗并予送诗附闻，传播里中，使共知此老为大君子也。

予有大铜尺一方，屡寻不得，九弟已带归否？频年寄黄英白菜子，家中种之好否？在省时已买漆否？漆匠果用何人？信来并祈详示。

兄国藩手具

十月二十六日

男国藩跪禀父母亲大人万福金安：

十月二十二奉到手谕，敬悉一切。

郑小珊处小隙已解。男从前于过失，每自忽略。自十月以来，念念改过，虽小必惩。其详具载示弟书中。耳鸣近日略好，然微劳即鸣。每日除应酬外，不能不略自用力，虽欲节劳，实难再节。手谕示以节劳节欲节饮食，谨当时时省记。

萧辛五先生处，寄信不识靠得住否？龙翰臣父子已于十月初一日到京，布匹线索俱已照单收到，惟茶叶尚在黄恕督处。恕皆有信与男，本月可到也。

男妇等及孙男女皆平安。余详与弟书。

谨禀

十月二十六日

诸位贤弟足下：

十月二十一日接九弟在长沙所发信，内途中日记六页，外药子一包。二十二接九月初二日家信，欣悉以慰。

自九弟出京后，余无日不忧虑，诚恐道路变故多端，难以臆揣。及读来书，果不出吾所料。千辛万苦，始得到家。幸哉幸哉！郑伴之不足恃，余早已知之矣。郁漱堂如此之好，余实不胜感激。在长沙时，曾未道及彭山纪，何也？又为祖母买皮袄，极好极好，可以补吾之过矣。

观四弟来信甚详，其发奋自励之志，溢于行间。然必欲找馆出外，此何意也？不过谓家塾离家太近，容易耽擱，不如出外较清静耳。然出外从师，则无甚耽擱；若出外教书，其耽擱更甚于家塾矣。且苟能发奋自立，则家塾可读书，即旷野之地、热闹之场亦可读书，负薪牧豕，皆可读书；苟不能发奋自立，则家塾不宜读书，即清静之乡、神仙之境皆不能读书。何必择地？何必择时？但自问立志之真不真耳！

六弟自怨数奇，余亦深以为然。然屈于小试辄发牢骚，吾窃笑其志之小，而所忧之不大也。君子之立志也，有民胞物与之量，有内圣外王之业，而后不忝于父母之生，不愧为天地之完人。故其为忧也，以不如

舜不如周公为忧也，以德不修学不讲为忧也。是故顽民梗化则忧之，蛮夷猾夏则忧之，小人在位贤才否闭则忧之，匹夫匹妇不被己泽则忧之，所谓悲天命而悯人穷，此君子之所忧也。若夫一身之屈伸，一家之饥饱，世俗之荣辱得失、贵贱毁誉，君子固不暇忧及此也。六弟屈于小试，自称数奇，余窃笑其所忧之不大也。

盖人不读书则已，亦既自名曰读书人，则必从事于《大学》。《大学》之纲领有三：明德、新民、止至善，皆我分内事也。若读书不能体贴到身上去，谓此三项与我身了不相涉，则读书何用？虽使能文能诗，博雅自诩，亦只算得识字之牧猪奴耳！岂得谓之明理有用之人也乎？朝廷以制艺取士，亦谓其能代圣贤立言，必能明圣贤之理，行圣贤之行，可以居官莅民、整躬率物也。若以明德、新民为分外事，则虽能文能诗，而于修己治人之道实茫然不讲，朝廷用此等人作官，与用牧猪奴作官何以异哉？然则既自名为读书人，则《大学》之纲领，皆己身切要之事明矣。其条目有八，自我观之，其致功之处，则仅二者而已：曰格物，曰诚意。

格物，致知之事也；诚意，力行之事也。物者何？即所谓本末之物也。身、心、意、知、家、国、天下皆物也，天地万物皆物也，日用常行之事皆物也。格者，即物而穷其理也。如事亲定省，物也；究其所以当定省之理，即格物也。事兄随行，物也；究其所以当随行之理，即格物也。吾心，物也；究其存心之理，又博究其省察涵养以存心之理，即格物也。吾身，物也；究其敬身之理，又博究其立齐坐尸以敬身之理，即格物也。每日所看之书，句句皆物也；切己体察、穷究其理即格物也。此致知之事也。所谓诚意者，即其所知而力行之，是不欺也。知一句便行一句，此力行之事也。此二者并进，下学在此，上达亦在此。

吾友吴竹如格物工夫颇深，一事一物，皆求其理。倭艮峰先生则诚意工夫极严，每日有日课册，一日之中一念之差、一事之失、一言一默，皆笔之于书。书皆楷字，三月则订一本。自乙未年起，今三十本矣。盖其慎独之严，虽妄念偶动，必即时克治，而著之于书。故所读之书，句句皆切身之要药。兹将艮峰先生日课抄三叶付归，与诸弟看。余自十月初一起亦照艮峰样，每日一念一事，皆写之于册，以便触目克治，亦写楷书。冯树堂与余同日记起，亦有日课册。树堂极为虚心，爱我如兄，敬我如师，将来必有所成。余向来有无恒之弊，自此次写日课本子起，可保终身有恒矣。盖明师益友，重重夹持，能进不能退也。本欲抄余日课册付诸弟阅，因今日镜海先生来，要将本子带回去，故不及抄。十一月有折差，准抄几叶付回也。

余之益友，如倭艮峰之瑟偶，令人对之肃然；吴竹如、寒兰泉之精

## 曾国藩家书

义，一言一事，必求至是；吴子序、邵蕙西之谈经，深思明辨；何子贞之谈字，其精妙处，无一不合，其谈诗尤最符契。子贞深喜吾诗，故吾自十月来已作诗十八首。兹抄二叶，付回与诸弟阅。冯树堂、陈岱云之立志，汲汲不遑，亦良友也。饒海先生，吾虽未尝执贄请业，而心已师之矣。

吾每作书与诸弟，不觉其言之长，想诸弟或厌烦难看矣。然诸弟苟有长信与我，我实乐之，如获至宝，人固各有性情也。

余自十月初一日起记日课，念念欲改过自新。思从前与小珊有隙，实是一朝之忿，不近人情，即欲登门谢罪。恰好初九日小珊来拜寿，是夜余即至小珊家久谈。十三日与岱云合伙，请小珊吃饭。从此欢笑如初，前隙尽释矣。

金竺虔报满用知县，现住小珊家，喉痛月余，现已全好。李笔峰在汤家如故。易莲舫要出门就馆，现亦甚用功，亦学倭艮峰者也。同乡李石梧已升陕西巡抚。两大将军皆锁拿解京治罪，拟斩监候。英夷之事，业已和抚。去银二千一百万两，又各处让他码头五处。现在英夷已全退矣。两江总督牛鉴，亦锁解刑部治罪。

近事大略如此。容再续书。

兄国藩手具

## 十一月十七日

男国藩跪禀父母亲大人万福金安：

十月二十七日发第十二号信，不知到否？男在京身体甚好。男妇亦如常。孙男日益发胖，毫无小恙。孙女于昨十五日满周，一年之内，无半点累大人之处，真可谓易养者也。合寓上下平安。

海疆平定以来，政简人和，雍熙如旧。廖钰夫师署漕运总督，兼署南河总督。奕山、奕经并拟斩监候罪。满协办大学士，敬征补授。汉大学士尚未宣麻。今年南河决口，河督麟庆革职，现放潘锡恩为总河。同乡京官并皆如常。

其余琐事详载诸弟信中，不敢上渎。

男国藩

## 十一月十七日

诸位贤弟足下：

十月二十七日寄弟书一封，内信四叶、抄倭艮峰先生日课三叶、抄诗二叶，已改寄萧莘五先生处，不由庄五爷公馆矣。不知已到无误否？

十一月前八日已将日课抄与弟阅，嗣后每次家书，可抄三叶付回。日课本皆楷书，一笔不苟，惜抄回不能作楷书耳。冯树堂进功最猛，余亦教之如弟，知无不言。可惜九弟不能在京与树堂日日切磋，余无日无刻不太息也。九弟在京年半，余懒散不努力。九弟去后，余乃稍能立志，盖余实负九弟矣。余尝语岱云曰：“余欲尽孝道，更无他事。我能教诸弟进德业一分，则我之孝有一分；能教诸弟进十分，则我孝有十分；若全不能教弟成名，则我大不孝矣。”九弟之无所进，是我之大不孝也。惟愿诸弟发奋立志，念念有恒，以补我不孝之罪。幸甚幸甚。

岱云与易五近亦有日课册，惜其识不甚超越。余虽日日与之谈论，渠究不能悉心领会，颇疑我言太夸。然岱云近极勤奋，将来必有所成。

何子敬近待我甚好，常彼此做诗唱和。盖因其兄钦佩我诗，且谈字最相合，故子敬亦改容加礼。子贞现临隶字，每日临七八叶，今年已千叶矣。近又考订《汉书》之讹，每日手不释卷。盖子贞之学长于五事：一曰《仪礼》精，二曰《汉书》熟，三曰《说文》精，四曰各体诗好，五曰字好。此五事者，渠意皆欲有所传于后。以余观之，前三者余不甚精，不知浅深究竟何如。若字，则必传千古无疑矣。诗亦远出时手之上，不能卓然成家。近日京城诗家颇少，故余亦欲多做几首。

金竺虔在小珊家住，颇有面善心非之隙。唐诗甫亦与小珊有隙。余现仍与小珊来往，泯然无嫌，但心中不甚惬意耳。曹西垣与邹云陔十月十六日起程，现尚未到。汤海秋久与之处，其人诞言太多，十句之中仅一二句可信。今冬嫁女二次：一系杜兰溪之子，一系李石梧之子入赘。黎樾翁亦有次女招赘。其婿虽未读书，远胜于冯舅矣。李笔峰尚馆海秋处，因代考供事，得银数十，衣服焕然一新。王翰城捐知州，去大钱八千串。何子敬捐知县，去大钱七千串。皆于明年可选实缺。黄子寿处，本日去看他，工夫甚长进。古文有才华，好买书，东翻西阅，涉猎颇多，心中已有许多古董。何世兄亦甚好，沈潜之至，天分不高，将来必有所成。吴竹如近日未出城，余亦未去，盖每见则耽擱一天也。其世兄亦极沈潜，言动中礼，现在亦学倭艮峰先生。吾观何、吴两世兄之姿质，与诸弟相等，远不及周受珊、黄子寿。而将来成就，何、吴必更切实。此其故，诸弟能看书自知之。愿诸弟勉之而已。此数人者，皆后起不凡之人才也。安得诸弟与之联镳并驾，则余之大幸也。

季仙九先生到京服阙，待我甚好，有青眼相看之意。同年会课，尽皆懒散，向十日一会如故。

余今年过年，尚须借银百五十金，以五十还杜家，以百金用。李石梧到京，交出长郡馆公费，即在公项借用，免出外开口更好。不然，则尚须张罗也。

门上陈升一言不合而去，故余作傲奴诗。现换一周升作门上，颇好。余读《易·旅卦》“丧其童仆”。《象》曰：“以旅与下，其义丧也。”解之者曰：“以旅与下者，谓视童仆如旅人，刻薄寡恩，漠然无情，则童仆亦将视主上如逆旅矣。”余待下虽不刻薄，而颇有视如逆旅之意，故人不尽忠。以后余当视之如家人手足也，分虽严明而情贵周通。贤弟待人亦宜知之。

余每闻折差到，辄望家信。不知能说法多寄几次否？若寄信，则诸弟必须详写日记数天。幸甚。余写信，亦不必代诸弟多立课程，盖恐多看则生厌，故但将余近日实在光景写示而已，伏惟诸弟细察。

## 十二月二十日

男国藩跪禀父母亲大人万福金安：

十二月十四奉到十月初七手谕，敬悉一切。

芝妹又小产。男恐其气性太躁，有伤天和，亦于生产有碍，以后须平心和气。伏望大人教之。

朱备之世兄任宝庆同知。其人浑朴，京师颇有笑其憨者，实则笃厚君子也。龙见田年伯来京，男请酒，渠辞不赴；意欲再请翰臣，待明春始办席也。在省未送程仪，待见面可说明。

漆寿具既用黄二漆匠亦好，男断不与此等小人计较，但恐其不尽心耳。闻瓷灰不可多用。多用则积久易脱，不如多漆厚漆，有益无损。不知的否？以后每年四具必须同漆一次，男每年必付四两银至家，专为买漆之用。九弟前带回银十两，为堂上吃肉之费，不知已用完否？男等及孙男女身体俱如常。今年用费共六百余金，绝不窘手，左右逢原，绰有余裕。另有寄弟信详言之。正月祖父大人七十大寿，男已作寿屏两架。明年有便，可付回一架。

今年京察，京城各衙门京察，堂官出考语，列等第，取一等者即外放道府。湖南惟蒙櫟升得一等。翰林未满三年俸者，例不京察。

同乡黄菊卿兄弟到京，收到茶叶一篓，重二十斤，尽可供二年之食。惟托人东西太大，不免累赘，心实不安，而渠殊不介意也。在京一切，自知谨慎。

男谨禀

## 十二月二十日

诸位贤弟足下：

十一月十七寄第三号信，想已收到。父亲到县纳漕，诸弟何不寄一信，交县城转寄省城也？以后凡遇有便，即须寄信，切要切要。九弟到家，遛走各亲戚家，必各有一番景况，何不详以告我？

四妹小产以后生育颇难，然此事最大，断不可以人力勉强。劝渠家只须听其自然，不可过于矜持。又闻四妹起最晏，往往其姑反服事他。此反常之事，最足折福。天下未有不孝之妇而可得好处者，诸弟必须时劝导之，晓之以大义。

诸弟在家读书，不审每日如何用功？余自十月初一立志自新以来，虽懒惰如故，而每日楷书写日记，每日读史十叶，每日记茶余偶谈一则，此三事未尝一日间断。十月二十一日立誓永戒吃水烟，洎今已两月不吃烟，已习惯成自然矣。予自立课程甚多，惟记“茶余偶谈”、读史十叶、写日记楷本，此三事者誓终身不间断也。诸弟每人自立课程，必须有日日不断之功，虽行船走路，俱须带在身边。予除此三事外，他课程不必能有成；而此三事者，将终身以之。

前立志作曾氏家训一部，曾与九弟详细道及。后因采择经史，若非经史烂熟胸中，则割裂零碎，毫无线索；至于采择诸子各家之言，尤为浩繁，虽抄数百卷犹不能尽收。然后知古人作《大学衍义》、《衍义补》诸书，乃胸中自有条例，自有议论，而随便引书以证明之，非翻书而遍抄之也。然后知著书之难，故暂且不作曾氏家训。若将来胸中道理愈多，议论愈贯串，仍当为之。

现在朋友愈多。讲躬行心得者，则有镜海先生、艮峰前辈、吴竹如、寒兰泉、冯树堂；穷经知道者，则有吴子序、邵蕙西；讲诗、文、字而艺通于道者，则有何子贞；才气奔放，则有汤海秋；英气逼人志大神静，则有黄子寿。又有王少鹤、名锡振，广西主事，年二十七岁，张筱浦之妹夫。朱廉甫、名琦，广西乙未翰林。吴莘畬、名尚志，广东人，吴抚台之世兄。庞作人。名文寿，浙江人。此四君者，皆闻予名而先来拜。虽所造有浅深，要皆有志之士，不甘居于庸碌者也。京师为人文渊藪，不求则无之，愈求则愈出。近来闻好友甚多，予不欲先去拜别人，恐徒标榜虚声。盖求友以匡己之不逮，此大益也；标榜以盗虚名，是大损也。天下有益之事，即有足损者寓乎其中，不可不辨。黄子寿近作《选将论》一篇，共六千余字，真奇才也。子寿戊戌年始作破题，而

六年之中遂成大学问，此天分独绝，万不可学而至。诸弟不必震而惊之，予不愿诸弟学他，但愿诸弟学吴世兄、何世兄。吴竹如之世兄现亦学艮峰先生写日记，言有矩，动有法，其静气实实可爱。何子贞之世兄，每日自朝至夕总是温书，三百六十日，除作诗文时，无一刻不温书。真可谓有恒者矣。故予从前限功课教诸弟，近来写信寄弟，从不另开课程，但教诸弟有恒而已。盖士人读书，第一要有志，第二要有识，第三要有恒。有志则断不甘为下流；有识则知学问无尽，不敢以一得自足，如河伯之观海，如井蛙之窥天，皆无识者也；有恒则断无不成之事。此三者缺一不可。诸弟此时，惟有识不可以骤几，至于有志有恒，则诸弟勉之而已。予身体甚弱，不能苦思，苦思则头晕，不耐久坐，久坐则倦乏，时时属望惟诸弟而已。

明年正月恭逢祖大人七十大寿，京城以进十为正庆。予本拟在戏园设寿筵，宴兰泉及艮峰先生劝止之，故不复张筵。盖京城张筵唱戏，名为庆寿，实则打把戏。兰泉之劝止，正以此故。现在作寿屏两架。一架淳化笺四大幅，系何子贞撰文并书，字有茶碗口大。一架冷金笺八小幅，系吴子序撰文，予自书。淳化笺系内府用纸，纸厚如钱，光彩耀目，寻常琉璃厂无有也。昨日偶有之，因买四张。子贞字甚古雅，惜太大，万不能寄回。奈何奈何！

侄儿甲三体日胖而颇蠢，夜间小解知自报，不至于湿床褥，女儿体好，最易扶携，全不劳大人费心力。

今年冬间，贺桐庚先生寄三十金，李双圃先生寄二十金，其余尚有小进项。汤海秋又自言借百金与我用。计还清兰溪、寄云外，尚可宽裕过年。统计今年除借会馆房钱外，仅借百五十金。岱云则略多些。岱云言在京已该账九百余金，家中亦有此数，将来正不易还。寒士出身，不知何日是了也！我在京该账尚不过四百金，然苟不得差，则日见日繁矣。

书不能尽言，惟诸弟鉴察。

兄国藩手草

#### 课 程

主 敬 整齐严肃，无时不惧。无事时心在腔子里，应事时专一不杂。

静 坐 每日不拘何时，静坐一会，体验静极生阳未复之仁心。正位凝命，如鼎之镇。

早 起 黎明即起，醒后勿沾恋。

读书不二 一书未点完断不看他书。东翻西阅，都是徇外为人。



读史 二十三史每日读十叶，虽有事不间断。

写日记 须端楷。凡日间过恶：身过、心过、口过，皆记出。终身不间断。

日知其所亡 每日记茶余偶谈一则。分德行门、学问门、经济门、艺术门。

月无忘所能 每月作诗文数首，以验积理之多寡、养气之盛否。

谨言 刻刻留心。

养气 无不可对人言之事。气藏丹田。

保身 谨遵大人手谕：节欲、节劳、节饮食。

作字 早饭后作字。凡笔墨应酬，当作自己功课。

夜不出门 旷功疲神，切戒切戒。

## 道光二十三年癸卯岁

### 正月十七日

男国藩跪禀父母亲大人万福金安：

正月八日恭庆祖父母双寿，男去腊作寿屏二架。今年同乡送寿对者五人。拜寿来客四十人。早面四席，晚酒三席。未吃晚酒者，于十七日、二十日补请二席。又倩人画椿萱重荫图，观者无不叹美。

男身体如常。新年应酬太繁，几至日不暇给。媳妇及孙儿俱平安。

正月十五接到四弟、六弟信。四弟欲偕季弟从汪觉庵师游，六弟欲偕九弟至省城读书。男思大人家事日烦，必不能常在家塾照管诸弟；且四弟天分平常，断不可一日无师，讲书改诗文，断不可一课耽擱。伏望堂上大人俯从男等之请，即命四弟、季弟从觉庵师。其束修银，男于八月付回，两弟自必加倍发奋矣。六弟实不羁之才，乡间孤陋寡闻，断不足以启其见识而坚其志向；且少年英锐之气不可久挫。六弟不得入学，既挫之矣；欲进京而男阻之，再挫之矣；若又不许肄业省城，则母乃太挫其锐气乎？伏望堂上大人俯从男等之请，即命六弟、九弟下省读书。其费用，男于二月间付银二十两至金竺虔家。

夫家和则福自生。若一家之中，兄有言弟无不从，弟有请兄无不应，和气蒸蒸而家不兴者，未之有也；反是而不败者，亦未之有也。伏

望大人察舅之志，即此敬稟叔父大人，恕不另具。六弟将来必为叔父克家之子，即为吾族光大门第，可喜也。

谨述一二，余俟续稟。

## 正月十七日

诸位老弟足下：

正月十五日接到四弟、六弟、九弟十二月初五日所发家信。

四弟之信三叶，语语平实。责我待人恕，甚为切当。谓月月书信徒以空言责弟辈，却又不能实有好消息，令堂上闻兄之书，疑弟辈粗俗庸碌，使弟辈无地可容云云。此数语，兄读之不觉汗下。

我去年曾与九弟闲谈，云为人子者，若使父母见得我好些，谓诸兄弟俱不及我，这便是孝；若使族党称道我好些，谓诸兄弟俱不如我，这便是弟。何也？盖使父母心中有贤愚之分，使族党口中有贤愚之分，则必其平日有讨好底意思，暗用机计，使自己得好名声，而使其兄弟得坏名声，必其后日之嫌隙由此而生也。刘大爷、刘三爷兄弟皆想做好人，卒至视如仇讎。因刘三爷得好名声于父母族党之间，而刘大爷得坏名声故也。今四弟之所责我者，正是此道理，我所以读之汗下。但愿兄弟五人，各各明白这个道理，彼此互相原谅。兄以弟得坏名为忧，弟以兄得好名为快。兄不能使弟尽道得令名，是兄之罪；弟不能使兄尽道得令名，是弟之罪。若各各如此存心，则亿万年无纤芥之嫌矣。

至于家塾读书之说，我亦知其甚难，曾与九弟面谈及数十次矣。但四弟前次来书，言欲找馆出外教书。兄意教馆之荒功误事，较之家塾为尤甚。与其出而教馆，不如静坐家塾。若云一出家塾便有明师益友，则我境之所谓明师益友者，我皆知之，且已夙夜熟筹之矣。惟汪觉庵师及阳沧溟先生，是兄意中所信为可师者。然衡阳风俗，只有冬学要紧，自五月以后，师弟皆奉行故事而已。同学之人，类皆庸鄙无志者，又最好汕笑人。其笑法不一，总之不离乎轻薄而已。四弟若到衡阳去，必以翰林之弟相笑，薄俗可恶。乡间无朋友，实是第一恨事。不惟无益，且大有损。习俗染人，所谓与鲍鱼处，亦与之俱化也。兄尝与九弟道及：谓衡阳不可以读书，涟滨不可以读书，为损友太多故也。今四弟意必从觉庵师游，则千万听兄嘱咐，但取明师之益，无受损友之损也。

接到此信，立即率厚二到觉庵师处受业。其束修，今年谨具钱十挂。兄于八月准付回，不至累及家中。非不欲从丰，实不能耳。兄所最虑者，同学之人无志嬉游，端节以后放散不事事，恐弟与厚二效尤耳。

切戒切戒。凡从师必久而后可以获益。四弟与季弟今年从觉庵师，若地方相安，则明年仍可从游；若一年换一处，是即无恒者，见异思迁也，欲求长进难矣。

此以上答四弟信之大略也。

六弟之信，乃一篇绝妙古文。排界似昌黎，拗很似半山。予论古文，总须有倔强不驯之气，愈拗愈深之意。故于太史公外，独取昌黎、半山两家。论诗亦取傲兀不群者，论字亦然。每蓄此意，而不轻谈。近得何子贞意见极相合，偶谈一二句，两人相视而笑。不知六弟乃生成有此一枝妙笔。往时见弟文，亦无大奇特者。今观此信，然后知吾弟真不羁才也。欢喜无极，欢喜无极！凡兄所有志而力不能为者，吾弟皆可为之矣。

信中言兄与诸君子讲学，恐其渐成朋党。所见甚是。然弟尽可放心。兄最怕标榜，常存暗然尚纲之意，断不至有所谓门户自表者也。信中言四弟浮躁不虚心，亦切中四弟之病。四弟当视为良友药石之言。

信中又有荒唐已久，甚无纪律二语。此甚不是。臣子于君亲，但当称扬善美，不可道及过错；但当谏亲于道，不可疵议细节。兄从前常犯此大恶，但尚是腹诽，未曾形之笔墨。如今思之，不孝孰大乎是？常与阳牧云并九弟言及之，以后愿与诸弟痛惩此大罪。六弟接到此信，立即至父亲前磕头，并代我磕头请罪。

信中又言弟之牢骚，非小人之热中，乃志士之惜阴。读至此，不胜惘然，恨不得生两翅忽飞到家，将老弟劝慰一番，纵谈数日乃快。然向使诸弟已入学，则谣言必谓学院做情。众口铍金，何从辨起！所谓塞翁失马，安知非福。科名迟早，实有前定。虽惜阴念切，正不必以虚名萦怀耳。

来信言看《礼记》疏一本半，浩浩茫茫，苦无所得，今已尽弃，不敢复阅，现读朱子《纲目》，日十余叶云云。说到此处，兄不胜悔恨。恨早岁不曾用功，如今虽欲教弟，瞽盲者而欲导人之迷途也，求其不误难矣。然兄最好苦思，又得诸益友相质证，于读书之道，有必不可易者数端：穷经必专一经，不可泛鹜。读经以研寻义理为本，考据名物为末。读经有一耐字诀。一句不通，不看下句；今日不通，明日再读；今年不精，明年再读。此所谓耐也。读史之法，莫妙于设身处地。每看一处，如我便与当时之人酬酢笑语于其间。不必人人皆能记也，但记一人，则恍如接其人；不必事事皆能记也，但记一事，则恍如亲其事。经以穷理，史以考事。舍此二者，更别无学矣。

盖自西汉以至于今，识字之儒约有三途：曰义理之学，曰考据之学，曰词章之学。各执一途，互相诋毁。兄之私意，以为义理之学最大。义理明则躬行有要而经济有本。词章之学，亦所以发挥义理者也。考据之学，吾无取焉矣。此三途者，皆从事经史，各有门径。吾以为欲读经史，但当研究义理，则心一而不纷。是故经则专守一经，史则专熟一代，读经史则专主义理。此皆守约之道，确乎不可易者也。

若夫经史而外，诸子百家，汗牛充栋。或欲阅之，但当读一人之专集，不当东翻西阅。如读昌黎集，则目之所见，耳之所闻，无非昌黎。以为天地间，除昌黎集而外，更无别书也。此一集未读完，断断不换他集，亦专字诀也。六弟谨记之。

读经、读史、读专集、讲义理之学，此有志者万不可易者也。圣人复起，必从吾言矣。然此亦仅为有大志者言之。若夫为科名之学，则要读四书文，读试帖、律赋，头绪甚多。四弟、九弟、厚二弟天质较低，必须为科名之学。六弟既有大志，虽不科名可也，但当守一耐字诀耳。观来信言读《礼记》疏似不能耐者，勉之勉之。

兄少时天分不甚低，厥后日与庸鄙者处，全无所闻，穷被茅塞久矣。及乙未到京后，始有志学诗古文并作字之法，亦泊无良友。近年得一二良友，知有所谓经学者、经济者，有所谓躬行实践者，始知范、韩可学而至也，马迁、韩愈亦可学而至也，程、朱亦可学而至也。慨然思尽涤前日之污，以为更生之人，以为父母之肖子，以为诸弟之先导。无如体气本弱，耳鸣不止，稍稍用心，便觉劳顿。每自思念，天既限我以不能苦思，是天下不欲成我之学问也。故近日以来，意颇疏散。计今年若可得一差，能还一切旧债，则将归田养亲，不复恋恋于利禄矣。粗识几字，不敢为非以蹈大戾已耳，不复有志于先哲矣。吾人第一以保身为要。我所以无大志愿者，恐用心太过，足以疲神也。诸弟亦须时时以保身为念，无忽无忽。

来信又驳我前书，谓必须博雅有才，而后可明理有用。所见极是。兄前书之意，盖以躬行为重，即子夏“贤贤易色”章之意。以为博雅者不足贵，惟明理者乃有用，特其立论过激耳。六弟信中之意，以为不博雅多闻，安能明理有用？立论极精，但弟须力行之，不可徒与兄辩驳见长耳。

来信又言四弟与季弟从游觉庵师，六弟、九弟仍来京中，或肄业城南云云。兄之欲得老弟共住京中也，其情如孤雁之求曹也。自九弟辛丑秋思归，兄百计挽留，九弟当能言之。及至去秋决计南归，兄实无可如何，只得听其自便。若九弟今年复来，则一岁之内，忽去忽来，不特堂

上诸大人不肯，即旁观亦且笑我兄弟轻举妄动。且两弟同来，途费须得八十金，此时实难措办。弟云能自为计，则兄窃不信。曹西垣去冬已到京，郭云仙明年始起程，目下亦无好伴。惟城南肄业之说，则甚为得计。兄于二月间准付银二十两至金竺虔家，以为六弟、九弟省城读书之用。竺虔于二月起身南旋，其银四月初可到。

弟接到此信，立即下省肄业。省城中兄相好的如郭云仙、凌笛舟、孙芝房，皆在别处坐书院。贺蔗农、俞岱青、陈尧农、陈庆覃诸先生皆官场中人，不能伏案用功矣。惟闻有丁君者，名叙中，号秩臣，长沙廪生。学问切实，践履笃诚。兄虽未曾见面，而稔知其可师。凡与我相好者，皆极力称道丁君。两弟到省，先到城南住斋，立即去拜丁君，托陈季牧为介绍。执贽受业。凡人必有师；若无师，则严惮之心不生。既以丁君为师，此外择友则慎之又慎。昌黎曰：“善不吾与，吾强与之附；不善不吾恶，吾强与之拒。”一生之成败，皆关乎朋友之贤否，不可不慎也。

来信以进京为上策，以肄业城南为次策。兄非不欲从上策，因九弟去来太速，不好写信禀堂上。不特九弟形迹矛盾，即我禀堂上亦必自相矛盾也。又目下实难办途费。六弟言能自为计，亦未历甘苦之言耳。若我今年能得一差，则两弟今冬与朱瞿山同来甚好。目前且从次策。如六弟不以为然，则再写信来商议可也。此答六弟信之大略也。

九弟之信，写家事详细，惜话说太短。兄则每每太长，以后截长补短为妙。尧阶若有大事，诸弟随去一人帮他几天。牧云接我长信，何以全无回信？毋乃嫌我话太直乎？扶乩之事，全不足信。九弟总须立志读书，不必想及此等事。季弟一切皆须听诸兄话。此次折弁走甚急，不暇抄日记本。余容后告。

冯树堂闻弟将到省城，写一荐条，荐两朋友。弟留心访之可也。

## 二月十九日

男国藩跪禀父母亲大人万福金安：

正月十七日，男发第一号家信，内呈堂上信三页，复诸弟信九页，教四弟与厚二从汪党庵师，六弟、九弟到省从丁秩臣，谅已收到。二月十六日接到家信第一号，系新正初三交彭山记者，敬悉一切。

去年十二月十一，祖父大人忽患肠风，赖神灵默佑，得以速痊，然游子闻之，尚觉心悸。六弟生女，自是大喜。初八日恭逢寿筵，男不克在家庆祝，心尤依依。

诸弟在家不听教训，不甚发奋，男观诸弟来信，即已知之。盖诸弟之意，总不愿在家塾读书。自己亥年男在家时，诸弟即有此意，牢不可破。六弟欲从男进京，男因散馆去留未定，故比时未许。庚子年接家眷，即请弟等送，意欲弟等来京读书也。特以祖父母、父母在上，男不敢专擅，故但写诸弟，而不指定何人。迨九弟来京，其意颇遂，而四弟、六弟之意尚未遂也。年年株守家园，时有耽擱；大人又不能常在家教之；近地又无良友；考试又不利。兼此数者，佛郁难申，故四弟、六弟不免怨男，其可以怨男者有故。丁酉在家教弟，戚克厥爱，可怨一矣；己亥在家未尝教弟一字，可怨二矣；临进京不肯带六弟，可怨三矣；不为弟另择外傅，仅延丹阁叔教之，拂厥本意，可怨四矣；明知两弟不愿家居，而屡次信回，劝弟寂守家塾，可怨五矣。惟男有可怨者五端，故四弟、六弟难免内怀隐衷。前此含意不申，故从不写信与男。去腊来信甚长，则尽情吐露矣。

男接信时，又喜又惧。喜者，喜弟志气勃勃不可遏也；惧者，惧男再拂弟意，将伤和气矣。兄弟和，虽穷氓小户必兴；兄弟不和，虽世家宦族必败。男深知此理，故稟堂上各位大人俯从男等兄弟之请。男之意实以和睦兄弟为第一。

九弟前年欲归，男百般苦留，至去年则不复强留，亦恐拂弟意也。临别时，彼此恋恋，情深似海。故男自九弟去后，思之尤切，信之尤深。谓九弟纵不为科目中人，亦当为孝弟中人。兄弟人人如此，可以终身互相依倚，则虽不得禄位，亦何伤哉！

恐堂上大人接到男正月信必且惊而怪之，谓两弟到衡阳、两弟到省，何其不知艰苦，擅自专命？殊不知男为兄弟和好起见，故复续陈一切；并恐大人未见四弟、六弟来信，故封还附呈。总愿堂上六位大人俯从男等三人之请而已。

伏读手谕，谓男教弟宜明言责之，不宜琐琐告以阅历工夫。男目忆连年教弟之信不下数万字，或明责，或婉劝，或博称，或约指，知无不言，总之尽心竭力而已。

男妇孙男女身体皆平安，伏乞放心。

男 谨 奏

## 三月十九日

诸位老弟足下：

正月间曾寄一信与诸弟，想已收到。二月发家信时甚匆忙，故无信与弟。

三月初六已刻，奉上谕于初十日大考翰詹。余心甚着急，缘写作俱生，恐不能完卷。不图十三日早见等第单，余名次二等第一。遂得仰荷天恩，赏擢不次，以翰林院侍讲升用。格外之恩，非常之荣，将来何以报称！惟有时时惶悚，思有补于万一而已。

兹因金竺虔南旋之便，付回五品补服四付、水晶顶二品、阿胶二封、鹿胶二封、母亲耳环一双。竺虔到省时，老弟照单查收。阿胶系毛寄云所赠，最为难得之物，家中须慎重用之。

竺虔曾借余银四十两，言定到省即还。其银以二十二两为六弟、九弟读书省城之资，以四两为买书笔之资，以六两为四弟、季弟衡阳从师束修之资，以四两为买漆之费——即每岁漆一次之谓也，以四两为欧阳太岳母奠金。贤弟接到银后，各项照数分用可也。此次竺虔到家，大约在五月节后，故一切不详写。待折差来时，另写一详明信付回，大约四月半可到。贤弟在省如有欠用之物，可写信到京，要我付回。

另付回大考名次及升降一单照收。余不具述。

兄国藩手草

## 三月二十三日

孙男国藩跪禀祖父母大人万福金安：

二月十九日，孙发第二号家信。三月十九日发第三号，交金竺虔，想必五月中始可到省。孙以下阖家皆平安。

三月初六日奉上谕，于初十日大考翰詹，在圆明园正大光明殿考试。孙初闻之心甚惊恐，盖久不作赋，字亦生疏。向来大考，大约六年一次。此次自己亥岁二月大考，到今仅满四年，万不料有此一举。故同人闻命下之时无不惶悚。孙与陈岱云等在园同寓。初十日卯刻进场，酉正出场。题目另纸敬录，诗赋亦另誊出。通共翰詹一百二十七人，告病不入场者三人，邵灿，己亥湖南主考。锡麟，江皋来，安徽人。病愈仍须补考。在殿上搜出夹带比交刑部治罪者一人，名如山。戊戌同年。其余皆整齐完场。十一日皇上亲阅卷一日。十二日钦派阅卷大臣七人，阅

毕拟定名次进呈。皇上钦定一等五名，二等五十五名，三等五十六名，四等七名。孙蒙皇上天恩，拔取二等第一名。湖南六翰林，二等四人，三等二人，另有全单。十四日引见，共升官者十一人，记名候升者五人，赏级者十九人。升官者不赏级。孙蒙皇上格外天恩，升授翰林院侍讲。十七日谢恩。现在尚未补缺，有缺出即应孙补。其他升降赏赉，另有全单。湖南以大考升官者，从前雍正二年。惟陈文肃公名大受，乾隆朝宰相。一等第一以编修升侍读，近来道光十三年。胡云阁先生二等第四以学士升少詹，并孙三人而已。孙名次不如陈文肃之高，而升官与之同。此皇上破格之恩也。孙学问肤浅，见识庸鄙，受君父之厚恩，蒙祖宗之德荫，将来何以为报！惟当竭力尽忠而已。

金竺虔于昨二十一日回省，孙托带五品补服四付、水晶顶戴二座、阿胶一斤半、鹿胶一斤、耳环一双。外竺虔借银五十两，即以付回。昨在竺虔处寄第三号信，信面信里皆写银四十两。发信后渠又借去十两，故前后二信不符。竺虔于五月半可到省，若六弟、九弟在省，则可面交；若无人在省，则家中专人去取，或诸弟有高兴到省者亦妙。今年考差大约在五月中旬，孙拟于四月半下园用功。

孙妇现已有喜，约七月可分娩。曾孙兄妹并如常。寓中今年添用一老妈，用度较去年略多。此次升官，约多用银百两。东扯西借，尚不窘迫。不知有邯郸报来家否？若其已来，开销不可太多。孙十四引见，渠若于二十八以前报到，是真邯郸报，赏银四五十两可也。若至四月始报，是省城伪报，赏数两足矣。但家中景况不审何如，伏愿示悉为幸。

孙瞻鳳

## 四月二十日

男国藩跪禀父母亲大人万福金安：

三月二十日，男发第三号信，二十四日发第四号信，谅已收到。托金竺虔带回之物，谅已照信收到。男及男妇孙男女皆平安如常。男因身子不甚壮健，恐今年得差劳苦，故现服补药，预为调养。已作丸药二单。考差尚无信，大约在五月初旬。

四月初四，御史陈公上折直谏。此近日所仅见，朝臣仰之如景星庆云。兹将折稿付回。三月底盘查国库，不对数银九百二十五万两。历任库官及查库御史，皆革职分赔，查库王大臣亦摊赔。此从来未有之巨案也。湖南查库御史有石承藻、刘梦兰二人，查库大臣有周系英、刘权之、何凌汉三人。已故者，令子孙分赔。何家须赔银三千两。



同乡唐诗甫李杜选陕西靖边县，于四月二十一出京。王翰城选山西冀宁州知州，于五月底可出京。余俱如故。

男二月接信后，至今望信甚切。

男谨禀

## 六月初六日

孙男国藩跪禀祖父母大人万福金安：

四月二十日，孙发第五号家信，不知到否？五月二十九接到家中第二号信，系三月初一发。六月初二日接第三号信，系四月十八发的。具悉家中老幼平安，百事顺遂，欣幸之至。

六弟下省读书，从其所愿，情意既畅，志气必奋，将来必大有成，可为叔父预贺。祖父去岁曾赐孙手书，今年又已半年，不知目力何如？下次信来，仍求亲笔书数语示孙。大考喜信，不知开销报人钱若干？

孙自今年来身体不甚好，幸加意保养，得以无恙。大考以后全未用功。五月初六日考差，孙妥帖完卷，虽无毛病，亦无好处。首题“使诸大夫国人皆有所矜式”，经题“天下有道，则行有枝叶”，诗题“赋得角黍”得“经”字。共二百四十一人进场。初八日派阅卷大臣十二人，每人分卷二十本。传闻取七本，不取者十三本。弥封未拆，故阅卷者亦不知所取何人，所黜何人。取与不取一概进呈，恭候钦定。外间谣言某人第一，某人未取，俱不足凭。总待放差后，方可略测端倪。亦有真第一而不得，有真未取而得差者，静以听之而已。同乡考差九人，皆妥当完卷。六月初一，放云南主考龚宝莲、辛丑榜眼。段大章，戊戌同年。贵州主考龙元儒、王桂。庚子湖南主考。

孙在京平安，孙妇及曾孙兄妹皆如常。前所付银，谅已到家。高丽参目前难寄，容当觅便寄回。六弟在城南，孙已有信托陈尧农先生。同乡官皆如旧。黄正斋坐粮船来，已于六月初三到京。

余容后禀。

## 六月初六日

温甫六弟左右：

五月二十九、六月初一连接弟三月初一、四月二十五、五月初一三次所发之信，并四书文二首，笔仗实实可爱。

信中有云，“于兄弟则直达其隐，父子祖孙间不得不曲致其情”，此数语有大道理。余之行事，每自以为至诚可质天地，何妨直情径行。昨接四弟信，始知家人天亲之地，亦有时须委曲以行之者。吾过矣，吾过矣。

香海为人最好，吾虽未与久居，而相知颇深，尔以兄事之可也。丁秩臣、王衡臣两君，吾皆未见，大约可为尔之师。或师之，或友之，在弟自为审择。若果威仪可则，淳实宏通，师之可也；若仅博雅能文，友之可也。或师或友，皆宜常存敬畏之心，不宜视为等夷，渐至慢衰，则不复能受其益矣。

尔三月之信所定功课太多，多则必不能专，万万不可。后信言已向陈季牧借《史记》，此不可不熟看之书。尔既看《史记》，则断不可看他书。功课无一定呆法，但须专耳。余从前教诸弟，常限以功课。近来觉限人以课程，往往强人以所难，苟其不愿，虽日日遵照限程，亦复无益，故近来教弟但有一专字耳。专字之外，又有数语教弟，兹特将冷金笔写出。弟可贴之座右，时时省览，并抄一付寄家中三弟。

香海言时文须学《东莱博议》，甚是。尔先须过笔圈点一遍，然后自选几篇读熟，即不读亦可。无论何书，总须从首至尾通看一遍。不然，乱翻几叶，摘抄几篇，而此书之大局精处茫然不知也。

学诗从《中州集》入亦好。然吾意读总集，不如读专集。此事人人意见各殊，嗜好不同。吾之嗜好，于五古则喜读《文选》，于七古则喜读昌黎集，于五律则喜读杜集，七律亦最喜杜诗，而苦不能步趋，故兼读元遗山集。吾作诗最短于七律，他体皆有心得；惜京都无人可与畅语者。尔要学诗，先须看一家集，不要东翻西阅。先须学一体，不可各体同学，盖明一体，则皆明也。凌笛舟最善为律诗，若在省，尔可就之求教。

习字临《千字文》亦可，但须有恒。每日临帖一百字，万万无间断，则数年必成书家矣。陈季牧最喜谈字，且深思善悟。吾见其寄岱云信，实能知写字之法，可爱可畏。尔可从之切磋。此等好学之友，愈多愈好。

来信要我寄诗回南。余今年身体不甚壮健，不能用心，故作诗绝少，仅作感春诗七古五章。慷慨悲歌，自谓不让陈卧子，而语太激烈，不敢示人。余则仅作应酬诗数首，了无可观。顷作寄贤弟诗二首，弟观之以为何如？京笔现在无便可寄，总在秋间寄回。若无笔写，暂向陈季牧借一支，后日还他可也。

兄国藩手草

## 六月初六日

澄侯、叔淳、季洪三弟左右：

五月底连接三月一日、四月十八两次所发家信。

四弟之信，具见真性情，有困心横虑、郁积思通之象。此事断不可求速效。求速效必助长，非徒无益，而又害之。只要日积月累，如愚公之移山，终久必有豁然贯通之候，愈欲速则愈顿蔽矣。

来书往往词不达意，我能深谅其苦。今人都将字字看错了。若细读“贤贤易色”一章，则绝大学问即在家庭日用之间。于孝弟两字上尽一分便是分学，尽十分便是十分学。今人读书皆为科名起见，于孝弟伦纪之大，反似与书不相关。殊不知书上所载的，作文时所代圣贤说的，无非要明白这个道理。若果事事做得，即笔下说不出何妨！若事事不能做，并有亏于伦纪之大，即文章说得好，亦只算个名教中之罪人。贤弟性情真挚，而短于诗文，何不日日在孝弟两字上用功？《曲礼》、《内则》所说的，句句依他做出，务使祖父母、父母、叔父母无一时不安乐，无一时不顺适；下而兄弟妻子皆蔼然有恩，秩然有序，此真大学问也。若诗文不好，此小事，不足计；即好极，亦不值一钱。不知贤弟肯听此语否？

科名之所以可贵者，谓其足以承堂上之欢也，谓禄仕可以养亲也。今吾已得之矣，即使诸弟不得，亦可以承欢，可以养亲，何必兄弟尽得哉？贤弟若细思此理，但于孝弟上用功，不于诗文上用功，则诗文不期进而自进矣。

凡作字总须得势，务使一笔可以走千里。三弟之字，笔笔无势，是以局促不能远纵。去年曾与九弟谈及，想近来已忘之矣。

九弟欲看余白折，余所写折子甚少，故不付。大铜尺已经寻得。付笔回南，目前实无妙便，俟秋间定当付还。

去年所寄牧云信未寄去，但其信前半劝牧云用功，后半劝凌云莫看地，实有道理。九弟可将其信抄一遍仍交与他，但将纺棉花一段删去可

## 曾国藩家书

也。地仙为主葬，害人一家，丧良心不少，未有不家败人亡者，不可不力阻凌云也。至于纺棉花之说，如直隶之三河县、灵寿县，无论贫富男妇，人人纺布为生，如我境之耕田为生也。江南之妇人耕田，犹三河之男人纺布也。湖南如浏阳之夏布、祁阳之葛布、宜昌之棉布，皆无论贫富男妇，人人依以为业。此并不足为骇异也。第风俗难以遽变，必至骇人听闻，不如删去一段为妙。书不尽言。

兄国藩手草

## 曾國藩家書卷之二

道光二十四年甲辰歲

正月二十五日

男國藩跪稟父母親大人萬福金安：

男在四川，于十一月二十日還京。彼时无折弁回南，至十二月十六始發家信。十二月除夕又發一信，交曾受恬處。受恬名興仁，善化丙子舉人，任江西分宜縣知縣。十年進京引見，正月初四出都，迂道由長沙回江西。男與心齋各借銀壹百兩與渠作途費。男又托渠帶銀三百兩，系藍布密縫三包。鹿膠二斤半、阿膠二斤共一包，高麗參半斤一包，荊七銀四十兩一包。又信一封，交陳宅，托其代為收下，面交六弟、九弟。大約二月下旬可到省。受恬所借之銀百兩，若在省能還更好。若不能還，亦不必急索。俟渠到江西必還，只訂定妥交陳宅，毋寄不可靠之人耳。若六月尚未收到，則寫信寄京。男作信至江西催取也。

陳岱雲之賢配于正月八日仙逝。去年岱雲病時，曾經割臂療疾。十二月初二日生一子，小大平安。至除夕得氣痛病，正月初三即服人參，初八長逝。岱雲哀傷異常，男代為經理一切。二十三日開吊，男贖銀十六兩。陳宅共收贖儀三百二十餘兩。

二十二夜，男接家信，得悉一切，欣喜之至。蕙妹移寓竹山灣自好，但不知作何局面。待聘妹夫恐不諳耕作事，不宜寫田作也。祖父大人七旬晉一大慶，不知家中開筵否？男在京僅一席，以去年慶壽故也。祖母大人小恙旋愈，甚喜。以後斷不可上樓，不可理家事。叔父大人之病，不知究竟何如？下次求詳書示知。

男前次信回，言付銀千兩至家，以六百為家中完債及零用之費，以四百為饋贈戚族之用。昨由受恬處寄歸四百，即分送各戚族可也。其餘六百，朱嘯山處既兌錢百三十千，即除去一百兩，四月間再付五百回家，與同鄉公車帶回，不同縣者亦可。男自有斟酌也。

男自四川歸後，身體發胖，精神甚好。夜間不出門。雖未畜車，而每出必以車，無一處徒步。保養之法，大人盡可放心。男婦及孫男女皆平安。陳岱雲十二月所生之子，亦雇乳媽在男宅抚养。其女在鄭小山家

抚养。本家心寄，男待他甚好，渠亦凡事必问男。所作诗赋，男知无不言。冯树堂于正月十六来男寓住。目前渠自用功，男尽心与之讲究一切。会试后即命孙儿上学，每月修金四两。郭筠仙进京，亦在男处住，现尚未到。四川门生已到四人。二月间即考国子监学正。今年正月初三下诏举行恩科。明年皇太后万寿，定有覃恩，可请诰封。此男所最为切望者也。去年因科场舞弊，皇上命部议定：以后新举人到京，皆于二月十五复试；倘有文理纰缪者，分别革职、停科等罚。甚可惧也。

在京一切，男自知慎。余容续陈。

男谨禀

## 正月二十六日

四位老弟左右：

正月二十三日接到诸弟信，系腊月十六在省城发，不胜欣慰。四弟女许朱良四姻伯之孙，兰姊女许贺孝七之子，人家甚好，可贺。惟蕙妹家颇可虑，亦家运也。

六弟、九弟今年仍读书省城，罗罗山兄处附课甚好。既在此附课，则不必送诗文与他处看，以明有所专主也。凡事皆贵专。求师不专，则受益也不入；求友不专，则博爱而不亲。心有所专宗，而博观他途以扩其识，亦无不可。无所专宗，而见异思迁，此眩彼夺，则大不可。罗山兄甚为刘霞仙、欧晓岑所推服，有杨生任光者，亦能道其梗概，则其可为师表明矣。惜吾不得常与居游也。在省用钱，可在家中支用银三十两则够二弟一年之用矣，亦在吾寄一千两之内，予不能别寄与弟也。

我去年十一月二十日到京，彼时无折差回南，至十二月中旬始发信，乃两弟之信骂我糊涂。何不检点至此！赵子舟与我同行，曾无一信，其糊涂更何如耶？余自去年五月底至腊月初未尝接一家信。我在蜀可写信由京寄家，岂家中信不可由京寄蜀耶？又将骂何人糊涂耶！凡动笔不可不检点。

陈尧农先生信至今未接到。黄仙垣未到京。家中付物，难于费心，以后一切布线等物，均不必付。九弟与郑、陈、冯、曹四信，写作俱佳，可喜之至。六弟与我信字太草率，此关乎一生福分，故不能不告汝也。四弟写信语太不圆，由于天分，吾不复责。余容续布，诸惟心照。

兄国藩手具

## 二月十四日

四位老弟左右：

正月二十六日发第一号家信。二月初十日黄仙槿来京，接到家信，备悉一切，欣慰之至。所付诸物，已接脯肉一方、鹅肉一边、杂碎四件、布一包、烘笼二个，余皆彭雨苍带来。

朱啸山亦是日到，现与家心斋同居。系兄代伊觅得房子，距余寓甚近，不过一箭远耳。郭筠仙现尚未到，余已为赁本胡同关帝庙房，使渠在庙中住，在余家火食。

冯树堂正月十六来余家住，拟会试后再行上学，因小儿春间怕冷故也。树堂于二月十三日考国子监学正，题“而耻恶衣恶食者”二句、“不以天下奉一人策”，共五百人入场。树堂写作俱佳，应可必得。

陈岱云于初六日移寓报国寺。其配之柩，亦停寺中。岱云哀伤异常，不可劝止，作祭文一篇三千余字。余为作墓志铭一首，不知陈宅已寄归否？余惟书寄也。

四川门生现已到二十余人。我县会试者，大约可十五人。甲午同年，大约可二十五人。然有求于余者，颇不乏人。

余今年应酬更繁。幸身体大好，迥不似从前光景。面胖而润，较前稍白矣。耳鸣亦好十之七八，尚有微根未断，不过月余可全好也。内人及儿子两女儿皆好。陈氏小儿在余家乳养者亦好。

六弟、九弟在城南读书，得罗罗山为之师甚妙。然城南课似亦宜应，不应恐山长不以为然也。所作诗文及功课，望日内付来。四弟、季弟从觉庵师读自佳。四弟年已渐长，须每日看史书十叶，无论能得科名与否，总可以稍长见识。季弟每日亦须看史，然温经更要紧，今年不必急急赴试也。

曾受恬自京南归，余寄回银四百两、高丽参半斤、鹿胶阿胶共五斤、闹墨二十部，不知家中已收到否？尚有衣一箱、银五百两，俟公车南归带回。

同乡汤海秋与杜兰溪，子女已过门而废婚，系汤家女儿及父母并不是。余俱如故。

周介夫鸣鸾放安徽庐风道，其女儿欲许字纪泽。常南陔大淳升安徽臬台，其孙女欲许字纪泽。余俱不甚愿。

李仙九师为安徽学政后，升吏部右侍郎。廖老师名鸿荃，去年放钦差至河南塞河决，至今未成功，昨革职，赏七品顶戴，在河工效力赎罪。黄河大工不成，实国家大可忧虑之事。如何如何！余容后陈。

国藩手具

### 三月初十日

孙国藩跪禀祖父母大人万福金安：

二月十四，孙发第二号信，不知已收到否？孙身体平安，孙妇及曾孙男女皆好。孙去年腊月十八曾寄信到家，言寄家银一千两，以六百为家中还债之用。以四百为馈赠亲族之用，其分赠数目，另载寄弟信中，以明不敢自专之义也。后接家信，知兑嘴山百三十千，则此银已亏空一百矣。顷闻曾受恬丁艰，其借银恐难遽完，则又亏空一百矣。所存仅八百，而家中旧债尚多，馈赠亲族之银，系孙一人愚见，不知祖父母、父亲、叔父以为可行否？伏乞裁夺。

孙所以汲汲馈赠者，盖有二故。一则我家气运太盛，不可不格外小心，以为持盈保泰之道。旧债尽清，则好处太全，恐盈极生亏；留债不清，则好中不足，亦处乐之法也。二则各亲戚家皆贫，而年老者，今不略为扶助，则他日不知何如。自孙入都后，如彭清舅曾祖、彭王姑母、欧阳岳祖母、江通十舅，已死数人矣。再过数年，则意中所欲馈赠之人，正不保何若矣！家中之债，今虽不还，后尚可还。赠人之举，今若不为，后必悔之。

此二者，孙之愚见如此。然孙少不更事，未能远谋，一切求祖父、叔父作主，孙断不敢擅自专权。其银待欧阳小岑南归，孙寄一大箱，衣物银两概寄菜处，孙认一半车钱。彼时再有信回。

孙谨禀

### 三月初十日

六弟、九弟左右：

三月八日接到两弟二月十五所发信，信面载第二号，则知第一号信未到。比去提塘追索，渠云并未到京，恐尚在省未发也。以后信宜交提塘挂号，不宜交折差手，反致差错。

来书言自去年五月至十二月，计共发信七八次。兄到京后，家人仅检出二次：一系五月二十二日发，一系十月十六日发。其余皆不见。远信难达，往往似此。

腊月信有糊涂字样，亦情之不能禁者。盖望眼欲穿之时，疑信杂生，怨怒交至。惟骨肉之情愈挚，则望之愈殷；望之愈殷，则责之愈切。度日如年，居室如圉墙，望好音如万金之获，闻谣言如风声鹤唳；又加以堂上之愚思，重以严寒之逼人。其不能不出怨言以相胥者，情之至也。然为兄者观此二字，则虽曲谅其情，亦不能不责之；非责其情，



责其字句之不检点耳。何芥蒂之有哉！

至于回京时有折弁南还，则兄实不知。当到家之际，门几如市，诸务繁剧，吾弟可想而知。兄意谓家中接榜后所发一信，则万事可以放心矣，岂尚有悬挂者哉？来书辨论详明，兄今不复辨，盖彼此之心虽隔万里，而赤诚不啻目见，本无纤毫之疑，何必因二字而多费唇舌！以后来信，万万不必提起可也。

所寄银两，以四百为馈赠族戚之用。来书云：“非有未经审量之处，即似稍有近名之心。”此二语推勘入微，兄不能不内省者也。又云：“所识穷乏得我而为之，抑逆知家中必不为此慷慨，而姑为是言。”斯二语者，毋亦拟阿兄不伦乎？兄虽不肖，亦何至鄙且奸至于如此之甚！所以为此者，盖族戚中有断不可不一援手之人，而其余则牵连而及。

兄己亥年至外家，见大舅陶穴而居，种菜而食，为惻然者久之。通十舅送我，谓曰：“外甥做外官，则阿舅来作烧火夫也。”南五舅送至长沙，握手曰：“明年送外甥妇来京。”余曰：“京城苦，舅勿来。”舅曰：“然。然吾终寻汝任所也。”言已泣下。兄念母舅皆已年高，饥寒之况可想。而十舅且死矣，及今不一援手，则大舅、五舅者又能沾我辈之余润乎？十舅虽死，兄意犹当恤其妻子；且从俗为之延僧，如所谓道场者，以慰逝者之魂而尽吾不忍死其舅之心。我弟我弟，以为可乎？

兰姊、蕙妹家运皆舛。兄好为识微之妄谈，谓姊犹可支撑，蕙妹再过数年则不能自存活矣。同胞之爱，纵彼无觖望，吾能不视如一家一身乎？

欧阳沧溟先生夙债甚多，其家之苦况，又有非吾家可比者。故其母丧，不能稍隆厥礼。岳母送余时，亦涕泣而道。兄赠之独丰，则犹徇世俗之见也。

楚善叔为债主逼迫，抢地无门，二伯祖母尝为余泣言之。又泣告子植曰：“八儿夜来泪注，地湿围径五尺也。”而田货于我家，价既不昂，事又多磨。尝贻书于我，备陈吞声饮泣之状。此子植所亲见，兄弟尝歉歎久之。

丹闾叔与宝田表叔昔与同砚席十年，岂意今日云泥隔绝至此！知其窘迫难堪之时，必有饮恨于实命之不犹者矣。丹闾戊戌年曾以钱八千贺我。贤弟谅其景况，岂易办八千者乎？以为喜极，固可感也；以为钓饵，则亦可怜也。

任尊叔见我得官，其欢喜出于至诚，亦可思也。

竟希公一项，当甲午年抽公项三十二千为贺礼，渠两房颇不悦。祖父曰：“待藩孙得官，第一件先复竟希公项。”此语言之已熟，特各堂叔不敢反唇相稽耳。同为竟希公之嗣，而菀枯悬殊若此。设造物者一旦移其菀于彼二房，而移其枯于我房，则无论六百，即六两亦安可得耶？

六弟、九弟之岳家皆寡妇孤儿，槁饿无策。我家不拯之，则孰拯之者？我家少八两，未必遂为债户逼取；渠得八两，则举室回春。贤弟试设身处地而知其如救水火也。

彭王姑待我甚厚，晚年家贫，见我辄泣。兹王姑已没，故赠宜仁王姑丈，亦不忍以死视王姑之意也。腾七则姑之子，与我同孩提长养。各舅祖则推祖母之爱而及也。彭舅曾祖则推祖父之爱而及也。陈本七、邓升六二先生，则因觉庵师而牵连及之者也。

其余馈赠之人，非实有不忍于心者，则皆因人而及。非敢有意讨好沽名钓誉，又安敢以己之豪爽形祖父之刻啬，为此奸鄙之心之行也哉？

诸弟生我十年以后，见诸戚族家皆穷，而我家尚好，以为本分如此耳，而不知其初皆与我家同盛者也。兄悉见其盛时气象，而今日零落如此，则大难为情矣。凡盛衰在气象，气象盛则虽饥亦乐，气象衰则虽饱亦忧。今我家方全盛之时，而贤弟以区区数百金为极少，不足比数。设以贤弟处楚善、宽五之地，或处葛、熊二家之地，贤弟能一日以安乎？凡遇之丰啬顺舛，有数存焉，虽圣人不能自为主张。天可使吾今日处丰亨之境，即可使吾明日处楚善、宽五之境。君子之处顺境，兢兢焉常觉天之过厚于我，我当以所余补人之不足。君子之处蓄境，亦兢兢焉常觉天之厚于我，非果厚也，以为较之尤蓄者，而我同已厚矣。古人所谓境地须看不如我者，此之谓也。

来书有“区区千金”四字，其毋乃不知天之已厚于我兄弟乎？兄尝观《易》之道，察盈虚消息之理，而知人不可无缺陷也。日中则昃，月盈则亏，天有孤虚，地阙东南，未有常全而不缺者。剥也者，复之几也，君子以为可喜也。夬也者，姤之渐也，君子以为可危也。是故既吉矣，则由吉以趋于凶；既凶矣，则由悔以趋于吉。君子但知有悔耳。悔者，所以守其缺而不敢求全也。小人则时时求全；全者既得，而吝与凶随之矣。众人常缺，而一人常全，天道屈伸之故，岂若是不公平乎？今吾家椿萱重庆，兄弟无故，京师无比美者，亦可谓至万全者矣。故兄但求缺陷，名所居曰求缺斋。盖求缺于他事，而求全于堂上。此则区区之至愿也。家中旧债不能悉清，堂上衣服不能多办，诸弟所需不能一给，亦求缺陷之义也。内人不明此意，时时欲置办衣物，兄亦时时教之。今幸未全备，待其全时，则吝与凶随之矣。此最可畏者也。贤弟夫妇诉怨于房闼之间，此是缺陷，吾弟当思所以弥其缺而不可尽给其求，盖尽给则渐几于全矣。吾弟聪明绝人，将来见道有得，必且赴余之言也。

至于家中欠债，则兄实有不尽知者。去年二月十六接父亲正月四日手谕，中云：“年事一切，银钱敷用有余。上年所借头息钱，均已完清。家中极为顺遂，故不窘迫。”父亲所言如此，兄亦不甚了了。不知所完究系何项？未完尚有何项？兄所知者，仅江孝八外祖百两、朱岚曜五十

两而已。其余如来阳本家之帐，则兄由京寄还，不与家中相干。甲午冬借添梓坪钱五十千，尚不知作何还法，正拟此次稟问祖父。此外帐目，兄实不知。下次信来，务望详开一单，使兄得渐次筹划。如弟所云家中欠债千余金，若兄早知之，亦断不肯以四百赠人矣。如今信去已阅三月，馈赠族戚之语，不知乡党已传播否？若已传播而实不至，则祖父受膏吝之名，我加一信，亦难免二三其德之诮。此兄读两弟来书，所为躊躇而无策者也。兹特呈堂上一稟，依九弟之言书之。谓朱嘯山、曾受恬处二百落空，非初意所料。其馈赠之项，听祖父、叔父裁夺。或以二百为赠，或每人减半亦可；或家中十分窘迫，即不赠亦可。戚族来者，家中即以此信示之，庶不悖于过则归己之义。贤弟观之以为何如也？

若祖父、叔父以前信为是，慨然赠之，则此稟不必付归，兄另有安信付去。恐堂上慷慨持赠，反因接吾书而尼沮。凡仁心之发，必一鼓作气，尽吾力之所能为。稍有转念，则疑心生，私心亦生。疑心生则计较多，而出纳吝矣；私心生则好恶偏，而轻重乖矣。使家中慷慨乐与，则慎无以吾书生堂上之转念也。使堂上无转念，则此举也，阿兄发之，堂上成之，无论其为是为非，诸弟置之不论可耳。向使去年得云贵、广西等省苦差，并无一钱寄家，家中亦不能责我也。

九弟来书，楷法佳妙，余爱之不忍释手。起笔收笔皆藏锋，无一笔撒手乱丢，所谓有往皆复也。想与陈季牧讲究，彼此各有心得，可喜可喜。然吾所教尔者，尚有二事焉。一曰换笔。古人每笔中间必有一换，如绳索然。第一股在上，一换则第二股在上，再换则第三股在上也。笔尖之着纸者仅少许耳。此少许者，吾当作四方铁笔用。起处东方在左，西方向右，一换则东方向右矣。笔尖无所谓方也，我心中常觉其方。一换而东，再换而北，三换而西，则笔尖四面有锋，不仅一面相向矣。二曰结字有法。结字之法无穷，但求胸有成竹耳。

六弟之信，文笔拗而劲，九弟文笔婉而达，将来皆必有成。但目下不知各看何书？万不可徒看考墨卷，汨没性灵。每日习字不必多，作百字可耳。读背诵之书不必多，十叶可耳。看涉猎之书不必多，亦十叶可耳。但一部未完，不可换他部，此万万不易之道。阿兄数千里外教尔，仅此一语耳。

罗罗山兄读书明大义，极所钦仰，惜不能会面畅谈。

余近来读书无所得，酬应之繁，日不暇给，实实可厌。惟古文各体诗，自觉有进境，将来此事当有成就；恨当世无韩愈、王安石一流人与我相质证耳。贤弟亦宜趁此时学为诗、古文，无论是否，且试拈笔为之。及今不作，将来年长，愈怕丑而不为矣。每月六课，不必其定作时文也。古文、诗、赋、四六无所不作，行之有常。将来百川分流，同归于海。则通一艺即通众艺，通于艺即通于道，初不分而二之也。此论虽

太高，然不能不为诸弟言之，使知大本大原，则心有定向，而不至于摇撼无着。虽当其应试之时，全无得失之见乱其意中，即其用力举业之时，亦于正业不相妨碍。诸弟试静心领略，亦可徐徐会悟也。

外附录《五箴》一首、《养身要言》一纸、《求阙斋课程》一纸，诗文不暇录，惟谅之。

兄国藩手草

五 箴并序，甲辰春作

少不自立，荏苒遂泊今兹。盖古人学成之年，而吾碌碌尚如斯也，不其戚矣！继是以往，人事日纷，德意日损，下流之赴，抑又可知。夫疾疾所以益智，逸豫所以亡身，仆以中材而履安顺，将欲刻苦而自振拔，谅哉其难之与！作《五箴》以自创云。

立志箴

煌煌先哲，彼不犹人。藐焉小子，亦父母之身。聪明福祿，予我者厚哉！弃天而佚，是及凶灾。积悔累于，其终也已。往者不可追，请从今始。荷道以躬，舆之以言。一息尚活，永矢弗援。

居敬箴

天地定位，二五胚胎。鼎焉作配，实曰三才。伊恪斋明，以凝女命。女之不庄，伐生戕性。谁人可慢？何事可弛？弛事者无成，慢人者反尔。纵彼不反，亦长吾骄。人则下女，天罚昭昭。

主静箴

斋宿日观，天鸡一鸣。万籁俱息，但闻钟声。后有毒蛇，前有猛虎。神定不慑，谁敢余侮？岂伊避人，日对三军。我虑则一，彼纷纷纷。驰骛半生，曾不自主。今其老矣，殆扰扰以终古。

谨言箴

巧语悦人，自扰其身。闲言送日，亦搅女神。解人不夸，夸者不解。道听途说，智笑愚骇。骇者终明，谓女实欺。笑者鄙女，虽矢犹疑。尤悔既丛，铭以自攻。铭而复蹈，嗟女既耄。

有恒箴

自吾识字，百历洎滋。二十有八载，则无一知。曩之所忻，阅时而鄙。故者既弛，新者旋徙。德业之不常，曰为物牵。尔之再食，曾未闻或愆。黍黍之增，久乃盈斗。天君司命，敢告马走。

养身要言癸卯入蜀道中作

一阳初动处，万物始生时。不藏怒焉，不宿怨焉。右仁所以养肝也。

内而整齐思虑，外而敬慎威仪。泰而不骄，威而不猛。右礼所以养心也。

饮食有节，起居有常。作事有恒，容止有定。右信所以养脾也。

扩然而大公，物来而顺应。裁之吾心而安，揆之天理而顺。右义所以养肺也。

心欲其定，气欲其定，神欲其定，体欲其定。右智所以养肾也。

求缺斋课程癸卯孟夏立

读熟读书十叶。看应看书十叶。习字一百。数息百人。记过隙影即日记。记茶余偶谈一则。右每日课

逢三日写回信。逢八日作诗、古文一艺。右月课

熟读书：《易经》、《诗经》、《史记》、《明史》、《屈子》、《庄子》、杜诗、韩文。应看书不具载。

## 四月二十二日

四位老弟左右：

前黄仙垣归，托带四川闾墨四十部，共二包，无家信。顷欧阳小岑归，托带大皮箱一口，内银五百十两、衣服一单，单存箱内。又长包一个，内袍褂料及毡子诸物，亦有单存包内，有家信数行。外又有寄贻仙信一件、书一包，共十套。不知仙垣、小岑二君到时，诸弟尚在省城否？

兹安化栗某庄同年献廷南还，又托带四川闾墨四十部，共一包。有一包系油纸封的，内装订闾墨二十部、彭王姑墓志铭一幅内业误叶、课误课、龙翰臣写散馆卷三开、自写白折一本试笔写的，故大小不匀。又布包鹿胶一包重三斤。又乡试录题名录共一包照收。并附大挑单一纸。

其进士题名录及散馆录随后交折差带回，统俟后信详述。

兄国藩手草

## 五月十二日

男国藩跪禀父亲母亲大人万福金安：

五月十一接到四月十三自省城所发信，具悉一切。

母亲齿痛，不知比从前略松否？现服何药？下次望季弟寄方来看。叔父之病至今未愈，想甚沉重，望将药方病症书明寄京。刘东屏医道甚精，然高云亭犹嫌其过于胆大，不知近日精进何如？务宜慎之又慎！

王率五荒唐如此，何以善其后？若使到京，男当严以束之，婉以劝之。明年会试后借公车南归，自然安置妥当，家中尽可放心；特恐其不到京耳。

本家受恬之银，男当写信去催。江西抚台系男戊戌座师，男可写信提及，亦不能言调剂之说。

## 曾国藩家书

常南陔之世兄，闻其宦家习气太重。孙男孙女尚幼，不必急于联婚。且男之意，儿女联姻，但求勤俭孝友之家，不愿与宦家结契联婚，不使子弟长奢惰之习。不知大人意见何如？望即日将常家女庚退去，托阳九婉言以谢。渠托买高丽参，因亲事不成，亦不便买。

本家道三兄弟托荐馆，男当代为留心。然分发湖南者，即使在京答应，未必到省果去找他，此亦不可靠者也。常南陔处，即由男写信回复。

前男送各戚族家银两，不知祖父、父亲、叔父之意云何？男之浅见，不送则家家不送，要送则家家全送；要减则每家减去一半，不减则家家不减。不然，口惠而实不至，亲族之间嫌怨丛生，将来衅生不测，反成仇讎。伏乞堂上审慎施行。百叩百叩。

男谨禀

五月十二日

四位老弟足下：

自三月十三日发信后，至今未寄一信。余于三月二十四日移寓前门内西边碾儿胡同，与城外消息不通。四月间到折差一次，余竟不知。追既知，而折差已去矣。惟四月十九欧阳小岑南归，余寄衣箱银物并信一件。四月二十四梁慕庄南归，余寄书卷零物并信一件。两信皆仅数语，至今想尚未到。四月十三黄仙垣南归，余寄闲墨并无书信，想亦未到。兹将三次所寄各物另开清单付回，待三人到时，家中照单查收可也。

内城现住房共二十八间，每月房租京钱叁拾串，极为宽敞。冯树堂、郭筠仙所住房屋皆清洁。甲三于三月二十四日上学，天分不高不低，现已读四十天，读至自修齐至平治矣。因其年太小，故不加严。已读者字皆能认。两女皆平安。陈岱云之子在余家亦甚好。内人身子如常，现又有喜，大约九月可生。

余体气较去年略好，近因应酬太繁，天气渐热，又有耳鸣之病。今年应酬较往年更增数倍。第一为人写对联条幅，合四川、湖南两省求书者几日不暇给。第二公车来借钱者甚多，无论有借无借，多借少借，皆须婉言款待。第三则请酒拜客及会馆公事。第四则接见门生，颇费精神。又加以散馆，殿试则代人料理，考差则自己料理。诸事冗杂，遂无暇读书矣。

三月二十八挑甲午科，共挑知县四人，教官十九人。其全单已于梁慕庄所带信内寄回。四月初八日发会试榜，湖南中七人，四川中八人，去年门生中二人，另有题名录附寄。十二日新进士复试，十四发一等二十一名，另有单附寄。十六日考差，余在场，二文一诗，皆妥当无

弊病，写亦无错落。兹将诗稿寄回。十八日散馆，一等十九名，本家心斋取一等十二名，陈启迈取二等第三名，二人俱留馆。徐葵因诗内敏字误写敏字，改作知县，良可惜也。二十二日散馆者引见，二十六七两日考差者引见，二十八日新进士朝考，三十日发全单附回。二十一日新进士殿试，二十四日点状元，全榜附回。五月初四五两日新进士引见。初一日放云贵试差，初二日钦派大教习二人，初六日奏派小教习六人，余亦与焉。

初十日奉上谕，翰林侍读以下，詹事府洗马以下，自十六日起每日召见二员。余名次第六，大约十八日可以召见。从前无逐日分见翰詹之例，自道光十五年始一举行，足征圣上勤政求才之意。十八年亦如之，今年又如之。此次召见，则今年放差大半，奏对称旨者居其半，诗文高取者居其半也。

五月十一日接到四月十三家信，内四弟、六弟各文二首，九弟、季弟各文一首。四弟东皋课文甚洁净，诗亦稳妥。“则何以哉”一篇亦清顺有法，第词句多不圆足，笔亦平沓不超脱。平沓最为文家所忌，宜力求痛改此病。六弟笔气爽利，近亦渐就范围。然词意平庸，无气骨峥嵘之处，非吾意中之温甫也。如六弟之天姿不凡，此时作文，当求议论纵横，才气奔放，作为如火如荼之文，将来庶有成就。不然一挑半剔，意浅调率，即使获售，亦当自惭其文之浅薄不堪。若其不售，则又两失之矣。今年从罗罗山游，不知罗山意见如何？吾谓六弟今年入泮固妙，万一不入，则当尽弃前功，壹志从事于先辈大家之文。年过二十，不为少矣，若再扶墙摩壁，役役于考卷截搭小题之中，将来时过而业仍不精，必有悔恨于失计者，不可不早图也。余当日实见不到此，幸而早得科名，未受其害。向使至今未尝入泮，则数十年从事于吊渡映带之间，仍然一无所得，岂不赧颜也哉！此中误人终身多矣。温甫以世家之子弟，负过人之姿质，即使终不入泮，尚不至于饥饿，奈何亦以考卷误终身也？九弟要余改文详批，余实不善改小考文，当请曹西垣代改，下次折弁付回。季弟文气清爽异常，喜出望外，意亦层出不穷。以后务求才情横溢，气势充畅，切不可挑剔敷衍，安于庸陋。勉之勉之，初基不可不大也。书法亦有褚子笔意，尤为可喜。总之，吾所望于诸弟者，不在科名之有无，第一则孝弟为瑞，其次则文章不朽。诸弟若果能自立，当务其大者远者，毋徒汲汲于进学也。

冯树堂、郭筠仙在高看书作文，功无间断。陈季牧日日习字，亦可畏也。四川门生留京约二十人，用功者颇多。余不尽书。

兄国藩草

## 六月二十三日

男国藩跪禀父母亲大人福万金安：

五月十二日，男发第六号信，其信甚厚。内有寄欧阳小岑、黄仙垣、梁莱庄三处货物单。此刻三人想俱到省，不审已照单查收否？

男及男妇身体清吉。孙儿亦好，六月十七日《三字经》读完，十八日读《尔雅》起。二孙女皆好。冯树堂、郭筠仙皆在寓如常。王率五妹夫于五月二十三日到京，其从弟仕四同来。二人在湘潭支钱十千，在长沙搭船，四月十二日至汉口。在汉口杉牌散内住十天。二十二在汉口起身，步行至京，道上备尝辛苦。幸天气最好，一路无雨无风，平安到京。在道上仅伤风两日，服药二帖而愈。到京又服凉药二帖，补药三帖，现在精神全好。初到京时，遍身衣裤鞋袜皆坏，件件临时新制，而率五仍不知艰苦。京城实无位置他处，只得暂留男寓，待有便即令他回家。男自调停妥当，家中不必挂心，蕙妹亦不必着急。至于仕四，目前尚在男寓吃饭。待一月既满，如有朋友回南，则荐仕四作仆人带归；如无便可荐，则亦只得雇之出门，不能长留男寓也。湖北主考仓少平系男同年相好，男托仓带仕四到湖北。仓七月初一出京，男给仕四钱约六千，即可安乐到家。本不欲优待他，然不如此，则渠必流落京城，终恐为男之累，不如早打发他回为妥。

祖父大人于四月鼻血多出，男闻不胜惶恐。闻率五说祖父近日不吃酒，不甚健步，不知究竟何如？万求一一详示。叔父病势似不轻，男尤挂心，务求将病症开示。男敦习庶吉士，五月十八日上学，门生六人。二十日蒙皇上御勤政殿召见，天语垂问及男奏对，约共六七十句。

今年考差，只剩河南、山东、山西三省，大约男已无望。男今年甚怕放差，盖因去年男妇生产是踏花生，今年恐走旧路，出门难以放心；且去年途中之病，至今心悸。男日来应酬已少，读书如故。寓中用度浩繁，共二十口吃饭，实为可怕。居家保身一切，男知谨慎，大人不必挂念。

男谨禀

## 七月二十日

男国藩跪禀父母亲大人万福金安：

六月二十三日男发第七号信交折差，七月初一日发第八号交王仕四手，不知已收到否？

六月二十日接六弟五月十二书，七月十六接四弟、九弟五月二十九日书，皆言忙迫之至。寥寥数语，字迹潦草，即县试案首前列皆不写



出。同乡有同日接信者，即考古考老生皆已详载。同一折差也，各家发信迟十余日而从容，诸弟发信早十余日而忙迫，何也？且次次忙迫，无一次稍从容者，又何也？

男等在京大小平安，同乡诸家皆好。惟汤海秋于七月八日得病，初九未刻即逝。六月二十八考教习，冯树堂、郭筠仙、朱啸山皆取。湖南今年考差，仅何子贞得差，余皆未放。惟陈岱云光景最苦。男因去年之病，反以不放为乐。王仕四已善为遣回。率五大约在粮船回，现尚未定。渠身体平安，二妹不必挂心。叔父之病，男累求详信直告，至今未得，实不放心。甲三读《尔雅》，每日二十余字，颇肯率教。

六弟今年正月信欲从罗罗山处附课，男甚喜之。后来信绝不提及，不知何故？所付来京之文，殊不甚好。在省读书二年，不见长进，男心实忧之而无如何，只恨男不善教诲而已。大抵第一要除骄傲气习。中无所有而夜郎自大，此最坏事。四弟、九弟虽不长进，亦不自满。求大人教六弟，总期不自满足为要。余俟续呈。

男谨禀

## 八月二十九日

孙国藩跪禀祖父母大人万福金安：

八月二十七日接到七月十五、二十五两次所发之信，内祖父母各一信，父亲母亲叔父各一信，诸弟亦皆有信，欣悉一切，慰幸之至。叔父之病，得此次信始可放心。祖父正月手书之信，孙比收他处，后偶忘之，近亦寻出。孙七月二十发第九号信，不知到否？

八月二十八日，陈岱云之弟送灵柩回南，坐粮船。孙以率五妹夫与之同伴南归。船钱饭钱，陈宅皆不受。孙送至城外，率五挥泪而别，甚为可怜。率五来意，本欲考供事，冀得一官以养家。孙以供事必须十余年乃可得一典史，宦海风波，安危莫卜，卑官小吏，尤多危机，每见佐杂末秩下场鲜有好者。孙在外已久，阅历已多，故再三苦言劝率五居乡，勤俭守旧，不必出外做官。劝之既久，率五亦以为然。其打发行李诸物，孙一一办妥，另开单呈览。

孙送率五归家，即于是日申刻生女，母女俱平安。前正月间，孙寄银回南，有馈赠亲族之意，理宜由堂上定数目，方合《内则》“不敢私与”之道。孙比时糊涂，擅开一单，轻重之际，多不妥当，幸堂上各大人斟酌增减，方为得宜。但岳家太多，他处相形见绌，孙稍有不安耳。

率五至家，大约在春初可以到家。渠不告而出，心中怀惭，到家后，望大人不加责，并戒家中及近处无相讥讪为幸。

孙谨禀

## 八月二十九日

四位老弟左右：

昨二十七日接信，快畅之至，以信多而处处详明也。

四弟七夕诗甚佳，已详批诗后。从此多作诗亦甚好，但须有志有恒，乃有成就耳。

余于诗亦有工夫，恨当世无韩昌黎及苏、黄一辈人可与发吾狂言者。但人事太多，故不常作诗，用心思索，则无时敢忘之耳。

吾人只有进德、修业两事靠得住。进德，则孝弟仁义是也；修业，则诗文作字是也。此二者由我作主，得尺则我之尺也，得寸则我之寸也。今日进一分德，便算积了一升谷；明日修一分业，又算余了一文钱。德业并增，则家私日起。至于功名富贵，悉由命定，丝毫不能自主。昔某官有一门生为本省学政，托以两孙当面拜为门生。后其两孙岁考临场大病，科考丁艰，竟不入学。数年后两孙乃皆人，其长者仍得两榜。此可见早迟之际，时刻皆有前定。尽其在我，听其在天，万不可稍生妄想。六弟天分较诸弟更高，今年受黜，未免愤怨。然及此正可困心横虑，大加卧薪尝胆之功，切不可因愤废学。

九弟劝我治家之法，甚有道理，喜甚慰甚。自荆七遣去之后，家中亦甚整齐，问率五归家便知。《书》曰：“非知之艰，行之维艰。”九弟所言之理，亦我所深知者，但不能庄严威厉，使人望若神明耳。自此以后，当以九弟言书诸绅而刻刻警省。

季弟信天性笃厚，诚如四弟所云“乐何如之”。求我示读书之法及进德之道，另纸开示。余不具。

国藩手草

## 九月十九日

男国藩跪禀父母亲大人万福金安：

八月二十九日男发第十号信，备载二十八生女及率五回南事，不知已收到否？

男身体平安。家妇月内甚好，去年月里有病，今年尽除去。孙儿女皆好。初十日顺天乡试发榜，湖南中三人，长沙周荅农中南元原名廉立。率五之归，本拟附家心斋处。因率五不愿坐车，故附陈岱云之弟处同坐粮船。昨岱云自天津归，云船不甚好，男颇不放心。幸船上人多，应无可虑。

诸弟考试后，尽肄业小罗巷庵，不知勤惰若何？此时惟季弟较小，

三弟俱年过二十，总以看书为主。我境惟彭蕻墅先生看书略多，自后无一人讲究者，大抵为考试文章所误。殊不知看书与考试全不相碍，彼不看书者，亦仍不利考如故也。我家诸弟此时无论考试之利不利，无论文章之工不工，总以看书为急。不然则年岁日长，科名无成，学问亦无一字可靠，将来求为塾师而不可得。或经或史，或诗集文集，每日总宜看二十叶。男今年以来无日不看书，虽万事丛忙，亦不废正业。

闻九弟意欲与刘霞仙同伴读书，霞仙近来见道甚有所得，九弟若去，应有进益。望大人斟酌行之，男不敢自主。此事在九弟自为定计。若愧奋直前，有破釜沉舟之志，则远游不负；若徒悠忽因循，则近处尽可度日，何必远行百里外哉？求大人察九弟之志而定计焉。余容续呈。

男谨禀

## 九月十九日

四位老弟足下：

自七月发信后未接诸弟信，乡间寄信较省城百倍之难，故余亦不望也。

九弟前信有意与刘霞仙同伴读书，此意甚佳。霞仙近来读朱子书大有所见，不知其言语容止、规模气象何如？若果言动有礼，威仪可则，则直以为师可也，岂特友之哉！然与之同居，亦须真能取益乃佳，无徒浮慕虚名。人苟能自立志，则圣贤豪杰何事不可为？何必借助于人！“我欲仁，斯仁至矣。”我欲为孔孟，则日夜孜孜，惟孔孟之是学，人谁得而御我哉？若自己不立志，则虽日与尧舜禹汤同住，亦彼自彼，我自我矣，何与于我哉！去年温甫欲读书省城，吾以为离却家门局促之地而与省城诸胜已者处，其长进当不可限量。乃两年以来看书亦不甚多，至于诗文，则绝无长进，是不得归咎于地方之局促也。去年余为择师丁君叙忠，后以丁君处太远，不能从，余意中遂无他师可从。今年弟自择罗罗山改文，而嗣后杳无信息，是又不得归咎于无良友也。日月逝矣，再过数年则满三十，不能不趁三十以前立志猛进也。

余受父教，而余不能教弟成名，此余所深愧者。他人与余交，多有受余益者，而独诸弟不能受余之益，此又余所深恨者也。今寄霞仙信一封，诸弟可抄存信稿而细玩之。此余数年来学思之力，略具大端。

六弟前嘱余将所作诗录寄回。余往年皆未存稿，近年存稿者，不过百余首耳，实无暇抄写，待明年将全本付回可也。

国藩草

## 十月二十一日

男国藩跪禀父母亲大人万福金安：

九月二十日，男发十一号信，内有寄刘霞仙一封，想已收到。

男身体平安，读书日有常课。自六月底起，至今未尝间断一天。男妇如常，渐渐有乳。孙男读书有恒，已读《尔雅》一本。共四本，大约明年下半年可读完。此书太难，他书则易为力矣。三孙女皆好，余亦合室平安。男自七月起，寓中已养车马，每年须费百金。因郭雨三奉讳出京，渠车马借与男用。渠曾借男五十金，亦未见还。

率五在东昌有信来京，兹附呈。渠在道上，船钱火食皆陈宅的，所需用者不过剃头、吃烟而已，故男仅给银十两、钱五千而已。意谓钱已够用，银可剩下到家也。兹渠到东昌已将钱用完，不知余银敷用否？如不敷，陈处挪移自易，然男已不放心。

邹至堂来，望付茶叶一簍、大小剪刀各二把，其余布匹、腊肉之类俱不必付，盖家中极难办，路上极难带也。初九日，父亲大人寿辰，京寓客共三席。十一月初三日，母亲大人六十寿辰。男不获在家庆祝，不胜瞻恋。男拟于寿辰后作寿屏一架，即留在京张挂，不必付回。诸弟读书，不知明年定在何处，望于今冬写信告知，男不胜悬望。谨禀。即跪叩父母亲大人双寿大喜。

## 十月二十一日

四位老弟足下：

前次回信内有四弟诗，想已收到。九月家信有送率五诗五首，想已阅过。吾人为学最要虚心。尝见朋友中有美材者，往往恃才傲物，动谓人不如己，见乡墨则骂乡墨不通，见会墨则骂会墨不通，既骂房官，又骂主考，未入学者则骂学院。平心而论，己之所为诗文，实亦无胜人之处；不特无胜人之处，而且有不堪对人之处。只为不肯反求诸己，便都见得人家不是，既骂考官，又骂同考而先得者。傲气既长，终不进功，所以潦倒一生而无寸进也。

余平生科名极为顺遂，惟小考七次始售。然每次不进，未尝敢出一怨言，但深愧自己试场之诗文太丑而已。至今思之，如芒在背。当时之不敢怨言，诸弟问父亲、叔父及朱尧阶便知。盖场屋之中，只有文丑而侥幸者，断无文佳而埋没者，此一定之理也。

三房十四叔非不勤读，只为傲气太胜，自满自足，遂不能有所成。京城之中，亦多有自满之人。识者见之，发一冷笑而已。又有当名士

者，鄙科名为粪土，或好作诗古，或好讲考据，或好谈理学，瞿然自以为压倒一切矣。自识者观之，彼其所造，曾无几何，亦足发一冷笑而已。故吾人用功，力除傲气，力戒自满，毋为人冷笑，乃有进步也。

诸弟平日皆恂恂退让，第累年小试不售，恐因愤激之久，致生骄情之心，故特作书戒之，务望细思吾言而深省焉，幸甚幸甚。

国藩手草

十一月二十一日

孙国藩跪禀祖父母大人万福金安：

十月二十一日发十二号家信，想已收到。孙在京平安，孙妇及曾孙男女四人皆好。曾孙最好写字，散学后则在其母房中多写，至更初犹不肯睡，骂亦不止。目下天寒墨冻，脱手写多不成字，兹命之写禀安帖寄呈，以博堂上大人一欢笑而已。

上半年所付黑狸皮褂，不知祖父大人合身否？闻狸皮在南边易于回潮，黑色变为黄色，不知信否？若果尔，则回潮天气须勤勤检视。又凡收皮货，须在省城买潮老。其色如白淮盐，微带黄色。其气如樟木。用皮纸包好，每包约寸大，每衣内置三四包。收衣时，仍将此包置衣内。又每年晒皮货，晒衣之日，不必折收，须过两天，待热气退尽乃收。

江西家受恬明府昨有信来，云此银今冬必付到，不知近来接到否？如未接，则立即写信来京，再去催取。兑银之难，往往如此。

同乡唐镜海先生三年以来连生三子，而长者前以病殇，幼者昨又以痘殇，仅存次子，尚未周岁，良可悼叹。

现在京官甚少，仅二十二人。昨十月二十五日谢恩赴宫门叩头者，仅到三人，尤非盛时气象。兹将谢折付回呈览。

王率五到家，须即寄一信。仕四已于八月初到省，不知曾到我家否？母亲生日，京中仅客一席，待明年当付寿屏回。家中有所需之物，须写信来，明年会试后寄归。

孙国藩

十一月二十一日

四位老弟足下：

前月寄信，想已接到。余蒙祖宗遗泽、祖父教训，幸得科名，内顾无所忧，外遇无不如意，一无所缺矣。所望者再得诸弟强立，同心一力，何患令名之不显？何患家运之不兴？欲别立课程，多讲规条，使诸弟遵而行之，又恐诸弟习见而生厌心；欲默默而不言，又非长兄督责之

道。是以往年常示诸弟以课程，近来则只教以有恒二字。所望于诸弟者，但将诸弟每月功课写明告我，则我心大慰矣。乃诸弟每次写信，从不将自己之业写明，乃好言家事及京中诸事。此时家中重庆，外事又有我料理，诸弟一概不管可也。以后写信，但将每月作诗几首，作文几首，看书几卷，详细告我，则我欢喜无量。诸弟或能为科名中人，或能为学问中人，其为父母之令子一也，我之欢喜一也。慎弗以科名稍迟，而遂谓无可自力也。如霞仙今日之身分，则比等闲之秀才高矣。若学问愈进，身分愈高，则等闲之举人、进士又不足论矣。

学问之道无穷，而总以有恒为主。兄往年极无恒，近年略好，而犹未纯熟。自七月初一起，至今则无一日间断。每日临帖百字，抄书百字，看书少亦须满二十页，多则不论。自七月起，至今已看过《王荆公文集》百卷，《归震川文集》四十卷，《诗经大全》二十卷，《后汉书》百卷，皆朱笔加圈批。虽极忙，亦须了本日功课，不以昨日耽擱而今日补做，不以明日有事而今日预做。诸弟若能恒如此，则虽四弟中等之资，亦当有所成就，况六弟、九弟上等之资乎？

明年肄业之所，不知已有定否？或在家，或在外，无不可者。谓在家不可用功，此巧于卸责者也。吾今在京，日日事务纷冗，而犹可以不间断，况家中万万不及此间之纷冗乎？树堂、筠仙自十月起，每十日作文一首，每日看书十五页，亦极有恒。诸弟试将朱子《纲目》过笔圈点，定以有恒，不过数月即圈完矣。若看注疏，每经亦不过数月即完。切勿以家中有事而间断看书之课，又弗以考试将近而间断看书之课。虽走路之日，到店亦可看；考试之日，出场亦可看也。

兄日夜悬望，独此有恒二字告诸弟，伏愿诸弟刻刻留心，幸甚幸甚。

兄国藩手草

十二月十四日

孙国藩跪禀祖父母大人万福金安：

十一月二十二日发十三号信。二十九日，祖母大人寿辰，孙等叩头遥祝，寓中客一席。次日请同县公车一席。初七日，皇上御门，孙得转补翰林院侍读。所遣侍讲缺，许乃钊补升。侍讲转侍读，照例不谢恩，故孙未具折谢恩。

今冬京中又得厚雪。初九日设三坛求雪，四、五、六阿哥诣三坛行礼，皇上亲诣太庙行礼。十一日即得大雪。天心感召，呼吸相通，良可贺也。

孙等在京平安。曾孙读书有恒，惟好写字，见闲纸则乱画，请其母

钉成本子。孙今年用度尚宽裕，明年上半年尚好，至五月后再作计。昨接曾兴仁信，知渠银尚未还。孙甚着急，已写信去催，不知家中今年可不窘迫否？

同乡京官皆如故。冯树堂、郭筠仙在寓亦好。荆七自五月出去，至今未敢见孙面，在同乡陈洪钟主事家，光景亦好。若使流落失所，孙亦必宥而收恤之。特渠对人言，情愿饿死，不愿回南。此实难处置。孙则情愿多给银两使他回去，不愿他在京再犯出事。望大人明示以计，俾孙遵行。四弟等自七月寄信来后，至今未再得信，孙甚切望。

严太爷在京引见，来拜一次。孙回拜一次，又请酒，渠未赴席。此人向有狂妄之名，孙已亥年在家，一切不与之计较，故相安于无事。大约明春可回湘乡任。

孙毓廉

## 十二月十八日

诸位老弟足下：

十四日发十四号家信，因折弁行急，未作书与诸弟。十六早接到十一月十二所发信，内父亲一信、四位老弟各一件。是日午刻又接九月十二所寄信，内父亲及四、六、九弟各一件。具悉一切，不胜欣幸。

曹石樵明府待我家甚为有礼，可感之至。兹寄一信去。西坤四位，因送项太简，致生嫌隙。今虽不复形之口角，而其心究不免有觖望。故特作信寄丹闾叔，使知我家光景亦非甚裕者。贤弟将此信呈堂上诸大人，以为开诚布公否？如堂上诸大人执意不肯送去，则不送亦可也。四弟之诗又有长进，第命意不甚高超，声调不甚响亮。命意之高，须要透过一层。如说考试，则须说科名是身外物，不足介怀，则诗意高矣；若说必以得科名为荣，则意浅矣。举此一端，余可类推。腔调则以多读诗为主，熟则响矣。去年树堂所寄之笔，亦我亲手买者。春光醉目前每支大钱五百文，实不能再寄。汉璧尚可寄，然必须明年会试后乃有便人回南，春间不能寄也。五十读书固好，然不宜以此耽擱自己功课。女子无才便是德，此语不诬也。常家欲与我结婚，我所以不愿者，因闻常世兄最好恃父势作威福，衣服鲜明，仆从烜赫，恐其家女子有宦家骄奢习气，乱我家规，诱我子弟好佚耳。今渠再三要结婚，发甲五八字去，恐渠家是要与我为亲家。非欲与弟为亲家，此语不可不明告之。贤弟婚事，我不敢作主，但亲家为人何如，亦须向汪三处查明。若吃鸦片烟，则万不可对；若无此事，则听堂上各夫人与弟自主之可也。所谓翰堂秀才者，其父子皆不宜亲近，我曾见过，想衡阳人亦有知之者。若要对亲，或另请媒人亦可。六弟九月之信，于自己近来弊病颇能自知，正好

用功自医，而犹曰“终日泄泄”，此则我所不解者也。家中之事，弟不必管。天破了自有女娲管，洪水大了自有禹王管，家事有堂上大人管，外事有我管，弟只安心自管功课而已，何必问其他哉？至于宗族姻党，无论他与我家有隙无隙，在弟辈只宜一概爱之敬之。孔子曰“泛爱众而亲仁”，孟子曰“爱人不亲反其仁”，“礼人不答反其敬”。此刻未理家事，若便多生嫌怨，将来当家立业，岂不个个都是仇人？古来无与宗族乡党为仇之圣贤，弟辈万不可专责他人也。十一月信言现看《庄子》并《史记》，甚善。但作事必须有恒，不可谓考试在即，便将未看完之书丢下。必须从首至尾，句句看完。若能明年将《史记》看完，则以后看书不可限量，不必问进学与否也。贤弟论袁诗、论作字亦皆有所见，然空言无益，须多做诗多临帖乃可谈耳。譬如人欲进京，一步不行，而在家空言进京程途，亦何益哉？即言之津津，人谁得而信之哉？九弟之信，所以规劝我者甚切，余览之不觉毛骨悚然。然我用功，实脚踏实地，不敢一毫欺人。若如此做去，不作外官，将来道德文章必粗有成就。上不敢欺天地祖父，下不敢欺诸弟与儿子也。而省城之闻望日隆，即我亦不知其所自来。我在京师，惟恐名浮于实，故不先拜一人，不自谢一言，深以过情之闻为耻耳。来书写大场题及榜信，此间九月早已知之。惟县考案首前列及进学之人，则至今不知。诸弟以后写信，于此等小事及近处族戚家光景，务必一一详载。季弟信亦谦虚可爱，然徒谦亦不好，总要努力前进。此全在为兄者倡率之。余他无可取，惟近来日日有恒，可为诸弟倡率。四弟、六弟纵不欲以有恒自立，独不怕坏季弟之样子乎？

昨十六日卓秉恬拜大学士。陈官俊得协办大学士，自王中堂死后，隔三年，大学士始放人，亦一奇也。书不宜尽。

兄国藩手具

道光二十五年乙巳岁

二月初一日

四位老弟足下：

去年十二月二十二日寄去书函谅已收到。顷接四弟信，谓前信小注中误写二字。其诗比即付还，今亦忘其所误谓何矣。

诸弟写信总云仓忙，六弟去年曾言城南寄信之难，每次至抚院奏奏厅打听云云。是何其蠢也！静坐书院三百六十日，日日皆可写信，何必



打听折差行期而后动笔哉？或送至提塘，或送至岱云家，皆万无一失，何必问了无关涉之费奏厅哉？若弟等仓忙，则兄之仓忙殆过十倍，将终岁无一字寄家矣！

送王五诗第二首，弟不能解，数千里致书来问。此极虚心，余得信甚喜。若事事勤思善问，何患不一日千里？兹另纸写明寄回。家塾读书，余明知非诸弟所甚愿，然近处实无名师可从，省城如陈尧农、罗罗山皆可谓明师，而六弟、九弟又不善求益；且住省二年，诗文与字皆无大长进。如今我虽欲再言，堂上大人亦必不肯听。不如安分耐烦，寂处里间，无师无友，挺然特立，作第一等人物。此则我之所期于诸弟者也。昔婺源汪双池先生一贫如洗，三十以前在窑上为人佣工画碗，三十以后读书，训蒙到老，终身不应科举。卒著书百余卷，为本朝有数名儒。彼何尝有师友哉？又何尝出里间哉？余所望于诸弟者，如是而已，然总不出乎立志有恒四字之外也。

买笔付回，刻下实无妙便，须公车归乃可带回。大约府试院试可得用，县试则赶不到也。诸弟在家作文，若能按月付至京，则余请树堂看。随到随改，不过两月，家中又可收到。书不详尽，余俟续具。

兄国藩手草

### 三月初五日

四位老弟足下：

二月有折差到京。余因眼蒙，故未写信。三月初三接到正月二十四所发家信，无事不详尽，欣喜之至。此次眼尚微红，不敢多作字，故未另禀堂上。一切详此书，烦弟等代禀告焉。

去年所寄银，余有分馈亲族之意。厥后屡次信问，总未详明示悉。顷奉父亲示谕，云皆已周到，酌量减半。然以余所闻，亦有过于半者，亦有不及一半者。下次信来，务求九弟开一单告我为幸。

受恬之钱，既专使去取，余又有京信去，想必可以取回，则可以还江岷山、东海之项矣。岷山、东海之银，本有利息，余拟送他高丽参共半斤，挂屏、对联各一付，或者可少减利钱，待公车归时带回。父亲手谕要寄银百两回家，亦待公车带回。有此一项，则可以还率五之钱矣。

率五想已到家，渠是好体面之人，不必时时责备他，惟以体面待他，渠亦自然学好。兰姊买田，可喜之至。惟与人同居，小事要看松些，不可在在讨人恼。

欧阳牧云要与我重订婚姻，我非不愿，但渠与其妹是同胞所生，兄妹之子女，犹然骨肉也。古者婚姻之道，所以厚别也，故同姓不婚。中表为婚，此俗礼之大失。譬如嫁女而号泣，奠礼而三献，丧事而用乐，

此皆俗礼之失，我辈不可不力辨之。四弟以此义告牧云，吾徐当作信复告也。

罗芸皋于二月十八日到京，路上备尝辛苦，为从来进京者所未有。于二十七日在圆明园正大光明殿补行复试。湖南补复试者四人。余在园送考，四人皆平安，感余之情。今年新科复试，正场取一等三十七人，二、三等人数量甚多。四等十三人，罚停会试二科。补复者一等十人，二、三等共百六十人。四等五人，亦罚停二科。立法之初，无革职者，可谓宽大。湘乡共到十人。邓铁松因病不能进场。渠吐血是老病，或者可保无虞。

芸皋所带小莱、布匹、茶叶俱已收到，但不知付物甚多，何以并无家信？四弟去年所寄诗已圈批寄还，不知收到否？汪觉庵师寿文，大约在八月前付到。

五十已纳征礼成，可贺可贺。朱家气象甚好，但劝其少学官款，我家亦然。晴山接到咨文，上有祖母已没字样，甚为哀痛，归思极迫。余再三劝解，场后即来余寓同住。我家共住三人。郭二于二月初八到京，复试二等第八。上下合家皆清吉。余耳仍鸣，无他恙。内人及子女皆平安。树堂榜后要南归，将来择师尚未定。

六弟信中言功课在康让之间，此语殊不可解。所需书籍，惟《子史精华》家中现有，准托公车带归。《汉魏百三家》，京城甚贵，余已托人在扬州买，尚未接到。《群海》及《绥寇纪略》亦贵，且寄此书与人，则必帮人车价。因此书尚非吾弟所宜急务者，故不买寄。元明名古文尚无选本。近来邵蕙西已选元文，渠劝我选明文，我因无暇尚未选。古文选本，惟姚姬传先生所选本最好。吾近来圈过一遍，可于公车带回。六弟用墨笔加圈一遍可也。

九弟诗大进，读之为之距跃三百，即和四章寄回。树堂、筠仙、意诚三君，皆各有和章。诗之为道，各人路径不同，难执一己之成见以概论。吾前教四弟学袁简斋，以四弟笔情与袁相近也。今观九弟笔情，则与元遗山相近。吾教诸弟学诗无别法，但须看一家之专集，不可读选本，以汨没性灵。至要至要。吾于五七古学杜、韩，五七律学杜，此二家无一字不细看。此外则古诗学苏、黄，律诗学义山，此三家亦无一字不看。五家之外，则用功浅矣。我之门径如此，诸弟或从我行，或别寻门径，随人性之所近而为之可耳。

余近来事极繁，然无日不看书。今年已批韩诗一部，正月十八批毕。现在批《史记》已三之二，大约四月可批完。诸弟所看书望详示。邻里有事，亦望示知。

国藩手草

## 四月十五日

男国藩跪禀父母亲大人：

男于三月初六日蒙恩得分会试房，四月十一日发榜出场，身体清吉，合家平安。所有一切事宜，写信交折差先寄。兹因嘯山还家，托带纹银百两、高丽参半斤、《子史精华》六套、《古文辞类纂》二套、《绥寇纪略》一套，皆六弟信要看之书。高丽参男意送江岷山、东海二家六两，以冀少减息银。又送金竺度之尊人二两，以报东道之谊。听大人裁处。男尚办有送江家、金家及朱岚暄挂屏，俟郭筠仙带回。又有寿屏及考试笔等物，亦俟他处寄回。余俟续具。

男谨禀

## 四月十五日

四位老弟足下：

三月初六日，余发第二号家信。是日皇上天恩，余得会试分房差。即于是日已刻入闱，十三日始阅卷。十八房每位分卷二百七十余，至二十三日头场即已看毕。二十四看二、三场，至四月初四皆看完。各房荐卷，多少不等。多者或百余，少者亦荐六十余卷。余荐六十四卷，而惟余中卷独多，其中十九人，他房皆不及。十一日发榜，余即于是早出闱。在场月余极清吉，寓内眷口大小平安。出闱数日，一切忙迫，人客络绎不绝。

朱嘯山于四月十六日出京。余寄有纹银百两、高丽参一斤半、书一包——内《子史精华》六套、《古文辞类纂》二套、《绥寇纪略》一套，到家日查收。别有寿屏及笔等项尚未办齐，待郭筠仙带归。

十四日新进士复试。题“君子喻于义”，赋得“竹箭有筠”得“行”字。我县谢吉人中进士后，因一切不便，故邀来在余寓住。

十五日接三月初十日家信，内有祖父、父亲、叔父手谕及诸弟诗文并信。其文此次仅半日忙不及改，准予下次付回。

四弟之信所问，盖宴牟、宴庠、宴巩兄弟，皆从昌黎游。去年所写牟尼，实误写尼字也。汪双池先生灿系雍正年间人，所著有《理学渊源》等书。

郭筠仙、谭臣兄弟及冯树堂俱要出京，寓内要另请先生，现尚未定。草布一二，祈贤弟代禀堂上各位大人。今日上半天已作一函呈父亲大人，交朱嘯山，大约六月可到。

兄国藩手草

## 四月二十四日

四位老弟左右：

四月十六日曾写信交折弁带回，想已收到。十七日朱嘯山南归，托带纹银百两、高丽参一斤半、书一包计九套。

兹因冯树堂南还，又托带寿屏一架、狼兼毫笔二十枝、鹿胶二斤、对联条幅一包内金年伯耀南四条、朱岚暄四条、萧辛五对一幅、江岷山母舅四条、东海舅父四条、父亲横披一个、叔父折扇一柄，乞照单查收。前信言送江岷山、东海高丽参六两，送金耀南年伯参二两，皆必不可不送之物，唯诸弟禀告父亲大人送之可也。

树堂归后，我家先生尚未定。请弟若在省得见树堂，不可不殷勤亲近。亲近愈久，获益愈多。

今年湖南萧史楼得状元，可谓极盛。八进士皆在长沙府。黄琴坞之胞兄及令嗣皆中，亦长沙人也。余续具。

兄国藩手草

## 五月初五日

四位老弟足下：

四月十六日，余寄第三号交折差，备述进场阅卷及收门生诸事，内附寄会试题名录一纸。十七日朱嘯山南旋，余寄第四号信，外银一百两、书一包计九函、高丽参一斤半。二十五日冯树堂南旋。余寄第五号家信，外寿屏一架、鹿胶二斤一包、对联条幅扇子及笔共一布包。想此三信，皆于六月可接到。

树堂去后，余于五月初二日新请李竹坞先生名如篴，永顺府龙山县人，丁酉拔贡，庚子举人教书。其人端方和顺，有志性理之学，虽不能如树堂之笃诚照人，而已为同辈所最难得者。

初二早，皇上御门办事。余蒙天恩，得升詹事府右春坊右庶子。次日具折谢恩，蒙召见于勤政殿，天语垂问共四十余句。是日同升官者：李瀚升都察院左副都御史，罗惇衍升通政司副使，及余共三人。

余蒙祖父余泽，频叨非分之荣。此次升官，尤出意外。日夜恐惧修省，实无德足以当之。诸弟远隔数千里外，必须匡我之不逮，时时寄书规我之过，务使累世积德不自我一人而堕。庶几持盈保泰，得免速致颠危。诸弟能常进箴规，则弟即吾之良师益友也。而诸弟亦宜常存敬畏，勿谓家有人作官，而遂敢于侮人；勿谓己有文学，而遂敢于恃才傲人。常存此心，则是载福之道也。

今年新进士善书者甚多，而湖南尤甚。萧史楼既得状元，而周荇农寿昌去岁中南元，孙芝房鼎臣又取朝元，可谓极盛。现在同乡诸人讲求词章之学者固多，讲求性理之学者亦不少，将来省运必大盛。

余身体平安，惟应酬太繁，日不暇给，自三月进闕以来，至今已满两月，未得看书。内人身体极弱，而无病痛。医者云必须服大补剂，乃可回元。现在所服之药与母亲大人十五年前所服之白术黑姜方略同，差有效验。儿女四人皆平顺，婢仆辈亦如常。去年寄家之银两，屡次写信求将分给戚族之数目详实告我，而至今无一字见示，殊不可解。以后务求四弟将帐目开出寄京，以释我之疑。又余所欲问家乡之事甚多，兹另开一单，烦弟逐条对是禱。

兄国藩草

## 五月二十九日

男国藩跪禀父母亲大人膝下：

五月初六日，男发第六号家信后，十七日接到请弟四月二十二日在县所发信。欣悉九弟得取前列第三，余三弟皆取前二十名，欢慰之至。

诸弟前所付诗文到京，兹特请杨春皆改正付回。今年长进甚速，良可忻慰。向来六弟文笔最矫健，四弟笔颇笨滞，观其“为仁矣”一篇，则文笔大变，与六弟并称健者。九弟文笔清贵，近来更圆转如意。季弟诗笔亦秀雅。男再三审览，堪怡悦。

男在京平安。十六七偶受暑，服药数帖，禁荤数日而愈，现已照常应酬。男妇服补剂已二十余帖，大有效验。医人云虚弱之症，能受补则易好。孙男女及合室下人皆清吉。

长沙馆于五月十二日演戏题名，状元南元朝元三匾，同日张挂，极为热闹，皆男总办，而人人乐从。头门对联云：同科十进士，庆榜三名元。可谓盛矣。

同县邓铁松在京患吐血病，甚为危症，大约不可挽回。同乡有危急事，多有就男商量者，男效祖大人之法，银钱则量力协助，办事则竭力经营。

严丽生取九弟置前列，男理应写信谢他，因其平日官声不甚好，故不愿谢。不审大人意见何如？我家既为乡绅，万不可入署说公事，致为官长所鄙薄。即本家有事，情愿吃亏，万不可与人构讼，令官长疑为倚势凌人。伏乞慈鉴。

男国藩

## 六月十九日

男国藩跪禀父母亲大人万福金安：

五月三十日发第七号家信，内有升官谢恩折及四弟、九弟、季弟诗文，不知到否？男于五月中旬出痘疹，服药即效，已全愈矣。而余热未尽，近日头上生癣，身上生热毒，每日服银花、甘草等药。医云内热未散，宜发出，不宜遏抑，身上之毒至秋即可全好，头上之癣亦不至蔓延。又云恐家中祖茔上有不洁处，虽不宜挑动，亦不可不打扫。男以皮肤之患，不甚经意，仍读书应酬如故，饮食起居一切如故。男妇服附片、高丽参、熟地、白术等药已五十余日，饭量增加，尚未十分壮健，然行事起居亦复如常。孙男女四人并皆平安，家中仆婢皆好。

前有信言寄金年伯高丽参二两，此万不可少，望如数分送。去年所送戚族银，男至今未见全单。男年轻识浅，断不敢自作主张，然家中诸事，男亦愿闻其详。求大人谕四弟将全单开示为望。

诸弟考试，今年想必有所得。如得入学，但择亲属拜客，不必遍拜，亦不必请酒，盖恐亲戚难于应酬也。

同县邓铁松之病略好，男拟帮钱送他回家，但不知能至家否？宝庆公车邹柳溪死，一切后事皆男经理。谢吉人、黄麓西皆分发江苏，周子佩、夏阶平皆分吏部主事。

曾受恬去年所借钱，不知已寄到否？若未到，须专人去取，万不可再缓。如心斋亦专差，则两家同去；如渠不专差，则我家独去。家中近日用度何如？男意有人做官，则待邻里不可不略松，而家用不可不守旧。不知是否？

男国藩谨禀

## 七月初一日

男国藩跪禀父母亲大人万福金安：

六月二十一日，男发第八号家信，不审到否？中言头上生癣，身上生热毒云云。近日请医细看，头上亦非癣也，皆热毒耳。用生地煮水常洗，或用熬浓汁厚涂患处即愈。现在如法洗涂，大有效验。盖本因血热而起，适当郁蒸天气而发，生地凉血而滋润，所以奏功。特此告知，望大人放心。寓中大小平安。陈岱云之妾于二十二日到京。其幼子寄在男处养者，渠已于二十四日接归自养。同乡各家并皆如旧。

李双圃先生象聘由贵州藩台进京，奉旨以三品京堂候补。虽在渠为左迁，而湖南多一京官，亦自可喜。

今年考试，想四位老弟中必有人洋者。然世事正难逆料，万一皆不得售，则诸弟必牢骚抑郁愤懑不平，此亦人之情也。如果郁忧，则问四弟、六弟、九弟三人中或有愿进京者，不妨来京一游。可以广耳目、豁心胸，可以叙兄弟之乐，亦男所甚望也。如诸弟不愿来，则不必强，恐其到京而急于思归也。如有一位入学者，则亦不必，恐家中既办印卷，又办途费，银钱艰窘也。如皆不进而诸弟又甚愿来，则望大人张罗途费，毋阻其愤发之志而遏其抑郁之气，幸甚。如季弟愿来，则须有一兄同来乃妥。

邓铁松病势日危，恐不复能回南。屡劝之勿服药，渠皆不听，今之病，皆药误之也。

去年大人教男写字不宜斜脚，男近日已力除此弊。自去年六月起，无论行楷大小字皆悬腕悬肘，是以力足而不精致，伏求大人教训。

男谨禀

七月十六日

男国藩跪禀父母亲大人万福金安：

六月二十一日发第八号家信，七月初二日发第九号信，想俱收到。十四日接到四弟在省发信，内有大人手谕。具悉一切，不胜欣慰。家乡一切近事及去年分赠之项，至是始昭然明白矣。

男在京平顺，惟身上热毒至今未好。其色白，约有大指头大一颗，通身约有七八十颗，鼻子两旁有而不成堆。余皆成堆，脱白皮痴，发里及颈上约二十余颗，两胁及胸腹约五十余，现以治癣之法治之。有效与否，尚不敢必。幸喜毫无他病，饮食起居如常，读书写字应酬亦如常。

男妇服补剂渐好。孙儿读《尔雅》后、读《诗经》已至《凯风》。朔望行礼，颇无失仪。孙女及合寓皆平安。

荆七在陈宅，光景尚好。男想叫他回来，不好安置，他亦颀颀不愿回来。若男得主考学政，或放外官，则一定叫他回来，带他上任。京官毫无出息。陈宅有小印结分，故荆七在陈宅比我家好些。男已将此意告荆七，乞家中并告渠兄弟也。

前次写升官信未详职守。詹事府本是东宫辅导太子之官，因本朝另设有上书房教阿哥，故詹事府诸官毫无所事，不过如翰林院为储才养望之地而已。男居此职，仍日以读书为业。

汪觉庵师寿文准于八月折差付回。温甫弟生子不育，想不免伤感。然男三十始生子，六弟今年二十三耳，叔父母不必忧虑。四弟与常家对亲甚好。男拟寄挽联一付挽常老太姻母，亦在下次寄回。

同乡诸家如旧，惟何子贞脚痛已久，恐仓卒难好。邓铁松病亦难

好。余俱平安。

男谨禀

七月三十日

四位老弟足下：

七月十六发第十号家信，想已收到。二十九日折差到京问之，系七月十一在省起行。维时诸弟正在省，想是府考将毕之时，岱云之弟及各家皆有信来京，而我弟无信来，何也？余自十四日接到澄侯六月二十三之信，不胜欣慰，日日望府考信到。乃折差至而竟无信，殊不可解。

余在京身体如常。前日之病，近来请医生姜姓名士冠细看，云是肺胃两家之热发于皮毛，现在自头上颈上以至腹下，无处无之。其大者如钱，小者如豆。其色白，以蜜涂之，则转红紫色，爬破亦无水，不喜着衣盖被，盖燥象也。此外毫无所病，一切饮食起居大小二便并皆如常。据姜医云，须用清凉药，使肺胃之热退尽，然后达于皮毛，不可求速效，两月内则可全好矣。言之甚为有理，余将守其说而不摇。

六弟之文，昨日始找出《乐道人之善》一首。其文甚有识见道理，准于下次折差带回。此外诸弟尚有文在京者否？若有，须写信来清出。

汪觉庵师寿文，今日始作就，付回查收。若有不妥处，即请觉庵师改正可也。

邓铁松病势不轻，于八月初五日起行回南。此人利心甚炽。余去年送大钱十千，今又送盘费十两，渠尚怏怏有缺望。

王荊七自去年不常至我家，昨日因奉父亲大人之命，故唤他来。许他凡我得外差或得外官，即带他出京。他现欢天喜地，常来请安。然自此次惩戒之后，想亦不敢十分嚣张矣。

今年县前列第二名，是葛二一之子关一否？下次书来乞示我。余俟续布。

兄国藩手具

八月二十一日

侄国藩谨启叔父母大人座下：

屢次家书或呈祖父或寄诸弟，想叔父大人皆赐观览，今年已寄十一次矣。而家中诸弟寄京信，侄每嫌其不详。平日在家时寄省无便，侄亦不怪。昨府考以六月十八到省，而折差七月初九进京，诸弟无信。八月初一折差进京，仅四弟一信，六弟、九弟、季弟皆无信。四弟信又太略，府考共考几场？每场是何题目？开点何人？前列何人？皆不写一



句。院考题目，考古题目，道案首及进学何人，亦皆不写一句。去年考试亦如此。侄期望甚切，而毫不能得音信，真不可解。九弟前在京时，望家信亦甚切，而归去后，亦懒于寄信，何也？

侄今年自五月来满身热毒，烦躁之至，加以应酬最繁，而每次家信必详细言之。现在身上热毒，已服药四十余帖尚未得好。据医云虽无大害，然必至十一月乃能去尽。幸饮食起居如恒。因家中客多，不甚清静，于昨十八日移寓吕祖阁庙内，离家不过半里，而在庙内起火食，无事从不归去。家中侄妇及侄孙侄孙女三人皆平安如常。侄孙《诗经》已读至《定之方中》。同乡诸家亦皆如旧。同年中祁宿藻放湖北黄州府知府。本家心斋仙逝，实为可哀，下次折差，必作书慰毅然宗伯。

四弟、六弟不审已进京否？若未来，仍须发奋，不可牢骚度学。

侄谨启

## 九月十七日

侄国藩谨启叔父大人座下：

八月二十二日发十二号家信，想已收到。九月十五、十七连到两折差，又无来信，想四弟、六弟已经来京矣。若使未来，则在省，还家时，必将书信寄京。

侄身上热毒，近日头面大减。请一陈姓医生，每早吃丸药一钱，又小有法术，已请来三次。每次给车马大钱一千二百文。自今年四月得此病，请医甚多，服药亦五十余剂，皆无效验。惟此人来，乃将面上治好，头上已好十分之六，身上尚未好。渠云不过一月即可痊愈。侄起居如常，应酬如故，读书亦如故。惟不做诗文，少写楷书而已。侄妇及侄孙儿女皆平安。

陈岱云现又有病，虽不似前年之甚，而其气甚馁，亦难骤然复元。湘乡邓铁松孝廉于八月初五出京，竟于十一日卒于献县道中。幸有江岷樵忠厚同行，一切附身附棺，必诚必信。此人义侠之士，与侄极好。今年新化孝廉邹柳溪在京久病而死，一切皆江君料理，送其灵柩回南。今又扶铁松之病而送其死，真侠士也。扶两友之柩行数千里，亦极难矣。侄曾作邹君墓志铭，兹付两张回家。今年七月忘付黄芽白菜子，八月底记出，已无及矣。

请封之典，要十月十五始可颁恩诏，大约明年秋间始可寄回。

闻彭庆三爷令郎入学，此是我境后来之秀，不可不加意培植。望于家中贺礼之外，另封贺仪大钱一千，上书侄名，以示奖励。余不具。

侄谨启

## 十月初一日

侄国藩谨启叔父母大人万福金安：

九月十八日发第十三号信，是呈叔父者，二十一日发十四号信，是寄九弟者，想俱收到。二十三日四弟、六弟到京，体气如常。

二十四日皇上御门，侄得升翰林院侍讲学士。每年御门不过四五次，在京各官出缺，此时未经放人者，则候御门之日简放，以示需人于朝与众共之之意。侄三次升官，皆御门时特擢。天恩高厚，不知所报。

侄合家平安。身上疮毒尚未尽净，惟面上于半月内全好。故谢恩召见，不至顾越以诒羞，此尤大幸也。

前次写信回家，内有寄家毅然宗丈一封，言由长沙金年伯家寄去。心斋之母莫仪三十金，此项本罗苏溪寄者，托侄转交，故侄兑与周揖瑞用，由周家递金家。顷闻四弟言，此项已作途费矣。则毅然伯家莫分必须家中赶紧办出付去，万不可失信。谢兴岐曾借去银三十两，若还来甚好；若未还，求家中另行办去。又黄麓西借侄银二十两，亦闻家中已收。

侄在京借银与人颇多，若侄不写信告家中者，则家中不必收取。盖在外与居乡不同，居乡者紧守银钱，自可致富；在外者有紧有松，有发有收，所谓大门无出，耳门亦无人。全仗名声好，乃扯得活；若名声不好，专靠自己收藏之银，则不过一年，即用尽矣。以后外人借侄银者，仍使送还京中，家中不必收取。去年蔡朝十曾借侄钱三十千，侄已应允作文昌阁捐项，家中亦不必收取。盖侄言不信，则日后虽有求于人，人谁肯应哉？侄于银钱之间，但求四处活动，望堂上大人谅之。

又闻四弟、六弟言父亲大人近来常到省城县城，曾为蒋市街曾家说坟山事、长寿庵和尚说命案事。此虽积德之举，然亦是干预公事。侄现在京四品，外放即是臬司。凡乡绅管公事，地方官无不衔恨。无论有理无理，苟非己事，皆不宜与闻。地方官外面应酬，心实鄙薄，设或敢于侮慢，则侄藐然为官而不能免亲之受辱，其负疚当何如耶？以后无论何事，望劝父亲总不到县，总不管事，虽纳税正供，使人至县。伏求堂上大人鉴此苦心，侄时时挂念独此耳。

侄谨启

## 十月二十九日

男国藩跪禀父母亲大人万福金安：

十月初二，男发十五号家信。二十八日接到手谕第九号，系九月底

在县城所发者。

男等在京平安。男身上疮毒至今未得全好。中间自九月中旬数日，即将面上痊愈，毫无痼痕，系陈医之力，故升官时召见无陨越之虞。十月下半月，又觉微有痕迹，头上仍有白皴皮，身上尚如九月之常。照前七八月，则已去其大半矣。一切饮食起居，毫无患苦。四弟、六弟用功皆有定课，昨二十八始开课作文。孙男纪泽《郑风》已读毕，《古诗十九首》亦已读毕。男妇及三孙女皆平顺。

前信言宗毅然家银三十两，可将谢山益家一项去还。顷接山益信，云渠去江西时，嘱其子办苏布平元丝银四十两还我家，想送到矣。如已到，即望大人将银并男前信送毅然家。渠是纹银，我还元丝，必须加水，还他三十二两可也。萧辛五处鹿胶，准在今冬寄到。

初十皇太后七旬万寿，皇上率千官行礼，四位阿哥皆骑马而来。七阿哥仅八岁，亦骑马雍容，真龙种气象。十五日皇上颁恩诏于太和殿。十六日又生一阿哥。皇上于辛丑年六秩，壬寅年生八阿哥，乙巳又生九阿哥，圣躬老而弥康如此。

男得请封章，如今年可用玺，则明春可寄回；如明更用玺，则秋间寄回。然既得诏旨，则虽浩轴未归，而恩已至矣。望祖父先换蓝顶，其四品补服，俟男在京寄回，可与浩轴并付。湖南各家俱平安。余俟续具。

男谨禀

## 十一月二十日

男国藩跪禀父母亲大人万福金安：

十一月初一发十六号家信，内有覃恩条例单，不知收到否？男头上疮毒至今未愈。近日每天洗二次，夜洗药水，早洗开水。本无大毒，或可因勤洗而好。闻四弟言家中连年生热毒者八人，并男共九人，恐祖坟有不洁净处，望时时打扫，但不可妄为动土，致惊幽灵。

四弟、六弟及儿妇孙男女等皆平安。男近与同年会课作赋，每日看书如常，饮食起居如故。四弟课纪泽读，师徒皆有常程。六弟文章极好，拟明年纳监下场，但现无银，不知张罗得就否。

同乡唐镜海先生已告病，明春即将回南。所著《国朝学案》一书，系男约同人代为发刻，其刻价则系耦庚先生所出。前门内有义塾，每年延师八人，教贫困户子弟三百余人。昨首事杜姓已死，男约同人接管其事，亦系集腋成裘，男花费亦无几。

纪泽虽从四弟读书，而李竹屋先生尚在男宅住。渠颇思南归，但未十分定计耳。

造封二轴，今年不能用玺，明年乃可寄回。

萧辛五七月处，已于十一月寄鹿胶一斤、阿胶半斤与他。家中若需鹿胶、阿胶，望付信来京，以便觅寄。

男谨禀

## 道光二十六年丙午岁

正月初三日

男国藩跪禀父母亲大人万福金安，

乙巳十一月二十二日发家信十七号。其日同乡彭棣楼放广西思恩府知府。二十四日，陈岱云放江西吉安府知府。岱云年仅三十二岁，而以翰林出为太守，亦近来所仅见者。人皆代渠庆幸，而渠深以未得主考、学政为恨。且近日外官情形，动多掣肘，不如京官清贵安稳，能得外差，因为幸事，即不得差，亦可读书养望，不染尘垢。岱云虽以得郡为荣，仍以失去玉堂为悔。自放官后，摒挡月余，已于十二月二十八出京。是夕渠有家书到京，男折开。

接大人十一月二十四所示手谕，内叔父及九弟季弟各一信、彭菊庵表叔一信，具悉家中一切事。前信言莫管闲事，非恐大人出入衙门，盖以我邑书吏欺人肥己，党邪嫉正，设有公正之乡绅，取彼所鱼肉之善良而扶植之，取彼所朋比之狐鼠而锄抑之，则于彼大有不便，必且造作谣言，加我以不美之名，进谗于官，代我构不解之怨。而官亦阴庇彼辈，外虽以好言待我，实则暗笑之而深斥之，甚且当面嘲讽。且此门一开，则求者踵至，必将日不暇给，不如一切谢绝。今大人手示，亦云杜门谢客。此男所深为庆幸者也。

男身体平安。热毒至今未好，涂药则稍愈，总不能断根。十二月十二，蒙恩补充日讲起居注官。二十二日，又得充文渊阁直阁事。两次恭谢天恩，兹并将原折付回。讲官共十八人，满八缺，汉十缺。其职司则皇上所到之处，须轮四人侍立。直阁事四缺，不分满汉，其职司则皇上临御经筵之日，四人皆侍立而已。

四弟、六弟皆有进境。孙男读书已至《陈风》。男妇及孙女等皆好。

欧阳牧云有信来京，与男商请封及荐馆事。二事男俱不能应允，故作书宛转告之。外办江绸套料一件、高丽参二两、鹿胶一斤、对联一付，为岳父庆祝之仪。恐省城寄家不便，故托彭棣楼带至衡阳学署。

朱尧阶每年赠谷四十石，受惠太多，恐难为报，今年必当辞却。小斗四十石不过值钱四十千，男每年可付此数到家，不可再受他谷，望家中力辞之。毅然家之银想已送矣；若未送，须秤元银三十二两，以渠来系纹银也。

男有挽联，托岱云交萧辛五转寄毅然家，想可无误。岱云归，男寄有冬菜十斤、阿胶二斤、笔四枝、墨四条、同门录十本。彭榱楼归，男寄有蓝顶二个、四品补服四付，俱交萧辛五家转寄。伏乞查收。

男谨禀

## 二月十六日

男国藩跪禀父母亲大人万福金安：

正月初三日发第一号家信。初七日彭榱楼太守出京，男寄补服四付、蓝顶二个，又寄欧阳沧溟先生江绸褂料一件、对联一付、高丽参二两、鹿胶一斤，又寄彭茆庵表叔鹿胶一斤。二月初寄第三号家信。想俱收到。

男等在京合室平安。男病尚未痊愈，二月初吃龙胆泻肝汤，甚为受累，始知病在肝虚。近来专服补肝之品，颇觉有效。以首乌为君，而加以蒺藜、山药、赤芍、兔丝诸味。男此时不求疮痍遽好，但求脏腑无病，身体如常，即为如天之福。今年虽不能得差，男亦毫无怨尤。

同乡张钟连丁艰，男代为张罗一切，令之即日奔丧回里。黎榱乔于二月十四到京。

四弟近日读书，专以求解为急，每日摘疑义二条来问。为男煮药求医及纪泽教读，皆四弟独任其劳。六弟近日文思大进，每月作四书文六首、经文三首，同人无不击节称赏。

请封之事，大约六月可以用玺，秋冬可以寄家。余详四弟书中。

男谨禀

## 三月二十五日

男国藩跪禀父母亲大人万福金安：

上次男写信略述癖病情形，有不去考差之意。近有一张姓医，包一个月治好。偶试一处，居然有验，现在赶紧医治。如果得好，男仍定去考差；若不愈，则不去考差。总之，考与不考，皆无关紧要。考而得之，不过多得钱耳；考而不得，与不考同，亦未必不可支持度日。每年考差三百余人，而得差者通共不过七十余人。故终身翰林屡考差而不得者，亦常有也，如我邑邓笔山、罗九峰是已。男只求平安，伏望堂上

大人勿以得差為望。

四弟已寫信言男病，男恐大人不放心，故特書此紙。

男謹稟

四月十六日

子植、季洪兩弟左右：

四月十四日接子植二月三日兩次手書，又接季洪信一片。子植何其詳，季洪何其略也！今年以來，京中已發信七號，不審俱收到否？第六號、第七號余皆有稟呈堂上，言今年恐不考差。彼時身體雖平安，而癰疥之疾未愈，頭上面上頸上并斑剝陸離，恐不便于陛見，故情願不考差。恐堂上諸大人不放心，故特作白折楷信，以安慰老親之念。

三月初有直隸張姓醫生，言最善治癰，貼膏藥于癰上，三日一換，貼三次，即可拔出膿水，貼七次，即痊愈矣。初十日，令于左脇試貼一處，果有效驗。二十日即令貼頭面頸上，至四月八日，而七次皆已貼畢。將膏藥揭去，僅余紅暈，向之厚皮頑癰，今已蕩然平矣。十五六即貼遍身，計不過半月，即可畢事，至五月初旬考差而遍身已全好矣。現在仍寫白折，一定赴試。虽得不得自有一定，不敢妄想，而苟能赴考，亦可上慰高堂諸大人期望之心。

高中大小安吉。惟溫雨前月底偶感冒風寒，遂痛左膝，服藥二三帖不效，請外科開一針而愈。澄弟去年習柳字，殊不足觀。今年改習趙字，而參以李北海《云麾碑》之筆意，大為長進。溫弟時文已才華橫溢，長安諸友多稱賞之。書法以命意太高，筆不足以赴其所見。故在溫老自不稱意，而人亦無由稱之。故論文則溫高于澄，澄難為兄；論書則澄高于溫，溫難為弟。子植書法駕馭澄、溫而上之，可愛之至！可愛之至！但不知家中旧有《和尚碑》徐浩書及《郭家廟》顏真卿書否？若能參以二帖之沉着，則直追古人不難矣。

狼兼毫四枝既不合用，可以二枝送莘田叔，以二枝送菊庵表叔。正月間曾在岱云處寄羊毫二枝，不知已收到否？至五月鍾子賓名音鴻，戊戌同年。放辰州府知府太守往湖南，又可再寄二枝。以後兩弟需用之物，隨時写信至京可也。

祖父大人囑買四川漆，現在四川門生留京者僅二人戴鼎賢、陳世鑑，皆極寒之士。由京至渠家有五千余里，由四川至湖南有四千余里，彼此路皆太遠。此二人在京常半年不能得家信，即令彼能寄信至渠家，渠家亦万无便可附湖南。九弟須詳稟祖父大人，不如在省以重價購頂上川漆為便。做直牌匾，祖父大人系貽封中充大夫，父親系誥封中充大夫，祖母貽封恭人，母親誥封恭人。京官中加一級請封，侍講學士是从

四品，故堂上皆正四品也。蓝顶是暗蓝，余正月已寄回两顶矣。

书不宜尽，诸详澄、温书中。今日身上敷药，不及为楷。堂上诸大人，两弟代为禀告可也。

## 五月十七日

男国藩跪禀父母亲大人万福金安：

四月十七日，男发第八号家信，言男一定考差。五月初二日赴圆明园，初六日在正大光明殿考试，共二百七十人入场，湖南凡十二人。首题“无为小人儒”，次题“任官惟贤才”一节，诗题“灵雨既零”得“沾”字。男两文各七百字，全卷未错落一字。惟久病之后两眼朦胧，场中写前二开不甚得意，后五开略好。

今年考差，好手甚多，男卷难于出色。兹命四弟耆头篇与诗一首寄回，伏乞大人赐观。知男在场中不敢潦草，则知男病后精神毫无伤损，可以放心；知男写卷不得意，则求大人不必悬望得差。堂上大人不以男病为忧，不以得差为望，则男心安恬矣。

男身上痲疾，经张医调治，已愈十之七矣。若从此渐渐好去，不过闰月可奏全效。寓中大小平安。男妇有梦熊之喜，大约八九月当生。四弟书法日日长进。冯树堂于五月十七到京，以后纪泽仍请树堂教，四弟可专心读书。六弟捐监，拟于本月内上兑，填写三代履历、里邻户长一切，男自斟酌，大人尽可放心。纪泽生书已读至“浩浩昊天”，古诗已读半本，书皆熟。三孙女皆平安。

同乡各家皆如常，惟相周易问高文浚丁艰。湖南在京小考人学者六人，皆系好手。黄正斋小京官六年报满，三月已升主事。杜兰溪四月升官员外郎，今年亦与考差。

京师今年久旱，屡次求雨，尚未优渥，皇上焦思。未知南省年岁何如也？

男谨禀

## 闰五月十五日

男国藩跪禀父母亲大人万福金安：

五月十八日发第九号家信，内有考差诗文。男自考差后，痲疾日愈，现在头面已不甚显矣。身上自腰以上亦十去七八，自腿以下尚未治。万一放差，尽可面圣谢恩。但如此顽病而得渐好，已为非常之喜，不敢复设妄想矣。

六弟捐监，于五月二十八日具呈，闰月初兑银，二十一日可领照，

六月初一日可至国子监考到，十五即可录科。仰承祖父、叔父之余荫，六弟幸得成就功名，敬贺敬贺。

男身体平安，现补气服汤药，内有高丽参、焦术。男妇及孙男女四人并如常。四弟自树堂来教书之后，四弟工课益勤。六弟近日文章虽无大进，亦未荒怠。余俟续呈。

男谨禀

## 七月初三日

男国藩跪禀父母亲大人万福金安：

闰五月二十六日，男发家信第十一号，想已收到。邹云陔出粤西差，男寄有高丽参半斤、鹿胶一斤、膏药三十个、眼药三包、张湘纹金顶一品。大约七月初可到省城，家中月半后可接到也。

六弟六月初一日在国子监考到，题“视其所以”，经题“闻善以相告也”二句。六弟取列一百三名。二十五日录科，题“齐之以礼”，诗题“荷珠”得“珠”字，六弟亦取列百余名。两次皆二百余人入场。

男等身体皆平安，男妇及孙男女皆安泰。今年诰封轴数甚多，闻须八月始能办完发下。男于八月领到，即恳湖南新学院带至长沙，男另办祖父母寿屏一架，华山石刻陈抟所书寿字一个，新刻诰封卷一百本，共四件。皆交新学院带回，转交陈岱云家。求父亲大人于九月二十六七赴省。邹云陔由广西归，过长沙不过十月初旬。渠有还男银八十两，面订交陈季牧手。父亲或面会云陔，或不去会他，即在陈宅接银亦可。十月下旬新学院即可到省，渠有关防，父亲万不可去拜他，但在陈家接诰轴可也。若新学院与男素不相识，则男另觅妥便寄回，亦在十月底可到省，最迟亦不过十一月初旬。父亲接到，带归县城，寄放相好人家或店内，至二十六日令九弟下县去接。二十八日夜，九弟宿贺家垌等处。二十九日祖母大人八十大寿，用吹手执事接诰封数里。接至家，于门外向北置一香案，案上竖圣旨牌位，将诰轴置于案上，祖父母率父母望北行三跪九叩首礼。

寿屏请萧史楼写。史楼现未得差，若八月不放学政，则渠必告假回籍，诰轴托渠带归亦可也。一切男自知裁酌。兹寄回黄芽白菜子一包查收。余俟续呈。

男谨禀



## 九月十九日

男国藩跪禀父母亲大人万福金安：

九月十七日接读第五、第六两号家信。喜堂上各老人安康，家事顺遂，无任欣慰。

男今年不得差，六弟乡试不售，想堂上大人不免内忧；然男则正以不得为喜。盖天下之理，满则招损，亢则有悔，日中则昃，月盈则亏，至当不易之理也。男毫无学识而官至学士，频邀非分之荣，祖父母、父母皆康强，可谓极盛矣。现在京官翰林中无重庆下者，惟我家独享难得之福。是以男栗栗恐惧，不敢求分外之荣，但求堂上大人眠食如常，阖家平安，即为至幸。万望祖父母、父母、叔父母无以男不得差，六弟不中为虑，则大慰矣。况男三次考差，两次已得；六弟初次下场，年纪尚轻，尤不必挂心也。

同县黄正斋，乡试当外帘差，出闹即患痰病，时明时昏，近日略愈。

男痼疾近日大好，头面全看不见，身上亦好九分。十八生女，男妇极平安。惟体太弱，满月当大补养。在京一切，男自知谨慎。

八月二十三日，折差处发第十四号信。二十七日，周绶云处寄寿屏，发十五号信。九月十二日，善化郑七处寄诰封卷六十本，发第十六号信。均求查收。

男国藩

## 十月十五日

男国藩跪禀父母亲大人万福金安：

九月十九日发第十七号信，十月初五发十八号信，谅已收到。十二三四日内诰轴用宝，大约十八日可领到。同乡夏阶平吏部家奉丁内艰，二十日起程回南。男因渠是素服，不便托带诰轴，又恐其在道上拜客，或有耽擱。祖母大人于出月二十九大寿，若赶紧送回，尚可于寿辰迎接诰轴。是以特命四弟束装出京，专送诰轴回家，与夏阶平同伴，计十一月十七八可到汉口。汉口到岳州不过三四天，岳州风顺则坐船，风不顺则雇轿，五天可到家。四弟到省即专人回家，以便家中办事，迎接诰命。

第凡事难以逆料，恐四弟道上或有风水阻隔，不能赶上祖母寿辰亦未可知。家中做生日酒，且不必办接诰封事。若四弟能到，二十七日有信，二十八办敦手香亭，二十九接封可也。若二十七无四弟到省之信，

则二十九但办寿筵，明年正月初八接封可也。倘四弟不归而托别人，不特二十九赶不上，恐初八亦接不到。此男所以特命四弟送归之意耳。

四弟数千里来京，伊意不愿遽归。男与国子监祭酒车意园先生商议，令四弟在国子监报名，先缴银数十两，即可给予顶戴。男因具呈为四弟报名，先缴银三十两，其余俟明年陆续缴纳。缴完之日，即可领照。男以此打发四弟，四弟亦欣然感谢，且言愿在家中帮堂上大人照料家事，不愿再应小考。男亦颇以为然。

男等在京身体平安，男妇生女后亦平善。六弟决计留京。九弟在江西有信来，甚好。陈岱云待之如胞弟，饮食教诲，极为可感，书法亦大有长进。然无故而依人，究似非宜。男写书与九弟，嘱其今年偕郭筠仙同伴回家，大约年底可到家。男在京一切用度自有调停，家中不必挂心。

男谨禀

曾國藩家書卷之三

道光二十七年丁未歲

正月十七日

孫男國藩跪稟祖父大人萬福金安：

去年十二月十七發第二十二號信并挽聯一包、朱心泉誥命一軸，交徐玉山太守帶交蕭辛五處，想三月可到。又于二十日發第二十三號信交折弁，想二月可到。新正十五日，接到家中十一月十九所發信，敬悉大人之病已愈大半。不知近日得全愈否？孫去冬信言須參用化痰之藥，不知可從否？

祖母已于十二月初十安葬，甚好甚好，但孫有略不放心者。孫幸蒙祖父福佑，忝居卿大夫之末，則祖母墳茔必須局面宏敞。其墓下拜掃之處須寬闊，其外須建立誥封牌坊，又其外須立神道碑。木斗冲規模隘小，离河太近，无立牌坊与神道碑之地。是以孫不甚放心，意欲从容另寻一地，以图改葬。不求富贵吉祥，但求无水较无凶险，面前宏敞而已。不知大人以为何如？若可，则家中在近境四十里内从容寻地可也。余俟续具。

孫謹稟

正月十八日

男國藩跪稟父母親大人禮次：

正月十五日接到父親、叔父十一月二十所發手書，敬悉一切。但折弁于臘月二十八在長沙起程，不知四弟何以尚未到省？

祖母葬地，易敬臣之說甚是。男去冬已寫信與朱堯階，請渠尋地。茲又寄信與敬臣。堯階看妥之後，可請敬臣一看。以堯階為主，而以敬臣為輔。堯階看定後，若毫無疑義，不再請敬臣可也；若有疑義，則請渠二人商之。男書先寄去，若請他時，四弟再寫一信去。男有信稟祖父

## 曾国藩家书

大人，不知祖父可允从否？若执意不听，则遵命不敢违拗。求大人相机而行。

大人念及京中恐无钱用。男在京事事省俭，偶值匮乏之时，尚有朋友可以通挪。去年家中收各项约共五百金，望收藏二百勿用，以备不时之需。丁、戊二年不考差，恐男无钱寄回。男在京用度自有打算，大人不必挂心。

此间情形，四弟必能详言之。家中办丧事情形，亦望四弟详告。共发孝衣几十件？殓祭几堂？远处来吊者几人？——细载为幸。

男身体平安。一男四女，痘后俱好。男妇亦如常。

闻母亲想六弟回家，叔父信来，亦欲六弟随公车南旋。此事须由六弟自家作主，男不劝之归，亦不敢留。家中诸务浩繁，四弟可一人经理。九弟、季弟必须读书，万不可耽擱他。九弟、季弟亦万不可懒散自弃。去年江西之行，已不免为人所窃笑，以后切不可轻举妄动。只要天不管地不管，伏案用功而已。男在京时时想望者，只望诸弟中有一发愤自立之人，虽不得科名，亦是男的大帮手。万望家中勿以琐事耽擱九弟、季弟，亦望两弟鉴我苦心，结实用功也。

男之痲疾近又小发，但不似去春之甚耳。同乡各家如常。刘月槎已于十五日到京。余俟续呈。

男谨禀

## 二月十二日

澄侯、子植、季洪三弟左右：

二月二十一日接到三弟正月初旬手书，具悉一切。澄侯以腊月二十三至岳州，余见罗芸皋已知之。后过湖又阻风，竟走七十余天始到。人事之难测如此！吾弟此后又添了阅历工夫矣。黎榭乔托带之件，当装车时，吾语弟曰：“此物在大箱旁边恐不妥，弟明日到店，须另安置善地。”不知弟犹记得我言否？出门人事事皆须细心。今既已弄坏，则亦不必过于着急。盖此事黎榭翁与弟当分任其咎。两人皆粗心，不得专责弟一人也。

祖父大人之病久不见效，兄细思之，恐有火，不宜服热药。盖祖父体赋素强，丁酉之春以服补药之故，竟成大病。后泽六爷以凉药治好。此次每日能吃三中碗饭，则火未甚衰，恐医者不察，徒见小便太数，则以为火衰所致，概以热药投之，亦足误事。兄不明医理，又难遥度，而回忆丁酉年之往事，又闻陶云汀先生为补药所误之说，特书告家中。望

与名医细商，不知有可服凉药之理否？兄自去年接祖母讣后，即日日思抽身南归，无如欲为归计，有三难焉：现在京寓欠账五百多金，欲归则无钱还账，而来往途费亦须四百金，甚难措办。一难也。不带家眷而归，则恐我在家或有事留住，不能遽还京师，是两头牵挂；如带家眷，则途费更多，家中又无房屋。二难也。我一人回家，轻身快马，不过半年可以还京。第开缺之后，明年恐尚不能补缺，又须在京闲住一年。三难也。

有此三难，是以踌躇不决。而梦寐之中，时时想念堂上老人，望诸弟将兄意详告祖父及父母。如堂上有望我回家之意，则弟书信与我，我概将家眷留在京师，我立即回家。如堂上老人无望我归省之意，则我亦不敢轻举妄动。下次写信，务必详细书堂上各位老人之意。

祖母之葬事既已办得坚固，则不必说及他事。日前所开山向吉凶之说，亦未可尽信。山向之说，地理也；祖父有命而子孙从之，天理也。祖父之意已坚，而为子孙者乃拂违其意，而改卜他处，则祖父一怒，肝气必郁，病势必加，是大逆天理；虽得吉地，犹将变凶，而况未必吉乎？自今以后不必再提改葬之说，或吉或凶，听天由命。即朱尧阶、易敬臣，亦不必请他寻地。尧阶二人如看得有妥地，亦不妨买。四弟则在家帮父亲、叔父管家事，时时不离祖父左右。九弟、季弟则专心读书。只要事事不违天理，则地理之说，可置之不论不议矣。

吾身之癣，春间又发，特不如去岁之甚。面上颈上则与弟出京时一样，未再发也。六弟近日颇发愤，早间亦能早起。纪泽《诗经》尚未读完，现系竹屋教，总多间断，将来必要请一最能专馆之人。

黎樾乔御史报满引见，回原衙门行走。黄正斋之长子于正月初间失去，至今尚未归来。邓星阶就正斋之馆，李希庵就杜兰溪之馆，系我所荐。同县刘九爷、罗邹二人及新科三人皆已到京，住新馆。江岷樵住张相公庙，去我家甚近。郭筠仙尚未到。袁漱六于正月二十四到京，现在家眷住北半截胡同。周荇农尚未到。杨春皆于正月二日生一子。刘药云移寓虎坊桥，其病已全好。赵崧原之妻于正月仙逝。舒伯鲁二月出都。我家碾儿胡同房东将归，三四月必须搬家。黄秋农之银已付来，加利息十两，兄意欲退还他。

九弟、季弟读书，开口便有自画之意。见得年纪已大，功名无成，遂有懒惰之意。此万万不可。兄之乡试座师余晓邨、许吉斋两先生，会试房师季仙九先生，皆系二十六七人洋，三十余岁中举，四十余岁入词林。诸弟但须日日用功，万不能作叹老嗟卑之想。譬如人欲之京师，一

## 曾国藩家书

步不动而长吁短叹，但曰京师之远，岂我所能到乎？则旁观者必笑之矣。吾愿吾弟步步前行，日日不止，自有到期，不必计算远近而徒长吁短叹也。望澄侯时时将此譬喻说与子植、季洪听之，千万千万！无意见！

九弟信言诸妯娌不甚相能，尤望诸弟修身型妻，力变此风。若非诸弟痛责己躬，则内之气象必不改，而乖戾之致咎不远矣。望诸弟熟读《训俗遗规》、《教女遗规》，以责己躬，以教妻子。此事全赖澄弟为之表率，关系至大，千万千万！不胜殷切之至！伏惟留心自反为幸。

兄国藩手草

### 三月初十日

男国藩跪禀父母亲大人膝下：

昨初九日已刻接读大人示谕及诸弟信，藉悉一切。祖父大人之病已渐愈，不胜祷祝，想可由此而痊愈也。男前与朱家信言无时不思乡土，亦久宦之人所不免，故前次家信亦言之。今即承大人之命，男则一意服官，不敢违拗，不作是想矣。

昨初六日派总裁房差，同乡惟黄恕皆一人。单另列，初八日题目亦另列。男今年又不得差，则家中气运不致太宜泄，祖父大人之病必可以速愈，诸弟今年或亦可以入学，此盈虚自然之理也。

男病虽发，不甚狠，近用蒋医方朝夕治之。渠言此病不要紧，可以徐愈。治病既好，渠亦不要钱。两大人不必悬念。男妇及华男、孙男女身体俱好，均无庸挂虑。男等所望者，惟祖父大人病之速愈，暨两大人之节劳，叔母目疾速愈，俾叔父宽怀耳。余容另禀。

### 三月初十日

澄侯四弟、子植九弟、季洪二弟左右：

二月十一接到第一、第二号来信，三月初十接到第三、四、五、六号来信，系正月十二、十八、二十二及二月朔日所发而一次收到。家中诸事琐屑毕知，不胜欢慰。

祖父大人之病竟以服沉香少愈，幸甚。然予终疑祖父大人之体本好，因服补药太多，致火壅于上焦，不能下降。虽服沉香而愈，尚恐非切中青紫之剂。要须服清导之品，降火滋阴为妙。予虽不知医理，窃疑必须如此，上次家书亦曾写及。不知曾与诸医商酌否？丁酉年祖大人之

病，亦误服补剂，赖泽六爷投以凉药而效。此次何以总不请泽六爷一诊？泽六爷近年待我家甚好，即不请他诊病，亦须澄弟到他处常常来往，不可太疏，大小喜事宜常送礼。

尧阶既允为我觅妥地，如其觅得，即听渠买。买后或迁或否，仍由堂上大人作主，诸弟不必执见。

上次信言予思归甚切，属弟探堂上大人意思何如。顷奉父亲手书，责我甚切。兄自是谨遵父命，不敢作归计矣。

郭筠仙兄弟于二月二十到京。筠仙与其叔及江岷樵住张相公庙，去我家甚近。甥臣即住我家。树堂亦在我家人场。我家又添二人伏侍李、郭二君。大约榜后退一人，只用一打杂人耳。

筠仙自江西来，述岱云母子之意，欲我将第二女许配渠第二子，求婚之意甚诚。前年岱云在京，亦曾托曹西垣说及，予答以缓几年再议。今又托筠仙为媒，情与势皆不可却。岱云兄弟之为人与其居官治家之道，九弟在江西一一目击。烦九弟细告父母，并告祖父，求堂上大人吩咐。或对或否，以便回江西之信。予夫妻现无成见。对之意已有六分，不对之意亦有四分，但求堂上大人主张。

九弟去年在江西，予前信稍有微词，不过恐人看轻耳。仔细思之，亦无妨碍，且有莫之为而为者，九弟不必自悔艾也。

穉儿胡同之屋，房东四月要回京，予已看南横街圆通观东间壁房屋一所，大约三月尾可移寓。此房系汪醇卿之宅，教习门生汪廷儒。比穉儿胡同狭一小半，取其不费力易搬，故暂移彼。若有好房，当再迁移。

黄秋农之银已付还，加利十两，予仍退之。周子佩于三月三日喜事。正斋之子竟尚未归。黄菊卿、周韩臣闻皆将告假回籍，菊卿已定十七日起行。刘盛唐得痼疾，不能入闱，可悯之至。袁漱六到京数日，即下园子用功。其夫人生女仅三日即下船进京，可谓胆大。周荐农散馆，至今未到，其胆尤大。曾仪斋来途正月二十六在省起行，二月二十九日到京。凌笛舟正月二十八起行，亦二十九到京，可谓快极。而澄弟出京，偏延至七十余天始到，人事之无定如此！新举人复试题“人而无恒”二句，赋得“仓庚鸣”得“鸣”字。四等十一人，各罚会试二科，湖南无之。

我身痲疾，春间略发而不甚为害。有人说方，将石灰澄清水用水调桐油搽之，则白皮立去，如前年搽铜绿膏。予现二三日一搽，使之不起白皮，剃头后不过微露红影，不甚红。虽召见亦无碍。除头顶外，他处皆不搽，以其仅能济一时，不能除根也。内人及子女皆平安。

今年分房，同乡仅起皆，同年仅松泉与寄云大弟，未免太少。余虽不得差，一切自有张罗，家中不必挂心。今日予写信颇多，又系冯、李诸君出场之日，实无片刻暇，故予未作楷信禀堂上，乞弟为我说明。

澄弟理家事之间，须时时看《五种遗规》，植弟、洪弟须发愤读书，不必管家事。

兄国藩草

六月十七日

孙国藩跪禀祖父大人万福金安：

六月十五日接家中第九号信，系四月初三日四弟在县城发者。知祖父身体康强，服刘三爷之药，旧恙已经全愈，孙等不胜欣喜。前五月底，孙发第五号信，言大考蒙恩记名赏给事，想家中已收到。

六月初二，孙荷蒙皇上破格天恩，升授内阁学士兼礼部侍郎衔。由从四品骤升二品，超越四级，迁擢不次，惶悚实深。初六日考试教习，孙又蒙天恩派为阅卷大臣。初六日入闱，初七日王大臣点名。士子入闱者，进士、举人共三百八十余名，贡生入闱者一百七十余名。初八早发题纸，十一日发榜，十三日复试，十四日复命。初三日谢恩及十四复命，两次召见，奏对尚无愆误，教习取中额数共一百二十一名，湖南得取十一人，另有全单。

十七日冯树堂回南，孙寄回红顶二个、二品补服三付及他物，另有单。大约八月初旬可到省，存陈季牧家中。望大人于中秋前后专人至省来接，命九弟写信与季牧可也。

孙等身体平安，痼疾已将全好，头上竟看不见。孙妇及曾孙男女皆好。余俟续具。

孙谨禀

六月十七日

侄国藩敬禀叔父婶母大人万福金安：

新年两次禀安，未得另书敬告一切。侄以庸鄙无知，托祖宗之福荫，幸窃禄位，时时抚衷滋愧。兹于本月大考，复荷皇上天恩，越四级而超升。任何德何能堪此殊荣！常恐祖宗积累之福，自我一人享尽，大可惧也，望叔父作书教侄，幸甚。

金竺虔归，寄回银五十两。其四十两用法：六弟、九弟在省读书用



二十六两，四弟、季弟学俸六两，买漆四两，欧阳太岳母奠金四两。前第三号信业已载明矣。后又有十两，若作家中用度则嫌其太少，添此无益，减此无损。侄意戚族中有最苦者，不得不些须顾送。求叔父将此十金换钱，分送最亲最苦之处。叔父于无意中送他，万不可说出自侄之意，使未得者有觖望有怨言。二伯祖母处，或不送钱，按期送肉与油盐之类，随叔父斟酌行之可也。

侄謹稟

## 六月十八日

澄侯、子植、季洪三位老弟足下：

五月寄去一信，内有大考赋稿，想已收到。

六月二日蒙皇上天恩及祖父德泽，予得超升内阁学士。顾影忖心，实深惭悚。湖南三十七岁至二品者，本朝尚无一人。予之德薄才劣，何以堪此！近来中进士十年得阁学者，惟壬辰季仙九师、乙未张小浦及予三人。而予之才地，实不及彼二人远甚，以是尤深愧疚。

冯树堂就易念园馆，系予所荐，以书启兼教读，每年得百六十金。李竹屋出京后，已来信四封。在保定，谕制台赠以三十金，且留乾馆与他。在江苏，陆立夫先生亦荐乾俸馆与他。渠甚感激我。考教习，余为总裁，而同乡寒士如蔡贞斋等皆不得取，余实抱愧。

寄回祖父、父亲袍褂二付。祖父系夹的，宜好好收拾。每月一看，数月一晒，百岁之后，即以此为敛服，以其为天恩所赐，其材料外间买不出也。父亲做棉的，则不妨长着，不必为深远之计。盖父亲年未六十，将来或更有君恩赐服，亦未可知。

祖母大人葬后，家中诸事顺遂，祖父之病已好，予之痼疾亦愈，且骤升至二品，则风水之好可知，万万不可改葬。若再改葬，则谓之不祥，且大不孝矣。然其地予究嫌其面前不甚宽敞，不便立牌坊起造封碑亭，又不便起享堂立神道碑。予意欲仍求尧阶相一吉地，为祖父大人将来寿藏。弟可将此意稟告祖父，不知可见允否？盖造封碑亭，断不可不修，而祖母又断不可改葬，将来势不能合葬。乞稟告祖父，总以祖父之意定为。

前此问长女对袁家，次女对陈家，不知堂上之意如何？现在陈家信来，谓我家一定对，渠甚欢喜。余容后具。

兄国藩草

## 六月二十七日

男国藩跪禀父母亲大人礼次：

十八日发第八号信，言升官事，欲萧辛五先生专人送回，计七月中旬可以到家。昨又接四弟六月初一日所发之信，借悉一切。于祖父大人之病略不言及，惟言至刘家更补药方，可以长服者，则病已尽除矣。游子闻之，不胜欣幸之至。

男升官后，应酬较繁，用费较广，而俸人亦较多，可以应用，不至窘迫。昨派教习总裁，门生来见者多，共收贽敬二百余金，而南省同乡均未受，不在此数。

前陈岱云托郭筠仙说媒，欲男以二女儿配伊次子。男比写信告禀，求堂上决可否。昨四弟来信，言堂上皆许可。男将于秋间择期订盟。前信又言以大女儿许袁漱六之长子，是男等先与袁家说及。漱六尚有品学，其子亦聪明伶俐。与之结婚，谅无不可，亦求堂上大人示知。

藩男癖疾将近全愈，尚略有形影，而日见日好。华男身体甚壮健，余大小男女俱平安，堂上不必挂念。余俟另禀。

男百拜呈

## 六月二十七日

澄侯、子植、季洪三弟足下：

自四月二十七日得大考谕旨以后，二十九日发家信，五月十八又发一信，二十九又发一信，六月十八又发一信，不审俱收到否？二十五日接到澄弟六月一日所发信，具悉一切，欣慰之至。

发卷所走各家，一半系余旧友，惟屢次扰人，心殊不安。我自从我己亥年在外把戏，至今以为恨事。将来万一作外官，或督抚，或学政，从前施情于我者，或数百，或数千，皆钓饵也。渠若到任上来，不应则失之刻薄，应之则施一报十，尚不足以满其欲。故兄自庚子到京以来，于今八年，不肯轻受人惠，情愿人占我的便益，断不肯我占人的便益。将来若作外官，京城以内无责报于我者。澄弟在京年余，亦得略见其概矣。此次澄弟所受各家之情，成事不说，以后凡事不可占人半点便益，不可轻取人财。切记切记。

彭十九家姻事，兄意彭家发遣将尽，不能久于蘧蓐，此时以女对渠家，亦若从前之以蕙妹定王家也。目前非不华丽，而十年之外，局面亦

必一变。澄弟一男二女，不知何以急急定婚若此？岂少缓须臾，即恐无亲家耶？贤弟行事，多躁而少静，以后尚期三思。儿女姻缘前生注定，我不敢阻，亦不敢劝，但嘱贤弟少安无躁而已。

成忍斋府学教授系正七品，封赠一代，敕命二轴。朱心泉县学教谕系正八品，仅封本身，父母则无封。心翁之父母乃赠封也。家中现有《摺绅》，何不一翻阅？

牧云一等，汪三入学，皆为可喜。嘯山教习，容当托曹西垣一查。

京寓中大小平安。纪泽读书已至“宗族称孝焉”，大女儿读书已至“吾十有五”。前三月买驴子一头，顷赵炳堃又送一头。二品本应坐绿呢车，兄一切向来简朴，故仍坐蓝呢车。寓中用度比前较大，每年进项亦较多。每年俸银三百两、饭银一百两。其他外间进项尚与从前相似。

同乡诸人皆如旧。李竹屋在苏寄信来，立夫先生许以乾馆。余不一一。

兄国藩手草

七月十八日

男国藩跪禀父母亲大人膝下：

十六夜接到六月初八日所发家信，欣悉一切。祖父大人病已什愈八九，尤为莫大之福。六月二十八日曾发一信，言升官事，想已收到。冯树堂六月十七日出京，寄回红顶、补服、袍褂、手钏、笔等物，计八月可以到家。贺礼耕七月初五日出京，寄回鹿胶、丽参等物，计九月可以到家。

四弟、九弟信来，言家中大小诸事皆大人躬亲之，未免过于劳苦。勤俭本持家之道，而人所处之地各不同。大人之身，上奉高堂，下荫儿孙，外为族闾乡里所模范。千金之躯，诚宜珍重。且男忝窃卿贰，服役已兼数人，而大人以家务劳苦如是，男实不安于心。此后万望总持大纲，以细微事付之四弟。四弟固谨慎者，必能负荷，而大人与叔父大人惟日侍祖父大人前，相与娱乐，则万幸矣。

京寓大小平安，一切自知谨慎，堂上各位大人不必挂念。余容另禀。

## 七月十八日

四弟、九弟、季弟足下：

六月二十八日发第九号家信，想已收到。七月以来，京寓大小平安。痼疾虽头面微有痕迹，而于召见已绝无妨碍。从此不治，听之可也。

丁士元散馆，是诗中“皓月”误为“浩”字，胡家玉是赋中“先生”误为“先王”。

李竹屋今年在我家教书三个月，临行送他俸金，渠坚不肯受。其人知情知义，予仅送他褂料被面等物，竟未送银。渠出京后来信三次。予有信托立夫先生为渠荐馆。昨立夫先生信来，已请竹屋在署教读矣，可喜可慰。

桐庾先生革职，同乡莫不嗟叹。而渠屡来信来，绝不怪我，尤为可感可敬。

《岳阳楼记》，大约明年总可寄到。家中《五种遗规》，四弟须日日看之，句句学之。我所望于四弟者，惟此而已。家中蒙祖父厚德余荫，我得忝列卿贰，若使兄弟妯娌不和睦，后辈子女无法则，则骄奢淫佚，立见消败。虽贵为宰相，何足取哉？我家祖父、父亲、叔父三位大人规矩极严，榜样极好，我辈踵而行之，极易为力。别家无好榜样者，亦须自立门户，自立规条；况我家祖父现样，岂可不遵行之而忍令堕落之乎？现在我不在家，一切望四弟作主。兄弟不和，四弟之罪也；妯娌不睦，四弟之罪也；后辈骄恣不法，四弟之罪也。我有三事奉劝四弟：一曰勤，二曰早起，三曰看《五种遗规》。四弟能信此三语，便是爱兄敬兄；若不信此三语，便是弃髦老兄。我家将来气象之兴衰，全系乎四弟一人之身。

六弟近来气性极和平，今年以来未曾动气，自是我家好气象。惟兄弟俱懒。我以有事而懒，六弟无事而亦懒，是我不甚满意处。若二人俱勤，则气象更兴旺矣。吴、彭两寿文及小四书序、王待聘之父母家传，俱于八月付回，大约九月可到。

袁漱六处，予意已定将长女许与他，六弟已当面与他说过几次矣，想堂上大人断无不允。予意即于近日订庚，望四弟禀告堂上。陈岱云处姻事，予意尚有迟疑。前日四弟信来，写堂上允诺欢喜之意。筠仙已经看见，比书信告岱云矣。将来亦必成局，而予意尚有一二分迟疑。岱云丁艰，余拟送奠仪，多则五十，少则四十，别有对联之类，家中不必另

致情也。余不尽言。

兄国藩手草

## 八月十八日

澄侯、子植、季洪三弟左右：

八月十六日折舟到京，系七月二十九日在省起行。维时植、洪二弟正在省城，不解何无一字寄京？闻学院二十六日始考古，则二十九日我邑尚未院试也。

京中大小平安。予之癖疾，七月底较六月稍差，然无碍召见之事，则亦听之而已。六弟在国子监考课，各位堂官颇加青眼。上次蔡司业课古学经文一篇、经解一篇、赋一篇、诗一篇，六弟取第一。奖励甚重：帖一套、佳墨八条。内人近颇多病，不能健饭。现在服药，当不要紧也。纪泽读书，前四月间所请之湖北魏先生，渠八月中即回家。我家已于八月初七日换请一宋先生，常德府丙午举人。今年考取教习，系我门生，其人专严勤教。余有回人书札，亦交渠代写。纪泽现已读至《梁惠王章句下》。每日读书，颇能领会。

大女儿与袁家订姻，已于八月初六日写庚书过礼。郭筠仙为媒，即须出都，后年始能复来。故趁其在京时，先行纳采。袁家过礼来：真金簪一、真金耳环一对、镀金手镯二、镀金戒指二、红绿湖绉各三丈、金花一对。我家回礼：袍褂料一套、靴一、帽一、朝珠一、补子一、扇插一、笔插一。又女婿见面仪六两。

陈家姻事，前接四弟信，知家中堂上大人甚欢喜。现在岱云丁艰，自不能定庚，只好待渠服满后。诸弟若与陈家昆仲见面时，亦不必道及姻事。岱云之丧事，余已送聘仪三十两交郭筠仙带归，又有挽联一付。京官向例不送外官之银，予送三十两，则已为重矣。诸弟若到省，只须办香烛去行礼，不必再送情也。

同乡萧史楼、郭筠仙、孙肇舟、徐寿衡并出京，在八月底起行。郭、孙走江南，徐走山西。邓辛阶尚在黄正高家坐馆。蔡贞斋在袁漱六家。龙滋圃就一同乡任江南金山县者之馆，已出京矣。车钟毓亦就金山馆。金山县之幕中人才可谓极盛。

王荆七现来，要求再入我家。我家现在本用两个跟班，目前有一个要去，拟仍叫荆七来。但不知高僧能久持戒行否？文小南之尊翁亦于八月出京。黎月乔亦欲出京，大约在冬间矣。书不详尽，余俟续寄。

兄国藩手草

## 九月初十日

澄侯、子植、季洪足下：

九月重阳日接到家信三封，内父亲手谕二件、澄侯六月二十五在家发信一件、七月十五在省发信一件，十九又一件，八月十三又一件，子植七月十九发一件，八月十三又一件，季洪亦有七月十九一片。子植府试文章在此包内，题名录二纸，盖至是始识九弟案首入学之信。前八月折弁到京，乃七月二十八九在省起行者。计是时九弟府首喜信已发交提塘矣，而渠不带来，良可憾也。此外又有张湘纹、曾季甫、唐镜丈、首班臣、邓荻仙、欧阳沧溟丈各信亦俱收到。我与温甫看一夜始完。两次喜信使祖父大人病体大愈，此为入子孙者之大幸也。

呈请晋封，仍须覃恩之年。辛亥年是皇上七旬万寿，大约可以请晋封祖父母、父母，并可随封叔父母，且可诰赠曾祖父母矣。然使身不加修，学不加进，而滥受天恩，徒觉愧悚。故兄自升官后，时时战兢惕惧。近来身体甚好，耳又微聋。甲三读书，先生极好，严而且勤，教书亦极得法。长女上《论》将读毕矣。温甫国子监应课已经补班。寓中眷口俱平顺。荆七现又收在我家。于门上跟班之外，多用一人，以充买办行走之用，即以荆七补缺，甚为胜任。渠亦如士会还朝，苏武返汉，欣幸之至。四弟可告知渠家也。

袁漱六因其幼女已死，现搬往湘潭馆。订庚之事，前已写信告堂上矣。陈家姻事，堂上大人既欣然允许，余岂复有不满意者！惟订庚须稍迟，或俟贷云起复，亦未可知。至姻事，则确有成言矣。

曾心斋曾借银八十与郭瑞田，渠现还百金交余，托转寄毅然先生。目前尚无妥便，一入他人手，又恐化为乌有，故不得不慎重。弟可先作书告毅然丈，说我所以慎重之故。亦总在今冬明春寄到也。

朱啸山托曹西垣查教习之期。西垣查得，言尚遥遥无期。弟亦可告啸山也。刘福桥先生要挂屏四张，现亦无便可寄，盖徐寿衡不回家，史楼、筠仙亦明年方可到省，故皆不敢寄。罗筠皋之银，亦无便寄，弟可并告筠皋也。

沧溟丈以我言魏家讼事，回书颇有犹豫之意。收云无笔写字，弟可先将树堂带回之笔分三枝送他。待彭大生归，我再寄笔回。岳父寄贡卷至京，余拟送贺仪大钱二十千，亦交彭大生带回。柳衡叔仙逝，余拟备奠仪大钱八千，亦交彭大生带回。惟毅然先生及筠皋之项不敢交彭，恐其难担艰险。

九弟印券费，须出大钱百千，乃为不丰不啬，不被人讥议。或三股均送，或两学较多、门斗较少亦可。但须今年内送去，不可挨至明年。教官最为清苦，我辈仕宦之家，不可不有以体谅之也。家中今年想尚可支吾，至明年上半年，余必寄银至家应用。

陈岱云到省，四弟与郭三合办呢帽，甚是妥叶。余送渠奠分三十金，已交筠仙带去矣。别有挽联，现尚未寄。梅劭生求我作书与钟子宾，准在近日付去。唐画郊之信，屡次未回，则实以懒情之故。渠托我代求各翰林法书。澄侯不在京，而欲我为此等事，毋乃强人以难乎？收到邹芸陔所带各件，屡次写信道之，不知来信何以屡问？添梓坪各件，容当再寄物与他，四弟先为我道谢可也。

四弟以女许彭家，姻缘前定，断不可因我前言而稍生疑心。九弟入学，家中材料可以做衣，若再久收，恐被虫打。做数套衣，兄弟易衣而出最好。家中诸皮衣，年年须多买樟脑，好好收拾，否则必为虫伤矣。同乡诸家如常。书不能尽，折弁在京仅一日，故多草率。

兄国藩手具

## 十月十五日

澄侯、沅浦、季洪三弟足下：

十月十二日接到九月初六澄弟在县学宪行台所发信，十五日又接二十三日在省城曾子庙所发信。其八月在省各信，已于前月收到，前次信已提及矣。惟九月一日托树堂代寄一信，今尚未到。京寓大小平安。余之痼疾近日已全好，百分中不过一二分未复元，皆生首乌之功也。六弟近日体亦好。内人怀喜，大约明年正月分娩。甲三兄妹皆好。甲三读至《滕文公上》，大女读至《颜渊第十二》。

余蒙皇上天恩，得派武会试正总裁，又派武殿试读卷大臣。会试于十三日入闱，十七发榜，复命后始归。殿试三十日入内闱，初四发榜始归，共中额六十四人。殿试读卷，不过阅其默写武经。其弓矢技勇，皆皇上亲自阅看。初二日，皇上在紫光阁阅马步箭。初三日，皇上在景运门外箭亭内看刀弓石，读卷大臣及兵部堂官两日皆在御前侍班。湖南新进士湛琼林以石力不符，罚停殿试一科。今年但有状元、榜眼而无探花，仰见皇上慎重科名之意。

同乡诸公并皆如常。黄超皆喉痛，病势甚重。郑小山随大钦差至河南办赈济。近日河南大旱，山东盗贼蜂起，行旅为之不安。

十月九日父亲大人寿辰，余因家中有祖母之制，故未宴客，早晚皆

## 曾国藩家书

仅一席。凌荻舟现就园子一馆，其回城内则寓余处。宋芎宾在余家教书，亦甚相得。余不尽书。

兄国藩手草

十二月初六日

男国藩跪禀父母亲大人万福金安：

十二月初五接到家中十一月初旬所发家信，具悉一切。男等在京身体平安。男癖疾已全愈，六弟体气如常。纪泽兄妹五人皆好。男妇怀喜平安，不服药。

同乡各家亦皆无恙。

陈本七先生来京，男自有处置之法，大人尽可放心。大约款待从厚，而打发从薄。男光景颇窘，渠来亦必自悔。

九弟信言母亲常睡不着。男妇亦患此病，用熟地、当归蒸母鸡食之，大有效验。九弟可常办与母亲吃。乡间鸡肉、猪肉最为养人，若常用黄芪、当归等类蒸之，略带药性而无药气，堂上五位老人食之，亦有益也，望诸弟时时留心办之。

老秧田背后三角丘是竹山湾至我家大路，男曾对四弟言及，要将路改于塍下，在檀山嘴那边架一小桥，由豆土排上横穿过来。其三角丘则多栽竹树，上接新塘塍大枫树，下接檀山嘴大藤包里，甚为完紧，我家之气更聚。望堂上大人细思。如以为可，求叔父于明春栽竹种树，如不可，叔父写信示知为幸。

男等于二十日期服已满，敬谨祭告。二十九日又祭告一次。余俟续具。

道光二十八年戊申岁

正月二十一日

澄侯、子植、季洪足下：

正月十一日发第一号家信，是日子极不得闲，又见温甫在外未归，心中懊恼之至，故仅写信与诸弟，未尝为书禀堂上大人。不知此书近已



接到否？

温弟近定黄正斋家馆，每月俸银五两。温弟自去岁以来，时存牢骚抑郁之意。太史公所谓“居则忽忽若有所亡，出则不知其所往者”，温甫颇有此象，故举业工夫大为抛荒。间或思一振奋，而兴致不能鼓舞，余深以为虑。每劝其痛着祖鞭，并心一往。温弟辄言思得一馆，使身有所管束，庶心有所维系。余思自为京官，光景尚不十分窘迫，焉有不能养一胞弟而必与寒士争馆地？向人求荐，实难启口，是以久不为之谋馆。

自去岁秋冬以来，闻温弟之妇有疾，温弟羁留日久，牢落无耦，而叔父抱孙之念甚切，不能不思温弟南归。且余既官二品，则明年顺天主考亦在可以简放之列，恐温弟留京三年，又告回避。念此数者，每欲劝温弟南旋，故上次信道及此层，欲诸弟细心斟酌。不料发信之后不过数日，温弟即定得黄正斋馆地。现在既已定馆，身有所管束，心亦有所系属，举业工夫又可渐渐整理，只得待今年下半年再看光景。如我今年或圣眷略好，颇有明年主考之望，则到四五月再与温弟商入南闈或入北闈行止。如我今年圣眷平常，或别有外放意外之事，则温弟仍留京师，一定观北闈，不必议南旋之说也。坐馆以羁束身心，自是最好之事，然正斋家，温弟所深知者，万一不合，温弟亦难久坐。见可而留，知难而退，但不得罪东家，好去好来，即无不可耳。

余自去岁以来，日日想归家省亲，所以不能者：一则京城欠账将近一千，归家则途费又须数百，甚是难以措办；二则二品归籍，必须具折，折中难于措辞。私心所愿者，颇想得一半差。三年任满，即归家省亲上也。若其不能，或明年得一外省主考，能办途费，则后年必归。次也。若二者不能，则只得望六弟、九弟明年得中一人，后年得一京官，支持门面，余则归家告养，他日再定行止。如三者皆不得，则直待六年之后，至甲寅年母亲七十之年，余暂具折告养，虽负债累万，归无储粟，亦断断不顾矣。然此实不得已之计。若能于前三者之中得其一者，则后年可见堂上各大人，乃如天之福也，不审祖宗默佑否？

现在寓中一切平安。癰疾上半身全好，惟腰下尚有纤痕。家门之福，可谓全盛，而余心犹有归省之情，难以自慰。因偶书及，遂备陈之。毅然伯之项，去年已至余寓，今始觅便寄南。家中可将书封好，既行送去。余不详尽，诸惟心照。

兄国藩手草

## 四月十四日

男国藩跪禀父母亲大人礼安：

三月二十日，男发第五号家信，内言及长孙纪泽与桂阳州李家定亲之事，不审已收到否？男等身体平安。次孙于二十四日满月，送礼者共十余家。是日未请客，陆续请酒酬谢。男妇生产之后，体气甚好，所雇乳母最为壮健。华男在黄正斋家馆，诸凡如恒。

祖父大人之病未知近日如何？两次折弁皆无来信，心甚焦急。兹寄回辽东人参五枝，重一两五钱。在京每两价银二十四两，至南中则大贵矣。大约高丽参宜用三钱者，用辽参则减为一钱；若用之太少，则亦不能见功。祖父年高气衰，服之想必有效。男前有信托江岷樵买全虎骨，不知已办到否？闻之医云，老年偏瘫之症，病右者，以虎骨之右半体熬胶医之，病左者，以虎骨之左半体熬胶医之，可奏奇效。此方虽好，不知祖父大人身体气相宜否？当与刘三爷商之。若辽参则醇正温和，万无流弊。

次孙体气甚壮，郭雨三冲喜欲妻之以女。雨三戊戌同年，癸卯大考二等第三，升右赞善。其兄用宾，壬辰翰林，现任山西蒲州府知府。其家教勤俭可风。其次女去年所生，长次孙一岁。与之结婚，男甚愿之，不审堂上大人以为何如？下次信来，伏祈示知。

又寄回再造丸二颗，系山东杜家所制者。杜家为天下第一有福之家，广积阴德。此药最为贵重，有人参、鹿茸、蕲蛇等药在内，服之一无流弊，杜氏原单附呈，求照方用之。

欧阳沧溟先生谋衡阳书院一席，男求季仙九先生写信与伍府尊，求家中即遣人送至岳家为要。同乡周华甫、扬之李梅生杭皆于三月仙逝，余俱如故。男等在京，一切自知谨慎，伏乞堂上大人放心。

男谨禀

## 五月初十日

男国藩跪禀父母亲大人礼安：

四月底接家中二月二十六所发书，五月初八又接三月二十九所发书，具悉一切。祖父大人病体未愈，不知可服虎骨胶否？

男在京身体如常。华男在黄家就馆，端午节后仍于初八日上学。纪泽读《告子》至“鱼，我所欲也”，书尚熟。次孙体甚肥胖。四孙女俱

平安，长孙女《论语》已读毕。冢妇亦好。其余眷口俱如常。

前叔父信言知广彭姓山内有地有干田十亩。男思好地峰回气聚，其田必膏腴，其山必易生树木。盖气之所积，自然丰润。若确田童山，气本不聚，鲜有佳城，如庙山宗祠各山之童润，断无吉穴矣。大抵凡至一处，觉得气势团聚，山水环抱者，乃可以寻地，否则不免误认也。知广之地不知何如？男因有干田十亩之说，故进此说。祖母葬后，家中尚属平安，其地或尚可用。如他处买地，不必专买丈尺。若附近田亩在三四百千内者，京中尽可寄回。京中欠帐已过千金，然张罗尚为活动，从不窘迫，堂上大人尽可放心。余容续禀。

男谨禀

## 五月初十日

澄侯、子植、季洪三弟左右：

澄侯在广东前后共发信七封，至彬州、耒阳又发二信，三月十一到家以后又发二信，皆已收到。植、洪二弟今年所发三信亦俱收到。澄弟在广东处置一切甚有道理，退念园、庄生各处程仪，尤为可取。其办朱家事，亦为谋甚忠，虽无济于事，而朱家必可无怨。《论语》曰：“言忠信，行笃敬，虽蛮貊之邦行矣。”吾弟出外，一切如此，吾何虑哉！贺八爷、冯树堂、梁儒襄三处，吾当写信去谢，澄弟亦宜各寄一书。即易念园处，渠既送有程仪，弟虽未受，亦当写一谢信寄去。其信即交易宅，由渠家书汇封可也。若易宅不便，即托岱云觅寄。

洪弟考试不利，区区得失，无足介怀。补发之案有名，不去复试，甚为得体。今年院试若能得童，固为大幸；即使不遽获售，去年家中既售一人，则今岁小挫，亦盈虚自然之理，不必抑郁。植弟书法甚佳，然向例未经过岁考者不合选拔，弟若去考拔，则同人必指而目之。及其不得，人不以为不合例而失，且以为写作不佳而黜。吾明知其不合例，何必受人一番指目乎？弟书问我去考与否，吾意以科考正场为断。若正场能取一等补廪，则考拔之时，已是廪生入场矣；若不能补廪，则附生考拔，殊可不必，徒招人妒忌也。

我县新官加赋我家，不必答言，任他加多少，我家依而行之。如有告官者，我家不必入场。凡大员之家，无半字涉公庭，乃为得体。为民除害之说，为所辖之属言之，非谓去本地方官也。

排山之事尚未查出，待下次折弁付回。欧阳之二十千及柳衡叔之钱，望澄弟先找一项垫出，待彭大生还来即行归款。彭山纪之业师任千

总，名占魁。现在京引见，六月即可回到省。九弟及牧云所需之笔及叔父所嘱之膏药、眼药均托君带回。曹西垣教习报满引见，以知县用，七月动身还家。母亲及叔父之衣并阿胶等项，均托西垣带回。去年内赐衣料，袍褂皆可裁三件。后因我进闕考教习，家中叫裁缝做，渠裁之不得法，又窃去整料，遂仅裁祖父、父亲两套。本思另办好料为母亲制衣寄回，因母亲尚在制中，故未遽寄。叔父去年四十晋一，本思制衣寄祝，亦因在制，未遽寄也。兹准拟托西垣带回，大约九月可以到家，腊月服闕，即可着矣。

纪渠读书，每日百二十字，与泽儿正是一样，只要有恒，不必食多。澄弟亦须常看《五种遗规》及《呻吟语》。洗尽浮华，朴实谨练，上承祖父，下型子弟，吾于澄实有厚望焉。

兄国藩手草

六月十七日

澄侯、子植、季洪三弟左右：

五月二十四发第八号家信，由任梅谱手寄去。高丽参二两、回生丸一颗、眼药数种、膏药四百余张，并白菜、大茄种，用大木匣盛好寄回，不知已收到否？六月十六日接到家信，系澄侯五月初七在县城所发，具悉一切。月内京寓大小平安。予痼疾上身已好，惟腿未愈。六弟在家一月，诸事如常。内人及儿女辈皆好。郭雨三之大女许配黄菊卿之次子，系予作伐柯人，亦因其次女欲许余次子故，并将大女嫁湖南。此婚事似不可辞，不知堂上大人之意云何？

澄侯在县和八都官司，忠信见孚于众人，可喜之至。朱岚轩之事，弟虽二十分出力，尚未将银全数取回。渠若以钱来谢，吾弟宜斟酌行之，或受或不受，或辞多受少，总以不好利为主。此后近而乡党，远而县城省城，皆靠澄弟一人与人相酬酢。总之不贪财、不失信、不自是，有此三者，自然鬼服神钦，到处人皆敬重。此刻初出茆庐，尤宜慎之又慎。若三者有一，则不为人所与矣。

李东崖先生来信，要达天听，予置之不论。其诹轴，则杜兰溪即可交李笔峰。刘东屏先生常屈身讼庭，究为不美。澄弟若见之，道予寄语，劝其“危行言孙，螭屈存身”八字而已。墓石之地，其田野颇为开爽，若过墓石而至胡起三所居一带尤宽敞。予喜其扩荡眼界，可即并田买之，要钱可写信来京。凡局面不开展、眼鼻攢集之地，予皆不喜，可以此意告尧阶也。何子贞于六月十二夜妻，今年渠家已丧三人，家运可

谓乖舛。季弟考试万一不得，亦不必牢骚。盖予既忝窃侥幸，九弟去年已进，若今年又得，是极盛，则有盈满之惧，亦可畏也。同乡诸家，一切如常。瘦笛舟近已移居胡光伯家，不住我家矣。书不十一，余俟续具。

兄国藩手草

七月二十日

侄国藩谨禀叔父母大人礼安：

六月十七发第九号信，七月初三发第十号信，想次第收到。十七日接家信二件，内父亲一渝、四弟一书、九弟季弟在省各一书、欧阳牧云一书，得悉一切。

祖父大人之病不得少减，日夜劳父亲、叔父辛苦服事，而侄远离膝下，竟不得效丝毫之力，中夜思维，刻不能安。江岷樵有信来，言渠已买得虎骨，七月当亲送我家，以之熬膏，可医痿痹云云。不知果送来否？

闻叔父去年起公厘，劳心劳力，备极经营。外面极堂皇，工作极坚固，费钱不过百千，而见者拟为三百千规模。焦劳太过，后至吐血，旋又以祖父复病，勤劬弥甚。而父亲亦于奉事祖父之余兼理家政，刻不少休。

侄窃伏思父亲、叔父二大人年寿日高，精力日迈，正宜保养神气，稍稍休息，家中琐细事务，可命四弟管理。至服事祖父，凡劳心细察之事，则父亲、叔父躬任之；凡劳力粗重之事，则另添一雇工，一人不够则雇二人。雇工不要做他事，专在祖大人身边，其人要小心秀气。

侄近年以来精力日差，偶用心略甚，癖疾即发，夜坐略久，次日即昏倦。是以力加保养，不甚用功。以求无病无痛，上慰堂上之远怀。外间求作文、求写字者，求批改诗文者，往往历久而莫偿宿诺，是以时时抱疚，日日无心安神恬之时。前四弟在京能为我料理一切琐事，六弟则毫不能管。故四弟归去之后，侄于外间之回信、家乡应留心之事，不免疏忽废弛。侄等近日身体平安，合堂大小皆顺。六弟在京，侄苦劝其南归。一则免告回避；二则尽仰事俯畜之职；三则六弟两年未作文，必在家中父亲、叔父严责方可用功。乡试渠不肯归，侄亦无如之何。

叔父去年四十晋一，侄谨备袍套一付。叔母今年四十大寿，侄谨备棉外套一件。皆交曹西垣带回，服阙后即可著。母亲外褂并汉绿布夹袄亦一同付回。

闻母亲近思用一丫环，此亦易办，在省城买不过三四十千；若有湖北逃荒者来乡，则更为便益。望叔父命四弟留心速买，以供母亲、叔母之使令。其价，侄即寄回。侄今年光景之窘较甚于往年，然东支西扯尚可敷衍。若明年能得外差或升侍郎，便可弥缝家中。今年季弟喜事不知不窘否？侄于八月接到俸银，即当寄五十金回，即去年每岁百金之说也。在京一切张罗，侄自有调停，毫不费力，堂上大人不必挂念。

侄谨禀

## 九月十二日

侄国藩谨禀叔父母大人福安：

八月十六日发第十三号家信，不审已收到否？九月初十日接到四弟、九弟、季弟等信，系八月半在省城所发者。知祖父大人之病又得稍减，九弟得补廪，不胜欣幸！

前劳辛垓廉访八月十一出京，侄寄去衣包一个，计衣十件，不知已收到否？侄有银数十两欲寄回家，久无妙便。十月间武冈张君经赞回长沙，拟托渠带回。闻叔父为圳上公屋加工修治，侄亦欲寄银数两，为叔父助犒赏匠人之资。罗六嘉柜所存银二十二两在侄处。右三项皆拟托张君带归。

前欧阳沧溟先生馆事，伍太尊已复书于季仙九先生。兹季师又回一信于伍处，托侄便寄。家中可送至欧阳家，嘱其即投伍府尊也。牧云又托查万崇轩先生选教官之迟早，兹已查出，写一红条，大约明冬可选。此二事，可嘱澄侯写信告知牧云。

侄等在京身体平安。西席宋湘宾九月十一出京。是日即聘庞君，名际云，号省三。直隶人。曹西垣初十挈眷出都。黎月乔十六出京。江岷樵于初八到京。严仙舫初十到京。余同乡俱如故。

常南陔先生欲以其幼女许配纪泽，托郭筠仙说媒。李家尚未说定，两家似皆可对。不知堂上大人之意若何？望示知。余容续具。

侄谨禀

## 十一月十四日

澄侯、子植、季洪三弟左右：

十月十九日溧南弟出京。二十日发第十五号家信，不知此时收到否？吾目疾尚未全好，此次尚不能写信呈堂上，故仍以书告诸弟。

前九月十八蒙皇上天恩，派稽察中书科事务。十月初二一信，因恐张楠皆到迟，故未写。二十日一信，因六弟出京，诸事仓皇，又忘写也。稽察中书科向系于阁学四人中钦派一人，只算差使，不算升官。其属员有中书六人、笔帖式八人。其所管之事为册封诰命。凡封亲王用金册，封郡王用银册，封贝勒、贝子以下用龙边笏，册封镇国公以下及文武五品以上官俱用诰命，六品以下俱用敕命。以上皆在中书科缮写。予于十八日奉旨派出，十九日具折谢恩。兹将原折寄回，系在园笔帖式所写，故字甚丑。

前六弟归时，予曾寄母亲零用银五两，内人寄岳母零用银二两。因思予在京多年，并未寄零钱与婢母使用，且四位弟妇买棉买麻亦极窘迫。嗣后每年予所寄亲族银内当添母亲、婢母零用钱各四千，四位弟妇零用钱各三千，每年共二十千。今年张楠皆处银到，澄弟即将各亲族处照单分送。又将婢母四千及四位弟妇各三千零用钱分送。母亲今年已有银五两，不必再送。以后每年照今年为例。上半年春俸，予寄五六十两归，以为家中用度。其有不足，望家中设法张罗。下半年秋俸，予寄五六十两归，以为各亲族帮项及母亲、婢母、四位弟妇零用之项。去年所开之单，记共八十千。若添家中此项，则共百千矣。不知须银多少，乞澄弟告知。予之寄以今年为常规，家中所送亲族者，亦望于今年举行定例。惟孟学公之子孙赴考者，今年在省，不知曾送给否？若未送，望按名补送，以为买笔之需。至要至要，一切万祈照单施行。

予身体平安，家中大小皆如常。纪泽读书已读至《太甲上》。同乡孙璠洲已到京。余并如故。昨日放定郡王、载铨季仙九先生至天津办盐务，又放耆英、朱凤标至山东办盐务。十一日刑部主事朱寿康、系朱伯韩之胞弟。户部主事袁铨、广西提塘李鹏飞俱因在娼家饮酒，提督府锁拿交刑部治罪。十月宝中堂兴歿。昨耆英授大学士，琦善仍得协办。余容后具。

国藩草

十二月初十日

澄侯、温甫、子植、季洪四弟左右：

十一月十四发第十四号家信，不知收到否？十二月初九接到家中十月十二一信，十一月初一日一信、初十日一信，具悉一切。

家中改屋，有与我意见相同之处。我于前次信内曾将全屋画图寄归，想已收到。家中既已改妥，则不必依我之图矣。但三角丘之路必须

改于檀山嘴下，而于三角丘密种竹木。此我画图之要囑，望诸弟禀告堂上，急急行之。家中改房，亦有不与我合意者，已成则不必再改。但六弟房改在炉子内，此系内外往来之屋，欲其通气，不欲其闭塞；余意以为必不可，不若以长横屋上半节间断作房为妥。连同两隔。下半节作横屋客坐，中间一节作过道，上半节作房。内茅房在石柱屋后，亦嫌太远，不如于季洪房外高墙打进去七八尺，即旧茅房沟对过之端，若打进丈余，则与上首果树处同宽。既可起茅房、澡堂，而后边地面宽宏，家有喜事，碗盏、菜货亦有地安置，不至局促，不知可否？

家中高丽参已完，明春得便即寄。彭十九之寿屏，亦准明春寄到。此间事务甚多，我又多病，是以迟迟。

澄弟办贼，甚快人心。然必使其亲房人等知我家是困地方安静，不是为一家逞势张威，庶人人畏我之威，而不恨我之太恶。贼既办后，不特面上不可露得意之声色，即心中亦必存一番哀矜的意思。诸弟人人当留心也。

征一表叔在我家教读甚好，此次未写信请安，诸弟为我转达。

同乡周荅农家之鲍石舞前与六弟交游，近因在枝家饮酒，提督府捉去交刑部革去供事。而荅农、荪舟尚游荡不畏法，真可怪也！

余近日常有目疾，余俱康泰。内人及二儿四女皆平安。小儿甚胖大。西席庞公拟十一回家，正月半来，将请李笔峰代馆。宋芑宾在道上仆跌断腿，五十余天始抵樊城，大可悯也，余不一一。

国藩手草

道光二十九年己酉岁

正月初十日

四位老弟足下，

去腊初十日发戊申第十八号家信，厥后二十六日接温弟在湖北所发信。正月初八日接诸弟腊月十五所发信，而温弟在河南托邹墨林转寄一信，则至今未到。澄弟十一月十九所发一信，亦至今未到也。

澄弟生子，庆贺庆贺。吾与澄弟去年报最，今年轮应温、植、洪三人报最矣。但植弟之妇，闻已有吉语，恐政成当在温弟之前，植弟未免



疾行先长耳。四位弟妇，闻皆奉母亲、叔母之教，能勤能俭，予闻之不胜欣喜。已办有材料，今春为四弟妇各制一衣，觅便即行寄回。

澄弟捐监执照，亦准予今年寄回。父亲名书呈祥，取麟趾呈祥之义也。前年温弟捐监，叔父名书呈材，取天驷呈材之义也。当时恐六弟尚须小试，故捐监填名略变，以为通融地步。而今温弟既一成不易，故用呈祥配呈材，暗寓麟字驷字于中。将来即分两房，曰呈祥房，曰呈材房，亦免得直写父、叔官名耳。

李子山、曾希六族伯托我捐功名，其伙计陈体元亦托捐。我丁酉年在渠江煤垆，此二人待我不薄。若非煤垆之钱，则丁酉万不能进京。渠来托我，不能不应，拟今岁为之办就。其银钱囑渠送至我家，有便将执照付至家中。渠银钱一到，即发执照与渠可也；即未收全，亦可发也。丁酉年办进京盘费，如朱文八、王燧三、燧六等皆分文不借，则曾、陈二人岂不可感也哉！现在乔心农晋放常德知府，二月出京。四弟监照与二人执照，大约可托渠带至湖南也。

去年年内各族戚之钱，不知如数散给否？若未给，望今春补给，免得我时时挂心。考试者十千及乞丐之十千，不审皆给否？务乞详以示我。

竹山湾找当价，不知比楚善叔一头原价何如？乞明告我。既买竹山湾，又买庙台上，银钱一空，似非所宜。以后望家中无买田，须略积钱，以备不时之需。

植弟诗才颇好，但须看古人专集一家乃有把握，万不可徒看选本。植弟则一无所看，故无把握也。季弟诗文难于进功，须用心习字。将来即学叔父之规模，亦有功于家庭。

纪泽儿自去腊庞先生归河间，请李笔峰来代馆，日加奖赞，悟性大进。一日忽自作四言诗一篇，命题曰《舜征有苗篇》。余始不信，次日余与黄寰吾面试之，果能清顺。或者得祖父德荫，小有成就，亦未可知。兹命其誊出寄呈堂上，以博一笑。然记性不好，终不敢信其可造也。

兹寄回正月初一至初十日上谕及宫门抄，以后按月寄归。温弟所允萧辛五《摺绅》，当于乔心农处付渠。李竹屋思鹿胶、丽参，亦俟乔公始寄。此次余欲写信与竹屋，实无少暇矣。

予身体平安，家中大小如常，二儿肥胖。余不一一。

兄国藩手草

渠儒囊兄弟到京，盛称澄弟之才。且言广东骗客账以千万计，从无人取回一文者，澄弟可谓破天荒也。

## 二月初六日

男国藩跪禀父母亲大人万福金安：

正月十一日，男发第一号家信，并寄呈京报，想已收到。

二十二日男蒙皇上天恩，升授礼部侍郎。次日具折谢恩，蒙召对海谕谆切。二十五日午刻上任，属员共百余人，同县黄正斋亦在内。从前闻学虽兼部堂衔，实与部务毫不相干。今既为部堂，则事务较繁，每日须至署办事。八日一至圆明园奏事，谓之该班。间有急事，不待八日而即陈奏者，谓之加班。除衙门官事之外，又有应酬私事，日内甚忙冗，几于刻无暇晷，幸身体平安，合家大小如常。

纪泽读书已至《酒诰》，每日讲《纲鉴》一页，颇能记忆。次孙体甚肥胖。同乡诸人并皆如旧。余详与诸弟信中。

男谨禀

## 二月初六日

澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟左右：

正月十日曾寄家信，甚为详备。二月初三接到澄弟十一月二十夜之信，领悉一切。

今年大京察，侍郎中休致者二人，德远村、厚冯吾园芝两先生也。余即补吾园先生之缺。向来三载考绩，外官谓之大计，京官谓之京察。京察分三项。一、二品大员及三品之副都御史，皇上皆能记忆，其人不必引见，御笔自下朱谕，以为彰瘆。此一项也。自宗人府丞以下，凡三、四、五品京堂皆引见，有黜而无陟，前丙午在襁儿胡同同时，间壁学士奎光，即引见休致者也。此一项也。自五品而下，如翰林、内阁、御史、六部，由各堂官考察，分别一、二、三等。一等则放府道，从前如劳辛阶、易念园，今年如陈竹伯，皆京察一等也。此一项也。

余自到礼部，比从前较忙冗，恨不得有人帮办寓中琐杂事，然以家中祖父之病，父、叔勤苦已极，诸弟万无来京之理。且如温弟在京，余方再三劝诱，令之南归，今岂肯再蹈复辙，令之北来？

江岷樵以拣发之官浙江，补缺不知何时。余因温弟临别叮嘱之言，荐邓星阶偕岷往浙，岷樵既应允矣。适徐芸渠请星阶教书，星即就徐馆，言定秋间仍往浙依江。江亦应允。邹墨林自河南来京，意欲捐教，现寓圆通观，其为人实诚笃君子也。袁漱六新正初旬忽吐血数天，现已痊愈。

黄正斋竟为本部司员，颇难为情。余一切循谦恭之道，欲破除藩篱，而黄总不免拘谨。余现尚未换绿呢车，惟添一骡。盖八日一赴园，不能不养三牲口也。书不一一。

兄国藩草

### 三月初一日

澄侯、温甫、子植、季洪足下：

二月二十六发家信第三号，想可早到。兹乘乔心农先生常德太守之便，付去纹银六十三两零，共六大锭。外又一小锭，系内子寄其伯母，乞寄欧阳牧云转交。又邓星阶寄银六两，亦在此包内，并渠信专人送去。又高丽参一布包。内顶上者一两，共十四枝，专办与祖父大人用。次等者三两，共五枝。又次等者白参半斤，不计枝。今年所买参，皆择其佳者，较往年略贵，故不甚多。又鹿胶二斤，共一布包。又一品补服四付，共一布包。前年所寄补服，内有打籽者，系一品服。合此次所寄，共得五付。补服不分男女，向来相传乌嘴有向内向外之分，皆无稽之言也。一品顶带三枚，则置高丽参匣之内。望诸弟逐件清出，呈堂上大人。乔太守要由山西再转湖南，到长沙大约在闰四月底。

此信不详他事，容下次再详也。

国藩手草

### 三月二十一日

澄侯、温甫、子植、季洪足下：

正月初十日发第一号家信，二月初八日发第二号家信，报升任礼部侍郎之喜，二十六日发第三号信，皆由折差带寄。三月初一日由常德太守乔心农处寄第四号信，计托带银七十两、高丽参十余两、鹿胶二斤、一品顶带三枚、补服五付等件。渠由山西迂道转至湖南，大约须五月底午前后乃可到长沙。

予尚有寄兰姊、蕙妹及四位弟妇江绸棉外褂各一件，仿照去年寄呈母亲、叔母之样。前乔心农太守行时不能多带，兹因陈竹伯新放广西左江道，可于四月出京，拟即托渠带回。

澄弟《岳阳楼记》，亦即托竹伯带回家中。二月初四澄弟所发之信，三月十八接到。正月十六七之信，则至今未收到。据二月四日书云，前信着刘一送至省城，共二封，因欧阳家、邓星阶、曾子各有信云云。

不知两次折弁何以未见带到？温弟在省时，曾发一书与我，到家后未见一书，想亦在正月一封之中。此书遗失，我心终耿耿也。

温弟在省所发书，因闻澄弟之计，而我不为揭破，一时气忿，故语多激切不平之词。予正月复温弟一书，将前后所闻温弟之行，不得已稟告堂上，及澄弟、植弟不敢稟告而误用诡计之故一概揭破。温弟骤看此书，未免恨我，然兄弟之间，一言欺诈，终不可久。尽行揭破，虽目前嫌其太直，而日久终能相谅。

现在澄弟书来，言温弟鼎力办事，甚至一夜不寐，又不辞劳，又耐得烦云云。我闻之欢喜之至，感激之至。温弟天分本高，若能改去荡佚一路，归入勤俭一边，则兄弟之幸也，合家之福也。

我待温弟似乎近于严刻，然我自问此心，尚觉无愧于兄弟者，盖有说焉。大凡做官的人，往往厚于妻子而薄于兄弟，私肥于一家而刻薄于亲戚族党。予自三十岁以来，即以做官发财为可耻，以官囊积金遗子孙为可羞可恨，故私心立誓，总不靠做官发财以遗后人。神明鉴临，予不食言。此时待奉高堂，每年仅寄些须以为甘旨之佐。族戚中之穷者，亦即每年各分少许，以尽吾区区之意。盖即多寄家中，而堂上所食所衣亦不能因而加丰，与其独肥一家，使戚族因怨我而并恨堂上，何如分润戚族，使戚族戴我堂上之德而更加一番钦敬乎？将来若作外官，禄入较丰，自暂除廉俸之外，不取一钱。廉俸若日多，则周济亲戚族党者日广，断不蓄积银钱为儿子衣食之需。盖儿子若贤，则不靠宦囊，亦能自觅衣饭；儿子若不肖，则多积一钱，渠将多造一孽，后来淫佚作恶，必且大玷家声。故立定此志，决不肯以做官发财，决不肯留银钱与后人。若禄入较丰，除堂上甘旨之外，尽以周济亲戚族党之穷者。此我之素志也。

至于兄弟之际，吾亦惟爱之以德，不欲爱之以姑息。教之以勤俭，劝之以习劳守朴，爱兄弟以德也；丰衣美食，俯仰如意，爱兄弟以姑息也。姑息之爱，使兄弟惰肢体，长骄气，将来丧德亏行。是即我率兄弟以不孝也，吾不敢也。我仕宦十余年，现在京寓所有惟书籍、衣服二者。衣服则当差者必不可少，书籍则我生平嗜好在此，是以二物略多。将来我罢官归家，我夫妇所有之衣服，则与五兄弟拮据均分。我所办之书籍，则存贮利见斋中，兄弟及后辈皆不得私取一本。除此二者，予断不别存一物以为宦囊，一丝一粟不以自私。此又我待兄弟之素志也。恐温弟不能深谅我之心，故将我终身大规模告与诸弟，惟诸弟体察而深思焉。

去年所寄亲戚各项，不知果照单分送否？杜兰溪为我买《皇清经

解》，不知植弟已由省城搬至家中否？

京寓一切平安。纪泽《书经》读至《同命》。二儿甚肥大。易南谷开复原官，来京引见。闻左青士亦开复矣。同乡官京中者，诸皆如常。余不一一。

兄国藩手草

### 三月二十一日

澄侯、温甫、子植、季洪足下：

再者，九弟生子大喜，敬贺敬贺。自丙午冬葬祖妣大人于木兜冲之后，我家已添三男丁，我则升阁学，升侍郎，九弟则进学补廪。其地之吉，已有明效可验。我平生最不信风水，而于朱子所云“山环水抱”、“藏风聚气”二语，则笃信之。木兜冲之地，予平日不以为然，而葬后乃吉祥如此，可见福人自葬福地，绝非可以人力参预其间。家中买地，若出重价，则断断可以不必；若数十千，则买一二处无碍。

宋湘宾去年回家，腊月始到。山西之馆既失，而湖北一带又一无所得。今年因常南陔之约重来湖北，而南陔已迁官陕西矣。命运之穷如此！去年曾有书寄温弟，兹亦付去，上二次忘付也。

李笔峰代馆一月，又在寓抄书一月，现在已搬出矣。毫无道理之人，究竟难于相处。庞省三在我家教书，光景甚好。邹墨林来京捐复教官，在元通观住，日日来我家闲谈。长沙老馆，我今年大加修整，人人皆以为好。琐事兼述，诸惟心照。

### 四月十六日

男国藩跪禀父母亲大人万福金安：

四月十四日接奉父亲三月初九日手谕，并叔父大人贺喜手示，及四弟家书。敬悉祖父大人病体未好，且日加沈剧。父、叔率诸兄弟服侍已逾三年，无昼夜之闲，无须臾之懈，独男一人远离膝下，未得一日尽孙子之职，罪责甚深。闻华弟、荃弟文思大进，葆弟之文得华弟讲改，亦日驰千里。远人闻此，欢慰无极。

男近来身体不甚结实，稍一用心，即瘳发于面。医者皆言心亏血热，故不能养肝；热极生风，阳气上干，故见于头面。男恐大发，则不能入见，二月二十三谢恩，蒙召见。三月十四值班，蒙召见。三十又蒙召见。故不敢用心，谨守大人保养身体之训。隔日一至衙门办公事，余

则在家，不妄出门。现在衙门诸事，男俱已熟悉。各司官于男皆甚佩服，上下水乳交融，同寅亦极协和。男虽终身在礼部衙门为国家办此照例之事，不苟不懈尽就条理，亦所深愿也。

英夷在广东，今年复请入城。徐总督办理有方，外夷折服，竟不入城。从此永无夷祸，圣心嘉悦之至。四月十五日上谕甚嘉奖，兹付呈。李石梧前辈告病。陆立夫总制两江，亦极能胜任。术者每言皇上连年命运行劫财地，去冬始交脱。皇上亦每为臣工言之。今年气象果为昌泰，诚一国家之福也。

儿妇及孙女辈皆好。长孙纪泽前因开蒙太早，教得太宽，顷读毕《书经》，请先生再将《诗经》点读一遍。夜间讲《纲鉴》，正史均已讲至秦商鞅开阡陌。李家亲事，男因桂阳州往来太不便，已在媒人唐鹤九处回信不对。常家亲事，男因其女系妾所生，且闻其嫡庶不甚和睦，又闻其世兄不甚守俭教朴，亦不愿对。南陔先生今年来京时，男不与之提及此事，渠已知其不谐矣。

纪泽儿之婚事屡次不就，男当年亦十五岁始定婚，则纪泽再缓一二年，亦无不可。或求大人即在乡间选一耕读人家之女，或男在京自定，总以无富贵气习者为主。纪泽对郭雨三之女，虽未订盟，而彼此呼亲家，称姻弟，往来亲密，断不改移。二孙女对岱云之次子，亦不改移。谨此禀问，余详与诸弟书中。

男谨禀

四月十六日

澄侯、温甫、子植、季洪足下：

四月十四日接到己酉三月初九所发第四号来信，次日又接到二月二十三日所发第三号来信，其二月初四所发第二号信则已于前次三月十八接到矣，惟正月十六七日所发第一号信则至今未接到。京寓今年寄回之家书：正月初十发第一号，折弁。二月初八日发第二号，折弁。二十六发第三号，折弁。三月初一发第四号，乔心求太守。大约五月初可到省；十九发第五号，折弁。四月十四发第六号，由陈竹伯观察。大约五月底可到省。《岳阳楼记》，竹伯走时尚未到手，是以未交渠。然一两月内，不少妥便，亦必可寄到家也。

祖父大人之病，日见日甚如此，为子孙者远隔数千里外，此心何能稍置！温弟去年若未归，此时在京，亦刻不能安矣。诸弟仰观父、叔纯孝之行，能人人竭力尽劳，服事堂上，此我家第一吉祥事。我在京寓，

食膏粱而衣锦绣，竟不能效半点孙子之职，妻子皆安坐享用，不能分母亲之劳，每一念及，不觉汗下。

吾细思凡天下官宦之家，多只一代享用便尽。其子孙始而骄佚，继而流荡，终而沟壑，能庆延一二代者鲜矣。商贾之家，勤俭者能延三四代；耕读之家，勤朴者能延五六代；孝友之家，则可以绵延十代八代。我今赖祖宗之积累，少年早达，深恐其以一身享用殆尽，故教诸弟及儿辈，但愿其为耕读孝友之家，不愿其为仕宦之家。诸弟读书不可不多，用功不可不勤，切不可时时为科第仕宦起见。若不能看透此层道理，则虽巍科显宦，终算不得祖父之贤肖，我家之功臣。若能看透此道理，则我钦佩之至。澄弟每以我升官得差，便谓我是肖子贤孙，殊不知此非贤肖也。如以此为贤肖，则李林甫、卢怀慎辈，何尝不位极人臣，鸟奔一时，诎得谓之贤肖哉？予自问学浅识薄，谬膺高位，然所刻刻留心者，此时虽在宦海之中，却时作上岸之计。要令罢官家居之日，己身可以淡泊，妻子可以服劳，可以对祖父兄弟，可以对宗族乡党，如是而已。诸弟见我之立心制行与我所言有不符处，望时时切实箴规。至要至要。

鹿茸一药，我去腊甚想买就寄家，曾请漱六、峨樵两人买五六天，最后买得一架，定银九十两。而请人细看，尚云无力。其有力者，必须百余金，到南中则直二百余金矣；然至少亦须四五两乃可奏效。今澄弟来书，言谭君送四五钱便有小效，则去年之不买就急寄，余之罪可胜悔哉！近日拟赶买一架付归。以父、叔之孝行推之，祖父大人应可收药力之效。叔母之病，不知宜用何药？若南中难得者，望书信来京购买。

安良会极好。地方有盗贼，我家出力除之，正是我家此时应行之事。细毛虫之事，尚不过分，然必须到这田地方可动手。不然，则难免恃势欺压之名。既已惊动官长，故我特作书谢施梧冈，到家即封口送县可也。去年欧阳家之事，今亦作书谢伍仲常，送阳凌云，属其封口寄去可也。

澄弟寄信来书，无一字不合。蒋祝三信已交渠。兹有回信，家中可专人送至渠家，亦免得他父母悬望。予因身体不旺，生怕得病，万事废弛，抱疚之事甚多。本想诸弟一人来京帮我，因温、沅乡试在途，澄又为家中必不可少之人，洪则年轻，一人不能来京；且祖父大人未好，岂可一人再离膝下？只得俟明年再说。

希六之事，余必为之捐从九品。但恐秋间乃能上兑，乡试后南旋者乃可带照归耳。书不能详，余俟续寄。

国藩手草

## 五月十五日

澄侯、温甫、子植、季洪足下：

四月十八日发家信第七号，想已收到。近一月余无折弁来，以新抚台尚未到任。五月十一接澄弟四月八日所发第五号信，并二十六日所发第六号信，而正月十七第一号至今未到，诚不可解。

京寓自四月以来，一切平安。癖疾经邹墨林开方做丸药，有附子、黄芪等补阳之药，愈见大好。面上、头上，生人全看不出矣。纪泽儿近作史论，略成章句。兹命其誊两首寄呈堂上一阅。次儿之名，音与叔父名相近，已改名纪鸿。体其肥大，尚不能行，不能说话。四女皆好。闰四月初九日考差题“士志于道”一章，经题“闰月则阖门左扉”，诗题赋得“岁丰仍节俭”，得“仍”字。

澄弟《岳阳楼记》拟交广西主考带去，大约七月初旬可到长沙。澄弟若高兴入闱，中元前后到长沙，定可接到。然温、植二弟到省以后，恐家中无人伺候，澄弟即不入闱亦可。宜稟堂上，问宜如何耳。

去年冬底所寄各族戚家微资，今年家书总未提及，不知竟一一如数交去否？乞示知。余不详尽，俟下次续具。

兄国藩手草

## 六月初一日

澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟足下：

五月十五日发家信第八号并京报一厚包，二十四日由广西主考孙毓田太史兼鸣处发第九号信，并澄弟监照户部照二纸，又今年主考车顺执乡试文一篇、徐元勋会试文三篇共为一包，不审何日可到？孙太史于五月二十八在京起程，大约七月中旬可过长沙。待渠过去后，家中可至岱云处接监照也。

京寓近日平安。癖疾服邹墨林丸药方最为有效。内人腹泄七八天，亦服邹所开方而效。

昨日折弁到，又未接信。澄弟近日写信极勤且详，而京中犹时有望眼欲穿之时。盖不住省城，则折弁之或迟或早无由查问。正月十六第一号家信，至今尚未接到。予屡次以书告诸弟，又书告岱云，托其向提塘并萧辛五处确查。昨岱云回信内夹有萧辛五回片，写明正月十六之信已于二十一日交提塘王二手收。又言四月十四周副爷维新到京，此信已交



京提塘云云。予接辛五来片，比遣人去京提塘问明。据答云周维新到京，并无此信；若有，万无不送之理。且既系正月二十一交省提塘，则二月二十三有韩折弁到京，三月十八有张折弁到京，何以两人俱未带而必待四月十四之周维新哉？今仍将辛五原片付回家中，望诸弟再到提塘细查，正月二十一辛五送到时，提塘曾挂收信号簿否？并问辛五兄，何以知二月之韩弁、三月之张弁俱未带此信而直待周维新始带？且辛五片称四月十四信交京提塘门上收，系闻何人所言？何以至今杳然？——查得水落石出，复示为要。予因正月十六之信至为详细，且分为两封，故十分认真。若实查不出，则求澄弟再细写一遍，并告邓星阶家、曾厨子家，道前信已失落也。

纪泽儿读书如常。兹又付呈论数首，皆先生未改一字者。纪鸿儿体甚肥胖。前闻排行已列丙一，不知乙字一排十人何以遽满？乞下次示知。得毋以乙字不佳，遂越而排丙乎？予意不必用甲乙丙丁为排，可另取四字，曰甲科鼎盛，则音节响亮，便于呼唤。诸弟如以为然，即可通告诸再从兄弟。

山西巡抚王兆琛，钦差申明各款，现奉旨革职拿问。将来不知作何究竟？此公名声狼藉，得此番警示，亦足寒贪吏之胆。

袁漱六病尚未全好。同乡各家如常。季仙九先生放山西巡抚，送我绿呢车现尚未乘，拟待一二年后再换。凌荻舟、徐芸渠并考取军机，引见记名，黄正甫、张润农未记。余不悉具。

兄国藩手草

## 六月十四日

澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟足下：

五月二十四发家书第九号，不知已收到否？六月初二日又发家书第十号交折弁，想已收到矣。昨十三日折弁又到两次，皆无来信，盼望之至。

六月以来，京师大雨极多，人多有病。寓中如予及内人儿子，皆略腹泄，幸数日即愈。闻江南大水，今年乡试必须改期，现尚未见奏明。

予今年考差，颇望得江西主考，冀家中亲属可就至江西一叙天伦之乐。昨田教堂得放江西试差，而我私愿不遂。南望家山，远怀堂上，真不知仕宦之略有何味也！现在祖父大人之病，数月不接音信，不知何处耽延？想澄弟必发有数次信矣。

山西巡抚王西轺，兆琛钦差大臣陈孚恩、福济审出各款，拟定发往

新疆，皇上未允。严旨解交刑部，会同军机再行鞠审。兹将御史原参折子付回，足见仕宦者一不自慎，身败名裂。而去年梁星昉等通中丞果得蒙恩滴雪，褒其廉正，君子终乐得为君子也。

庞省山之兄来京乡试，住国通观，自起火食。唐镜丈之世兄住黄菊卿家。余来乡试者，同乡无几。书不十一，统俟续布。

兄国藩手草

## 六月二十九日

澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟足下：

六月初二日发家信第十号，十五发第十一号，二十日发第十二号，不知次第收到否？

想曾于二十二日奉使陕西。今年湖南差运顺利。日内身体平安。内人自前腹泄后，至今尚服黄芪、丽参、附片之类，自此可保安泰。纪泽儿读书尚熟，《诗经》现读至《生民之什》，古诗读至左太冲《咏史》，《纲鉴》讲至汉高祖末年。所作史论，较前月所作意思略多。兹付回三首。次儿肥胖可爱。四女儿皆好。庞省三教书甚为得法。宋湘宾在湖北藩署光景颇好，昨有书来致意温弟。

长郡馆向来规模不好，人人不喜。今年我督工匠大改规模，人人拍案称奇。现在同乡人请我将湖广馆一改定规制，拟于八月兴工，想十月可毕役。

郭云仙家水势不知如何？温甫在省见之，可问明告我。渠欠漱六五十金，近已偿去。若见云仙、端丞，可即告之，不另写信。岱云寄程正桢信亦已妥交，见岱云时即告之。寄庄心庠、张礼度信各一件，到日即送去。余不一一，俟下次续具。

兄国藩手草

## 七月十五日

澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟足下：

七月十三日接到澄弟六月初七所发第九号家信，具悉一切。吾于六月共发四次信，不知俱收到否？今年陆费中丞丁忧，闰四月无折差到。故自四月十七发信后，直至五月中旬始再发信，宜家中悬望也。

祖父大人之病，日渐增加，远人闻之，实深忧惧。前六月二十日所付之鹿茸片，不知何日可到？亦未知可微有功否？

予之痼病，多年沉痾，賴邹墨林举黄芪附片方，竟得全愈。内人六月之病亦极沉重，幸墨林诊治，遂得化险为夷，变危为安。同乡找墨林看病者甚多，皆随手立效。墨林之弟岳屏四兄，今年曾到京，寓圆通观，其医道甚好，现已归家。予此次以书附墨林家，书内求岳屏至我家诊治祖父大人，或者挽回万一，亦未可知。岳屏人最诚实而又精明，即周旋不到，必不见怪。家中只须打发轿夫大钱二千，不必别有所赠送。渠若不来，家中亦不必去请他。

乡间之谷贵至三千五百，此亘古未有者，小民何以聊生！吾自人官以来，即思为曾氏置一义田，以贍教孟学公以下贫民；为本境置义田，以贍教二十四都贫农。不料世道日苦，予之处境未裕。无论为京官者自治不暇，即使外放，或为学政，或为督抚，而如今年三江两湖之大小水灾，几于鸿墩半天下。为大官者，更何忍于廉俸之外多取半文乎！是义田之愿，恐终不能偿。然予之定计，苟仕宦所入，每年除供奉堂上甘旨外，或稍有盈余，吾断不肯买一亩田积一文钱，必皆留为义田之用。此我之定计，望诸弟皆体谅之。

今年我在京用度较大，借账不少。八月当为希六及陈体元捐从九品，九月榜后可付照回，十月可到家，十一月可向渠两家索银，大约共须三百金。我付此项回家，此外不另附银也。

率五在永丰有人争请，予闻之甚喜。特书手信与渠，亦望其忠信成立耳。

纪鸿已能行走，体甚壮实。同乡各家如常。同年毛寄云于六月二十八日丁内艰。陈伟堂相国于七月初二仙逝，病系中痰，不过片刻即歿。江南、浙江、湖北皆展于九月举行乡试。闻江南水灾尤甚，恐须再展至十月。各省大灾，皇上焦劳，臣子更宜忧惕之时，故一切外差，皆绝不萌妄想，望家中亦不必悬念。书不详尽。

兄国藩手草

## 九月二十一日

澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟足下：

九月十八日接到澄弟八月十七夜一书，植弟一书，具悉一切。吾于八月十二发十五号家信，不审此时收到否？

京寓大小平安。纪泽儿于八月十七八遭脾家积滞之疾。初时错服补剂，至二十九乃服石膏，九月初二服大黄，遂大见效。至重阳后全愈，惟前阴微肿，日内调治，将就痊愈。饮食起居，皆已复常。纪鸿儿体最

结实，日日欢笑走跃。余皆安善。

二十五日宗室举人复试，二十七派阅卷大臣三人。十五日顺天举人复试，十七日派阅卷大臣六人。吾两次皆与焉。季世兄复试一等，赛司农尚阿之子、徐制军泽醇之子皆一等也，同乡唐、翁二君皆一等，余不详载。

澄弟欲买鹿茸，且与谭、彭二家均分。此次廷芳字至长沙，尚不能买，缘近日银钱甚窘。稍有可图，即行买就，今冬明春准可付回。

曾、陈二家之银，如必俟照到乃可取，则今冬周济亲族一项，可先向蔡梓坪借用，我此次先为书告东阳叔祖也。郭筠仙七月十六丁内艰，诸弟来信并未提及，何也？或省中尚未得知与？书不十一。

兄国藩手草

## 十月初四日

澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟足下：

八月十二日发第十五号家信，九月二十二日发第十六号家信，想次第收到。十月初二日接到澄弟八月二十六一书，具悉一切。是日又从岱云书内见南省题名录，三弟皆不与选，为之怅喟。

吾家累世积德，祖父及父、叔二人皆孝友仁厚，食其报者，宜不止我一人。此理之可信者。吾邑从前邓、罗诸家官阶较大，其昆季子孙皆无相继而起之人。此又事之不可必者。吾近于宦场，颇厌其繁俗而无补于国计民生，惟势之所处，求退不能。但愿得诸弟稍有进步，家中略有仰事之资，即思决志归养，以行吾素。今诸弟科第略迟，而吾在此间公私万事丛集，无人帮照。每一思之，未尝不作茫无畔岸之想也。吾现已定计于明年八月乞假归省，后年二月还京，专待家中回信详见示。

今年父亲六十大寿，吾竟不克在家叩祝，悚疚之至。十月初四日，奉旨派作较射大臣。顺天武闱乡试，于初五六马箭，初七八步箭，初九十技勇，十一发榜，十二复命。此八日皆入武闱，不克回寓。父亲寿辰，并不能如往年办面席以宴客也。然予既定计明年还家庆寿，则今年在京即不称觞，犹与吾乡重逢一不重晋十之例相合。

家中分贍亲族之钱，吾恐银到太迟，难于换钱，故前次为书寄德六七叔祖，并办百折裙送叔曾祖母。现在廷芳字桂尚未起行，大约年底乃可到湖南。若曾希六、陈体元二家必待照到乃送钱来，则我家今年窘矣。二家捐项，我在京共去京平足纹二百四十一两六钱，若台南中青平，则当二百三十六两五钱。渠送钱若略少几千，我家不必与之争。盖

丁酉之冬，非渠煤垆则万不能进京也。明年春间应寄家用之钱，乞暂以曾、陈捐项用之。我上半年只能寄鹿茸，下半年乃再寄银耳。

《皇清经解》一书，不知取回否？若未取回，可专人去取。盖此等书，诸弟略一涉猎，即扩见识，不宜轻以赠人也。明年小考，须送十千，大场又须送十千。此等钱家中有人分领，便是一家之祥瑞，但澄弟须于在省城时张罗此项，付各考者，乃为及时。

京寓大小平安。纪泽儿已病两月，近日全愈，今日已上书馆矣。纪鸿儿极结实，声音洪亮异常。仆婢辈皆守旧。同乡各家，亦皆无恙。邹墨林尚住我家。

张雨农之子儒艺甚佳而不得售，近又已作文数首，其勇往可畏爱也。

书不详尽，写此毕即赴武闾，十二始归寓。余俟后报。

国藩手草

## 十一月初五日

澄侯、温甫、子植、季洪四弟左右：

十月初四日发第十七号家信，由折弁带交。十七日发十八号信，由廷芳字桂明府带交。便寄曾希六陈体元从九品执照各一纸、欧阳沧溟先生陈开煦换执照并批回各二张，添梓坪叔庶曾祖母百折裙一条、曾陈二人九品补服各一付、母亲大人耳帽一件，以上共一包。膏药一千张、眼药各种、阿胶二斤、朝珠二挂、笔五枝、针底子六十个，以上共一木匣。曾陈二人各对一付，沧溟先生横幅篆字一付。以上共一卷。计十二月中旬应可到省，存陈岱云宅，家中于小除夕前二日遣人至省走领可也。芳字在汉口须见上司，恐难早到；然遇顺风，则腊月初亦可到，家中或着人早去亦可。

余于十月初五起至十一止在围较射，十七出榜。四围共中百六十四人，余围内分中五十二人。向例武举人、武进士复试，如有弓力不符者，则原闾之王大臣每一名罚俸半年。今年以张字围不符者三名，王大臣各罚俸一年半。余围幸无不符之人。不然，则罚俸年半，去银近五百金，在京官已视为切肤之痛矣。

寓中大小平安。纪泽儿体已全复，纪鸿儿甚壮实。

邹墨林近由庙内移至我家住，拟明年再行南归。袁漱六由会馆移至虎坊桥，好而贱。贞斋榜后本拟南旋，因愤懑不甘，仍寓漱六处教读。刘镜清教习已传到，因丁艰而竟不能补。不知命途之外何至于此！凌荻

舟近病内伤，医者言其甚难奏效。

黄恕皆在陕，差旋述其与陕抚殊为冰炭。江岷樵在浙署秀水县事，百姓感戴，编为歌谣。署内一贫如洗。藩台闻之，使人私借千金，以为日食之资。其为上司器重如此。其办赈务，办保甲，无一不合于古。顷湖南报到，新宁被斋匪余章煽乱，杀前令李公之阖家，署令万公亦被戕，焚掠无算。则岷樵之父母家属，不知消息若何？可为酸鼻。余于明日当飞报岷樵，令其即行言旋，以赴家难。

余近日忙乱如常，幸身体平安。惟八月家书，曾言及明年假归省亲之事，至今未奉堂上手谕。而九月请弟未中，想不无抑郁之怀，不知尚能自为排遣否？此二端时时挂念，望澄侯详写告我。祖父大人之病，不知日内如何？余归心箭急，实为此也。

母亲大人昨日生日，寓中早面五席，晚饭三席。母亲牙痛之疾，近来家信未尝提及。断根与否？望下次示知。书不十一，余俟续具。

兄国藩手草

## 十二月初三日

澄侯、温甫、子植、季洪四弟左右：

十一月十五日接到祖父大人讣音，中肠惨痛。自以游子在外，不克佐父母襄办大事，负罪要疚，无可赎挽。比于十八日折差之便，先寄银百零五两，计元宝二锭，由陈岱云宅专足送至家中，不知刻已收到否？

国藩于十六日成服，十七日托军机大臣署礼部侍郎何大人汝霖代为面奏，请假两月，在家穿孝。自十七以后，每日吊客甚多。二十九日开吊，是早祭奠。因系祖妣冥寿之期，一并为文祭告。开吊之日，不收聘仪。讣帖刻“遽遭遗命，聘仪概不敢领”二语，共发讣帖五百余份。凡来者不送银钱，皆送祭棒、挽联之类，甚为体面。共收祭文八篇、祭棒七十五张、挽联二十七对、祭席十二桌、猪羊二付。其余香烛纸钱之类，不计其数。送礼物来者，用领谢帖；间有送银钱来者，用“奉遗命璧谢”帖。兹将讣帖等印发者，付回样子与家中一看。

各处送祭棒来者，哈喇大呢甚多，亦有缎匹江绸者。余意欲将哈喇作马褂数十件，分寄家中族戚之尤亲者。盖南中老人考终，往往有分遗念之说。或分衣，或分银钱。重五伯祖曾以灌皮马褂一件与王高七作遗念衣，即其证也。

澄弟之信，劝我不可告假回家。所言非不是。余亦再四思维，恐难轻动。惟离家十年，想兄堂上之心，实为迫切。今祖父大事既已办过，

则二亲似可迎养。然六旬以上之老人，四千有余之远道，宿累之资既已不易，舟车之险尤为可畏，更不敢轻举妄动。烦诸弟细细商酌，稟知父母亲及叔父母，或告假归省，或迎养堂上，二者必居其一，国藩之心乃可少安。父母亲近来欲见国藩之意，与不愿国藩假归之意，孰缓孰急？望诸弟细细体察，详以告我。祷切望切。

国藩手草

## 道光三十年庚戌岁

正月初九日

澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟足下：

正月初六日接到家信三函：一系十一月初三所发，有父亲手谕温弟代书者，一系十一月十八所发，有父亲手谕植弟代书者，一系十二月初三澄弟在县城所发一书，甚为详明，使游子在外，巨细了然。

庙山上金叔不知为何事而可取腾七之数？若非道义可得者，则不可轻易受此。要做好人，第一要在此处下手，能令鬼服神钦，则自然识日进气日刚。否则，不觉堕入卑污一流，必有被人看不起之日，不可不慎！诸弟现处极好之时，家事有我一人担当，正好做个光明磊落神钦鬼服之人，名声既出，信义既著，随便答言，无事不成，不必受此小便宜也。

父亲两次手谕，皆不欲予乞假归家。而予之意，甚思日侍父母之侧，不得不为迎养之计。去冬家书，曾以归省、迎养二事与诸弟相商。今父亲手示，既不许归省，则迎养之计更不可缓。所难者，堂上有四位老人。若专迎父母而不迎叔父母，不特予心中不安，即父母心中亦必不安；若四位并迎，则叔母病未全好，远道跋涉尤艰。予意欲于今年八月初旬迎父亲、母亲、叔父三位老人来京，留叔母在家，诸弟妇细心伺候。明年正月元宵节后，即送叔父回南，我得与叔父相聚数月，则我之心安；父母得与叔父同行数千里来京，则父母之心安；叔母在家半年，专雇一人服侍，诸弟妇又细心奉养，则叔父亦可放心；叔父在家抑郁数十年，今出外潇洒半年，又得观京师之壮丽，又得与侄儿、侄妇、侄孙团聚，则叔父亦可快畅。在家坐轿至湘潭，澄侯先至湘潭雇定好船，伺候

老人开船后，澄弟即可回家。船至汉口，予遣荆七在汉口迎接。由汉口坐三乘轿子到京，行李婢仆，则用小车，甚为易办。求诸弟细商堂上老人，春间即赐回信。至要至要。

李泽昱、李英灿进京，余必加意庇护。八斗冲地，望绘图与我看。诸弟自侍病至葬事，十分劳苦，我不克帮，心甚歉愧。

京师大小平安。皇太后大丧已于正月七日二十七日满，脱去孝衣。初八日系祖父冥诞，我作文致祭。即于是日亦脱白孝，以后照常当差。

心中万绪，不及尽书，统容续布。

兄国藩手草

三月三十日

男国藩跪禀父母亲大人礼安：

潢男三月十五到京，十八日发安信一件，实系五号，误写作四号，四月内应可收到。

藩男十九日下园子，二十日卯刻恭送大行皇太后上西陵。西陵在易州，离京二百六十里。二十四下午到，二十五辰刻致祭。比日转身，赶走一百二十里。二十六日走百四十里，申刻到家。一路清吉，而昼夜未免辛苦。二十八早复命。

数日内作奏折，拟初一早上。其折因前奏举行日讲，圣上已允，谕于百日后举行，兹折要将如何举行之法切实呈奏也。

二十九日申刻，接到大人二月二十一日手示，内六弟一信、九弟二十六之信、并六弟与他之信一并付来。知堂上四位老人康健如常，合家平安，父母亲大人俯允来京。男等内外不胜欣喜。手谕云起程要待潢男秋冬两季归，明年二月潢男仍送两大人进京云云。男等敬谨从命。叔父一二年内既不肯来，男等亦不敢强。潢男归家，或九月，或十月，容再定妥。男等内外及两孙、孙女皆好，堂上老人不必悬念。余俟续禀。



曾國藩家書卷之四

咸丰元年辛亥岁

三月初四日

温甫、沅浦、季洪三弟左右：

二月初二日接到第一、第二号家信，一系正月二十发，一系二月十二发，具悉一切。日内极挂念沅弟，得沅弟一红纸片，甚欣慰也。

澄弟已于二月二十六出京。浩轴须四月用宝，澄弟竟不能待，将来另托人带归。澄弟与安化张星垣奎、衡山陈谷堂焯焯二大令同行。至保定，又约杨毓楠之弟同行。鹅毛筒眼药、贴毒膏药，澄弟未带。将来托魏亚农带归，黄生之胞侄也。渠同年就廷托请浩封之事，将来必为办妥。渠之银，弟尽可收用。京寓大小平安。痼疾微发，尚不为害。

陈岱云之如夫人歿于安徽。顷接其信，甚为凄惋。同乡周辅亭得御史。常世兄、劳世兄两荫生皆内用。将来为光禄寺署正，可分印结，亦善地也。

兰姊多病，予颇忧虑。下次书来，尚乞详示。

父大人命予家书中不必太琐琐，故不多及。

国藩草

三月十二日

澄、温、植、洪四弟左右：

三月初四发第三号家信。其后初九日，予上一折，言兵饷事。适于是日，皇上以粤西事棘，恐现在彼中者不堪寄此重托，特放赛中堂前往。以予折所言甚是，但目前难以遽行。命将折封存军机处，待粤西事定后再行办理。赛中堂清廉公正，名望素著，此行应可迅奏肤功。但湖南逼近粤西，兵差过境，恐州县不免借此生端，不无一番蹂躏耳。

魏亚农以三月十三日出都，向予借银二十两。既系姻亲，又系黄生

之侄，不能不借与渠。渠言到家后即行送交予家，未知果然否。叔父前信要鹅毛管眼药并硝砂膏药。兹付回眼药百筒、膏药千张，交魏亚农带回，呈叔父收存，为时行方便之用。其折底亦付回查收。

澄弟在保定想有信交刘午峰处。昨刘有书寄子彦，而澄弟书未到，不解何故。已有信往保定去查矣。澄弟去后，吾极思念。偶自外归，辄至其房。早起辄寻其室，夜或遣人往呼。想弟在途路弥思我也。书不十一，余俟续具。

兄国藩手草

### 四月初三日

澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟左右：

三月初四日，此间发第三号家信交折弁。十二日发第四号信交魏亚农，又寄眼药鹅毛筒及硝砂膏药共一包，计可于五月收到。季洪三月初六所发第三号信，于四月初一日收到。

邓升六爷竟尔仙逝，可胜伤悼！如有可助恤之处，请弟时时留心。此不特戚谊，亦父大人多年好友也。

乡里凶年赈助之说，予曾与澄弟言之。若逢荒歉之年，为我办二十石谷，专周济本境数庙贫乏之人。自澄弟出京之后，予又思得一法，如朱子社仓之制，若能仿而行之，则更为可久。朱子之制：先捐谷数十石或数百石贮一公仓内，青黄不接之月借贷与饥民，冬用取息二分收还每石加二斗，若遇小歉则蠲其息之半每石加一斗，大凶年则全蠲之借一石还一石，但取耗谷三升而已。朱子此法行之福建，其后天下法之，后世效之，今各县所谓社仓谷者是也，其实名存实亡。每遇凶年，小民曾不得借贷颗粒，且并社仓而无之。仅有常平仓谷，前后任尚算交代，小民亦不得过而问焉。盖事经官吏，则良法美政，后皆归于子虚乌有。

国藩今欲取社仓之法而私行之我境。我家先捐谷二十石，附近各富家亦劝其量为捐谷。于夏月借与贫户，秋冬月取一分息收还每石加一斗。丰年不增，凶年不减。凡贫户来借者，须于四月初间告知经管社仓之人。经管量谷之多少，分布于各借户，令每人书券一纸，冬月还谷销券。若有不还者，同社管理斥，议罚加倍。以后每年我家量力添捐几石。或有地方争讼，理曲者，罚令量捐社谷少许。每年增加，不过十年，可积至数百石，则我境可无饥民矣。盖夏月谷价昂贵，秋冬价渐平落，数月之内，一转移之间，而贫民已大占便宜，受惠无量矣。吾乡昔年有食双谷者，此风近想未息。若行此法，则双谷之风可息。前与澄弟

面商之，说我家每年备谷救地方贫户。细细思之，施之既不能及远，行之又不可以久；且其法止能济下贫乞食之家，而不能济中贫体面之家。不若社仓之法，既可以及于远，又可以贞于久；施者不甚伤惠，取者又不伤廉，即中贫体面之家，亦可以大享其利。本家如任尊、楚善叔、宽五、厚一各家，亲戚如宝田、腾七、官九、荆四各家，每年得借社仓之谷，或亦不无小补。澄弟务须细告之父大人、叔父大人，将此事于一二年内办成，实吾乡莫大之福也。

我家捐谷，即写曾呈祥、曾呈材双名。头一年捐二十石，以后每年或三石，或五石，或数十石。地方每年有乐捐者，或多或少不拘，但至少亦须从一石起。吾思此事甚熟，澄弟试与叔大人细思之，并禀父亲大人，果可急于施行否？近日即以回信告我。

京寓大小平安。保定所发家信，三月末始到。赛中堂于初九日出京赴广西。考差在四月十四。同乡林昆圃于三月中旬作古。予为之写知单，大约可得百金。熊秋佩丁外艰。余无他事。予前所寄折稿，澄弟可抄一份交彭篪房，并托转寄江岷樵。抄一份交刘霞仙，并托转寄郭筠仙。

赛中堂视师广西，带小钦差七十五人，京兵二百四十名，京炮八十八尊，抬枪四十杆，铅子万余斤，火药数千斤。沿途办差，实为不易。粤西之事，日以羽檄。李石梧与周天爵、向荣皆甚不和，未知何日始得廓清。圣主宵旰焦灼，廷臣亦多献策，而军事非亲临其地，难以遽度。故予屡欲上折，而终不敢率尔也。余不一一。

兄国藩手草

## 五月十四日

澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟足下：

四月初三日发第五号家信。厥后折差久不来，是以月余无家书。五月十二折弁来，接到家中四号信，乃四月一日所发者。具悉一切。植弟大愈，此最可喜。

京寓一切平安。痼疾又大愈矣，比去年六月更无形迹。去年六月之愈，已为五年来所未有，今又过之。或者从此日退，不复能为恶矣。皮毛之疾，究不甚足虑，久而弥可信也。

四月十四日考差题“乐民之乐者，民亦乐其乐”，经文题“必有忍，乃其有济；有容，德乃大”，赋得“濂溪乐处”得“焉”字。

二十六日，余又进一谏疏，敬陈圣德三端，预防流弊。其言颇过激

切，而圣量如海，尚能容纳，岂汉唐以下之英主所可及哉！余之意，盖以受恩深重，官至二品，不为不尊；皇上则诰封三代，儿子则荫任六品，不为不荣。若于此时再不尽忠直言，更待何时乃可建言？而皇上圣德之美出于天造自然，满廷臣工，遂不敢以片言逆耳，将来恐一念骄矜，遂至恶直而好谀，则此日臣工不得辞其咎。是以趁此元年新政，即将此骄矜之机关说破，使圣心日就兢业而绝自是之萌。此余区区之本意也。现在人才不振，皆谨小而忽于大，人人皆习脂韦唯阿之风。欲以此疏稍挽风气，冀在廷皆趋于骨鲠，而遇事不敢退缩。此余区区之余意也。

折子初上之时，余意恐犯不测之威，业将得失祸福置之度外矣。不意圣慈含容，曲赐矜全。自是以后，余益当尽忠报国，不得复顾身家之私。然此后折奏虽多，亦断无有似此折之激直者。此折尚蒙优容，则以后奏折，必不致或触圣怒可知。请弟可将吾意细告堂上大人，毋以余奏折不慎，或以戆直干天威为虑也。

父亲每次家书，皆教我尽忠图报，不必系念家事。余敬体吾父之教训，是以公尔忘私，国尔忘家。计此后但略寄数百金偿家中旧债，即一心以国事为主，一切升官得差之念，毫不挂于意中。故昨五月初七大京堂考差，余即未往赴考。侍郎之得差不得差，原不关乎与考不与考。上年已酉科，侍郎考差而得者三人，瑞常、花沙纳、张芾是也。未考而得者亦三人：灵桂、福济、王广荫是也。今年侍郎考差者五人，不考者三人。是日题“以义制事以礼制心论”，诗题“楼观沧海日”得“涛”字。五月初一放云贵差，十二放两广、福建三省，名见京报内，兹不另录。袁漱六考差颇为得意，诗亦工妥，应可一得，以救积困。

朱石翘明府初政甚好，自我邑之福。余下次当写信与之。霞仙得县首，亦见其犹能拔取真士。

刘继振既系水口近邻，又送钱至我家求请封典，义不可辞。但渠三十年四月选授训导，已在正月二十六恩诏之后，不知尚可办否？当再向吏部查明。如不可办，则当俟明年四月升衔恩诏，乃可呈请。若并升衔之时推恩不能及于外官，则当以钱退还。家中须于近日详告刘家，言目前不克呈请，须待明年六月乃有的信耳。

澄弟河南、汉口之信皆已接到。行路之难，乃至于此！自汉口以后，想一路载福星矣。刘午峰、张星垣、陈谷堂之银皆可收，刘、陈尤宜受之，不受反似拘泥。然交际之道，与其失之滥，不若失之隘。吾弟能如此，乃吾之所以欣慰者也。西垣四月二十九到京，住余宅内，大约八月可出都。

此次所寄折底，如欧阳家、汪家及诸亲族不妨抄送共阅。见余忝窃高位，亦欲忠直图报，不敢唯阿取容，惧其玷辱宗族，事负期望也。余不一一。

兄国藩手草

## 六月初一日

澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟足下：

五月十四日发第六号家信，内有四月二十六日具奏一疏稿。余虽不能法古人之忠直，而皇上圣度优容，则实有非汉唐以下之君所能及者，已将感激图报之意于前书内详告诸弟矣。五月二十六日，又蒙皇上天恩，兼署刑部右侍郎。次日具折谢恩，即将余感戴之忱写出。兹将原折付归。

日内京寓大小平安。痼疾大好，较去年澄弟在此时更好三倍，头面侧毫无踪影，两腿虽未净尽，不复足为患也。同乡周子佩之母病体不轻，下身不仁，恐成偏枯。徐寿蘅放四川主考。湖南放四川者，向极吉利，嘉庆辛酉之杨刚亭先生、庚午之陶文毅、道光甲午之李文恭、乙未之罗苏溪、有成例矣。邝炉青、陈俊臣两人皆已来京。陈挈眷而邝则否，邝富而陈寒，所为似相反。然究以挈眷为是，邝一二年亦必悔之耳。林昆圃事，余为写知单，得百余金，合之开吊，共二百金，将来可以贖其七十四岁之老母也。漱六望差甚切，未知能如愿否。现在已放一半，而实录馆当差人员尚未放一人也。唐镜海于十八日到京，二十三日召见，垂询一切。天颜有喜，极言儒晚遇之荣。现已召见五次，将来尚可入对十余次。

罗山前有信来，词气温纯，似有道者之言。余已回信一次。顷又有信来，言纪泽未定婚，欲为贺耦庚先生之女作伐，年十二矣。余嫌其小一岁，且耦庚先生究系长辈。从前左季高与陶文毅为婚，余即讥其辈行不伦。余今不欲仍蹈其辙，拟敬为辞谢。现尚未作书复罗山，诸弟若在省见罗山兄，可将余两层意思先为道破，余它日仍当回书告知一切。余近思为纪泽定婚，其意颇急切。夏阶平处一说，本可相安，因其与黄子寿为亲家，余亦嫌辈行少屈，是以未就。黄菊卿有女年十三，近托袁漱六往求婚。菊卿言恐余升任总宪，渠须回避。不知渠是实意，抑系不愿成婚而托辞以谢也，故现未说定。弟可一一禀告堂上大人。又余家乡间若有孝友书香之家，不必问其贫富，亦可开亲，澄弟尽为我细细物色一遍？然余将同邑各家一想，亦未闻有真孝友人家也。

余至刑部，日日忙冗异常，迥不与礼部、工部、兵部相同。若长在

此部，则不复能看书矣。湖南副主考乔崔侨水部，颇称博雅。今年经策必须讲究古茂。曹西垣办分发，本月可引见，七月可出京。朱石翘明府昨有信来，言澄弟四月底到县。此次折弁到京，石翘有信，而澄弟无信，殊不可解。兹有书复朱，家中封好送去。诸惟心照，余俟续布。

国藩手草

## 七月初八日

澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟足下：

七月初六日接澄弟四月二十六信，五月初一、初八、二十三各信，具悉一切。植弟、洪弟各信亦俱收到。洪弟之书已至，六月初二所发者亦到。澄弟回家，至此始算放心。

樊城河内泡沙，如此可怖，闻之心悸。余戊戌年九月下旬在樊城河，半夜忽遭大风，帆数纜断，濒于危殆，后亦许观音戏，至今犹有余惊。以后我家出行者，万不可再走樊城河。戒之记之，敬告子孙可也。

彭山纪苦况如此，良为可怜！一月内外当更求一书以苏酒斛，但不知有挤否耳。此等人谋，亦须其人气运有以承之，如谢博泉之事即鲜实效。若使南翁在彼，当稍有起色矣。

凌获舟之银，虽周小楼与获舟之子私相授受，以欺紫嫂，而获子又当受小楼之欺，终吞于周氏之腹而后已。余处现尚存凌银将二百金，拟今年当全寄去。澄弟既将此中消息与孙筱石道破，则此后一概交孙，万无一失。刘午峰曾言赠赠百金，不知今岁可收到否？余今年还凌银须二百，又须另筹二百五十金寄家，颇为枯窘。今年光景大不如去年，然后知澄弟福星来临，有益于人不浅也。其二百五十金，望澄弟在家中兑与捐职者及进京会试者。总在今冬明春归款，不致有误，但不可以更多耳。

父大人至县城两次，数日之经营，为我邑造无穷之福泽。上而邑长生感，下而百姓歌颂，此诚盛德之事。但乡民可与谋始，难与乐成。恐历时稍久，不能人人踊跃输将，亦未必奏效无滞。我家倡义，风示一邑，但期鼓舞风声而不必总揽全局，庶可进可退、绰绰有余耳。

朱明府之得民心，予已托人致书上游，属其久留我邑。若因办饷得手，而遂爱民勤政，除查息讼，则我邑之受赐多矣。社仓之法，有借无还，今日风俗，诚然如此！澄弟所见，良为洞悉时变之言，此事竟不可议举行。王介甫青苗之法所以病民者，亦以其轻于借而难于还也。

季弟书中言每思留心于言行之差错，以时时儆惕。余观此语，欣慰

之至。凡人一身，只有迁善改过四字可靠；凡人一家，只有修德读书四字可靠。此八字者，能尽一分，必有一分之庆；不尽一分，必有一分之殃。其或休咎相反，必其中有不诚，而所谓改过修德者，不足以质诸鬼神也。吾与诸弟勉之又勉，务求有为善之实，不使我家高曾祖父之积累自我兄弟而剥丧，此则余家之幸也。

余痼疾上身全好，自腰以下略有未净。精神较前三年竟好得几分，亦为人子者仰慰亲心之一端。宅内大小上下俱平安。

同乡周子佩丁忧，余送银八两，挽联一付。杜兰溪放山西差。漱六又不得差，颇难为情。写作俱佳，而不可恃如此！曹西垣请分发，将于月半之官皖中。李笔峰完娶之后，光景奇窘。同乡各家大半拮据。据纪泽近日诗论又稍长进。书不十一，顺候近佳，余俟续具。

兄国藩手草

## 八月十三日

澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟足下：

七月初九日发家信第八号，想已收到。八月初十折差来京，接张湘纹书。计折弁当于七月二十外起行，诸弟正在省城而无家书，何也？诸弟发家书交提塘后，往往屢次不帶，或一次带数封。折弁颇为可恶！诸弟须设法与提塘略一往还，当面淳托，或稍有济。否则每次望信，甚闷损人也。

京寓大小平安。前月内人病数日，近已痊愈。曹西垣于八月四日出京之官安徽。张书斋于十一日出京之官贵州。今冬本欲寄银到家，因前次澄弟书言公车来京，家中尽可兑银，是以予不另寄。除凹里田价外，尚须送亲族年例银五十金，亦宜早早筹画。共计若干，概向各处公车妥兑，免致年底掣肘。如无处可兑，即须闰八月寄信来京，以便另办，然不如兑之为便也。

浩轴已经用宝，日内即可发下，九月即可到家。

乡试题刻于京报上。诗题“得庠字”，系出高宗御制。是题诗中句云：“即此供吟眺，莫烦事帑庠。”场中无人知之也。李子彦之文甚好。镜云文尚未见。朱湘宾教习已传到，昨日专人去告知。

李石梧身后，恩典甚厚。乃七月末翰林院撰祭文、碑文进呈，朱批竟加严飭。谓其夸奖过当，词藻太多，且贬其调度乖方，功过难掩，历任封疆，尤不足称云云，飭令翰林院另行改撰。其后复撰进呈，遂多贬词。功名之际，难得终身始完全也。

綱庚先生家亲事，予颇思成就。一则以綱翁罢官，予亦内有愧心，思借此联为一家，以贻予隐微之愆。二则綱翁家教向好，贤而无子，或者其女子必贤。诸弟可为我细访，罗罗山下次信来详告。若女子果厚重，则儿子十七岁归家省祖父母、叔祖父母时，即可成喜事也。前托在乡间择婚，细思吾邑读书积德之家如贺氏者亦实无之。诸弟暂不必昌言耳。余俟续布。

兄国藩手草

八月十九日

澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟足下：

八月十四日发第九号信，至十七日接到家信第七、第八二号，欣慰一切。

左光八为吾乡巨盗，能除其根株，扫其巢穴，则我境长享其利，自是莫大阴功。第湖南会匪所在勾结，往往牵一发而全神皆动。现在制军程公特至湖南，即是奉旨查办此事。盖恐粤西匪徒穷窜，一入湖南境内，则楚之会匪因而窃发也。左光八一起，想尚非巨伙人会着流。然我境办之，亦不可过激而生变。现闻其清正绅保举，改行为良，且可捉贼自效，此自一好机会。万一不然，亦须相机图之，不可用力太猛，易发难收也。

公议粮饷一事，果出通邑之愿，则造福无量。至于帮钱垫官之亏空，则我家万不可出力。盖亏空万六千两，须大钱三万余千，每都几须派千串。现在为此说者，不过数大绅士一时豪气，为此急公好义之言。将来各处分派，仍是巧者强者少出而讨好于官之前，拙者弱者多出而不免受人之勒。穷乡殷实小户，必有怨声载道者。且此风一开，则下次他官来此，既引师令之借钱办公为证，又引朱令之民帮垫亏为证，或亦分派民间出钱帮他，反觉无辞以谢。若相援为例，来一官帮一官，吾邑自此无安息之日。

凡行公事，须深谋远虑。此事若各绅有意，吾家不必拦阻；若吾家倡议，则万万不可。且官之补缺皆有呆法，何缺出轮何班补，虽抚藩不能稍为变动。澄弟在外多年，岂此等亦未知耶？朱公若不轮到班，则虽帮垫亏空，通邑挽留，而格于成例，亦不可行。若已轮到班，则虽不垫亏空，亦自不能不补此缺也。间有特为变通者，督抚专折奏请，亦不敢大违成例。季弟来书，若以朱公之实授与否，全视乎亏空之能垫与否，恐亦不尽然也。曾仪斋若系革职，则不复能穿补子，若系大计休致，则



尚可穿。

季弟有志于道义身心之学，余阅其书，不胜欣喜。凡人无不可为圣贤，绝不系乎读书之多寡。吾弟诚有志于此，须熟读《小学》及《五种遗规》二书。此外各书能读固佳，不读亦初无所损。可以为天地之完人，可以为父母之肖子，不必因读书而后有所加于毫末也。匪但四六古诗可以不看，即古文为吾弟所愿学者，而不看亦自无妨。但守《小学》《遗规》二书，行一句算一句，行十句算十句，贤于记诵，词章之学万万矣。季弟又言愿尽孝道，惟亲命是听。此尤足补我之缺憾。我在京十余年，定省有阙，色笑远违，寸心之疚，无刻或释。若诸弟在家能婉愉孝养，视无形，听无声，则余能尽忠，弟能尽孝，岂非一门之祥瑞哉！愿诸弟坚持此志，日日勿忘，则兄之疚可以稍释。幸甚幸甚。书不十一，余俟续具。

兄国藩手草

## 闰八月十二日

澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟左右：

八月二十日发家信第十号，想已收到。顷闰月初十日折弁来京，计其在省起行，当在前月二十外，乃竟未接到家信。诸弟出闾后不惟不付文章，亦并不抄一题寄一信，何耶？或者已发而折弁未带，未可知也。

近来京寓平安，癣疾又微发。以兼署刑部，较为繁劳。儿女辈皆如常，足慰堂上老人之垂念。惟近来有两件事大不快意。一件国事：系黄河于丰县北岸决口，数十万生灵罹此凶灾。目前抚恤固非易事，将来堵筑，非帑金数百万不可。且漕船尚未回空，水道中梗，恐致贻误。一件家事：诰封已于八月用宝，我家各轴竟尚未用。吾意思急急寄回，以博父母大人、叔父母大人之一欢。乃竟未领得，心焉负疚。去年请封时，系由礼部行文吏部，彼时曾与澄弟谈及，以为六部毕竟声势相通，办事较易。岂知不另托人不另给钱，则书办置之不议不论，遂将第一次用宝之期已误过矣。现在已另托夏阶平妥办，不知今夕尚用宝否？然父亲、叔父顶戴补服皆于服阙后即穿用一品服色，盖此自去年颁诏之日为定，不以接轴之日为定也。

顺天于初十日发榜，湖南中十一人。镜云中而子彦黼，一喜一愧。然子彦九月就婚蔚州，亦是大喜，小挫正无伤也。曹冶山修于闰月初殁于老馆，实为可怜。近来此等事，棺木之费皆我任之，颇觉拮据不给。然使无人任之，又岂可听其客死无归？

桐庚先生之女，其德容言功，诸弟曾打听分明否？兰姊、蕙妹二家不睦，将来不宜在一屋居住。即田地毗连，亦非所宜。予置刑部，大约十月可御事，现在审办琦善一案，正为吃紧之时。予保养身体，自知慎重。诸弟稟知堂上大人，敬求放心。余俟续布。

兄国藩手草

## 九月初五日

澄侯、温甫、子植、季洪四弟足下：

日来京寓大小平安。痲疾又已微发，幸不为害，听之而已。湖南榜发，吾邑竟不中一人。沅弟书中言温弟之文典丽奇崛，亦尔被抑。不知我诸弟中将来科名究竟何如？以祖宗之积累及父亲、叔父之居心立行，则诸弟应可多食厥报。以诸弟之年华正盛，即稍迟一科，亦未遽为过时。特兄自近年以来事务日多，精神日耗，常常望诸弟有继起者，长住京城，为我助一臂之力。且望诸弟分此重任，余亦欲稍稍息肩。乃不得一售，使我中心无倚！

盖植弟今年一病，百事荒废；场中又患眼疾，自难见长。温弟天分本甲于诸弟，惟牢骚太多，性情太懒。前在京华不好看书，又不作文，余心即甚忧之。近闻还家以后，亦复牢骚如常，如数月不搦管为文。吾家之无人继起，诸弟犹可稍宽其责，温弟则实自弃，不得尽委其咎于命运。吾尝见友朋中牢骚太甚者，其后必多抑塞，如吴檀台、凌荻舟之流，指不胜屈。盖无故而怨天，则天必不许；无故而尤人，则人必不服。感应之理，自然随之。温弟所处，乃读书人中最顺之境，乃动则怨尤满腹，百不如意，实我之所不解。以后务宜力除此病，以吴檀台、凌荻舟为眼前之大戒。凡遇牢骚欲发之时，则反躬自思：吾果有何不足而蓄此不平之气？猛然内省，决然去之。不惟平心谦抑，可以早得科名，亦且养此和气，可以消减病患。万望温弟再三细想，勿以吾言为老生常谈，不值一哂也。

王晓林先生曾在江西为钦差，昨有旨命其署江西巡抚。余署刑部，悉须至明年乃能交卸。袁漱六昨又生一女。凡四女，已殇其二。又丧其兄，又丧其弟，又一差不得，甚矣！穷翰林之难当也。黄麓西由江苏引见入京，迥非昔日初中进士时气象，居然有经济才。王衡臣于闰月初九引见，以知县用。后于月底徽寓下洼一庙中，竟于九月初二夜无故遽卒。先夕与同寓文任吾谈至二更，次早饭时，訝其不起，开门视之，则已死矣。死生之理，善人之报，竟不可解。

邑中劝捐弥补亏空之事，余前已有信言之，万不可勉强勒派。我县之亏，亏于官者半，亏于书吏者半，而民则无事也。向来书吏之中饱，上则吃官，下则吃民。名为包征包解，其实当征之时，则以百姓为鱼肉而吞噬之；当解之时，则以官为雄媒而播弄之。官家钱粮于书吏之手，犹索食于虎狼之口。再四求之，而终不肯吐。所以积成巨亏，并非实欠在民，亦非官之侵蝕人己也。今年父亲大人议定粮饷之事，一破从前包征包解之陋风，实为官民两利，所不利者仅书吏耳。即见制台留朱公，亦造福一邑不小。诸弟皆宜极力助父大人办成此事。惟捐银弥亏则不宜操之太急，须人人愿捐乃可。若稍有勒派，则好义之事反为厉民之举。将来或翻为书吏所借口，必且串通劣绅，仍还包征包解之故智，万不可不预防也。

梁侍御处银二百，月内必送去。凌宅之二百亦已兑去。公车来兑五十金，为送亲族之用，亦必不可缓。但京寓近极艰窘，此外不可再兑也。邑令既与我家商办公事，自不能不往还，然诸弟苟可得已，即不宜常常入署。陶、李二处，容当为书。本邑亦难保无假名请托者，澄弟宜預告之。书不详尽，余俟续具。

兄国藩手草

十月十二日

澄侯、温甫、子植、季洪四弟足下：

九月二十六日发家信第十三号，想已收到。十月初十日，接到家中闰月二十八所发信及九月初二、九月十四所发各件。十二夜又于陈伯符处接到父亲大人闰八月初七所发之信，系交罗罗山手转寄者。陈伯符者，贺耦庚先生之妻舅也。故罗山托其亲带来京。得此家书四件，一切皆详知矣。

纪泽聘贺家婚事，观闰八月父亲及澄弟信，已定于十月订盟；观九月十四澄第一信，则又改于正月订盟。而此间却有一点挂碍，不得不详告家中者。京师女流之辈，凡儿女定亲，最讲究嫡出庶出之分。内人闻贺家婚事，即托打听是否庶出，余以其无从细询，亦遂置之。昨初十日接家中正月订盟之音，十一日即内人亲至徐家打听，知贺女实系庶出，内人即甚不愿。余比晓以大义，以为嫡出庶出何必区别，且父亲大人业已喜而应允，岂可复有他议？内人之意，以为为夫者先有嫌妻庶出之意，则为妻者更有局踣难安之情，日后曲折情事亦不可不早为虑及。求诸弟宛转禀明父母，尚须斟酌，暂缓订盟为要。陈伯符于十月十日到

京，余因内人俗意甚坚，即于十二日夜请贺礼庚、陈伯符二人至寓中，告以实情，求伯符先以书告贺家，将女庚不必遽送，俟再商定。伯符已应允，明日即发书，十月底可到贺家。但兄前有书回家，言亲事求父亲大人作主。今父亲欢喜应允，而我乃以妇女俗见从而扰惑，甚为非礼。惟婚姻百年之事，必先求姑媳夫妇相安，故不能不以此层上渎。即罗山处，亦可将我此信抄送一阅，我初无别见也。夏阶平之女，内人见其容貌端庄，女工极精，甚思对之。又同乡陈奉曾一女，相貌极为富厚福泽，内人亦思对之。若贺家果不成，则此二处必有一成，明春亦可订盟；余注意尤在夏家也。京城及省城订盟，男家必办金簪、金环、玉镯之类，至少亦须花五十金。若父亲大人决意欲与贺家成亲，则此数者亦不可少。家中现无钱可办，须我在京中明年交公车带回。七月间请弟乡试晋省之便再行订盟，亦不为晚。望澄弟下次信详以告我。

祖父佛会既于十月初办过，则父母叔父母四位大人现已即吉，余悉尚未除服，故昨父亲生日，外未宴客，仅内有女客二席。十一，我四十晋一，则并女客而无之。

朱石樵为官竟如此之好，实可佩服！至于铤沙伤其面尚勇往前进，真不愧为民父母。父亲大人竭力帮助，洵大有造于一邑。诸弟苟可出力，亦必尽心相扶。现在粤西未靖，万一吾楚盗贼有乘间窃发者，得此好官粗定章程，以后吾邑各乡自为团练，虽各县盗贼四起，而吾邑自可安然无恙，如秦之桃花源，岂不安乐？须将此意告邑之正经绅耆，自为守助。

牧云补廪，烦弟为我致意道喜。季弟往凹里教书，不带家眷最好，必须多有人在母亲前，乃为承欢之道。季洪十日一归省，亦尽孝之要也。而来书所云寡欲多男之理，亦未始不寓乎其中。甲五读书，总以背熟经书、常讲史鉴为要每夜讲一刻足矣。季弟看书不必求多，亦不必求记，但每日有常，自有进境，万不可厌常喜新，此书未完，忽换彼书耳。

兄国藩手草

十二月二十二日

澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟足下：

十二月十一日发家书十六号，中言纪泽儿婚事，求家中即行与贺家订盟，其应办各物，已于书中载明，并悔前此嫌是庶出之咎云云，想已接到。如尚未到，接得此信，即赶紧与贺家订盟可也。

诰封各轴已于今日领到，正月二十六恩诏四轴曾祖父母、祖父母、父母、叔父母，四月十三恩诏亦四轴，三月初三恩诏一轴本身妻室，凡九轴。八月初六用宝一次，我家诸轴因未曾托人，是以未办。曾于闰八月写信告知，深愧我办事之疏忽。后虽托夏阶平，犹未放心，又托江苏友人徐宗勉，渠系中书科中书，专办诰敕事宜。今日承徐君亲送来宅，极为妥当，一切写法行款俱极斟酌，比二十六年所领者不啻天渊之别，颇为欣慰。虽比八月用宝者迟五个月，而办法较精，且同年同乡中有八月领到者，或只一次未能三次同领，或此番尚未用宝者亦颇有之。诸弟为我敬告父母大人、叔父母大人，恭贺大喜也。惟目前无出京之人，恐须明年会试后乃交公车带归。重大之件，不敢轻率。向使八月领到，亦止十二月陈奏阶一处可付与雨苍同行，此外无便。

余于十八日陈奏民间疾苦一疏，十九日奏银钱并用章程一疏，奉朱批交户部议奏，兹将两折付回。文任吾于十三日搬至我家，庞省三于二十四日放学，寓中一切如常，内外大小平安。今年腊底颇窘，须借二百金乃可过年，不然，恐被留住也。袁漱六亦被年留住。刘佩泉断弦，其苦不可名状，儿女大小五六人无人看视。黎越翁尚未到京，闻明年二月始能到，未带家眷。涂心斋已到京，尚未来见我。公车中惟龙峰臣及澧州馆到二人而已。粤西事用银已及千万两而尚无确耗，户部日见支绌，内库亦仅余六百万。时事多艰，无策以补救万一，实为可愧！明年拟告归，以避尸位素餐之咎，诸弟为我先告堂上可也。余不一一。

国藩手草

## 咸丰二年壬子岁

### 正月初九日

澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟足下：

正月初八接到十二月初旬父大人所发二信，皆系在县城发者，不胜忻慰。纪泽作定婚之事，予于十二月连发二信，皆言十月十二所发之信言嫌贺女庶出之说系一时谬误，自知悔过，求诸弟为我敬告父亲大人，仍求作主，决意对成，以谐佳偶，不知此二书俱已到家否？细思贺家簪缨门弟，恐闻有前一说，惧其女将来过门受气，或因此不愿对亦未可

知。果爾，則澄弟設法往省城，堅托羅羅山、劉震仙二君將內人性情細告賀家，務祈成此親事，不致陷我于不孝之咎。

澄弟與朱堯階成親，余甚歡喜。我朋友最初之交無过于堯階者，蓋今日姻緣，已定于二十年以前矣。魏家亦我境第一詩書人家，魏棟尚未到京，容當照拂一切也。植弟買筆事，总在春間寄南，以備考考之用。若科考不在前三名，則不宜考優，無使學政笑我家太外行也。《關帝覺世經》刷五百張，須公車回南乃可付歸，《陰騭文》、《感應篇》亦須公車南去乃可帶。澄弟戒烟正與阿兄同年，余以壬寅年戒烟，三十二也，澄弟去年亦三十二也。戒酒似可不必，三兩杯以養血未始不可，但不宜多耳。去年帶回父大人之干尖子皮褂，不知已做成否？若未做，可即做成，用月白緞子為面。今年當更寄白風毛褂回家，敬送與叔父大人。若父、叔二大人同日出門，則各穿一件；若不同出門，則薄寒穿干尖子，盛寒穿白風毛。予官至二品，而堂上大人衣服之少如此，于孝道則未盡，而弥足以彰堂上居家之儉德矣。

京寓大小平安。癘疾未發。文任吾先生希菴于正月六日上学。其人性理學甚深，今年又得一賢師。植弟勸我教澤兒學八股，其言甚切至有理，但我意要《五經》讀完始可動手。計明年即可完經書，做時文尚不過滿十四歲，京師教子弟十四歲開筆者甚多。若三年成篇，十七歲即可作佳文。現在本系廩生，例不准赴小考。擬令照我之樣，二十四歲始行鄉試，實可學做八股者十年。若稍有聰明，豈有不通者哉？若十九、二十即行鄉試，無論万万不中，即中得太早又有何味？我所以決計令其明秋始學八股，二十四始鄉試也。九弟為我稟告父大人，實不為遲，不必挂慮。

余近來常思歸家，今年秋間實思挈眷南旋，諸弟為我稟告堂上大人，春間即望一回信。九弟進京之說，暫不必急急。同鄉諸家如故。余容后日續寄。

兄國藩手草

七月二十六日

字諭紀澤兒：

七月二十五日丑正二刻，余行抵安徽太湖縣之小池驛，慘聞吾母大故。余德不修，無實學而有虛名，自知當有禍變，惧之久矣。不謂天不闕滅我身，而反災及我母。回思吾平日隱憂大懼不可勝數，一聞此信，真無地自容矣。小池驛去大江之濱尚有二百里，此兩日內雇一小轿，仍

走早路，至湖北黄梅县临江之处即行雇船。计由黄梅至武昌不过六七百里，由武昌至长沙不过千里，大约八月中秋后可望到家。一出家辄十四年，吾母音容不可再见，痛极痛极！不孝之罪，岂有稍减之处！兹念京寓眷口尚多，还家甚难。特寄信到京，料理一切，开列于后：

一、我出京时将一切家事面托毛寄云年伯，均蒙慨许。此时遭此大变，尔往叩求寄云年伯筹划一切，必能俯允。现在京寓并无银钱，分毫无出，家眷回南路费，人口太多，计须四五百金，求寄云年伯张罗。此外，同乡如黎铤乔、黄恕皆老伯，同年如王静庵、袁午桥年伯，平日皆有肝胆，待我甚厚，或可求其湊办旅费。受人恩情，当为将来报答之地，不可多求人也。袁漱六姻伯处，只可求其出力帮办一切，不可令其张罗银钱，渠甚苦也。

二、京寓所欠之账，惟西顺兴最多，此外，如杨监川、王静安、李玉泉、王吉云、陈仲鸾诸兄，皆多年未偿。可求寄云年伯及黎、黄、王、袁诸君内择其尤相熟者，前往为我展缓，我再有信致各处。外间若有奠金来者，我当概存寄云、午桥两处。有一两即以一两还债，有一钱即以一钱还债。若并无分文，只得待我起复后再还。

三、家眷出京，行路最不易。樊城旱路既难，水路尤险，此外更无好路。不如仍走王家营为妥，只有十八日早路。到清江即王家营也时有郭雨三亲家在彼，到池州江边有陈岱云亲家及树堂在彼，到汉口时，吾当托人照料。江路虽险，沿途有人照顾，或略好些。闻扬州有红船最稳，虽略贵亦可雇。尔母最怕坐车，或雇一驮轿亦可又闻驴子驮轿比骡子较好。然驮轿最不好坐，尔母可先试之。如不能坐，则仍坐三套大车为妥于驮轿大车之外另雇一空轿车备用，不可装行李。

四、开吊散讣不可太滥，除同年同乡门生外，惟门簿上有来往者散之，此外不可散一分。其单请庞省三先生定。此系无逾费，不得已而为之，不可滥也，即不滥；我已愧恨极矣！

五、外间亲友，不能不讣告寄信，然尤不可滥。大约不过二三十封，我到武昌时当寄一单来，并寄信稿，此刻不可遽发信。

六、铺店账目宜一一清楚，今年端节已全楚矣。此外只有松竹斋新账，可请省三先生往清，只可少给他，不可全欠他。又有天元德皮货店，请寄云年伯往清。其新猗猗皮褂即退还他，若已做成，即并缝面送赠寄云可也。万一无钱，皮局账亦暂展限，但累寄云年伯多矣。

七、西顺兴账，自丁未年夏起至辛亥年夏止皆有折子，可将折子找出，请一明白人细算一遍如省三先生、湘宾先生及子彦皆可。究竟用他多少钱，专算本钱，不必兼算利钱。待本钱还清，然后再还利钱。我到

武昌时，当写一信与萧沛之三兄。待我信到后，然后请寄云年伯去讲明可也。总须将本钱、利钱划为两段，乃不至胶轕不清。六月所借之捐贡银壹百二十余金，须设法还他，乃足以服人。此事须与寄云年伯熟计。

八、高松年有银百五十金，我经手借与曹西垣，每月利息京钱十千。今我家出京，高之利钱已无着落。渠系苦人，我当写信与西垣，嘱其赶紧寄京。目前求黎樾乔老伯代西垣清几个月利钱，至愚至愚。并请高与黎见面一次。

九、木器等类，我出京时已面许全交与寄云，兹即一一交去，不可分散，概交寄云年伯，盥器本少，分则更少矣。送渠一人，犹成人情耳，锡器、磁器亦交与他。

十、书籍我出京时一一点明，与尔舅父看过。其要紧者皆可带回。此外我所不带之书，惟《皇清经解》六十函算一大部，我出京时已与尔舅说明，即赠送与寄云年伯。又《会典》五十函算一大部，可借与寄云用。自此二部外，并无大部，亦无好板。可买打磨厂油箱，一一请书店伙计装好上贯钉封皮，交寄云转寄存一庙内，每月出货钱可也。边袖石借《通典》一函，田敬堂借地图八幅，吴南屏借梅伯言诗册，俱往取出带回。

十一、大厅书架之后有油木箱三个，内皆法帖之类，其已被好者可全带回，其未被者带回亦可送人。家信及外来信，粘在本子上者皆宜带回。地舆图三付，皆宜带回，又有十八省散图亦带回。字画、对联之类，弄好者带回；上下木轴均撤去，以便卷成一捆。其不好者太宽者不必带。做一宽箱封锁，与书箱同寄一庙内。凡收拾书籍、字画之类，均请省三先生及子彦帮办，而牧云一一过目。其不带者，均用箱寄庙。

十二、我本思在江西归家，凡本家亲友皆以银钱赠送，今既毫无可赠。尔母归来，须略备接仪，但须轻巧不累赘者，如毡帽、挽袖之类，亦不可多费钱。捞沙膏、眼药之属亦宜带些，高丽参带半斤。

十三、纪泽宜做棉袍褂一付、靴帽各一，以便向祖父前叩头承欢。

十四、王雁汀先生寄书，有一单，我已点与子彦看。记得乾隆二集系王世兄取去，五集系王太史教敏向刘世兄借去，余刘世兄取去者有一片，此外皆在架上，可送还他。

十五、苗仙鹿寄卖之书：《声订》、《声读表》共一种、《毛诗韵订》一种、《建首字读本》，想到江西销售几部。今既不能，可将书架顶上三种各四十余部还他，交黎樾乔老伯转交。

十六、送家眷出京，求牧云总其事。如牧云已中举，亦求于复试后。九月二十外起行，由王家营水路至汉口，或不还家，仍由汉口至京会试可也。下人中必须罗福、盛贵，若沈祥能来更好，否则李长子亦



可。大约男仆须四人，女仆须三人。九月二十前后必须起程，不可再迟。一定由王家营走，我当写信托沿途亲友照料。

### 八月初八日 薪水舟中书

字谕纪泽儿：

吾于七月二十五日在太湖县途次痛闻吾母大故，是日仍雇小轿行六十里，是夜未睡，写京中家信料理一切，命尔等眷口于开吊后赶紧出京。二十六夜发信交湖北抚台寄京。二十七发信交江西抚台寄京。两信是一样说话，而江西信更详。恐到得迟，故由两处发耳。惟仓卒哀痛之中有未尽想到者，兹又想出数条，开示于后：

一、他人欠我账目，算来亦将近千金。惟同年鄯勋齐敏学，当时听其肤受之赙而借与百金，其实此人并不足惜。云兄渠知此事。今渠已参官，不复论已。此外凡有借我钱者，皆光景甚窘之人。此时我虽窘迫，亦不必向人索取。如袁亲家、黎樾翁、汤世兄、周荇农、邹云阶，此时皆甚不宽裕。至留京公车，如复生同年、吴镜云、李子彦、刘裕轩、曾爱堂诸人，尤为清苦异常，皆万不可向其索取，即送来亦可退还。盖我欠人之账，即不能还清出京，人欠我之账而欲其还，是不恕也。从前黎樾翁出京时亦极窘，而不肯索穷友之债，是可为法。至于胡光伯之八十两、刘仙石之二百千钱，渠差旋时自必还交袁亲家处，此时亦不必告知渠家也。外间有借我者，亦极窘，我亦不写信去问他。

二、我于二十八、二十九在九江耽擱两日，江西省城公送来冀分银壹千两，余以三百两寄京还债，以西顺兴今年之代捐贡银及寄云兄代买皮货银之类皆甚紧急。其银交湖北主考带进京。想到京时家眷已出京矣，即交寄云兄择其急者而还之。下剩七百金，以二百余金在省城还账，带四百余金至家办葬事。

三、驮轿要雇即须二乘，尔母带纪鸿坐一乘，乳妈带六小姐、五小姐坐一乘。若止一乘，则道上与众车不同队，极孤冷也。此外雇空太平车一乘，备尔母道上换用。又雇空轿车一乘，备尔与诸妹弱小者坐。其余概用三套头大车。我之主见，大略如此。若不妥当，仍请袁姻伯及毛、黎各老伯斟酌，不必以我言为定准。

四、李子彦无论中否皆须出京，可请其与我家眷同行几天。行至雄县，渠分路至保定去，亦不甚绕也。到清江浦雇船，可请郭雨三姻伯雇，或雇湖广划子二只亦可，或至扬州换雇红船，或雇湘乡钓钩子亦可。沿途须发家信。至清江浦托郭姻伯寄信，至扬州托刘星房老伯寄

信，至池州托陈姻伯，至九江亦可求九江知府寄，至湖北托常太姻伯寄，以慰家中悬望。信面写法另附一条。

五、小儿女等须多做几件棉衣，道上十月因冷，船上尤寒也。

六、御书诗匾及戴醇士、刘茶云所写匾，俱可请裱匠卸下，卷起带回。王孝凤借去天图，其底本系郭筠仙送我的，暂存孝凤处，将来请交筠仙。

七、我船一路阻风，行十一日，尚止走得三百余里，极为焦灼。幸冯树堂由池州回家，来至船上与我作伴，可一同到省，堪慰孤寂，京中可以放心。

八、江西送奠仪千金，外有门包百金。丁贵、孙福等七人已分去六十金，尚存四十金。将来罗福、盛贵、沈祥等到家，每人可分八九两。渠等在京要支钱，亦可支与他，渠等皆极苦也。

九、我在九江时，知府陈景曾、知县李福甲午同年皆待我极好。家眷过九江时，我已托他照应，但讨快不讨关讨关免关钱也，讨快但求快快放行，不免关税也。尔等过时，渠若照应，但可讨快，不可代船户讨免关。

十、船上最怕盗贼。我在九江时，德化县派一差人护送，每夜安船后，差人唤塘兵打更，究竟好些。家眷过池州时，可求陈姻伯飭县派一差人护送。沿途写一潘信，一径护送到湖南，或略好些。若陈姻伯因系亲戚，避嫌不肯，则仍至九江求德化县派差护送。每过一县换一差，不过赏大钱貳百文。

十一、各处发讨信，现在病不知日，没不知时，不能写信稿，只好到家后再说。八月初八薪水舟中书

## 八月十二日 夜在武昌城内发家信

字谕纪泽儿：

余于初八日在舟中写就家信，十一早始到黄州。因阻风太久，遂雇一小轿起早。十二日未刻到湖北省城。晤常南陔先生之世兄，始知湖南消息。长沙被围危急，道路梗阻，行旅不通，不胜悲痛，焦灼之至。现在武昌小住，家眷此时万不可出京，且待明年春闲再说。开吊之后，另搬一小房子住，余陆续设法寄银进京用。匆匆草此，俟一二日内续寄。

## 八月十三日 夜在湖北省城

字谕纪泽儿：

十三日在湖北省城住一天，左思右想，只得仍回家见吾父为是。拟十四日起行，由岳州、湘阴绕道出沅江、益阳以至湘乡，约须半个月，沿途自知慎重。如果遇贼，即仍回湖北省城。陆续有家信寄京，不必挂念。家眷既不出京，止将书检存箱内，搬一房子，余物概不必动。余行李皆存常大人署中，留荆七、孙福看守，自带丁、韩二人回南。常又差四人护送，可以放心。

## 八月二十六日

字谕纪泽儿：

余于八月十四日在湖北起行，十八至岳州，由湘阴、宁乡绕道，于二十三日到家，在腰里新屋痛哭吾母。二十五日至白杨坪老屋，敬谒吾祖屋冈公坟墓。家中老少平安，地方亦安静。合境团练武艺颇好，土匪可以无虞。吾奉父亲大人之命，于九月十三日暂厝吾母于腰里屋后，俟将来寻得吉地再行迁葬。家眷在京，暂时不必出京，俟长沙事平再有信来。王吉云同年在湖北主考回京，余交三百二十金托渠带京，想近日可到。

余将发各处讣信，刻尚无暇，待九月再寄。京中寄信回，交湖北常大人处最妥。岳父、岳母俱于二十五日来我家，身体甚好，尔可告知尔母。余不尽。

漱生手示

## 九月十八日

字谕纪泽儿：

予自在太湖县闻讣后，于二十六日书家信一号，托陈岱云交安徽提塘寄京；二十七日写二号家信，托常南陔交湖北提塘寄京；二十八日发三号，交丁松亭转交江西提塘寄京。此三次信，皆命家眷赶紧出京之说也。八月十三日在湖北发家信第四号，十四日发第五号，二十六日到家后发家信第六号。此三次信皆言长沙被围，家眷不必出京之说也。不知皆已收到否？

余于二十三日到家，家中一切皆清吉，父亲大人及叔父母以下皆平安。余痼疾自到家后日见痊愈。地方团练，人人皆习武艺，土匪决可无虞。粤匪之氛虽恶，我境僻处万山之中，不当孔道，亦断不受其蹂躏。现奉父亲大人之命，于九月十三日权厝先妣于下腰里屋后山内，俟明年寻有吉地再行改葬。所有出殡之事，一切皆从俭约。

丁贵自二十七日已打发他去了，我在家并未带一仆人，盖居乡即全守乡间旧样子，不参半点官宦气习。丁贵自回益阳，至渠家住数日，仍回湖北为我搬取行李回家，与荆七二人同归。孙福系山东人，至湖南声音不通，即命渠由湖北回京，给渠盘缠十六两，想渠今冬可到京也。

尔奉尔母及诸弟妹在京，一切皆宜谨慎。目前不必出京，待长沙贼退后余有信来，再行收拾出京。兹寄去信稿一件，各省应发信单一件，亦可将信稿求袁姻伯或庞师照写一纸发刻。其各省应发信，仍求袁、毛、黎、黄、王、袁诸位妥为寄去。余到家后，诸务丛集，各处不及再写信，前在湖北所发各处信，想已到矣。

十三日申刻，母亲大人发引，戌刻下殓。十九日筑坟可毕。现在地方安静。闻长沙屡获胜仗，想近日即可解围。尔等回家，为期亦近。

罗劭农芸皋之弟至我家，求我家在京中略为分润渠兄。我家若有钱，或十两，或八两，可略分与芸皋用。不然，恐同县留京诸人有断炊之患也。书不能尽，余俟续示。

## 十一月十四日

牧云仁兄大人阁下：

屡接手书，舍间一切，皆蒙经理，感极感极！

弟自八月二十三到家后，已发信三次。十月初十一次，交常南陔家。闻南陔先生家中十八始遣人到湖北，是时适值长沙贼匪窜往宁乡益阳一带，不知此信果到京否？

自十月以来，弟家大小平安。十一月初一未刻，四舍弟生一子，排行科九，母子均极平安。初二起佛会，初四夜散。初七日弟至尊府，岳父在衡州未归，岳母康健，嫂夫人身体如常，其余小大均吉。

弟家请魏荫亭教书，即召亭之弟，四舍弟之亲家也。学生共三人：舍侄甲五，胞姊之子临三，胞妹之子昆八，十月十七上馆。荫亭极善教书，弟生平所见教读者，殆无其放。自黎明初醒，以至夜深将睡，殆无须臾不与学生讲解。一月之中，学生进功，真可谓一日千里。

弟于京中一切，不甚挂念。所最挂念者，惟念纪泽儿年少，恐其学

坏。敬求老兄大人时时教诲，时时防闲，总须多解多讲，令其神不外散，乃为有益，千万千万。又须令其习字，可拜李寿廷为师，每日习大字二百，亦是要事。京中用钱，须格外省俭。王吉云进京，带银三百，又存银二百在南陔先生处，留为寄京之用，此外则更无分毫可寄。

现在贼匪盘踞岳州，恐湖北亦属可虞。不知明年正月家眷可回南否？弟意正月节后，家眷由通州上船，二月可至扬州，万一湖北不靖，则由苏州小河转至浙江，由江西水路到家。不过中间盘堤二次，虽为日甚久，而一则免大江之险，一则无盗贼之警，似尚可行，求老兄更与诸友熟计之。

弟身体平安，痼疾请刘医诊治，云须食淡二七不吃盐茶酒醋。昨十月二十三起已淡七日，此次十一月初八日起又淡七日，虽未痊愈，而夜间能熟睡。兄八月二十三在张抚台家所寄之信，十月二十七接到。此次不另写家书，诸惟心照。

## 十二月十五日

牧云仁兄大人左右：

十一月十八发家信一件，交湖南抚台转寄。十二月二十初七发家信一件，交益阳县李筱泉明府，托其由常德交云贵折差转寄。其弟李少荃编修，不知何时可到京中？十月十二所发之信，已于十二月初六接到矣。九月之信，至今未到。弟身体极好，面色红润发胖，在京十余年，无此气象。合家大小平安。尊府人人清吉。

十二月十三日申刻，湖南巡抚专差送到咨文，十一月二十九奉旨，命弟在本省帮同办理团练乡民搜查土匪诸事务。弟闻讣到家仅满四月，葬母之事，草草权厝，尚寻地改葬。家中诸事，尚未料理。此时若遽出而办理官事，则不孝之罪滋大。且所办之事，亦难寻头绪。若其认真督办，必须遍走各县，号召绅耆，劝其捐资集事，恐为益仅十之二，而扰累者十之八。若不甚认真，不过安坐省城，使军需局内多一项供应，各官多一处应酬而已。再四思维，实无裨于国事，是以具折陈情，愚乞终制。

兹将折稿寄京，相好中如袁、毛、黎、黄、王、袁、庞诸君，仅可令其一阅。此外，如邵蕙西、李少荃、王雁汀、吕鹤田有欲阅者，亦可以阅。盖欲使知交中谅我寸心，不必登诸荐牍，令我出而办事，陷于不孝也。

弟自奉旨后，始知汉阳失守。乡间音问难通，即县城亦无确信。眷

口在京或归或否，惟兄与内人裁度。或由浙江江西一路，或由樊城一路，或竟作久住之计，全不作归家之想，均由兄为主。弟僻处乡间，消息不明，不遽决也。

纪泽儿身体不健，宜常常行动，或坐车至圆明园一二次亦可。无事总宜读书习字，余不一一。

## 十二月二十五日

牧云仁兄大人足下：

前信写就，正拟专人送至省城，请张抚台代为发折，十五夜接张抚台来信二件，知武昌失守，不胜骇叹。郭云仙于十五夜来我家，劝我到省帮办团练等事。弟以湖北失守，关系甚大，又恐长沙人心惶惧，理宜出而保护桑梓，即于十七日由家起行，二十一日抵省。先以稽查城内土匪奸细为要务，其次则勤于操练。江皖樵所带之壮勇二千，甚为可恃，即留于长沙防守。弟又招湘乡壮勇千名，亦颇有纪律，若日日操练，可期得力。现在大股业已顺长江而下，只怕分股回窜，不得不严为防备。幸张抚台至明决，勇于任事，乡绅亦多信吾之言，或可办理得宜，京中全家，不必挂念。

湖北既失守，则道途必多盗贼，家眷不宜出京。望兄辛苦照料一切，不胜感激。若冯树堂来京，一切与之商议，必甚妥叶。书不能详，诸惟心照。

## 咸丰三年癸丑岁

### 正月十二日

牧云仁兄大人阁下：

十二月二十八发家信一件。其时弟以奉旨来长沙，具折陈奏，将折稿封存家信中，不知到否？

正月以来，弟在省身体平安。九弟于初九到省，知舍间自严亲以下并安好。又接岳父大人手示，知尊府一切平安。正月二日，余写一信，交湘乡公车刘月樾、贺石农带京，信中言会试后，家眷与公车一同回

南。近日仔细思之，恐仍以不出京为妥。盖道途多梗，即不遇粤寇，犹恐土匪所在窃发，终不放心，不如待其稍定，再看机会。

正月初三日，粤匪自武昌下，水陆两路并发，不识直扑安徽乎，抑入江西乎？现尚未得确耗。南陔先生闻于城门尽节，其夫人及大世兄并大孙女，并于初七殉难。其二世兄与二少奶奶并各孙男女等皆为贼所掠，幸不甚凌辱。昨初三日逆贼下寨之时，闻将城中男女一概裹胁，驱之上船，投江自尽者不可胜数，恐常氏遂无遗类矣，惨哉！

正月十一日，湖南张中丞至湖北履总督任，收复省城。江岷樵与之同往，弟再三托岷樵囑其收常氏之遗骸，求常氏之孤孽，不知可得一二否？常氏有一家人由湖北贼中逃难回者，弟亦遣之同往，不知常氏何事，遭此奇祸，殊不可解。

弟在省办事，以查办土匪为第一要务，以各县之正人，办各县之匪徒，总在访求公正绅耆为下手工夫，其次则操练兵勇。三年之艾，亦须及时收蓄，以为七年治病地步。

九舍弟及刘震仙、郭筠仙俱在长沙，与弟同居作伴，甚不寂寞。痼疾十愈其八，自在京以来，未尝如此大好，此近日第一欣幸之事。

纪泽读书，求兄勤勤讲解，务使怡然以悦，乃为至善。书不详尽，诸惟心照。顺请日安。

## 十月初四日

男国藩跪禀父亲大人万福金安：

屢次接到二十三日、二十八日、二十九日、初二日手谕，敬悉一切。

男前所以招勇往江南杀贼者，以江岷樵麾下人少，必须万人一气诸将一心，而后渠可以指挥如意所向无前。故八月三十日寄书与岷樵，言陆续训练，交渠统带。此男练勇往江南之说也。王璞山因闻七月二十四日江西之役谢易四人殉难、乡勇八十人阵亡，因大发义愤，欲招湘勇二千前往两江杀贼，为易谢诸人报仇。此璞山之意也。男系为大局起见，璞山系为复仇起见；男兼招宝庆、湘乡及各州县之勇，璞山则专招湘乡一县之勇；男系添派六千人合在江西之宝勇、湘勇足成万人，概归岷樵统带，璞山则招二千人由渠统带。男与璞山大指虽同，中间亦有参差不合之处。恐家书及传言，但云招勇往江南，而其中细微分合之故，未能尽陈于大人之前也。

自九月以来，闻岷樵本县之勇皆溃散回楚，而男之初计为之一变。

闻贼匪退出江西，回窜上游，攻破田镇，逼近湖北，而男之计又一变。而璞山则自前次招勇报仇之说通禀抚藩各宪，上宪皆嘉其志而壮其才。昨璞山往省，抚藩命其急招勇三千赴省救援。闻近日在涟滨开局，大招壮勇，即日晋省。器械未齐，训练未精，此则不特非男之意，亦并非璞山之初志也。事势之推移有不自知而出于此，若非人力所能自主耳。

季弟之归，乃弟之意，男不敢强留。昨奉大人手示，严切责以大义，不特弟不敢言归，男亦何敢稍存私见，使胞弟遂近规避，导诸勇以退缩之路？现今季弟仍认之不可为，且见专用本地人之有时而不可恃也。男现在专思办水战之法，拟练与船并用。湘潭驻扎，男与祠堂亦尝熟思之。办船等事，宜离贼踪略远，恐未曾办成之际，遽尔蜂拥而来，则前功尽弃。

朱石翁已至湖北，剿难遽回。余湘勇留江西吴城者，男已专人去调矣。江岷樵闻亦已到湖北省城。谨此奉闻。男办理一切，自知谨慎，求大人不必挂心。

男谨禀

## 咸丰四年甲寅岁

三月二十五日

男国藩跪禀父亲大人万福金安：

二十二日接到十九日慈谕，训诫军中要务数条，谨一一禀复：

一、营中吃饭宜早，此一定不易之理。本朝圣圣相承，神明寿考，即系早起能振刷精神之故。即现在粤匪暴乱，为神人所共怒，而其行军，亦系四更吃饭，五更起行。男营中起太晏、吃饭太晏，是一大坏事。营规振刷不起，即是此咎。自接慈谕后，男每日于放明炮时起来，黎明看各营操演。而吃饭仍晏，实难骤改，当徐徐改作天明吃饭，未知能做得否。

二、扎营一事，男每苦口教各营官，又下札教之。言筑墙须八尺高，三尺厚；壕沟须八尺宽，六尺深；墙内有内壕一道，墙外有外壕二道或三道；壕内须密钉竹签云云。各营官总不能遵行。季弟于此等事尤不肯认真，男亦太宽，故各营不甚听话。岳州之溃败，即系因未能扎营



之故。嗣后当严戒各营也。

三、调军出战，不可太散。慈谕所戒，极为详明。昨在岳州，胡林翼已先至平江，通城屢来岳请兵救援，是以于初五日遣塔、周继往。其岳州城内王璞山有勇二千四百，朱石樵有六百，男三营有一千七百。以为可保无虞矣，不谓璞山至羊楼司一败，而初十开仗，仅男三营与朱石樵之六百人，合共不满二千人，而贼至三万之多，是以致败。此后不敢分散。然即合为一气，而我军仅五千人，贼尚多至六七倍，拟添募陆勇万人，乃足以供分布耳。

四、破贼阵法，平日男训戒极多，兼画图训诸营官。二月十三日，男亲画贼之莲花抄尾阵。寄交璞山，璞山并不回信；寄交季弟，季弟回信言贼了无伎俩，并无所谓抄尾阵；寄交杨名声、邹寿璋等，回信言当留心。慈训言当用常山蛇阵法，必须极熟极精之兵勇乃能如此。昨日岳州之败，贼并未用抄尾法，交手不过一个时辰，即纷纷奔退。若使贼用抄尾法，则我兵更胆怯矣。若兵勇无胆无艺，任凭好阵法，他也不管，临阵总是奔回，实可痛恨。

五、拿获形迹可疑之人，以后必严办之，断不姑息。

以上各条，谨一一禀复，再求慈训。

男谨禀

## 三月二十五日

澄、温、植三弟左右：

澄弟有病，即可不必来此。此间诸事杂乱，澄弟虽来，亦难收拾，不如在家料理一切也。长夫来此者至六十名之多，澄弟于此等处不知节省，亦疏略也。兹一概遣归，仅留十三名在此。如不好，尚须再遣回。

昨夜褚太守带三营水师至靖江剿贼，不知能得手否？塔、周大胜仗归来，余赏银千两、功牌百张、猪十口、酒五百斤，颇觉鼓舞。现惟邓湘一营难于收辑耳。余不一一。

## 四月初四日

澄、温、沅三位老弟足下：

初四日午刻安五等来，接到家信，具悉一切。父大人声色不动，毫无惊怖，实我辈所万不能及。

贼于二十七早辰刻破湘潭，即刻分股窜至朱亭、渌口、朱洲一带。

大河及一宿河之船，又分股窜至湘乡撈澧江之船。二十八早，塔副将在潭大获胜仗，踏破贼营三座，烧毁木城一座，杀贼至六百余人。是夜贼又筑营垒。二十九日，塔副将与大战二次。初次烧贼营二座，杀贼七百人。二次真长发老贼拼命出战，塔将又大胜，杀贼千余。初一、初二皆大战，皆官兵大捷。五仗共杀贼至四千人，三日连破贼营三次。至第四日，贼不敢筑营矣。凡自贼中逃出者，皆言自广西起事以来，官兵从无此非常之胜。褚太守、彭玉麟、杨载福、邹世琦至湘潭水战。自初一日黎明起至初三止，烧毁贼船至七百余号之多，亦为近来所仅见。

现在湘潭贼势甚为穷蹙。若能破城，剿灭此股，则靖江以下之贼、朱亭以上之贼皆为易办。湘潭大战之时，贼调回湘乡一枝兵，我县得以无恙，我家得以安全，皆塔副将之功也。

所可恨者，吾于初二日带水师五营、陆勇八百至靖江攻剿贼巢，申刻开仗，仅半顿饭久，陆勇奔溃，水勇亦纷纷奔窜。二千余人，竟至全数溃散，弃船炮而不顾，深可痛恨！惟钩子未出队者，略存子药炮位，而各水手亦纷纷尽散。红船之水手仅存三人，余船竟无一水手，实为第一可怪之事。刻下兄已移寓妙高峰，留数百陆勇护卫。如使湘潭一股竟就扑灭净尽，则天下事大有可为；若湘潭贼不遽灭，则贼集日众，湖南大局竟多棘手之处。尽人事以听天，吾惟日日谨慎而已。余俟续布。

## 四月十四日

澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟左右：

十四日刘一、名四来，安五来，先后接到父大人手谕及洪弟信，具悉一切。

靖江之贼现已全数开去，窜奔下游，湘阴及洞庭皆已无贼，直至岳州以下矣。新墙一带土匪皆已扑灭，惟通城、崇阳之贼尚未剿净，时时有窥伺平江之意。湘潭之贼，在一宿河以上被烧上岸者，窜至醴陵、萍乡、万载一带。闻又新募胁多人，不知其尽窜江西，抑仍回湖南浏、平一带。如其回来，亦易剿也。安化土匪现尚未剿尽，想日内可平定。

吾于三月十八发岳州战败请交部治罪一折，于四月初十日奉到朱批“另有旨”。又夹片奏初五邹彰被火烧伤、初七大风坏船一案，奉朱批“何事机不顺若是，另有旨”。又夹片奏探听贼情各条，奉朱批“览。其片已存留军机处矣”。又有廷寄一道、谕旨一道，兹抄录付回。十二日会同抚台、提台奏湘潭、宁乡、靖江各处胜仗败仗一折，兹抄付回。其

折系左季高所为。又单衔奏靖江战败请交部从重治罪一折。又奏调各员一片。均于十二日发，六百里递去，兹抄录寄家呈父、叔大人一阅。兄不善用兵，屢失事机，实无以对圣主。幸湘潭大胜，保全桑梓，此心犹觉稍安。现拟修整船只，添招练勇，待广西勇到、广东兵到再作出师之计。而饷项已空，无从设法。艰难之状，不知所终！人心之坏，又处处使人寒心。吾惟尽一分心作一日事，至于成败，则不能复计较矣。

魏荫亭近回馆否？澄弟须力求其来。吾家子侄半耕半读，以守先人之旧，慎无存半点官气。不许坐轿，不许唤人取水添茶等事。其拾柴收粪等事，须一一为之；插田薅禾等事，亦时时学之。庶渐渐务本而不习于淫佚矣。至要至要，千嘱万嘱。

#### 四月十六日 夜书于长沙妙高峰

澄、温、子植、季洪四弟足下：

昨寄去一函，谅已收到。十五日接父大人手谕，敬知一切。

兄每日黎明看操，现已阅看四日，专看戈什哈及亲兵二种。然有所表率，他营亦将兴起。

父大人命招湘乡之原水手，赶紧前赴鄂省下游。此时所患者，水手易添，船只难办。不特衡州新造之船难以遽就，即在省之船经屢次风波屢次战阵后，亦多有损坏者，修整难以遽毕。且广西水勇、广东水兵皆于五月可到，不得不少为等候，整顿成军，稍有把握，然后扬帆东下。

余近来因肝气太躁，动与人多所不合，所以办事多不能成。澄弟近日肝气尤旺，不能为我解事，反为我添许多唇舌争端。军中多一人不见其益，家中少一人则见其损。澄侯及诸弟以后尽可不来营，但在家中教训后辈。半耕半读，未明而起，同习劳苦，不习骄佚，则所以保家门而免劫数者，可以人力主之。望诸弟慎之又慎也。

#### 四月二十日

澄、温、植、洪老弟左右：

十七、十九接父大人十三、十五手谕及澄弟两函，具悉一切。兹分列各条于后，祈诸弟禀知父大人，兼禀叔父大人：

一、水勇自二十四五日成章诏营内逃去百余人，胡维峰营内逃去数十人。二十七日，何南青营内逃去一哨，将战船炮位弃之东阳港，尽抢船中之钱米帆布等件以行。二十八日，各营逃至三四百人之多。不待初

二靖江战败，而后有此一溃也。其在湘潭打胜仗之五营，亦但知抢分贼赃，全不回省，即行逃回县城。甚至将战船送入湘乡河内，各勇登岸逃归，听战船飘流河中，丢失货物。彭雪琴发功牌与水手，水手见忽有顶戴，遂自言并册上姓名全是假的，应募之时乱捏姓名，以备将来稍不整齐，不能执册以相索云云。鄙意欲预为逃走之地，先设捏名之计。湘勇之丧心昧良，已可概见。若将已散者复行招回，则断难得力。衡、永之水勇不过五月可到，亦不甚迟迟也。

二、广东水师总兵陈大人带广东兵一百、洋炮一百，已于四月初六日到郴，月内可到省。广西水勇亦五月可到。衡州造新船，省城整旧船，皆五月可齐，不至延到七月始行也。

三、澄弟自到省帮办以来，千辛万苦，巨细必亲。在衡数月，尤为竭力尽心。衡郡诸绅佩服，以为从来所未有。昨日有郑桂森上条陈，言见澄侯先生在湘阴时景象，渠在船上，不觉感激泣下云云。澄弟之才力诚心，实为人所难学。惟近日公道不明，外间悠悠之口，亦有好造谣言讥澄弟之短者。而澄弟见我诸事不顺，为人欺侮，愈加愤激，肝火上升，不免时时恼怒，盛气向人。人但见澄弟之盛气，而不知实有激之逼之使然者也。人以盛气凌物消澄，澄以盛气伤肝致病。余恐其因抑郁而成内伤，又恐其因气盛而招怨声。故澄归之后，即听其在家养息，不催其仍来营中。盖亦见家中之事，非澄不能提新宅之纲；乡间之事，非澄不能代大人之劳也。并无纤介有不足于澄弟之处，澄弟当深知之，必须向大人膝下详禀之。

四、王璞山之骄蹇致败，贻误大局，凡有识者皆知之。昨在家招数百乡勇，在石潭杀残贼三十人，遂报假胜仗，言杀贼数百人。余深恶之。余与中丞、提军三人会衔具奏一折，系左季高所作。余先将折稿看过，后渠又添出几段，竟将璞山之假胜仗添入。发折后，始送稿来画，已无可如何，只得隐忍画之。朱石樵在岳州战败逃回，在宁乡战败，逃奔数次。昨到省城，仍令其署宝庆府事，已于十八日去上任矣。是非之颠倒如此，余在省日日恼都，诸事皆不顺手，只得委曲徐图。昨当面将朱石樵责备，渠亦无辞以对，然官场中多不以为我然。将来事无一成，事负皇上委任之意，惟有自愧自恨而已，岂能怨人乎？怨人又当有益乎？大抵世之乱也，必先由于是非不明、白黑不分。诸弟必欲一一强为区别，则愈求分明，愈致混淆，必将呕气到底。愿诸弟学为和平，学为糊涂。璞山之事，从今以后不特不可出诸口，而且不可存诸心。

五、我二十四都之长夫不耐劳苦，好穿长衣鞋袜，不敢远行，时刻思归。余拟在此另雇长夫。其本境长夫止留三四人在此，以便送信

归家。

六、率五病故，我绝不知信息。季弟何以并不告我？前澄弟信中有半句，我始骇然。昨葛十一来，乃实知之。刻下已搬柩还乡否？若尚在省，急须写信来，我当设法送归也。其如何病，如何没，季弟当详告我。

以上数条，望请弟细心体贴，縻禀堂上大人要。

## 四月二十一日

澄、温、沅、洪四弟左右：

屡日发家信数次，想已收到。想实收换部照，须造清册一本，大非易事。现命孙闾青经理此事，想恐非二十日不能了。纵不能如清咨部功牌册之精妙，亦不宜太草率也。三月二十二所发一折，顷于四月二十日接奉朱批并廷寄。兹照抄送回，呈堂上大人一阅。

广东水师兵已于二十一日到一百矣，洋炮亦到百尊。广西水勇尚未到。衡州所造新船，闻甚不合用。顷有信与萧可兄，令其略改也。

荫亭兄到馆，请其催将侯兄速来，并告贵州徐河清、韩超、张礼度并皆奏调来楚，均五月可到也。余不一一。

## 五月初一日

澄、沅、洪三弟左右：

三十日奉到父大人手谕及三弟信件，具悉一切。

长夫俱留在此，吃上头饭，每日给钱百文，实无一事可劳其筋力，故不能不略减也。

沅弟言我仁爱有余威猛不足，澄弟在此时亦常说及，近日友人爱我者人人说及。无奈性已生定，竟不能威猛。所以不能威猛，由于不能精明。事事被人欺侮，故人得而玩易之也。

甲三之论、甲五之小讲，已加批付回。科一、科三、科四之字俱好。科一请安禀，其字画粗大，颇有乃父之风。

季弟在益阳所领钱文，绅士文任吾等已料理清楚，在湘阴时即在兄处领得实收，兄到岳州忘告季弟耳。

四月初一日与中丞会銜奏请调贵州、广东兵，兹于二十六日奉到寄谕，抄录付回。余不一一。

## 五月初四日

澄、沅、洪三弟侍右：

初二日接奉寄谕。兄两次请罪，尚止革职，不加严谴。鲍提军革职，即以塔副将署提军任。圣鉴之公明，天恩之高厚，实令人感激无地。兹抄录付回。

江采七于三月自庐州回，初三到省。千辛万苦，或三日而仅得两饭，或数夜而不得一眠。乱世行路之难，真奇难也！在湖北时得见魏召亭，光景甚窘。曾与采五言及万一城破，当由大东门避去。湖北官弁兵勇久无餉粮，真不堪设想也。召亭家书一件付去。

兄身体甚好。树堂、云仙皆来此过节。专待衡州船到、广西勇到，即配齐东下。塔智亭于初八日先带陆勇三千余人至岳州去。余不一一。

## 五月初九日

澄、温、沅、季老弟左右：

初九日芝山到省，接奉父大人手谕及澄、季、芝生各信，具悉一切。余于初八日具折谢恩，并夹片三件，兹一并抄录付回。凡谕旨、章奏等件付至家中者，务宜好为藏弃。我兄弟五人，无一人肯整齐好收拾者，亦不是勤俭人家气象。以后宜收拾完整，可珍之物固应爱惜，即寻常物件亦当汇集品分，有条有理。竹头木屑，皆为有用，则随处皆取携不穷也。温弟在此住旬余，心平气和，论事有识，以后可保家中兄弟无纷争之事，余在外大可放心。

李筱泉之家眷意欲寄居湘乡。一则省城虽防守甚严，而时时有寇至之虑；一则寓公馆比之居乡其奢俭相去甚远。渠托江采五在中沙等处，又托余在二十三、四都等处寻觅住居，澄弟等为之心。或在离我家二三十里之区择一善地，以省俭为主，渠光景甚窘也。余再三辞之，言我家尚难自保，且迁徙而远避，又焉能庇及他人？渠意总欲居乡，缓急尚可藏匿山穴；至土匪抢劫，渠本无可抢云云。余不能再辞，澄弟可一为照拂之。

鲍提军于初八日出省至辰州住，塔智亭初十拟至岳州。余不一一。即请近佳。

## 五月二十日

男国藩跪禀父亲大人万福金安：

二十日申刻唐四到，奉到手谕，敬悉一切。家中大小平安，乡间田禾畅茂，甚为忻慰。

贼匪于初六日复窜入岳州城内，约有二三千人，岳阳城下及南津港船约有数百号。初八九分船窜至西湖，扰安乡县。十三日龙阳失守。东而益阳，西而常德，并皆戒严。此间调李相堂都司带楚勇一千、胡咏芝带黔勇六百前往，又调周凤山带道州勇一千一百，想二十三四可先后到常。又赵璞山带新宁勇一千由宝庆往常德，又有贵州兵一千亦至常德，想可保全。塔智亭于十二日起程至岳，现尚未到。

男在省修理战船，已有八分工程。衡州新船及广西水勇均于本月可到，出月初即可令水师至西湖剿贼。十八日，城墙上之兵一二千人闹至中丞署内，因每根一两折放钱二千文，系奉户部咨而兵不肯从。斫柱毁轿，闹至三堂，实属可虑。二十日，吴坤修之火器所起火。火药烧去数千斤，其余火器全烧，伤人数十，现尚未查清。此事关系最要紧，男之心绪不能顺适，然必认真办理，断不因此而稍形懈怠。

大人此次下县，系因公事绅士之请，以后总求不履县城，男心尤安。尤望不必未省，军务倥偬之际，免使省中大府多出一番应酬。男亦惟尽心办理一切，不以幸褫依恋转增大人慈爱感喟之怀，伏乞大人垂鉴。余容续禀。

## 六月初二日

澄侯、温甫、子植、季洪老弟足下：

父大人自县还家后，又接一信，知合家清吉，甚慰甚慰。

此间发探卒数十人至常德、龙阳探听，均言常德已于十六日失守。省局及各处探信众口一词，而桃源二十三日尚有请兵禀帖来省。桃源去常六十里，不应郡城失陷一无所闻，大约常德此时尚未失守。现已遣周凤山带道州新田勇一千六百前往，李辅朝带楚勇一千、胡咏芝带黔勇六百、新宁赵令带楚勇千人驰往，合之贵州兵一千，并常德本城二千，共六七千之多，兵力实不为单。惟中隔河水四渡，不知各兵能过至常否？

澧州西接荆州之贼，南接常德之贼，而蒋家之富久为贼所垂涎，实属可危。塔提军于二十二日在新墙打一胜仗，夺获贼船四十七只，夺得

木城一座。现驻扎新墙之北，离岳州尚五十里。通城之贼与江老四之楚勇相持月余。林秀三因声名不好撤回省城，自通城、平江之官绅庶民及省城之官员，无不說秀三坏话者。毁誉之至，如飘风然，蓬蓬然起于北海，蓬蓬然入于南海，而不知其所自，人力固莫能挽回也。

水师战船，省河所修葺及衡城所新造者，皆精坚可爱，比去年者好得三倍。拟于初十间令褚、夏、杨、彭起行赴常德剿办，是为头帮；余待广西水勇到，一同起行为二帮；陈镇台七月初起行为三帮。现在发往各处者兵勇共二万人，餉项十分支绌，幸广东解银十二万，近日可到，略有生机。罗罗山初三可到省。芝生之信，罗山一到即交，当可速耳。

儿侄辈总须教之读书，凡事当有收拾。宜令勤慎，无作欠伸懒漫样子。至要至要。吾兄弟中惟澄弟较勤，吾近日亦勉为勤敏。即令世运艰屯，而一家之中勤则兴，懒则败，一定之理。愿吾弟及吾儿侄等听之省之。付回参茸丸一坛，即顾翼臣、王仲山所作者。父大人能服更好，若不相宜，叔父及家中相宜者服之可也。

## 六月初四日

澄、温、沅、季四弟足下：

昨发一信后，罗山即于初三到省。是日二更得信：周凤山、李辅朝之勇于二十九在龙阳得三胜仗，二十九日夜终宵鏖战不得休息，初一早，一战即已败溃。盖扎营城外沙洲之上，是夜涨水，侵入营盘。初一早，营内水深尺余，贼船三面环攻，共二千余号之多。此时逃出营外，途中无船可渡，淹毙至二三百人，军器全失。周、李皆健将，此番大挫，尤焦灼也。

家中长夫，春二、维五、芝三、明四等皆不愿远出，兹皆令其回里。其工钱每月三十日，并未扣一日耳。余不一一。

## 六月初六日

澄、温、沅、季老弟足下：

昨寄一信，言周凤山、李相堂龙阳之败。后接来禀，知周营千一百人中实伤毙四十人，李营千人中实毙十九人，尚不为大挫。胡咏芝初四由安化至桃源，一路剿贼，周、李即可同去。广西水勇，李太守带来，今日到省。若配齐船只，尚须十余日乃可行也。余不一一。



## 六月十二日

澄、温、沅、季四位老弟左右：

刘一至，接到父大人手谕并诸弟各信，欣悉乡里人和年丰，犹是盛世景象。

周凤山初一早在沅江城外打败仗，次日退至益阳。初三停住一天。初四仍出征，由安化、桃源一路至常德剿贼。凤山之勇，打仗并未多伤，仅伤十余人，水淹死者又近二十人，其余陆续回营，隔日即能整队出征，真可爱！真可敬！

常德、澧州并于十六日失守，现在均已贼退。初三、四、五贼船由西溯回至东边，约以千余计。不知系占踞岳州，抑系径赴下游湖北，现未探确。

初十日奏折奉批回。谢恩折批云“知道了”，请专折奏事片批云“着准汝单衔奏事”，请塔军门出境剿贼片批云“另有旨”。其寄谕抄回。圣上此次并不十分催促，尤深感激。

省城新铸大钱，甚为可观。兹付当一百者五十文，当五十者五十文，乞查收。并寄七千五百文收据为凭。余不一一。

兄国藩手草

## 六月十八日

澄、温、沅、季老弟左右：

湖北青抚台于今日入省城。所带兵勇，均不准其入城，在城外二十里扎营，大约不过五六千人。其所称难民数万在后随来者，亦未可信。此间供应数日，即给与途费，令其至荆州另立省城。此实未有之变局也。

邹心田处，已有札至县撤委。前胡维峰言邹心田可劝捐，余不知其即至堂之兄也。昨接父大人手谕始知之，故即札县撤之。胡维峰近不妥当，亦必屏斥之。余去年办清泉宁征义、宁宏才一案，其卷已送回家中，请澄弟查出，即日付来为要。

湖北失守，李鹤人之父想已殉难。鹤人方寸已乱，此刻无心办事。日内尚不能起行，至七月初旬乃可长征耳。余不一一。

诸弟在家教子侄，总须有勤敬二字。无论治世乱世，凡一家之中能勤能敬，未有不兴，不勤不敬，未有不败者。至切至切。余深悔往日未

## 曾国藩家书

能实行此二字也，千万叮嘱。澄弟向来本勤，但敬不足耳。阅历之后，应知此二字之不可须臾离也。

### 六月二十三日

澄、温、沅、季四位老弟左右：

二十二日彭四到，接父大人手谕及诸弟来信，欣慰一切。

二十日折差归。阅京报，袁漱六于五月十三日引见得御史，十五日特旨放江苏苏州府遗缺知府。渠写家信回要其家专人至京，渠有多少事要交代。兄因各捐生事，亦欲造册，专人至京。如袁家人去，即与之同行也。余前奏捐事，部议已准，兹抄回。

广西水勇于十八日杀死祁阳勇七人。日内严查遏凶下手之犯，必须按律严办。

湖北青抚台带来之兵勇，大约二万金乃可了事。饥困之后甚安静，不闹事也。

余拟于七月初六起行，甲三、甲五二人可令其来省送我。盖少年之人，使之得见水陆军旅之事，亦足以长见识；且子侄送我，亦至理之不可少者也。书不十一，余俟续布。

### 七月二十一日

澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟左右：

自十六日水师大败，十八日陆营获胜，吾两寄家书，想已收到。

十九、二十皆平安。二十一日陆军开仗，辰勇深入，误中贼伏。诸殿元阵亡，带新化勇之刘国庆亦阵亡，辰勇、新化勇、宝勇相继奔溃。塔军门坐马扎子镇住，独不奔回，身旁仅数十人。杨名声带宜章勇前往救援，喝令各营倒回，仍前进杀贼，始得保全。智亭又追贼数里，杀毙数十名，我军伤亡者亦仅数十人。下半天水师至陈陵矶开仗，去三板艇二十余只，二更尚未归营，不知胜负若何。下游贼势浩大，合武昌、汉口之贼尽锐上犯。水师太单，恐难得力。吾惟静镇谨守，以固军心而作士气。

初六、十四胜仗一折，十六、十八胜败互报一折，兹专人送归，呈父、叔大人一阅。

家中兄弟子侄，总宜以勤敬二字为法。一家能勤能敬，虽乱世亦有兴旺气象；一身能勤能敬，虽愚人亦有贤智风味。吾生平于此二字少工

夫，今谆谆以训吾昆弟子侄，务宜刻刻遵守。至要至要。家中若送信来，子侄辈亦可写禀来岳，并将此二字细细领会，层层写出，使我放心也。余俟续布。

水师顷已于三更回营，完好无恙。辰勇闻止伤十余人，阵亡者系一刘千总，带道标勇者，非刘国庆也。

## 七月二十七日

澄侯、温甫、子植、季洪四弟足下：

安五至，接到家书，具悉一切。

自十八日一战后，二十一日陆路开仗，小有挫折。诸殿元阵亡，千总刘士宜阵亡，余兵勇伤亡二十余人，贼亦歼毙数十人。二十六日，贼从湖北领集悍贼二万人，由临湘陆路前来，意欲扑塔、周、罗山等之营盘。陆路既得，水军自然失势，拼死攻扑，满山满坑无非黄旗红巾，比三月初十人数更多。幸罗山之湘勇得力，将头起杀退。以后如周凤山之营、杨名声之营亦俱奋勇，杀贼共七八百名。此股贼来甚多，必有屡次血战。东南大局，在此数日内可定。如天之福，陆路得获大胜，水路亦可渐次壮盛也。带水师者，有战阵之险，有风波之苦，又有偷营放火之虑，时时提防，殊不放心。幸精神尚好，照料能周耳。

震仙定于本月内还家。渠在省实不肯来，兄强之使来。兵凶战危之地，无人不趋而避之。平日至交如冯树堂、郭云仙等尚不肯来，则其他更何论焉！现除李次青外，诸事皆兄一人经理，无人肯相助者，想诸弟亦深知之也。甄甫先生去年在湖北时，身旁仅一旧仆，官亲、幕友、家丁、书差、戈什哈一概走尽，此亦无足怪之事。兄现在局势犹是有为之秋，不致如甄师处之萧条已甚。然以此为乐地，而谓人人肯欣然相从，则大不然也。

兄身体如常，癖疾不作，乞告禀父、叔大人千万放心。

## 闰七月初二日

澄、温、植、洪四弟足下：

初一日胡二、春二、维五至，接父大人及诸弟手书，具悉一切。自二十六日陆路大获胜仗之后，二十八日陆路又大胜，二十九日水路大胜。贼自湖北汉、黄以下，尽纠其精锐来岳，以与我军相抗。二十八日鏖战至五个时辰之久。塔军门匹马冲突，忽东忽西，全军士卒无一人不

俯首咋舌，称为神勇。二十九日辰刻接仗，塔公打中路，罗山打西路，周凤山打东路。罗山之湘勇此次最为出力。贼分五六千人专扑罗山一路，湘勇竟能以少胜多。我军猛杀则贼退，败退不过二里，辄回戈相向，大杀一回。如是者三退三进，湘勇竟能抵住，不忙不乱。至第三次追去，贼亦不敢回顾矣。周凤山之勇，杨名声之勇，皆极勇敢向前，一可当十。是日自辰至申，杀贼共计五百余人。贼自败奔，跌岩坠涧死者，其数尚多。

水师于未刻至陈陵矶，适有贼船上来。开炮轰击，贼舟奔退，乘势追下至擂鼓台。烧贼船约二十余号，夺获贼船约七十余号，杀毙溺毙之贼约千余人。盖是日凶悍之贼皆已上岸，每船仅留二三贼在船，余皆被掳之水手。一见官兵开炮轰击，贼与水手纷纷扑水自溺，故我军愈得势也。

三十、初一日，水师皆出队击贼。三十日未甚交锋。初一日，李鹤人一营在前攻剿，击断陈镇军之旧拖罟船头桅，毙贼十余人。

陆营经二十六、二十八、九日三次血战之后，二日内未开仗。现在陆营有六七分可靠，水营有四五分可靠，拟再备三板数十号，小渔划一百号，出队开仗时，散布满河，抛掷火球，以乱贼阵，或更有济。余不一一。即乞禀告父、叔大人堂上为要，千万放心。

自十六日水师大挫之后，至二十九日获一胜仗，人心始克大定。不料初一日酉刻，广西勇收队回来，在刘公矶一带开炮。讹传为贼船上来，岳城百姓纷纷逃奔，扶老携幼，号泣于道。南津港各船皆挂帆开逃，严禁之而不能止。军心总不坚定，颇可虞也。现在力求镇定，总以不出队、不开仗为主。

### 闰七月初三日

澄、温、沅、洪老弟左右：

初二日，遣刘四、王晚送信回家。是日申刻得信，智亭于巳刻传令，直扑贼营。行至近贼营处，天大风雨，贼点大炮不燃，放火球亦不燃。我军勇气百倍，虽数万竹签布地，数重深沟高墙，竟能一直扑入。一营既破，各营胆寒。不过一时之久，竟将贼营十三座全行踏破，数万之贼狂奔大溃，满山遍野。我军穷追，愈追愈力，有直追至陈陵矶江边，逼贼下水者不下千人，有追至半途而返收取贼物者，大约抢到骡马六七百匹、大炮数十位、抬枪数百支、鸟枪刀矛以千件计、旗帜亦以千计。自有此贼以来，未有如此剿洗痛快者也。

兄申刻得信，又派水师前往追剿。行至陈陵矶即已天黑，因驻扎焉。派三板往下追十余里，贼舟已全数下窜。今日黎明，各船当进追。待其追贼归来，水营当进扎陈陵矶下擂鼓台一带，以与陆营相近联络一气。余俟续布。

兄国藩字

## 闰七月初九日

澄侯、温甫、子植、季洪足下：

自初二日陆路连踏贼营十三座，夺获马骡七八百匹、军械二千余件，是夜水师进追四十里，贼舟舍命奔逃。初三日又追百余里，贼弃舟登岸者甚多。初四日追至六溪口，追得贼船十余号，开炮轰击，贼仅放数炮抵拒，旋即登岸逃走。我军入口内之湖搜剿，搜得贼船百数十号，一见我军开炮围攻，即纷纷弃舟而去。军士争欲抢船，杨载福下令“只许焚烧，不许抢夺”，遂将百余船一炬焚之。是夜将士搜溯三十里，通宵未睡。次早仍回新堤、螺山驻扎，以小划探至金口，皆无贼船。

自金口至武昌六十里，不知贼船尚存若干。此番若能乘胜直追下去，武汉竟易收复。可惜我水师尚须添募，船炮亦未齐全，陆路之兵尚无粮台随行，不能遽进。连日北风甚大，亦难东下。风稍息，余即进扎螺山也。兹遣人回送一信。即日移营前进，求堂上大人放心。余不一一。

## 闰七月十四日

澄、温、沅、洪四弟左右：

兄于初十日开船，十一日已刻至螺山，去岳州八十里。杨载福、萧捷三两营已下驻扎新堤，去螺山又四十五里。

杨、萧于十一夜入倒口黄介湖内搜剿余贼，贼仅开十余炮，即纷纷登岸逃走。各哨官谨遵我“不许抢货”之令，将六十余号空船一概焚烧。岸上百姓焚香于辨顶，随岸上欢迎，呼各勇为青天大人。各勇每见一人，即得如此称呼，高兴之至。倒口湖内既已搜剿，其下六溪口亦经搜剿，京口以上已无贼踪。自京口六十里至武昌尚未探明。

大抵贼于水战一事极为无能。渠所用者民船，每放一炮全身震破，所擒者水手皆不愿在贼中久住。又以所擒之百姓，令其勉强打桨，勉强扶舵，皆非其所素习。即两次得我之船，得我之炮，皆我兵勇自先上

岸，情愿将船炮丢弃与他，是以大败。若使我兵勇自顾其船，不将船炮送他，渠亦断不能挽来追我。此屢次打仗，众勇所亲见而熟知者。渠得我之战船洋炮，并不作水战之用。以洋炮搬于岸上扎营，而战船或凿沉江心，或自焚以逃，亦未收战船之用。惟贼中所擅长制胜者，在渔划百余号。每战四出围绕，迷目惊心。此次余亦办得小渔划百二十号，行走如飞。以后我军见贼小划，或不致惊慌耳。

衡州捐项究竟何如？便中可一打听。永丰大布厚而不贵，吾意欲办好帐房五百架，宽大结实，以为军士寒天之用。澄弟若可承办此事，望与尧阶细商，即在本邑捐项内支用。余不一一。望敬禀父亲大人、叔父大人，军中匆忙不及措事也。

诸子侄辈于勤敬二字略有长进否？若尽与此二字相反，其家未有不落者；若个人勤而且敬，其家未有不兴者；无论世乱与世治也。诸弟须刻刻留心，为子侄作榜样也。

凡我屢次所寄奏折、谕旨，家中须好为收藏，不可抛散。或作一匣收之，宜敬谨弃藏也。

## 闰七月二十七日

澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟左右：

日来北风甚劲，省城各船不能来营。吾自十六挫失之后，陆续添募水勇。募小划子共百三十号，每号多者六七人，少者三四人，通共小划子载水师千余人，已到七十余号。此外添募之勇仍用快蟹、长龙、三板等船，但恨无好炮配之。

水师前营李孟群、左营、中营秦国祿、清江营俞晟各战船皆已驻扎金口，去武昌仅六十里。右营尚在嘉鱼，去金口百五十里。后营、定湘营尚随余在新堤，去嘉鱼九十里。通共水师大营八营、小营五营。若在广西借得洋炮急至，则振兴气象，较自省起程时尚远胜之，但恐炮难遽至耳。

陆兵大队驻扎羊楼司。罗山于十八日在长安驿打一胜仗；二十三日在羊楼洞打胜仗，破一贼卡；二十四日在佛岭打胜仗，破一贼卡；二十六日在羊楼洞打大胜仗。四次共杀贼七八百人，而我军仅一人受伤。湘勇之善战超出各营之上，而罗山以书生而善用兵若此，良可敬也！智亭剿灭崇、逼股匪后，即直下收复武汉。水师亦待陆军同进，而水勇皆跃跃欲战，暗笑主将之不进为极怯也。

二十一至二十九四次胜仗折已批回，兹抄回呈堂上大人一阅，求诸弟禀明。余不一一。

## 八月十一日

澄侯、温甫、子植、季洪四弟足下：

久未遣人回家，家中自唐二、维五等到后亦无信来，想平安也。

余于二十九日自新堤移营，八月初一日至嘉鱼县。初五日自坐小舟至牌洲看阅地势，初七日即将大营移驻牌洲。水师前营、左营、中营自又七月二十三日驻扎金口。二十七日贼匪水陆上犯，我陆军未到，水军两路堵之。抢贼船二只，杀贼数十人，得一胜仗。罗山于十八、二十三、二十四、二十六等日得四胜仗。初四发折俱详叙之，兹付回。

初三日接上谕廷寄，余得赏三品顶戴，现具折谢恩。寄谕并折寄回。余居母丧，并未在家守制，清夜自思，局踖不安。若仗皇上天威，江面渐次肃清，即当奏明回籍，事父祭母，稍尽人子之心。诸弟及儿侄辈务宜体我寸心，于父亲饮食起居十分检点、无稍疏忽，于母亲祭品礼仪必洁必诚，于叔父处敬爱兼至、无稍隔阂。兄弟姊妹总不可有半点不和之气。凡一家之中，勤敬二字能守得几分，未有不兴；若全无一分，未有不败。和字能守得几分，未有不兴；不和未有不败者。诸弟试在乡间将此三字于族戚人家历历验之，必以吾言为不谬也。诸弟不好收拾洁净，比我尤甚，此是败家气象。嗣后务宜细心收拾，即一纸一缕、竹头木屑，皆宜收拾伶俐，以为儿侄之榜样。一代疏懒，二代淫佚，则必有昼睡夜坐、吸食鸦片之渐矣。四弟、九弟较勤，六弟、季弟较懒。以后勤者愈勤，懒者痛改，莫使子侄学得怠惰样子。至要至要。子侄除读书外，教之扫屋、抹桌凳、收粪、锄草，是极好之事，切不可以为有损架子而不为也。

## 九月十三日

澄、温、沅、季四位老弟左右：

二十五日着胡二等送家信，报收复武汉之喜。二十七日具折奏捷。初一日，制台杨魁农需到鄂相会。是日又奏二十四夜焚襄河贼舟之捷。初七日奏三路进兵之折。其日酉刻，杨载福、彭玉麟等率水师六十余船前往下游剿贼。初九日，前次谢恩折奉朱批回鄂。初十日，彭四、刘四等来营。进攻武汉三路进剿之折，奉朱批到鄂。十一日，武汉克复之折奉朱批、廷寄、谕旨等件。兄署湖北巡抚，并赏戴花翎。兄意母丧未除，断不敢受官职。若一经受职，则二年来之苦心孤诣，似全为博取高

官美职，何以对吾母于地下？何以对宗族乡党？方寸之地，何以自安？是以决计具折辞谢，想诸弟亦必以为然也。

功名之地，自古难居。兄以在籍之官，募勇造船，成此一番事业。名震一时。人之好名，谁不如我？我有美名，则人必有受不美之名者。相形之际，羞难为情。兄惟谨慎谦虚，时时省惕而已。若仗圣主之威福，能速将江面肃清，荡平此贼，兄决意奏请回籍。事奉吾父，改葬吾母，久或三年，暂或一年，亦足稍慰区区之心，但未知圣意果能俯从否？

诸弟在家，总宜教子侄守勤敬。吾在外既有权势，则家中子弟最易流于骄、流于佚，二字皆败家之道也。万望诸弟刻刻留心，勿使后辈近于此二字。至要至要。

罗罗山于十二日拔营，智亭于十三日拔营，余十五六亦拔营东下也。余不一一。乞禀告父亲大人、叔父大人万福金安。

### 寄骆中丞节抄一段

二十一日，罗山由金口移营至河泊山，水师出队接应，恐贼因我营垒未成而遽来扑也。水师与花园江边贼营对敌，各哨官中有勇敢者冲过贼营，直下鹦鹉洲、汉阳、鲇鱼套等处。贼见水师已出其下，立时慌乱。而罗老及确湖、义渠各营竟不扎营，直扑贼垒。贼恐水师抄后、陆军攻前，相率奔溃。罗老、义、确及李光荣之川勇三路冲入，将贼营三座踏平。烧毁其墙三重，高皆盈丈。又壕三层，引江水入壕内通青林湖，竹签密布十丈，用钓桥出入。彼自奔溃，并此而不能守。军事纯视气之盛衰，不尽关人力也。

水师自已刻开仗，至二更始行收队。烧贼船约三百余号，夺获亦近百号。自沌口起下至鹦鹉洲，东至鲇鱼套，烧毁略尽；套内尚未烧净。西岸沌口之下盐关贼营四五座，亦被魁、杨荆兵踏破烧毁。

盖贼之所以坚垒于两岸者，皆重重置炮以击我之水军。忽见水军冲出营垒之下，顿失所恃，遂相顾惊奔。而水军由江中轰岸营，子如雨下，故东岸罗老、义、确之军能破贼营，西岸魁、杨之军亦破贼营。各夺炮百余座，马数百匹。

二十二日，水师清晨出队，接攻鲇鱼套之船，鏖战约一时之久。各营奋勇，哨官遂弃而他。竟攻汉口，直下塘角，并追剿青山以下。从下游雷轰而上，纵火焚舟。适北风甚劲，贼船不能下窜。塘角、汉口、鲇鱼套等处同时延烧，火光烛天，比二十一日所焚之船数尚倍之，夺获



贼船约二百余号。杨载福等自青山归来，又入襄河烧船十余里。其未烧尽者，仅鲇鱼套口内数十号，襄河口内若干号而已。是日罗罗山等进踏鲇鱼套贼营六座，直抵武昌城根。魁、杨荆兵亦踏尽西岸贼营，直抵汉阳城根。

二十三日未明，两城贼众皆逃，仅留数十人点放虚炮。我军辰刻入城，两岸同时克复。贼之衣被钱物一概未收，徒手剪发，鼠窜狂奔。从东门逃出者，至洪山一带遇塔兵杀二千人。自军兴以来，未有如此痛快者也。

## 十月二十二日

温甫、子植、季洪四位老弟左右：

胡二等于初一日到营，接奉父大人手谕及诸弟信，具悉一切。

兄于二十日自汉口起行，二十一日至黄州，二十二日至堵城。以羊一豕一，为文祭吴甦甫师。二十三日过江至武昌县。二十四在巴河晤郭雨三之弟，知其兄观亭在山西，因属邑失守革职，雨三现署两淮盐运使。二十九日至蕲州，是日水师大战获胜。初一、初四、初五陆军在田家镇之对岸半壁山大战获胜。初九、初十水师在蕲州开仗小胜。十三日水师大破田家镇贼防，烧贼船四千余号。自有此军以来，陆路杀贼之多无有过于初四之战，水路烧船之多无有过于十三之役。现在前带已至九江，吾尚驻田家镇。离九江百五十里。陆路之贼均在广济、黄梅一带，塔、罗于二十三日启行往剿。一切军事之详，均具奏报之中。兹并抄录寄回，祈教呈父大人、叔父大人一覽。

刘一、良五于二十日至田家镇，得悉家中老幼均吉，甚慰甚慰。魏荫亭先生既来军中，父大人命九弟教子侄读书，而九弟书来坚执不肯，欲余另请明师。余意中实乏明师可以聘请。日内与霞、次及幕中诸君子熟商，近处惟罗研生兄是我心中佩仰之人。其学问具有本原，于《说文》、音学、舆地尤其所长，而诗、古文辞及行楷书法亦皆讲求有年。吾乡通经学古之士，以邹叔绩为最，而研生次之。其世兄现在余幕中，故请其写家信，聘研生至吾乡教读。研兄之继配陈氏，与耦庚先生为联襟。渠又明于风水之说，并可在吾乡选择吉地。但不知其果肯来否？渠现馆徐方伯处，未知能辞彼就此否？若果能来，足开吾邑小学之风，于温甫、子植亦不无裨益。若研兄不能来，则吾心中别无人。植弟坚不肯教，则乞诸弟为访择一师而延聘焉为要。甲三、甲五可同一师，不可分开。科一、科三、科四亦可同师。余不一一，诸俟续布。

十一月初七日 书于武穴舟中

澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟足下：

二十五日遣春二、维五归家，曾寄一函并谕旨奏折二册。

二十六日，水师在九江开仗获胜。陆路塔、罗之军在江北蕪州之莲花桥大获胜仗，杀贼千余人。二十八日克复广济县城。初一日在大河埔大获胜仗。初四日在黄梅城外大获胜仗。初五日克复黄梅县城。该匪数万，现屯踞江岸之小池口，与九江府城相对。塔、罗之军即日追至江岸，即可水陆夹击。能将北岸扫除，然后可渡江以剿九江府城之贼。自到九江后，即可专夫由武宁以达平江、长沙。

兹因魏荫亭亲家还乡之便，付去银一百两，为家中卒岁之贄。以三分计之。新雇人多，取其二以供用；老雇人少，取其一以供用。外五十两一封，以送亲族各家，即往年在京寄回之旧例也。以后我家光景略好，此项断不可缺。家中却不可过于宽裕。处此乱世，愈穷愈好。我现在军中，声名极好。所过之处，百姓爆竹焚香跪迎，送钱米猪羊来犒军者络绎不绝。以祖宗累世之厚德，使我一人食此隆报，享此荣名，寸心兢兢，且愧且惧。现在但愿官阶不再进，虚名不再张，常葆此以无咎，即是持身守家之道。至军事之成败利钝，此关乎国家之福，吾惟力尽人事，不敢存丝毫侥幸之心。诸弟禀告堂上大人，不必悬念。

冯树堂前有信来，要功牌一百张，兹亦交荫亭带归。望澄弟专差送至宝庆，交树堂为要。衡州所捐之都照，已交朱峻明带去。外带照千张，交郭云仙，从原奏之所指也。朱于初二日起行，江藩三亦同归。给渠钱已四十千，今年送亲族者，不必送隆三可也。余不一一。

十一月二十三日 书于九江舟次

澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟足下：

十月二十五日专人送信回家。魏荫亭归，又送一函。想先后收到。十一月二十一日，范知宝来九江，接澄弟信，具悉一切。

部监各照已交朱峻明带归矣。树堂要功牌百张，又交荫亭带归。余送朱峻明途费二十金，渠本解船来，故受之。送荫亭二十金，渠竟不受，俟有便当再寄渠。江藩三表弟来营，余念母亲之侄仅渠有子，送钱四十千。渠买盐花带归，不知已到家否？荫亭归，余寄百五十金还家，以五十周济亲族，此百金恐尚不敷家用。军中银钱，余不敢妄取丝毫

也。名者，造物所珍重爱惜，不轻以予人者。余德薄能鲜，而享天下之大名，虽由高曾祖父累世积德所致，而自问总觉不称，故不敢稍涉骄傲。家中自父亲、叔父奉养宜隆外，凡诸弟及吾妻吾子吾侄吾诸女侄女辈，概愿俭于自奉，不可倚势骄人。古人谓无实而享大名者，必有奇祸。吾常常以此儆惧，故不能不详告贤弟，尤望贤弟时时教戒吾子吾侄也。

塔、罗自田家镇渡至江北后五获胜仗，九江对岸之贼遂下窜安徽境。余现泊九江河下，塔、罗渡江攻城。罗于二十一日与贼接仗，杀贼二三百，而我军亦伤亡四十余人。此在近数月内即是有小挫失，而气则未稍损也。

水师已下泊湖口，去我舟已隔六十里。二十夜，贼自江西小河内放火船百余号，实以干柴、桐油、松脂、火药，自上游乘风放下，惊我水营。两岸各千余人呐喊，放火箭、火球。其战船放炮，即随火船冲出，欲乱我阵。幸我军镇定，毫不忙乱，反用小船梭穿于火船之中，攻入贼营，烧贼船十余号，抢贼划数十号。撼撼不动，是亦可喜之事。

余身体平安，痼疾近又大愈，胡须日长且多。军中将士俱平安。余不一一，即候近佳。并愚禀告父亲大人、叔父大人福安。

## 十一月二十七日

诸位贤弟足下：

前信已封，而春二、维五于二十五日到营，接奉父大人手谕及诸弟信件，敬悉一切。

曾祖生以本境练团派费之事，而必求助于百里之外，以图免出费资，其居心不甚良善。刘东屏先生接得父大人手书，此等小事，何难一笑释之，而必展转辩论，拂大人之意？在寻常人尚不能无介介于中，况大人兼三达尊而又重以世交？言不见信，焉能不介怀耶？望诸弟曲慰父大人之意，大度含容，以顺天和，庶使游子在外得以安心治事。所有来往信件，谨遵父大人谕，即行寄还。

吾自服官及近年办理军务，中心常多郁屈不平之端，每效母亲大人指腹示儿女曰“此中蓄积多少闲气，无处发泄”。其往年诸事不及尽知，今年二月在省城河下，凡我所带之兵勇仆从人等，每次上城，必遭毒骂痛打，此四弟、季弟所亲见者。谤怨沸腾、万口嘲讥，此四弟、季弟所亲闻者。自四月以后两弟不在此，景况更有令人难堪者。吾惟忍辱包羞，屈心抑志，以求军事之万有一济。现虽屡获大胜，而愈办愈难，动

辄招尤。倘赖圣主如天之福，歼灭此贼，吾实不愿久居宦场，自取烦恼。四弟自去冬以来，亦屡遭求全之毁、蜚来之谤，几于身无完肤。想宦途风味，亦深知之而深畏之矣。而温弟、季弟来书，常以保举一事疑我之有吝于四弟者，是亦不谅兄之苦衷也。

甲三从师一事，吾接九弟信，辞气甚坚，即请研生兄，以书聘之。今尚未接回信，然业令其世兄两次以家信催之，断不可更有变局。学堂以古老坪为妥。研兄居马托铺乡中，亦山林寒苦之士，决无官场习气，尽可放心。至甲三读书，天分本低，若再以全力学八股、试帖，则他项学业必全荒废。吾决计不令其学作八股也。

曾兆安、欧阳铨皆已保举教官，日内想可奉旨。

## 曾国藩家书卷之五

咸丰五年乙卯岁

正月初二日

澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟足下：

久未专使回家，想家中极为悬念。王芝三等到营，得悉家中大人安福，合室平善。甚慰甚慰。

此军自破田镇后，满拟九江不日可下，不料逆贼坚守，屡攻不克。分罗山湘营至湖口，先攻梅家洲坚垒，亦不能克，而士卒力战于枪炮雨下之中，死伤甚众，盖陆路锐师，倏变为钝兵矣。水师自至湖口屡获大胜，苦战经月，伤亡亦复不少。腊月十二日，水师一百余号轻便之船、精锐之卒冲入湖口小河南。该逆顿将水卡堵塞，在内河者不能复出，在外江之老营船只多笨重难行。该逆遂将小划乘夜放火，烧去战船、民船四五十号之多。二十五日又被小划偷袭，烧去抢去各船至二三十号之多。以极盛之水师，一旦以百余号好船陷入内河，而外江水师遂觉无以自立，两次大挫；而兄之座船被失，一军耳目所在，遂觉人人惶愕，各船纷纷上驶。自九江以上之廬坪、武穴、田家镇直至蕪州，处处皆有战船，且有弃船而逃者，粮台各所之船水手尽行逃窜。此等情景，殊难为怀。现率残败之水师驻扎九江城外官牌夹，兄住罗山陆营之内，不知果能力与此贼相持否？

兄于二十五日蒙恩赏穿黄马褂，并颁赐狐皮黄马褂一件、四喜班指一个、白玉巴图鲁铜管一个、小刀一把、火铤一个，二十六夜蒙恩赏福字一幅、大小荷包三对，又有奶饼果食等件颁到军营。二十五夜之变，将班指、铜管、小刀、火铤失去。兹遣人送回黄马褂一件、福字一幅、荷包三对。兄船上所失书籍、地图、上谕、奏章及家书等件，甚为可悼；而二年以来文案信件如山，部照、实收、功牌、帐目一并失去，尤为可惜。莘田叔解战船来，离大营止少一二日，竟不能到。军家胜败本属无常，而年余辛苦难补涓埃，未免心结。二十九日，罗山率湘勇渡江，剿小池口之贼，又见挫败，士气愈损。现惟力加整顿，挽回元气。

不审能如意否。兹遣长夫自江西送信回家，当无梗阻。书不千一，诸惟心照。即祈代稟堂上大人，不必挂念。

正月十八日 书于江西省城

澄侯、温甫、子植、季洪老弟足下：

初二日遣人送信回家，想节后可到。

初四日大风击坏战船三十余号。水师自十二日百余轻便之舟、二千精锐之卒陷入内湖，外江老营两次被贼用小划烧袭，业已不能自立，终日惶惶如坐针毡，又复遭此大风，遂全数开赴上游武汉等处。桅折樯摧，多不堪战，不知回至上游，果尚足以御贼否。兄因小舟陷入江西内河者，皆向来能战之船，不甘遽弃之无用之地，必须亲至江西整顿。即于十二日自九江起行，十六日至江西省城，官绅相待甚好。在内之百余船尚皆完好，再加大船数十号，另成一军，即足自立。

罗山所带湘勇，自二十九日挫败后，现在淘汰整顿，认真操练。塔公所带之兵勇亦日日操练。将来兄在江西另成之水军由湖口打出，与塔、罗相依护其外江。新回武汉之水师，如果能重整劲旅，则两路会合攻击；如不能重整劲旅，则我专治内河之水师，亦自能独立不惧。江西物力尚厚，供我水陆两军口粮，大约足支八个月。

兄身体甚好，惟左腰有寒气作痛，痹疾亦尚未愈，想皆不久可痊。家中长夫相住甚近，军中危地，恐小有差失，反为不妙；且送信行走极缓，在营又无事可干，兹尽遽回家。以后若有家信，即用湘乡县官封发至江西南昌府署中，可以必到，兼可速到，不似长夫专送之迟延也，慎勿再令长夫来营。兵凶战危，我境之人俱未历过险难。莘田叔此次行二千里，竟不得见我之面，受尽千惊万苦，实实可悯。嗣后族戚有愿至营者，切劝不必前来，至要至要。书不百一，诸惟心知。其不详者，长夫自能面述耳。

二月二十九日 书于江西省城

澄侯、温甫、子植、季洪老弟足下：

二十一日春二、维五到，接一信。二十六日唐萍洲官封递到家书一件。二十九日王在十、良五到，接一信。此两次专夫走信均极快，每人各赏钱一千。

自到江西办理水师，一切尚为顺平。船只三月初可尽完，惟快蟹未

毕，目下本不須此。二十七日具折，分两路用兵，兹抄稿寄回。已调罗山来江省，欲令前往赣州剿贼，不料二十九日得湖北失守之信，诸将士苦战经年，一旦前功尽弃，可惜可憾！贼既占湖北，自必窥伺湖南，兄与塔公一军恐不能不回教桑梓。而回教之法，人少则无济于事，人多则口粮无出；且全军回教，而战船之在江西鄱湖以内者，又复无人统领，殊不放心。日内定计，发折后再专信回。

腾七、起三、有六、怀三来江西投效，即日遣之回家。每人送银四两，腾七加二两。魏荫亭、阳凌云亦来江，亦将速遣回。

纪泽儿读书记性不好，悟性较佳。若令其句句读熟，或责其不可再生，则愈读愈蠢，将来仍不能读完经书。请子植弟将泽儿未读之经，每日点五六百字教一遍，解一遍，令其读十遍，不必能背诵，不必常温习。待其草草点完之后，将来看经解，亦可求熟。若蛮读蛮记蛮温，断不能久熟，徒耗日工而已。诸弟必以兄言为不然。吾阅历甚多，问之朋友，皆以为然。儿侄辈写字亦要紧，须令其多临帖。临行草字亦自有益，不必禁之。

兄痼疾未好，余俱平安，即问近好。

三月二十日 江西省河七里港舟中书

澄侯、温甫、子植、季洪四弟足下：

久未接家信，想堂上大人安康，家中老幼清吉为慰。

自北省再陷，兄处一军，反在下游进退两难。在内湖之水师，兄在江西驻扎两月，造船添勇，已有头绪。现在船近二百号，勇逾三千人，认真操练，可成劲旅。兄于十三日出省登舟。郭云仙于十六日到营，曾莘田、易敬臣兄弟于十五日到营，罗芸皋于初旬到营。事机不顺而来者偏众，可见乡间穷苦也。阳凌云初间归去，余送途费八两。魏荫亭尚未归。塔军门尚扎九江。罗山于初十日进剿广信、饶州之贼。李次青忽然高兴带勇，于十一日起行赴南康府，实非其所长也。

余办内湖水师，即以鄱阳湖为巢穴。间或出江剿贼，亦不过以三分之一与贼鏖战。剿上游，则在九江、武穴、田镇等处游绎。不出湖口二百里之内。利则久战，不利则退回鄱湖巢穴之内。剿下游，则在彭泽、望江、安庆等处游绎，亦不出湖口二百里之内。利则久战，不利则亦退鄱湖巢穴之内。如此办理，则上游武汉之贼与下游金陵之贼，中间江路被我兵梗阻一段，其势不能常通，亦足以制贼之命。特上游金口等处，我军战船无人统领，常不放心耳。

近日吾乡人心慌乱否？去年迁避，终非善策。如贼窜上游岳、常等处，谣言四起，总以安居不迁为是。季洪弟尽可不必教书，宜在家中读书。沅弟要方望溪、姚姬传文集，霞仙已代为买得，可用心细看。能阅过一遍，遍加圈点，自不患不长进也。

纪泽儿记性极平常，不必力求背诵，但宜常看生书。讲解数遍，自然有益。八股文、试帖诗皆非今日之急务，尽可不看不作。史鉴略熟，宜因而加功，看朱子《纲目》一遍为要。纪鸿儿亦不必读八股文，徒费时日，实无益也。修身齐家之道，无过陈文恭公《五种遗规》一书，诸弟与儿侄辈皆宜常常阅看。

吾夏季衣服有在家者，可交来人即日送营，特袍褂不宜带来，余皆可送也。请不一一，惟祈心照。

### 三月二十六日

澄、温、沅、洪四弟足下：

二十五日春二、维五来营，接家书数件，具悉一切。

乘败仗之时，兵勇抢劫粮台，此近年最坏风气。向帅营中屡屡见之，而皆未惩办。兄奏明将万瑞书即行正法，奉严旨飭骆中丞即行正法。闻骆中丞不欲杀之，将附片奏请开释。近日意见不合，办事之难如此。

吾痼疾大发，幸精神尚足支持。罗山在广信府大获胜仗，杀贼三四千。塔军门在九江平安。

纪泽儿读书记性平常，读书不必求熟，且将《左传》、《礼记》于今秋点毕，以后听儿之自读自思。成败勤惰，儿当自省而图自立焉。吾与诸弟惟思以身垂范而教子侄，不在海言之谆谆也。即候近祺。

### 四月初八日

澄侯、温甫、子植、季洪足下：

凌问樵来，接澄弟信，知勇劫粮台事办有头绪，澄弟已归去矣。甚慰甚慰。当此乱世，黑白颠倒，办事万难，贤弟宜藏深山，不宜轻出门一步。澄弟去年三月在省河告归之时，毅然决绝，吾意其载影家园，足迹不履城市矣。此次一出，实不可解。以后务须隐遁，无论外间何事，一概不可与闻。即家中偶遇横逆之来，亦当再三隐忍，勿与计较。吾近来在外，于忍气二字加倍用功。若仗皇上天威，此事稍有了息之期，吾



必杜门养疾，不愿闻官事也。

痼疾近日大发，懒于治事。自二十七日至吴城镇，迄今已满十日。罗山于二十一日克复弋阳，二十三日克复兴安，二十六日两获大胜，克复广信府城。智亭军门尚扎九江。水师前队扎南康府，李次青率陆勇护之，后队扎吴城，均尚安吉，家中不必挂念。莘田在营，甚为安雅，拟留二三月遣归。魏荫亭近日即当告归。余不一一，即候近好。

付去谕旨一本、奏章一本，幸好为收存。向来寄回家中之奏稿，不知收置一处否？以后望作箱存之为要。诸惟心照。

#### 四月二十日 书于南康城外水营

澄、温、沅、季四位贤弟左右：

十六日在南康府接父亲手谕及澄沅两弟、纪泽儿之信，系刘一送来，二十日接澄弟一信，系林福秀由县送来，具悉一切。

余于十三日自吴城进扎南康，水师右营、后营、向导营于十三日进扎青山。十九日，贼带炮船五六十号、小划船五六十号前来扑营，鏖战二时，未分胜负。该匪以小划二十余号又自山后攒出，袭我老营。老营战船业已全数出队，仅坐船水手数人及所雇民船水手，皆逃上岸。各战船哨官见坐船已失，遂尔慌乱，以致败挫。幸战舟炮位毫无损伤，犹为不幸中之大幸。且左营、定湘营尚在南康，中营尚在吴城，是日未与其事，士气依然振作。现在六营三千人同泊南康，与陆勇平江营三千人相依护，或可速振军威。

现在余所统之陆军：塔公带五千人在九江，罗山带三千五百人在广信一带，次青带平江三千人在南康，业已成为三枝，人数亦极不少。赵玉班带五百湘勇来此，若独成一枝，则不足以自立；若依附塔军、依附罗军，则去我仍隔数百里之远；若依附平江营，则气类不合，且近日口粮实难接济。玉班之勇可不必来。玉班一人独来，则营中需才孔亟，必有以位置之也。

蒋益澧之事，唐公如此办理甚好。密传其家人，详明开导，勒令缴出银两，足以允服人心，面面俱圆，请蒋翁即行速办。但使探听得珠，即轻轻着笔，亦可以办到矣。

此间自水师小挫后，急须多办小划以胜之，但乏能管带小划之人。若有实能带小划者，打仗时并不靠他冲阵，只要开仗之时，在江边攒出攒入，眩贼之眼，助我之势，即属大有裨益。吾弟若见有此等人，或赵玉班能荐此等人，即可招募善驾小划之水手一百余人来营。

冯玉珂所缴水勇之枪银及各银应缴银者，可耐用为途费也。余在营平安，惟痼疾未愈，精神不足，诸事未能一一照管。小心谨慎，冀尽人事以听天命。诸不详尽，统俟续布。

顷与魏荫亭谈及招小划水勇一事，渠可回家与萧可卿商办。大约每划五人，五划立一哨官，每百人四哨官，十余哨即立一营官。此不难于招勇，而难于选求哨官、营官。澄弟若见有可当哨官者，或令其来营，或荐与荫亭。勇则不必招，听萧、魏办理可也。

## 四月二十五日

澄、温、沅、季四弟左右：

二十二日齐三、昂十到营，奉到父亲大人手谕并沅弟一信，二十三日接澄弟在县官封一信，乃三月二十五日所发，比齐三等之信迟十六日。

水师自十九日小挫，日内未开仗。闻都昌有贼船，派船二十号前往搜剿。二十二日烧船八十余号，二十三日烧三十余号，皆贼所劫之民舟也。李次青所带之平江陆勇现扎南康，护卫水师。魏荫亭回衡招小划水勇，请萧可卿同办。

吾乡有三眼镜，亦有单眼镜，响振山谷。吾意单眼镜若装子弹于内，尽可打贼。乡间用木削銃尖，往往打得四五十丈远。请澄弟在吾乡打单眼镜数竿，用梗木为把，试装铜扣、小石之类于内，是否可打半里远？如其合用，即可多打数十竿或百竿，交魏荫亭之水勇带来，其钱兄由营寄回。

兄近日身体尚好，惟火气甚旺，痼疾未愈。莘田在营安静谨慎，冯玉珂亦稳实也。余不一一，容俟续具。

蒋芑泉之事，唐荫翁迫于邑绅之言，不能不办。但须轻妙，不着痕迹。若过于着迹，必至大伤体面，将来使带勇者人人有自危之心，即罗山、迪庵亦觉为之不怡，非所宜也。

前年在衡州时，与季弟定陆营薪水单。五百人一营者，每月营官帮办薪水二百六十两。章程本过于丰厚，故营官周凤山家已成素封，其余积资置产者甚多。若专办蒋家，则未免厚于外人而薄于邑人，故兄日内于此事极踌躇也。大营事件甚多，凡关涉本邑者，诸弟总以不管为妥。军事愈办愈难，有非一言所能尽者，诸惟心照。

## 五月二十六日

澄、温、沅、季四位老弟足下，

二十五日春二、维五到营，接奉父亲大人手谕并澄沅来信、纪泽儿禀函，具悉一切。

此间自四月十九小挫之后，五月十三各营在青山与该逆大战一次，幸获全胜。该逆水战之法尽仿我军之所为，船之大小长短，桨之疏密，炮之远近，皆与我军相等。其不如我军处，在群子不能及远，故我军仅伤数人，而该逆伤亡三百余人。其更胜于我处，在每桨以两人推送，故船行更快。

罗山克复广信后，本可即由饶州、都昌来湖口会剿，因浙江抚台札令赴徽州会剿，故停驻景德镇，未能来湖口。顷又因义宁州失守，江西抚台调之回保省城，更不能来南康、湖口等处。事机不顺，处处牵掣，非尽由人力作主也。

永丰十六里练团新集之众，以之壮声威则可，以之打仗则恐不可，澄弟宜认真审察一番。小划子营，如有营官、哨官之才，望即告知荫亭，招之以出。沅弟荐曾和六，其人本有才，但兵凶战危，渠身家丰厚，未必愿冒险从戎。若慷慨投笔则可，余以札调则不宜也。朱楚成之才，不过能带一舢板耳。闻父亲所办单眼镜甚为合用，但引眼宜略大，用引线两三根更为可靠。

沅弟买得方、姚集，近已阅否？体气多病，得名人文集静心读之，亦自足以养病。凡读书有难解者，不必遽求甚解。有一字不能记者，不必苦求强记，只须从容涵泳。今日看几篇，明日看几篇，久久自然有益。但于已阅过者，自作暗号，略批几字，否则历久忘其为已阅未阅矣。筠仙来江西时，余作会合诗一首，一时和者数十人，兹命书办抄一本寄家一阅。

痼疾近已大愈，惟今年酷暑异常，将士甚苦。余不一一，即问近好。

## 六月十六日

澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟足下：

春二、维五来营，接奉父亲大人手谕并诸弟信函，敬悉一切。

此间自五月十三日水战获胜后，三十日该逆七十余舟上犯至青山一

带，我军出队迎敌，又获胜仗。夺回余去年所坐之拖罟船外，又夺贼战船五只，军心为之一振。六月初七日、初九夜两次风暴，营中坏船十余号，应修整者二十余号。

十三日派人至南康对岸之徐家埠，水陆搜剿。其地去湖口县七十里，贼匪督率土匪在该处收粮，诛求无度，民不聊生，因派水陆六百人前往搜剿。真贼十余率土匪三百人与我军接仗，仅放两排枪，该匪即败窜。追奔十余里，焚贼馆十余所，焚辐重船百余只，击毙十余人，生擒七人。十四日收队回南康。十五日，水师至湖口探看贼营情形。该匪坚匿不出，迫我军疲乏将归，逆船突出大战，我军未约定开仗，人心忙乱，遂致挫败。被该匪围去长龙船一号、舢板船二号，三船共阵亡五十余人，受伤二十余人，军士之气为之一减。

今年内湖水师共开四仗，两胜两败。湖口一关，竟难遽行打出，不胜焦灼！塔军门在九江十三日打一胜仗，杀贼三百余人，亦无益于大局也。

自义宁州失守，不特江西省城戒严，而湖南亦有东顾之忧。盖义宁与平江、浏阳接壤，贼思由此路窥伺长沙。罗山现回江西省，拟即日进攻义宁，以绝两省腹心之患。若能急急克复，则桑梓有安枕之日，否则三面受敌，湖南亦万难支持。大乱之弭，岂尽由人力，亦苍苍者有以主之耳！

余癣疾未愈，用心尤甚，夜不成寐，常恐耿耿微忱，终无补于国事。然办一日事，尽一日心，不敢片刻松懈也。陈竹伯中丞办理军务，不愜人心，与余诸事亦多齟齬。凡共事和衷，最不易易。澄弟近日尚在外办公事否？宜以余为戒，步门不出，谢绝一切。余食禄已久，不能不以国家之忧为忧，诸弟则尽可理乱不闻也。子侄辈总宜教之以勤，勤则百弊皆除，望贤弟留心。即问四位老弟近好。

## 七月初八日

澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟左右：

刘朝相来营，得植弟手书，具审一切。

内湖水师自六月十五日开仗后，至今平安。本拟令李次青带平江勇渡鄱湖之东，与水师会攻湖口，奈自六月底至今，十日大风，不克东渡。初四日风力稍息，平勇登舟。甫经解缆，狂飙大作，旋即折回。弁勇衣被帐棚，寸缕皆湿。天意茫茫，正未可知。不知湖口之贼运数不宜遽灭乎？抑此勇渡湖宜致败挫，故特阻其行以保全此军乎？现拟俟月半

后请塔军渡湖会剿。

罗山进攻义宁，闻初四日可至界上，初五六日当可开仗。潮南三面用兵，熟中丞请罗山带兵回潮，业经入奏。如义宁能攻破，恐罗山须回潮南保全桑梓，则此间又少一枝劲旅矣。内潮水师船炮俱精，特少得力营官，现调彭雪琴来江，当有起色。

盐务充饷是一大好事，惟浙中官商多恩专利。邵位西来江会议，已有头绪，不知渠回浙后，彼中在事人能允行否？舍此一筹，则饷源已竭，实有坐困之势。

东安土匪，不知近日何如？若不犯邵阳界，则吾邑尚可不至震惊。带兵之事，千难万难。澄弟带勇至衡阳，温弟带勇至新桥，幸托平安，嗣后总以不带勇为妙。吾阅历二年，知此中构怨之事、造孽之端不一而足，恨不得与诸弟当面一一缕述之也。诸弟在家侍奉父亲，和睦族党，尽其力之所能为，至于练团带勇，却不宜。澄弟在外已久，谅知吾言之具有苦衷也。

宽二弟去年下世，未寄奠分，至今歉然于心。兹付回银贰拾两，为宽二奠金，望送交任尊叔夫妇手收。

植弟前信言身体不健。吾谓读书不求强记，此亦养身之道。凡求强记者，尚有好名之心横亘于方寸，故愈不能记；若全无名心，记亦可，不记亦可，此心宽然无累，反觉安舒，或反能记一二处，亦未可知。此余阅历语也，植弟试一体验行之。余不一一，即问近安。

## 八月十三日

澄侯、温甫、子植、季洪四弟左右：

胡二等来大营，接奉父亲大人、叔父大人手渝及诸弟各书，具悉一切。此次余已月余未寄家信。

七月十八夜，忽报塔军门大病，至三更而凶问至。余十九往九江陆营料理一切，派周凤山统领得城陆军。至二十三日，潮口水陆开仗，萧捷三阵亡。二十五日，余又从九江回至青山水营。连日大北风，不能办一事。二十九日，罗山兄由义宁州单骑行六百至南康面议大局。余初一日又回南康。李次青自七月十四渡湖攻剿湖口，十八、二十一、二十三连获胜仗，现已入奏。初四、初八又获胜仗，而水师初八日开仗小挫，失去炮船二十一号，小划二号。次早初九未明，贼舟大队前来扑营。我军极力堵御，轰击二时，该匪败退。今年内潮水师分为两帮，前帮四营，后帮五营，各船百号。初八之胜，初九之败，皆后帮之事，前帮未

曾与闻，故水营虽小挫，尚足以自立。

罗山一军，定计由崇、通以进剿武汉。骆中丞奏调罗军回剿湖南境内，余令其扫荡崇、通一带，则巴陵、平江皆安，即所以固湘省北门之锁钥也。由崇、通以捣武汉，则有裨于大局，不仅保全桑梓，年内仍可来南康湖口与余军会合。余在南康已过五月，不能打出湖口，仅能保全江西，无能补益全局，焦灼难名。痲疾日甚，身无完肤，夜不成寐，惟日服滋阴之剂以冀平善。

九弟信来，言纪泽婚事。泽儿年尚轻，婚事概由父亲大人作主，或早办或迟办，或丰或俭，均请父亲经理，内子不得自主也。至人赞之说，则断不可，我乡向无此。今冬明年读书，亦由父亲大人作主，诸弟为我择师可也。余在军中，诸事冗杂，多不能理，家事尤不克兼顾。罗研生将来军中，不能教书耳。即问近好。

八月二十七日 书于南康军中

澄侯、温甫、子植、季洪老弟足下：

十四日良五、彭四回家，寄去一信，谅已收到。

剿罗山于十六日回剿武汉，霞仙亦即同去。近接武昌信息，知李鹤人于八月初二日败挫，金口陆营被贼踏毁。胡润芝中丞于初八日被贼踏破彭山陆营，南北两岸陆军皆溃，势已万不可支。幸水师尚足自立，杨、彭屯扎沌口。计罗山一军可于九月初旬抵鄂，或者尚有转机。即鄂事难遽旋转，而罗与杨、彭水陆依护，防御于岳鄂之问，亦必可固湘省北路之藩篱也。内湖水师，自初八日以后迄未开仗，日日操演。次青尚扎湖口，周凤山尚扎九江，俱属安谧。

葛十一于初八日在湖口阵亡，现在寻购尸首，尚未觅得，已奏请照千总例赐恤。将来若购得尸骸，当为之送枢回里。如不可觅，亦必酬金寄恤其家。此君今年大病数月，甫经痊愈，尚未复元，即行出队开仗。人劝之勿出，坚不肯听，卒以力战捐躯，良可伤恻。可先告知其家也。去年腊月二十五夜之役，监印官潘兆奎与文生葛荣册同坐一船，均报阵亡，已入奏请恤矣。顷潘兆奎竟回至江西，云是夜遇渔舟捞救得生，则葛元五或尚未死，亦未可知，不知其家人中有音耗否？

痲疾稍愈，今年七八两月最甚，诸事废弛，余俟续布，顺问近好。

甲三、甲五等兄弟，总以习劳苦为第一要义。生当乱世，居家之道，不可有余财，多财则终为患害。又不可过于安逸偷惰。如由新宅至老宅，必宜常常走路，不可坐轿骑马。又常常登山，亦可以练习筋骸。

仕宦之家，不蓄积银钱，使子弟自觉一无可恃，一日不勤，则将有饥寒之患，则子弟渐渐勤劳，知谋所以自立矣。

再，父亲大人于初九日大寿，此信到日，恐已在十二以后。余二十年来，仅在家拜寿一次。游子远离，日月如梭，喜惧之怀，寸心惴惴。又十一月初三日为母亲大人七旬一冥寿，欲设为道场，殊非儒者事亲之道，欲开筵觞客，又乏哀痛未忘之意。兹幸沅弟得进一阶，母亲必含笑于九京。优贡匾额，可于初三日悬挂。祭礼须极丰腴，即以祭余宴客可也。

昨接上谕，补兵部右侍郎缺。此缺二十九年八月曾署理一次，日内当具折谢恩。

澄侯弟在县何日归家？办理外事，实不易易，徒讨烦恼。诸弟在家，吾意以不干预县府公事为妥，望细心察之。即问近好。

### 九月三十日 书于屏风水管

澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟足下：

二十六日王如一、朱栗七至营，接九月初二日家书，二十九日刘一、彭四至营，又接十六日家书，具悉一切。

沅弟优贡喜信，此间二十三日彭山杞接家信，即已闻之。二十七日得左季高书，始知其实。二十九日得家书乃详也。沅弟在省，寄书来江西大营甚便，何以未以一字报平安耶？十月初当可回家，为父亲叩祝大寿。各省优贡朝考，向例在明年五月，沅弟可于明年春间进京。若由浙江一途，可便道由江西至大营，兄弟聚会。吾有书数十箱在京，无人照管，沅弟此去可经理一番。

自七月以来，吾得闻家中事有数件可为欣慰者：温弟妻妾皆有梦熊之兆，足慰祖父母于九泉，一也；家中妇女大小皆纺纱织布，闻已成六七机，诸子侄读书尚不懒惰，内外各有职业，二也；闽境丰收，远近无警，此间兵事平顺，足安堂上老人之心，三也。今又闻沅弟喜音，意吾家高曾以来，积泽甚长，后人食报，更当绵绵不尽。吾兄弟年富力强，尤宜时时内省，处处反躬自责。勤俭忠厚，以承先而启后，互相勉励可也。

内湖水师久未开仗，日日操练，夜夜防守，颇为认真。周凤山统领九江陆军亦尚平安。李次青带平江勇三千在苏官渡，去湖口县十里，颇得该处士民之欢心。茶陵州土匪，间窜扰江西之莲花厅永新县境内，吉安人心震动。顷已调平江勇六百五十人前往剿办，又派水师千人往吉防

## 曾国藩家书

堵河道，或可保全。

余痼疾迄未大愈，幸精神尚可支持。王如一等来，二十四日始到。余怒其太迟，令其即归，发途费九百六十文，家中不必加补，以为懒漫者戒。宽十在营住一个月，打发银六两，途费四千。

罗山于十四日克复崇阳后，尚无信来。罗研生兄于今日到营。纪泽、纪梁登九峰山诗，文气俱顺，且无猥琐之气，将来或皆可冀有成立也。余不一一。

十月十四日 书于南康府屏风水管

澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟左右：

十月十三县城专人来营，接到父亲大人手谕，同成章鉴来，又接植弟十五、十八日二函，具悉一切。张德坚处寄书至今尚未到。温弟得生一女，母子平安。甚慰甚慰。闻其侧室亦有梦熊之兆，想当再索得男也。

唐荪洲父台恺惻慈祥，吾邑士民爱戴。此际去任，自必攀辕挽留。留好官非干预公事可比，余之信所能止者，沅弟之信亦能止之，第不可早发，徒生疑窦耳。

澄弟带勇至株洲、朱亨等处，此间亦有此信。兹得沅弟信，知系康斗山、刘仙桥二人，澄弟实未管带，甚好甚好。带勇之事，千难万难，任劳任怨，受苦受惊，一经出头，则一二三年不能离此苦惱。若似季弟吃苦数月便尔脱身，又不免为有识者所笑。余食禄有年，受国厚恩，自当尽心竭力办理军务，一息尚存，此志不懈。诸弟则当伏处山林，勤俭耕读，奉亲教子，切不宜干涉军政，恐无益于世，徒损于家。至嘱至嘱。

罗山分军在濠头堡失利，彭三元、李杏春殉难。有此一挫，武汉恐不能即复。浔阳周凤山一军，湖口李次青一军及水军平安如故。茶陵贼匪窜至江西，安福、永新失守，吉安府城戒严。在次青处调平江勇千三百人往援，周臬台亦带千余人往剿，不知能迅速扑灭否？

余痼疾日痊，营务平善，无劳挂虑。诸弟为我禀告父亲大人、叔父大人，千万放心。不一一具。



十月十九日 书于屏风水次

澄侯、温甫、子植、季洪老弟足下：

十月初一日宽十等归，寄一函，县城专差来，又寄一家信，想均收到。

营中日内如常。周凤山九江陆军三千余人尚属整顿。次青在湖口，因分去千三百人往剿吉安，刻拟添募五百人，以厚兵力。吉安之事，闻周臬台带千人已至，或足以资剿办。罗山在羊楼峒，二十六获胜后，尚无嗣音。

兹因春二患病，维五送之还家，复寄数行，以慰堂上老人悬念。罗山在岳、鄂间军气单弱，余甚不放心家中上而衡、郴，下而岳、平，均多可虞，望多送信几次来大营也。

十一月初四日 书于南康府水营

澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟左右：

十月二十八日在十等到营，接奉父亲大人手谕、纪泽儿禀件及儿侄外甥等寿诗，具悉一切。

澄弟在朱亭带勇，十八九可以撤营，欣慰之至。兵凶战危，一经带勇，则畏缩趋避之念决不可存。兵端未息，恐非二三年所能扫除净尽。与其从事之后而进退不得自由，不如早自审度，量而后入，想诸弟亦必细心筹维也。

南康水师，二十八日开仗一次，失长龙船一号。九江陆军相持如故。李次青在湖口亦未开仗。黄莘农先生今年为我军办理捐输，已解银六十余万两，未收者尚有二十余万。水陆兵勇自入江西境内，已用口粮百余万。此项捐款，实为大宗。目下捐款将次用毕，莘翁又接办盐务。盐务之可以筹饷者有二端：一则四月间奏请浙盐三万引，现在陆续运行，大约除成本外，可获净利十万两；一则于江西饶州、吴城、万安、新城四处设卡，私盐过境，酌抽税课，大约每月亦可得银万余两。若此两举刻期办齐，则明年军饷竟可无虑。黄司寇之为功于我军者大矣。浙江盐务，先须成本十余万，现请郭云仙往浙一行，张罗本钱，虽未必有济，姑试图之。

罗山自入湖北境内克复崇、通后，忽有濠头堡之挫，旋于二十六日、初三日两获大胜，军威大振。伪北王、伪翼王俱上犯岳、鄂之交，

楚事孔棘。乃十月初二早，庐州克复，杀贼近万，官兵即日可捣安庆。上游之贼均须回救安省，韦、石二逆或俱退回下游。两湖之事，近日必可渐松。此吾省之福，而亦国家之厚泽，冥冥中巧为布置，使悍贼不得逞志于两湖也。

兄身体如常，癰疾未愈。昨日系先妣七旬晋一冥寿，军中不得备礼以祭，负罪滋深。莘翁自省来营，商议盐事，军中亦无盛饌款之，故未将冥寿之期告之也。余不一一。

## 十二月初一日 书于南康舟中

澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟左右：

安五、蒋一亲，接到父亲大人手谕及各书函，欣悉温弟生子之喜。至慰至慰。我祖母生平无一缺憾之事，惟叔父一房后嗣未盛，九泉尚未满意。今叔父得抱长孙，我祖父母必含笑于地下，此实一门之庆。而叔父近年于吉公祠造屋办祭极勤极敬，今年又新造两头横屋，刚值落成之际，得此大喜，又足见我元吉太高祖庇佑后嗣，呼吸可通，洋洋如在也。

安五等途次遇贼，迂折数日始归正道。彭雪琴亦于袁州遇警，抛弃行李，与安五等同步行数百里，千辛万苦，现尚未到大营。

江省于十一月初十日临江失守，十一日瑞州失守。两府同陷，人心惶恐，不得已调九江周凤山全军前往剿办，暂解浔城之围。吾率水军及湖口、青山两处陆军尚驻南康，安稳如常。

吾今年本拟付银百两回家，以三十两奉父亲大人甘旨之需，以二十两为叔父大人含饴之需，以五十两供往年资送亲族之旧例。此时瑞、临有贼，道途阻梗，不能令长夫带银还家，昨接冯树堂信，言渠将宝庆捐功牌之银送二百两与子植，为进京之川资，不审已收到否？如已收到，即请子植先代出百金，明年来大营如数给还，或有所增加亦未可知。如未收到，即请澄侯代为挪借百金，即付还归款也。资送亲族之项，比往年略有增改，兹另开一单，斟酌之。

## 咸丰六年丙辰岁

正月十八日 自江西南康水营发

澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟左右：

去年腊月初二遭胡二、佑七送家信，中途遇贼，抢去银两等件，仍回南康大营。嗣后未专人回家，想父亲、叔父及家中老幼悬望之至，以瑞、临尚未克复，长夫视为畏途，故迟迟也。

自周凤山至江西省城，人心为之安定。十二月初四日，大战樟树镇，杀贼千余，军威颇振。其时即应留贼之浮桥，昼夜修造，次日渡河攻剿，临江必可得手。周凤山不敢渡河而移剿上游六十里之新淦，失此机会。于是省城各大吏，有请其移兵救援吉安、以解重围者，有欲其上剿峡江者，有求其留守新淦者，迁延商榷，遂逾二旬。周凤山以水师孤扎樟镇，恐致疏虞，派辰男、常男八百人至樟树护卫水师。正月初二，贼匪渡河来扑。辰、常二男人少败挫，伤亡二百余人。幸初三日大战获胜，军威复振。盖贼匪于初二日得胜后，即上窜新淦，扑周凤山之营。而周凤山于初二日闻败后，亦速回樟树，为辰、常二男之援，中途遇于瓦山。大战，杀贼千余，夺马七十余匹，军械铜帐无算。初七日，彭雪琴水师又获胜仗，拆贼浮桥，夺贼新舟。水陆两军目下仍紧扼樟镇，江西省城可保无虞。

至南康、青山、湖口水陆各营，自腊月初三青山战胜后，未经开仗。李次青带平江勇驻湖口，训练不懈，日有起色。惟望罗山在湖北克复武汉，周、彭在樟镇克复临、瑞，大局方有转机耳。

余身体如常，痼疾十愈六七。高云亭于去年十月初二三来营诊视痼疾，但云可治，并未开方。去后寄二方来，云须服一百帖。今已服六十帖，大有效验，不知果可断根否？兹将二方抄回一览。此间并湖北军情有寄罗山观察一函，亦抄回一览。兹专人由义宁、平江、长沙回来，不知可无梗阻否？年终奉圣恩赐福字一方、大小荷包三对、食物各件，于正月十六日接到。兹将军机处原咨抄回，其附件暂不敢寄，俟道途肃清，再行专送。去腊初旬之函，兹一并附呈。余不一一，即问近好。

## 二月初八日 书于南康

澄侯、温甫、子植、季洪四位老弟左右：

正月十九日发去家信，交王发六、刘照一送回，又派戈什哈萧玉振同送，想日内可到。正月三十日、二月一日连接澄侯在长沙所发四信，具悉一切。唐四、景三等正月所送之信，至今尚未到营。

江西军事，日败坏而不可收拾。周凤山腊月四日攻克樟树，不能乘势进取临江，失此机会。后在新淦迁延十余日，正月五日复回樟镇。因浮桥难成，未遽渡剿临江，而吉安府城已于二十五日失守矣。周臬司、陈太守等坚守六十余日，而外援不至。城破之日，杀戮甚惨。伪翼王石达开，自临江至吉安督战。既破吉郡，自回临江，而遣他贼分攻赣州，以逼粤东之路。如使赣郡有失，则江西之西南五府尽为贼有。北路之九、南、饶本系屡经残破之区，九江早为贼据，仅存东路数府耳。

罗山观察久攻武昌，亦不得手。现经飞函调其回江救援，但道途多梗，不知文报可达否。刘印渠一军，闻湘省将筹两月口粮，计二月初启行，不知袁州等处果能得手否？

余在南康，身体平安，痼疾已好十之七。青山陆军，正月十八日攻九江城一次，杀贼百余人。水师于二十九日打败仗一次，失去战舟六号。湖口陆军于初一日打胜仗一次，杀贼七八十人。省城官绅请余晋省，就近调度。余以南康水陆不放心，尚未定也。

纪泽儿定三月二十一日成婚。七日即回湘乡，尚不为久。诸事总须节省，新妇入门之日，请客亦不宜多。何者宜丰，何者宜俭，总求父大人定酌之。

纪泽儿授室太早，经书尚未读毕。上溯江太夫人来嫔之年，吾父亦系十八岁，然常就外傅读书，未久耽擱。纪泽上绳祖武，亦宜速就外傅，慎无虚度光阴。闻贺夫人博通经史，深明礼法。纪泽至岳家，须缄默寡言，循循规矩。其应行仪节，宜详问谳习，无临时忙乱，为岳母所鄙笑。少庚处，以兄礼事之。此外若见各家同辈，宜格外谦谨，如见尊长之礼。

新妇始至吾家，教以勤俭，纺织以事缝纫，下厨以议酒食。此二者，妇职之最要者也。孝敬以奉长上，温和以待同辈。此二者，妇道之最要者也。但须教之以渐。渠系富贵子女，未习劳苦，由渐而习，则日变月化，而迁善不知；若改之太骤，则难期有恒。凡此祈诸弟一一告之。

江西各属告警，西路糜烂。子值若北上，宜走樊城，不宜走浙江，或暂不北上亦可。优贡例在礼部考试，随时皆可补考，余昔在礼部阅卷数次，熟知之也。

## 四月初八日

温六老板左右：

三月二十八日，有小伙计自鄂来江，乃初九日起程者。接润之老板信三条，知雄九老板噩耗。吾邑伟人，吾店首功，何堪闻此！迪安老板新开上湘宝行，不知各伙计肯听话否？若其东来，一则恐无盘缠，二则恐润老板太单薄。小店生意萧条。次青伙计在抚州买卖较旺，梧冈伙计亦在彼帮助，邓老八、林秀三亦在彼合伙也。雪琴河里生意尚好，浙闽均有些伙计要来，尚未入境。黄虎臣老板昨往瑞州去做生意，欲与印渠老行通气，不知可得手否。

余身体平安，痼疾痊愈。在省城与秋山宝店相得，特本钱太少，伙计又不得力，恐将来火食为难耳。余不一一。澄四老板三月十九发一信来，已收到矣。

开益号手具

润公老板、迪安老板、义渠宝号、吴竹宝店均此。

来伙计二人，照给白货。初七日到小店，初九日行。

## 七月二十七日

澄侯、沅浦、季洪三位老弟左右：

七月十六夜，温甫弟自瑞州坐战船至省。兄弟相会，得悉阖家老幼平安。十九日韩升至，接澄弟书，备悉一切，欣慰无似。

此间军事，李次青在抚州大小三十余战，小挫二三次，余俱获胜。虽未克复府城，而东路十余州县赖以保全。饶州经毕金科于六月二十二日大战攻克，月内尚属安谧。彭雪琴吴城水师平安，贼舟亦未上犯。瑞州自温甫与吴、普、刘诸军到后，江西省城又发兵四千人前往迎接，十五日已相会合。十七日贼来扑营，省兵几不能支，幸楚军救援，转败为胜。二十三日吴竹庄率彪勇千人并省兵八百人回剿新昌县，瑞州贼势浩大，守备完密，尚难遽破也。

温弟之病系伤暑热，在营误服大黄太多，几至阳陷于阴。现服补阳之剂，日就痊可，二日内能食能眠。若再服补药数帖，即可复元矣。

## 曾国藩家书

余身体平安，癰疾自腿以上皆未发。江西年谷丰稔，足以告慰。顺候近好。

### 八月十八日

澄侯、沅浦、季洪老弟足下：

七月之季遣刘一、安五回家寄呈家书，想已得达。温弟之病，日见痊愈。因盛暑行军，过于劳苦，又误服大黄太多，故到省后，以温补而始奏效。再调养半月，即可复元，仍回瑞州也。

瑞郡官军屡获大胜，军威日振，贼势日蹙。惟闻伪翼王石达开新自鄂中东下，为李迪庵所败，或当来援瑞州，不免大战数场。果能擒此巨寇献俘北阙，则江西省全局立转破竹之势，易于着手耳。

七月下旬有永丰败匪勾结江闽交界之边钱会匪，连陷南丰、新城、泸溪、贵溪、弋阳等县、河口一镇，广信府城十分危急。幸浙江防兵之在玉山者逾境来援，信郡尚保无恙。一波特起，全省震荡。现抽拨次青抚州军中四千人往剿河口，未审能迅速扑灭否。闽兵尚在建昌，兵多贼少，克复久稽。粤兵在赣得保要郡，差强人意。毕金科在饶州，彭雪琴在吴城，均尚平安。

前三月间，澄弟在长沙兑李仲云家银二百两，刻下营中实无银可拨，只得仍在家中筹还。前年所买衡阳王家洲之田可仍卖出，以田价偿李家之债可也。余身体平安，癰疾略发，尚不甚为害。

### 九月初十日 瑞州营次

澄侯、沅浦、季洪三弟左右：

九月初二日刘一来江西，奉父亲大人、叔父大人手谕，敬悉家中平安。而澄弟在永丰，沅弟在省，季弟居稍远，均无安信，纪泽儿亦未写信，殊不可解。自瑞、临道梗，不通音问者已八阅月。此次刘一等回家，纪泽应惊喜异常，写详禀以告家中之琐事，以安余之心，即今年新婚一节，亦应将喜事之首尾、新妇之贤否缕晰禀告，何竟元一字上陈耶？嗣后每次长夫来营，纪泽必写详禀一封，细述家中及亲邻之琐事，并陈己身及诸弟之学业，每次以一千字为率，即以此当问视之子职可也。温甫病已全愈，眠食均皆复旧，惟脚力略软，是以尚留省城再为调养。

余于初三日自省起程，初五日至瑞州。见刘峙衡营务整肃，治全军

如治一家，每日皆饭毕始近黎明，深堪佩服。昔承尧宝勇营亦队伍整齐。吴竹庄彪勇现已分出进省，另剿东路广信之贼。省兵五营在瑞者，亦尚有规矩。余驻瑞数日，即行回省，令温弟来瑞也。

沅弟在长沙招勇，不知系代南坡兄办就后即交他人管带？抑系亲自统辖与周凤山并为一军乎？抑各树一帜乎？此间有凤新虎三营千七百人，周凤山之旧部也，益以渠在长沙所招之千五百人、王吉昌投效之八百人，已足自成一军，皆永州道、新宁、江西属之人，即不收王吉昌之勇，亦尚有伍化蛟等营可以合并，沅弟所招之湘勇似不必与周合。如来瑞州，则与峙衡合可也，与宝勇合亦可也，如来吉安，则须另觅一军合之。沅弟与黄南兄、夏憩兄熟商后，望专人飞速寄信来江。余俟续布。

## 九月初十日

澄侯四弟左右：

顷接来缄，又得所寄吉安一缄，具悉一切。朱太守来我县，王、刘、蒋、唐往陪，而弟不往，宜其见怪。嗣后弟于县城省城均不宜多去。处兹大乱未平之际，惟当藏身匿迹，不可稍露圭角于外。至要至要。

吾年来饱阅世态，实畏宦途风波之险，常思及早抽身，以免咎戾。家中一切，有关系衙门者，以不与闻为妙。

## 九月十七日

沅浦九弟足下：

十七日李观察处递到家信，系沅浦弟在省城所发者。黄南兄劝捐募勇规复吉安，此豪杰之举也。南路又出此一枝劲兵，则贼势万不能支。

金田老贼癸、甲两年北犯者既已只轮不返，而曾天养、罗大纲之流亦频遭诛殛，现存悍贼惟石达开、韦俊、陈玉成数人，奔命于各处，实有日就衰落之势。所患江西民风柔弱，见各属并陷，遂靡然以为天倾地坼，不复作反正之想。不待其迫胁以从，而甘心蓄发助战，希图充当军师旅帅，以讹索其乡人，掳掠郡县村镇，以各肥其私囊。是以每战动盈数万人，我军为之震骇。若果能数道出师，禽斩以千万计，始则江西从逆之民有悔心，继则广东新附之贼生疑贰，而江西之局势必转，粤贼之衰象亦愈见矣。南兄能于吉安一路出师，合瑞、袁已列为三路，是此间官绅士民所祷祀以求者也，即日当先行具奏。

沅弟能随南翁以出，料理戎事，亦足增长识力。南翁能以赤手空拳干大事而不甚著声色，弟当留心仿而效之。

夏慰兄前亦欲办援江之师，不知可与南兄同办一路否？渠系警饷巨室，民望所归，又奉特旨援江，自不能不速图集事。惟与南兄共办一枝，则众擎易举；若另筹一路，则独力难成。沅弟若见慰翁，或先将鄙意道及，余续有信奉达也。

周凤山现在省城，余飞札调之来江。盖欲令渠统一军，峙衡统一军，一扎老营，一作游兵，不知渠已接札否？望沅弟催之速来。其现在袁州之伍化蛟、黄三清本系渠部曲，可令渠带来也。

### 十月初二日 江西省城寄

沅浦九弟左右：

二十七日，胡二等来营，接手书，具悉一切。

兄十七日在瑞州发去之函，牒列弟与周梧冈来瑞赴吉之利害，不敢专辄，请左季兄、夏慰兄、黄南兄为我断决。而弟之行止，则断以与温并军而毫无疑义。此际想早收到。

十九日兄自瑞返省，闻次青十七日之失。缘次青初二日分兵攻剿近县，初四日克复宜黄，初九日克复崇仁，又分数百人出防许湾，前后共拔出四千有余，老营单薄，遂致疏失。此时广信须派重兵防守，丰城、进贤等县亦宜屯驻一旅，以为近省藩篱。此间兵勇不敷分布，意欲调周梧冈一军，与弟办夏、黄之师，同来章门。又以饷需无出，不敢多招食客，以重主人之愆。是以梧冈一军或赴吉安，或赴袁州，仍听骆中丞之调度。其弟岐山自抚州败后，亦饬其带凤字营暂回湖南，归并梧冈大队。

惟弟所部之千五百人者，兄意决望其仍来瑞州，与温并营。盖峙衡治军整肃，实超辈流。弟若与之同处一二月，观摩砥厉，弟与温合之二千人决可塑成劲旅。而慰兄与南兄与我投契夙深，又为此间官绅之所属望，一至章门，则嘘枯振萎，气象一新，使我眉间忽忽有生气。望弟商之季兄、慰兄、南兄，即率此千五百人速来瑞州。兄得与慰、南两君熟商一切，大局或有转机。温弟亦得更番归省，公私实为两利。如众议必欲为吉安之行，亦望先来瑞州小驻半月，然后自袁入吉，亦不过少迟月余。此间诸务有不能不面谈者，而弟与慰、南二公新军势亦有不能与梧合，仅可与温、峙、湘、宝合者。此中气机，弟与季翁自必熟知之也。

兹专人送长沙信，另有信送新堤胡莲舫处。



## 十月初二日

字谕纪泽儿：

胡二等来，接尔安禀，字画尚未长进。尔今年十八岁，齿已渐长，而学业未见其益。陈岱云姻伯之子号杏生者，今年入学，学院批其诗冠通场。渠系戊戌二月所生，比尔仅长一岁，以其无父无母家渐清贫，遂尔勤苦好学，少年成名。尔幸托祖父余荫，衣食丰适，宽然无虑，遂尔酣蒙佚乐，不复以读书立身为事。古人云“劳则善心生，佚则淫心生”，孟子云“生于忧患，死于安乐”，吾虑尔之过于佚也。新妇初来，宜教之人厨作羹，勤于纺织，不宜因其为富贵子女不事操作。大、二、三诸女已能做大鞋否？三姑一嫂，每年做鞋一双寄余，各表孝敬之忱，各争针黹之工；所织之布，做成衣袜等件寄来，余亦得察闾门以内之勤惰也。余在军中不废学问，读书写字未甚间断，惜年老眼蒙，无甚长进。尔今未弱冠，一刻千金，切不可浪掷光阴。四弟所买衡阳之田，可觅人售出，以银寄背，为归还李家款。父母存，不有私财，士庶人且然，况余身为卿大夫乎？

余痼疾复发，不似去秋之甚。李次青十七日在抚州败挫，已详寄沅浦函中。现在崇仁加意整顿，三十日获一胜仗。口粮缺乏，时有决裂之虞，深用焦灼。

尔每次安禀详陈一切，不可草率，祖父大人之起居，闾家之琐事，学堂之工课，均须详载。切切此谕。

## 十月初三日

澄侯四弟左右：

胡二等来，知弟不在家，出看本县团练。吾兄弟五人，温、沅皆出外带勇，季居三十里外，弟又常常他出，遂无一人侍奉父亲膝下，温亦不克遽归侍奉叔父，实于《论语》“远游”、“喜惧”二章之训相违。余现今九弟远来瑞州与温并军，庶二人可以更番归省。澄弟宜时常在家以尽温清之职，不宜干预外事。至嘱至嘱。

李次青自抚州退保崇仁，尚属安静。惟败勇之自抚回省者，日内在中丞署中闹请口粮，与三年又一村之局相似，实为可虑。

明年延师，父大人意欲请曾香海，甚好甚好。此君品学兼优，吾所素佩，弟可专人作书聘请。稍迟旬日，吾再手缄请之。其馆金丰俭，则

父大人酌定，吾自营寄归可也。

## 十月初六日

沅浦九弟左右：

十月十五日接来缄并季公、筠公信，具悉一切。

攻吉攻瑞，二者俱无把握。瑞则纵筑长围，环攻数月，仍不能下，亦属意中之事；吉则初锐后顿，仍蹈袁、瑞之辙。守吉安者为周亚春，绰号豆皮春，贼中颇有名迹。必谓我师能一至而举之，余则未敢深信。惟此军初起，劝捐皆以援吉为名，湘省官绅皆以援吉为念，势之所在，余何能违众而独成其说？纵余欲违众，弟与梧冈之三千人者，岂敢违上而自定所向，无口粮而直赴瑞州乎？弟可从憩、南两兄，一听骆中丞、左季兄之命，救东则东，救西则西。其周梧冈一军，刻有禀来，余亦批其听候南抚院调度。周岐山败挫之营，余亦飭其回湘，归并梧冈一军，同赴吉安，以符湘省官绅之初议，而开江西上游之生面。至沅弟之所处，则当自为审度。辱南翁青睐，代为整理营务，送至吉安，无论战之胜败，城之克否，即可敬谢速行。或来章门与余相见，或归里门侍奉老亲，无为仆仆久淹于外也。此事登场甚易，收身甚难，锋镝至危，家庭至乐，何必与兵事为嫌？

李次青上年发愤带勇，历尽千辛万苦，日昨抚州一败，身辱名裂，不特官绅颇有烦言，即其本邑平江之勇亦怨誓交加。兵犹火也，易于见过，难于见功。弟之才能不逮次青，而所处之位，尚不如次青得行其志，若顿兵吉安城下，久不自决，以小战小胜为功，以劝捐办团为能，内乖背令之义，外成骑虎之势，私情公道，两无所取。弟之自计不可不审，与憩兄、南兄约不可不明也。

日内平江等勇，因口粮久缺，搗闹衙署，兄情绪紊乱，不克详陈。季翁、筠公两处，并不克作答，弟可婉告颠末，或即将此信一呈，亦足以稍见余之郁郁。余俟续布，不尽不尽。

## 十月初九日

沅浦九弟左右：

初六日复去一缄，言弟与夏、黄、周军并赴吉安，刻计尚未达也。

初八日接来书，因次青抚州之挫，请援周军先至瑞州。中丞、季兄慨然允许，周协当以初二日成行。斯诚不失救焚拯溺迫切之忧。第余初

六日业许援吉之行，初七日令周岐山还湘归并凤营，亦以赴吉告之。不得因弟一信，駉公一咨而遽变成说也。且夏、黄可为我分忧而筹饷，温、沅可与峙观摩而奋兴；弟与夏、黄不来，而周军独来，难合瑞城之围，徒增筹饷之虑，殊非余本意也。兹以书达季高，悉遵渠之初指，送各批与梧冈，令其同赴吉安。如梧已行到浏、万，可寄书令其折回醴陵小驻，以待弟至而同行也。

周岐山自抚州败后回湘，军无锅帐，弟可商之季翁筹给之。到吉后，约以半月为率，即速掣出，作游兵驰剿各处，不可久顿城下。若事机顺手，兄弟年内相见则幸耳。

## 十月十三日

沅浦九弟左右：

初十日复缄并周梧冈批禀，谅得速达。十二日接初三来缄，借悉近状。

黄、夏与周同赴吉安，既尽于昨书所云。十一日附片奏请此军颁发执照二千张，俾黄、夏劝捐稍得应手，兹趁来卒带往。

至札飭裕时兄接收捐款专济此军一节，黄、夏若果来瑞州，非中丞与季公初意，亦即非司道、时、石诸公金同之议，强人以曲从吾说，不得不设法将捐项罗归此军。今既全数赴吉，则季公当能主持其事，捐款自为此军支用，不必更由余处下札，又多一重斧凿痕也。至入吉以后，或速行掣动，或久顿城下，亦难预决。惟沅浦则以半月为率，急来瑞州，俾温甫得以更替归省。此则家庭要事，弟当与南翁、慰翁坚确订约者耳。

## 十一月初五日

字谕纪泽儿：

接尔安禀，字画略长进，近日看《汉书》。余生平好读《史记》、《汉书》、《庄子》、《韩文》四书，尔能看《汉书》，是余所欣慰之一端也。

看《汉书》有两种难处，必先通于小学、训诂之书，而后能识其假借奇字；必先习于古文辞章之学，而后能读其奇篇奥句。尔于小学、古文两者皆未曾入门，则《汉书》中不能识之字、不能解之句多矣。欲通小学，须略看段氏《说文》、《经籍纂诂》二书。王怀祖名念孙，高邮州

人。先生有《读书杂志》，中于《汉书》之训诂极为精博，为魏晋以来释《汉书》者所不能及。欲明古文，须略看《文选》及姚姬传之《古文辞类纂》二书。班孟坚最好文章，故于贾谊、董仲舒、司马相如、东方朔、司马迁、扬雄、刘向、匡衡、谷永诸传皆全录其著作；即不以文章名家者，如贾山、邹阳等四人传、严助朱买臣等九人传、赵充国屯田之奏、韦元成议礼之疏以及贡禹之章、陈汤之奏狱，皆以好文之故，悉载巨篇。如贾生之文，既著于本传，复载于《陈涉传》、《食货志》等篇；子云之文，既著于本传，复载于《匈奴传》、《王贡传》等篇，极之《充国赞》、《酒箴》，亦皆录入各传。盖孟坚于典雅瑰玮之文，无一字不甄采。尔将十二帝纪阅毕后，且先读列传。凡文之为昭明暨姚氏所选者，则细心读之；即不为二家所选，则另行标识之。若小学、古文二端略得途径，其于读《汉书》之道思过半矣。

世家子弟最易犯一奢字、傲字。不必锦衣玉食而后谓之奢也，但使皮袍呢褂俯拍即是，舆马仆从习惯为常，此即日趋于奢矣。见乡人则嗤其朴陋，见雇工则颐指气使，此即日习于傲矣。《书》称“世禄之家，鲜克由礼”，传称“骄奢淫佚，宠禄过也”。京师子弟之坏，未有不由于骄、奢二字者，尔与诸弟其戒之。至嘱至嘱。

## 十一月初七日

沅浦九弟左右：

初六日俊四等至，接二十八夜来缄，具悉二十五日业经拔营，军容整肃，至以为慰。

吉安殷富，甲于江西，又得诸绅倾城输助，军饷自可充裕。周梧冈一军同行，如有银钱，宜分多润寡，无令己肥而人独瘠。梧冈暗于大局，不能受风浪，若扎营放哨、巡更发探、打杖分枝，究系宿将，不可多得。主事匡汝谐在吉安招勇起团，冀图袭击郡城，闻湖南援吉之师将别出一枝，起而相应。若与弟军会合，宜善待之。

袁州既克，刘、萧等军当可进攻临江，六弟与普、刘在瑞声威亦可日振。弟与夏、黄诸兄到吉安时，或宜速行抽动，或宜久顿不移，亦当相机办理。若周军与桂、茶诸军足以自立，弟率湘人雕剿来江，兄弟年内相见，则余之所欣慰者也。军事变幻无常，每当危疑震撼之际，愈当澄心定虑，不可发之太骤。至要至嘱。

## 十一月初七日

澄侯四弟左右：

初六日俊四等来营，奉到父大人谕帖并各信件，得悉一切。

弟在各省看团阅操，日内计已归家。家中无人，田园荒芜，堂上定省多阙，弟以后总不宜常常出门。至嘱至嘱。罗家婚事，暂可缓议。近世人家，一人宦途即习于骄奢，吾深以为戒。三女许字，意欲择一俭朴耕读之家，不必定富室名门也。杨子春之弟四人捐官者，吾于二月二十一日具奏，闻部中已议准，部照概交南抚。子春曾有函寄雪芹，似已领到执照者，请查明再行布闻。

长夫在大营，不善抬轿，余每月出门不过五六次，每出则摇摆战栗、不合脚步。兹仅留刘一、胡二、盛四及新到之俊四、声六在此，余俱遣之归籍。以后即雇江西本地轿夫，家中不必添派人来也。

此间军务，建昌府之闽兵昨又败挫，而袁州克复，大局已转，尽可放心。十月内恤项亦略宽裕矣。

## 十一月十四日

沅浦九弟左右：

昨信寄去实收二百张，想即收到。军行何日抵吉？至以为念。此间有游击马占魁，曾任龙泉营都司，兹回吉安府寻其眷属。其人朴诚可悯，又新有足疾，贫不能自存，弟可优视而扶植之。

吉安膏腴之区，即不遽克复，若扎一老营，除供给本军外，尚可兼解银以润省城。此间众论以为弟军到吉安，宜驻扎不动，不宜遽作抽掣他往之计，恐失民心而涸利源也。望弟熟思而审度之。扎营不可离城太近，宁先远而渐移向近，不可先近而后退向远。至嘱至嘱。如弟果扎驻吉安，余可赴吉犒师一次，与弟会合，且与黄、夏、周一叙也。

## 十一月二十九日

澄侯四弟左右：

二十八日，由瑞州营递到父大人手谕并弟与泽儿等信，具悉一切。

六弟在瑞州，办理一应事宜尚属妥善，识见本好，气质近亦和平。九弟治军严明，名望顿振。吾得两弟为帮手，大局或有转机。次青在贵溪尚平安，惟久缺口粮，又败挫之后，至今尚未克整顿完好。雪琴在吴

城名声尚好，惟水浅不宜舟战，时时可虑。

余身体平安。痢疾虽发，较之往在京师则已大减。幕府乏好帮手，凡奏折、书信、批禀均须亲手为之，以是未免有延擱耳。余性喜读书，每日仍看数十叶，亦不免抛荒军务，然非此更无以自怡也。

纪泽看《汉书》，须以勤敏行之。每日至少亦须看二十叶，不必惑于在精不在多之说。今日半页，明日数页，又明日耽擱间断，或数年而不能毕一部。如煮饭然，歇火则冷，小火则不熟，须用大柴大火乃易成也。甲五经书已读毕否？须速点速读，不必一一求熟。恐因求熟之一字，而终身未能读完经书。吾乡子弟未读完经书者甚多，此后当力戒之。诸外甥如未读完经书，当速补之。至嘱至嘱。

## 十一月二十九日

澄侯四弟左右：

再，余往年在京曾寄银回家，每年或百金或二百金不等。一以奉堂上之甘旨，一以济族戚之穷乏。自行军以来，仅甲寅冬寄百五十金。今年三月，澄弟在省城李家兑用二百金，此际实不能再寄。盖凡带勇之人，皆不免稍肥私囊。余不能禁人之不苟取，但求我身不苟取。以此风示僚属，即以此仰答圣主。今年江西艰困异常，省中官员有穷窘而不能自存者，即抚藩各衙门亦不能寄银贍家，余何敢妄取丝毫！兹寄银三十两，以二十两奉父亲大人甘旨之需，以十两奉叔父大人含饴之佐。此外，家用及亲族常例概不能寄。

澄弟与我湘潭一别之后，已若漠然不复相关，而前年买衡阳之田，今年兑李家之银，余皆不以为然，以后尽可不必代管。千万千万。

## 十二月二十七日

沅浦九弟左右：

二十三日在九江接弟初八日一缄，二十六日在隘口途次又接弟十三日一缄，具悉一切。

改民船为战船，是贼匪向来惯技。自前年水师舢板出，遂远胜贼改之船。弟营若距水次太远，似不必兼习炮船，恐用之不熟，或反资敌也。

十一日击太和援贼，尚为得手。与此贼战有两难御者：一则以多人张虚声，红衣黄旗漫山弥谷，动辄二万三四万不等。季洪岳州之败，梧

冈樟树之挫，皆为人多所震慑也；一则以久战伺暇隙，我进则彼退，我退则彼又进，顽钝诡诈，揉来揉去，若生手遇之，或有破绽可伺，则彼必乘隙而入，次青在抚州请战是也。二者皆难于拒御。所幸多则不悍，悍则不多。盖贼多则中有裹胁之人，彼亦有生手，彼亦有破绽，吾转得乘隙而入矣。

告示及实收，新岁再当续寄。季高信甚明晰，以后得渠信，弟即遵而行之，自鲜疏失。余于十九日抵九江，二十五六日自九江回吴城，二十八九可抵省城。迪庵之陆师更胜于甲寅塔、罗合军之时，厚庵水军亦超出昔年远甚，而皆能不矜不伐，可敬爱也。

袁州往返千余里，吾即不请父大人远出。若江西军事得手，明年或可奏明归觐乎？余不一一。顺贺岁禧。

十二月二十七日

沅浦九弟左右：

再，梧冈于军中小事尚能办理妥叶，遇有大事则无识无胆。设有探报称东路有贼数千，西路来贼数千，南北两路各数万，风声鹤唳，大波特起，则梧冈摇惑无主，必须吾弟作主也。到吉安后，专为自守之计，不为攻城之计，打数大仗后则军心民心大定，此军乃可特立也。

弟若久驻吉安，余于正月初旬即至吉安犒师，并拟请父亲大人来袁州一行。父子相离四年，或得借此一见，则弟军在吉安不遽掣动，亦一好事也。于公则吉安有一枝劲旅，筹饷较易；于私则兄可借此以谒父亲。不知弟意以为然否？如以为然，则请在彼深沟高垒，为坚不可拔之计。先为不可胜，然后伺间抵隙，以待敌之可胜。无好小利，无求速效。至要至囑。

咸丰七年丁巳岁

正月十五日

沅浦九弟左右：

元旦接去腊二十五日来函，初九又接除夕一函，均已阅悉。

待贼远出，庶可邀截一节，痛加剿洗，及但求固守营垒，以俟各军

之至等语，均系吾弟近日阅历有得之言，吾亦于禀中批示矣。水师办成，先烧江中贼船，自是绝接济之一法。第恐哨勇未能老练，或以利器资敌，慎之慎之！钱漕一禀，批语宜干净斩截。此事究应由地方官以全力主持，乃为切实。不然，恐吾批愈结实，而人愈疑贰。此等处颇费斟酌，望吾南公立志径行，不恤其他。

余拟日内赴瑞州军营。吉安之行，必须在瑞后乃能定议。

## 正月十八日

澄侯四弟左右：

十五日安七等来，接父亲大人手谕及弟与纪泽儿各信，具悉一切。弟之子配王梅谷之女，龙神订庚，祝贺。尧阶、芝生、荫亭、梅谷，凡为吾家之先生者，即为吾弟之亲家。古人言亲师取友，吾弟可谓善于亲师矣。

余去年有一信，言第三女许罗山之次子，敬请父大人主其事。顷接回信，知家中已有信与罗宅矣。惟余去冬至九江晤李迪庵，知罗山生前曾与订婚，以李女配罗子，业已当面说定，虽未过庚书，而迪庵此时断不肯食言。余闻迪庵之言，比即详述一切，因订定罗子决配李女，而余为之媒。余之第三女即另行择婿，望弟详禀父大人，可将此事中辍。纵已过女庚，亦可取还。缘罗子系恩赐举人，恐人疑为佳婿而争之也。至要至要。

余于腊月二十八日自九江回省。正月十二日接到内赏福字荷包及食物等件。十七日自省城起行，十八日至奉新县。因吴竹庄于正月初五日克复此城，特来犒师也。二十日可至瑞州会晤六弟。兹专人送福字、荷包、食物至家，祈查收，敬谨尊藏。又寄回《日知录》一册二十四本，与儿子纪泽阅看。纪泽前有信言家中无段氏《说文》。余记家有《皇清经解》，其中即有段《说文》一种，尽可取阅。又有《经传释辞》一种，亦小学之要也。纪泽若至省城，不宜久住。过石潭时，不宜至罗家去。余不一一。

## 正月二十二日

沅浦九弟左右：

十八日乌山途次接弟十一日所发一缄，具悉一切。

兄于十七日卯刻出省，十八日至奉新，绅耆款留二日。二十一日率吴竹庄之彪营等四千人同来瑞州，拟于东北隅扎一大营，则四面合围，



接济可断，声息不通，或易得手。

近日省中因探报抚州之贼意围内犯，人心颇涉惊惶。而饶州毕都司一军，因毕将初二日在景德镇败挫，不知下落，其老营纷纷溃散，饶防自贻，岌岌可虞。

福将军于腊月三十日至广信，十三日坐舟赴省，月内应可抵章门。

围城之法，扎营不宜太近。一则开仗之势太蹙，一则军事尚隐尚诡，不宜使敌人丝毫毕知也。

余所刻实收，日内另专人送南翁处。南翁事，以后省垣不至掣肘也。

## 正月二十六日

沅浦九弟左右：

二十四日专人至，接来件，知接战获胜。水师虽未甚如意，然已夺船数号，亦尚可用。水师自近日以来法制大备，然其要全在得人。若不得好哨好勇，往往以利器资寇。弟处以全副精神注陆路，以后不必兼筹水师可也。

用绅士不比用官，彼本无任事之责，又有避嫌之念，谁肯挺身出力以急公者？贵在奖之以好言、优之以廪给，见一善者则痛誉之，见一不善者则浑藏而不露一字。久久善者劝，而不善者亦潜移而默转矣。吾弟初出办事，而遂扬绅士之短，且以周梧冈之阅历精明为可佩，是大失用绅士之道也，戒之慎之。

余近发目疾，不能作字，率布数行，惟心照。

## 二月初三日

沅浦九弟左右：

初一日接二十六夜一缄，借悉二十五日梧军小挫，二十六日各军大胜，至以为慰。计二十七八至初旬，援贼、城贼尚有数次大战。数大战后，我军营盘始稳，根基初固。从此以后方可期贼势之渐就衰落，方可断接济文报，而冀就克复也。

瑞州日内开挖长壕，南城峙衡二十五日兴工，北城诸营二十七日兴工，竹庄在东北尚未兴工。余日内赴省一会福将军，耽擱一日，即仍回瑞。此间初合长围，暂不克抽调数营往吉也。

玉班兄处，即日当有信奉谢，弟先为我致意。不一一。

## 九月二十二日

沅浦九弟左右：

十二日申刻代一自县归，接弟手书，具审一切。

十三日未刻文辅卿来家，病势甚重，自缠腰带一医生倩行，似是瘟疫之症。两耳已聋，昏迷不醒，间作谵语，皆惦记营中。余将弟已赴营、省城可筹半饷等事告之四五次，渠已醒悟，且有喜色。因嘱其静心养病，不必挂念营务，余代为函告南省、江省等语，渠亦即放心。十四日由我家雇夫送之还家矣。若调理得宜，半月当可痊愈，复元则尚不易易。

陈伯符十二来我家，渠因负咎在身，不敢出外酬应，欲来乡为避地计。黄子春官声极好，听讼勤明，人皆畏之。

弟到省之期，计在十二日。余日内甚望弟信，不知金八、佑九何以无一人归来？岂因情事未定，不遽遣使归与？弟性褊激似余，恐拂郁或生肝疾，幸息心忍耐为要。兹乘便寄一缄托黄宅转递，弟接到后，望专人送信一次，以慰悬念。

家中大小平安。请小儿读书，余自能一一检点，弟不必挂心。

## 十月初四日

沅浦九弟左右：

二十二夜灯后佑九、金八归，接弟十五夜所发之信，知十六日已赴吉安。屈指计弟二十四日的可抵营，二十五六当专人归来，今日尚未到家，望眼又复悬念。

吉字中营尚易整顿否？古之成大事者，规模远大与综理密微二者缺一不可。弟之综理密微精力较胜于我。军中器械其略精者，宜另立一簿，亲自记注，择人而授之。古人以铠仗鲜明为威敌之要务，恒以取胜。刘峙衡于火器亦勤于修整，刀矛则全不讲究。余曾派褚景昌赴河南采买白蜡杆子，又办腰刀分赏各将弁，人颇爱重。弟试留心此事，亦综理之一端也。至规模宜大，弟亦讲求及之。但讲阔大者，最易混入散漫一路。遇事顾硕，毫无条理，虽大亦奚足贵？等差不素，行之可久。斯则器局宏大，无有流弊者耳！顷胡润芝中丞来书，赞弟有曰“才大器大”四字。余甚爱之。才根于器，良为知言。

湖口贼舟于九月八日焚夺净尽，湖口梅家洲皆于初九日攻克。三年

积愤，一朝雪耻，雪琴从此重游浩荡之宇。惟次青尚在坎窞之中，弟便中可与通音问也。润翁信来，仍欲奏请余出东征。余顷复信，具陈其不宜。不知可止住否？彭中堂复信一缄，由弟处寄至文方伯署，请其转递至京。或弟有书呈藩署，未添一笔亦可。李迪庵近有请假回籍省亲之意，但未接渠手信。渠之带勇，实有不可及处。弟宜常与通信，殷殷请益。

弟在昔须保养身体。肝郁最易伤人，余生平受累以此，宜和易以调之也。

## 十月初十日

沅浦九弟左右：

十月初七日接第二十八日所发家信，具悉一切。所得饷银计可发两月口食，细问得二、金三等，言阖营弁勇夫役皆欢声雷动。似此气象尚好，或者此出事机顺手，余与合家大小均为欣慰。

家中内外平安。胡中丞信来，已于九月二十六日专折奏请余赴九江总统杨、彭、二李之师。余重九所发之折，至今未奉朱批。

弟此刻到营，宜专意整顿营务，毋求近功速效。弟信中以各郡往事推度，尚有欲速之念。此时自治毫无把握，遽求成效，则气浮而乏，内心不可不察。进兵须由自己作主，不可因他人之言而受其牵制。非特进兵为然，即寻常出队开仗亦不可受人牵制。应战时，虽他营不愿而我营亦必接战；不应战时，虽他营催促，我亦且持重不进。若彼此皆牵率出队，视用兵为应酬之文，则不复能出奇制胜矣。五年吴城水师，六年抚州、瑞州陆军，皆有牵率出队之弊，无一人肯坚持定见，余屡诫而不改。弟识解高出辈流，当知此事之关系最重也。

宝勇本属劲旅，普副将所统太多，于大事恐无主张，宜细察之。黄南坡太守有功于湖南，有功于水师，今被劾之后继以疾病，弟宜维持保护，不可遽以饷事烦之。逸斋知人之明特具只眼，豪侠之骨，莹澈之识，于弟必相契合。但军事以得之阅历者为贵，如其能来，亦不宜遽主战事。各处写信自不可少，辞气须不亢不卑，平穩惬意。余生平以懒于写信开罪于人，故愿弟稍变途辙。在长沙时，官场中待弟之意态，士绅中夺情之议论，下次信回，望略书一二，以备乡校之采。

吉安在宋明两朝名贤接踵，如欧阳永叔、文信国、罗一峰、整庵诸公。若有乡绅以遗集见赠者，或近处可以购觅，望付数封寄家。余俟续布。

## 十月十五日

沅浦九弟左右：

前信言率军出队之弊，关系至重。凡与贼相持日久，最戒浪战。兵勇以浪战而玩，玩则疲；贼匪以浪战而猾，猾则巧。以我之疲敌贼之巧，终不免有受害之一日。故余昔在营中诫诸将曰：“宁可数月不开一仗，不可开仗而毫无安排算计。”此刻吉安营头太多，余故再三淳嘱。

重九所发之折，十二日奉到朱批，兹抄付一阅。圣意虽许暂守礼庐，而仍不免有后命。进退之际，权衡实难也。

## 十月十六日

沅浦九弟左右：

在吉安扎营，不宜离城太近。盖地太逼，则贼匪偷营难于防范，奸细混入难于查察。节太短，则我军出队难于取势，各营同战难于分段。一经扎近之后，再行退远，则少馁士气，不如先远之为愈也。

率军出队之弊，所以难于变革者，盖此营出队之时未经知会彼营，一遇贼匪接仗，或小有差挫，即用令箭飞请彼营前来接应。来则感其相援，不来则怨其不救。甚或并未差挫，并未接仗，亦以令箭报马预请他营速来接应。习惯为常，视为固然，既恐惹人之怨憾，又虑他日之报复，于是不敢不去，不忍不去。夫战阵呼吸之际，其几甚微，若尽听他营之令箭率军出队，一遇大敌，必致误事。弟思力革此弊，必须与各营委曲说明，三令五申。又必多发哨探，细侦贼情，耳目较各营为确，则人渐信，从而前弊可除矣。

## 十月二十七日

沅浦九弟左右：

二十三夜彭一归，接第十五书，具悉一切。

吉安此时兵势颇盛。军营虽以人多为贵，而有时亦以人多为累。凡军气宜聚不宜散，宜忧危不宜悦豫。人多则悦豫，而气渐散矣。营虽多，而可恃者惟在一二营，人虽多而可恃者惟在一二人。如木然，根好株好而后枝叶有所托；如屋然，柱好梁好而后椽瓦有所丽。今吉安各营，以余意揆之，自应以吉中营及老湘胡、朱等营为根株，为柱梁。此外，如长和，如湘后，如三宝，虽素称劲旅，不能不侔之于枝叶椽瓦之

列。遇小敌时，则枝叶之茂、椽瓦之美尽可了事；遇大敌时，全靠根株培得稳、柱梁立得固，断不可徒靠人数之多气势之盛。倘使根株不稳，柱梁不固，则一枝折而众叶随之，一瓦落而众椽随之，败如山崩，溃如河决，人多而反以为累矣。史册所载战事，以人多而受害者不可胜数。近日如抚州万余人卒致败溃，次青本营不足以为根株为梁柱也；瑞州万余人卒收成功，峙衡一营足以为根株为梁柱也。弟对众营立论虽不必过于轩轻，而心中不可无一定之权衡。

来书言弁目太少，此系极要关键。凡将才有四大端：一曰知人善任，二曰善观敌情，三曰临阵胆识，峙有胆，迪厚有胆有识。四曰营务整齐。吾所见诸将于三者略得梗概，至于善观敌情，则绝无其人。古之观敌者，不特知贼首之性情技俩，而并知某贼与某贼不和，某贼与伪主不协。今则不见此等好手矣。贤弟当于此四大端下工夫，而即以此四大端察同僚及麾下之人才。第一、第二端不可求之于弁目散勇中，第三、第四端则未弁中亦未始无材也。

家中大小平安。胡润之中丞奏请余率水师东下，二十七日送寄渝来家。兹抄寄弟营一阅。余俟续布。

## 十一月初五日

沅浦九弟左右：

十一月初二日，春二、甲四归，接二十四夜来书，具悉一切。弟营中事机尚顺，家中大小欣慰。

帅逸斋之叔号小舟者，于初二日来。携有张六琴太守书缄，具告逸斋死事之惨。余具奠金五十两交小舟，为渠赴江西之旅资。又作书寄雪琴，嘱其备战船至广信，迎护逸斋之眷口由浙来江；又备舟至省城，迎护逸斋与其侄之灵柩，于南康会齐，同出湖口。由湖口段窑至黄梅帅宅不过数十里耳。前此仙舟先生墓门被贼掘毁，余曾寄书润之中丞、莲舫员外，筹银三四百两为修葺之资。此次小舟归里，可一并妥为安厝。少有余资，即以贍济逸斋之眷口。然亦极薄，难以自存矣。

东乡败挫之后，李镇军、周副将均退守武阳渡。闻晋中丞毓致长沙，请夏慰亭募勇数千赴江应援，不知确否？自洪杨内乱以来，贼中大纲紊乱。石达开下顾金陵，上顾安庆，未必能再至江西；即使果来赴援，亦不过多裹乌合之卒，悍贼实已无几。我军但稍能立脚，不特吉安力能胜之，即临江萧军亦自可胜之也。

胡蔚之将以初十日回省，家中以后不请书启朋友。韩升告假回家。

余文案尚繁，不可无一人料理，望弟飭王福于腊月初回家。交代后，即令韩升回省度岁。韩于正初赴吉营，计弟处有四十日无人经管文案，即交彭椿年一手料理，决无疏失。韩升与王福二人皆精细勤敏，无所轩轻。凌荫庭于日内赴雪琴处，若弟处再须好手，亦可令凌赴吉也。

## 十一月二十五日

沅浦九弟左右：

二十四日王得一归，接十六日信，具悉一切。以后有信仍以专人送归为妥。只须一人，不必两人，择捷足如曾正七之类更可迅速。

汪先生即邓汪球，号蘧翁。于初七日专人来订今冬上学，因迎其十五入馆。甲三于十八开课，二十三第二课，改文甚细心。甲五眼睛近日已好十分之七八，右目能认寸大字，左目则能读小注。每日静坐二次，以助药力之不及。邓先生向来亦多病，得力于静坐者深也。

弟所寄各件：代普将请饷，代黄太守上禀，均系顾全大局。即使上官未必批准，亦不失缓急相顾之道。请奖一禀，尚欠妥叶。湘后营一军，不知从何处筹饷？即宝营亦自难支持。弟辞总理之任，极是极是。带勇本系难事，弟但当约旨卑思，无好大，无欲速。管辖现有之二千人，宁可减少，不可加多。口粮业得一半，此外有可设法更好，即涓滴难求，亦自不至于脱巾溃散，但宜极力整顿，不必常以欠饷为虑也。

打仗之道，在围城之外，节太短，势太促，无埋伏，无变化，只有队伍整齐，站得坚稳而已。欲灵机应变出奇制胜，必须离城甚远，乃可随时制宜。凡平原旷野开仗与深山穷谷开仗，其道迥别。去古城四十里，凡援贼可来之路，须令哨长、队长轮流前往该处看明地势，小径小溪、一丘一洼细细看明，各令详述于弟之前，或令绘图呈上。万一有出队迎战之时，则各哨队皆已了然于心。古人忧学之不讲，又曰明辨之，余以为训练兵勇，亦须常讲常辨也。家中四宅平安，不必挂念。

## 十二月初六日

沅浦九弟左右：

初四日午刻萧大满、刘得二归，接二十八日来信，借悉一切。吉水击退大股援贼，三曲滩对岸之贼空壁宵遁，看来吉安之事尚易得手。

王大诚所借先大夫钱百千，收租十石者十余年，收六石九斗者又已二十年，实属子过于母。澄弟与余商：“王氏父子太苦，宜焚券而蠲免

之。”初三日请大诚父子祖孙来，涂券发还。

日内作报销。大概规模折一件、片三件，交江西曹公代为附奏。兹由萧大澂等手带至吉安，弟派妥人即日送江西省城，限五日送到。曹、龙、李三处并有信，接复信，专丁送家可也。

左季高待弟极关切，弟即宜以真心相向，不可常怀智术以相迎拒。凡人以伪来，我以诚往，久之则伪者亦共趋于诚矣。

李迪庵新放浙中方伯，此亦军兴以来一仅见之事。渠用兵得一暇字诀。不特其平日从容整理，即其临阵，亦回翔审慎，定静安虑。弟理繁之才胜于迪庵，惟临敌恐不能如其镇静。至于与官场交接，吾兄弟患在略识世态而又怀一肚皮不合时宜，既不能硬，又不能软，所以到处寡合。迪安妙在全不识世态，其腹中虽也怀些不合时宜，却一味浑含，永不发露。我兄弟则时时发露，终非载福之道。雪琴与我兄弟最相似，亦所如寡合也。弟当以我为戒，一味浑厚，绝不发露。将来养得纯熟，身体也健王，子孙也受用，无惯习机械变诈，恐愈久而愈薄耳。

李云麟尚在吉安营否？其上我书，才识实超流辈，亦不免失之高亢。其弊与我略同。长沙官场，弟亦通信否？此等酬应自不可少，当力矫我之失而另立途辙。余生平制行有似萧望之、盖宽饶一流人，常恐终蹈祸机，故教弟辈制行，早蹈中和一路，勿效我之褊激也。黄子春丁外艰，大约年内回省，新任又不知何人。吾邑县运，如王、刘之没，可谓不振；迪庵之简放，可谓极盛。若能得一贤令尹来，则受福多矣。余身体平安。近日心血积亏，略似怔忡之象。上下四宅小大安好，诸儿读书如常，无劳远注。

## 十二月十四日

沅浦九弟左右：

十二日正七、有十归，接弟信，备悉一切。

定湘营既至三曲滩，其营官成章鉴亦武弁中之不可多得者，弟可与之款接。

来书谓意趣不在此，则兴会索然。此却大不可。凡人作一事，便须全副精神注在此一事。首尾不懈，不可见异思迁，做这样想那样，坐这山望那山。人而无恒，终身一无所成。我生平坐犯无恒的弊病，实在受害不小。当翰林时，应留心诗字，则好涉猎它书，以纷其志。读性理书时，则杂以诗文各集，以歧其趋。在六部时，又不甚实力请求公事。在外带兵，又不能竭力专治军事，或读书写字以乱其志意。坐是垂老而百

无一成。即水军一事，亦掘井九仞而不及泉，弟当以为警戒。现在带勇，即埋头尽力以求带勇之法，早夜孳孳，日所思，夜所梦，舍带勇以外则一概不管。不可又想读书，又想中举，又想作州县，纷纷扰扰，千头万绪，将来又蹈我之覆辙，百无一成，悔之晚矣。

带勇之法，以体察人才为第一，整顿营规、讲求战守次之。《得胜歌》中各条，一一皆宜详求。至于口粮一事，不宜过于忧虑，不可时常发禀。弟营既得楚局每月六千，又得江局月二二千，便是极好境遇。李希庵十二来家，言迪庵意欲带弟饷万金。又余有浙盐赢余万五千两在江省，昨盐局专丁前来禀询，余嘱其解交藩库充饷。将来此款或可酌解弟营，但弟不宜指请耳。饷项既不劳心，全副精神讲求前者数事，行有余力则联络各营，款接绅士。身体虽弱，却不宜过于爱惜，精神愈用则愈出，阳气愈提则愈盛。每日作事愈多，则夜间临睡愈快活。若存一爱惜精神的意思，将前将却，奄奄无气，决难成事。凡此皆因弟兴会索然之言而切戒之者也。弟宜以李迪庵为法，不愧不忙，盈科后进，到八九个月，必有一番回甘滋味出来。余生平坐无恒流弊极大，今老矣，不能不教诫吾弟吾子。

邓先生品学极好，甲三八股文有长进，亦山先生亦请邓改文。亦山教书严肃，学生甚为畏惮。吾家戏言戏动积习，明年当与两先生尽改之。

下游镇江、瓜洲同日克复，金陵指日可克。厚庵放闽中提督，已赴金陵会剿，准其专折奏事。九江亦即日可复。大约军事在吉安、抚、建等府结局，贤弟勉之。吾为其始，弟善其终，实有厚望。若稍参以客气，将以败志，则不能为我增气也。营中哨队诸人气尚完固否？下次祈书及。

## 十二月二十一日

沅浦九弟左右：

十九日亮一等归，接展来函，具悉一切。

临江克复，从此吉安当易为力，弟勉勉为之。大约明春可复吉郡，明夏可克抚、建。凡兄所未了之事，弟能为了之，则余之愧憾可稍减矣。

余前在江西，所以郁郁不得意者：第一不能干预民事，有剥民之权，无泽民之位，满腹诚心无处施展；第二不能接见官员，凡省中文武官僚胥接有稽，语言有察；第三不能联络绅士，凡绅士与我营款，则或因而获咎坐是数者，方寸郁郁，无以自伸。然此只坐不应驻扎省垣，



故生出许多烦恼耳。弟今不驻省城，除接见官员一事无庸议外，至爱民、联绅二端皆可实心求之。现在恤项颇充，凡抽厘劝捐，决计停之。兵勇扰民，严行禁之。则吾夙昔爱民之诚心，弟可为我宣达一二。

吾在江西，各绅士为我劝捐八九十万，未能为江西除贼安民。今年丁忧奔丧太快，若忽然弃去，置绅士于不顾者，此余之所悔也。若少迟数日，与诸绅往复书问乃妥。弟当为余弥缝此阙。每与绅士书札往还，或接见畅谈，具言江绅待家兄甚厚，家兄抱愧甚深等语。就中如刘仰素、甘子大二人，余尤对之有愧。刘系余请之带水师，三年辛苦，战功日著，渠不负吾之知，而余不克始终与共患难。甘系余请之管粮台，委曲成全，劳怨兼任，而余以丁忧遽归，未能为渠料理前程。此二人皆余所惭对，弟为我教正而补苴之。

余在外数年，吃亏受气实亦不少，他无所惭，独惭对江西绅士。此日内省躬责己之一端耳。弟此次在营境遇颇好，不可再有牢骚之气，心平志和，以迓天休。至嘱至嘱。

承寄回银二百两收到。今冬收外间银数百，而家用犹不甚充裕，然后知往岁余之不寄银回家，不孝之罪，上通于天矣。

四宅大小平安。余日内心绪少佳，夜不成寐，盖由心血积亏，水不养肝之故，春来当好为调理。

## 咸丰八年戊午岁

正月初四日

沅浦九弟左右：

十二月二十八日接第二十一日手书，欣悉一切。

临江已复，吉安之克实意中事。克吉之后，弟或带中营围攻抚州，听候江抚调度；或率师随迪庵北剿皖省，均无不可。届时再行相机商酌。此事我为其始，弟善其终，补我之阙，成父之志，是在贤弟竭力而行之，无为遽怀归志也。

弟书自谓是笃实一路人，吾自信亦笃实人，只为阅历世途，饱更事变，略参些机权作用，把自家半坏了。实则作用万不如人，徒惹人笑，教人怀疑，何益之有？近日忧居猛省，一味向平实处用心，将自家笃实的本质还我真面、复我固有。贤弟此刻在外，亦急须将笃实复还，万不可走入机巧

一路，日趋日下也。纵人以巧诈来，我仍以浑含应之，以诚愚应之；久之，则人之意也消。若钩心斗角，相迎相距，则报复无已时耳。

至于强毅之气，决不可无，然强毅与刚愎有别。古语云自胜之谓强。曰强制，曰强恕，曰强为善，皆自胜之义也。如不惯早起，而强之未明即起；不惯庄敬，而强之坐尸立斋；不惯劳苦，而强之与士卒同甘苦，强之勤劳不倦。是即强也。不惯有恒，而强之贞恒，即毅也。舍此而求以客气胜人，是刚愎而已矣。二者相似，而其流相去霄壤，不可不察，不可不谨。

李云麟气强识高，诚为伟器，微嫌辩论过易，弟可令其即日来家，与兄畅叙一切。

兄身体如常。惟中怀郁郁，恒不甚舒暢，夜间多不成寐，拟请刘镜湖三爷来此一为诊视。闻弟到营后体气大好，极慰极慰。

刘詹严先生得一见否？为我极道歉忱。黄莘翁之家属近状何如？苟有可为力之处，弟为我多方照拂之。渠为劝捐之事呕气不少，吃亏颇多也。母亲之坟，今年当觅一善地改葬。惟兄脚力太弱，而地师又无一可信者，难以下手耳。余不一一。

再，带勇总以能打仗为第一义。现在久顿坚城之下，无仗可打，亦是闷事。如可移扎水东，当有一二大仗开。第弟营之勇锐气有余，沈毅不足，气浮而不敛，兵家之所忌也，尚祈细察。偶作一对联箴弟云：打仗不慌不忙，先求稳当，次求变化；办事无声无臭，既要精到，又要简捷。贤弟若能行此数语，则为阿兄争气多矣。

## 正月十一日

沅浦九弟左右：

初七、初八连接弟两信，具悉一切。亮一去时，信中记封有报销折稿，来信未经提及，或未得见耶？二十六早地孔囊倒城垣数丈，而未克成功，此亦如人之生死早迟，时刻自有一定，不可强也。

总理既已接札，则凡承上起下之公文自不得不照申照行，切不可似我疏懒，置之不理也。余生平之失在志大而才疏，有实心而乏实力，坐是百无一成。李云麟之长短亦颇与我相似，如将赴湖北，可先至余家一叙再往。润公近颇综核名实，恐亦未必投洽无间也。

近日身体略好。惟回思历年在外办事，愆咎甚多，内省增疚。饮食起居，一切如常，无劳廛虑。今年若能为母亲大人另觅一善地，教子侄略有长进，则此中豁然畅适矣。弟年纪较轻，精力略胜于我，此际正宜

提起全力，早夜整刷。昔贤谓宜用猛火煮、漫火温，弟今正用猛火之时也。

李次青之才实不可及，吾在外数年，独觉惭对此人。弟可与之常通书信，一则少表余之歉忱，一则凡事可以请益。

余京中书籍承漱六专人取出，带至江苏松江府署中，此后或易搬回。书虽不可不看，弟此时以营务为重，则不宜常看书。凡人为一事，以专而精，以纷而散。荀子称耳不两听而聪，目不两视而明，庄子称立志不纷，乃凝于神，皆至言也。

## 正月十四日

沅浦九弟左右：

十二日安五来营，寄第二号家信，谅已收到。

治军总须脚踏实地，克勤小物，乃可日起而有功。凡与人交接周旋，若无真意，则不足以感人；然徒有真意而无文饰以将之，则真意亦无所托之以出，《礼》所称无文不行也。余生平不讲文饰，到处行不动，近来大悟前非。弟在外办事宜随时斟酌也。

闻我水师粮台银两尚有赢余，弟营此时不阙银用，不必解往。若绅民中实在流离困苦者，亦可随便周济。兄往日在营艰窘异常，初不能放手作一事，至今追憾。弟若有宜周济之处，水师粮台尚可解银二千前往。应酬亦须放手，办在绅士百姓身上，尤宜放手也。

## 正月十九日

沅浦九弟左右：

正月十七日蒋一等归，接十一日信，借悉一切。次青处回信及密件，弟办理甚好。

民宜爱而刁民不必爱，绅宜敬而劣绅不必敬。弟在外能如此调理分明，则凡兄之缺憾，弟可一一为我弥缝而匡救之矣。昨信言无本不立，无文不行。大抵与兵勇及百姓交际，只要此心真实爱之，即可见谅于下。余之所以颇得民心勇心者，此也。与官员及绅士交际，则心虽有等差而外之仪文不可不稍隆，余之所以不获于官场者，此也。去年与弟握别之时，谆谆嘱弟，以效我之长，戒我之短。数月以来，观弟一切施行，果能体此二语，欣慰之至。惟作事贵于有恒，精力难于持久，必须日新又新，慎而加慎，庶几常葆令名，益崇德业。

## 正月二十九日

沅浦九弟左右：

二十七日接弟信，并《二十二史》七十二套，此书十七史系汲古阁本，《宋》、《辽》、《金》、《元》系宏简录，《明史》系殿本。较之兄丙申年所购者多《明史》一种，余略相类，在吾乡已极为难得矣。吾后在京，亦未另买有全史，仅添买《辽》、《金》、《元》、《明》四史及《史》、《汉》各佳本而已。《宋史》至今未办，盖阙典也。

吉贼决志不窜，将来必与得贼同一办法，想非夏末秋初不能得手。弟当坚耐以待之。迪庵去岁在浔于开濠守遑之外，间以读书习字。弟处所掘长濠，如果十分可靠，将来亦有间隙可以偷看书籍，目前则须极力讲求濠工巡遑也。

周济受害绅民，非泛爱博施之谓，但偶遇一家之中杀害数口者、流迁徙归来无食者、房屋被焚栖止靡定者，或与之数十金，以周其急。先星冈公云济人须济急时无，又云随缘布施，专以目之所触为主，即孟子所称“是乃仁术也”。若目无所触，而泛求被害之家而济之，与造册发赈一例，则带兵者专行沽名之事，必为地方官所讥，且有挂一漏万之虑。弟之所见，深为切中事理。余系因昔年湖口绅士受害之惨，无力济之，故推而及于吉安，非欲弟无故而为沽名之举也。

## 二月初二日

沅浦九弟左右：

二十九日，刘福一来营，寄第六号信，想已接到。

日内家中大小平安。父大人初四日周年忌辰，祭祀全依朱子家礼，早起至坟山泣奠，日中在家恭祭也。

吴赞槎齐源由桂东来此住二日。外间言萧浚川在樟树小败，究竟情形若何？下次可便述一二。

弟昨信劝我不必引前事以自艾。余在外立志以爱民为主，在江西捐银不少，不克立功，凡关系民事者一概不得与闻。又性素拙直，不善联络地方官，所在齟齬。坐是中怀抑塞，亦常有自艾之意。春来间服补剂，医者以为水不养肝之所致，待刘镜湖来，加意调理，或可就痊。余自知谨慎，弟尽可放心。

## 二月十四日

沅浦九弟左右：

春二等归，接弟手函，敬悉一切。

吉安贼势虽蹙，而水东无路可窜，自不能不死守穷城，即迟至五六月始行克复，亦属意中之事。弟当坚意忍耐，不可欲速烦闷。濠沟既成，总宜细心巡守，使之无粒米勺水之接济，无蚍蜉蝼子之文报，则十日内外即已迫不可忍。欲得巡逻严密，须自弟营为始。弟既有总理名目，又夙为人望所属，弟行则众营随之以行，止则众营随之以止，勤则皆勤，怠则皆怠。观瞻之所在也。僧王每夜于五更自出巡濠，天明方归，此近人所传确者。

家中日内小大平安。十一日，六弟除降服。十三日，王壬秋、罗伯宜来，而李秉苑及营中各弁亦来数人。尧阶于初三日来，十四始归。李雨苍至震仙处，顷亦归矣。

## 二月十七日

沅浦九弟左右：

十四日接弟初七夜信，得知一切。

贵溪紧急之说确否？近日消息何如？次青非常之才，带勇虽非所长，然亦有百折不回之气。其在兄处，尤为肝胆照人，始终可感。兄在外数年，独惭无以对渠。去腊遣韩升至李家省视，其家略送仪物。又与次青约成婚姻，以申永好。目下两家儿女无相当者，将来渠或三索得男，弟之次女、三女可与之订婚。兄信已许之矣。在吉安，望常常与之通信。专人往返，想十余日可归也。但得次青生还与兄相见，则同甘苦患难诸人中，尚不至留莫大之愧疚耳。

昔耿恭简公谓居官以耐烦为第一要义，带勇亦然。兄之短处在此，屢次谆谆教弟亦在此。二十七日来书，有云“仰鼻息于傀儡腹腥之辈，又岂吾心之所乐”，此已露出不耐烦之端倪，将来恐不免于齟齬。去岁握别时，曾以愆余之短相箴，乞无忘也。

李雨苍于十七日起行赴鄂。渠长处在精力坚强，聪明过人，短处在举止轻佻，言语伤易，恐润公亦未能十分垂青。温甫弟于二十一起程，大约三月半可至吉安也。

### 三月初六日

沅浦九弟左右：

初三日刘福一等归，接来信，借悉一切。

贼贼围困已久，计不久亦可攻克。惟严断文报是第一要义，弟当以身先之。

家中四宅平安。余身体不适。初二日住白玉堂，夜不成寐。温弟何日至吉安？

古来言凶德致败者约有二端：曰长傲，曰多言。丹朱之不肖，曰傲曰嚣讼，即多言也。历观名公巨卿，多以此二端败家丧身。余生平颇病执拗，德之傲也；不甚多言，而笔下亦略近乎嚣讼。静中默省愆尤，我之处处获戾，其源不外此二者。温弟性格略与我相似，而发言尤为尖锐。凡傲之凌物，不必定以言语加人，有以神气凌之者矣，有以面色凌之者矣。温弟之神气稍有英发之姿，面色间有蛮狠之象，最易凌人。凡中心不可有所恃，心有所恃则达于面貌。以门地言，我之物望大减，方且恐为子弟之累；以才识言，近今军中炼出人才颇多，弟等亦无过人之处，皆不可恃。只宜抑然自下，一味言忠信行笃敬，庶几可以遮护旧失、整顿新气。否则，人皆厌薄之矣。沅弟持躬涉世，差为妥叶。温弟则谈笑讥讽，要逞充老手，犹不免有旧习。不可不猛省！不可不痛改！余在军多年，岂无一节可取？只因傲之一字：百无一成，故谆谆教诸弟以为戒也。

### 三月十三日

沅浦九弟左右：

初十日接初三日来书，具悉一切。

余在白玉堂居五日，初七日仍回新宅。身体总未全好。回思往事，处处感怀，而于湖口一关未得攻破，心以为憾。虽经杨、彭、二李攻破而未得目见，亦常觉梦魂萦绕于其间。此外错误之事，触端悔悟，恒少泰字，每憾不得与弟同聚，畅叙衷曲也。服药亦不甚得法，心血耗亏，骤难奏效。

姚秋浦索讨贼檄文，家中竟无稿本。在外数年，一事无成。每念昔年鸿爪，便若赧然无以自安者。有始无终，内省多疚。

湖口水师刘副将国斌来乡，道旧叙故，略开怀抱。闻雪琴时时系

念，尤为笃挚。次青眷口至章门寻视，余闻之尤用愧切。使次青去乡从军者，皆因不才而出也。若得东路大定，次青归来，握手痛谈，此心底几少释耳。弟在吉，宜以书常致次青。余前有信求润公保之。闻润公近解万金至贵溪，奏派次青防浙一路，张皇而提挈之，次青于是乎增辉光矣。

### 三月二十四日

沅浦九弟左右：

二十日胡二等归，接第十三夜书，具悉一切。

所论兄之善处，虽未克当，然亦足以自怡。兄之郁郁不自得者，以生平行事有初鲜终，此次又草草去职，致失物望，不无内疚。

长傲、多言二弊，历观前世卿大夫兴衰及近日官场所以致祸福之由，未尝不视此二者为枢机，故愿与诸弟共相鉴诫。第能惩此二者，而不能勤奋以图自立，则仍无以兴家而立业。故又在乎振刷精神，力求有恒，以改我之旧辙而振家之丕基。弟在外数月，声望颇隆，总须始终如一，毋怠毋荒，庶几于弟为初旭之升，而于兄亦代为桑榆之补。至嘱至嘱。

次青奏赴浙江，令人阅之气王。以次青之坚忍，固宜有出头之一日，而咏公亦可谓天下之快人快事矣。

弟劝我与左季高通书问。此次暂未暇作，准于下次寄弟处转递。此亦兄长傲之一端。弟既有言，不敢遂非也。

### 三月三十日

沅浦九弟左右：

春二、安五归，接手书，知营中一切平善，至为欣慰。

次青二月以后无信寄我，其眷属至江西，不知果得一面否？弟寄接到胡中丞奏伊入浙之稿，未知果否成行？顷得曹中丞十三日书，言浙省江山、兰溪两县失守，调次青前往会剿。是次青近日声光亦渐渐脍炙人口。广信、衢州两府不失，似浙中终可无虑，未审近事究复如何？广东探报，言逆夷有船至上海，亦恐其为金陵余孽所攀援。若无此等意外波折，则洪杨股匪不患今岁不平耳。

九江竟尚未克，林启荣之坚忍实不可及。闻麻城防兵于三月十日小挫一次，未知确否？弟于次青、迪、厚、雪琴等处须多通音问，俾余亦

## 曾国藩家书

略有见闻也。

兄病体已愈十之七八，日内并未服药，夜间亦能熟睡，至子丑以后则醒，是中年后人常态，不足异也。湘阴吴贞阶司马于二十六日来乡，是厚庵嘱其来一省视，次日归去。

余所奏报销大概规模一折，奉朱批“该部议奏”。户部奏于二月初九日。复奏言“曾国藩所拟尚属妥协”云云。至将来需用部费不下数万。闻杨、彭在华阳镇抽厘，每月可得二万，系雪琴督同凌荫庭、刘国斌等经纪其事，其银归水营杨、彭两大股分用。余偶言可从此项下设法筹出部费，贞阶力赞其议。想杨、彭亦必允从。此款有着，则余心又少一牵挂。

温弟丰神较峻，与兄之伉直简慵虽微有不同，而其难于谐世，则殊途而同归。余常用为虑。大抵胸多抑郁，怨天尤人，不特不可以涉世，亦非所以养德；不特无以养德，亦非所以保身。中年以后，则肝肾交受其病。盖郁而不畅，则伤木；心火上烁，则伤水。余今日之目疾及夜不成寐，其由来不外乎此。故于两弟时时以平和二字相勸，幸勿视为老生常谈。至要至嘱。

亲族往弟营者人数不少，广厦万间，本弟素志。第善观国者，睹贤哲在位，则卜其将兴；见冗员浮杂，则知其将替。善观军者亦然。似宜略为分别，其极无用者，或厚给途费遣之归里，或酌赁民房令住营外，不使军中有情漫喧杂之象，庶为得宜。至顿兵城下为日太久，恐军气渐懈，如雨后已弛之弓，三日已腐之饌，而主者晏然，不知其不可用。此宜深察者也。附近百姓果有骚扰情事否？此亦宜深察者也。



## 曾国藩家书卷之六

咸丰八年戊午岁

四月初九日

沅浦九弟左右：

四月初五日得一等归，接弟信，得悉一切。

兄回忆往事，时形悔艾，想六弟必备述之。弟所劝譬之语，深中机要，“家位而行”一章，比亦常以自警。只以阴分素亏，血不养肝，即一无所思，已觉心慌肠空，如极饿思食之状。再加以憧扰之思，益觉心无主宰，怔忡不安。

今年有得意之事两端。一则弟在吉安声名极好。两省大府及各营员弁、江省绅民交口称颂，不绝于吾之耳；各处寄弟书及弟与各处稟牍信稿俱详实妥善，犁然有当，不绝于吾之目。一则家中所请邓、葛二师品学俱优，勤严并著。郑师终日端坐，有威可畏，文有根柢而又曲合时趋，讲书极明正义而又易于听受。葛师志趣方正，学规谨严，小儿等畏之如神明，此二者皆余所深慰。虽愁闷之际，足以自宽解者也。第声闻之美，可恃而不可恃。兄昔在京中颇著清望，近在军营亦获虚誉。善始者不必善终，行百里者半九十里。誉望一损，远近滋疑。弟目下名望正隆，务宜力持不懈，有始有卒。

治军之道，总以能战为第一义。倘围攻半岁，一旦被贼冲突，不克抵御，或致小挫，则令望堕于一朝。故探囊之法，以善战为得珠，能爱民为第二义，能和协上下官绅为第三义。愿吾弟兢兢业业，日慎一日，到底不懈，则不特为兄补救前非，亦可为吾父增光于泉壤矣。精神愈用而愈出，不可因身体衰弱过于保惜；智慧愈苦而愈明，不可因境遇偶拂遽尔摧沮。此次军务，如杨、彭、二李、次青辈皆系磨炼出来，即润翁、罗翁亦大有长进，几于一日千里，独余素有微抱，此次殊乏长进。弟当趁此增番识见，力求长进也。

求人自辅，时时不可忘此意。人才至难，往时在余幕府者，余亦平等相看，不甚钦敬。洎今思之，何可多得！弟常常以求才为急，其闾冗

者虽至亲密友不宜久留，恐贤者不愿共事一方也。

余自四月来眠兴较好，近读杜佑《通典》，每日二卷，薄者三卷。惟目力极劣，余尚足支持。

再迪庵六弟不必进京，厚意可感。弟子迪、厚、润、雪、次青五处，宜常通问。惺廉访处，弟亦可寄信数次，为释前怨。《欧阳文忠集》，吉安若能觅得，望先寄回。

## 四月十七日

沅浦九弟左右：

十四日胡二等归，接弟初七夜信，具悉一切。

初五日，城贼猛扑，凭壕对击，坚忍不出，最为合法。凡扑人之墙、扑人之壕，扑者客也，应者主也。我若越壕而应之，则是反主为客，所谓致于人者也。我不越壕，则我常为主，所谓致人而不致于人。也。稳守稳打，彼自意兴索然。峙衡好越壕击贼，吾常不以为然。凡此等处，悉心推求，皆有一定之理。迪庵善战，其得诀在不轻进不轻退六字。弟以类求之可也。

夷船至上海、天津，亦系伺喝之常态。彼所长者，船炮也；其所短者，路极远人极少。若办理得宜，终不足患。

报销奏稿及户部复奏，即日当缄致诸公。依弟来书之意，将来开局时，拟即在湖口水次置银钱所。张小山、魏召亭、李复生诸公多年亲依，该所，现存银万余两，即可为开局诸公用费及部中使费。六君子不必皆到，此局但得伯符、小泉二人入场，即可了办。若六弟在浔较久，则可至局中照护周旋；若六弟不在浔阳，则弟克吉后，回家一行，仍须往该局为我照护周旋也。至户部承书说定费资，目下筠仙在京似可料理，将来胡莲舫进京亦可帮助。

筠仙顷有书来，言弟名远震京师。盛名之下，其实难副，弟须慎之又慎。兹将原书抄送一阅。

家中四宅小大平安。兄夜来渐能成寐。先大父、先太夫人尚未有祭祀之费，温弟临行捐银百两，余以刘国斌之赠亦捐银百两，弟可设法捐贲否？四弟、季弟则以弟昨寄之银内提百金为二人捐款。合之当业二处，每年可得谷六七十石，起祠堂，树墓表，尚属易办。吾精力日衰，心好古文，颇知其意而不能多作，日内思为三代考妣作三墓表，虑不克工，亦尚憚于动手也。先考妣祠宇若不能另起，或另买二宅作住屋，即以厓里新屋为祠亦无不可。其天家赐物及宗器祭器等概藏于祠堂，庶有

所归宿，将来京中运回之书籍及家中先后置书亦贮于此祠。吾生平坐不善收拾，为咎甚巨，所得诸物随手散去，至今追悔不已。然趁此收拾，亦尚有可为。弟收拾佳物较善于诸昆，从此益当细心捡点，凡有用之物不宜抛散也。

## 四月二十三日

沅浦九弟左右：

二十一日，接手书，知九江克复，喜慰无量。迪庵专人来报，十八夜始到。洞芝中丞通报二十日到。屠戮净尽，三省官绅士民同称为快。从此抚、建、吉安贼胆愈寒。吉贼颇悍，常有出濠死斗攻扑营盘之意，宜时时防备。弟之职分，以战守为第一义，爱民次之，联络上下官绅及各营弁勇又次之。已屡言之矣，务望持之以恒，始终如一为要。

前书言先大夫竹亭公祠宇公费，不知弟意以为然否？如此举有成，则此后凡有书籍、法帖、钟鼎、彝器皆可存置祠中。先世之积累稍立基业，吾兄弟之什物有所归宿，即如弟寄回之《二十三史》，许仙屏《书谱》，皆可收存，为之目录。若家运隆盛，将来收积之物，兄弟子姓继续承承，尚当不替也。

## 五月初五日

沅浦九弟左右：

五月二日接四月二十三寄信，借悉一切。

城贼于十七早、二十日、二十二夜均来扑我濠，如飞蛾之扑烛，多扑几次，受创意甚，成功愈易。惟日夜巡守，刻不可懈。若攻围日久，而仍令其逃窜，则咎责匪轻。弟既有统领之名，自须认真查察，比他人尤为辛苦，乃足以资董率。九江克复，闻抚州亦已收复，建昌想亦于日内可复。吉贼无路可走，收功当在秋间。较各处独为迟滞，弟不必慌忙，但当稳围稳守，虽迟至冬间克复亦可，只求不使一名漏网耳。若似瑞、临之有贼外窜，或似武昌之半夜潜窜，则虽速亦为人所诟病。如九江之斩刈殆尽，则虽迟亦无后患。愿弟忍耐谨慎，勉卒此功。至要至要。

余病体渐好，尚未痊愈，夜间总不能酣睡。心中纠缠，时忆往事，懊悔憧扰，不能摆脱。四月底作先大夫祭费记一首，兹送交贤弟一阅，不知尚可用否？此事温弟极为认真，望弟另誉一本寄温弟阅看。此本仍

便中寄回，盖家中抄手太少，别无副本也。

弟在营所寄银回，先后均照数收到。其随处留心，数目多寡，斟酌妥善。余在外未付银至家，实因初出之时，默立此誓；又于发州县信中以“不要钱不怕死”六字自明。不欲自欺其志，而令老父在家受尽窘迫、百计经营，至今以为深痛。弟之取与，与塔、罗、杨、彭、二李诸公相仿，有其不及，无或过也；尽可如此办理，不必多疑。顷与叔父各捐银五十两，积为星冈公，余又捐二十两于辅臣公，三十两于竟希公矣。若弟能于竟公、星公、竹公三世各捐少许，使修立三代祠堂，即于三年内可以兴工，是弟有功于先人，可以盖阿兄之侃言矣。修祠或即用腰里新宅，或于利见斋另修，或另买田地，弟意如何，便中复示。公费则各立经管，祠堂则三代共之。此余之意也。

初二日接温弟信，系在湖北抚署所发。

九江一案，杨、李皆赏黄马褂，官、胡皆加太子少保，想弟处亦已闻之。温弟至黄安与迪庵相会后，或留营，或进京，尚未可知。

弟素体弱，比来天热，尚耐劳否？至念至念。兼饵滋补较善于药，良方甚多，胜于专服水药也。

## 五月初六日

沅弟左右：

昨信书就未发，初五夜玉六等归，又接弟信，报抚州之复。它郡易而吉州难，余固恐弟之焦灼也。一经焦躁，则心绪少佳，办事不能妥善。余前年所以废弛，亦以焦躁故尔。总宜平心静气，稳稳办去。

余前言弟之职以能战为第一义，爱民第二，联络各营将士、各省官绅为第三。今此天暑困人，弟体素弱，如不能兼顾，则将联络一层稍为放松，即第二层亦可不必认真，惟能战一层，则刻不可懈。目下濠沟究有几道？其不甚可靠者尚有几段？下次详细见告。九江修濠六道，宽深各二丈，吉安可仿为之否？

弟保同知花翎，甚好甚好。将来克复府城，自可保升太守。吾不以弟得升阶为喜，喜弟之吏才更优于将才，将来或可勉作循吏，切实做几件施泽于民之事，门户之光也，阿兄之幸也。

兄国藩再行

## 五月十六日

沅浦九弟左右：

十三日安五等归，接手书，借悉一切。抚、建各府克复，惟吉安较迟，弟意自不能无介介。然四方围逼，成功亦当在六七两月耳。

澄侯弟往永丰一带吊各家之丧，均要余作挽联。余挽贺映南之夫人云：柳絮因风，阆内先芬堪继武姓谢；麻衣如雪，阶前后嗣总能文。挽胡信贤之母云：元女太姬，祖德溯二千余载；周姜京室，帝梦同九十三龄朝母九十三岁。

近来精力日减，惟此事尚颇如常。澄弟谓此亦可卜其未遽衰也。

袁漱六之戚郑南乔自松江来，还往年借项二百五十两。具述漱六近状，官声极好，充眷极渥，学问与书法并大进，江南人仰望甚至，以慰以愧。

余昔在军营不妄保举，不乱用钱，是以人心不附，仙屏在营，弟须优保之，借此以吸引人才。余未能超保次青，使之沉沦下位，至今以为大愧大憾之事。仙屏无论在京在外，皆当有所表见。成章鉴是上等好武官，亦宜优保。

弟之公牍信启俱大长进。吴子序现在何处？查明见复，并详问其近况。

余身体尚好，惟出汗甚多，三年前虽酷暑而不出汗，今胸口汗珠累累，而肺气日弱，常用惕然。甲三体亦弱甚，医者劝服补剂，余未敢率尔也。弟近日身体健否？

再者，人生适意之时不可多得，弟现在上下交誉，军民咸服，颇称适意，不可错过时会，当尽心竭力，做成一个局面。圣门教人不外敬恕二字，天德王道，彻始彻终，性功事功，俱可包括。余生平于敬字无工夫，是以五十而无所成。至于恕字，在京时亦曾讲求及之。近岁在外，恶人以白眼藐视京官，又因本性倔强，渐近于愎，不知不觉做出许多不恕之事，说出许多不恕之话，至今愧耻无已。弟于恕字颇有工夫，天质胜于阿兄一筹。至于敬字，则亦未尝用力，宜从此日致其功，于《论语》之九思，《玉藻》之九容，勉强行之。临之以庄，则下自加敬。习惯自然，久久遂成德器，庶不至徒做一场话说，四十五十而无闻也。

## 五月三十日

沅浦九弟左右：

正七归，接一信。启五等归，又接一信。正七以疟，故不能遽回营。启五求于尝新后始去。兹另遣人送信至营，以慰远廑。

三代祠堂或分或合，或在新宅，或另立规模，统俟弟复由吉归家料理。造祠之法，亦听弟与诸弟为之。落成后，我作一碑而已。余意欲王父母、父母改葬后，将神道碑立毕，然后或出或处，乃可惟余所欲。

目下在家意绪极不佳，回思往事，无一不惭愧，无一不褊浅。幸弟去秋一出，而江西、湖南物望颇隆。家声将自弟振之，兹可欣慰。“靡不有初，鲜克有终”，望弟慎之又慎，总以克终为贵。

家中四宅大小平安。二十三四大水，县城、永丰受害颇甚，我境幸平安无恙。

弟寄归之书皆善本，林氏续选古文雅正，虽向不知名，亦通才也。如有《大学衍义》、《衍义补》二书可买者，买之。学问之道，能读经史者为根柢，如两《通》杜氏《通典》、马氏《通考》两《衍义》及本朝两《通》徐乾学《读礼通考》、秦蕙田《五礼通考》皆萃《六经》诸史之精，该内圣外王之要。若能熟此六书，或熟其一二，即为有本有末之学。家中现有四《通》而无两《衍义》，祈弟留心。弟目下在营不可看书，致荒废正务。天气炎热，精神有限，宜全用于营事中也。余近作《实兴堂记》，抄稿寄阅。久荒笔墨，但有间架，全无精意。愧甚愧甚。

## 六月初四日

沅浦九弟左右：

初一日专人至吉营送信。初二夜接弟来信，论数字义甚详，兼及省中奏请援浙事，劝余起复。是日未刻，郭意城来家述此事，略中丞业出奏矣。初三日接奉廷寄，飭即赴浙办理军务，与骆奏适相符合。骆奏二十五日发，寄谕二十一日自京发也。

圣恩高厚，令臣下得守年余之丧，又令起复，以免避事之责。感激之忱，匪言可喻。兹定于初七日起程，至县停一日，至省停二三日。恐驿路迂远，拟由平江、义宁以至吴城。其张运兰、萧启江诸军，约至河口会齐。将来克复吉安以后，弟所带吉字营即由吉东行至常山等处相会。先大夫少时在南岳烧香，抽得一签云：“双珠齐入手，光影耀杭

州。”先大夫尝语余云：“吾诸子当有二人官浙。”今吾与弟赴浙剿贼，或已兆于五十年以前乎？

此次之出，约旨卑思，脚踏实地，但求精而不求阔。目前张、萧二军及弟与次青四军已不下万人，又拟抬船过常、玉山，略带水师千余人，足敷剿办矣。此外在江各军，有饷则再添，无饷则不添，望弟为我斟酌商办。办文案者，彭椿年最为好手。现请意城送我至吴城，或至玉山，公牍私函意城均可料理。请仙屏即日回奉新，至吴城与我相会。其彭椿年、王福二人，弟随留一人，酌派一人来兄处当差，亦至吴城相会。余若出大道，则由武昌下湖口以至河口；若出捷径，则由义宁、吴城以至河口。许、彭等至吴城，声息自易通也。应办事宜及往年不合之处应行改弦者，弟一一熟思，详书告我。

兄国藩再肃

## 六月十六日

沅浦九弟左右：

六月十四日接弟初二日信，十六日又接初八日信，借悉一切。所有应复事件，分布如左：

一、余十二日到省，拜客会客，几无暇晷。定于十九日起行，坐船至湖北，停住三五日，至湖口住三五日，然后至河口会齐诸军，始行人浙。

二、定调之军张凯章、朱南桂、胡兼善、萧浚川，此谕旨所派、骆襄所指者也。浚川久劳于外，痠病日甚，有亲未葬。兹已奏明，准假两月，令其回籍。其军派人暂行摄领，带至河口，俟余至河口。或先带人浙，或待萧假旋再行带赴人浙中，均无不可。自此二军之外，又调吴翔冈之千二百人，又至李迪庵处拨调一千人，马队百人。浚川现统四千人，拟令汰选，仅留二千人，合之张、朱、胡、吴、李已八千矣，皆精兵。再加次青一军，则逾万矣。吉安克后，再加弟军及刘腾鹞军，则万四五千矣。嫌其太多，尚须选汰。水师但调舢板六十号过玉山，至多不满千人。水陆合计，与弟条陈之数相符。

三、吉安不能遽克，弟与兄不能即日相会，未得面叙一切，深为怅怅。若六月克复，则请弟坐船来吴城，先与兄相会一次，然后回家一行。在家小住月余，再至浙中提调一切。若不遽克，则常常通信，总以雪琴水师为枢纽。

四、起程日期一折于十七日自省拜发，折稿附寄一阅。骆中丞前奏

## 曾国藩家书

请起复赴浙之折，于十五日奉到朱批，嘉其符合圣意，不分畛域，谕旨褒赞，兹亦抄阅。

五、营务处已派王人瑞太守，左公及霞老意也。凡属湘勇，人瑞均可联络。侦探所名目，则照弟之条陈，不复立矣。提调亦难其人，俟弟到营时任之。其稽查各员，颇难得此公明之选，弟可于吉安留心访之。

六、派来之人，朱、萧、李、杨尚未到省，余五戈什哈皆于十六日到长沙。此后弟有信，可派人竟送湖口。兄至湖口，大约在七月中也。

六月二十三日 新堤舟中

沅浦九弟左右：

十七日接弟一缄，知弟小有不适，比已全愈否？至念至念。

余十九日自长沙启行，夜宿青油壑，二十夜宿土星港，二十一宿岳州，二十二宿新堤。阻风半日。南风太久，恐北风亦难遽止也。

弟封还余寄书公一书，而另以一书附去，所论皆正大之至。弟能如是见理真确，兄复何患哉？惟吴某曾以一缄分诉于余，余许为之关白，复书去仅二日，而自背其说，亦有未安，当更详之耳。弟前后两信所言皆极当，特余精力甚倦，不克力行，日日望弟来助我也。

六月二十七日 武昌抚署

沅浦九弟左右：

在岳州曾寄一缄，不知到否？余于二十二日到新堤。二十四至武昌，寓胡中丞署内，商议一切。应酬数日，初一日可赴下游。李迪庵十九日自武昌赴麻城，二十五日拔营，自薪水前进，已约其在巴河等候会晤。巴河在黄州下四十里，去鄂垣二百二十里也。浙中之贼，次青六月初八寄胡中丞缄言衢州解围，江山、常山并已收复，不知其尽窜闽中？抑系分扰浙东？看来浙事亦易了耳。

余身体平安。到湖口时大约在七月初八九。自家起行至岳，皆值酷暑，近数日稍凉，略觉健爽。从此新秋益凉，或可日就安泰。弟七月上旬有信，可专人送至吴城、饶州等处。

七月初七日 兰溪发

沅浦九弟左右：

二十七日在武昌发第二十五号信，不知何日可达？兄此出立有日记



簿，记每日事件，兹抄附一览。可得其详。此后凡寄家书，皆以此法行之，庶逐一悉告，不至遗漏。

余于初二日至巴河晤温弟，初四日晤迪庵，初六日晤希庵，彭雪琴、唐义渠皆自下游来迎，可谓胜会。厚庵于六月十一日下攻芜湖，二十七日仍收队回至安庆，余至湖口或可一见。余与温弟、迪、希、雪、震诸公商酌一切，皆已就绪。惟温、希及胡中丞之意，欲余于营盘附近另觅一县城驻扎，迪、震之意欲即于营盘内驻扎，二者尚无定见。

报起程日期一折，初五日在巴河奉到朱批：“汝此次奉命即行，足征关心大局，忠勇可尚。俟到营日，将如何布置进剿机宜由驿具奏可也。”钦此。圣恩奖借，报称维艰，精力日亏，恐不堪事。只望吉安克复，弟早来浙中相助，则兄诸事得以整理矣。古来围城亦有三五年不破者，吉贼无路可窜，势不能不尽力死守，望弟勿过于焦急，总宜静心忍耐。至要至要。

## 七月十四日 湖口水管

沅浦九弟左右：

久未接弟安报，不知近状何如？余在兰溪发一信，由湖北寄左季翁转致，不知得到否也？兰溪初九日与迪、希别，十一日至九江一祭塔公祠，十二日至湖口。厚庵近日体气稍逊。雪琴则神采奕奕，在湖口新修水师昭忠祠，土木之工，一一皆亲手经营，囑余奏明。迪庵在九江修塔公祠，亦囑余一奏。余拟会杨、李衔奏之。迪庵又欲于湘乡立忠义祠，亦将一会奏也。

胡中丞之太夫人姓汤于十一日辰刻仙逝。水陆数万人皆仗胡公以生以成，一旦失所依倚，关系甚重。余拟送幛一、联一、银二百，皆书余与温、沅名。玉斑兄丁艰，弟如何致情？望速示。

再，兄于近日受暑，夜间又或受风露，体中小有不适。请焦听堂诊治，服药两帖，已愈矣。闻弟病症，不知痊愈否？罗逢元言尚未愈，韩升之兄言服成章鉴之方，已十愈八九。澄侯信言十六日全好，则尚未悉后小有反复也。七月以来，不审全复元否？体气素弱，不宜多服克伐之剂，而有病在身，又不宜服补剂，殊为惦念。吉安克复尚无把握，千万不可焦急，日慎一日，以求其事之济。一怀焦愤之念，则恐无成耳。千万忍耐！千万忍耐！”“久而敬之”四字，不特处朋友为然，即凡事亦莫不然。至嘱。

七月二十日 江西省河下

澄、季两弟左右：

兄于十二日到湖口，曾发一信，不知何时可到？胡荫之奉江西耆中丞之命接我晋省。余因于二十日自湖口开船入省，杨厚庵送至南康，彭雪琴径送至省。请君子用情之厚，早有伦比。浙中之贼，闻已全省肃清。余到江与耆中丞商定，大约由河口入闽。

家中种蔬一事，千万不要怠忽。屋门首塘养鱼，亦有一种生机。养猪亦内政之要者。下首台上新竹，过伏天后有枯者否？此四事者，可以观人家兴衰气象，望时时与朱见四兄熟商。见四在我家，每年可送束修钱十六千。余在家时，曾面许以如延师课读之例，但未言明数目耳。季弟生意颇好，然此后不宜再做，不宜多做，仍以看书为上。余在湖口病卧三日，近已全愈，尚微咳嗽。痼疾久未愈，心血亦亏，甚颇焦急也。久不接九弟之信，极为悬念。见其初九日与雪琴一信，言病后元气未复，想必已全痊矣。

七月二十八日 瑞洪舟次

沅浦九弟左右：

在湖口专丁送去一函，至南昌由驿递发去一函，均接到否？不接我弟家信已四十日，焦灼之至，未审弟病已全愈否？

余于二十四日出省城登舟，二十五日开船，二十六午刻至瑞洪。闻吴国佐二十七八可至南昌，故在此少为等候。兹因谪兴六赴吉安之便，再寄一函，询问近状。如吉安尚无克复之耗，千万不必焦急。达生编六字诀，有时可施之行军者，戏书以佐吾弟之莞尔。余向来虽处顺境，寸心每多沈闷郁抑，在军中尤甚。此次专求怡悦，不复稍存郁悒之怀。《晋》初爻所谓“裕无咎”者也。望吾弟亦从裕字上打迭此心，安安稳稳。顺问近好。

兄国藩手具

八月初四日

沅浦九弟左右：

八月一日罗逢元专丁归，接第二十四日信，知弟病渐痊愈复元。自长沙开船后，四十一日不接弟手书，至是始一快慰。而弟信中所云先一

日曾专人送信来兄处者，则至今尚未到，不知何以耽擱若是？

余自二十五日自江西开船，二十六至瑞洪，二十八日就谢弁之便寄信与弟。八月初二日至安仁，初四日至贵溪，王人瑞、张凯章及萧浚川之弟萧启源均在此相候。初六七可至河口，沈幼丹、李次青皆良觐不远矣。闽省浦城之贼于七月上旬中旬出犯江西，围广丰、玉山两城，次青以一军分守两县。各力战五六日夜，逆贼大创，解围以去。现在广信一带，次青勋名大著，民望亦孚。浙抚晏公于全浙肃清案内保举次青以道员记名，遇有江西道员缺出，请旨简放。将来玉山守城案内，余亦当优保之。苦尽甘回，次青今日得蔗境矣。

玉山之贼窜至德兴、婺源一带，将归并于皖南芜湖。余至河口，拟留萧军守河口，而自率张、王、朱品隆、吴国佐进剿闽之崇安。贼势日乱，或尚易于得手。

## 八月初六日

沅浦九弟左右：

接弟信，知体气尚未全愈。弟素体弱，大黄攻伐之品，非弟所能堪，而误服之后，此复冗较难。吉安克后，病当全去，元神尚亏，可至家中将养一月，仍来兄处帮办一切。或带勇或不带，或多带或少带，均听弟之自便，但不可不来帮我。我近来精神日减。此次之出，愿我者拭目以观其后效，好我者关心而虑其失坠。意城在此帮助，颇称水乳，手笔亦能曲达人意。特约定至玉山后即当别去，专望弟来照料一切。外和军旅，内检琐务，大小人才，悉心体察，庶可补余之短。弟决不可怀一不来之见也。

胡洞之中丞太夫人处，余作挽联云：“武昌居天下上游，看郎君新整乾坤，纵横扫荡三千里；陶母为女中人杰，痛仙驭永辞江汉，感激悲歌百万家。”胡家联句必多，此对可望前五名否？成章鉴极好，阿兄又当自诩眼力之不谬。

## 八月十四日 河口

沅浦九弟左右：

十三日在河口接弟专差初一日所发一信，借悉一切。

弟久病之后尚未复元，吉安克复之日，决计撤勇归田。在外太久，身体积弱。弟于军旅之事十分认真，而应酬诸务又复丝丝入扣，旁皇周

决，宜其神以过劳而致敝、心以过虑而多汗。久病不痊，实取是故。余亦以用心太过，积年衰耗，又兼肝气郁抑，目光昏花。近得次青、意城、仙屏三人相助为理，凡公牍信函，我心中所欲达，三人者之笔下皆能达之，稍觉舒畅。然意城有送至玉山即归之约，日内已萌归志，次青亦思归家觐母一次，吾与仙屏两人不克一一了办也。弟克城后还家住两个月，迅即来营帮办一切，替出次青得以归觐，则兄处之事，尚可判决如流耳。

余于十二日具奏遵旨援闽一折，言即日由分水关直捣崇安。是日申刻，闽贼回窜江西，楚勇败挫，泸溪、金溪、新城三县失守。十三早，凯章稟请回剿金溪，即时批准。十四早，凯军行矣。十五日，余亦当回驻弋阳，以便调度。余以援浙而来，改而援闽，今又改而剿办江西之贼，天下事固无定也。

胡超堂新简浙江巡抚。晏中丞于全浙肃清之后，忽得来京另候简用之命。不审何故？王人瑞现办营务处，勤勤恳恳，颇惬众心，次、意二公均极称之，或可相与有成。竹庄事，在章门并未与闻，以众论所不与，而弟与温老皆极不义之，未敢违人而行瞻私耳。

再，次青一军欠饷二十万，断难弥补。次青乃设一绝妙之法，捐十万两请增广平江县文武学额各十名，又捐五万两请增广岳州府文武学额各五名。咸丰三年新例，捐银万两者，除各该捐生家给予应得议叙外，其本县准加文武学额各一名。去年今春，湖南办捐输加额一案，长、善、阴、浏、潭、醴六属各加学额十名捐银至十万以上者，加额亦以十名为止，湘乡加三名，平江加一名。盖湘乡仅捐三万，平江仅捐一万，为数甚少也。次青以此项应得之口粮银出捐，加县学十名，府学五名，真可俎豆泮宫，流芳百世。各勇闻可刊碑勒名于学宫，亦皆欣然乐从。此事若成，诚为美举。前此咸丰三年，平江以团防出力，加文武学额各三名，系次青所办，湘乡援平江之例亦加额三名。弟营现在欠饷若干？若欠至七八万以上，则与各哨弁勇熟商，令其捐出。捐得七万，可增文武学额各七名，合之今春新增之三名，亦为十名，与长、善、阴、浏、潭、醴六邑相等。合之五年特奏增额之三名，则共为十三名矣。弟若办成此事，亦可俎豆泮宫，流芳无既。若弟营不能捐出许多，则或倡捐二三万，余再劝迪、希、浚、凯、玉班诸君子各捐若干万两，凑成七万之数，亦可办成此事，不让次青专美于平江也。

八月十七日 弋阳游

沅浦九弟左右：

八月十四日寄三十三号信，未言李次青捐饷增广学额一事，兹特将稟稿专人送吉。细思吾弟若撤散各勇，则必给予现银，以欠饷报捐，必非撤勇之所愿，而此事又似在当办之列。现在长、善、阴、浏、潭、醴六邑皆已增至十名，湘乡捐银不如六邑之多，此后自不能补捐。平江以勇丁欠饷而增府县学额至十五名，湘乡何不可仿行之？必须贤弟仍带勇不撤，多则一年，少则半载，此事必成无疑。

弟之不愿带勇者，以久病体弱也。吾之不强弟以多带全部勇来者：一则恐弟独统一部，另扎一营盘，不克在幕内帮办一切；一则恐饷项不继，愈久愈难也。近来因学额一事，反复细思，若不趁此军务未竣、皇恩浩荡之时协力办成，将来即捐银十万、二十万，欲求增一名学额，恐不可得。湘乡近年带勇剿贼，立功各省，极美极盛，而广额反不如长、善、阴、浏、潭、醴、平江之多，不可谓非一阙典。弟病后虽体弱，然回家养息两月，尽可复元。一张一弛，精神自可提振得起。

吉安克后，或先送五百人来，或先送千人来。其余各勇，或令休息两月，将来随弟同出，或竟行撤散，均听弟自行裁酌。总之，弟宜速到，为阿兄计，并为学额计也。饷项本极艰窘，然只好放开手使开胆，不复瞻前顾后畏首畏尾。吾弟以为何如？

八月二十二日 弋阳行营

澄侯、季洪两弟左右：

接两弟信，具悉家中四宅平安，不胜欣慰。

余于八月初八日至河口，本拟即日入闽，由铅山进捣崇安，十二日已拜折矣。其折稿寄吉安转寄至家。因闽贼出窜江西，连破泸溪、金溪、安仁三县，不得已派张凯章回剿。十八日抵安仁。十九日大战获胜，克复县城，杀贼约四千余，追至万年、乐平等县，尚未收队。待张军归来，余即率以入闽也。

家中养鱼、养猪、种竹、种蔬四事，皆不可忽。一则上接祖父以来相承之家风，二则望其外有一种生气，登其庭有一种旺气，虽多花几个钱，多请几个工，但用在此四事上总是无妨。澄弟在家无事，每日可仍临帖一百字，将浮躁处大加收敛。心以收敛而细，气以收敛而静。于字

也有益，于身于家皆有益。明年请师，仍请邓寅皆先生，人品学问，皆为吾邑第一流人。若在我家教得十年，则子侄皆有成矣。

后辈子侄，总宜教之以礼。出门宜常走路，不可动用舆马，长其骄惰之气。一次姑息，二次、三次姑息，以后骄惯则难改，不可不慎。

## 八月二十二日夜 弋阳

沅浦九弟左右：

二十二日未刻捷书至，知吉安于中秋夜克复，欣慰之至。自弟从军以来，变故百出，危疑困乏，极难下手。弟内治军旅，外和官绅，应酬周密，条理精严，卒能致此成功。余在江西数年，寸功未就，得弟隐忍成业，增我光华不少。

余至弋阳已发两信。张凯章十八日至安仁，十九日大战获胜，克复安仁县城，杀老长毛悍贼四千余人，闽之贼当以此支为最凶。二十日凯章收队。吴翔冈追至万年，与贼接仗，先胜后挫。刘隐震殉难，帮办死者三人幸而苍尚无下落。景德镇现尚有贼，我军为所牵制，目下尚难入闽。看来弟归不可久住，宜速来帮我也。

## 八月二十七日 弋阳将拔营时发

沅浦九弟左右：

吴翔冈万年之挫，查明实亡二十八人。帮办刘隐震之死，老湘勇人人痛之。余挽以联句云：“五藏共兵戈，地下知心王壮武；万年歆俎豆，沙场归骨马文渊。”此外军械失者甚少。翔冈二十五日收队，二十六日来弋阳一见。余即于二十七日拔营，张、吴二十七日自贵溪拔营，约二十九、三十日至陈坊取齐，由云际关入闽也。

闻吉安窜贼攻陷宜、崇二邑，余军行至陈坊时再行察看。如建昌危急，或分兵往剿亦未可知。然余职办闽省军务，未敢再迟也。

张、萧各军病者甚多，半系疟疫。许仙屏亦病，现留弋阳不能从行。次青、意城均有假归之意，余强留之。实则意城本约至玉山归去，不愿入浙闽，乃其初议。次青五年未归，思母极切，亦至情耳。弟若可速归速出，则望于十一月中旬到营，以便放次青归去过年。若目下不克速归，到家后不克速出，则请即日来营一次，小住二十日，俾次青得于九月归省亦好。两者在弟酌之。弟与次、意三人者有两人在余营，则余案无留牍矣。若仅一人在余营仙屏长于书启，公牍少逊，则必以彭椿年

辅之，尚至不可度事。

## 八月二十九日 双港行营

沅浦九弟左右：

二十七日在弋阳发一信，不知何日可到？

是日拔营仅行五里，二十八日行四十五里，双港驻扎。凯章自贵溪来会，语及闻中股匪复有二万余窜至新城，悉其与宜、崇贼合，窥伺抚、建，急欲赴援建昌、新城。营中如次青、人瑞、意城，皆力主此议。吴翔冈尚在贵溪，亦主此说。朱品隆等从而和之。余以初奏入分水关，次奏入云际关，不愿累迁其说，因众意所趋，勉强从之。惟可与弟会晤，是极幸事。望弟即日驰至建昌一会，细商一切。

## 九月二十八日

澄侯、季洪两弟左右：

九月十三日发折，奏明改道建昌之故。张凯章于二十四日拔营，由新城之杉关入闽。萧浚川于二十七八拔营，由广昌境内入闽。营中勇夫病者极多，张军之不能从行留建昌养病者至八百人之多，萧军亦复不少。吴翔冈所带千三百人，病者至四百人。建昌知府、知县皆病，委员中病者亦层见迭出。余身体尚幸平安。痼疾近日略愈。

九弟于二十六日到建，兄弟相聚极欢。克复吉安案内，湖南保九弟即选府加道衔。九弟若服闋入仕，将来必能作一好官也。

新学政单徐寿蘅放福建、郑小珊放山东。云仙不与，恐其不乐久居京师。

金陵大营去冬即有克复之望，今年六七月间，贼势尤极穷蹙。八月间，逆匪忽破浦口，德钦差营盘失陷。又破江浦、天长、仪徵三县。扬州被围，并有失守之说。南京之贼接济已通，气势复旺。天下事诚有非意料所及者，澄弟当自诩先见之明也。

再，正封函间，接澄弟九月十二日来信，兹亦分条复告如左：

一、蔬菜茂盛，此是一家生意。细塘上之横墙，不筑尽可，下首须雄过上首。此吾弟之老主意，兄亦颇主此说。且有菜无淤，亦是周济。

二、湘乡捐建忠义祠。所奉谕旨前已寄归。迪庵捐银二千两已付归，交朱铁桥手。余捐银千两，拟于九弟归时寄银五百，明年再寄五百，俟择能手修理也。

## 曾国藩家书

三、余意欲为竹亭公立祠置产，恩在大坪等处，取其在老屋上下适中之区。将来即以此作祭产，实获我心。屋前屋后总须多种竹树，以期气象葱郁。

四、余去年在家，见家中日用甚繁。因忆先大夫往年支持之苦，自悔不明事理，深亏孝道。今先人弃养，余岂可遽改前辙？余昔官京师，每年寄银一百五十两至家，只有增年更无减年，此后拟常循此规。明知家用浩繁，所短尚巨，求老弟格外节省。现虽未分家，而吃药、买布及在县、在省托买之货物，必须各房私自还钱，庶几可少息争尚奢华之风。

五、纪泽照常读书，不作倖倖之态，余亦欣慰。闻右九言纪秉右眼亦愈矣。子侄辈须以敬恕二字常常教之。敬则无骄气，无怠惰之气；恕则不肯损人利己，存心渐趋于厚。

### 十月初三日

澄侯、季洪两弟左右：

张凯章二十四日拔营后，中途各勇夫患病者极多，在资福桥小住调养，日内尚未入闾。

闾中贼势亦渐松矣。北路洋口之贼，已被周天培击破，仅存顺昌股匪，数不满万。南路汀州之贼亦极散漫，所虑零星不成大股，此剿彼窜，难于奏功耳。江北贼势复炽。张军门自金陵带兵渡江，于九月十六日克复扬州，大局尚可保全。

天津夷务，闻和局已定，出银六百万与该夷作军资。见诸闽督来咨，余务尚未尽悉，想广州亦将退出矣。

余身体平安。自九弟来此，日增快慰。营中疾病尚多，冬令气敛，当渐愈耳。

### 十月十五日

沅浦九弟左右：

十二日解缆，闻可行六十里，甚慰。至许湾后，当更顺也。余十二日游麻源，较麻姑山稍胜。日内当发一折，报近日军情，声明暂驻建昌，不遽东也。温弟处复信十四日始行。

江北六合、江南溧水均于九月十八日失守。沈幼丹信言金陵大营退扎白兔、镇江一带。顷接何制军十月初三咨，无和帅移营之说，想不



确也。

黄东山太守十三日病故，余拟飭各处凑赠千金，以五百办后事及归棹贵州之资，以五百周其妻子。应俟新太守到，呼应乃灵耳。

乾隆五十五年殿刻仿宋岳珂本《相台五经》极为可爱，近程春海仿刻于贵州，不知庄木生有此书否？即近问好。

## 十一月十二日

澄侯、沅浦、季洪老弟左右：

二十五日闻三河挫败之信，专安七、玉四送信回家。三十日，就县局回勇之便又寄一信。初五日，又专吉字营勇送九弟朔口所发之信。其时尚幸温弟当无恙也。兹又阅八日，而竟无确信，吾温弟其果殉节矣。呜呼恻哉！

温弟少时性情高傲，未就温和，故吾以温甫字之。六年，在瑞州相见，则喜其性格之大变，相亲相友，欢欣和畅。去年在家，因小事而生嫌衅，实吾度量不阔，辞气不平，有以致之，实有愧于为长兄之道。千愧万悔，夫复何言！自去冬今春以来，吾喜温弟之言论风旨洞达时势，综括机要。出门以后，至兰溪相见，相亲相友，和畅如在江西瑞州之时。八九月后，屢次来信，亦皆和平稳愜，无躁无矜。方意渠与迪庵相处，所依得人，必得名位俱进，不料遭祸如是之惨！迪庵一军，所向无前，立于不败之地。不特余以为然，即数省官绅军民，人人皆以为然。此次大变，迪庵与温弟皆不得收葬遗骨，伤心曷极！

现在官制军、骆中丞皆奏请余军驰赴江北，计十五六及月杪可先后奉旨。如命余赴皖楚之交，余留萧浚川一军防剿江闽，自率张、吴、朱、唐及吉字中营赴皖。必求攻破三河贼垒，收寻温弟遗骸，然后有以对吾亲于地下。若谕旨令余留办闽贼，则三河地方不知何年方有兵去，尤为痛悼。

九弟久无信来，想竟回家矣。想过蕲、黄等处，闻温弟确耗，不审如何哀痛！何无一字寄我？自九江至长沙，水路二千余里，湍急而风亦难顺，不知途次如何愁闷！如能迅速到家，亦是快慰之一端。

去年我兄弟意见不和，今遭温弟之大变。和气致祥，乖气致戾，果有明征。嗣后我兄弟当以去年为戒，力求和睦。第一要安慰叔父暨六弟妇孀、庶二二人之心。命纪泽、纪果、纪鸿、纪渠、纪瑞等轮流到老屋久住，五十、大妹、二妹等亦轮流常去。并请亦山先生常住白玉堂，安慰渠姊之心。二要改葬二亲之坟。如温弟之变果与二坟相关，则改葬可以

攘凶而迪吉；若温弟事不与二坟相关，亦宜改葬，以符温弟生平之议论，以慰渠九泉之孝思。三要勤俭。吾家后辈子女皆趋于逸欲奢华，享福太早，将来恐难到老。嗣后诸男在家勤洒扫，出门莫坐轿；诸女学洗衣，学煮菜烧茶。少劳而老逸犹可，少甘而老苦则难矣。至于家中用度，断不可不分。凡吃药、染布及在省在县托买货物，若不分开，则彼此以多为贵，以奢为尚，漫无节制。此败家之气象也。千万求澄弟分别用度，力求节省。吾断不于分开后私寄银钱，凡寄一钱，皆由澄弟手经过耳。

温弟殉难事，吾当另奏一折。九弟在湖北若得悉温弟初十日详细情形，望飞速告我，以便入奏。若希庵有详信来，吾即先奏亦可。纪寿侄目清眉耸，忠义之后，当有出息，全家皆宜另目看之。至嘱至嘱。

## 十一月二十三日

澄侯、沅浦、季洪老弟左右：

十七日接澄弟初二日信，十八日接澄弟初五日信，敬悉一切。三河败挫之信，初五日家中尚无确耗，且县城之内毫无所闻，亦极奇矣！

九弟于二十二日在湖口发信，至今未再接信，实深悬念。幸接希庵信，言九弟至汉口后有书与渠，且专人至桐城、三河访寻下落。余始知沅浦弟安抵汉口，而久无来信，则不解何故。岂余近日别有过失，沅弟心不以为然耶？当此初闻三河凶报、手足急难之际，即有微失，亦当将皖中各事详细示我。

今年四月，刘昌绪在我家请乩。乩初到，即判曰：“赋得偃武修文，得闲字字迹败字。”余方讶败字不知何指。乩判曰：“为九江言之也，不可喜也。”余又诘九江初克，气机正盛，不知何所为而云。然乩又判曰：“为天下，即为曾宅言之。”由今观之，三河之挫，六弟之变，正与“不可喜也”四字相应，岂非数皆前定耶？

然祸福由天主之，善恶由人主之。由天主者，无可如何，只得听之；由人主者，尽得一分算一分，撑得一日算一日。吾兄弟断不可不洗心涤虑，以求力挽家运。第一，贵兄弟和睦。去年兄弟不和，以致今冬三河之变。嗣后兄弟当以去年为戒。凡吾有过失，澄、沅、洪三弟各进箴规之言，余必力为惩改；三弟有过，亦当互相箴规而惩改之。第二，贵体孝道。推祖父母之爱以爱叔父，推父母之爱以爱温弟之妻妾儿女及兰、蕙二家。又，父母坟域必须改葬。请沅弟作主，澄弟不可过执。第三，要实行勤俭二字。内间妯娌不可多写铺帐。后辈诸儿须走路，不可

坐轿骑马。诸女莫太懒，宜学烧茶煮菜。书、蔬、鱼、猪，一家之生气；少睡多做，一人之生气。勤者生动之气，俭者收敛之气。有此二字，家运断无不兴之理。余去年在家，未将此二字切实做工夫，至今悔恨，是以谆谆言之。

## 十二月初三日

澄侯、沅浦、季洪三弟左右：

初一日接澄弟信，知玉四等于初十日到家，尚未接六弟确耗也。沅弟初九日在长沙所发之信，二十五日接到，甚慰甚慰！此次江行之速，为从来所未有。在汉中所发之信，至今尚未接到。

沅弟抵家后，不得温甫实信，不知何如忧伤！吾派人至江北，至今未归。沅弟所派六人至三河、桐城访查者，想亦无真实下落也。已矣！尚何言哉！吾去年在家，以小事争竞，所言皆偏袒细故。洎今思之，不值一笑。负我温弟，即愧对我祖我父，悔恨何极，当竭力作文数首，以赎余愆，求沅弟写石刻碑。沅弟字有秀骨，宜日日临帖作大楷。凡余文概请沅弟写之，组田刻之，亦足少慰我心中抑郁愧悔之怀。

余近日体尚平安，张凯章于初二日拔营赴景德镇，吴翔冈初四日起行。吾于新正亦当移营进扎鄱阳、彭泽等处，与水师相联络，即可为江北之声援。萧军现赴南赣，贼踪已远，大约回广东矣。如江闽一律肃清，明岁并带萧军至九江两岸也。

付回银一百两，寄送亲戚本家，另开一单，不知当否？

## 十二月十三日

澄侯、沅浦、季洪三位老弟左右：

温弟之事，家中不知如何举动？至今犹无手信，尚忍言哉？昨希庵接霍山王令信，言迪庵及筱石遗骸业经寻得，兹抄付归。不知我温弟尚能返葬首邱否？吾往年在外，与官场中落落不合，几至到处荆棘。此次改弦易辙，稍觉相安。去年在家，兄弟为小事争竞。今日温弟永不得相见矣。回首前非，悔之何及！

洪弟明年出外，尚须再三筹维。若运气不来，徒然愠气。帮人则委曲从人，尚未必果能相合；独立则劳心苦力，尚未必果能自立。如真能受委曲，能吃辛苦，则家庭亦未始不可处也，望与沅弟酌之。

再，此次寄银百两与刘峙衡之嗣子。我去年丁艰时，峙衡穿青布衣

寇来代我治事，至今感之，故以此将意。或专使送去，或交纪泽正月带去，斟酌之。葛培因昨归于玉山解围案内保举主簿，兹将饬知付回。望专人送去，并望写一信，言明年不可再来投效，来则决不再收。须切实言之，使通境皆闻也。古人言今日之恩宴即异日之怨门，其理深矣。

## 十二月十六日

澄侯、沅浦、季洪老弟左右：

十五日接澄、沅冬月二十九、三十两函，得悉叔父大人于二十七患病，有似中风之象。

吾家自道光元年即处顺境，历三十余年均极平安。自咸丰年来，每遇得意之时，即有失意之事相随之至。壬子科，余典试江西，请假归省，即闻先太夫人之讣。甲寅冬，余克武汉田家镇，声名鼎盛，腊月二十五甫奉黄马褂之赏，是夜即大败，衣服、文卷荡然无存。六年之冬、七年之春，兄弟三人胥师于外，瑞州合围之时，气象甚好，旋即遭先大夫之丧。今年九弟克复吉安，誉望极隆，十月初七接到知府道衔谕旨，初十即有温弟三河之变。此四事者，皆吉凶同域，忧喜并时，殊不可解。现在家中尚未妄动，妥慎之至！余在此则不免惶惶。所寄各处之信，皆言温弟业经殉节，究欠妥慎，幸尚未入奏，将来拟俟湖北奏报后再行具疏也，家中亦俟奏报到日乃有举动。诸弟老成之见，贤于我矣。

叔父大人之病，不知近状何如？兹专法六归，送鹿茸一架，即沅弟前此送我者。此物补精血远胜他药，或者有效。

迪公、筱石之尸业经收觅，而六弟无之，尚有一线生理。若其同尽，则六弟遗骸必去迪不远。沅弟信言家庭不可说利害话，此言精当之至，足抵万金。余生平在家在外，行事尚不十分悖谬，惟说些利害话，至今悔恨无极。

## 十二月二十日

澄侯、沅浦、季洪老弟阁下：

十五日接叔父患病之信，十六日专王发六送鹿茸回家，限年内赶到。十七早接澄弟二信、沅弟一信。叔父病势已愈，大幸大幸！温弟之事，日内计已说破，不知叔父与温弟妇能少节哀否？温弟妇治家最贤，而赋命最苦，不知天理何以全不可凭？

十八夜接希庵信，知沅弟所派六弁已回，皆未寻得，而迪庵遗骨于

初一日已搬至霍山县。同一殉节，而又有幸不幸若此！余又专五人去寻，中有二人系贼中逃出者，言必可至三河故垒。其三人则杨名声、杨镇南、张吟也。能寻得遗蜕，尚是不幸中之一幸。否则，吾何面目见祖考妣及考妣于地下哉？

## 咸丰九年己未岁

正月初一日

澄侯、沅浦、季洪三弟左右：

十二月二十三日接澄、沅初十、十一日信，除夕又接十六日信，敬悉叔父大人身体气渐好，不致成中痰之症，如天之福，至幸至幸！两弟缄中所言各事，兹分条列复如左：

一、先考妣改葬事决不可缓。余二年、七年在家主持葬事，办理草草，去冬今春又未能设法改葬，为人子者第一大端，问心有疚，何以为人？何以为子？总求沅弟为主，速行改葬，澄弟、洪弟帮同料理，为我补过。至要至祷！

二、张凯章于十八日至景德镇附近地方，十九日分两路进。王铃峰、吴走西路，凯章走东路。王、吴挫败，义营亡百人，吉左营九人，副湘营三十七人，营务处十二人。在行仗则已为大伤，幸凯章全军未与其事。现尚扎崖角岭，去景德镇二十余里，势颇岌岌。兹札调朱南桂、朱惟堂飞速来军，望即专人送去。又王人树一信亦速送去。彼岑信，弟阅后封寄。

三、季弟决计出外，不知果向何处？今日办事之人，惟胡润之、左季高可与共事。此外皆若明若昧，时信时疑，非季弟所能俯仰迁就也。沅弟宜再三开导，令季弟择人而事，不可草草。或沅、季同来吾营，商定后再赴他处亦可。

四、沅弟所画屋样，余已批出。若作三代祠堂，则规模不妨阔大；若另起祠堂于雷家湾，而此仅作住屋，则不宜太宏丽。盖吾邑带勇诸公，置田起屋者甚少，峙衡家起屋亦乡间结构耳。我家若太修造壮丽，则沅弟必为众人所指摘，且乱世而居华屋广厦，尤非所宜。望沅弟慎之慎之，再四思之。祠堂样子，余亦画一个付回，以备采择。

## 正月初八日

澄侯、沅浦、季洪三弟左右：

正月初七日接沅弟腊月二十日信，敬悉叔父大人病体大愈，远怀少慰。除夕、元旦两日不知温弟妇伤痛奚似！此间派杨名声、杨镇南等到舒城一带访寻，日内尚无确耗。接胡中丞三、四信，似于温弟事极关切。可感可感！杨弁等去，吾亦告之：苟有可图，费二三千金不惜也。

吉中营事，吾未细查，派四川曾佑卿太守在营看操，意在为沅弟分劳。然合营望沅甚切，正不能不早来。来此从容调停，再谋蝉蛻可耳。

兄国藩顿首

再，凯章于二十七日大获胜仗，杀贼近千，景德镇一军当可站住。惟贼多而狡，垒密而坚，恐刻下难遽克复。吴翔冈败后，禀告病请撤，吾已批准撤之，派凌荫庭前往接统。翔不服凯章，铃峰亦与凯齟齬，并讥其不应用统领老湘营。全军关防，凯已换刻矣。吾爱惜凯章，不得不撤翔也。

## 正月十三日

澄侯、沅浦、季洪老弟左右：

初十日接胡中丞信，迪庵及温弟已奉旨优恤，迪公饰终之典至隆极渥。其灵柩二十五日到湖北，二十六日宣读恩旨，二十九日请官中堂题主，正月初三日起行还湘，备极哀荣。温弟与之同一殉难，而遗骨莫收，气象迥别。予于十一日具折奏温弟殉节事，盖至是更无生还之望矣。惕哉！家中此刻已宣布否？若尚未宣布，则请更秘一月，待二月间杨镇南等归来，我折亦奉批转来。如实寻不得，则招魂具衣冠以葬。余上无以对祖考妣及考妣，下无以对侄儿女。自古皆有死，死节尤为忠义之门，弃世有光，本无所憾，特以骸骨未收，不能不抱憾终古。

沅弟近日出外看地否？温弟之事，虽未必由于坟墓风水，而八斗冲屋后及周莹冲三处皆不可用，子孙之心，实不能安。千万设法，不求好地，但求平妥。洪夏之地，余心不甚愿。一则嫌其经过之处山岭太多，一则既经争讼，恐非吉壤。地者，鬼神造化之所秘惜，不轻予人者也。人力所能谋，只能求免水、蚊、凶煞三事，断不能求富贵利达。明此理，绝此念，然后能寻平稳之地。不明此理，不绝此念，则并平稳者亦不可得。沅弟之明亮能了悟。余在建尚平安，惟心绪郁悒，不能开怀，殊褊浅耳！

## 正月二十三日 建昌军中

澄侯、沅浦、季洪老弟左右：

正月十三日发第三号信并折稿及温弟优恤之旨，十八日王林三等来，得知家中四宅平安，甚慰。

此间军事，去腊十九日吴翔冈之挫，亡百六十人，二十七日凯章之胜，亦亡九十人，正月十一日凯章又小挫一次。其第五旗扎牛角岭，距凯章老营十八里之远，十二早被贼攻陷。余因五旗去凯太远，除夕曾有信止之。凯复书言旗长可恃，未移也。五旗被陷之后，又换三旗扎该处。余甚为悬悬，又函止之矣。凯军现处孤危之际，不得不思所以济之振之。已派彭山纪回湘调兵六百名，派余星焕回湘招勇千名，与喻吉三同带之。又令朱品隆添勇二百名，函告王人树添勇三百名，又令张岳龄招平江勇千二百名。共添三千余人。向耆中丞索取餉项，能得与否，尚未可知，然不能不放手一办也。待兵勇到时，先派在建老营，赴凯章处助剿，将来须另派统领，另打一支，与萧、张分为三路，庶足以张犄角之势。此间各营，望沅弟如望岁，吉字中营尤如婴儿之望慈母。吾前欲派吉中营傅朱、唐去攻景镇，莘田及各帮带皆以沅弟未来，不敢作主。

余近日心绪郁郁，望沅弟来此叙手足之情，并商定大局。九弟于二月间来营，一面为我画定全局，一面将吉字中营安个实在着落，住数月后再行回家。温弟遗蜕若竟寻不得，则沅弟于江北宿松等处招魂而归，具衣冠而葬。将来改葬先考妣时，即将温弟衣冠附葬于二亲之旁。若鬼神呵护，温弟忠骸一旦寻得，则九弟即迎温弟灵柩以归，是亦不幸中之一大幸。先考妣改葬时，附寻吉地以葬温弟，亦可少慰叔父及温弟妇之心。若九弟久不来营，吉中营全无着落，家中不能寻地，温弟招魂葬衣冠等事早也不好，迟也不好。沅弟心悬数处，均不妥善。是否应于二月来营，数月再归，望沅弟与叔父、澄、季熟商妥办。余此次函催郭意城、王人树、王枚村来营，皆言沅弟于二月来营。沅弟若有信与意、树诸公，可邀其同行也。

再，吾近写手卷一大卷。首篆字五个，次大楷四十八个，后小行书二千余，中间空一节，命纪泽觅此三十二人之遗像绘之于篆字之后、大楷之前。查武梁祠画像内有文、周、孔、孟诸像，外间间有藏本。翁覃溪《两汉金石记》曾刻之，王兰泉《金石萃编》亦刻之。此外如名臣像亦间有之。纪泽觅得像底，则双钩摹于卷内，不必着色也。或嫌此卷太大，则另办一卷画像。此卷即先付长沙装潢，楠木匣藏之，将来求沅弟

精钩刻石。其像有不可尽得者，略刻数像可也。吾生平读书百无一成，而于古人为学之津途，实已窥见其大，故以此略示端绪。手此再告澄、沅、季三弟，并谕纪泽儿知之。

## 正月二十八日

澄侯、沅浦、季洪三弟左右：

二十七日亥刻接胡润公专丁来信，知温甫弟忠骸业经寻获，是犹不幸中之有幸。惟先軫丧元，又幸中之一大不幸。计胡中丞亦必有专信另达舍间。沅弟此时自不便遽出，应觅地两所。一面改葬先考妣，一面安厝温弟。润公待我家甚厚，温弟灵柩归舟，想必妥为照料。吾即派杨名声等三舟送湘乡也，墓志铭作就，再行专丁送归。

## 二月大祥前一日

澄侯、沅浦、季洪三弟左右：

玉四等来，得知叔父大人病势稍加，得十三日优恤之旨，不知何如？顷又接十九日来函，知叔父病已略愈，欣慰欣慰！然温弟灵柩到家之时，我家祖宗有灵，能保得叔父不添病，六弟妇不过激烈，犹为不幸中之有幸耳。

此间兵事，凯章在景镇相持如故，所添调之平江三营、宝勇一营均已到防，或可稳扎。渡川在南康之新城墟打一大胜仗，夺伪印四十三颗、伪旗五百余面，皆解至建昌，甚为快慰！惟石达开尚在南安一带，悍贼亦多，不知究能扫荡否？吉中营以后常不离余左右，沅弟尽可放心起屋起祠堂。

沅弟言“外间誉议，沅自任之”。余则谓外间之誉议不足畏，而乱世之兵燹不可不虑。如江西近岁凡富贵大屋无一不焚，可为殷鉴。吾乡僻陋，眼界甚浅，稍有修造，已骇听闻，若太闳丽，则传播尤远。苟为一方首屈一指，则乱世恐难幸免。望弟再斟酌，于丰俭之间妥善行之。改葬先人之事，须将求富求贵之念消除净尽，但求免水蚁以安先灵，免凶煞以安后嗣而已；若存一丝求富求贵之念，必为造物鬼神所忌。以吾所见所闻，凡已发之家，未有续寻得大地者。沅弟主持此事，务望将此意拿得稳、把得定。至要至要！

纪泽姻事，以古礼言之，则大祥后可以成婚再期为大祥；以吾乡旧俗言之，则除灵道场后可以成婚。吾因近日贼势尚旺，时事难测，颇有



早办之意。纪泽前两稟请心壶抄奏，尽可行之，吾每月送修金二两。应抄之奏，不知家中有底稿否？折抄一篇，可寄目录来一查，注明月日。纪泽之字，较之七年二三月间远不能逮。大约握笔宜高，能握至管顶者为上，握至管顶之下寸许者次之，握至毫以上寸许者亦尚可习；若握近毫根，则虽写好字，亦不久必退，且断不能写好字。吾验之于己身，验之于朋友，皆历历可征。纪泽以后宜握管略高，纵低亦须隔毫根寸余。又须用油纸摹帖，较之临帖胜十倍矣。

沅弟之字不可抛荒，如温甫哀辞、墓志及王考妣、考妣神道碑之类，余作就后，均须沅弟认真书写。《宾兴堂记》首段末偈，待日内改就，亦须沅弟写之。沅弟虽忧危忙乱之中，不可废习字工夫，亲戚中虽有漱六、云仙善书，余因家中碑版，不拟倩外人书也。

## 二月十三日 清水铺营次

温侯、沅浦、季洪三位老弟左右：

张凯章一军二十八日小挫，阵亡二百六十余人。平江营之新到者亦阵亡二十余人。正焦灼之至，幸婺源于二月一日克复，贼南往祁门一带，浮梁于初四日克复。浮梁去景德镇三十里，婺源去镇百余里。三处之贼，本系互相犄角，互相联络。今婺源即克，则镇贼之后路稍空，声势稍孤矣；浮梁既克，则贼不敢绕出乐平、抄凯章之后。初五日刘养素又打一胜仗，夺贼战舟五号、民船百余，夺贼垒十余座，西路之军威一振。凯章在东路或亦无恐矣。初三日萧浚川一军克复南安府城。南路贼势似稍散漫，或者易于剿办，全数逃出广东亦未可知。余前因景德镇官军危急，恐贼锋内犯，先及抚州。定计移驻抚州，拟初十日拔营，因雨不果。十二日冒雨拔营，仅行十五里，驻扎清水铺。泥深没胫，小住一日。

正月十一日所奏通筹全局、温弟殉节等折，今尚未接批谕。温弟忠骸于三十日到黄州，胡中丞致祭尽礼，派都司姚敏忠送回湘中，计二月二十外可到。记得出门甫满一年，今日归骨而不归元，可胜惨痛！七年，兄弟争辩不休。今日回思，皆芝麻细故，可胜悔恨！罗椒生之祖在四川阵亡，亦系归骨而不归元。厥后卜葬得吉壤，葬十余年而产椒生，二十余年而椒生之父举于乡，三十余年而椒生以甲午举乡试，乙未入词馆。温甫生前郁抑不伸，或者身后能享罗家之报乎？杨镇南自三河归，余即作墓志付回。温弟照道员例优恤，昨初九日已具折谢恩，数日内再行抄稿寄家。

李迪庵之丧，余送奠金二千两，挽联一付，句云：“八月妖星，半壁东南摧上将；九重温诏，再生申甫佐中兴。”盖去年彗星，人以为迪庵应之也。余不一一，顾问近好。

正封函间，接奉正月十一日各折批。谕温弟一折，奉旨赏给叔父从二品封典。盖未知前此已受从一品、正一品两次封典也。若前此未经赐封，则此次恩亦匪矣。惟受侄之封与受子之封，覃恩普遍之封与谕旨特颁之封究有不同。即日当具折谢恩，并声明“浩轴则拜此次之新纶，以彰君恩之稠迭；顶戴则仍二年之旧典，以明宠贲之久增”云云，庶叔父先受侄封，后受子封，二者并行不悖。

余于正月具折之时，本拟为温弟乞恩赐谥，因恐交部议驳，反为不美，遂未奏请。此次又与次青、仙屏再三商酌。次青之意，谓皇上以同知而予二品封，已属非常之恩，请谥之举，不若留以有待将来；如有战功，皇上或加恩国藩之身，则一面自己辞谢，一面乞恩为温甫请谥云云。次青此说，甚有见解。特不知将来有机可乘否？又作折甚难着笔，亦恐江楚各省识者见哂也。

## 二月二十三日夜

澄侯、沅浦、季洪老弟左右：

曾恒五等来，接家信，应复之事分列于后：

一、夏家之地既经买得，可即于三月改葬？贼氛方盛，人事之变不可知；早改一日，即早放一日之心。沅弟来营一次，能否如期告归，尚未可必；且周壁冲之有凶煞，众议金同。自温弟遭难后，余常以七年择地不慎为悔，故此时求改葬之意尤形迫切。

二、沅弟晋省迎接温弟忠骸，计日内已在省接到矣。温弟读书颇有识，而生前于科名之途太蹇，死后又有阙憾。余拟作哀辞、墓志、家传等文，沅弟亦宜作文以抒其意。将来汇刻一本，俾纪寿长大有所考核。文成后寄来营中，一为订定。

三、南安之贼窜入湖南，连陷桂阳、宜章、兴宁三县，吾乡必大震动。现派萧浚川速赴吉安，如贼犯茶陵、安仁等处，即由吉安横出截剿。浚川稳而且悍，或者足资防御。

四、起祠堂之事，本系要务不可缓者，刻下湖南贼氛正盛，我家为众人所瞻仰，举动不可不慎，目下不宜兴工。

五、纪泽惠中问看书之法。《经义述闻》博洽精深，非初学所能看，目下不必看也。看注疏时有不能解者，偶一翻查则可耳。做赋亦可不必。

## 三月初三日

澄侯、沅浦、季洪三弟左右：

自接沅弟十七日在省一信，至今七日未接长沙嗣音，不知耒阳、常宁、安仁、衡州近状何如？至为悬念！团练之法，余向不甚以为然，而我邑此次却须有团练以壮声威。望澄弟尽心为之，无以我言为典要也。

此间新招之三千余人，余星煥等之长宁勇千人于初一日到营，张子衡平江勇千三百人已到千零，将齐。凌荫庭之接带义勇营千人俱扎黄溪，俟练妥后，即日亦当来老营。惟彭山纪之兵未到，到齐时，老营共七千余人。将卒皆跃跃欲试，气象颇好，似堪一战，惜无好统领临阵指麾之耳。

湘勇之在江者，多有回援湖南之意。吾令凌川由吉安回茶陵，已去二札一批，至今尚未回信。又派吴翔冈回援。翔冈之营虽交凌荫庭，尚留四百人，合新招之三百人，亦差足成军。王铃峰、张凯章稟请回援。此时景镇未克，碍难撤退。二十四日，镇贼扑凯章所辖之祥字营，一击即退。凯军近日已稳，但难期克复耳。

我日记中都闷之怀虽不能免，然痼疾已愈十分之八九，办事精神亦较六年略好，往年心中愧悔之事，与官场不和之事，近亦次第消融而弥缝之。惟七年在家度量太小，说话太鄙，至今悔之。此外，方寸尚泰然也。

## 三月初八日 申刻

澄侯、沅浦、季洪老弟左右：

接沅弟二十四日在县城所发之信。贼不直趋衡州，俾我得以从容设备。若谢泰平水师至耒河口，王人树陆军入衡城，要郡固守，则各处皆易布置。甚慰甚慰！

今日接奉谕旨，温弟之子纪寿交吏部带领引见，将来无论何项恩典，皆系至荣，温弟九原之下亦可少慰。兹专人送回，以安叔父与温弟妇之心。

此间诸事平善，刘杰人腾鹤于二十八日在建德之云风岭阵亡。渠率札守彭泽，而自请进剿建德，不自量力。其麾下阵亡者至五百余人，此后不能成军矣。普钦堂独当湖口、彭泽，恐难胜任。如有疏虞，则养素在饶州可危，雪琴在湖口亦可危也。

今年军事，沅弟缄言“稳扎稳打，机动则发”，良为至论。然机字殊不易审，稳字尤不易到。余当一一奉为箴言，与澄弟之缄常常省玩耳。

### 三月十三日

澄、沅、季三位老弟左右：

温弟忠棣初三自黄州开行，尚未到省，殊深系念。纪寿侄既奉恩旨交吏部带领引见，其叔父大人诰封，仍当咨部恭领诰轴。盖第二次谕旨中有“着再加恩”字样，再字即承前次诰封之旨言之也。请溢一节，不敢再渎矣。

沅弟信中交裕谏语之说，兄早虑及之。七年闰五月十七初得谕旨时，正在白玉堂拆阅，叔父欲将此四字悬匾槽门，余不甚愿，亦未免中有所忌。然此等大事，冥冥中有主之者，皆已安排早定。若兄则久已自命与其偷生而丛疑谤，又不如得所而冥悔储耳。

沅弟问克复景镇作何调遣？目下镇贼狡悍，似难遽克。既克之后，如湖南渐安，萧军复来，则当全力以规皖南；如湖南尚危，萧军留湘，则且休兵以驻湖、彭。是否有当，俟沅弟来营面商尚不为迟。

纪泽儿问地图六分，可否送一分与文辅卿？此图刻板在新化，尚属易购，可分一与文也。所论怀祖先生父子解经，什九着意于假借字。本朝诸儒，其秘要多在此，不独王氏为然。所问各书：《易林》长沙蒋氏曾刻过；《汉魏丛书》亦有之；《逸周书》，杭州卢抱经丛书有之；唐石经，陕西碑洞有之，唐开成元年刻字，类欧帖，可托人刷买，郑南侨现官陕西，亦可托也。

### 三月二十三日 抚州军中

澄侯、沅浦、季洪三弟左右：

温弟灵棣于初十到县，十五可到家，至以为慰。又幸叔父能亲笔写字，得纪寿引见恩旨后，必可日就康强，尤为家庭之福。

凯军在景德镇相持如故。十三日打一小胜仗。十六日二更，贼放火伪遁以诱我，我军亦未受其害。老营气象如常。湖南每月协饷三万，因有事停解。余以萧军之二万五千余请其发给，亦差足相当。吉营望沅弟甚切，四月能来为妙。澄弟身常劳苦，心常安逸，最善最善。余近日事亦平顺，以心血太亏，故多忧疑，恒用自警。沅弟劝我规模宜阔，我可

勉而几也。其谓处事宜决断，则尚有未能。用情之厚薄，惟李家贻仪略厚，以巢以厓金济我军已二万余，不可无以酬之。此外皆循旧规耳。

再，芝生前有信，请用大字书格言，兹写挂屏四张寄之。虽非格言，亦聊以答其殷殷之意。芝生、翠山皆亲戚中之极可敬爱者，沅弟在家，以润泽族戚朋友者，皆得其当。若能于族戚之读书者更加一番奖励，暗暗转移风气，人人讲究品学，则我家之子弟随在观感，不期进而自进。沅弟于此等处曾加体验否？

## 四月二十三日

澄侯、沅浦、季洪三位老弟左右：

日来上游信息何如？闻东安之贼窜至新宁，江、刘两家被害，信否？沅弟初六日果起行否？

景德镇久未开仗，凯章与铃峰泊难和协。所派屈见田带平江老中营于初八日到湖口，与雪琴至交。水陆得渠二人，湖口应可保全矣。下游张国梁在江北浦口小挫一次，胜帅定远大营亦屡次挫败。各处军事皆不甚得手。幸雨泽沾足，天心尚顺，当有转机。

家中一切，自沅弟去冬归去，规模大备。惟书、蔬、鱼、猪及扫屋、种竹等事，系祖父以来相传家法，无论世界之兴衰，此数事不可不尽心。朱见四先生向来能早起，又好洁有恒，此数事应可认真经理也。

余此次再出，已满十个月。论寸心之沉毅愤发志在平贼，尚不如前次之坚。至于应酬周到，有信必复，公牍必于本日办毕，则远胜于前。惟精神日衰，虽服参茸丸亦无大效。昨胡中丞又专使赠送丸药，服之亦无起色。目光昏花作疼，难于久视。因念我兄弟体气皆弱，澄弟、季弟二人近年劳苦尤甚，趁此年力未衰，不可不早用补药扶持。季弟过于劳苦，尤须节之。沅弟想已启行矣。

## 五月初三日

澄侯、季洪两弟左右：

沅弟到营，详询家中一切，多所慰喜。

日内未得南中军报，不知宝庆等处近状何似？此间诸事如恒。吉字中营、朱唐两营与新添之三营操演颇勤，队伍颇整，端节后即令其全赴景德镇会剿。沅弟率之以行，初九、十一或可启行。湘后营刘杰人在彭泽败后，其营现来抚州，留在身边护卫。普承尧在建德大败，其勇多溃

走九江。渠暂守彭泽，恐亦不能久驻耳。

余身体平安，而怕热异常，出汗甚多。眼蒙如故，不增不减。痢疾较春间稍甚，比之往年则大好矣。

## 五月初六日

澄侯四弟左右：

今年以来，贤弟实太劳苦，较之我在军营，殆过十倍，万望加意保养也。祁阳之贼或可不窜湘乡，万一窜入，亦系数万家各有定数，余已不复悬系。

余自去年六月再出，无不批之稟，无不复之信。往年之嫌隙忧悔，业已消去十分之七八。惟办理军务仍不能十分尽职，盖精神不足也。贤弟闻我在外近日尚有些什么错处，不妨写信告我。

余派委员伍华翰在衡州坐探，每三日送信一次，家中若有军情报营，可交伍送也。

## 五月十三日

澄侯四弟左右：

贼集宝庆，官兵将近三万人，应足御之，若竟无一匪窜入湘乡境上也。即有闾人邑界者，团练堵于前，赵、周、王诸军追于后，或亦可以无碍。

此间一切如常。朱、唐两营，喻吉三、凌荫庭两新营，均于初九日拔赴景德镇。吉中营、岳字新营，十一日拔营前进。初九早，九弟在余公馆行释服礼。三献礼毕，除服即吉，天甫黎明，尚属整齐。十一早，九弟起行赴景德镇。十二、三皆大雨，路上甚辛苦也。

下游情形，江北浦口、六合等处，前甚危急，近已获胜仗，军情尚安。胜克斋于四月十二日在天长败挫，其定远老营尚无恙。

余日内精神困倦，血不养肝。幸刘星房来营，日与畅谈，略觉爽快。星翁老年失明，殊可悯念。幸其子蕙民孝廉，博学不倦，克家继起，尚足自娱。弟以公事常不在家，所有书、蔬、鱼、猪及应扫之屋、栽植之竹，须请建四兄勤勤经理，庶不改祖父以来之旧家风也。至嘱至嘱！

## 五月二十四日早

澄侯四弟左右：

萧浚川又至宝庆，大局当不足虑。贼至十万之多，每日需食米千石，需子药数千斤。渠全无来源，粮米罄尽，断无不走之理，可不须大胜仗也。沅弟启行后，日日大雨，甚为辛苦。

余右目红疼，不能写小字。前因贤弟夫妇四十寿辰，思写红纸屏一付寄贺。即将平日所称祖父之勤俭孝友，书、藏、鱼、猪等语述写一编，以为寿序也可，以为格言也可。因目疾尚未及办，待下次再寄也。叔父处，前年以大事未办寿屏，明年叔母五十晋一，拟请漱六、筠仙为之。弟意以为何如？在界岭等处，弟亦太辛苦，须常常服补药。保养身体，孝之大端也。

## 六月初四日

澄侯四弟左右：

贺常四初二到营，接弟信言早起太晏，诚所不免。吾去年住营盘，各营皆侵慎早起。自腊月二十七移寓公馆，至抚州亦住公馆，早间稍晏，各营皆随而渐晏。未有主帅晏而将弁能早者也，犹之一家之中，未有家长晏而子弟能早者也。沅弟在景镇，办事甚为稳靠，可爱之至。惟据称悍贼甚多，一时恐难克复。官兵有劲旅万余，决可无碍。季弟在湖北已来一信。胡咏帅待之甚厚，家中尽可放心。

家中读书事，弟亦宜常常留心。如甲五、科三等皆须读书，不失大家子弟风范。不可太疏忽也。

正封城间，接奉寄谕，飭令赴蜀剿贼。此时欲去，则景镇之官兵实难遽行抽调；欲不去，则四川亦系要地。尚未定计复奏。兹先将廷寄付回一阅。

## 六月初六日

沅浦九弟左右：

接弟一缄，知贼出大队前来搦战，我军坚坐不动，反客为主，最为得势。朱、唐、张、喻、凌五营，究以何营为最善战？何营枪炮靠得住？此间湘后营鸟枪极外行，日内方勤操也。

初四夜接奉廷谕，抄送一阅。此时甚难为计。欲即溯江为夔府之

行，则弟与凯所部之万人自须全数带去。而景德镇一松，抚、建必陷，临江、瑞、袁，在在可虞。是未救无事之蜀省，先失初定之江西。欲不为夔府之行，则川、陕两省尚称完善，保川即所以保陕，早一着即占一分之便宜，大局亦何可不顾？特此专使与弟熟商。

## 六月十八日

澄侯四弟左右：

宝庆久被长围所困，心殊悬悬。景德镇于十四夜克复，十五日派队跟追。闻浮梁贼尚未退，不知该逆别有诡计否？沅弟追贼约三日，回营后即谋来抚，将归里，为改葬事也。

前奉防蜀之旨，顷已复奏，言兵力太单，难以入蜀，且景德镇未克，不可遽行抽动等因。已于十八日拜发。其时不知景德镇之即复也。目下之计，大约带兵由长江上溯至荆州、宜昌等处防贼。占荆、宜，则两湖俱难措手。若谕旨必令赴蜀，则须添至二万余人，太少无益也。

## 六月三十日

澄侯四弟左右：

接弟信，惊悉鼎二侄殇逝，不胜悼惜！三年之内，家中多故，殊难为怀。弟目下总理团务，辛劳之际，尚须宽心，加意保重。

张凯章一军回援，在景德镇拔营，计七月底始可还湘。九弟归家办改葬事，亦七月可到。吾拟于七月七日起程，由湖北到宜昌。季弟已由溯口经过，将来抚州。日内尚未到，颇不放心。

## 七月二十三日 溯口发

澄侯四弟左右：

予于十六日自江省开船，十七日抵吴城，十九日至溯口。季弟与予同至溯口。二十日，先挂帆上黄州矣。雪琴留予在溯口久住。予因所调之湘后营尚在抚州未来，不得不在此少候。又朱、唐等营自景德镇调至九江者，皆伤暑多病，亦不得不少为休息。而予亦抱微恙，呕吐两日不能食，拟奏明耽擱十日。

兹专人回家，寄银二百两。以一百为纪泽儿婚事之用，以一百为五十侄女嫁事之用。仕宦之家，凡办喜事，财物不可太丰，礼仪不可太简。澄弟用财丰俭得宜，所虑者，礼仪过于简率耳，宜更酌之。



## 八月初五日 九江舟次

澄、沅两弟左右：

宝庆解围，团勇当撤，贼窜祁、衡，吾邑遂可弛防乎？

予在湖口住十日，八月初一日开至浔阳。耽擱二日，阻风不克成行。好在上游无事，贼不入蜀，余行虽迟滞，尚不误事。日内守风此间，可游览庐山近处胜景。朱品隆等各营已由陆路先至黄州。季弟奉胡中丞札，募勇千人，闻初四日自黄州起行归湘矣。吉字中营之饷，到黄州再派人起解；如已开船北来，则不运解亦可。

先考妣改葬之期已近，果办得到否？须略置墓田，令守墓者耕之。凡墓下立双石柱，方柱圆首。柱高而远不刻字者，谓之华表；柱矮而刻字者，谓之阙。四柱平立，上有横石二条，谓之坊。凡神道碑，有上覆以亭者，有左右及后面皆以以砖石贴砌，上盖圆筒瓦者，有露立全无覆盖者。三者随弟斟酌。要之上用螭首，下用龟趺，则一定之式，不可改易。公卿大夫之家有隆礼者，于墓门之南立墓表碑，又于极南远处立神道碑。稍简者仅立一碑。二者听弟斟酌。要之宜立于墓门之外。江西立于坟堆之趾，湖南立于罗匡之头，皆非古法，不可学也。至筑坟结顶，上年周璜冲结顶最合古法。今京师王公贝勒及品官之家坟茔多用此式，勿以其为吾乡所创见骇闻而不用也。吾之所见如此，望弟细心详酌。

吾于祖父坟墓祠庙皆未尽心，实怀隐疚。今沅弟能力办之，澄弟能玉成之，为先人之功臣，即为余弥此阙憾，且慰且慰。感余此次在外专了从前未了之事，而弥缝过失，亦十得七八耳。

## 八月十二日 黄州

澄侯、沅浦两弟左右：

叔父病体大愈，是第一庆幸事。澄弟办团，为一邑所服，善起善结，亦极慰也。

余于初六自九江开船，逆风逆水，每日行七八十里。十一日至黄州，胡中丞约为十日之留。官绅奏留余一军共征皖省，大约十七八可奉谕旨。贼踪既不入蜀，余自不必遽赴荆、宜，在此少停，恭俟后命。除萧、张二军外，带来共万人。每月需饷六万，拟概求之湖北，胡中丞亦已允许。江西协款三万，仍以供萧、张二人之半耳。九弟营中，六月分半饷，即日起解，七月分少迟亦解。每队多夫一名，或载与否，应俟到

营面定。

沅老近来所办之事无不妥当。银钱一事，取与均宜谨慎斟酌。闻林文忠三子分家，各得六千串。每柱田宅价在内。公存银一万，为祀田，刻集之费在外。督抚二十年，真不可及。

八月二十二日

澄侯、沅浦、季洪三弟左右：

接沅弟初十日信到家后办理改葬大事，启土下葬，俱得吉期，欣慰无量。余在家疚心之事，此为最大。盖先妣卜葬之时，犹以长沙有警，不得不仓卒将事；至七年二月，大事则尽可从容料理，不必汲汲以图。自葬之后，吾之心神常觉不安，知我先人之体魄亦当有所不安矣。此次改葬之后，我兄弟在外者勤慎谦和，努力王事，在家者内外大小，雍睦习劳，庶可保持家运蒸蒸日上乎？沅弟办理此事，为功甚大。我父母亦当含笑于九泉也。

余至黄州赴鄂，途多逆风，五日尚未抵省。官帅奏蜀中无事，请以吾军会剿皖省，已奉俞允。吾在鄂应酬数日，仍赴下游，或驻北岸之黄梅，或驻南岸之九江、湖口，现尚未定。吾兄弟数人虽共事一方，然皖中为地极大，贼数极多，形势极难，各有所困，不必相妨碍，不必嫌疑。季弟既受胡中丞之知，即竭力图功，不必瞻顾。九弟六月半饷已解去，七月饷亦即解，恐当于中途接到。此次既出，今冬似不宜归去。身既在官，则众人观瞻所系，去来不可太轻。

澄弟此次办团，名望极好，甚慰甚慰。家中有当应酬周到之处，望澄弟随时告知。至嘱。

八月二十九日 武昌

澄侯四弟左右：

兹有哀漱六亲家之胞弟袁铁庵自松江归来，将我京中书籍概行带送湘乡，实为可感。前由京搬至松江，此次由松搬至湘乡，共万余里，吃尽辛苦。到我家时，望加意款待。至要至要。其书交纪泽细心清厘，此外尚有存松之书并营中之书，将来开单再清也。

## 十月初四日 巴河军次

澄侯四弟左右：

沅弟到营，得闻家事之详。近日婚嫁两事皆已完毕，可少休息。

吾于二十八日自黄州归，接奉寄谕，以湖北大举征皖，恐其驱贼北窜。吾细察湘勇柔脆，实难北征。一渡淮水，共食麦面，天气苦寒，必非湘人所能耐。拟于日内复奏，陈明楚军所以不能北行之故。湖南樊镇一案，骆中丞奏明湖南历次保举，一秉至公，并将全案卷宗封送军机处。皇上严旨诘责，有“属员咎愚，劣幕要挟”等语，并将原奏及全案发交湖北，原封未动。从此湖南局面不能无小变矣。

余身体平安。惟目疾久不痊愈，精神意兴日臻老态。所差堪自信者，看书看稿犹能精细深入。每日黎明即起，不敢违祖父之家风，足以告慰。

## 十月十八日

澄侯四弟左右：

泽儿及侄女两场喜事办理尽善，慰谢慰谢。

我祖星冈公第一有功于祖宗及后嗣，有功于房族及乡党者，在讲求礼仪，讲求庆吊。我父守之勿失，叔父于祭礼亦甚诚敬。贤弟若能于礼字详求，则可为先人之令子；若于族戚庆吊时时留心，则更可仪型一方矣。余于军中之钱不愿寄回，而后辈婚嫁及亲族事之最要繁者，则当略寄。南五舅父处，余必寄贺信并寄薄礼。其他有应点辍之处，望弟付信来告。

知家中用度日趋于奢，实为可怕，兄并无私意见也。男婚女嫁，以似以续，阖家之庆，还为弟贺焉。

## 十一月初三日

澄侯、沅浦两弟左右：

自余于巴河拔营，沅浦亦于次日登舟，计此信到家，沅弟亦抵里门矣。

余拔营后长行七日，十一月初三日至黄梅，驻扎城外，距太湖百二十里。

太湖贼约三四千，被我兵万五千人四面环围，城贼极为穷蹙。所虑

## 曾国藩家书

者，四眼狗率党来援，或有变动。否则，太湖年内可克。余暂驻梅邑，细察地势，再行前进。

日内痲疾大作，目亦极蒙，幸精神如常，每日竭力支撑，不甚懈怠。

河南捻匪日以猖獗，皖南宁国屢次败挫，六合大营被四眼狗攻陷，扬州近又被围，气机殊未转耳。

### 十一月十四日 宿松军次

澄侯、沅浦两弟左右：

余于十三日拔营至宿松，一人皖境，百姓望若云雨，爆竹欢迎，不知兵力果足以庇之否？十月十七日会奏一折，圣意不以为然，朱批驳斥。保举一单，武职全准，文职交部核议。将来必有驳者，如黄南坡、石芸斋、何廉昉等均属可虞。即李筱泉久未得保，亦不知可允准否？向来从未交部，此次将文武官阶分类，遂尔歧视，想别有所因也。若部文遽来，于其驳诘者仍当再请，但恐迟耳。

沅弟带回之银，请以二百为温弟祭田之助，五百为湘乡忠义祠捐项。凡家中红白应酬之需，如有应在十两以上者，可写信由营中寄送，少者则家中自送。

余今年痲疾大发，与道光二十六年相仿佛，目疾亦日以增甚，老境大臻。在外往年未了之事，现已渐次清厘，略有归宿。李筱泉所办报销，今冬可毕。

### 十一月二十四日

澄侯、沅浦两弟左右：

接沅弟岳阳楼下一缄，借悉一切。叔父大人肝火甚旺，不知沅弟归后劝之少解否？

下游四眼狗闻将以本月之杪来援太湖，多、鲍各军颇形惊慌，须派五六千人往太湖助之。但系打行仗，老营仍扎宿松不动耳。

付去银五十两，送震仙家赠仪。以后应致情之处，请澄侯斟酌一数目更好。

科三之字大有长进，甚慰甚慰。第不知甲五近尚读书否？

泽儿问横笔磔法，如右手掷石以投人，若向左边平掷则不得势，若向右边往上掷，则与捺末之磔相似，横末之磔亦犹是也。《化度寺碑》

礫法最明，家中无之。《张猛龙碑》、《同州圣教》礫法亦明，可细阅。沅弟于字用功最深，曾留心礫法否？

## 十二月二十四日

澄侯、沅浦两弟左右：

十五日接弟信，知沅弟初一日移新宅，贺贺。吾弟以孝友之本，立宏大之规，气魄远胜阿兄。或者祖父之泽，得吾弟而门乃大乎？

日内警报频闻，援贼四眼狗纠合捻匪宫瞎子带五六万人来援，鲍超扎小池驿御之，已在太湖之前四十里。蒋之纯扎龙家凉亭，多都护扎新仓，相去各十里内外。二十二日开仗，我军先获大胜，穷追二十余里，因遇伏而小挫。太湖城外留唐义渠一军三千四百人，太形单薄。余派前帮十营六千人前往助扎，派朱云岩、李申夫统领，不知前敌多、鲍等军果站得住否？余在宿松身边仅四千三百人，除吉中、吉左之外均不甚可恃，心殊焦灼。萧浚川奉旨调赴黔蜀，希庵亦以母病不来。统将乏人，不知所以为计。

余痼疾大发，为十余年所仅见，夜不成寐，幸湿书未甚间断耳。

## 咸丰十年庚申岁

### 庚申正月初四日

澄侯、沅浦两弟左右：

除夕接两弟家书并纪泽儿一禀，欣悉家中四宅平安，惟叔父病未全愈，至以为念。

沅弟移居后，新屋气象闻尚宏敞，不知居之适意否？凡屋有取直光者，有取斜光者，有取反光者。闻新屋极高而天井不甚阔，则所取皆直光矣。未、申以后，内室尚不黑暗否？装修及制器殊不易易，颇有头绪否？余在此望沅弟来甚切，而恐弟应办之事皆未办妥，未敢遽催。

前敌多、鲍、蒋三军自腊月二十二大战后，贼于二十四、六等日包围鲍营，二十七日遂长围鲍营，层层包裹。霆左营四百皆合，水米文报不通。幸定心坚守，二十九日贼解围，少退五里以外。除日多都护另派精选前营扎于霆左营之垒，而令霆左弁勇暂入鲍之中军休息数日。从此

前敌应稍安稳。

余自去冬以来痲疾大发，目蒙异常，而应办之事未甚间断。新年军事紧急，少为将息，除公事外不敢多作一事也。纪泽儿所论八分不合古义。至欲来营省觐，余亦思一见。沅弟来时可带纪泽来，展谒一次，住营一月，专人送归。

## 正月十四日

澄侯、沅浦两弟左右：

得沅弟及纪泽信，欣闻叔父大人身体平安，从此当日臻康胜矣。

余于除夕、元旦添派护军长胜军及湖口调来之平江营赴太湖城外，抽出唐义渠之训营赴前敌小池驿等处。初六日甫到，一面修垒，一面出队打仗，破贼垒二座，少顷败回。训营新垒三座被贼攻陷，军械帐棚全失。由是贼氛愈炽，日夜围攻鲍营。鲍部三千五百人，伤亡千余，只能守墙，不能出打。每遇贼偶松一隅时，即出队挑水运柴，少顷复来合围。军士不眠者多，不食者亦常有之。十一日胡中丞所派之金逸亭、余会亭军从潜山内打出，攻贼之背，大获胜仗，杀贼三千。是夜小池驿之贼分一半去御金军，从此鲍军庆再生矣。方围鲍极急时，余派宿松吉中二营、吉左营、太湖之湘前强中营、湘后二营去新仓小池等处助打行仗，以救鲍军。十三早甫经成行，后即闻金、余捷音，计大局应可安稳耳。

胡帅与我相距二百六十里，每日通信一二次不等，除初派鲍军扎小池，余意见不合力争数次外，其余事事相合。季弟在太湖亦日日通信。痲疾比去冬略好，惟目光眊昏，日甚一日。云仙出使山东，竟被参劾，闻部议降级留任，今春必南旋矣。

## 正月二十八日

澄侯、沅浦两弟左右：

多都护于二十五日出队诱贼，业已破贼二垒。贼以大队猛扑，多部败退。贼追十里。唐、蒋各部齐出接应，鲍亦猛进，多亦回杀，贼遂大败，凶悍者伤亡二三千人。二十六日我军乘胜进攻，五军出满队，凡万八千人。排列而进，破贼垒六十余座。垒内火药甚多，草棚甚密，火球所著，登时轰发。狂风旋转，巨火烛天。山谷之间，人马仓卒难逃，多被烧死。牲粮衣物，一炬焦土。杀贼亦实有三四千人，仅有三垒未破。四眼狗于是夜逃去，三垒亦逃。太湖县之贼亦逃，即将城池克复。此次

大捷，实足寒逆胆而快人心。沅弟虽不在营，而中军义字两营连破贼垒，亦极有功。季弟在太湖克复一城，志亦少纾。特此飞告，俾沅弟放心。目下不必遽思回营，一则叔父病尚未痊，老宅之事须沅妥为料理；一则九弟妇体气不旺，新第之事亦须粗立纪纲。待四月初来营可也。

## 二月初八日

澄侯、沅浦两弟左右：

接来信，痛悉叔父大人于十九日戌刻弃世，哀痛曷极！自八年十一月闻温弟之耗，叔父即说话不圆，已虞其以忧伤生。叔父生平外面虽处顺境，而暗中却极郁抑，思之伤心。

此次一切从丰，两弟自有权衡。丧礼以哀为主，丧次以肃静为主。余于闻讣之第二日进公馆设位成服，拟素食七日，素服十四日，仍行撤灵入营。季弟拟请假回籍，余嘱其来宿松灵前行礼。沅弟言新第不敢再求惬意，自是知足之言，但湿气一层不可不详察。若湿气太重，人或受之则易伤脾。凡屋高而天井小者，风难入，日亦难入，必须设法祛散湿气，乃不生病。至嘱至嘱。

## 二月二十四日

澄侯、沅浦两弟左右：

季弟之恒字二营，吾与润公皆不欲其来太湖。弟于正月六日勉强自来，幸遇机缘，太湖克复，同奏肤功。兹湘恒营同回安庆，余亦不甚放心，而季弟自觉甚有把握，故遂令之同行。既已立营，则不能不望其少立功绩也。

自克复潜、太二邑，袁午帅克复凤阳，翁中丞大破炉桥，皖北军事大有起色。不料皖南徽、宁二府连陷六州县，浙江亦失去三县，杭省及湖州府危急之至。罗中丞奏请余率楚军往援，即使奉旨允准，亦缓不济急矣。金陵大营正在十分得手之际，而南则有浙江之变，北则清江浦失守。一波未平，一波复起，殊深焦灼。

余前思办冷金箋对，赠澄弟云：“俭以养廉，誉洽乡党；直而能忍，庆流子孙。”赠沅弟云：“人孝出忠，光大门第；亲师取友，教育后昆。”余在公馆设灵穿孝十四日，于二十日撤位脱素服，仍回营盘。

起先大夫祠堂，如牌坊，如诰封亭，皆须就地势为之。余意诰封亭系乡间俗样，尽可不必；牌坊则系官样。余前日所画槽门样子，即与牌

坊相近。京城凡大庙中间有照壁，两头皆有木牌坊。南中文庙及贡院之“天开文运”，亦用木牌坊。先大夫庙之槽门，即用木牌坊式可也。但各处木牌坊上不盖瓦，下不装板。此既作庙头门，则上当盖瓦，下当装板。总而言之，一正两横，一牌坊槽门而已。至各处起屋之法，皆先立柱起架子，待上屋瓦盖毕之后，乃砌砖墙。各柱嵌于墙砖之中。屋之稳不稳，全在架子，不与砖墙相涉。先大夫庙若用此法，则须大柱子十八根，而庙外四面落檐之廊柱尚不在此十八根之内。如此，则须料甚多，吾乡恐办不出，且恐木匠不能做。若用吾乡旧法，概以砖墙为主，不用架子，则省料极多而木匠亦易，望两弟悉心裁酌。修昭忠祠及东阜书院祠之正栋，亦不外先大夫庙式，五扛间而四面落檐，即极大方矣。所争者，亦在全用架子与否耳。应否由余下札，俟弟到营后再行面商。

### 三月十九日

澄侯、沅浦两弟左右：

自初十日闻浙江被围之信，十三日闻失守之信，寸心焦灼，全军为之警扰。一则恐有援浙之行；二则大局一坏，一木难支。所谓一马之奔无一毛而不动，一舟之覆无一物而不沉也。兹幸于十八日接张筱浦先生来信，杭城于三月三日克复，欣慰无极。特专人驰告家中，亦以慰陈作梅将母之怀。前有信囑沅弟来营，或酌募一二营带来，兹浙事既已平定，即不必再添营。沅弟信中意于今冬谋为蝉蛻之计，尤可不必再行添募。盖凡男皆服原募之人，不甚服接带之人，多一营头，则蝉蛻时多一番纠结也。

### 三月二十四日

澄侯、沅浦两弟左右：

接家信，知叔父大人已于三月二日安厝马公塘，两弟于家中两代各位老人养病送死之事，备极诚敬，将来必食报于子孙。闻马公塘山势平衍，可决其无水蚊凶灾，尤以为慰。澄弟服补剂而大愈，甚幸甚幸！吾生平颇讲求惜福二字之义，近年亦补药不断，且菜蔬亦较奢。自愧享用太过，然亦体气太弱，不得不尔。胡润帅、李希庵常服辽参，则其享受更有过于余者。

家中后辈子弟体弱，学射最足保养，起早尤千金妙方、长寿金丹也。



## 闰三月初四日

澄侯、沅浦两弟左右：

沅弟移寓新居，光彩焕发，有旺相气，至慰至慰。沅弟祭叔父文斐臺可诵，四字句本不易作，沅弟深于情者，故句法虽弱而韵尚长。

浙江克复，人心大定。太湖各营于二十四五日拔营，宿松四营于二十六日拔营，均至石牌取齐，进围安庆。朱惟堂一营初二日至江边，距宿松仅七十里。营中一切平安，余身体亦好。惟饷项暂亏，若四川不速平，日亏一日，必穷窘耳。

澄弟之病日好，大慰大慰。此后总以戒酒为第一义。起早亦养身之法，且系保家之道，从来起早之人，无不寿高者。吾近有二事效法祖父，一曰起早，二曰勤洗脚，似于身体大有裨益。望澄弟于戒酒之外，添此二事。至嘱至嘱。

## 闰三月十四日

澄侯、沅浦两弟左右：

沅弟既与作梅兄意见相合，家中寻地之事可留梅公多住一二月，以必得为期。改葬本非好事，然既已屡改，则必求惬意而后止。余非欲求地以徵富贵者，惟作梅以三千里外至吾乡，千难万难，不可错过。

澄弟所感对联甚为妥叶，服补药虽多，仍当常常静坐，不可日日外出。一则保养身体，二则教训子侄。至嘱至嘱。此间至今未得进兵，实为迟滞。

希庵至多公处，与之曹谈，针芥契合，相得益彰。大约数日后即可移营进逼桐城、怀宁矣。浙江克复后，皖南又大震动。河南捻匪上窜，陕西及樊城戒严。四眼狗近赴全椒，思解金陵之围。

余身体平安。痲疾皆在腿以下，本是空闲地方，任其骚扰可也。

## 闰三月二十九日

澄侯四弟左右：

二十七日接弟信，欣悉各宅平安。沅弟是日申刻到，又得详问一切，敬知叔父临终毫无抑郁之情，至为慰念。

余与沅弟论治家之道，一切以星冈公为法，大约有八个字诀。其四字即上年所称书、蔬、鱼、猪也，又四字则曰早、扫、考、宝。早者，

起早也；扫者，扫屋也；考者，祖先祭祀，敬奉显考、王考、曾祖考，言考而妣可该也；宝者，亲族邻里，时时周旋，贺喜吊丧，问疾济急，星冈公常曰人待人无价之宝也。星冈公生平于此数端最为认真。故余戏述为八字诀曰：书、蔬、鱼、猪、早、扫、考、宝也。此言虽涉谐谑，而拟即写屏上，以祝贤弟夫妇寿辰，使后世子孙知吾兄弟家教，亦知吾兄弟风趣也。弟以为然否？

## 四月初四日

澄弟左右：

沅弟于初三日由宿松赴集贤关。余身体平安。皖北军务亦尚如故。惟江南大营于闰三月十六日全军溃败，和春、张国梁两帅移保镇江，苏州、常州两处大为震动。浙江新复，亦恐无以自立。此又近数年之一大变局也。若江浙不保，则江西亦难久安，而皖北亦将应接不暇，殊为可虞。

九弟欲余下札请同邑绅士修昭忠祠及东皋书院。兹办十一札，请弟分送为要。

## 四月十四日

澄侯四弟左右：

金陵大营于闰月十六日溃退镇江，旋复退守丹阳。二十九日丹阳失守，和春、何桂清均由常州退至苏城外之浒关。张国梁不知下落。苏州危如垒卵，杭州亦恐再失。大局决裂，殊不可问。

余此次出外两年，于往年未了之事概行清妥，寸心无甚愧悔，可东可西，可生可死，襟怀甚觉坦然，吾弟尽可放心。前述祖父之德，以书、蔬、鱼、猪、早、扫、考、宝八字教弟，若不能尽行，但能行一早字，则家中子弟有所取法，是厚望也。

## 四月二十四日

澄侯四弟左右：

前寄一缄，想已入览。近日江浙军事大变，自金陵大营溃败，退守镇江，旋退保丹阳。二十九日丹阳失守，张国梁阵亡。四月初五日和雨亭将军、何根云制军退至苏州。初十日无锡失守。十三日苏州失守。目下浙江危急之至。孤城新复，无兵无饷，又无军火器械，贼若再至，亦

取得联系,已经获权使用该委员会的信件。为了让上海的救济组织能够理解并予以配合,它们应该已收到复件。您知道其大意。无论如何应该有缓冲物,因为这甚至对日本使馆人员也是一次剧烈的冲击。他们甚至没有人曾看过全部信函的一小部分。这些信函通常跟他们有关,包括这些人被迫同某些人进行的某次密谈的内容。他们将会异常愤怒,一定会找替罪羊。甚至那些较友好的日本人也同军方所作所为处处保持相当的距离。在比利时自始至终都完成得如此出色,或者说“所有的军队”(都是如此)。顺便提一下,如果您有比利时平民谋杀犯<sup>①</sup>等(包括强奸)人数的权威数据,我希望这些数据是用于□□目的。我已将那些书中用于复制的部分做了标记,不过还不全面。

我们基本上没有指挥官和作战单位之类的信息。不过我们可以提供一些“分遣队”的称谓,它们在这里出现了好几次。据推测,它们是根据指挥官的名字命名的。我会立即着手此事。士兵们却没有可以明显区分的标志。

对您“初步结论”的评述:1. 胁迫政策尚难成定论,尽管有些事情看起来是这样。同时还存在着仇恨和藐视,伴随着得到最高层支持的惩罚性计划带来的恶果,以及造作的受到狙击手和藏匿的中国士兵刺激的恐惧——极其荒唐的是,这与他们的亲身经历不符。那些(一再强调的)禁止错误举止的命令发布后,并没有切实执行。3. 平民虽然保持了一些克制,不过却是微乎其微,我们对他们的最后判定是:其态度和能力都很低劣,在主人面前说一些显示他们软弱无能的话。5. 这是真实的,虽然非常悲哀,但是千万不要将它表达得太过分或作过度推想。

有人要我考虑一两个月后访问日本,我今天惊奇地发现一种与之前完全颠倒的态度。这些多是由无名氏提出来的,但是任何微不足道的事都会让人感到满意。爱利生告诉我,他妻子从东京写来的信中说,有一些日本士兵已经写信对在南京的所作所为表示羞愧。让我们希望这样吧!

您让穆沙(Mossa)和莱顿·斯图亚特带来的附信是很有价值的。

---

① 指第一次世界大战时,德国军队对比利时平民的屠杀。

千人，合万人先行。余俱在湖南陆续调集招募，足成三万之数。左季高现奉旨以四品京堂候补襄办余处军务，所有应在湖南招勇等事，即咨请季翁在湘料理。

近日得浙江王中丞信，苏州之贼尚未至浙江境，浙江省城有杭州将军瑞、署钦差大臣张及中丞三人，应可保全。但使保得浙江，保得江西，则此后尚可挽回全局。

纪泽儿若来省觐，则由长沙或坐战船或坐民船，直下湖北以至汉口、东流，余扎营当在东流附近地方。长江之险，夏月风涛无定，每遇极热之时，须防暴风之至，下晚湾泊宜早。来营住一月，即令其速归也。望弟谕纪泽儿沿途谨慎，不必求快。

## 五月十四日

澄弟左右：

五月四日接弟缄。书、蔬、鱼、猪、早、扫、考、宝，横写八字，下用小字注出。此法最好，余必遵办。其次叙则改为考、宝、早、扫、书、蔬、鱼、猪。目下因拔营南渡，诸务丛集。

苏州之贼已破嘉兴，淳安之贼已至绩溪，杭州、徽州十分危急，江西亦可危之至。余赴江南，先驻徽郡之祁门，内顾江西之饶州，催张凯章速来饶州会合。又札王梅村募三千人进驻抚州，保江西即所以保湖南也。札王人树仍来办营务处。不知七月均可赶到否？若此次能保全江西两湖，则将来仍可克复苏、常，大局安危，所争只在六、七、八、九数月。

泽儿不知已起行来营否？弟为余照料家事，总以俭字为主。情意宜厚，用度宜俭，此居家居乡之要诀也。

曾国藩家书卷之七

咸丰十年庚申岁

六月初十日

沅、季弟左右：

出队以护百姓收获甚好，与吉安散耕牛籽种用意相似。吾辈不幸生当乱世，又不幸而带兵，日以杀人为事，可为寒心，惟时时存一爱民之念，庶几留心田以饭子孙耳。杨镇南之哨官杨光宗头发横而盘，吾早虑其不驯。杨镇南不善看人，又不善断事。弟若看有不妥叶之意，即飭令仍回兄处，兄另拨一营与弟换可耳。

吾于初十日至历口，十一日拟行六十里赶至祁门县。十二日先太夫人忌辰，不欲纷纷迎接应酬也。宁国府一军紧急之至，吾不能拨兵往援，而拟少济之以餉，亦地主之道耳。

六月十九日

沅弟左右：

十八日专丁到，接十五信，得知一切。应复之件，条列具左：

一、陈米千余石，如不可吃，不必强各营领之。凡粮台事件，弟皆自行当家，不必一一请示。或有疑议，就近与希庵商之。渠阅历颇久，思虑沉着，与弟可互相切磋，互相资益也。

二、杨光宗业已斥革递解，此后应稍安静。马兵既难得力，可飭令杨镇南招募马勇。其兵丁每出十缺，马缺。即飭令仍回殷开山营盘。余于办马队不惜重本，志在办成一事。若操练半年仍不得力，则浪费过甚，不如趁早改兵为勇，陆续更换。

三、雪琴厘金之事，概仍八九等年之旧，丝毫不改，断不至掣雪之肘。牙厘既由我处作主辅，亦不致难为雪也。末一条概以大度容之，不另复矣。

## 六月二十二日

沅弟左右：

希、厚、雪三人皆主土城合围之说，自应及时兴办。正东自车径渡至韦家店，地势辽阔，系用众用马之地。弟处兵力本单，老营劲营尤少，兄不甚放心。然此时桐城有兵，枞阳有兵，青草堀有兵，若不趁此合围，则天下更无可办之事矣。鲍兵不甚可恃，然不能不冒险一办。办成之后，则不险矣。土功太大太难，恐勇尚有不敷，可商之莫善徵，雇用民夫。其始略用霸道，其后日日给价，民间亦必悦服。多用银数千两，兄必办解不惜也。盛暑兴工，宜以早夜为之，午、未、申三时均宜停止。黄南坡筹餉事已发札矣，兹将意城所拟札稿寄阅。

东流周万俤一营，不须兄札，或厚庵札、或弟札，朝发则夕至矣。曾得胜宝右营在建德普饮堂处，防池州张家滩一路之贼，吾飭曾营扎建城东，以当头敌，目下实难抽调，当另设法。

## 六月二十七日

季弟左右：

顷接沅弟信，知弟接行知，以训导加国子监学正衔，不胜欣慰。官阶初晋，虽不足为吾季荣，惟弟此次出山，行事则不激不随，处位则可高可卑，上下大小，无人不翕然悦服。因而凡事皆不拂意，而官阶亦由之而晋。或者前数年抑塞之气，至是将畅然大舒乎？《易》曰：“天之所助者顺也，人之所助者信也。”我弟若常常履信思顺，如此名位岂可限量？

吾湖南近日风气蒸蒸日上。凡在行间，人人讲求将略，讲求品行，并讲求学术。弟与沅弟既在行间，望以讲求将略为第一义，点名看操等粗浅之事必躬亲之，练胆料敌等精微之事必苦思之。品学二者，亦宜以余力自励。目前能做到湖南出色之人，后世即推为天下罕见之人矣。大哥岂不欣然哉！

沅弟以陈朱发民夫挑藤，极好极好！此等事，弟等尽可作主，兄不吝也。

## 六月二十八日

沅、季弟左右：

探报闻悉，此路并无步履，即由东流、建德驿夫送祁。建德令已死，代理者新到，故文遂迟延。弟以后要事须专勇送来，三日可到，或逢三、八专人来一次，每月六次，其不要紧者又由驿发来，则兄弟之消息尤常通矣。

文辅卿办厘金甚好。现在江西厘务经手者，皆不免官气太重，此外则不知谁何之人。如辅卿者能多得几人，则厘务必有起色。吾批二李详文云：“须冗员少而能事者多，人款多而坐支者少。”又批云：“力除官气，严裁浮费。”弟须囑辅卿二语：无官气，有条理。守此行之，虽至封疆不可改也。有似辅卿其人者，弟多荐几人更好。甲三启行时，温弟妇甚好，此后来之变态也。

## 七月初三日

沅、季弟左右：

专丁到，接二十八夜之缄，具悉一切。

东流在江边，周万倬一营驻焉，向归厚庵调遣。建德在山内，去江五十里，普钦堂全军驻焉，向归江西调遣。曾得胜者，普部九营中之一营也。池州贼来东流，则畏水师。若至建德，并不与水师相干，全调普军则可，专调曾营则不可。弟屡指调该营，似不甚当于事理。兄目下实无以应弟之请，谅之。

长濠用民夫，断非陈米千石所可了，必须费银数千。此等大处，兄却不肯吝惜。有人言莫善微声名狼藉，既酷且贪，弟细细查明。凡养民以为民，设官亦为民也，官不爱民，余所痛憾。

宁国尚未解围，闻贼将以大队救安庆，南岸似可渐松。南坡信大有可采，此人真有干济之才，可敬可敬！

## 七月初八日

沅、季弟左右：

辅卿而外，又荐意卿、柳南二人，甚好。柳南之笃慎，余深知之。意卿亮亦不凡。余告彼辅卿人之法，以有操守而无官气、多条理而少大言为主。又囑其求润帅、左、郭及沅荐人。以后两弟如有所见，随时推

荐，将其人长处短处一一告知阿兄，或告筱荃，尤以习劳苦为办事之本。引用一班能耐劳苦之正人，日久自有大效。季弟言出色之人断非有心所能做得，此语确不可易。名位大小，万般由命不由人，特父兄之敎家、将帅之训士不能如此立言耳。季弟天分绝高，见道甚早，可喜可爱。然办理营中小事，敎训弁勇，仍宜以勤字作主，不宜以命字谕众。

润帅先几陈奏以释群疑之说，亦有函来余处矣。昨奉六月二十四日谕旨，实授两江督兼授钦差大臣。恩眷方渥，尽可不必陈明。所虑者，苏、常、淮、扬无一枝劲兵前往。位高非福，恐徒为物议之张本耳。余好出汗，沅弟亦好出汗，似不宜过劳。

## 七月十二日

沅、季左右：

兄膺此巨任，深以为惧。若如陆、何二公之前轍，则治我父母羞辱，即兄弟子侄亦将为人所侮。福祸倚仗之几，竟不知何者为可喜也。默观近日之吏治、人心及各省之督抚将帅，天下似无戡定之理。吾惟以一勤字报吾君，以爱民二字报吾亲。才识平常，断难立功，但守一勤字，终日劳苦，以少分宵旰之忧。行军本扰民之事，但刻刻存爱民之心，不使先人之积累自我一人耗尽。此兄之所自矢者，不知两弟以为然否？愿我两弟亦常常存此念也。沅弟多置好官、遴选将才二语，极为扼要，然好人实难多得，弟为留心采访。凡有一长一技者，兄断不敢轻视。

谢恩折今日拜发。宁国日内无信，闻池州杨七麻子将往攻宁，可危之至！

## 七月十五日

沅弟左右：

浮桥办齐，长壕已有八九分工程，甚好甚慰。从此援贼虽至，吾弟必足以御之。冯事，兄处办法与润帅不谋而合，兹将一批一告示抄付弟览。

翁中丞处复信甚妥，弟意疏疏落落亦极是。弟总认定是湖北之委员，以官、胡两帅为上司，诸事禀命而行，此外一概疏疏落落。希庵于此等处界限极清，人颇嫌其疏冷。然不轻进人，即异日不轻退人之本；不妄亲人，即异日不妄疏人之本。处弟之位，行希之法，似尚妥叶。与翁稿与毓稿均好，近日修辞工夫亦进，慰喜慰喜。

焦君潜序，八九月必报命。书院图须弟起稿而兄改之，弟切莫咎兄之吝也。



## 八月初七日

沅、季弟左右：

接专丁来信，下游之贼渐渐蠢动，九月当有大仗开。此贼惯技，好于营盘远远包围，断我粮道。弟处有水师接济，或可无碍。不知多、李二营何如？有米有柴可济十日半月否？贼虽多，善战者究不甚多，礼、希或可御之。

弟既挖长壕，切不可过壕打仗。胜则不能多杀贼，挫则不能收队也。营中柴尚多否？煤已开出否？红单船下去后，吾拟札陈舫仙办大通厘金，以便弟就近稽查。闻该处每月可二万余串也。魏柳南宜办厘乎？宜作吏乎？弟密告我。潘意卿何时可到？此间需才极急。浙事发岌，请援之书如麻。次青今日到祁门，其部下十四五可到。季弟所言之枉聆悉，定当一一错之，不姑息也。

## 九月初四日

澄侯四弟左右：

接弟信，知家中收成已毕，五十侄女渐次痊愈，至以为慰。

此间近日殊多失意之事。次青十九日丛山关败后，二十四日平江六营与何溪礼字等四营大败。贼匪围城，次青坚守一日一夜，至二十五日申刻破城。平江勇自南门走出，次青闻亦已出城。至今八日尚未接其来信，而其胞侄、表弟皆坚言其无恙，不知究竟如何。二十八日贼破休宁。目下皖南仅存祁门、婺源、黟县及东流、建德而已。闻贼已分大半由严州入浙，而自婺源入江之路亦不可不防。现调鲍军扎渔亭，凯章扎黟县，均去老营不过六十里，军势已稳，人心已定。牧云与甲三初一日由祁门赴安庆，大约十月底可归也。希庵初四日到祁门，带四营远来救援，不久仍当回北岸耳。

余身体平安。目光日昏，精神亦日见日老，深惧无以符此大任。

## 九月初七日

沅、季弟左右：

徽州、休宁之贼日内尚未动作，鲍、张两军日内亦休息未进，祁门、黟县等处渐有卖米盐者。希庵所带四营，暂令扎去祁六十里之历口地方，防西路之贼穿建德、祁门中间而走景德镇，即去年沅弟被景德镇

## 曾国藩家书

贼之出路也。次青二十五日城破走出，二十六夜在街口所发信，初六夜乃接到。

二十五夜所奉寄谕，初六日乃恭折复奏，兹抄去一阅。不知皇上果派国藩北上，抑系派润帅北上？如系派我北上，沅弟愿同去否？为平世之官，则兄弟同省必须回避；为勤王之兵，则兄弟同行愈觉体面。望沅弟即日定计，复书告我。无论或派我或派润帅，皆须带万人以行，皖北皖南两岸局势必大为抽动，请弟将如何抽法，如何布置开单见告。一切皆暗暗安排，胸有成竹，一经奉旨，旬日即可成行。两弟以为何如？

### 九月十四日

沅弟左右：

安庆决计不撤围，江西决计宜保守。此外或弃或取，或抽或补，合众人之心思共谋之。北援不必多兵，但即吾与润帅二人中有一人远赴行在，奔问官守，则君臣之义明，将帅之职著，有济无济，听之可也。

### 九月二十一日

沅弟左右：

接来缄，知营墙及前后壕皆倒，良深焦灼，然亦恐是挖壕时不甚得法。若客土覆得极远，虽雨大，不至仍倒入壕内，庶稍易整理。至墙子则无不倒塌，不仅安庆耳。

徽州之贼，窜浙者十之六七，存府城及休宁者闻不过数千人，不知确否？连日雨大泥深，鲍、张不能进剿，深为可惜。季高尚在乐平。余深恐贼窜入江西腹地，商之季高，无遽入皖。季高亦以雨泥不能速进也。润帅谋皖已大半年，一切均有成竹，而临事复派人救援六安，与吾辈及希庵等之初议全不符合。枪法忙乱，而弟与希庵皆有矜矜之气，兹为可虑。希庵论事最为稳妥，如润帅有枪法稍乱之时，弟与希庵陈而切谏之。弟与希之矜气，则彼此互规之，北岸当安如泰山矣。

### 九月二十三日

沅弟左右：

接伪文二件，知安庆之贼望援孔切，只要桐城、青草堀少能坚定，自有可破之理。次青十六日回祁，仅与余相见一次。闻其精神尚好，志气尚壮，将来或可有为，然实非带勇之才。弟军中诸将有骄气否？弟日

内默省，傲气少平得几分否？天下古今之庸人，皆以一惰字致败；天下古今之才人，皆以一傲字致败。吾因军事而推之，凡事皆然，愿与诸弟交勉之。此次徽贼窜浙，若浙中失守，则不能免于吴越之痛骂，然吾但从傲惰二字痛下工夫，不问人之骂与否也。

## 九月二十四日

沅、季弟左右：

沅弟以我切责之械，痛自引咎，惧蹈危机而思自进于谨言慎行之路，能如是，是弟终身载福之道，而吾家之幸也。季弟信亦平和温雅，远胜往年傲岸气象。

吾于道光十九年十一月初二日进京散馆，十月二十八早侍祖父星冈公于阶前，请曰：“此次进京，求公教训。”星冈公曰：“尔的官是做不尽的，尔的才是好的，但不可傲。满招损，谦受益，尔若不傲，更好全了。”遗训不远，至今尚如耳提面命。今吾谨述此语告诫两弟，总以除傲字为第一义。唐虞之恶人曰丹朱，傲；曰象，傲；桀纣之无道，曰强足以拒谏，辨足以饰非，曰谓己有天命，谓敏不足行，皆傲也。吾自八年六月再出，即力戒惰字以傲无恒之弊，近来又力戒傲字。昨日徽州未败之前，次青心中不免有自是之见，既败之后，余益加猛省。大约军事之败，非傲即惰，二者必居其一；巨室之败，非傲即惰，二者必居其一。

余于初六日所发之折，十月初可奉谕旨。余若奉旨派出，十日即须成行。兄弟远别，未知相见何日。惟愿两弟戒此二字，并戒各后辈当守家规，则余心大慰耳。

## 十月初四日

澄侯四弟左右：

八月二十四发去之信，至今未接复信，不知弟在县已回家否？余所改书院图已接到否？图系就九弟原稿改正，中间添一花园。以原图系点文章，一个板板也。余所改规模太崇阔。当此大乱之世，兴造过于壮丽，殊非所宜，恐劫数未满，或有他虑。弟与邑中诸位贤绅熟商。去年沅弟起屋太大，余至今以为隐虑。此事又系沅弟与弟作主，不可不慎之于始。弟向来于盈虚消长之机颇知留心，此事亦当三思。至嘱至嘱。

鲍、张二十六进兵，二十九日获一胜仗，日内围扎休宁城外。祁门老营安稳，余身体亦好。惟京城信息甚坏，皖南军务无起色，且愧且

愤。家事有弟照料，甚可放心，但恐黄金堂买田起屋，以重余之罪戾，则寸心大为不安耳。

## 全 日

沅、季弟左右：

日内不知北岸贼情何如，至为系念。

季弟赐纪泽途费太多。余给以二百金，实不为少。余在京十四年，从未得人二百金之赠，余亦未尝以此数赠人，虽由余交游太寡，而物力艰难亦可概见。余家后辈子弟，全未见过艰苦模样，眼孔大，口气大，呼奴唤婢，习惯自然，骄傲之气人于膏肓而不自觉，吾深以为虑。前函以傲字箴规两弟，两弟犹能自省自惕，若以傲字诤诫子侄，则全然不解。盖自出世以来，只做过大，并未做过小，故一切茫然，不似两弟做过小，吃过苦也。

## 十月初五日

沅弟左右：

初四日接奉二十日寄谕，夷务和议已成，鲍军可不北上。九月初六日请派带兵入卫一疏，殆必不准，从此可一意图东南之事。

安庆所挑余亲兵两哨，若悉系上选，恐狗贼来援，打仗又少些好手，弟细心斟酌。或待击退狗援后，再令两哨南渡，亦无不可。余前二十八日一缄，谓不须挑人来祁，是恐安庆挑出好手，难当大敌也。此次商令援来，则专为恐扯薄安庆起见，弟细酌之。贼若有大股从练潭来集贤关，弟军足支持二三日否？千言万语，都不要紧，惟此是性命关头。次青以不能战守，身败名裂，弟所争者在能守与否。若能守住四五日，则希庵之援兵必至矣。专意待希之救，万一希被桐城等处之贼牵制，不能援怀，亦事势之所时有，弟此刻与诸将约定，预为守营五日昼夜不息之计。贼初来之日，不必出队与战，但在营内静看，看其强弱虚实。看得千准万准，可打则出营打仗，不可打则始终坚守营盘，或有几分把握。闻迪庵于六年八月在武昌击石逆援贼，即坚守静待之法。每日黎明，贼来扑营，坚守不动，直至申酉间始出击之，故无日不胜。

希庵新授皖臬。莫令当撤委，令希查办。弟详复之件尽可呈上，而莫之勘否，不系乎此。

## 十月二十日

沅、季弟左右：

接信，知北岸日内尚未开仗。此间鲍、张于十五日获胜，破万安街贼巢。十七日获胜，破休宁东门外二垒，鲍军亦受伤百余人。正在攻剿得手之际，不料十九日未刻，石壕之贼破羊栈岭而入，新岭、桐林岭同时被破，张军前后受敌，全局大震。比之徽州之失，更有甚焉。余于十一日亲登羊栈岭，为大雾所迷，目无所睹。十二日登桐林岭，为大雪所阻。今失事恰在此二岭，岂果有天意哉？目下张军最可危虑，其次则祁门老营距贼仅八十里，朝发夕至，毫无遮阻。现讲求守垒之法，贼来则坚守以待援师，倘有疏虞，则志有素定，断不临难苟免。

回首生年五十，除学问未成，尚有遗憾外，余差可免于大戾。贤弟教训后辈子弟，总以勤苦为体，谦逊为用，以药佚骄之积习，余无他嘱。

## 十月二十四日

澄侯四弟左右：

此间于十九日忽被大股贼匪窜入羊栈岭，去祁门老营仅六十里，人心大震。幸鲍、张两军于二十日、二十一日大战获胜，克复黟县，追贼出岭，转危为安。此次之险，倍于八月二十五徽州失守时也。现贼中伪侍王李世贤、伪忠王李秀成、伪辅王杨雄清皆在黟境与兄作对。伪英王陈玉成在安庆境，与多、礼、沅、季作对。军事之能否支持，总在十月、十一月内见大分晓。

甲三十月初六至武穴，此时计将抵家。余在外无他虑，总怕子侄习于骄奢逸三字。家败离不得个奢字，人败离不得个逸字，讨人嫌离不得个骄字，弟切戒之。

## 十一月十四日

澄侯四弟左右：

日内皖南局势大变。初一日德兴失守，初三日婺源失守，均经左季翁一军克复。初四日建德失守，而余与安庆通信之路断矣。十二日浮梁失守，而祁门粮米必经之路断矣。现调鲍镇六千人进攻浮梁，朱、唐三千人进攻建德。若不得手，则饷道一断，万事瓦裂，殊可危虑。

余忝窃高位，又窃虚名，生死之际，坦然怡然。惟部下兵勇四五万人，若因饷断而散，亦殊不忍坐视而不为之所。家中万事，余俱放心，惟子侄须教一勤字一谦字。谦者骄之反也，勤者佚之反也。骄奢淫佚四字，惟首尾二字尤宜切戒。至诸弟中外家居之法，则以考、宝、早、扫、书、蔬、鱼、猪八字为本，千万勿忘。

## 十一月二十一日

沅、季弟左右：

专丁至，接十五日来信，知前有四次专人，均未到也。

此次贼围祁门，分三大支：西支破建德以入鄱、浮，东支破江湾及上溪两营盘以入婺源，北支破羊栈各岭以围黟县。三支之中，以建德一股为最巨。除守建德之贼二万余人外，又分为三支：一支窜浮梁、景德镇，一支窜鄱阳、都昌，一支窜彭泽、湖口。目下守建德一股，已被唐桂生攻破。窜浮梁一股，被左军小加惩戒，十四日杀贼百余人。亦未得逞。窜鄱阳一股，拟分鲍军会同左军剿之。窜彭泽一股，不知雪琴能守住湖口无恙否？若湖口幸得保全无恙，则西支之分为四股者，或渐足以御之。贼之全神全力本在西支，西支如不得逞，则贼气少沮，贼志少衰矣。

北支之犯羊栈者，十八日凯章得小胜仗。二十日鲍军得大胜仗，攻破贼垒，驱贼出岭，闻杀贼三四千人。经此大创，北支似亦不得逞。

惟东支若由婺源以犯乐平，直入江西腹地，则无兵力足以制之，实深焦灼。北岸狗逆未受大惩，不久又有大举，不特希庵不可分兵来南岸，即韦部亦不可轻动，总须以全力谋怀、桐也。

## 十二月初四日

澄侯四弟左右：

自十一月来，奇险万状，风波迭起。文报不通者五日，饷道不通者二十余日。自十七日唐桂生克复建德，而皖北沅、季之文报始通。自鲍镇二十八日至景德镇，贼退九十里，而江西饶州之饷道始通。若左、鲍二公能将浮梁、鄱阳等处之贼逐出江西境外，仍从建德窜出，则风波渐平，而祁门可庆安稳矣。

余身体平安。此一月之惊恐危急，实较之八月徽、宁失守时险难数倍。余近年在外，问心无愧，死生祸福，不甚介意，惟接到英、法、米各国通商条款，大局已坏，令人心灰。兹付回二本，与弟一阅。时事日非，吾家子侄辈总以谦勤二字为主，戒傲戒惰，保家之道也。

## 十二月十六日

沅、季弟左右：

枞阳坝工未成，亦属意中之事，不必焦灼。大江极深，古人所谓江深五里，海深十里也。两岸支河入江者极浅极高，夏月江涨，则支河更高，倒灌各小河之内。冬月江涸，落至二三丈不等。小河之水入口时，小水高而江水低，如二三丈之悬崖，甚至江船不能入小河，小河之船不能出江，以其太陡峻也。今年江水不甚涸，枞阳河之水，至今尚能行舟，即是极好之事。目下又连日霖雨，或者枞阳之水竟至年底不枯，亦未可知。此是弟之运气颇好，不然则十月枯涸久矣。至塞坝工程，非绝大才调不能，不知弟所用者何人？余屡次写信，均言未能筑成者，盖目中未见有此大才之人也。

韦军日内平安否？分余庵数营赴枞阳助韦防守，事尽可行。公牍嫌其太大，余已亲笔致缄于余庵矣。第调东流之兵助守枞阳则可，调湖口之兵助守枞阳则不可，以贼踪距湖口城尚不过三四十里，难遽松劲也。调陈军助守枞阳则可，调陈军助围安庆则不可，以平日未经弟训练有素，临危急之际，必不听令也。

弟此次拨营赴枞阳，赴鲍家冲，余觉主意不甚老靠，盖拨去未必有益，收回则颇有损。收回鲍家冲二营，则反以长贼之焰；收回枞阳一营，则反以减韦之势。然大敌将至，总以早早收回为是。养足势力，坚守前后两濠，意不旁注，神不外散，或有济乎？

左鲍二公十三日尚未开仗，黄文金极善张大势威，而党羽善战者少，或足御之。伪忠王李秀成于二十八日围玉山县，攻扑八日，城中王德榜、顾文彩等善于防守，初五日解围去矣。祁门之四面各百里内，日内平安，弟可转告润帅及希、札、厚、雪诸公。

云仙之出处，听渠自为主。当今之世，处未必非福，出未必非祸。从严公赴豫，恐不相安，云公根器厚而才短，与严未必针芥耳。

## 十二月二十日

沅、季弟左右：

十九日专弁二人至，接两弟来信。

另一片信所关甚大。方此军初至东流、众口交赞之时，雪琴即有信来，言其勇不可恃。沅弟平日曾言，造塔者须下一层好，其理至精。将来恐须全行遣散，另招二千人耳。

次青事，须渠来营一次，乃能定案。今天下虽已大乱，而法律不可全废。如普不重惩，即无以服江楚军民之心；重惩普而不薄惩青，即无以服戮人，亦无以服普之心。

澄弟之病，据来信已愈，且言宜服清润之品，不宜补也。

十二月二十四日

澄侯四弟左右：

十六日接弟手书，具悉弟病日就痊愈，至慰至幸。惟弟服药过多，又坚囑泽儿请医守治，余颇不以为然。

吾祖星冈公在时，不信医药，不信僧巫，不信地仙。此三者，弟必能一一记忆。今我辈兄弟亦宜略法此意，以绍家风。今年做道场二次，祷祀之事，闻亦常有，是不信僧巫一节，已失家风矣。买地至数千金之多，是不信地仙一节，又与家风相背。至医药，则合家大小老幼，几于无人不药，无药不贵。迨至补药吃出毛病，则又服凉药以攻伐之，阳药吃出毛病，则又服阴药以清润之，展转差误，不至大病大弱不止。弟今年春间多服补剂，夏末多服凉剂，冬间又多服清润之剂。余意欲劝弟少停药物，专用饮食调养。泽儿虽体弱，而保养之法，亦惟在慎饮食节嗜欲，断不在多服药也。洪家地契，洪秋浦未到场押字，将来恐仍有口舌。地仙、僧巫二者，弟向来不甚深信，近日亦不免为习俗所移。以后尚祈卓识坚定，略存祖父家风为要。天下信地、信僧之人，曾见有一家不败者乎？北墓公屋，余无银可捐。己亥冬，余登山踏勘，觉其渺茫也。

咸丰十一年辛酉岁

正月元旦

沅浦九弟左右：

除夕发去一缄，是夕又接弟信，具悉一切。

吴退庵事，余实不便失信。其确不可用，用必愆事之处，余亦殊无所见，不知意城诸君子何以烛照几先，遂能为此十成语？以余阅历多年，见事之成功与否，人之得名与否，盖有命焉，不尽关人事也。



东征局既以我为名，自应照我之礼办事。今厉观察又来请示，札不可遵，贼则可遵乎？此事余颇厌烦，以后不必再提。

北岸贼至无为州等处，盖意中事。搜获伪文，亦言金陵调杨七麻、李寿成援安庆。杨本自立门户，李现在常山修城，均未必肯赴北岸。左、鲍二军，残年均未开仗。闻贼数实有五六万，鲍公请将留渔亭之四营调去。渔亭亦系前敌吃紧，不能调也。

## 正月初四日

澄侯四弟左右：

腊底由九弟处寄到弟信，具悉一切。弟于世事阅历渐深，而信中不免有一种骄气。天地间惟谦谨是载福之道，骄则满，满则倾矣。凡动口动笔，厌人之俗，嫌人之鄙，议人之短，发人之覆，皆骄也。无论所指未必果当，即使一切当，已为天道所不许。吾家子弟满腔骄傲之气，开口便道人短长，笑人鄙陋，均非好气象。贤弟欲戒子侄之骄，先须将自己好议人短、好发人覆之习气痛改一番，然后令后辈事事警改。欲去骄字，总以不轻非笑人为第一义；欲去情字，总以不晏起为第一义。弟若能谨守墨冈公之八字，考、宝、早、扫、书、蔬、鱼、猪。三不信，不信僧巫，不信医药，不信地仙。又谨记愚兄之去骄去情，则家中子弟日趋于恭谨而不自觉矣。

## 正月十四日

澄侯四弟左右：

正月初六贼破大洪、大赤二岭而入。大洪岭距祁门六十里，经江军门带队击退。大赤岭距祁门八十里。初七日进犯历口。初八日进犯石门桥，距祁门仅十八里。经唐桂生带队迎剿，大获胜仗，追杀三十余里，直至历口。次月初九早，即追出赤岭。杀贼虽仅四五百人，而抢马百余匹、旗帜千余面、刀锏枪炮万余件。极大风波，顷刻即平，可为庆慰。左、鲍在鄱阳、洋塘一带，亦于初九日大获胜仗。贼目黄文金带六万余人，闻已杀死。次日，群贼全数溃退。

自十一月初至今七十余天，危险万状。至是稍稍苏息，危而复安。若再稳住三个月，安庆克复，则大局有转机矣。

弟思习大字，总以间架繁为主。写成之后，贴于壁上观之，则妍媸自见矣。弟体痊愈，全家之福，至慰至慰。

## 正月二十一日

沅弟左右：

安庆城内有降出之贼，则克复消息当在春末夏初，只须以坚静二字持之。陈余庵一军既不得力，即飭令全赴南岸亦可。若须酌留若干扎集贤关，亦听弟与厚庵商度行之。洋塘败贼分为二股：一股由建德径归青阳，一股窜并彭泽。鲍公跟至彭邑追剿，不知近已全回池州境内否。此股贼多且悍，将来与杨七麻仍为安庆之大患，但祝在安庆既克之后，始起掀天大波，则至幸耳。

陈舫仙带五百人作余身旁护卫之兵，不知渠颇心愿否？朱宽义尚在家否？此间亦未下札。江西厘金大绌，正月窘迫之至。李秀成于十一日围广信府，不知日内解围否？河口等处糜烂，今年厘金远不如去年，南岸四万余人不知何以为生，思之惘然。

## 正月二十八日

沅弟左右：

公文一件，甚好甚好，即当批准通行各属。吾家兄弟带兵，以杀人为业，择术已自不慎，惟于禁止扰民、解散胁从、保全乡官三端痛下工夫，庶几于杀人之中寓止暴之意。窜金溪之贼，养素寨已获胜仗，见田寨大半由云际关入闽，尚无确信。

陈镇二十一日已至东流，甚好，可略壮声威也。

## 二月初四日

澄侯四弟左右：

弟言家中子弟无不谦者，此却未然。凡畏人，不敢妄议论者，谦谨者也；凡好讥评人短者，骄傲者也。

谚云：“富家子弟多骄，贵家子弟多傲。”非必锦衣玉食、动手打人而后谓之骄傲也，但使志得意满，毫无畏忌，开口议人短长，即是极骄极傲耳。余正月初四信中言戒骄字，以不轻非笑人为第一义；戒惰字，以不晏起为第一义。望弟常常猛省，并戒子侄也。

## 二月初七日

沅、季弟左右：

得胡官保信，言昌营在霍山败溃，英山吃紧，不知究竟如何败法，尚不至遽犯楚疆否？

伪侍王李世贤自潮州归来，由婺源再犯江西。大股萃于婺源之清华街，左军在富村御之。

伪忠王李秀成一股攻围建昌，莽素派兵往援，不知能解围否？若建昌有失，恐其径犯省城；若建昌幸保无恙，亦恐其由樟树以犯瑞、临。一至瑞、临，则九江、兴国、武宁、义宁、通山、通城处处震动，安庆之围必解矣。左季翁料及此着，余亦深虑此着，如建昌之贼西趋樟树，则余带朱、唐出防江边一路，抽出鲍军渡湖，由九江以赴瑞、临。鲍公之所以不能渡北岸者，以防此着为第一义。

北岸既有霍山余营之挫，则希军必分兵援应，山内多军只能自固，不能再顾安庆。万一贼由集贤关攻安庆各营之背，弟须坚守五日。鲍军现在下隅坂，若渡江救援，一日可以渡毕，两日可抵集贤关，纵有风雨阻隔，五日总可赶到。弟可先与鲍公预为订约，并与杨、彭预订渡兵之船，兄亦当预告鲍公也。鲍军声名，为贼所惮，目下不必轻于拨动，专留为此二着之用：一着救安庆官军被围之急，一着防贼由樟树、瑞、临窜出九江。此外各着皆少缓矣。

## 二月二十二日

沅、季两弟左右：

官相既已出城，则希庵由下巴河南渡以救省城，甚是矣。希庵既已南渡，狗逆必回救安庆，风驰雨骤，经过黄梅、宿松均不停留，直由石牌以下集贤关，此意计中事也。凡军行太速，气太锐，其中必有不整不齐之处，惟有一静字可以胜之。不出队，不呐喊，枪炮不能命中者不许乱放一声，稳住一二日，则大局已定。然后函告春霆渡江救援，并可约多军三面夹击。吾之不肯令鲍军预先北渡者：一则南岸处处危急，赖鲍军以少定人心；二则霆军长处甚多，而短处正坐少一静字。若狗贼初回集贤关，其情切于救城中之母妻眷属，拼命死战，鲍军当之，胜负尚未可知。若鲍公未至，狗贼有轻视弟等之心，而弟等持以谨静专一之气，虽危险数日，而后来得收多、鲍夹击之效，却有六七分把握。吾兄弟无功无能，俱统领万众，主持劫运，生死之早迟，冥冥者早已安排妥贴，

断非人谋计较所能及。只要两弟静守数日，则数省之安危胥赖之矣。至嘱至要。

再，群贼分路上犯，其意无非援救安庆。无论武汉幸而保全，贼必以全力回扑安庆围师；即不幸而武汉疏失，贼亦必以小支牵縻武昌，而以大支回扑安庆，或竟弃鄂不顾。去年之弃浙江而解金陵之围，乃贼中得意之笔。今年抄写前文无疑也。无论武汉之或保或否，总以狗逆回扑安庆时，官军之能守不能守以定乾坤之能转不能转。安庆之濠墙能守，则武昌虽失，必复为希庵所克，是乾坤有转机也；安庆之濠墙不能守，则武昌虽无恙，贼之气焰复振，是乾坤无转机也。弟等一军关系天地剥复之机，无以武汉有疏而遽为震撼，须待狗逆回扑，坚守之后再定主意。

## 二月二十四日

澄侯四弟左右：

上次送家信者，三十五日即到。此次专人，四十日未到。盖因乐平、饶州一带有贼，恐中途绕道也。

自十二日克复休宁后，左军分出八营在于甲路地方小挫，退扎景镇。贼幸未跟踪追犯，左公得以整顿数日，锐气尚未大减。目下左军进剿乐平、鄱阳之贼。鲍公一军，因抚、建吃紧，本调渠赴江西省，先顾根本，次援抚、建。因近日鄱阳有警，景镇可危，又暂留鲍军不遽赴省。胡官保恐狗逆由黄州下犯安庆沅弟之军，又调鲍军救援北岸。其祁门附近各岭，二十三日又被贼破两处。数月以来，实属应接不暇，危险迭见。而洋鬼又纵横出入于安庆、湖口、湖北、江西等处，并有欲来祁门之说。看此光景，今年殆万难支持。然余自咸丰三年冬以来，久已以身许国，愿死疆场，不愿死牖下，本其素志。近年在军办事，尽心竭力，毫无愧作，死即瞑目，毫无悔憾。

家中兄弟子侄，惟当记祖父之八个字，曰：“考、宝、早、扫、书、蔬、鱼、猪。”又谨记祖父之三不信，曰：“不信地仙，不信医药，不信僧巫。”余日记册中又有八本之说，曰：“读书以训诂为本，作诗文以声调为本，事亲以得欢心为本，养生以戒恼怒为本，立身以不妄语为本，居家以不晏起为本，作官以不要钱为本，行军以不扰民为本。”此八本者，皆余阅历而确有把握之论，弟亦当教诸子侄谨记之。无论世之治乱，家之贫富，但能守屋冈公之八字与余之八本，总不失为上等人家。余每次写家信，必谆谆嘱咐。盖因军事危急，故預告一切也。

余身体平安。营中虽欠饷四月，而军心不甚涣散。或尚能支持，亦未可知。家中不必悬念。

## 二月二十六日

沅、季弟左右：

季弟谓纵使江夏或有疏失，安庆围师仍不可退，与余前寄弟信相符。盖李军速到，贼纵有破鄂之势，断无守鄂之力。江夏纵失，尚可旋得，安庆一弛，不可复围，故余力主不弛围之说。但近日狗逆由黄州折回，猛扑集贤关，两弟当拼命坚守，庶既有定识，又有定力，不徒托之空言耳。抚、建两府解围，侥幸之至。贼走宜黄、崇仁，或由丰城逼省垣，或由樟树趋瑞、临，均不可不防。然李秀成自入江境，不特未破一府城，并未破一县城，其机已钝，或不能为大害，所虑者伪侍王郅、乐一股耳。

徽贼于二十三日攻休宁城一次，凯章以静镇待之。岭贼二十五日围攻历口三营，幸亦保全。南岸风波，尚未艾也。弟劝余出江滨，须事势稍定乃可。

## 二月二十九日

沅弟左右：

湖北转危为安。幸甚慰甚。

此间犯樺根岭之贼，朱云岩等进剿获胜，杀贼三四百人，追贼出岭。

细阅南岸各路伪文及生擒贼口供，大约三王两主将分管各处。一曰伪忠王所管苏州、常州、松江等处，现由广信、抚、建内犯江西腹地；二曰伪侍王所管徽州、嘉兴、广德州、金坛、溧阳等处，现由乐平、鄱阳内犯江西；三曰伪辅王，所管宁国府，现尚蛰伏未出；四曰伪定南主将黄文金所管芜湖、繁昌、青阳等处，去冬由建德犯浮、景，被左、鲍击退，受伤未出；五曰伪右军主将刘官方所管池州及泾、旌、石、太、南陵等处，去年十一月十八入羊栈岭，本年正月初六入大赤岭，二月二十三入樺根岭，皆该逆之部下。此五大股者，每股贼党多者十余万，少者亦八九万，惟太平府不知何贼所管。江北仅四眼狗封伪王。其主将数人，则不尽知其姓名，亦不能辨其分管之地耳。弟可便中细细查访。

弟欲余移住江滨，余久有此意。此时伪侍王大股十余万麇集于乐平、饶州，不特祁门之粮路接济已断，即景德镇亦无粮路，余与左公俱在危困之中。祁、休等处军心方欲动摇，余岂可出岭独处乐地？待武汉事定，须求北岸分兵一助南岸耳。

### 三月初四日 休宁城中

澄、沅、季弟左右：

余于初二日自祁门起行至渔亭，初三日至休宁。初四日派各营进攻徽州。所有祁门、渔亭之营，皆派七八成队来此，老营空虚。闻景德镇一军溃散，左京堂亦被围困，不知能守住营盘否？景德镇既失，祁、黟、休三县之米粮接济已断。若能打开徽州，尚可通浙江米粮之路；若不能打开徽州，则四面围困，军心必涣，殊恐难支。

余近年在外勤谨和平，差免怨尤，惟军事总无起色。自去冬至今，无日不在危机骇浪之中。所欲常常告诫诸弟与子侄者，惟星冈公之八字、三不信及余之八本、三致祥而已。八字曰“考、宝、早、扫、书、蔬、鱼、猪”也，三不信曰“医药也，地仙也，僧巫也”，八本曰“读书以训诂为本，作诗文以声调为本，事亲以得欢心为本，养生以少恼怒为本，立身以不妄言为本，居家以不晏起为本，做官以不爱钱为本，行军以不扰民为本”，三致祥曰“孝致祥，勤致祥，恕致祥”。兹因军事日危，旦夕不测，又与诸弟重言以申明之。家中无论老少男妇，总以习勤劳为第一义，谦谨为第二义。劳则不佚，谦则不傲，万善皆从此生矣。

此次家信，专人送安庆后再送家中，因景德镇梗故也。

### 三月十四日

沅、季弟左右：

此间十二日再攻徽州，过于持重。以八千余众之实在队伍，不能遽札直攻东门，列队竟日，不一交锋。是夜贼匪焚村劫营，我军惊溃者八营，完全无恙者十四营。此次伤亡虽不满百人，而士气日减，贼氛大长，目下不可言战，但能勉守，专盼左、鲍二军攻克景德镇，或两弟攻克安庆，移师东、建，庶有转危为安之一日。

自去冬以来，实无生人之趣。季弟劝我之言，外人亦有言之者，而不知局中度日之难也。

### 三月十七日

沅、季弟左右：

两日未接弟信，不知北岸事势如何？武穴于十二日失守，黄州之贼下窜，想成大吉下巴河一军必已挫败，否则贼不能遽至武穴也。

此次希军先不直剿黄州而渡至省垣，后不速剿黄州而急攻孝感、德安，似为失算。新添之营太多，临来敌未必可靠。唐桂生在徽两挫，亦因新勇太多之咎。弟处安庆一军，亦嫌新勇太多。前后濠本可坚守无虞，特恐未败而自溃，不可不防也。余在休宁，凯章守城一切谨慎之至。岭外之贼，因黄文金大股调援北岸，刘、古、赖大股调数千人守金陵，贼氛不旺，祁门差可安堵。左季翁于初六、初十两获大胜，鲍公初十日由湖口起行，十二日至乌石岭，十五六日当可至鮎鱼山一带，与左公渐渐通气。左、鲍相合，则余处又可转危为安，弟可放心。弟处紧急，并不必管转运事矣。

### 三月十九日

沅弟左右：

余于十九日未刻由休宁回至祁门，接第十六夜信，不胜焦虑之至。弟处日内援贼将自梅、宿而至，桐城、庐江等贼亦将大有举动，乃以余前催办米之故，尚须分心办南岸粮运事件，兄实不安之至。兄十一日信言弟收三万金，或酌量为我办米数千石，其时未闻东征局三万有改解南岸之说，更未闻贼由梅、宿窜下安庆之说也。厥后接弟信，东征局稍改解南岸，即思酌改为北二南一。兹闻上游之贼由梅、宿窜怀，决计改为北二南一。其南一之数不必遽买多米，请先买千石，再少亦可。试运一次看何如，第一次不过运百石而已。口袋千个已嫌太多，难于买办，弟乃欲办八千个，则是误会兄意。陆运千难万难，岂有一次运至千石之理？兄忙乱之中，公牍私函俱欠细思；弟则但求竭力为之，亦未细思也。总之，援贼若未至右牌、集贤关一带，则弟试为我运米一次，以百石为率，或不运米而运火绳、铅子亦可。援贼若至，则弟可全不管南岸。其经理之人，则东流以张小山为主，桃树店以姚秋浦为主，弟切不可令盛南表弟到东、建。盛南是弟处最得力之人，援贼若到安庆，盛南可为弟代一半之劳也。千万千万！兄已派人往东、建，嘱盛南速归矣。

### 三月二十一日

沅、季弟左右：

二十夜接弟十九早信，知援贼已到后濠之外，弟乃因南岸之事十分焦灼。余不能派兵援救弟处，反以余事分弟心思，损弟精神，此兄之大错。弟当援贼围逼，后濠十分紧急之时，不顾自己之艰危，专谋阿兄之安全，殷殷至数千言。昔人云：“读《出师表》而不动心者，其人必不

忠；读《陈情表》而不动心者，其人必不孝。”吾谓读弟此信而不动心者，其人必不友。余定于二十四日拔营起程，二十九日准至东流，即在舟次居住，以答两弟之意。弟从此安心做事，不可挂念南岸也。闻盛南表弟于十八夜回营，此心略慰。十九夜之黑，二十早之雾，殊为可虑。过此两日，守事当少有把握。枞阳坝成后，桐城之贼由练潭来，尚隔水否？

此间各路，平安之至。景德镇之贼业已退净，不知具全由婺源回徽乎？抑尚在乐平与左、鲍相持乎？然该镇贼退，则祁门粮路业已通矣。两弟千万放心。兄移驻东流，祁、黟、休各军仍留此间紧守不动，不能多带兵勇救援弟处，惟弟谅之，亦实无强兵可带也。

### 三月二十二日

沅弟左右：

此间二十日早间大雾。洵之来勇，安庆无雾也。余不带朱、唐赴江滨，则拔行可速，虽不能派援安庆，尚无损于祁、休。余带朱、唐出江滨，则拔行必迟，徒有损于祁、休，仍不能派援安庆，以朱、唐兵少，又经新挫也。余带千人出江，以慰两弟之心。岭内各军，一概不动，以慰黟、祁、休三县之民。迨景德镇克复，则派鲍军北渡，以解安庆之困。左、鲍虽无信到，而外间纷传景德镇业已肃清，贼退婺源，想非谣言。凯章坚定之性，断不肯遽舍休宁。

弟信皆二日即到，何飞廉之多也？想见士皆用命，为之一喜。

### 三月二十四日

澄侯四弟左右：

余在休宁发一信，因皖南军务棘手，信中预作不测之想。余旋自休宁回祁门，闻景德镇克复，左季翁军三次大获胜仗，杀贼极多。伪侍王败溃鼠窜而去。景德镇之贼退净。所有鄱阳、浮梁，凡祁门之后路一律肃清。余方欣欣有喜色，以为可安枕而卧，而闻四眼狗围逼集贤关外，九弟、季弟又十分紧急，不得已抽朱云岩带五百人赴安庆助守于濠内，又调鲍春霆带八千人，赴安庆助攻于关外。

此次安庆之得失，关系吾家之运气，即关系天下之安危。不知沅、季能坚守半月，以待援兵否？余身体平安。皖南自去冬以来，危险异常，目下大有起色。若安庆能转危为安，则事尚可耳。



### 三月二十八日

沅弟左右：

接二缄，欣悉安庆守军平稳，多公在练潭大获胜仗，杀贼近万。至欣至慰。余前不敢求多军援怀，正为璋、玠、黄、胡之蹙其后，今得此大捷，可以援怀矣。

闻鲍军至下隅坂，即可北渡，因璋、临失守，九江警急，余飞函止鲍军北渡，请其在下隅坂歇息几日，怀急则北渡援怀，得急则西渡援浔可也。左军或进屯溪，或守景镇，已两缄请其自酌矣。

### 三月三十日

沅弟左右：

建德行次得悉多公续胜之喜。黄文金于正月两次大败，丢弃军械殆尽，此次头仗又败，应不能为厉矣。多公初一日至集贤之说，虽未必果能如约如期，要之，可来援怀矣。分兵极难，若无得力统将，分之则两损。鲍公素不肯分兵，余亦素不肯分兵，且屡囑鲍公不可分兵，又深知鲍部下仅宋国永一人，不可须臾离鲍左右，此外别无可当一路者，即决计不强之分兵，令其全军援怀。

九江有吴竹庄、丁义方、万泰三人。省城有张运桂、凯章之弟，带千人。刘胜祥二人，本有可守之理；如不能守，只可听之天命耳。余本日至建德，鲍公至下隅坂，拟令其消停一日，渡江以践初八前至集贤之约。

### 四月初三日

沅弟左右：

接来书，具悉一切。

昨日雨小而风大，今日风小而雨大，鲍军勇夫万余人，纵能渡江，想初二尚未渡毕，初三则断不能渡。凡办大事，半由人力，半由天事。如此次安庆之守，濠深而墙坚，稳静而不懈，此人力也；其是否不至以一蛟溃堤，以一蝇玷圭，则天事也。各路之赴援，以多、鲍为正援集贤之师，以成、胡为后路掩护之兵，以朱、韦为助守墙濠之军，此人事也；其临阵果否得手，能否不为狗酋所算，能否不令狗酋逃遁，此天事也。吾辈但当尽人力之所能为，而天事则听之彼苍，而无所容心。弟于

人力颇能尽职，而每称擒杀狗酋云云，则好代天作主张矣。

至催鲍进兵，亦不宜太急。鲍之队伍由景镇至下隔坂，仅行五日，冒雨遣征，亦可谓极速矣。其锅帐则至今尚未到齐，以泥太深，小车难动也。弟自抚州拔营至景镇，曾经数日遇雨，试一回思，能如鲍公此次之迅速乎？洞帅力劝鲍公进兵不必太急，待狗酋求战气竭力疲而后徐起应之云云，与弟见正相反。余意不必催鲍急进，亦不必囑鲍缓战，听鲍公自行斟酌可也。多公调度远胜于鲍，其马队亦数倍于鲍。待多击退黄文金后，再与鲍军会剿集贤关，更有把握。

至狗酋虽凶悍，然屡败于多、李、鲍之手，未必此次忽较平日更狠。黄文金于洋塘、小麦铺两败，军器丢弃已尽。多、鲍之足以制陈、黄二贼，理也，人力之可知者也。其临阵果否得手，则数也，天事之不可知者也。来书谓狗部有马贼二千五六百，似亦未确。系临阵细数乎？抑系投诚贼供乎？闻贼探多假称投诚者，弟宜慎之。

## 四月初八日

沅弟左右：

凡看地势，察贼势，只宜一人独往，所带极多不得过五人。如贼来追抄，则赶紧驰回，贼见人少，亦不追也。若带人满百，贼来包抄，战则吃贼之亏；不战而跑回，则长贼之焰，两者俱不可。故近日名将看地势者，相戒不带队伍也。又两相隔在五里以外，不可约期打仗。凡约期，以号炮为验，以排枪为验，以冲天火箭为验者，其后每每误事。余所见带队百余人以看地势及约期打仗二事致败者屡矣，兹特告弟记之。近唐桂生初五徽州之败，亦犯此二忌。弟如自度兵力实能胜贼，则出濠一战，亦无不可，切不宜与多、鲍约期。或眼见多、鲍酣战之际，弟率大队一助，则可；先与约定，则不可。多、鲍来约，竟不应允，甘为弱兵，作壁上观可也。余此次派鲍、朱援安庆，先未约定而忽至，则有损；希庵先约定回援而不至，则有损也。

杨镇南之不足恃，余于其平日之说话知之。渠说话最无条理。凡说话不中事理，不担斤两者，其下必不服。故《说文》君字、后字从口，言在上位者，出口号令，足以服众也。

## 四月十二日

沅弟左右：

有数事应商榷者，条列于后：

一、去年请公议中空一段，又弟未多请炮船，此时皆不必悔。向使此二事当日筹谋周密，而他处或又有隙可乘。凡事后而悔己之隙，与事后而议人之隙，皆阅历浅耳。

二、约期打仗，最易误事，余所见甚多。即以近事证之：去年正月十九，余际昌约与多、鲍同出队，以三排枪为记号。是日春霆黎明放三排枪，厥后因雾雨，多、鲍未出队，余军大挫。今年正月十六，凯章与霆营约攻上溪口，同在渣亭出队，厥后凯章到而霆营自中途折回，几至误事。二月初九，凯章与朱、唐约攻上溪，以冲天火箭为记号，厥后朱、唐先到，彼此均未见火箭。三月初五，凯章与唐约攻徽州，以排枪为记。厥后唐冒雨先到，而凯不至，遂至大挫。第十一日攻中空九垒，并无错处，因多公约出队牵制，而弟允之，却是错处。想以余前日之信为不足据耳。

三、攻城攻垒，总以敌人出来接仗，击败之后，乃可乘势攻之。若敌人静守不出，无隙可乘，则攻坚徒损精锐。菱湖贼垒不破，尚不要紧，若关外贼垒十分坚固难破，却须另行熟筹。

四、用兵人人料必胜者，中即伏败机；人人料必挫者，中即伏生机。庄子云：两军相对，哀者胜矣。此次多、鲍、成、朱援皖，人人皆操必胜之权，余虑其隐伏败机，故前寄弟信，言不必代天主张。本日已刻小雨，午、未大雨，未知有损于弟军及多、鲍否？如其有损，亦惟兢兢自守，尽人谋以听天而已。

## 四月十三日

沅弟左右：

戈什哈潘文质归，接弟未正一缄，分条覆列于左：

一、弟欲余至盐河一行。余既出江滨，岂有不思与弟一见之理？惟历年以来，凡围攻最要紧之处，余亲身到场，每至挫失，屡试屡验。余偏不信，三月攻徽，又试住一行，果又验矣。此次余决不至安庆，盖耻是故。

二、此时不宜再作围贼之计，只作野战与自全两计而已。多在挂车，鲍在关外，必与狗逆有大场恶战。如能大捷，尚可克城；如仅小

胜，或反小挫，则不特不能克城，且当思所以自全之策。弟军欲求自全，须请鲍军由江滨进扎，与弟营联络一气，不为赤关岭之贼垒所隔。趁狗在柙未归之时赶紧扎成，如围棋然，两块相粘连则活矣。或鲍扎原处，而成镇七营进扎亦可。其择地须请杨、鲍、成与弟同看，十三四必须看定，或请韦义堂来看亦可，以渠熟于贼计也。至季弟东北自全之策，或以枞阳为后路，或仍以大桥为后路，弟与杨、韦酌之。

## 四月十五日

沅、季弟左右：

接沅弟长信，志甚坚，气甚壮，微嫌办理太速，兵力太单耳。

新移六营，扎于菱湖贼垒之后者，已守住十三夜十四日矣。惟地段太长，仍嫌兵单，务须请成武臣七营赴菱湖帮助同扎为妥。

大凡初扎险地，与久经扎定者迥乎不同。久经扎定者，濠已深，墙已坚，枪炮已排定，虽新勇亦可稳守。初扎险地者，虽老手亦无把握。久扎者千人守之而有余，初扎者二千人守之而不足。目下菱湖六垒必须成武臣往扎半月，扎定之后，吾与沅弟另筹几营往该处换扎，又可抽出现军为活着矣。

## 四月二十一日

沅弟左右：

接来信并公牍，措词甚为得体。惟此事似非官相所能为力，渠未必肯向夷酋说，夷酋亦未必听渠之话。若果来东流，与余相会晤，余窥其意旨，倘可以理论情感，必力为开说；倘其暗助发逆之志甚坚，亦可于言外得之，则奏明另筹大计耳。

弟寄胡公信，欲成扎三安铺，与多合势。且待端节后，鲍至南岸时再说不迟。凡军事做一节说一节，若预说几层，到后来往往不符。官相处，余即不吝矣。

## 四月二十四日

沅弟左右：

余自来东流，心绪略舒。安庆之贼，前扎九垒于中空之处。沅弟又扎六垒于贼之后，并九垒与城皆以大围包之。鲍军亦扎于赤冈岭，围贼四垒。皆有可破之理。所虑者，洋船过安庆城，停泊一天，通送油盐接

济。我虽辛苦围攻，贼仍供应不断耳。四眼狗窜至桐城，恐日内又窜上游，蹂躏完善之区。瑞州一股，盘据如故。建德又新来一股，距东流仅四十里，自去年苏、常失守，金陵师溃，目下贼数骤多至数十倍。闻各处败兵溃勇多半投贼，故凶悍亦倍于往年。天意茫茫，不知何日始有转机也。

余身体平安。遍身生疮，竟日作痒。自三月下旬至今，几于无日不雨。自十五后，无日不大风。江水涨添一丈二尺有奇，重棉犹觉畏寒。洋船上下长江，几如无日无之。纪泽儿信亦不为无见。纪鸿文笔大方，可为喜慰。

## 四月二十四日

丹阁十叔大人阁下：

去岁接奉手缄，久稽才复。国藩浅材薄植，上承先世余荫，骤跻高位，并窃浮名，抚衷自省，久怀鹬鹑不称之愧。来示勗勉有加，而又引杜陵厚禄书断之句以相讽谕，益增悚仄。

惟近世所称美誉抚之荣，不外宫室衣服、安富尊荣等；而侄则受任于败军之际，奉命于危难之间，所居仅营中茅屋三间，瓦屋一间，所服较往岁在京尤为减省。自去冬至三月，常有贼党十余万环绕于祁门之左右前后，几无一日不战，无一路不梗，昼无甘食，宵有警梦。军士欠饷至五月六月之久，侄亦不忍独处富饶。

故年来不敢多寄银钱回家，并不敢分润宗族乡党者，非矫情也。一则目击军士穷窘异常，不忍彼苦而我独甘；一则上念高曾以来，屢代寒素，国藩虽忝食旧德，不欲享受太过，为一己存福之心，为闾族留不尽之泽。此侄之微意，十叔如访得营中家中有与此论不相符合之处，即请赐书诘责，侄当猛省愆改。

安庆一城，费尽气力，本有克复之望。近因洋船暗通接济，城贼又有生机。天意茫茫，未识大局何日转旋。

## 四月二十六日

沅弟左右：

目下可虑之端：第一洋船接济，安庆永无克复之期；第二黄、德、瑞三府五六县失守，饷源断无可继之理。欲求一良法救此两端，反复思之，毫无善策。润帅自统舒、成马步剿南岸兴、冶、崇、通等处。弟欲撤休、夥之兵清江西腹地，纵办得极好，不过克江之瑞州、保鄂之南数

县耳，于两大可虑之端皆不能补救。而弟请克复安庆即兆于此举，殆亦未细思也。

兄之不肯弃休、祁、黟三县者，盖兄为江督，又握江南钦篆，不能绕道以履苏境，久已为苏所唾骂。奏明从皖南进兵入苏，又奏参张筱楠，接办皖南军务，不能保徽、宁二府，又并此三县而弃之，不又为皖南所唾骂乎？现不能克徽，徽人甚须张而怨我。其次则危因之际，黟、祁曾捐银数万。又其次撤三县之兵，仍须以重兵防饒、景。故兄昨信言调度极难耳。如使一转移间而满盘皆活，有利无害，兄亦何憚而不乐从乎？

今决计于端节后调鲍军南渡，由得赴瑞。能否得手，则听之天而已。望弟修垒修濠，专为自守之计。如洋船之接济可断，安庆终有克复之日；倘洋船不能禁止接济，则非吾辈所能为力，当奏明另筹耳。

余意以鲍军援剿瑞州、武宁、义宁，以成军还希公以谋黄州，或作北岸上游之活兵。希在北，鲍在南，上游有两支活兵，局势必掣，胡帅之忧心少舒，病亦必少减。下游又嫌单薄，然江湖水涨若此，弟军专守前后濠，当不致有疏失。多军或驻挂车，或改扎青草壩，纵不能大破援贼，而自守则绰绰有余。太、潜、石牌三城，亦均易守。杨七麻尚在南岸，未北渡也。云岩务于日内南渡，以安祁门之人心。至要至要。

## 五月初一日

沅弟左右：

韦志凌深明贼情，究竟现在之伪辅王名杨辅清者，即七麻子否？其与金陵洪首逆尚是貌合神离否？少荃信言忠、侍、璋、环诸王皆与狗逆不合，外畏之而中恨之，确否？现窜蕲阳之刘官方，与黄老虎孰强孰弱？四眼狗手下之人，以何人为最悍？四年罗大纲在湖口，身边有洋鬼子三人，现忠逆、侍逆身边皆有洋鬼子。系用钱雇，无足轻重之鬼乎？抑实与夷中大员说明乎？——详询见复。

弟处保举，总以归官、胡出奏为妥，臧干之不准，臧求之可也，兄弟中有多少不方便。弟认定为湖北委员，则事事顺手矣。

## 五月初四日

沅、季弟左右：

接沅弟惠论贼情一缄、季弟报喜一缄。此次杀三垒真正悍贼千余人，使狗党为之大衰，平日或克一大城、获一大捷尚不能杀许多真贼，真可喜也。

沅弟所录，十分得其六七。咸丰六七年间，诸杨有老国宗、七国宗、八国宗、九公子之称，当时皆以辅清为老国宗，且言老国宗系真东王之宗支，七、八皆系赐姓。今来贼以辅清为七麻子，与早年所闻不合，不知韦志凌知别有所谓老国宗否也。又韦部黄文金、胡鼎文、古隆贤、赖文四人，赖忘其名下一字，与现据黄州之赖文光系亲兄弟否。亦可一询。

鲍公攻刘玲林垒不下，劝之不必性急。余决计不开渠军，即令在集贤关久扎，且调渔亭二营归之，又调韦部全归之，以厚其力。若决长壕以围玲林先生之营，敬其人，故称先生。断无不破之理，但须严密巡逻，无令玲翁一人脱逃耳。爱其人，故称翁。

## 五月初七日

沅弟左右：

刘玲林之被擒，余接杨厚庵信始知之，闻已肢解，将头函送菱湖，以示众贼。今而后喜可知也。

今早办文调鲍军由得援瑞。陈舫仙初至东流。东征局带解弟处之二万两、二万串，余欲拨六千金，发舫仙新营一月口粮。盖新营无饷，诸事不便，不比老营尚可支持。或俟江西饷到拨还，或抵偿华阳镇借款，皆可。弟借提华阳厘局万串，兄已代偿四千金矣。韦部二营，厚庵已调赴池州否？若未去，弟尽可遣去。安庆守壕，殊非易易也。洞帅于安庆守事，闻将录弟禀入告。弟禀毫无铺张，在近日为仅见之事。然言名则保举同，言利则口粮同，又何必铺张哉！

## 五月初九日

沅、季弟左右：

鲍军准用民夫，即日当通行各县。黟县于初五日克复。左军闻亦至景镇。或者天从人愿，三县竟可不弃乎？水大异常，于贼则处处不利。然江西、两湖农不能收种，官不能安居，商不能贸易，口粮更从何处取出？真大忧也。

弟论兵贵精不贵多一段，实有至理。然弟处守外濠内濠，约计七十余里，万余人尚嫌其少。如贼猛扑外内两濠，地段太长，余深以为虑。比之左公乐平野战迥乎不同，弟切不可存此心，谓人已太多，力已有余也。若存此心，必致误事。计内外并守，仅敷一班站防，并不能两班轮替。若贼来轮换猛扑，而守者昼夜不换，岂不可危？弟从此着想，并须将外濠加挖。至嘱至嘱。

添募本不易易，余令鲍、朱、唐添募，系采弟与希庵及诸公之言，实则三公均不宜将多也。

## 五月十三日

沅弟左右：

余于今早卯刻开船，已刻至华阳镇对岸之香口。目下各处主意纷纷无定，余将余之深知而自决者告弟知之，谨记之；其不深知不敢自决者，亦告弟知之，听弟酌之。

多军宜全扎桐、怀，专击援贼，弟军宜专主围怀。此兄之深知而自决者也。鲍军或稳驻集贤，或援瑞州，或打宿松，或剿蕪、黄，或打南岸，俱未十分妥善。此兄之不深知不敢自决者也。自孔垄至二套口、隆坪一带，一片皆水，往年湖宽八九十里，今年必百余里。鲍军若由黄梅行走，不特不能至二套口以过南岸，并不能由广济以达二蕪。此兄之深知而自决者也。鲍若从兴国下手，共须渡水几次而后可至兴境？成、胡赴南岸，共须渡水几次？此兄之不深知不敢自决者也。

现约润帅与春霆同来香口一会，俟会后再飞缄告弟可耳。

再，弟论兵事，宜从大处分清界限，不宜从小处割断微茫。如鲍军或打南岸，或留北岸，此大处也，往返须两月，调度不可错误。北岸或扎集关，或攻宿松，南岸或援江之瑞、义，或援鄂之兴、冶，此小处也，往返不过十日，临时尚可更改。近日接弟两次长信，皆言鲍军不可不救江西以保饷地。而此次十二夜信，又言宿松上至德安乃有官军，中间无人过问云云，意似留鲍公在北岸者。且信中力陈鲍公宜谋宿松矣，而又言鄂南已失十县，重于瑞、义等州，宜合力图之云云，意又似令鲍打南岸鄂境者。究竟弟之确见欲鲍在北岸乎？在南岸乎？望以一言决之，不必纷纷多说道理，使我无所适从也。

## 五月二十五日

沅弟左右：

南坡解来之银米，拟以万两济左军之急。左公目下穷困异常。梅村扎营建德，钱米俱断。左公自景德镇以千三百金济之，顷又断矣。东流粮台亦无分文。或以八千解左，二千留台，其余银二万，弟与厚庵均分可也。米六千石，则以三千济厚庵，二千交弟处，一千留东流。江西、两湖三省水灾已成，纵能克安庆，下半年事势亦必决裂。皖南道拟以姚秋浦署理，吏事较凯章略熟，又与张、朱、唐三人相得耳。



## 五月三十日

沅弟左右：

水师破贼数垒，甚慰甚慰。

此时贼势衰弱，再挫其气，则将来城破逃出，亦无心打仗。木牌二百余架，大江断难多逃，以牌之为物甚笨，只要三板走近，打几个大火蛋，则牌上之贼必扑水自尽。火球中多置松脂，则火燃略久，抛入牌上，自然惊心动魄。上游贼势虽炽，只要安庆克复，必可掣之。回顾下游，特大水已成，普屋又出，未知天意究何如耳。

## 六月初五日

沅弟左右：

劫数之大，良可叹愕。然使尧、舜、周、孔生今之世，亦不能谓此贼不应痛剿。

援贼至吕亭驿，日内想已开仗。弟总作一坚守不战之计，并预作一桐军小挫之想，谅当足以御之。

再，狗酋此次援皖，利在速战。方今盛暑酷热，若出队站立烈日之中历二三个时辰之久，任是铁汉，亦将渴乏劳疲。若挂车河官军作坚守之计，任贼诱战搦战，总不出队与之交仗，待其晒过数日之后，相机打之，亦一法也。多礼帅谋略最优，不知肯为此坚忍之着否？弟试与商之。

## 六月十二日

沅弟、季弟左右：

既已带兵，自以杀贼为志，何必以多杀人为悔？此贼之多掳多杀，流毒南纪；天父天兄之教，天燕天豫之官，虽使周孔生今，断无不力谋诛灭之理。既谋诛灭，断无以多杀为悔之理。幅巾归农，弟果能遂此志，兄亦颇为慰。特世变日新，吾辈之出，几若不克自主，冥冥中似有维持之者。

赖贼赴下游买米，日内有信来安庆否？弟可与黄昌岐细细说明，大约不外平日结以厚情，临时啖以厚利，以期成安庆一簣之功耳。

## 六月十四日

澄弟左右：

舅母弃世，纪泽往吊后，弟亦往吊唁否？此等处，吾兄弟中有亲往者为妙。从前星冈公之于彭家并无厚礼厚物，而意甚殷勤，亲去之时甚多。我兄弟宜取以为法。大抵富贵人家气习，礼物厚而情意薄，使人多而亲到少。吾兄弟若能彼此常常互相规诫，必有裨益。

## 六月十七日

沅弟左右：

余在香口与胡帅、鲍镇三人会商，本令霆军由太湖陆路至张家塆以上薪水，厥后改计攻宿松，又改计坐船，暨初六日拔营登舟，初八日长行，皆春霆所自定，余不得与闻也。惟鲍将登舟时，接胡帅信，令其回援怀、桐。渠有禀来请示，余因其时新破太湖十八垒，怀、桐两军足以自立，批令霆军仍上援鄂、江。至十一日闻建昌之失，乃檄令专援江西。目下江西省城震动，余断不能再失信调鲍回顺下游。如天之福，怀、桐两军站得住，大局终可无碍；若有意外之疏失，亦自有天心主之，国运主之。鲍公本系南岸之军，还之南岸，余无愧悔耳。

## 六月二十三日

沅弟左右：

汉口、汉阳只要布置略早，水师足资防御。逸亨之能否内剿城贼，外抵狗、辅，则未可知。然南岸尚有成、蒋八千人置之空虚之地，万一金、刘小有疏虞，上游亦不至决裂。江西建昌之贼与兴国、义宁等股会合，蔓延太广。闽汀股匪，散布抚、建、广三府境内，并围玉山县城，无人去剿，愤源竭矣。多公函寄还。渠每主先出队寻贼，余每主持贼来扑我，所见不同。古之用兵者，于主、客二字最审也。

## 六月二十九日

沅弟左右：

望溪先生之事，公私均不甚愜。

公族中须有一事实册，将生平履历，某年中举中进士，某年升官降

官，某年得罪，某年昭雪，及生平所著书名，与列祖褒赞其学问品行之语，一一胪列，不作影响约略之词，乃合定例。

望溪两次获罪，一为戴名世《南山集序》入刑部狱，一为其族人方某挂名逆案，将方氏通族编入旗籍，雍正间始准赦宥，免隶旗籍，望溪文中所云因臣而有及合族者也。今欲请从祀孔庙，须将两案历奉谕旨一一查出，尤须将国史本传查出，恐有严旨碍眼者，易于驳诘。从前人祀两庑之案，数十年而不一见，近年层见迭出，几于无岁无之。去年大学士九卿等议复陆秀夫从祀之案，声明以后外间不得率请从祀。兹甫及一年，若遽违新例而入奏，必驳无疑。右三者，公事之不甚愜者也。

望溪经学勇于自信，而国朝巨儒多不甚推服，《四库书目》中于望溪每有贬词，《皇清经解》中并未收其一册一句。姬传先生最推崇方氏，亦不称其经说。其古文号为一代正宗，国藩少年好之，近十余年，亦别有宗尚矣。国藩于本朝大儒，学问则宗顾亭林、王怀祖两先生，经济则宗陈文恭公，若奏请从祀，须自三公始。李厚庵与望溪，不得不置之后图。右私志之不甚愜者也。

## 七月十四日

澄侯四弟左右：

此间军事，四眼狗糾同五伪王救援安庆，其打先锋者十二已至集贤关。九弟屢信皆言坚守后濠，可保无虞。但能坚持十日半月之久，城中粮米必难再支，可期克复矣。徽州六属俱平安，欠饷多者七个月，少者四五月不等，幸军心尚未涣散。江西省城戒严，附近二三十里处处皆贼。余派鲍军往救，湖北之南岸已无一贼，北岸德安、随州等处有金、刘与成大吉三军，必可日有起色。

余癖疾未痊，日来天气亢燥，甚以为苦。幸公事勉强能了，近日无积闷之弊。总督关防、盐政印信于初四日到营，余即于初六日开用。

家中雇长沙园丁已到否？菜蔬茂盛否？诸子侄无傲气否？傲为凶德，惰为衰气，二者皆败家之道。戒惰莫如早起，戒傲莫如多走路，少坐轿，望弟留心戒。如闻我有傲惰之处，亦写信来规劝。

## 七月十四日

沅弟左右：

程学启攻破北门外石垒二座，多军亦获大捷，程学启屢立大功，花翎游击，尽可尽可。惟城之能克与否，仍看援贼到时，官兵守后濠之能

稳与否。山亏于一簣，病忽于新愈，不可不慎。

江西省城外对河之贼，已退至万寿宫、瑞州一带，章门安穩，是余大落心之事。以后调鲍军回援集贤关，或援或急皆可，但水陆程途将近半月，仍须弟军能如三月杪之坚守乃妙耳。

## 七月十七日

沅弟左右：

当此酷暑，贼以积劳之后，远来攻扑，我军若专守一静字法，可期万稳。多公亦宜用静字法。此贼万无持久之道，弟不必虑多军之久困也。或出队或不出队，或过练潭或不过练潭，由多公作主。余所谓静者，不焦急耳。昔曹操八十万入自荆州东下，吴以五万人御之。而周瑜策其必败者，一料曹兵不服水土，二料刘表水师新附、不乐为用，三料暑热久疲。其后赤壁之役果不出周郎之所料。闻德安克复，雪琴专函来报。又言成、蒋军病人太多，不能全进。又闻鲍军病者极多。以此而推，薊、辅之部病必更多，故料其不能持久。

## 七月十九日

沅弟左右：

援贼十六日入关，未攻我后濠而去。十七日又入关，因雨而去。如连三日不能遏其凶焰，则贼气沮而我军稳矣，望弟慎静待之。接鲍公信，奉新、瑞州之贼皆已逃遁，将由临江、樟树渡东岸以趋抚、建云云。余函嘱其在临江少停数日，如安庆之贼十分猖獗，则调鲍回援安庆；如安庆尽可支持，则令鲍追忠逆一股直至河口，再作计较。总之，德安克则金、成可以下援，瑞州复则霆军可以回援，怀、桐两处断不虑无援兵，只要弟与多公稳守一月耳。

## 七月二十四日

季弟左右：

舫仙两营，明日即令带六成队径赴盐河登岸，作为西北游击之师。

闻贼备布袋、草把，此二者皆余阅历之事。余攻九江，办布袋万个，为填濠之用。令每人装土于袋，负之丢于濠中。乃十二月朔日进攻，每袋仅一寸厚，千余袋尚不能填得一丈宽，而千余人断不能站在一处。每处数十人，竟未能填一尺厚。是日伤人最多。此布袋之难用也。

攻瑞州时，刘峙衡以稻草填濠。已填一丈宽，过濠十余人矣，贼以火蛋抛出，稻草悉燃，烧死数十人。第二次，峙衡用湿稻草。贼以枪炮击之，官兵亦不如前次之踊跃，遂不能过濠。瑞州濠深不盈丈，尚且如此。此稻草之难也。望弟告诸勇知之。

## 八月初一日

沅弟左右：

郭弁到，接喜信，知本日卯刻克复安庆。是时恰值日月合璧、五星联珠。钦天监于五月具奏，以为非常祥瑞。今皖城按时应验，国家中兴，庶有冀乎！

此间银不满六千，欲凑万金犒赏将士，弟处可设法办得四千金否？

## 八月初四日

澄侯四弟左右：

初一日卯刻安庆克复，城贼诛戮殆尽，并无一名漏网，差快人心。江西之贼逼近省城，鲍春霆于二十四日在丰城河西大获胜仗，赣水以西一律肃清。余令鲍军跟追至河口，或尚易了。湖北之贼，安庆克后，或亦不久恋。目下所虑者，胡中丞病势沉重，关系极大。

余身体平安，惟疮毒未愈，心绪多烦闷耳。

## 九月初三日

沅弟左右：

顷接信，胡宫保已于八月二十六亥时去世，可痛之至！从此共事之人，无极合心者矣。奉旨希庵暂署湖北巡抚，系因洞帅请开缺折内举以自代也。

打泥汊时，贼墙若傍水滨，我陆师不可近墙登岸，须在上游二十里或下游二十里登岸，庶进退稍宽，不至节太短势太促也。

## 九月初六日

沅、季两弟左右：

沅弟之字，骨秀得之于天，手稳本之于习，所欠者势与味耳。此二信写瘦硬一路，将来必得险峭之势。尝见旧拓《颜家庙碑》，圭角峭厉，转折分明，绝类欧书，不似近日通行本之痴肥也。

## 九月初十日

沅弟左右：

黄公信已加封寄去，冠北之札亦发，鹤汀早年在京极熟，容少缓再调。

约旨卑思四字，实近来方寸隐微之弊，亦阅历太久，见得天下事由命不由人也。

## 九月十二日

沅弟左右：

米粮子药未齐，宜缓进兵，极是极是。庐江为我必争之地，以其与怀、桐相犄角也。咸丰八年二月，郑、秦两军门以二万人败于桐贼，系从庐江来。十月，李迪庵以六千人败于三河，贼亦从庐江来。余因此二役，知庐江为得势之地。少荃兄弟与江北人皆言庐江之要繁，故余屡催进兵。今陈、刘二帮既到，庐江既为我有，千妥万妥，余已放心矣。此后不特进无为州可缓，即进盛家桥亦可缓。盖无为州不过米多地广，非扼要之区也；盛家桥不过吾恩得之以为造船之埠头，以为肃清巢湖之根本，非我不往驻，而贼即先占也。

庐江得后，弟专意布置守城之法，将庐江与怀、桐三城看得并重。贼来攻庐江，则与多公预订来援之师。不特弟进无为不必急，即多进庐州亦不必急，恐多去则桐城兵薄，庐江别无援师也。

今日即饬李、刘解米粮子药至罗昌河，以后必能源源接济，弟可放心。出看泥汊，亦不必汲汲，总以熟筹庐江守法为要。

余前拟于盛家桥造船，为肃清巢湖之计。今弟信云泥汊口可通白湖，白湖可通巢湖。是泥汊一破，水师可直入巢湖，不必另造船矣。果其如此，岂不大妙，但须查明白湖可通巢湖否。果其可通，亦恐湾曲太多，河道太窄，湖底易于胶浅，陆师难于照应。四者查确，乃可驶入。总之，庐江既得以后，事事好办，但宜稳不宜忙耳。泥汊之贼梁不得，固不可进兵，即幸而攻破泥汊，亦须待粮米足后，舫仙乃可进也。

## 九月十四日

澄弟左右：

九弟初二日自安庆进兵，初九日至庐江。日内将出大江，会合水师打泥汊也。四眼狗初七日已到三河，即温弟殉节之处。此次余与九弟定

坚守庐江，决不轻进。

胡润帅继先皇而逝，于大局关系至重。闻官帅奏请以希庵实授鄂抚，并力保雪琴为皖抚，想朝廷亦必俯从所请。其办事合手可喜；其党类太盛，为众所指目，亦殊可惧。浙事危险之至，屡求救援，此间力不能及。现拟以多军进攻庐州，以鲍军进攻宁国。去浙甚近，或亦可少分浙之贼势也。

沅弟左右：

调巡潮营由刘家渡拖入白湖之札，今日办好，即派人送去。吾所虑者，水师不能由大江入白湖，白湖不能通巢湖耳。今仅拖七八丈宽堤即入白湖，斯大幸矣。若白湖能通巢湖，则更幸矣。

余昨日作挽润帅一联，云：遭寇在吴中，是先帝与草臣临终憾事；荐贤满天下，愿后人补我公未竟勋名。

## 九月十七日

沅弟左右：

昨日接李希庵信，抄八月二十五日谕旨一道，兹抄寄弟阅。一门之内，兄弟四人同日俱蒙非常之恩，惊喜之余，弥深悚惧。余当具一折自行谢恩，又具一折为沅、季两弟谢恩。又具一折为温甫弟谢恩。弟当具一折自行谢恩，四折共派一折差于九月二十八日进京。

如此大雨，不似进兵气象，望弟回至庐江认真布置一番。只要庐江、桐、舒守得坚固，不患无为、庐郡无得手之日，目下且不必进兵。至囑至囑。

## 九月二十三日

沅弟左右：

守住庐江，吾已欢天喜地，不料竟克无为，从此可以图裕溪口，可以打运漕镇，可以谋西梁山，可以肃清巢湖，皆以无为州为根本，何幸如之！吾于七月及中秋前，深冀得安庆后并庐、无二城而得之，以庐作上游藩篱，以无作富强基趾。至中秋后，已不敢作此侥幸之想，今竟如愿相偿。从此水陆皆宜休息，不可再言进取一步，专讲防守江面。另造小舢板，放入巢湖之内，明岁春水涨时，湖船从黄落河打出，江船从裕溪口打入，必可得手。

## 九月二十五日

沅弟左右：

多公信来，日内呕血甚多。此人劳苦太过，病恐难于速愈。又安庆克城，人人优奖，惟多公尚嫌其薄。弟当以信函慰之，或能亲往看视亦好。

李、王二镇水师，究竟坚劲可恃否？望弟细察。

运漕可乘机取，巢县亦未始不可乘机攻取。吾意取之易而守之难，目下且专守庐江、无为二处，稍息兵勇之力，亦稍抑其矜情躁气，待水师肃清巢湖后，运漕、巢县皆囊中物耳。吾于水师实不放心也。

## 九月二十六日

沅弟左右：

接李济清等禀，知水师即日进攻巢县，余甚不放心。盖水师向本骄傲，又得数次小胜，则全是矜情躁气，偶然小挫，则怯态毕露。运漕一带港汊纷歧，一有不慎，则草木皆兵。弟欲调度水师，无但取其长而忘其短，总以看明支河小汊为第一义。陆师亦宜守住庐江、无为，不宜再进。特此再囑。

## 十月初四日

澄侯四弟左右：

九弟克复无为州，克复运漕镇，一路布置妥当，于十月初一日回安庆省城。江北之贼，现仅占庐州、巢县二城，江南之贼各立门户，不肯帮助北岸，计江北肃清尚不甚难。惟恐其勾结捻匪，勾结苗逆，又致蔓延为患耳。自新主继序以来，八、九两月英夷退出广东省城，楚军克复安庆省城，又江西、湖北两省肃清，气象颇好。闻大行皇帝梓宫于九月二十三日奉移进京，新主于十月初九日登极。从此否去泰来，寰宇又安，则中外臣民之福也。

## 十一月十四日

澄、沅弟左右：

得赵玉班寄季弟信，知沅弟于十月二十八自长沙还家，竟可赶上初三祭期。至慰至慰。此间军事平安。三河之贼于无故自退，或与庐州贼



目不和，或别有诡谋，均未可知。余令振字、开字两营移守三河伪城，而派竹庄之千三百人接守庐江，均札归多都统就近调度。竹庄自安庆开差，十七可至庐邑，不知振开两营果能守三河要隘否？如守得坚定，则庐郡、巢县亦或易于得手。

浙江自绍兴失守后别无确信，闻宁波继陷，杭城被围，可危之至！余奏请左寺兼由广信、衢州援浙，又调鲍春霆进攻宁国。宁国距杭仅三百里，亦可掣浙贼之势，坚杭人之心。第目下均尚未拔行，不知赶得及否？

江苏、上海来此请兵之钱调甫，即前任湘抚钱伯瑜中丞之少君也，久住不去，每次涕泣哀求，大约不得大兵同行即不还乡，可感可敬。余前许令沅弟带八千人往救，正月由湘至皖，二月由皖至沪，实属万不得已之举。务望沅弟于年内将新兵六千招齐，正月交盛南带来，沅则扁舟先来，共商大计。吾家一门受国厚恩，不能不力保上海重地。上海为苏、杭及外国财货所聚，每月可得厘捐六十万金，实为天下膏腴。吾今冬派员去提二十万金，当可得也。陈舫仙丁内艰，家无兄弟，本应给假回籍治丧，吾因运漕吃紧之地，批令待沅弟来再行给假。兹将原批登信抄阅。望沅弟正月到皖，则余不甚失信。至要至要。

## 十一月二十四日

澄、沅弟左右：

三河复后，余派振、开两营往守，吴竹庄团防营替守庐江，开营全赴三河。另札将吴、罗、程归多都护调度。运漕等处日内如故。以理揆之，环巢湖四面庐郡及舒、庐、无、巢五城，运漕、东关、三河三隘，八者，官兵已占其六，想贼并此二者亦不能久守矣。惟浙江危急，上海亦有唇齿之忧，务望沅弟迅速招勇来皖，督出现防之兵，带赴江苏下游，与少荃、昌岐同去。得八千陆兵、五千水师，必能保朝廷膏腴之区，慰吴民水火之望也。

京师十月以来，新政大有更张。皇太后垂帘听政，中外悚肃。

余连接廷寄谕旨十四件，倚畀太重，权位太尊，虚望太隆，可悚可畏。浙事想已无及，但求沅弟与少荃二人能为我保全上海。人民如海，财货如山，所裨多矣。庐、巢一克，余与弟中无梗隔，事局尚可为也。

## 十二月十四日

澄、沅弟左右：

日来未接家信，不知走信之夫从何处耽擱。

浙江省城竟于十一月二十八日失守，兵民六十万人，食尽而破，大

约半死于饿，半死于兵，存者无几。吾奉命兼辖浙江，不能解此浩劫，愧愤何极！浙抚想必简左帅，吾当奏请简蒋芑泉为浙江藩臬，或令带五六千人，即可独当一路。上海一县，人民千万，财货万万，合东南数省，不足比其富庶，必须设法保全，拟令少荃带水陆各五千人前往。程学启之千人，拟即拨交少荃带去。余之亲兵营，亦令随去。沅弟开年务须星速前来，能于二月十五以前赶到，少荃尚未启行，诸事面商更好。其程学启处，望弟写信叮嘱，令其听少荃之节制调度。吾家受国厚恩，吾为江督将近二载，尚无一兵一将达于苏境，上愧对朝廷，下愧对吴民。此次若不能保上海，则并获罪于天地矣。总望沅弟多方设法，助我保守上海，为恢复三吴之张本，千万千万。

## 同治元年壬戌岁

正月初四日

澄、沅弟左右：

日来未接家信，颇为悬念。沅弟腹泄，何以至今不愈？若云脾虚发泻，则八九月在此办事，宏毅周到，断非元气亏损之象。即到家后，寄来各信字迹精光圆湛，亦殊非积弱者所能为。弟平日服药太多，余心以为非。此次久泻，不知所服者系属何方？恐一味偏补，而于所以致泻之原未能清其根。万麓轩病疟五年，多服补剂。现在娇养太惯，动辄生疾，亦由当日致疟之原未清其根也。

望弟少服药饵，迅速来营，忘身报国。凡外间谤言无因而至者，余必能解之；凡险远之处，弟不愿往者，余亦不强之。但望弟早早来营。一则受恩太重，不宜久住家中；一则觐仙思归甚切，前敌今春必有战事，余甚不放心也。

徽州危急，二十六日获一大胜，已将岩寺街打开。粮运既通，当无他虑。

正月十四日

沅弟左右：

接弟腊月专丁一缄，具悉一切。

弟于十九日敬办星冈公拨向事件，起行来营，月杪或可赶到。少荃

准予二月杪赴镇江。弟能早十日赶到，则诸事皆妥。除程学启外，少荃欲再向弟处分拨千人，余亦欲许之，不知弟有何营可拨？渠赴镇江，即日将有悍贼寻战，新勇太多，实不放心。弟进攻巢县、和、含一带，不妨稍迟，待新军训练已成，再行进兵可也。

用人太滥，用财太侈，是余所切戒阿弟之大端。李、黄、金本属拟不予以论，黄君心地宽厚，好处甚多。而此二者，弟亦当爱而知其恶也。在安庆未虐使军士，未得罪百姓。此二语，兄可信之。拚命报国，侧身修行。此二语，弟亦当记之。余近日平安。幼丹抚江，季高抚浙，希庵抚皖，应不至大掣肘。

## 正月十八日

沅弟左右：

十七日钦奉谕旨，兄拜协办大学士之命，弟拜浙江按察使之命。一门之内，迭被殊恩，无功无能，忝窃至此，惭愧何极！惟当同心努力，仍就拚命报国，侧身修行八字上切实做去。前奉旨赏头品顶戴，尚未谢恩，此次一并具折叩谢。到省后，或将新营交杏南等带来，而弟坐轻舟先行，兼程赴营，筹商一切，俾少荃得以速赴上海。至要至要。少荃现有四千五百人，望弟再拨一二营与之，便可独当一路。渠所部淮扬水师，余嘱其留两营在上游归弟调遣。弟将来若另造炮船，自增水师，此二营仍退还黄、李，弟自有水师两营。其余大处仍请杨、彭协同防剿，庶几可分可合，不伤和气。

## 二月初二日

季弟左右：

所有招降立营事宜，业经于禀内一一批明。尚有函中应复各事，条列如左：

一、芑、繁、南、鲁四处掌握之说，尚难尽信。韦志浚初降之时，亦言包打芑湖。不特降人好说大话，即投效之将官亦多好说硬话，余实厌听久矣。弟初放手办事之始，余不遏其兴致，即芑湖不克，余亦不怪也。惟言训练为有用之兵，则余未敢深信。

二、滕代馨系李营老帮办，委之署理繁昌县则可，委之办捐务则不可。董余自八年再出，并未委员劝捐，以其费神多而获钱少也。

## 二月二十一日

季弟左右：

接家书，知季弟妇于二月初七日仙逝。何以一病不起？想系外感之证。弟向来襟怀不畅，适闻此噩耗，谅必哀伤不能自遣。惟弟体亦不十分强旺，尚当达观节哀，保重身体。应否回籍一行，待沅弟至三山夹与弟熟商，再行定夺。

长江数百里内厘卡太多，若大通再抽船厘，恐商贾裹足，有碍大局，拟不批准。获港厘局分成为数无多，拟批令改于华阳镇分成，为数较多，弟之所得较厚，又与外江水师无交涉争利之嫌，更为妥善。

诸嘱保重，至要至要。

## 三月初三日

沅、季弟左右：

复奏朱侍御一疏，定于五日内拜发。请钦派大员专抽广东全省厘金，余奏派委员随同筹办，专济苏、浙、皖、鄂四省之饷。大约所得每月在二十万上下，胜于江西厘务也。此外实无可生发。计今年春夏必极穷窘，秋冬当渐优裕。

马队营制，余往年所定，今阅之，觉太宽而近于滥，如公夫、长夫之类是也。然业已久行，且姑仍之。弟新立营头，即照此办理。将来裁减，当与华字、顺字等营并裁，另行刻新章也。

上海派洋船来接少荃一军，花银至十八万两之多，可骇而亦可怜。不能不令少荃全军舟行，以顺舆情。三月之内，陆续拔行。其黄昌岐水军，则俟三四月之交，遇大顺风直冲下去。弟到运漕，可告昌岐来此一晤也。

## 三月初四日

澄弟左右：

少荃一军，上海官绅派火轮船来接，船价至十八万两之多。可骇而亦可怜！决计由水路下去。新军远涉，孤立无助，殊为危虑。祁门附近六十里之历口，闻为贼所犯，恐其直窜景德镇，梗塞粮路。此二者皆近日挂心之事，余尚平安。

口粮极缺，则到处皆然。兵勇尚有米可食，皖南百姓则皆人食人肉矣。自三月初一起设粥厂七处，以救饥民。大约每厂可活三千人，不无小补。

余身体尚健。惟公事积压多件，不克按日清厘，深以为愧。

### 三月初八日

沅弟左右：

火药即日咨请湖北协解五万，不知见许否？凡与人交际，当求其诚信之素乎；求其协助，当亮其力量所能为。弟每求人，好开大口，尚不脱官场陋习。余本不敢开大口，而人亦不能一一应付，但略亮我之诚实耳。四十万铁究竟有着落否？此时子弹亦极少也。

韩正国、程学启初七日开行，少荃初八早开行，轮船不过三四日可抵上海。余令开字营号补皖勇改淮勇，程云必待沅帅缄谕乃敢改换，亦足见其不肯本矣。

广东全省抽厘专供江浙军饷一折，本日拜发。大约秋冬以后，每月可添银二十万两，春夏则苦不堪言耳。

### 三月二十四日

沅弟左右：

接陈东友、蔡东祥、周惠堂禀，知雍家镇于十九日克复。惜日内雨大，难以进兵，若跟踪继进，则裕溪口亦可得手矣。

小泉赴粤，取其不开罪于人，内端方而外圆融。今闻幼丹有出省赴广信之行，小泉万不可赴粤矣。

丁雨生笔下条畅，少荃求之幕府相助，雨生甚愿去，恐亦不能至弟处，碍难对少荃也。南坡才大之处，人皆乐为之用。惟年岁太大，且粤湘交涉事多，亦须留南翁在湘，通一切消息，拟派鹤汀前往，鹤与劳公素相得。待大江通行后，请南翁来此商办盐务，或更妥洽。

又接弟信，知巢县、含山于一日之内克复，欣慰之至。米可以多解，子药各解三万。惟办事之手，实不可多得，容觅得好手，请赴弟处。受山不乐在希帅处，即日当赴左帅大营，亦不便挽留也。

### 三月二十七日

沅弟左右：

和城已克，大约裕溪口、西梁山两处俱难站脚。若得庐郡速下，则江北可一律肃清矣。雪琴已派水师三营进清巢湖。若弟能派四千人助围庐郡，东路多公更易得手，但须与守巢县之兵声气联络，万一有大股援

贼上犯，我之局势本紧，方能立于不败之地。

至弟欲亲率五千人南渡，助攻芜、鲁，则断不可。用兵以审势为第一要义。以弟军目下论之，若在下游采石渡江，隔断金陵、芜湖两贼之气，下窥秣陵关，是为得势。若在上游三山渡江，使巢、和、西梁山留守之师与分攻鲁港之兵隔气，是为失势。余已调鲍公全军与季弟会攻芜、鲁。弟军破西梁山后，将巢、和、西梁山三处派兵守定，即作为弟军后路根本，然后亲率七八千人由采石渡江。闻太平府城已拆，该逆毫无守御，应易收复。弟驻军太平一带，与隔江和州、西梁之兵阴相犄角。水师自裕溪口起至乌江止，联络屯扎，两岸亦易通气。如此布置，则弟军上可夹攻东梁、芜湖，下可规取金陵，似为得势。余意如此，弟再细询熟于地形者，或亲赴南岸一看，乃可定局。

其渡江之早迟，由弟自行酌度。或待庐州克后，或庐未克而先渡，弟与多公函商行之。至进兵金陵之早迟，亦由弟自行审察机势。机已灵活，势已耐足，早进可也；否则不如迟进。与其顿兵城下，由他处有变而退兵，不如在四处盘旋作势，为一击必中之计。兄不遥制也。

### 三月二十九日

沅浦九弟左右：

西梁山、玉溪口等处一律肃清，欣慰无已。调度大局，二十七日已写一信属弟斟酌，并将信中语办一公牍付去。

其南渡之迟早是第一要紧机宜，弟须熟审详思，不可造次。大约下而伪对王等在江浦、天、六，上而伪英王在庐州，均可扰弟军之后路。多公之力，足以制狗首而有余。只要探得江浦、扬州、天、六等城未破，弟军尽可南渡，必无后患。此等大局，余亦不敢自是，然大致尚不差也。

鲍军本拟进剿芜湖，因湖州围困，可钦可悯。无论赶救得上与否，不能不派人去救。打芜湖是急谋金陵，势也；援湖州是保救忠臣，义也。请赵景贤。

北岸粮台，即札李少山移驻无为州。巢、含俱已委人，和州尚未委员。玉溪口、巢县、柘皋三处厘卡亦尚无人可办。平日不储才，临事难于派员。待三日内外，必将此四人派定再告耳。

曾国藩家书卷之八

同治元年壬戌岁

四月初三日

季弟左右：

接专丁三月信，具悉一切。所应复者，条列如左：

一、新四营之枪炮帐棚，仅领一半。当时因弟函言降人军械尚多，故未全发也。今既无械可用，自当由兄处补发。数日之内，必凑齐两营之枪炮帐棚发去。

二、剿抚兼施之法，须在军威大振之后。目下各路俱获大捷，贼心极涣，本可广为招抚。第抚以收其头目，散其党众为上；收其头目，准其略带党众数百人为次；收其头目，准其带所部二三千如韦军者，为又次；若准其仍带全部，并盘踞一方，则为下矣，今之李兆寿据潞、全者是也。弟可于此四等中酌度办理。

四月初四日

沅弟左右：

接械具悉。应复之事，条列如左：

一、口马到日，当为弟选留数十匹，余欠各营之马尚多，不知匀得出否。令哨勇各私其马，即水师令哨官各私其船也，法同意同，而效不同，亦视乎统领营官为何如人耳。

二、李世忠之械，兄付之不管。此人最难处置，其部下人诡计霸道，颇善战守。弟现与之逼处，常相交涉，宜十分以礼让自处。若不得已而动干戈，则当谋定后战，不可轻视。

三、严公长短，余所深知。媚嫉倾轧，从古以来共事者，皆所不免，吾辈当躬自厚而薄责于人耳。

四、由采石、太平一带南渡，本是妙着，亦是险着。妙处有四：使金陵、芜湖两贼隔绝不通，一也；陆师扎于南岸，水师直入内河，可进

黄池、湾沚，可由青弋江以达泾县，可由东路水阳江以达宁国，凡鲍军之在在宁者，皆可由水路运粮，二也；陆军扎采石、东梁山等处，水师扎黄池、湾沚等处，则芜湖之贼四面被围，三也；青弋、水阳二江，可通石臼等湖，可通宁、广各属，并可由东坝以通苏州，四也。险处有二：初渡采石，营垒未定，恐大股来扑，一也；北岸无大支活兵，恐四眼狗窜出乱扰无、庐、巢、含，又恐九洲洲之贼上犯，二也。有此四妙二险，故南渡之迟速难决。速或四月，迟或七月，由弟与多帅商定办理。季弟之军，余嘱其坚守不进并闻。

### 四月初五日

季弟左右：

两次捷报欣悉。南陵克复，从此官军占地愈广，进兵芜湖，当易为力。惟芜贼甚悍，弟兵太薄。以新集之卒，值极窘之时，以之分守繁、鲁、南陵三处，尚恐疏失，岂可更谋进取？况弟与各弁勇，昼夜不眠，未免太劳，虽自守已稳，亦未得片刻休息，此时宜将南、繁、鲁防守事宜布置妥善。三处共应储粮若干，迅速告我，以便由安庆运往，备弟守兵一二月之食。

北岸之兵，由采石南渡是妙着，亦是险着，已详告沅弟。或渡或否，或迟或速，由沅亲看审定也。

### 四月初六日

沅弟左右：

接信知弟目下将操练新军，甚善甚善。惟称欲过江斜上四华山扎营，则断不可。四华山上逼芜湖，下逼东梁，若一两月不破此二处，则我军无势无趣，不得不退回北岸矣。

弟军南渡，总宜在东梁山以下采石、太平一带。如嫌采石下面形势太宽，即在太平以上渡江，总宜夺金柱关，占内河江面为主。余昨言妙处有四：一曰隔断金陵、芜湖之气，二曰水师打通泾县、宁国之粮路，三曰芜贼四面被围，四曰抬船过东坝可达苏州，犹妙之小者耳。又有最大者，金柱关可设厘卡，每月进款五六万；东坝可设厘卡，每月亦五六万。二处皆系苏皖交界，弟以本省之藩司，抽本省之厘税，尤为名正言顺。弟应从太平关南渡，毫无疑义，余可代作主张，其迟速则仍由弟作主耳。

西梁上下两岸，从三山起至采石止，望弟绘一图寄来。至要至要。



## 四月初八日

沅弟左右：

和州有四千劲旅，弟自守西梁，吉左、振字守巢县。守御已固，即狗逆自庐郡冲出，当足扼之。由太平南渡一着，余意在必行。陆师能扎金柱关，水师能入内河扎黄池、湾沚，则全局皆振，筋摇脉动，芜湖、宁国皆易于得手矣。至渡江之迟早，则由弟作主，余不为遥制。

## 四月十一日

沅弟左右：

李世忠穷困如此，既呼吁于弟处，当有以应之。三千石米，五千斤火药，余即日设法分两次解弟处，由弟转交李世忠手。

此辈暴戾险诈，最难驯取。投诚六年，官至一品，而其党众尚不脱盗贼行径。吾辈待之之法，有应宽者二，有应严者二。应宽者：一则银钱慷慨大方，绝不计较，当充裕时，则数十百万掷如粪土，当穷窘时，则解囊分润，自甘困苦；一则不与争功，遇有胜仗，以全功归之，遇有保案，以优奖笼之。应严者：一则礼文疏淡，往还宜稀，书牍宜简，话不可多，情不可密；一则剖明是非，凡渠部弁勇有与百姓争讼，而适在吾辈辖境，及来诉告者，必当剖决曲直，毫不假借，请其严加惩治。应宽者，利也，名也；应严者，礼也，义也。四者兼全，而手下又有强兵，则无不可相处之悍将矣。

水师独攻金柱关，恐难得手，不如不泄此机，待陆兵渡江，再行下手为妙。

少荃于三月二十七日谕旨飭署苏抚。广东督办厘金，放晏端书，以其为戊戌同年而派。朝廷之用心，良可感矣。

## 四月十二日

沅弟左右：

水师攻打金柱关时，若有陆兵三千在彼，当易得手。保彭杏南，系为弟处分统一军起见。弟军万八千人，总须另有二人堪为统带者，每人统五六千，弟自统七八千，然后可分可合。杏南而外，尚有何人可以分统？亦须早早提拔。办大事者，以多选善手为第一义。满意之选不可得，姑节取其次，以待徐徐教育可也。

## 四月十四日

澄弟左右：

此间军事，自三月连克州县九城，要隘五处，四月初一日，经凯章军克复旌德县。惟地方太多，防守不易，尚须添募新军。又苦饷项无出。下游民穷异常，谷米艰贵。吾意欲于湖南买谷一二万石来皖，不知衡州一带谷价何如？若价贱，则可于衡郡东征局支榷购买，当比长沙更便益也。望弟打听衡、长价值，与南、意诸公一商。

余身体平安，痼疾如故。季弟自克复两县一隘后，亦不似前此之忧郁。温弟溢法，业已行知湘乡县，不知到否？

## 四月二十二日

沅弟左右：

接专差送来信，知弟军准于二十日渡江。是日天气晴和，惟南风稍大，上水较难，不知舟渡安稳否？

余前日四妙二险之说，现在庐州既克，扬州屢捷，北岸已无险矣。不知南岸初到扎营之时，果能化险为夷否？如登岸扎营并无疏失，则且以坚守坚扎为主，不必遽图进剿，不必寻贼开仗。扎定之后，自有无穷之妙处也。

王可陞之兵，已令驻守池州。喻、李二千人，甫经调守安庆，亦遽行更改。弟嫌兵力单薄，目下庐州既克，弟或可再调千人过江。希庵能派三四千人由西梁过江，则南岸兵力厚矣。

## 四月二十四日

澄弟左右：

纪鸿儿奉取县首，诗文虽不甚稳惬，而其中多有精警之句、疏宕之气，实皆先生时雨之化，可敬可感。当略备微仪，以申鄙意。府院考皆当极热之时，鸿儿体弱，不知能耐此酷暑否？今年乡试，鸿儿即可不必入场。董工夫尚早，年纪太轻，本无望中之理，又恐鸿儿难熬此九日之辛苦也。

军事平善。多将军于十四夜攻克庐州府城，皖北数十州县为粤匪所占，今皆克复，一律肃清，只余二三城为捻匪、苗逆所占，想亦易于就緒。四眼狗未经擒戮，北窜河南，殊为后患。沅弟由西梁山渡江南岸，

进攻金柱关，季弟尚在鲁港。鲍春霆进剿宁国府，徽、衢等处贼皆退，江西今年得保平安。

余身体平安。家中不必挂念。

## 四月二十五日

沅弟左右：

今早接雪琴信，知金柱关克复，并谣传东梁、芜湖亦克。无论确实与否，金柱为皖南众水出口之所，百脉会聚之区，扼扎该处，则金陵、宁、芜各贼巢皆失所恃，此理之有可信者。得此以后，可催多军来打九洲洲，会攻金陵也。

## 四月二十八日

沅弟左右：

东梁、芜湖已克，由金柱关进兵，二险已化险为夷，四妙已验其三，至幸至幸。

各处败贼俱萃宁国，杨七麻以著名枭悍之渠，当拼命力争之际，鲍军屡胜之后，杂收降卒，颇有骄矜散漫之象，余深以为虑。目下弟与雪军、季军且坚守芜、太、金柱、南陵、黄池等处，休养锐气，不遽进兵。待鲍军扎围宁国，十分稳固，多军进至九洲洲，弟与雪、季再议前进。其秣陵关、淳化镇两处，为进兵之路，须派人先去看明。弟信言从太平至金陵百四十里，中不隔水。以古书证之，则尚隔一秦淮河。余处无好图可看，弟亦须先行查明。

弟以金柱关之破，水师出力最多，厘卡当雪二季二，甚善甚善。兹定为沅五、雪三、季二，尤为恰当。

袁午帅之办事，本属浮而不实，然饬项之拙，亦足令英雄短气，且胜公欺之太甚，余当少为护持。

## 五月初四日

沅弟左右：

军事甚顺。沅、季与雪琴水师于四月二十一二日连克太平府城、芜湖县城、东梁山、金柱关各要隘，水师已进攻九洲洲，沅军距金陵亦仅数十里。鲍春霆进攻宁郡，初一日可抵城下。宁国贼多而悍，不知易得手否。四眼狗自庐城逃出，往奔寿州投苗沛霖。苗党捆狗送胜帅大营，

已槛送进京矣。江北除此大害，从此应可少安，冲主之福也。

余身体平安，疮痍大愈。惟每日事多太劳，至日暮疲乏殊甚，总守一勤字，断不改常。家中子侄皆早起否？不懒惰否？望弟常常教之。

## 五月初七日

沅、季弟左右：

接沅信，知已进扎周村，距金陵不满四十里，余既以为慰，又以为惧。

金陵地势宏敞，迥非他处可比。进兵之道，须于太平、采石南路进一支，句容、淳化东路进一支，浦口、九洲洲西路隔江进一支。镇江北一路纵无兵来，此三支必不可少。句容东路纵无兵来，隔江一支则断不可少。此次弟不候多军至九洲洲，而孤军独进，余深为焦虑。又上游南陵空虚，季弟不留兵守之，于宁国、芜湖均有妨碍。望弟暂屯扎周村一带，以待多军之至。

季弟分兵守南陵，以固后路，要剿要剿。团防营守西梁山，计十五以前可到。王可陞二千人，则留守池州，不能调赴东坝矣。

## 五月初八日

季弟左右：

春霆军既不散漫，当足以御宁国大股。至慰至慰。

沅弟进兵，究嫌太速，余深以为虑。一则北岸多军未到，二则后面句容一路无兵，恐援贼来抄官军之尾，望弟与沅稳慎图之。第一莫使金柱、太平稍有疏失，第二莫使贼出江边，梗陆军之粮道。金陵地势太宽，弟等宜多看多问。至囑。

## 五月十五日

沅弟、季弟左右：

帐棚即日赶办，大约五月可解六营，六月再解六营，使新勇略得却暑也。抬小枪之药，与大炮之药，此间并无分别，亦未制造两种药。以后定每月解药三万斤至弟处，当不致更有缺乏。王可陞十四日回省，其老营十六可到。到即派往芜湖，免致南岸中段空虚。

雪琴与沅弟嫌隙已深，难遽期其水乳。沅弟所批雪信稿，有是处，亦有未当处。弟谓雪声色俱厉。凡目能见千里，而不能自见其睫，声音

笑貌之拒人，每苦于不自见，苦于不自知。雪之厉，雪不自知；沅之声色，恐亦未始不厉，特不自知耳。曾记咸丰七年冬，余告駱公、文、耆待我之薄，温甫则曰：“兄之面色，每予人以难堪。”又记十一年春，树堂深特张伴山简傲不敬，余则谓树堂面色亦拒人于千里之外。观此二者，则沅弟面色之厉，得毋似余与树堂之不自觉乎？

余家目下鼎盛之际，余忝窃将相，沅所统近二万人，季所统四五千人，近世似此者曾有几家？沅弟半年以来，七拜君恩，近世似弟者曾有几？日中则昃，月盈则亏，吾家亦盈时矣。管子云：斗斛满则人概之，人满则天概之。余谓天之概无形，仍假手于人以概之。霍氏盈满，魏相概之；宣帝概之；诸葛恪盈满，孙峻概之；吴主概之。待他人之来概而后悔之，则已晚矣。吾家方丰盈之际，不待天之来概、人之来概，吾与诸弟当设法先自概之。

自概之道云何？亦不外清、慎、勤三字而已。吾近将清改为廉字，慎字改为谦字，勤字改为劳字，尤为明浅，确有可下手之处。沅弟昔年于银钱取与之际不甚斟酌，朋辈之讥议菲薄，其根实在于此。去冬之买犁头嘴、栗子山，余亦大不谓然。以后宜不妄取分毫，不寄银回家，不多赠亲族，此廉字工夫也。谦之存诸中者不可知，其著于外者，约有四端：曰面色，曰言语，曰书函，曰仆从属员。沅弟一次添招六千人，季弟并未禀明，径招三千人，此在他统领所断做不到者，在弟尚能集事，亦算顺手。而弟等每次来信，索取帐棚子药等件，常多讥讽之词，不平之语，在兄处书函如此，则与别处书函更可知已。沅弟之仆从随员颇有气焰，面色言语，与人酬接时，吾未及见，而申夫曾述及往年对渠之词气，至今怏怏。以后宜于此四端痛加克治，此谦字工夫也。每日临睡之时，默数本日劳心者几件，劳力者几件，则知宜勤王事之处无多，更竭诚以图之，此劳字工夫也。

余以名位太隆，常恐祖宗留诒之福自我一人享尽，故将劳、谦、廉三字时时自惕，亦愿两贤弟之用以自惕，且即以自概耳。

湖州于初三日失守，可恸可敬。

## 五月二十日

沅、季弟左右：

城贼开仗，究竟软硬何如？比之叶芸来、刘纶林，孰强孰弱？多公全军援秦，弟之军势太孤，务当求所以自立之道。

弟前索洋枪，又托少泉至上海购买。兹令盛四送百杆与弟，内大者

七十九，小者二十一。余不甚喜此物，盖其机最易坏，不过打二三十枪即须修整。弟与各将弁试用一二十次，识破其短处，当以余言为然也。

## 五月二十五日

沅弟左右：

专丁来信，正值望信极切之际，得之一慰。弟此次进兵太快，不特余不放心，外间亦人人代为忧虑。余以该逆凶焰犹盛，未可骤图，百足之虫，虽死不屈。外间则议弟处新营太多，兵不可靠，几于众口一词。

今进兵已近两旬，墙高濠深，应可立定脚跟。万里长濠，大众公守，最易误事。一蚁蚩堤，全河皆决。去岁之守安庆后濠，余至今思之心悸。此次在金陵，不可再守长濠，仍以各守各垒为稳。地方虽宽，分别极冲、次冲究无多处，前围城贼当冲者不过数处，后拒援贼当冲者亦不过数处。于极冲、次冲之地，择人守之，则他处虽有劣营，亦可将就支持。望弟将何营扎极冲，何营扎次冲，开单见告。

## 五月二十八日

沅、季弟左右：

沅于人概天概之说，不甚屑意，而言及势利之天下，强凌弱之天下。此岂自今日始哉？盖从古已然矣。

从古帝王将相，无人不由自立自强做出，即为圣贤者，亦各有自立自强之道，故能独立不惧，确乎不拔。昔余往年在京，好与诸有大名大位者为仇，亦未始无挺然特立不畏强御之意。近来见得天地之道，刚柔互用，不可偏废，太柔则靡，太刚则折。刚非暴虐之谓也，强矫而已；柔非卑弱之谓也，谦退而已。趋事赴公，则当强矫，争名逐利，则当谦退；开创家业，则当强矫，守成安乐，则当谦退；出与人物应接，则当强矫，人与妻孥享受，则当谦退。若一面建功立业，外享大名，一面求田问舍，内图厚实，二者皆有盈满之象，全无谦退之意，则断不能久。此余所深信，而弟宜默体验者也。

## 六月初二日

沅、季弟左右：

湖南之米昂贵异常，东征局无米解来，安庆又苦于碾碓无多，每日不能舂出三百石，不足以应诸路之求。每月解子药各三万斤，不能再

多，望弟量入为出，少操几次，以省火药为嘱。

扎营困阨悉。得几场大雨，吟、昆等营必日松矣。处处皆系两层，前层拒城贼，后层防援贼，当可稳固无虞。

少泉代买之洋枪，今日交到一单，待物到即解弟处。洋物机括太灵，多不耐久，宜慎用之。

次青之事，弟所进箴规，极是极是。吾过矣！吾过矣！吾因郑魁士享当世大名，去年袁、翁两处及京师台谏尚累疏保郑为名将，以为不妨与李并举，又有郑罪重李情轻，暨王锐意招之等语，以为比前折略轻。遽拜折之后，通首读来，实使次青难堪。今得弟指出，余益觉大负次青，愧悔无地。余生平于朋友中，负人甚少，惟负次青实甚。两弟为我设法，有可挽回之处，余不憚改过也。

## 六月初四日

澄弟左右：

鸿儿印卷之费，余意三分各百千，尚是道光初年样子。弟意学书一分宜少，自是正办，请弟斟酌。其两位老师，则百千断不可少，盖学署清苦，而罗老师又贤而好学也。

沅、季在金陵，援贼尚无信息。春霆在宁国两获胜仗，闻宁城少粮，八月可望克复。少荃在上海获一大胜仗，此后可稳扎矣。安庆前苦亢旱，自十九至今，大雨不止，十分沾足。

故寄回高丽参五斤，参不甚佳，而价则贵，宜以新石灰养之。

## 六月初八日

沅、季弟左右：

接少荃信，知伪忠王在上海受创而返，即日来援金陵。弟等壕墙已固，应足御之。所虑者夏月士卒多病，恐队伍单弱。银米子药等事，吾必设法多解，竭平日之力办之。援贼至金陵大战，当在七月，此外弟所需之物，速写信来，七月初尚可赶到。此间能办之件，亦必先尽弟营也。临战之际，预先爱惜士卒精力，以备届时辛苦熬夜，犹考试者场前静养也。

## 六月初九日

沅、季弟左右：

接沅弟营图一纸。图中各营布置尚妥，惟有一处，余不放心。江东桥之河，在季弟各营之前面，大胜关进口之河，在季弟各营之后面，此两河宽若干丈？深若干尺？可蹕浅以渡否？如可蹕浅以过，则恒昆、吟保各营亦前后受敌。所招降卒新营，本不可靠，而陶保堂、张吟又纷纷死病相继，十营占地颇广，事急之际，季弟岂能一一照顾？该处为全军粮路所在，两弟细细审量一方，吟保、平盛等营果能兼受狂风大浪否？余所疑者在此一处，望弟加倍小心。

## 六月初十日

沅、季弟左右：

专丁来信，应复者条列如左：

一、援贼大至，余甚为悬念。崇天义张姓，似是去春守徽州者，诡计甚多，打硬仗亦不甚悍。伪忠王前年十月在羊栈岭，去年春在建昌等处，均不甚悍，专讲避实击虚。弟所部新勇太多，总以“不出濠浪战”五字为主。如看确贼之技俩，偶然一战，则听弟十分审慎出之，余但求弟自固耳。

二、上海军情，昨已将少荃信抄寄。周沐润业经批令来皖帮办文案。许惇诗有才而名声太坏。南坡专好用名望素劣之人，如前用湖南胡听泉、彭聿之、李茂斋，皆为人所指目，即与裕时勋、金眉生交契，亦殊非正人行径。弟与南坡至好，不可不知其所短。余用周馥甫，亦系许、金之流，近日两奉寄谕查询，亦因名望太劣之故。毁誉悠悠之口，本难尽信，然君子爱惜声名，常存冰渊惴惴之心，盖古今因名望之劣而获罪者极多，不能不慎修以远罪。吾兄弟于有才而无德者，亦当不没其长，而稍远其人。

## 六月十二日

沅、季弟左右：

援贼已到四五万，究竟在城内乎？抑在秣陵关一带乎？贼若来扑弟之营壕，在秣陵关等处打馆，往返太远，我已反客为主，渠于烈日之下，必难久熬。若移至我营近处扎垒，果有佳处可扎五六万人否？自城



中徽柴米出来，果有若干里？望查示。

五彩关防阅过，均妥，五人亦均胜统带之任。杏南将来或可比金逸亭，晴窗或可比刘岳昭，萧、张、刘则朱、唐之亚也。时时勤教勤讲，渠辈亦有进益，弟亦可互相警惕。

春霆两旬无信，其军银米两缺，悬系之至。

## 六月十四日

澄弟左右：

科一身体若能吃苦，令其乡试，亦无不可。余甲午乡试，实畏其热如火如甑。今年多一闰月，则头八月必酷热可知。余不欲其入场，非过于姑息，实因年纪太轻，不能耐此苦耳。

沅、季在金陵，援贼虽到，而尚无动作。多公本应会剿金陵，因陕西不靖，朝旨与官、多之奏，均须先赴秦中一行。鲍春霆在宁国两获胜仗，闻援贼亦多，难遽得手。今年值各路顺利之时，而忽添此一大波折，不知天心竟待何时乃厌乱也！

## 六月二十日

沅弟左右：

此次洋枪合用，前次解去之百支，果合用否？如有不合之处，一一指出，盖前次亦花大价钱买来，若过于吃亏，不能不一一与之申说也。

吾因近日办事，名望关系不浅，以鄂中疑季之言相告，弟则谓我不应述及。外间指摘吾家昆弟过恶，吾有所闻，自当一一告弟，明责婉劝，有则改之，无则加勉，岂可秘而不宣？鄂之于季，自系有意与之为难。名望所在，是非于是乎出，赏罚于是乎分，即情之有无，亦于是乎判。去冬金眉生被数人参劾，后至抄没其家，妻孥中夜露立，岂果有万分罪恶哉？亦因名望所在，赏罚随之也。众口悠悠，初不知其所自起，亦不知其所由止。有才者忿疑谤之无因，而悍然不顾，则谤且日腾；有德者畏疑谤之无因，而抑然自修，则谤亦日熄。吾愿弟等之抑然，不愿弟等之悍然。愿弟等敬听吾言，手足式好，同御外侮，不愿弟等各逞己见，于门内计较雌雄，反忘外患。

至阿兄忝窃高位，又窃虚名，时时有颠坠之虞。吾通阅古今人物，似此名位权势，能保全善终者极少。深恐吾全盛之时，不克庇荫弟等，

吾颠坠之际，或致连累弟等，惟于无事时，常以危词苦语，互相劝诫，庶几免于大戾。酷热不能治事，深以为苦。

## 六月二十二日

沅、季弟左右：

贼匪于地势之远近、方向之东西全不了了，宜其屡败不振，然官兵亦自当处处严防。今宁国虽已克复，吾于旌德、三溪一路，尤不敢疏忽也。

闻九袱洲之北，李世忠已开河一道，可通舟楫。洲上之贼，应不能再犯北岸。吉左两营，弟调至金柱关，当无他虑。多公调石清吉十营至金陵会剿，鲍军亦可由东坝、溧水而至金陵。八月以后，弟处当不孤矣。

## 六月二十三日

沅弟左右：

张胜禄竟以微伤殒命，可惜可痛。余昔年饒塔智亭之歿，失一威望之将，悼毕印侯之逝，失一骁悍之将。张声扬虽不如塔，似已远过于毕。一军之中，得此等人千难万难。灵柩过安庆时，余当下河祭奠，赠恤其家。

李臣典果足为继起之贤否？凌有和、崔文田、李金洲三人，余俱不甚熟。大约选将，以打仗坚忍为第一义，而说话宜有条理，利心不可太浓，两者亦第二义也。十六日之仗，崔文田等出卡在大濠外否？刘南云等亦出卡否？洋枪与火炮、劈山炮，三者比较，究竟何者群子最远？望校阅见告。

弟两次抄示寄乔鹤侪信，多影响之谈。淮盐向以江督为主。江督犹东，运司犹佃也。弟欲从盐中设法生财，不谋之于我，而谋之于乔，何也？

盐务利弊，万言难尽，然扼要亦不过数语。太平之世两语曰：出处防偷漏，售处防侵占。乱离之世两语曰：暗贩抽散厘，明贩收总税。

何谓出处防偷漏？盐出于海滨场灶，商贩赴场买盐，每斤完盐价二三文，交灶丁收，纳官课五六文，交院司收。其有专完灶丁之盐价，不纳院司之官课者，谓之私盐，即偷漏也。

何谓售处防侵占？如两湖江西均系应销淮盐之引地，主持淮政者，

即須霸住三省之地，只許民食淮鹽，不許鄂民食川私，湘民食粵私，江民食閩私。亦不許川粵閩各販侵我淮地，此所謂防侵占也。

何謂暗販抽散厘？軍興以來，細民在下游販鹽，經過賊中金陵、安慶等處，售于上游華陽、吳城、武穴等處，無引無票無照，是為暗販。無論賊卡官卡，到處完厘，是謂抽散厘也。

何謂明販收總稅？去年官紳給票與商人和意誠號，本年喬公給票與商人和駿發號，目下余亦給票與和駿發，皆令其在泰州運鹽，在運司納課，用洋船拖過九洲洲，在于上游售賣。售于湖北者，在安慶收稅，每斤十文半，在武昌收九文半。售于江西者，在安慶每斤收十四文，在吳城收八文。此所謂明販收總稅也。

弟前令劉履祥在大通開官鹽店，小屯小賣，是暗販之行徑。今欲令二三商人赴喬公處領鹽，駛上行銷，是明販之行徑。若使照和意誠、和駿發之例，亦在運署納課，亦雇洋船拖過九洲洲，亦在皖與武昌完二十文，皖與吳城完二十二文，則此外為利無几。若不照和意誠、和駿發之例，概不完厘，則有益于弟，有損于兄，殊不足以服眾。本年四月，劉履祥在下游運鹽數船駛上，亦用洋船拖過賊境，被獲港卡員王壽祺攔住。劉履祥寄函與王，請完厘釋放，厥後過鹽河，華陽竟未完厘。此事人多不服，余亦惡之，擬即將劉履祥撤去，並將大通官鹽店拆毀，蓋所得無多，徒壞我名聲，亂我紀綱也。弟亦不必與喬公謀鹽，弟以後專管軍事，莫管情事可也。

## 六月二十六日

沅、季二弟左右：

沅信并祭文稿一件，情極沉摯，辭尤雅麗，似近日大有長進。弟平日写信条理清晰，而失之繁冗，往往于業經說明之事，再加一二層，反覺無當。此次一意承接，不瀾不蕩，可喜之至。此後弟每動筆，不應其不明，患其太多。意盡則止，辭足則止，不必再添也。

銀票不停片刻，不少分厘，弟可通告各處。不僅弟營為然，弟與季合統二萬一千人，每月所收各卡厘金，約計二萬金，余再囑隨龍淵解六萬三千金，當辦得到，弟盡可放心。

寧國克復，弟處二十日尚無確耗，此後宜專派多人在外探信。至要至要。

## 六月二十九日

沅、季两弟左右：

日来不接弟等信，想昔次平安。春霆克复宁国，至今无公牍私函来此，不解何故。或乘胜进攻广德、东坝耶？抑别有疏失耶？如果克复广德、东坝，则拟以韦志澂守广德，王可陞守东坝，凯章守宁郡、宁邑，云岩守旌德、三溪，桂生守徽州，周万倬两营守芜湖，而春霆从溧阳、溧水、句容绕至金陵之东北，庶为得势，不知果能尽如人意否。

多公自武昌起程西上。闻秦中汉回仇杀，已成巨案。多公此行，能仅至豫而不至陕，或可速了。一入关中，则不复能东还矣。

## 七月初一日

沅、季两弟左右：

专差至，接两弟书。沅于二十五早大战之后，尚能写二十二叶之多，可谓强弩矣，所言俱能切中事理。

凡善将兵者，日日申诫将领，训练士卒。遇有战阵小挫，则于其将领责之戒之，甚者或杀之，或且泣且教，终日絮聒不休，正所以爱其部曲，保其本营之门面声名也。不善将兵者，不责本营之将弁，而妒他军之胜己，不求部下之自强，而但恭维上司，应酬朋辈，以要求名誉，则计更左矣。余对两弟絮聒不休，亦犹对将领且责且戒，且泣且教也。良田美宅，来人指摘，弟当三思，不可自是。吾位固高，弟位亦实不卑，吾名固大，弟名亦实不小，而犹沾沾培坟墓以永富贵，谋田庐以贻子孙，岂非过计哉？

二十五日又获大胜，以后应可站稳脚跟。然计贼之伎俩，必再来前后猛扑一次，尚宜谨慎待之。

## 七月初五日

沅弟左右：

九洲以北之河既成，李世忠可大获盐利，吾亦幸金陵之贼永无北岸之接济，镇扬之兵易通上游之消息，此公私两便也。希庵近日病颇重，咳嗽吐痰，夜不能睡，并须扶杖出入，闻之深以为虑。作梅之医理，余以为不可恃，而润、希皆深信之，恐诒误不浅也。

陕西汉回仇杀，闻死人至三十万之多，看来西北劫数方兴未艾。天

意茫茫，不知何日果遂厌乱？谕旨屢催多公入关，此等纷纠之事，亦殊非多公所长。朝廷似有中兴之象，而四方兵端日增，良为忧灼。

## 七月二十日

沅、季弟左右：

季弟病似疟疾，近已痊愈否？吾不以季病之易发为虑，而以季好轻下药为虑。吾在外日久，阅事日多，每劝人以不服药为上策。吴彤云近病极重，水米不进已十四日矣。十六夜四更，已将后事料理，手函托我，余一概应允，而始终劝其不服药。自初十日起，至今不服药十一天，昨夜竟大有转机，疟疾减去十之四，呃逆各症减去十之七八，大约保无它变。希庵五月之季病势极重，余诫告之，云治心以广大二字为药，治身以不药二字为药，并言作梅医道不可恃。希乃断药月余，近日病已全愈，咳嗽亦止。是二人者，皆不服药之明效大验。季弟信药太过，自信亦太深，故余所虑不在于病，而在于服药。兹谆谆以不服药为戒，望季曲从之，沅力劝之。至要至嘱。

季弟信中所商六条皆可允行。回家之期，不如待金陵克后乃去，庶几一劳永逸。如营中难耐久劳，或来安庆闲散十日八日，待火轮船之便，复还金陵本营，亦无不可。若能耐劳耐烦，则在营久熬更好，与弟之名曰贞、号曰恒者，尤相符合。其余各条皆办得到，弟可放心。

上海四万尚未到，到时当全解沅处。东征局于七月三万之外，又有专解金陵五万，到时亦当全解沅处。东局保案，自可照准，弟保案亦日内赶办。雪琴今日来省，筱泉亦到。

## 七月二十四日

澄弟左右：

近日诸事平安。沅、季在金陵并未开仗，鲍春霆克宁国后尚未进兵。希庵于初八日简授钦差大臣，咨请余代奏谢恩，并请辞谢重任，回籍守制，已于二十一日代为陈奏。渠以二十二日自六安起行来安庆，俟奉到赏假谕旨，即行归里。袁午桥开缺以后，病势甚重，不审能再驻临淮办事否。若午、希皆去，余须兼顾淮北，精力万照管不到。

近日身体颇好，疮痍皆愈，但畏热殊甚，汗出如雨，殆亦老年必有之象。弟近日体气何如？常服药否？余今年未服补药，盖见胡润帅晚年病象，未必非补药太过之咎耳。

## 七月二十五日

沅、季弟左右：

久不接来信，不知季病痊愈否？各营平安否？东征局专解沅饷五万，上海许解四万，至今尚未到皖。阅新闻纸，其中一条言何根云六月初七正法，读之悚惧惆怅。

余去岁腊尾买鹿茸一架，恨百九十两，嫌其太贵，今年身体较好，未服补药，亦未吃丸药。兹将此茸送至金陵，沅弟配制后，与季弟分食之。中秋凉后，或可渐服，但偶有伤风微恙，则不宜服。余阅历已久，觉有病时断不可吃药，无病时可偶服补剂调理，亦不可多。吴彤云大病二十日，竟以不药而愈，邓寅皆终身多病，未尝服药一次。季弟病时好服药，且好易方，沅弟服补剂，失之太多，故余切戒之，望弟牢记之。

弟营起极早，饭后始天明，甚为喜慰。吾辈仰法家训，惟早起、务农、疏医、远巫四者尤为切要。

## 七月二十八日

沅、季弟左右：

接沅弟排遣一缄。大椎礼神，以驱厉气而鼓众心，或亦足以却病。余寸心忧灼，未尝少安。一则以弟营与鲍营病者太多，为之心悸；二则各县禾稼，前伤于旱，继而蝗虫阴雨，皆有所损，收成歉薄，各军勇夫七万人，难于办米；三则以秦祸日烈，多公不能遽了，袁、李皆将去位。长淮南北，千里空虚。天意茫茫，竟不知果有厌乱之期否？幸季弟疟疾速愈，大为欣慰。观民心之思治，贼情之涣散，金陵似有可克之机。然古来成大功大名著，除千载一郭汾阳外，恒有多少风波，多少灾难，谈何容易！愿与吾弟兢兢业业，各怀临深履薄之惧，以冀免于大戾。

东征局五万，因北风太大，尚未到省。此月竟止解去五万，下月必补足也。

## 八月初四日

沅、季弟左右：

希庵昨日到省，气象瘦黑，咳嗽不止，病殊不轻。本日接奉谕旨，不准回籍治丧，赏银八百两，飭地方官妥为经理。天恩优渥，无以复

加，然希庵归思极切，且其病似内伤，非回家安心调养，断难痊愈。渠拟自行具折陈情，拜疏即行。论君恩则有负，论病状则无愧也。

## 八月初七日

沅、季弟左右：

日内未接弟信，想季症痊愈为祝。余日日至希庵处看视，其骨瘦多咳，略似内伤，而神气尚凝聚，静心调养，当可全愈。即日自行具折陈情，恳请回籍一行，计二十八九可奉批旨。如再不蒙俞允，则续行陈情，拜疏即行。渠于送奠仪者，一概辞谢，虽余兄弟与雪琴者皆不受，此外则并祭幛而辞之。

袁帅病势颇重，断难久留。余之责任太重，深为焦虑。东局五万，上海四万，至今未到。昨日江西解到四万，今日飞解弟处，稍济眉急。金陵援贼，近日何如？各营病痛，比来少愈否？

澄弟寄到家信，嘱专人送金陵，兹专足送去。弟处送家信者，常失之太慢，余定限自皖至家十八天。以后弟逢八日写信，排递余处，余逢四送家，则弟城达湘，不满一月矣。

## 八月二十一日

沅、季弟左右：

专差到，接来信具悉。吴委员解饷七万，前械已决其径解金陵，该员不来安庆禀见，亦殊可怪。毛、恽以此敦同舟之谊，而该员暗离离间之意，世情浇薄如此！

六属丁漕，不能不驳。去年十二月二十一日，恩诏豁免安徽失陷地方今年钱漕。余与希庵会衔出示，定以十二月二十一日以前克复者起征，恩诏以后克复者不起征，兹将告示寄阅。和、巢皆在不征之列，碍难违旨开办。无为、怀、庐等属虽办抵征，然当分拨各军。弟军之视鲍、张、朱、唐各军已极优矣，若再处处独优，则人必不服，余亦无词以告马方伯、陶粮台也。

## 闰八月初四日

澄弟左右：

沅、霆两军病疫，迄未稍愈。宁国各属军民死亡相继，道殣相望，河中积尸生虫，往往缘船而上，河水及井水皆不可食。其有力者，用舟

载水于数百里之外。臭秽之气中人，十病八九。诚宇宙之大劫，军行之奇苦也。

洪容海投诚后，其党黄、朱等目复叛，广德州既得复失，金柱关常有贼窺伺，近闻增至三四万人，深可危虑。余心所悬念者，惟此二处。

余体气平安。惟不能多说话，稍多则气竭神乏，公事积搁，恐不免于贻误。弟体亦不甚旺，总宜好好静养。莫买田产，莫管公事。吾所嘱者，二语而已。盛时常作衰时想，上场当念下场时，富贵人家，不可不牢记此二语也。

## 闰八月十六日

沅浦九弟左右：

多帅回顾金陵之说，万办不到。陕西大乱，死者已四五十万人，较三江两湖之劫更巨。余前复奏一疏，言多公果不入秦，当令驻军南阳。其时盖深知多之必入秦中，又不料弟与鲍、张各军病势如此之甚也。厥后官相与陕帅屢疏奏催多公入陕，朝旨亦屢次催之，分派胜剿渭北，多剿渭南兼保省城。入关以后，万不能东返矣。顷多公飞调庐州石清吉部下三营入陕，余已咨复截留，尚不知留得住否。且即奏调多军回援金陵，至速亦在五个月以后，而金陵与鲍军之危迫，必在两月以内，远水不能救近火。弟惟就现有兵力，专谋坚守，不图出战，早早布置，或尚可为。

两弟共统兵二万，若责以合团，责以攻城，诚有不能；若责以专守营垒，似亦无辞可以诿谢。病疫乃是天意，弟与鲍、张、朱、唐各军皆病，多军东返，遂能保其不大病乎？弟当与各营官力图自固。身居绝地，只有死中求生之法，切不可专盼多军，致将卒始因求助而懈怠，后因失望而气馁也。

弟若另求保营之法，只有两法略可补救：一法商之毛、郭、黄、赵在湖南飞募新卒前来补缺；一法调竹庄团防营与周万倬共守芜湖，而腾出王可陞之兵为活兵，危急之际，或助弟，或助鲍也。然二万人不能守营，添王可陞遂能守乎？殊深焦虑。



## 闰八月十九日

沅弟左右：

多公不能回军东指，前信略述其概。本日接严渭春一缄，称多公在商南小挫，散去四营，恐未必确。其称多帅昨奉谕旨，又令回剿楚豫发、捻，不必入关，则必见廷寄之言。多若果回楚豫，则弟欲奏请会攻金陵，或有几希之望。然余接多公在商南发信，业已入关，其部下雷正綰已至陕西城外，为解省围之计。秦中官绅未必肯放多帅出关，而多公不携雷镇十营偕行，必不肯独自东还。是多公不能出关回剿楚豫十居其七，即能回楚豫，亦不能会剿金陵。以鄙见计之，多军长途之辛苦，部落之分散，接济之不便，事机之不顺，多公必不免于懊恼，将士必不免于疾病，若再东行三千余里而至金陵，则辛苦尤甚。无论其不能东来，来亦必不能速，难遽得力。故余欲弟力求自保，断不可指望多公，致误大事。至嘱至嘱。

多公阅历尚浅。四五月间自请援陕，与官公密商密奏，皆秘不使余知。彼时锐意立功西北，岂料今日尚在商南，所谓事非经过不知难也。弟今欲多军速回金陵，亦不知事之难也。余千思百计，无术可救弟之危，惟令团防营南渡，与周万俸会守芜湖，腾出王可陞一军留助弟处一臂之力。然弟二万人不能坚守，添二千余人岂遂足恃？聊尽心焉耳。

麓轩愿助我办粤厘，亦可感也。

## 闰八月二十一日

沅弟左右：

雪琴信来，贼分三大支上犯，伪侍王一支专攻金陵，侍逆尚在衡、严一带。此信或未必确，然大支贼扑犯之说，则处处皆同，大约弟处九月必有战事矣。

季弟各营所守一段，乃弟之粮路所关。其营皆新集之卒，未历战阵，未经风波，恐大股贼甫至，而各营望风先溃。粮路一失，弟所统各营，亦有不能不退之势，则大局立坏。他处无兵可调，只留王可陞一军为援助金陵之地。弟或先将王可陞调至大胜关一带，填扎季弟新募八营墙内，而换出季弟之新募移驻芜湖，似尚妥惬。陞字四营，虽亦系未经见仗之新募，而较之季弟新募，或者略胜。王可陞二千七百人可扎五垒。弟于湘恒等十营中挑留五营，而抽五营移于芜湖以上。季若不愿在

金陵，亦可移至芜湖以上。惟弟斟酌行之。余相隔太远，不敢悬揣，系念无已。

## 闰八月二十四日

沅弟左右：

次青之案，竟是假信，亦殊可詫。余第三次引入他案作证，以郑魁士与次青相提并论，亦尚非拟不于伦。郑魁士在江南江北，声名极好，翁中丞于十年奏力求名将以保皖北危局一折，袁午帅于十一年奏请起用宿将帮办军务一折，皆极言郑魁士忠勇冠时，至今郑告病在籍，尚食全俸。弟若见翁、袁二折，则知此人之享大名。余跻李于郑之上，片中颇有斟酌，弟试取原片而再阅之，当可释然。惟与我昔共患难之人，无论生死，皆有令名，次青之名由我而败，不能挽回，兹其所以耿耿耳。

希庵于二十三日开行回籍，义渠即于是日晋省，定于二十六日接印。希之吐血已愈，而咳嗽未止，瘦亦殊甚，幸吃饭多而有味，夜眠极耐。此次归去，亦志气神勇，当可調理就痊耳。义渠言多帅营勇逃者极多，杨得武之弟凯字营在美城逃回九十人，在荆子关又逃回百五十人，他营逃者，亦禁拿不住。吾料此行多公必懊悔，全军必衰弱，恐不幸而言中。弟须力求自力，不可盼望多军。至嘱。

王可陞一军亦不宜轻易调去，一至金陵则成呆军，能进不能退，不如在芜湖、宁国之活也。

## 九月初一日

沅弟左右：

昨日未接弟信，忧系不释。兄弟相隔太远，不能相顾，虽欲百计救助，而信到金陵，已在贼到十日之外，凶锋已过矣。

计此三日内，已发军火一批、饷银二万、护军湘后营挑勇共四百人；发信请厚庵救助，请任星元救助；发札调陈东友、赖荣光二营归弟调遣；今日发炸炮炸弹，派人去放；调石清吉亲带三营前往，扎保江边饷道。此数者，若件件做到，亦自不无小补。特患最危最急在二十五六七等日，而余所发之援兵，均在九月初五日后乃到。乃知军事呼吸之际，父子兄弟不能相顾，全靠一己耳。

今日接奉廷寄，极可钦感，录寄一阅。

## 九月初二日

沅弟左右：

自十九至二十五夜，若守已七日，从此应可无虞。至慰至慰。季弟所守江滨一段，系粮运至要之地，而用收降新集之卒，吾深为忧虑。不料季能谨慎有条，弟所寄前后各信，竟无一字稍涉慌张，又能联络水师，使之乐为我用。佳哉！吾两弟可谓贤且劳矣，愿从此益加谨慎。再过十日，贼若无如弟何，自必溃而之他。

贼数闻以十万计，每日须食米千石，若无大舟搬运，何能持久？吾在徽用兵二载，深知陆路运米之难，即在金陵城内运至谷里村一带，数十里之内，月运三万石，经理亦极不易，况城贼之米，未必肯多搬出耶？

弟守事既稳，以后余惟多办银米子药接济，弟可放心，断不缺乏。宁国守城之事已有把握，此后只求金柱关一带水师不挫，则处处皆稳矣。

## 九月初三日

沅、季弟左右：

得沅弟信，知西南隔安如泰山，粮道无虞，至以为慰。日内无他变症否？悬念之至。此间解去之开花炮，计初七八乃可到金陵。我亦有此物，或可定军心而沮贼气。厚庵兵力太单，深以为忧。顷拨水师两营往助，计初六七乃可抵金柱一带，不知赶到上否？

正封城间，接沅信，守局已稳，可慰之至。南云三营，最为当冲，弟派信营往换，正与十年春霆营在小池驿，左营以多营换守数日办法相同。守势已定，再添贼来扑，亦不足畏。所虑忠逆全股上攻金柱一带，而对逆与弟军相持耳，调援兵殊不应手。石清吉之十营，官帅业已调去六营拔行矣。王可陞一军，早有机归弟调遣。弟处若站得住，仍留王在大围之外较活，惟弟酌之。

## 九月初四日

沅弟左右：

沅弟金陵一军危险异常，伪忠王率悍贼十余万昼夜猛扑，洋枪极多，又有西洋之落地开花炮，幸沅弟小心坚守，应可保全无虞。鲍春霆

至芜湖养病，宋国永代统宁国一军，分六营出剿，小挫一次，春霆力疾回营，凯章全军亦赶至宁国守城。虽病者极多，而鲍、张合力，此路或可保全。又闻贼于东坝抬船至宁郡诸湖之内，将图冲出大江，不知杨、彭能知之否。若水师安穩，则全局不至决裂耳。

来信言余于沅弟既爱其才，宜略其小节，甚是甚是。沅弟之才，不特吾族所少，即当世亦实不多见。然为兄者，总宜奖其所长，而兼规其短。若明知其错，而一概不说，则非特沅一人之错，而一家之错也。

吾家于本县父母官，不必力赞其贤，不可力诋其非，与之相处，宜在若远若近、不亲不疏之间。渠有庆吊，吾家必到；渠有公事，须绅士助力者，吾家不出头，亦不躲避。渠于前后任之交代，上司衙门之请托，则吾家丝毫不可与闻。弟既如此，并告子侄辈常常如此。子侄若与官相见，总以谦谨二字为主。

## 九月初四日

沅弟左右：

该逆以全力攻东隅，伤亡过多，殊恐难以久支，焦灼曷极！二日内又转大北风，于上游接济诸物大不方便，焦灼之至，然无论与否，日内必再续解火药群子一批。江西有银二万在途，一到即日续解，特无援兵可拨。

该逆万无自退之理。忠逆一股，去年围建昌，亦凶悍之至；后黄印山等坚守，无隙可乘，彼围攻十九日解去。厥后在丰城与春霆打仗，闻交手不久即败。今年在上海与少泉一军交战，除洋枪甚多外，似无他奇技。该逆欺弟军全不能战，弟若能挑得七八千不病之勇，出濠与之力战一次，亦是一法。去年伪侍王在乐平，欺左军不能战，猛围猛攻，业三日矣，左帅暗与各营约定，待贼疲乏散漫之时，猛然出队力战，侍贼是夜即遁。不知弟处可用此法否？如用此法，总须善于相机。第一要看贼散布在我营外最近之处，第二要看贼疲乏思归之时，第三要辨得贼之强枝安在，弱枝安在，乃可交手。弟与诸营官熟商行之。如无病者不满七千，则难作此计矣。

## 九月初五日

沅弟左右：

伪侍王率三四万贼，于闰八月十四日自浙之龙游起行，亦赴金陵。约计侍逆此时已到金陵，不知弟已调王可陞至濠内否？今日余又函催王可陞迅赴弟处矣。总之，九月二十以内，王可陞、程学启二人必到弟濠之内；十月二十以前，鲍军必到太平、采石、大胜关一带；十一月二十以前，多公亦必至太平、采石一带。只望我贤弟苦守此两月，而尤苦者在王、程未到之先。若王、程既到，弟新募之卒陆续而至，则弟亦或可出濠一战。

弟处群子少而不甚合用，日内赶制赶解，必可接济。

## 九月初七日

沅、季弟左右：

接初一日信，知已稳守十昼夜，曾岂凡之病伤亦得救全，至慰至慰。惟倪桂是弟左右第一奋勇可靠之人，竟尔阵亡，可悯可敬。弟从此亦须保重，不必常往危险之地。余从不以此等言劝弟，今守局已稳，与初到危险之时又当稍别，望弟酌之。

石清吉病莫能兴，派参将梁美材等三营遵湖南渡，救援金陵。余以芜湖关系极大，又刘世鐸请留陞营守芜，余批令陞营决须赴援金陵，而调梁美材三营督守芜湖。日内北风甚大，想陞字营不能开赴弟处，弟惟令陞营陆续前进可也。调程学启之咨札，昨日搭洋船下去，初九可到，程学启或于十五后可抵金陵。王、程与弟之新勇三千到齐，纵外无援兵，弟亦可从内打出矣。

## 九月初八日

沅弟左右：

接吴竹庄信，尚留王同守芜湖。芜湖存，金陵之吉凶尚未可知；芜湖若亡，则金陵万无可救之理矣。且如此大逆风，王可陞亦万无飞入金陵之法。弟若稍足自立，或即令王无庸离芜可否？祈弟酌之。

营垒之不得地势者，可否另筑一垒，移居其中以养兵力？程学启一军，吾必调之至金陵助守。他事或办不到，此事必办得到，望弟坚忍以待。

## 九月初九日

沅、季弟左右：

连接来信，略为宽舒，然危险情状，仍流露于纸上。护军营勇有自金陵归者，言初四夜弟营无恙，又言初六在东梁一带见陞营水陆急赴金陵。北风极大，恐初七尚未到。

余忧灼之情，以初五夜为甚，不知是夜如何危殆？初六七夜，愁云暗淡，初八则月色清明，今日北风亦稍息矣。现备军火一船，专候轮舟到拖带下去。此后弟之子药粮米，不患不能解济，特目下十日恐缺乏耳。

王可陞既赴弟处，闻芜湖十分惊慌，万一芜湖失守，弟亦当安心坚守。总待王、程二将到齐，出壕与之决战。程学启未到之先，仍以坚守为主。

缩十营近西头，此法甚好，何为迟疑不决？凡用兵最重气势二字。此次弟以二万人驻于该处，太不得势。兵勇之力，须常留其有余，乃能养其锐气。缩地约守，亦所以蓄气也。

## 九月初十日

沅弟左右：

接弟信，局势稍稳，寸心稍慰。所备子药一船，派先锋官任祖文专解者，已附洋船拖带下去，计明日可抵金陵。此余近日一快心事也。一月内各处援兵皆可到齐，必有佳音。万一芜湖或有疏失，弟亦唯苦心坚守，王、程助之于内，李世忠助之于外，必可一战解围，切莫慌乱。至嘱。

## 九月十一日

沅弟左右：

初五早之捷，破贼十三垒，从此守局应可稳固，至以为慰。缩营之说，我极以为然。既不能围城贼，又不能破援贼，专图自保，自以气敛局紧为妥，何必以多占数里为美哉？及今缩拢，少几个当冲的营盘，每日少用几千斤火药，每夜少几百人露立，亦是便益。气敛局紧四字，凡用兵处处皆然，不仅此次也。

所需洋枪洋药铜帽等，即日当专长龙船解去。然制胜之道，实在人

而不在器。鲍春霆并无洋枪洋药，然亦屡当大敌。前年十月、去年六月，亦曾与忠酋接仗，未闻以无洋人军火为憾。和、张在金陵时，洋人军器最多，而无救于十年三月之败。弟若专从此等处用心，则风气所趋，恐部下将士，人人有务外取巧之习，无反己守拙之道，或流于和、张之门径而不自觉，不可不深思，不可不猛省。真美人不甚争珠翠，真书家不甚争笔墨，然则将士之真善战者，岂必力争洋枪洋药乎？

闻霆军营务处冯标说，霆营现以病者安置城内，尽挑好者扎营城外，亦是一法。弟处或可仿而行之。将病者伤者全送江北，令在西梁、运漕等处养息，专留好者在营。将东头太远之营缩于中路、西路，又将病伤太多之营缩而小之，或以二营并而一之。认真简阅一番，实在精壮可得若干人，待王、程到齐，再行出濠大战。目下若不缩营蓄锐，恐久疲之后，亦难与言战也。

穆海航在无为州，已札飭将抵征之项银米并收，闻百姓欢欣之至。弟托之办两月米粮，必做得到，即当告之。

## 九月十二日

沅弟左右：

天久不雨，秋末恐有久雨泥泞，此理势之必然者。吾意欲弟早早缩营，气敛局紧，常留有余，以与贼相持。一则恐雨后墙圯，处处不能照顾；二则王、程到后，抽队出战，亦须留队守垒，愈短愈紧，则愈易守也。宁国县城失守。朱守旌德，唐守徽州，十分吃重。春霆亦三面受敌，自顾不暇，不能援救弟处。弟惟待王、程到后，力战守，庶有解围之一日，否则他处竟无援兵可盼。

昨信劝弟缩营并营，送病者伤者于江北，弟意果行之否？

## 九月十三日

沅、季弟左右：

都将军派兵四营来助守，固属可喜，而亦未必可恃。凡危急之时，只有在己者靠得住，其在人者，皆不可靠。恃之以守，恐其临危而先乱；恃之以战，恐其猛进而骤退。幸四营人数不多，或不致搅动弟处全局。否则彼军另有风气，另有号令，恐非徒无益，而反有损，弟宜谨慎用之。去年春间，弟不要陈大富一军，又不留成大吉一军，余深喜弟之有识有志也。

子药银米，余刻刻不忘，弟刻刻宜存节省之意，不必函函苦催。大约弟设身处地所能办到者，兄亦必能办到；兄所束手不能办者，虽弟设身处地，亦无如何也。

## 九月十四日

沅弟左右：

余于初四日接芈泉公牍，知伪侍王将继续到金陵，忧悸不可言状。今弟此信尚有把握，又力赞王可陞之将材，意者守局业臻稳固乎？王可陞之精选右营、陞字后营，须全行调赴金陵。陞字皆新集之卒，弟不可恃之过深。其梁美材等三营，即今改扎芜湖，目下稍厚芜湖、金柱之声援，将来北岸有事，梁美材仍回守无为州也。

程学启尚在青浦，余已两次飞调，碍难忽行停止。少泉所派赴合肥招勇者，系张树声等五营，业已成军起行。余留之暂守运漕，万一孝感马融和一股下窜，北岸守住庐州、无为、运漕三处，庶不致掣动南岸全局。张树声等现虽置无用之地，然不可少也。

## 九月十五日

沅弟左右：

接专差携归之信，具悉守局已定。都部及陞营现尚未派汛地，自是行有余力之象。至慰至慰。鲍军病者死者，比之金陵更多，又有新河庄之挫，副中及峰礼等六营折损颇多，不复成队。又有宁国县城之失，韦、洪两部全数溃败，是霆军之元气大亏，威望亦损。朱云岩既因坚守旌德，不能随鲍远行，则鲍亦独立单薄，未敢令其由官圩直取小丹阳，仍须以稳重为主。昨日已专缄告之，冀其专剿宁国之贼，不必作援金陵之想。弟处守战，皆须全靠自己，切莫盼望他人。其可盼者，只有都部与程、王两军及回湘续招之三千人而已。

多礼堂一军，余与官、都、李四处具奏，渠亦迫思东还，大约十一月必到和州一带。只要处处守定，至冬间不患无转机也。火药实接济不上，弟当极力节省，子与银米，尚可敷衍。

再，去年三月十四日左季帅在乐平之战，全在善于蓄势审机。兹将渠原信寄弟一阅。兵无常法，弟不可泥左之法以为法，拘左之机以为机，然亦可资参采。大约与巨寇战，总须避其锐气，击其惰归，乃为善耳。



## 九月十六日

沅弟左右：

弟望火药迫切之至，而任祖文恰到，快慰可知。然火药实接济不上，江西省城全数搜括，不满四万斤，所望者仅湖北耳。弟须时时存节省火药之心，庶十月以后，犹可敷衍。

侍逆之党为左帅所攻，穷蹙之至。兹将左帅来信并伪文抄阅。蒋军恐难速来，然左公接余两信，当必分兵来助。徽、宁目下春霆一军实嫌单薄，余已调梁美材三营、周万俸四营助之。

闻孝感之贼回窜河南，皖北又少一患。

## 九月十七日

沅弟左右：

接少荃、云仙信，知程学启以守嘉定等处，不能上援金陵。彼间既为大局所关，而弟之初心，亦本不欲调程将西来，弱松沪之力掣少荃之肘。惟少荃另调所谓常胜军者，则殊非余之本意。常胜军前为华尔所带，余已不愿与之共事。今华尔已死，白齐文接统其众，其能战与否不可知，而其风气迥别，不能与弟军合处，则显而易知。渠既前来，则此间拦阻亦赶不及，只好听其自来。但断不可令人弟军长濠之内，只可令其先攻九洲洲、下关等贼垒，冀稍掣贼之势。如下游不能取胜，则令白齐文等由金柱关、采石上游夹击而下，虽未必大收其效，亦自无损于弟处，或亦善处之一道。白齐文部下名为洋兵，实皆广东、宁波之人，骄侈成俗，饷恤极贵，弟军断不宜与之共处。凡长濠以内，总须主兵强于客兵，一切皆由弟作主，号令归一，而后不至愆事。至囑至囑。弟若有信至沪，亦须先与说明。

又接弟信，知两处地道同穿曾经堵住。欣慰之至转增忧悒，恐弟轻易出濠打仗，不敌贼之多且悍也。

## 九月十九日

沅弟左右：

梁美材等三营，弟令其善守芜湖，而腾出精右、陞后归并金陵，正合余意。李世忠所部，系义渠、彤云等力劝余调之过江，助弟一臂之力。余一时心绪过忙，枪法遽乱，旋闻弟处局势稍稳，已止调矣。火药

当再解二万斤，帐篷拟再解五百架，银钱则须顺风数日乃可过鄱阳湖而抵安庆，目下实无妙法可以速之。

伪忠王之初计，本以全力先攻鲍军，不知何以变计，改而先攻弟军，必有献策者言鲍军坚而弟军瑕也。看来一半月内，该逆必不干休，必再多方猛扑。弟军若出濠打仗，恐正中贼之计，贼所求之而不得者。似以坚守不出为最妥，不必出而授贼凶锋。半月以后，白齐文必至，一月以后，新募之卒必至。我有日增之象，贼处已竭之势，则我操胜算矣。弟意以为何如？

## 九月二十日

沅弟左右：

弟与芜湖、金柱三处既稳，只要春霆一无疏失，则各路皆可化险为夷。一至十月，新募之勇陆续可至矣。火药二万、银二万，均于明日起解，嗣后事事接济得上，不至缺乏。惟火药一项，望弟认真撙节，切莫大意。洋枪洋药，总以少用为是。余前接办张小浦之徽防，其弁目人人皆有洋枪，余令部下不必染其风，而张部亦次第裁汰。凡兵勇须有宁拙毋巧、宁故毋新之意，而后可以持久。弟莫笑我为老生迂谈也。

## 九月二十一日

沅弟左右：

贼之来援金陵，群酋大会二次，各路布置周妥而后来。贼处心积虑以求逼于我，我轻心深入，以侥幸于不可得之城。弟之骤进，余之调度，皆轻敌而不能精审。此次经一番大惊恐，长一分大阅历。如忠、侍等酋解围而去，弟当趁势退兵，以伤兵羸弱者循江滨退至金柱关，选精锐者整队追贼。追至大官圩、小丹阳一带，与鲍军互为声援，待新募之卒到后，认真整练，再行进兵。

弟由高淳、东坝、溧阳以进宜兴，鲍由建平、广德以进长兴，两路排进，相去常在百里内外。水师棋布于丹阳、石臼、南漪等湖，与陆军相去常在数十里内，旌旗相望。弟以金柱为后路根本，鲍以芜湖为后路根本，处处联络，庶无全局瓦解之患。宜兴、长兴两城皆在太湖西岸，陆军到此休息停顿，待李朝斌水师办成，驶入太湖后，陆军再行前进。此大局所关，一年二年之军势，不可不早为定计。若长扎雨花台，以二三万劲旅屯宿该处，援贼不来，则终岁清闲，全无一事；援贼再来，则

归路全断，一蚊溃堤。此等最险之着，只可一试再试，岂可屡屡试之，以为兵家要诀乎？望弟早早定计。贼不解围，则忍心坚守；贼若解围，则以追为退，不着痕迹。行兵最贵机局生活，弟在吉安、安庆，机局已不甚活，至金陵则更呆矣。

久晴之后，必苦阴雨，下弦之后，夜必晦暗，不知弟处仍能坚守否？缩壕恐长贼气，即可定计不缩。营中米粮子药，究竟尚可支若干日，我自能打算也。

## 九月二十四日

澄弟左右：

唐荇翁遽尔沦谢，深堪悼恻。吾兄弟宜共赙以二百金，以答渠始终不忘先大夫之雅意。

沅弟在金陵，苦守已满一月，实属劳瘁异常。自闰月十九援贼初到，直至九月二十日，皆昼晴夜月，清和光明，近三日风雨阴寒，不知别有变症否？营中病卒虽多，而军心尚固，银米子药，均尚敷用，或可化险为夷。吾此次焦灼更甚于在祁门时，祁门关系一身之安危，此次则数万人之性命也。

## 九月二十四日

沅弟左右：

接弟二信，因余言及机势，而弟极言此次审机之难。弟虽不言，而余已深知之。革忠、侍两酋极悍极多之贼，以求退于弟军久病之后，居然坚守无恙。人力之瘁，天事之助，非二者兼至，不能有今日也。当弟受伤，血流裹创，忍痛骑马，周巡各营，以安军心，天地鬼神，实鉴此忱。以理势论之，守局应可保全。然吾兄弟既誓拚命报国，无论如何劳苦，如何有功，约定终始不提一字，不夸一句。知不知，查听之人，顺不顺，查听之天而已。

审机审势，犹在其后，第一先贵审力。审力者，知己知彼之切实工夫也。弟当初以孤军进雨花台，于审力工夫微欠。自贼到后，查意苦守，其好处又全在审力二字，更望将此二字直做到底。古人云“兵骄必败”，老子云“两军相对哀者胜”矣。不审力，则所谓骄也；审力而不自足，即老子之所谓哀也。

药二万、银二万及洋枪一批，日内准交轮舟拖带东下，其余银米子

药苦于逆风不能到皖，望弟稳守，不可急于出濠打仗。十月间，吾再派派护军前往助弟。弟之新勇，十月亦可赶到。昨日风雨，余极忧灼也。

## 九月二十五日

沅弟左右：

阴雨作寒，天黑如磐，极念士卒守濠之苦，能守过二十三四夜，则此后当就稳固。

春霆来信，病已全好，精神比前加倍，军心尚固。余又拨梁美材等营助之，计九月内必开大仗。渠处一经打动，则军势自可及于大官圩、小丹阳一带，可与弟处遥为声援。至十月精右营、陞后营必到，白齐文之常胜军必到，赵玉班所都省城守兵千人必到，不患兵事之无转机。江粤报解之饷，尚有十一万两在外，沈幼丹派胡长芝解银二万、火药二万，指明直解金陵。余函商少泉，亦请其拨银数万，直解金陵。不患饷事之无起色，只望弟与诸将勉力支持九月杪十月初之苦境，过此则渐入佳境。

今日天气微霁，或不至久变以苦我将士。

## 九月二十六日

沅弟左右：

排递一缄，具悉守局平稳。寄少泉信稿，与白齐文一军约法三章，均属切要之语。总之，危急之际，惟有专靠自己，不靠他人为老实主意。即如王可陞一军，余久拟派助弟处，公牍私函不仅数次，至今月余，尚有二营未到金陵。则此外如程学启、蒋芑泉等军之不能应手救急，何足怪哉！

连日阴雨夜黑，贼于夜间猛扑否？余所虑者，雨后墙坍一变症，江滨水涸一变症，过此二者，皆能守住，则忠、侍虽围两年，亦无如弟何矣。

## 九月二十八日

沅弟左右：

日内因风雨严寒，长夜深黑，正切焦虑。防守严密，实有把握，为之大慰。只要雨后墙坍无变症，江滨水涸无变症，则虽久不解围，亦自无妨。

柴炭一项，今日派人至张家滩、殷家汇收买，若买得几十船装下金陵，亦有小补。白齐文来援之事，余信语气与弟寄少荃信语气相吻合。总之，危急之际，莫靠他人，专靠自己，乃是稳着。弟惟专待新勇到齐，出壕一战，不必别有盼望。

礮炮交委员带回，甚是。在人不在器之说，余言终当验也。

## 九月二十九日

沅弟左右：

南云部卒杀至贼地道口，毙贼甚多，为之一慰。今日又晴霁，罗、朱、周、吴等邀同各营又获胜仗。从此太平、官圩、小丹阳之贼当难站脚，忠逆、侍逆之粮路柴路必已掣动。忠、侍若不解围以去，则必分兵回救太平一带。

洋枪机括，弟营既善收拾，又勤于擦洗，余当令彼泉于粤厘项下购买。然我军仍当以抬鸟刀矛及劈山炮为根本，譬之子弟于经书八股之外，兼工诗赋杂艺则佳，若借杂艺以抛弃经书八股，则浮矣。至嘱。

## 九月三十日

沅弟左右：

南云处地道已穿，从此东路应更稳妥，不知西路江边水涸尚有他变症否？周、王、罗、朱之捷，于贼之粮路柴路必有大损，或可不打，而忠酋自退。

弟坚持不浪战之义，甚是甚是。凡行兵须蓄不竭之气，留有余之力，《左传》所称再衰三竭，必败之道也。弟营现虽士气百倍，而不肯浪战，正所谓留有余之力也。孤军驻雨花台，后无退路，势则竭矣。吾欲弟于贼退后，趁势追贼，由东坝进溧阳、宜兴，所谓蓄不竭之势也。望弟熟思定计。

## 十月初一日

沅弟左右：

昨夕接春霆信，似有小挫之象。宁国霆、凯两军，本较之弟军病者更甚，死者更多。凯章之病，近更沉重。渠信来有“难支一月”“料理后事”等语，可悯可敬。霆军病故猛将，如黄庆、伍华翰之类，不可再得。吾前专忧虑弟处一军，今又深忧霆军矣。

## 十月初三日

沅弟左右：

排遣一贼，知守局平安如常，至以为慰。大官圩等处之粮多为我军所焚，则金陵援贼之粮必难久支，城贼之粮多寡，则不敢必耳，计忠、侍引退之期必不甚远。吾前有信囑弟以追为退，改由东坝进兵，先剿溧阳，以至宜兴。先占太湖之西岸，水师亦由东坝进兵，俾李朝斌先在太湖西岸立住脚跟，则战船处处可到，而环湖之十四府州县处处震动，贼则防不胜防，我则后路极稳。较之株守金陵者，有死活之分，有险易之别，但无赫赫之名耳。

凡行军最忌有赫赫之名，为天下所指目，为贼匪所必争。莫若从贼所不经意之处下手，既得之后，贼乃知其为要隘，起而争之，则我占先着矣。余今欲弃金陵而改攻东坝，贼所经意之要隘也；若占长兴、宜兴、太湖西岸，则贼所不经意之要隘也。愿弟早定大计，趁势围之，莫为浮言所惑，谓金陵指日可下，株守不动，贪赫赫之名，而昧于死活之势。至囑至囑。如弟之志必欲围攻金陵，亦不妨掀动一番，且去破东坝，剿溧阳，取宜兴，占住太湖西岸，然后折回再围金陵，亦不过数月间事，未为晚也。吾兄弟誓拚命报国，然须常存避名之念，总从冷淡处着笔，积劳而使人不知其劳，则善矣。

## 十月初五日

沅弟左右：

连接九月两次来缄，具悉一切。

弟决计不肯少退，不肯改由东坝一路进兵，则余续寄一缄，弟亦必不以为然。第株守金陵，恐又成三年五年之局，援贼退则苦其太闲，援贼来又苦其太险，反复筹思，不得所以两全之法，且看张、鲍两军在宁国果能坚守否。如鲍军能击退杨、黄大股，再能乘势规复东坝，则金陵之后路亦不至十分空虚，从弟之策亦无不可。若鲍军不能却敌，或有疏虞，再行筹议。

少泉解来饷银五万，今日派长龙船送弟处。其洋枪洋药尚未到齐，到即专人解金陵也。少荃大获胜仗，忠酋不久必分兵回援苏、昆。其调张树声等赴沪，已飞札应之矣。

## 十月初八日

沅弟左右：

天气大寒，营中将士昼夜辛苦，极可怜念。初三四后，忠、侍两逆别有无变相否？以少荃之开跪听王，左、蒋之急攻汤溪，计忠、侍俱不能不顾根本，或者再猛扑数日，乃始兴尽而返乎？

毛寄云协解火药至十一万斤之多，可感可敬。其被属员讦告之案，现飭官、严审办，不知果能不挂吏议否。白齐文一军，日内果已西来否？厚庵部下诸将，与弟久处者不下十余人，弟察看其中可靠者以何人为最。弟营经此番风波，诸将之胆识力量、长短分寸，纤悉毕露，其中可带三四千人独当一面者，更有何人，望详告我。

吾以洋枪比诗赋杂艺，而以劈山抬乌比经书八股，弟复函深以为然。此处见解相合，亦一大机括也。吾以劈山炮为陆军第一利器，若食群子至五十颗以外，实可无坚不摧。皖局目下加意打造劈山群子，少迟再解万斤至弟处试用。去年吾寄弟信，言劈山炮食满群子之后，须用稻草球子封之，并须用棚杖多杵几下，将草球紧紧贴子，子紧紧贴药，药紧紧贴膛，则群子之所及，又远又宽矣。弟须将各营亲口教之，亲眼验之，乃不失劈山炮之妙用，无谓各营皆已善用劈山，而不加察也。

## 十月十二日

沅、季弟左右：

伪忠王既回苏州，伪侍亦不久必退，日内想弟处已解围矣。

春霆初六七日来信，甚忙乱无主张。渠军好手，故者伤者太多，亦有抱怨而散去者，目下粮路已断，众心多离，深为可虑。

两弟决志不肯退兵，余亦不遽相强，但须鲍军得手，乃可定计。鲍军幸而获胜，宁国幸而保全，则弟处或退或否，尚易布置。鲍之老营倘有疏失，则宁郡必困重围之中，不得不调弟回驻芜湖、金柱，进援宁郡。即不去援宁，亦必退保芜湖。鲍军之安危，总在三五日内可决，弟之行止，视鲍军为权衡也。

## 十月十三日

沅弟左右：

昨日一缄，言弟军之进止视鲍军之利钝以为权衡。本日接春霆来

信，贼在西河坚扎墙垒，霆军进剿，未能扑动。吾观霆军之布置散漫，主意慌乱，人心离怨，恐此次必难支持。而其病者死者比他军独多，似亦冥冥中有主之者。鲍、张果有挫失，则芜湖、三山等处必十分吃紧。中段空虚，弟在下游断难久站，不如趁金陵贼退之时，鲍军未败之先，以退为退，以东西梁山、芜湖、金柱、运漕、无为为弟军之基业，然后相机再进。庶为可战可守、可伸可缩之军。

咸丰五年，余率水陆驻扎南康，志在攻破湖口一关。五六两年，竟不能攻破。七年，余丁忧回籍，寸心以为大憾事。罗罗山于五年八月至南康、湖口一看，知其不足以图功，即决然舍我而去，另剿湖北。其时有识者，皆佩服罗山用兵能识时务，能取远势。余虽私怨罗山之弃余而他往，而亦未尝不服其行军有伸有缩，有开有合也。观多公之决志不肯南渡，与各军秋间之多病，霆营目下之难支，是天意不欲遽克金陵已可概见。吾辈当一面顺天意，一面尽人事，改弦更张，另谋活着。

古人用兵，最重变化不测四字，弟行军太少变化。此次余苦口言之，望弟与季弟审度行之。即日退扎金柱、芜湖，分五千人至湾沚西河助剿，所以救鲍，即所以救张，即所以保全局而救阿兄也。若弟坚持前议，果扎金陵不肯挪动，鲍挫而张必随之，在余之公局固坏；而弟以重兵屯宿该处，如余之株守南康，和、张之株守金陵，弟之私局亦必坏。望弟详思之。凡行军言退，万众不愿，此次弟为救鲍而退，与寻常之退迥不相同，可以告麾下将士，亮余苦心耳。

弟若决不肯退，则请拨王可陞一助春霆可乎？

十月十三日

沅弟左右：

本日已专送一信，劝弟趁势退兵，分五千人救援鲍军，不知何日可以接到？惟思金陵援贼尚未退净，若不能打开后路，虽欲退兵至金柱、芜湖一带，而不能一切仍听弟作主。可退则退，不可退则姑少留，余不遥制也。

十月十四日

沅弟左右：

昨日午刻寄一缄，欲弟退金柱、芜湖，而拨五千人援救鲍军。灯后又寄一缄，言进退由弟自行作主。今日接弟缄，竟不知弟后豫之外尚有



贼全否？已退净否？余日内忧灼愤郁，寸心如焚，不复能细思大事。弟当打退援贼之后，精神可为一振，宜将全局细思。

鲍军挫失，宁郡不保，中段必一片荆棘，三山、大通、荻港等处均虑复为贼有，弟处倘道终久必梗。不如趁早退守芜湖、金柱，弟犹可以北岸为根本，弟两年所克城隘，犹可自保。若不早为之所，后恐求退而不得，求保芜湖、金柱而不得。特此再商，望弟裁断。

## 十月十五日

沅弟左右：

后壕之外，究尚有贼若干？已解围否？两次囑弟退兵，改由东坝再进，弟复信皆深不以为然。昨又恐弟兵有难遽退之势，补发一信，令弟自行斟酌。

总之，用兵之道，全军为上，保城池次之。弟自行默度，应如何而后保全本军。如不退而后能全军，不退可也；如必退而后能全军，退可也。至于鲍军纵有挫失，而江面总可保全，大通、荻港等处厘局纵或被扰，而水中粮运总可常通。余十三日信言弟处运道终恐梗塞，系忧灼过虑之辞，谅必不至于此耳。

## 十月十六日

季弟左右：

此次保全粮道，联络水师，援应东路，厥功甚伟。皇天不负苦心人，或终有树立勋名之日。

余近来心情忧灼，迥异往年。前以金陵勇夫三万余众，一有疏失全无归路，近以鲍军三次小挫，恐宁国不支，全局瓦裂；又见兵勇日增而可靠者少，倘项日绌而掣肘者多，日夜愤郁，绝少欢豫。

雨花台此次幸得保全，千辛万苦成此规模，本无言退之理。惟恐鲍、张宁国或有差池，则上游糜烂，下游金陵一军亦难孤立，故余三次寄信与沅弟，商所以退兵之法。然关系太大，余亦不敢遽制，听沅与季自行作主可也。至弟仍伸前议，亦听两弟自主。若不退兵而坚扎原处，弟回籍一行，当无不可。

## 十月十七日

沅弟左右：

今日接春霆信，较为宽舒。清弋江业已扎住，粮路当不至终梗。能将宁郡风波禁过，此后更宜大加整顿。弟处各营有最弱者，或裁或并，或换营官，总宜时时存一整饬之意。弟初赴吉安时，不过三千人，足打一枝大贼。今增至八九倍，而野战似尚无把握。练兵如八股家之揣摩，只要有百篇烂熟之文，则布局立意，常有熟径可寻，而腔调亦左右逢源。凡读书太多，而实无心得者，必不能文者也。用兵亦宜有简练之营，有纯熟之将领，阵法不可贪多而无实。春霆今统万余人，而不逮往年三千四百人之可靠，可以为鉴。

## 十月十九日

沅弟左右：

季弟究系伤寒症否？近大愈否？吾每以季之多病为虑，尤以其果于自医为虑。以后季或有疾，总嘱其莫轻服药。至要至要。

春霆一军危急，吾日夜忧灼。梁美材等三营本不可恃，渠令其孤立抱龙冈，旋又令其移扎寒亭，吾甚忧之。何绍彩四营十五日自安庆开下，吴廷华二营十八日自安庆开下，弟又新派王可陞五营前去一助，兵力不为不厚。然无一统领调度得宜，则此皆如散钱委地，不足恃也。王可陞尽可由陆路至芜湖，或由大胜关渡至北岸，再由神塘河渡至南岸三山等处。

弟但知采买者过厘卡之怨声载道，而不知陆兵撈船之怨声之倍之也。

## 十月二十日

沅弟左右：

宁国之事，据凯章言，老湘营守郡城，决可无碍。鲍、宋守高祖山、清弋江两处营垒，或亦尚可支持。如不能支，只好调皖北希部来救宁郡。蒋军正在力攻汤溪之际，又恐侍逆回浙，必不能飭芑敦宁。吾每说军事但靠自己，莫靠他人，盖阅历之言也。左帅此次派王文瑞带三千五百人援徽，已是力顾大局之举，不可又责望芑军也。平心而论，鲍、张二军尚不能守一宁国，求援于人，实难措辞。

弟在军已久，阅事颇多，以后宜多用活兵，少用呆兵，多用轻兵，少用重兵。进退开合，变化不测，活兵也；屯宿一处，师老人顽，呆兵也；多用大炮辎重，文员太多，车船难齐，重兵也；器械轻灵，马驮辎重，不用车船轿夫，飘驰电击，轻兵也。弟军积习已深，今欲全改为活兵、轻兵，势必不能，姑且改为半活半呆、半轻半重，亦有更战互休之时。望弟力变大计，以金陵、金柱为呆兵、重兵，而以进剿东坝、二漂为活兵、轻兵，庶有济乎！

## 十月二十三日

沅弟左右：

金陵解围一案，季弟请奖一节，实不宜形诸公牍。在我既不能奏请奖弟，在官、李又不能不奏军情，专奏保奖，陈述数行，徒觉词费。

朝廷立法，所以待大员子弟防范颇严，如在京不准保送军机，不准保送御史，皆因其声势较广，恐其营私树党。咸丰初元，孙符卿保杜芝农之子，杜保孙之侄，当时物论切讥之。季弟劳绩虽多，吾二人只可置之不议。方今督兵者，如胜、襄、都公，皆有子弟在营，若非皇上特恩，皆只能叙“不敢仰邀议叙”六字而已。

朱云岩昨日一禀，言旌德万分危急，吾调周万倬由泾县往援，不知赶得上否。看来宁国纵能幸保，而徽、池与江西必难瓦全，不知决裂始于何处耳！吾前两次寄信，囑弟以追为退，曾商之左中丞。兹接渠回信，亦不以退兵之说为然，与弟前后各信多相同者。惟渠言外之意，觉弟兵不可野战。吾则因金陵士卒用命，乐为之死，觉弟兵尽可野战。不知弟自度己力，野战果有几分把握否？要之能得众心，未有不可酣战之理。望弟决从余计，分作两大支：一支呆兵，屯扎金陵；一支活兵，凡金柱、东坝、小丹阳、二漂、句容等处，听弟择地而驻，相机而进。有急则两支互相救应，去金陵总在二百里内外也，何如？

## 十月二十四日

沅弟左右：

季弟病甚不轻，曷胜惦念。今年季之劳苦功多，既不得邀世俗之荣，乃求一日之康强健爽，而天意亦尚若吝之。然则人生事无巨细，何一不由运气哉！

鲍、张粮运已断，吾竭力以办陆运，而连日大雨如注，万不能运，

可忧可怖。弟欲伤鲍、张退兵，此时万不能退。其无勇列队、无夫搬运与弟相同，而其无退步立脚之处，则更不如弟之有金柱可驻守，有江滨可搬运矣。

蒋军即来援，亦必在一月以后，远水难救近火。鲍若果挫，余当自立一新军，自打数大仗，以毕吾余生，遂吾初志。弟则须另立门面，分为呆兵一支，活兵一支。呆兵坚筑石垒，缩小地方，活兵多或二万，少亦万四五千，与呆兵之在金陵者更番休息，千万依我行之。

九洲形势甚危急，李世忠断不足恃。如何如何

## 十月二十五日

沅弟左右：

季弟病沉重之至，曷胜悬念。魏姓医不知向来手段何如？以吾观季弟病症，似不应服大黄者。日来果有转机否？能勉强坐船，来安庆就医调养否？弟向来体亦不甚结实，今年各营疾疫，过于伤感，援贼久战，过于劳苦，亦须加意调养，切不可自恃康强，多劳多忧。至要至嘱。

东路八营，趁援贼已退之时，赶紧缩入中圈之内。如果援贼再来，省一半精力，即刘、武、朱、吴诸公亦可多睡一觉，少吃一惊。余昨日有公牍，令弟拨大炮十二尊与李世忠，即是将东路八营缩退之计，望弟决计早缩，切莫迟疑。大炮守墙，余嫌太笨，现造坐劈山炮，专为守墙之用。弟以后宜少用笨重之物，此陆军第一要诀。

## 十月二十七日

沅弟左右：

来信欣悉。季弟之病已愈六七分，能进饮食，为之大慰。

李世忠虽十分危迫，然渠始终亲驻九洲行营，当非遽不能支之象。惟浦口官营被贼攻扑，颇不可解。岂新开口业已干涸，贼已逼行北岸耶？否则贼能渡大江而至九洲，不能遽渡新开河而至北岸。若贼已逼行北岸，则和、含、巢、庐，上至舒、桐、潜、太，处处可虑。余拟将希庵部下之驻寿州、霍邱、三河尖等处者陆续抽出，移至六安、庐州、巢、含等处，免致已复之城尽隳前功。

苗沛霖前后所上僧邸各禀，痛诋楚师，令人闻之发指。僧邸所与苗党之札，亦袒护苗练而疏斥楚师。世事变化反复，往往出乎意想之外。所谓道高一尺，魔高一丈，不饱历事故，乌知局中之艰难哉！

弟信均已接到。添募新营，尽可允许；不变换局面，则断不能允许。前此向、和以重兵株守金陵，不早思变计，以图灭贼，吾尝讥其全无智略。今岂肯以向、和为师，而蹈其覆辙乎？再添十营，从弟之请可也。金陵老营永不拨动，从弟之计可也。至以数万人全作呆兵，围合长围，则余断断不从。余之拙见，总宜有呆兵，有活兵，有重兵，有轻兵，缺一不可。以万人为呆兵、重兵屯宿金陵，以万人为活兵、轻兵进攻东坝、句容、二溧等处，以八九千人保后路芜湖、金柱，随时策应，望弟熟审，以此次回信定局。

## 十月二十八日

沅弟左右：

昨日接朱云岩禀，旌德业已解围，徽州得已安枕，为之欣慰。九洲渡江之贼既不满万，或不致竟犯北岸。吾两月忧怀万端，至是稍释一二。只求季弟病体全愈，宁国粮路大通，鲍、张再稳支一月，则大海风涛，又得安渡彼岸矣。

弟处东头八营已缩入中围之内否？全军分为两支，一呆一活之说，已定局否？幼丹中丞将江西漕折全数截留，此后销项愈绌。又洋人将于安庆、大通、芜湖新立子口，皖厘亦必减色。然应添之营，仍不敢缩手不添。现令申夫添立一军三千人，一切仿照盘营规模，不知将来有成否。

## 十一月初一日

沅弟左右：

余日内忧煎，有甚于祁门极困之时。季弟得焦听堂诊治，用药不至大错，果日愈否？弟忧劳过甚，精神尚能强支否？此时吾兄弟惟有强作达观，保惜身体，以担国事，以慰家人，别无它策。

万饒轩顷送辽参壹两，吾拟备价百二十金与之，不知渠肯收否。吾已燕食一钱，似尚有力量。余九钱，兹专人送金陵。季弟病后，服补剂时，可酌服之，但不宜太早，须外症退净，毫无反复之时，乃可燕服。温弟在江西病时，竟系此物之功。弟劳苦过甚，亦可分食少许。

冬笋两担带去，各营官处可分饷数枝。北岸事已决裂，南岸鲍军不知尚可支持否。

## 十一月初四日

沅弟左右：

昨日接唐鹤九、李嘉谿二禀，言巢县失守，与侯朝栋一禀不甚符合。现调张树声五营守无为，吴长庆等新四营守庐江，不知赶得上否。目下事机不顺，有万箭攻心之象。然北岸最要者惟安庆、庐州、无为、桐城、西梁、运漕六处，南岸最要者惟金陵、宁国、芜湖、南陵、金柱五处。尽吾力之所能，保一处算一处，此外则付之天命而已。

## 十一月初六日

沅弟左右：

季弟病略转轻，为之少慰。

日内心中有三大虑：一曰季病，二曰皖北，三曰宁国。今季病有转机，略纾一虑。皖北之事，得弟信，派树字五营守无为州，初一业已过江，初三或可进州。守此一城，则疆珠在握矣。余又留吴长庆四营守庐江，调萧、毛等七千人来庐州，中旬可到。调江味根来皖北，新年可到。是皖北之大虑，或可徐纾。惟宁国一虑，反无把握。伪侍王似尚在东坝、小丹阳一带，日内或攻弟营，或攻金柱、芜湖，皆意中事。望弟商之诸公，专重南岸。其北岸之事，只要无为州不失，自可徐徐料理，余能担当也。

至弟处轻兵、重兵之说，且待此三虑纾后再行熟商。到明年二三月后，弟或以余之言为然，亦未可知。

## 十一月初八日

沅弟左右：

昨日未接弟信，不知季弟病势何如？庐州有六营，无为有五营，业经守定，必可放心。庐江新营未齐，若贼不遽犯，五日外即可固守。三河有解先亮之三百人，当可保全。萧、毛七千人，二十以内可齐集舒城。皖北大局，不致决裂。

余所虑者，忠酋往年以偏师攻破浙江，分官军之势，而以全力攻扑金陵老营。此次或以攻甯和、含、巢、庐，效往年破浙之故智，而以全力再攻弟营与金柱。不知弟部下诸将，能如前此四十六日之坚守否？

## 十一月初九日

沅弟左右：

季弟业已出汗大解，应可放心。凡伤寒瘟疫二症，所最难得者大解耳。

弟之所忧三端，余亦同之。余以季病为第一患，宁国为第二患，皖北为第三患。盖宁国鲍军站不住，则弟军五百里毫无声援，进退两难也。皖北之贼虽多，吾坚守庐郡、安庆、无为三城，调希部由舒城进兵，调江达川、味根由桐城进兵，或尚可以挽救。旌德贼退后，陷太平，至黟县。黟县去祁门仅六十里，不知王铃峰、唐桂生能速由徽援祁否。祁若不保，则皖南全局立坏，此又三患外之一大患也。

## 十一月十一日

沅弟左右：

季病又有反复，实深忧悸。弟自闰月以来过于忧劳，此刻且将添勇与否？活兵、呆兵之说，一概置之度外，待过年后再议。

江北之事，守住西梁、无为、庐郡、庐江、三河，又调萧、毛二军来舒城，调达川、味根来桐城，尽可支持。皖南泾、旌二县已稳，所患者鲍军与祁门耳。此等处自关国运，吾近亦稍宽怀，以愁之不胜愁也。

倘项日绌，吾近又添人万余，明年断难支持。然地广贼多，亦只好姑且添兵，以资抵御。待明年二三月希庵与二江同到，吾决计率万人至芜湖、金柱等处为弟打通后路，兄弟相会耳。

## 十一月十八日

沅弟左右：

本日接初八日谕旨廷寄各一道，弟蒙恩赏黄马褂料一件、袍料一件、搬指一件、翎管一个，季弟蒙恩以知府用。谕旨两道抄录，专人送去。请奖请恤各员，均已照准。弟须专折谢恩，余可代做代写。

接弟公牒，已派朱洪章千人守东梁山，以后可不再派，老营亦宜微有余力也。

## 十一月十九日

沅弟左右：

季弟之病，微有转机。不知十五以后，又复如何？伤寒而反复者，每以服药致误，服补药则更易误。欲求季之有转机，弟须坚持不复服药。今年吴彤云之病，余坚持不服药之说，果得痊愈。虽不可一概而施，然亦可见病情反复之时，惟不服药而症乃有定象也。

## 十一月二十二日

沅弟左右：

接第十八日辰刻信，知季弟溘逝，哀恸曷极！应商之事，条列于左：

一、余准于三日起行赴金陵，本月内准到。一则与弟商季弟后事及营中各事，一则亲接季弟灵柩由金陵护送至安庆。载灵柩之船不必大，取其较便易行者。余坐一长龙船，季柩载一民船，各用数号舢板拖带，席上水稳而且快。至安庆后，应否另换大船，俟与弟面商。

二、季弟请恤事，应请少荃出奏。上海现在有威林密轮船在此，二十六七日可过金陵，余偕弟信，均可由该船带沪。

三、季弟部下五千人，自当归并弟处统领；若另有可分统之人，俟余与弟相见后再行下札。弟久劳之后，继以忧伤，务当强自宽解。余于兄弟骨肉之际，夙有惭德，愧憾甚多。弟则仁至义尽，毫无遗憾，千万莫太悲伤。

四、弟信须洋药等物，余当带洋药万斤、洋帽二十万、洋枪四百枝亲交弟处。白齐文在上海大闹，兹将筠仙原信付阅。该军断不来矣，只要春霆站得住，军务尚可支持也。

## 十一月二十三日

沅弟左右：

昨日发两信，定于二十四日起程前赴金陵，坐威林密船以行，而此间官绅上下，纷纷谏阻。今早接弟信并与澄侯一信，知季弟之灵柩，拟于二十四日开船上行，余若坐轮船以往，必在中途错过。余即不赴金陵，留此迎接季柩，而请覃山至金陵一行，代余慰视老弟。应商事宜，再行条列于后：



一、余署附近有一大屋，将买为湖南会馆，季弟灵榛即迎置其中。一切开吊行礼，俱甚方便。加漆多则七次，少则五次，每次必须三日，不可草率。湘潭既不上岸，不可加漆，不如即在安庆停二十天，尽漆六七次。一切丧礼应行之仪，皆在安庆行之。余昨与覃山商，拟令季榛仍进曹禾冲，再行开堂发引。今弟意令季榛由北港登岸，昇葬马公塘，则是湘潭固不上坡，紫田亦不进屋，宜在安庆备行诸礼，而加漆尤为要务，在此停留两旬无疑。

二、刘南云三营，宜仍留金陵，兹派戈什哈持令箭公牍至中途截令折回。无为州有树字五营，尽足坚守。吾又派萧、毛七千人从无为进兵，更可放心。李幼荃有才，与少荃相等，将来必成伟器。穆海航德优而才亦并不劣，幼与海水乳交融。吾以无为付之二君，尚属付托得人。其城存钱米，俟闭城断接济时再行支放。火药余已解到万斤，弟不可疑余与幼、海毫无准备也。弟谓余用人往往德有余而才不足，诚不免有此弊，以后当留心惩改。然弟若疑幼、海为无才之人，所见差矣。

## 十一月二十四日

沅弟左右：

兹请覃山至金陵一行，劝慰老弟宽怀，专以国事为重。不带勇则已，带勇则死于金陵，犹不失为志士。弟以季之没于金陵为悔为憾，则不可也。袁简斋诗云“男儿欲报君恩重，死到沙场是善终”，当时以为名句。季榛到安庆，余必加漆五次，大约停住两旬。覃山至金陵小住十日可也。

## 十一月二十五日

沅弟左右：

季榛到皖，余决留二十天，以加漆为第一要务。或作传，或作墓志，即于此二十日内为之。题主、派炮船等事皆极易办，弟可放心。弟于天伦骨肉之间，尽情尽礼，毫发无憾，余则歉憾甚多。然送死大事，亦断不敢草率。

春霆闻补丁继母忧，虽以城族慰留，然其军心涣散，殊切隐虑。萧、毛从北路柘皋打巢县，刘、张从南路无为打运漕，本极妙着。余先不知南云之来，已令萧、毛由南路进兵，今始悔失算矣。

十一月二十六日

沅弟左右：

季弟无生前合意之室庐，弟因定在北港登岸，径昇至马公塘，与叔父合葬。此仪甚妥。余在安庆为之开吊设奠，多漆几次。安庆系季立功之所，亦尚妥也。

十一月二十八日

沅弟左右：

昨日发信后，接弟信并祭文一篇。至性至情，流溢纸上，有不可磨灭之状。观老弟天性之厚，将来福泽当有不可限量者。

季弟之主，明日可以毕工。主用栗木，匣用楠木。闻徽州漆甚好，已函请祁门粮台购买。

十一月二十九日

沅弟左右：

余之定计，以萧、毛进无为一路，不进柘皋一路，盖亦略有苦心。当时不知弟派南云上来，无为究嫌力薄，一也。柘皋等处，无米可办，无夫可雇，二也。进南路，恐贼从柘皋以攻庐郡，其祸迟；进北路，恐贼从盛家桥以犯桐城，其祸速；三也。前此迭接弟信十余件，皆言北渡之贼气势浩大；李世忠之咨，则更言贼多且悍；吾因萧、毛皆系中才，恐不宜置之柘皋用马用众之地，四也。今调度已定，纵然错误，无可挽回，只好听之而已。

上湖南之勇，远胜于长、善一带。极是极是。鲍营近日逃者纷纷，恐终决裂也。

十二月初一日

沅弟左右：

南云已抵无为州，自无遽回金陵之理。春霆至黄麻渡，回高祖山老营。据报黄麻渡之下小淮窑地方被贼占据，水运又已不通，恐其再窜三山、繁昌，梗我陆军，则大局去矣云云。余以鲍军久困该处，军心涣散，逃亡相继，实深忧灼。拟令南云三营再由无为南渡，会合周、吴、

罗、朱等营痛剿一次，或剿湾沚，或剿石埭。两处能打开一处，鲍军乃有生机。临阵打仗，则以刘南云为主。事前布置，则以厚庵为主；不知办得到否？赶得及否？望弟细心筹度，与厚庵、南云、竹庄及诸将商之。

昨日为季弟写铭旌，自外入室，闻檀香甚烈，意戈什哈等焚之，以致诚敬。及至写毕一问，并无人焚香者，殊为可异。

阅邸抄，何根云已正法。本日接寄渝，胜克斋又革职拿问矣。

## 十二月初二日

沅弟左右：

忠酋如果回苏，则江北与金陵之事或可渐松。严州既破，待逆亦必旋浙。所虑者，专在春霆一路。吾忧灼太久，只好委心以听天命之自然。

弟意季弟之棣不可久羁安庆，不必入城，亦有所见。惟此间公馆一切供张已备，又新作大杠、棺罩，同城官绅多有备礼者。入城治丧，亦世俗哀荣之一端，故京师刻讦闻者，做高脚牌者，均争此一节。本年周军门枢天受来安庆，力请入城，余许之。黎寿民枢求人城，余亦许之。杨镇魁枢求人城，余未之许，乃请一咨求人长沙城，其家因此生感。将来季棣入安庆城，设奠数日，但不久停耳。

## 十二月初四日

沅弟左右：

三次寄缄论季弟丧事，想均接到。闻季弟灵柩尚在西梁山一带，不知何日始达安庆。皖北暂有平稳之象，惟鲍军十分危急。鲍若不支，则宁郡之老湘营亦必难坚守。宁若不支，则徽州亦难久守。日夜忧灼，无可设法。

余以军务处处棘手，又遭季弟之变，寸心如焚。纪泽须留家中办季弟大事，二三月尚不能来营。但望军事稍顺，则余怀可渐渐舒畅矣。季弟柩过安庆，余欲留停二十天，一则多臻几次，二则到家后不进曹禾冲等屋，直进马公塘，则一切丧礼应行之仪注，即在安庆行之。且待到此，后再行斟酌。

家中诸子侄，望弟概教之习劳起早，不轻服药，一切照星冈公在日规矩。至嘱至嘱。

## 十二月初九日

沅弟左右：

今日卯正，季弟灵柩至宝塔下。余登舟迎至盐河卡登岸，闾城官绅均在江滨迎接，进西门，入公馆。祭幛祭筵甚多，其中亦有全无瓜葛者，却之不情，受之有愧，颇难处置。拟停住数日，即送之登舟西归。船尚宽大，尽可在舟中加漆也。

## 十二月初十日

沅弟左右：

两日未接弟信，不知金陵各背平安否？

季棣到此已一日，外间幛联颇多，联无十分称意者。余因书一联云：英名百战总成空，泪眼看河山，怜予季保此人民、拓此疆土；慧业多生磨不尽，痴心说因果，望来世再为哲弟、并为勋臣。亦不称意也。今日已漆一次，拟在此漆五次，二十日发引登舟。少荃信来，欲为季请谥请祠请加衔立传，恐已在官奏之后。兹将少荃信抄阅。

朱云岩因前调青阳之檄，已弃旌德城而回徽。宁郡四面皆贼，深恐难支。

## 十二月十一日

沅弟左右：

弟近日肝王动气，此系忧劳太过之故。倘项本日已解五万，拟再解五万，为度岁之资。合之各卡厘金，必足一月清饷。保举饬知，早经办毕，俟弟背便弁带去。

季棣定以十九日设奠题主，二十日发引登舟。余嘱告澄弟，令择二月季或三月为季葬期。盖长江上水，逆风其常，而顺风其变也。

弟肝气王，最易伤人。余兄弟皆禀母体，本难强制，然不可不以静坐制之。至嘱。

## 十二月十二日

沅弟左右：

昨寄缄后，翠山恰到，道弟虽忧劳过甚，而精神完足，为之少慰。

余在季公馆三宿，今日仍回本署。至盐河一看，新城已修十分之八，十五六可竣工矣。九洲图迄无善本，余倩人画一幅，以应恭邸之求。兹将副本寄弟一阅，果不甚差谬否？

春霆久无来信，悬念之至。

昨夕拟为季弟作墓志，竟夜未成一字，却又得挽联一副云：大地干戈十二年，举室效愚忠，自称家国报恩子；诸兄离散三千里，音书寄涕泪，同哭天涯急难人。或用弟名写之，或不写，未定也。

## 十二月十三日

沅弟左右：

季弟蒙恩追赠按察使，照按察使军营立功后病故例议恤。

南云之三营营官、哨官皆已来见，武、朱三营之营、哨官尚未来见。关防六颗，皆已刻就。安庆存马，系副都统明兴所管，未便令其交出。

季弟恩旨抄阅。南云来打湾沚之说，且听厚庵裁夺。

## 十二月十五日

沅弟左右：

弟处气象日稳，为之少慰。

萧军克复运漕，闻将进剿桐城。鲍军粮路虽未大通，而古、赖等专人至霆营投诚，黄、胡等逆亦自戮而不悍。或者支撑此局，风波渐定亦未可知。季弟棺漆过三次，而匠工不甚精细，此后当亲监教之。铭旌必须改写，旧者对灵焚化。

余生平不信鬼神怪异之说，而八年五月三日扶乩，预料九江一军之必败，厥后果有三河之变。及昨二十九日写铭旌时，异香满室，余所亲见亲闻，又觉神异之不尽虚妄也。

弟蒙赏之衣料，宜制成后，拜赐服之。服数次后，敬谨收藏。将来兄弟所得赐物、诰轴，概藏于先大夫庙内。

## 十二月十七日

沅弟左右：

弟处气势渐王，深以为慰。

宁郡、泾县二城之米，均可支至正月中旬。春霆营中之米，亦可支

至腊底。若南云能帮打三山等处，则皖南亦必平稳。春霆于前招七千人外，又派人至三厅续招五千，于营中自备银一万六千带往，不支粮台东局之银，可谓尽心报国。其回籍治丧之意颇切，若能打开东坝，或须允准。

九月十二日恩诏，余与弟皆原官未曾升调，不能另为祖父请封。凡遇覃恩，既不为祖父请封，则亦不准随封他人，但可为本身妻室请轴耳。弟尽可请本身夫妇诰轴，不必谦也。澄弟不肯受头品诰封，言乡间不便举动，亦颇近情理。或待其过五十后，弟再行随封，亦无不可。

## 十二月十八日夜 湖南会馆

沅弟左右：

季弟墓志作就，不甚称意。唐鹤九所寄挽联极佳，云：“秀才肩半壁东南，方期一战成功，挽回劫运；当世号满门忠义，岂料三河洒泪，又殒台星。”

余欲改“成功”二字为“功成”，改“洒泪”二字为“痛定”，似更妥协。

余仅派戈什哈一人送季榱，盖以弟所派诸人，凡事皆有条理，不必更派文武委员，反虞纷乱也。

## 十二月二十日夜

沅弟左右：

季弟身后附身附棺之事，弟在金陵已筹虑周到。其礼仪虚文之事，余在安庆亦颇周到。回籍后，尽可如弟之策，径进马公塘山内，不必再入荷叶室中。余当切告澄弟及子侄等也。地图甚为精细，与余所绘九洲图大致相类。明兴之马八十四不能给弟，此外亦无购马之法。拟再解银五万两，日内竟无到者，忧灼之至。只好先解钱三万串，与弟略资点缀。

弟因时贤开府论及不仁而在高位是播其恶一节，极是极是。余三年以来，因位高望重，时时战兢省察，默思所行之事，惟保举太滥，是余乱政，不办团，不开捐，是余善政，此外尚不了了。

## 曾國藩家書卷之九

同治元年壬戌歲

十二月二十二日

澄弟左右：

接弟來信，知已得季弟淪逝之信，將在荷葉宅內為季治喪發引。季弟此次身後之事，沅在金陵辦得十分整齊。余於初九日接進安慶，二十發引登舟，一切未敢稍忽，大致與七年先大夫之喪，礼仪規模一一相似。亦系新制六十四人壘，新制高脚牌，挽聯稍少，祭幛則較七年更多。身後之虛榮，在季弟可稱全備。前沅弟意季到湘鄉後，不必更進紫田、荷葉等處。余意亦以為然，望弟即照此辦理。將季櫬從北港徑至馬公塘山內，千妥萬妥。古人云：“祭不欲數，數則煩，煩則不敬。”祭尚不可煩渎，況喪禮而可煩渎乎？余系一家之主，安慶系省會之地，又系季弟克復之城，一切礼仪，在此行之，即在此發引登山。想季弟之英靈，亦必默鑒，深以為然。

再，季弟靈柩，自金陵至安慶七百里而走十六日，甚為遲滯。此次二十日自安慶開船，計程至湘潭二千里，應須四十余日乃可到潭，當在二月十五後矣。然風信無定，或遇順風早到，亦未可知。自湘潭至北港，又須七八日。家中辦接恆事，总在二月初十以後。葬馬公塘則不進荷葉，不葬馬公塘則必進荷葉，二者听弟一言決斷。余與沅相隔太遠，往返商酌，恐致誤事，不敢遽斷也。

季弟升知府，贈按察使，兩次諭旨寄回。李中丞又奏請照二品例議恤，請謚請祠，恐更有後命。二十日業經題主，恐須改題耳。

十二月二十三日

沅弟左右：

少荃為季弟請謚請祠折稿昨日寄到，茲抄寄弟閱。目下之是否諭允，殊不敢必。但吾與弟將來若再立功績，克復金陵，則請謚亦終可望

允准。两宫太后及恭邸力求激浊扬清，赏罚严明，但患无可赏之实，不患无不次之赏，而罚罪亦毫不假借。如去年之诛二王一相，今年之戮林、米与何，近日拿问胜帅，又拿问前任苏藩司蔡映斗进京，谕旨皆严切异常。吾辈垂当重任，不特无意外之罚，而特无可罚之实。

少荃解银四万，吾暂不解弟处，且解鲍、张两军各二万，为度岁之资。弟处昨日解银四万两，年内必到。其解钱二万串，今日用民船解去，年内之能到与否，未可知也。

澄弟昨有信来，言季榛不宜附葬马公塘，其言亦颇近理。余因相隔太远，不敢遥决，请澄自行决断。

十二月二十五日

沅弟左右：

李世忠事，朝廷方以袁帅办理妥善，此间无论如何让他，总不能如意之惟所欲为。陈栋九营，且到此再看。目下鲍、张、朱各军缺额甚多，可以此勇挪移补之，则不必多开新营。如万不可挪补，则令迅赴金陵，听弟妥为位置。

余所以不愿多立新营者，一则餉项极絀，明年恐有断炊之虞；二则局面愈大，真气愈少，和、张晚年覆辙，只是排场靡大，真意销亡，一处挫败，全局瓦解，不可不引以为殷鉴；三则余拟于新年疏辞钦篆、江督两席，以散秩专治军务，如昔年侍郎督军之象，权位稍分，指摘较少，亦与弟请改武官之意暗相符合。

保举单不能不减，余自有苦衷，明年至金陵当面详告可也。

十二月二十七日

沅弟左右：

接弟捷报，知谷里村、六郎桥、朱门等处贼巢一概剿洗。此后自弟营以至金柱关，除太平府城外，尚有贼卡贼垒若干，先打贼馆，后破垒卡，此法处处可行。

此次出队打行仗至六七十里之远，将来推广变通，便可打至百余里二百余里。惟雨花台老营，须十分坚固。能于最冲地方筑石垒数处，宜以五百人守者可以三百守之而无虞，宜用劲旅守者可以次等守之而无妨，则临分兵之时，便益多矣。

余前要弟明年分兵出剿二漂、东坝，弟深以为难。现在拨兵出防东西梁山、裕溪口、龙山桥、黄麻渡、三山，多至六七千人，而弟毫无难



色。然则明年军威丕振之时，弟分兵出剿二深、东坝，必更高兴与无难色耳。

## 除 日

澄弟左右：

接到排递一函，弟意拟将季榛权厝于修善堂屋后，从容再觅佳壤，合葬季弟夫妇。马公塘葬定未久，弟意不欲轻动，自有一番谨慎不得已之苦衷。余虽不明地理，而启土禁忌之说，亦不敢不小心遵信。一切即由弟作主，权厝修善堂屋后，俟寻得吉域，再行迁葬。余已寄信与沅，沅在三千里外，想亦不敢专主，当仍由弟作主也。

## 同治二年癸亥岁

### 正月元旦

沅弟左右：

今年元旦天气温和，傍夕晴霁，或东南军事可期平穩。吾所最怕者，年荒米贵，统辖近九万人，若无米可食，岂堪设想！金、宝失守，吴竹庄之说，本属可信。或者尚有一分冀幸，未破此痴人幻想也。

先大夫祠前牌坊上四字，俟拟得寄弟商定再写。

鲍军门二十五日出队，因雨泥中途折回，深感弟派南云驻扎三山保全粮路。其军气较前稍壮，若将陈栋之勇分二千给之，则更壮矣。

保举太滥，官、胡创之，余亦因之，习焉不察，不复自知其非。今年余将力挽颓习，逐案核减，正月拟至金陵与弟面谈诸事。

### 正月初三日

沅弟左右：

陈栋之勇，除已至金陵三营外，尚有九营。吾昨令营务处点名，共四千六百余人。闻精壮者不甚多，可汰者占三分之一。余札拨二营与鲍春霆，拨一营与朱云岩，以六营归弟处。若果汰去三分之一，则可挑存四营。其余或令全坐原船遣归，或酌留数百作为余勇，听弟裁度。

昨奉年终颁赏福字、荷包、食物之类，闻弟有一分，春霆亦有一分，此系特恩。吾兄弟报国之道，总求实浮于名，劳浮于赏，才浮于事。从此三句切实切实做去，或者免于大戾。

## 正月初七日

沅弟左右：

疏辞两席一节，弟所说甚有道理。然处大位大权而兼享大名，自古曾有人能善其末路者？总须设法将权位二字推让少许，减去几成，则晚节渐渐可以收场耳。今因弟之所陈，不复专疏奏请，遇便仍附片申请，但能于两席中辞退一席，亦是一妙。

李世忠处，余拟予以一函。一则四坝卡请归余派员经收，其银钱仍归渠用；一则渠派人在西坝封掘淮北之盐，几与抢夺无异，请其迅速停止。看渠如何回复。

本日接两次家信，交来人带寄弟闻。鼎三侄善读书，大慰大慰。其眉宇本轩昂出群，又温弟郁抑过甚，必有稍伸之一日也。弟军士气甚王，可喜。然军中消息甚微，见以为王，即离骄机。老子云两军相对衰者胜矣，其义最宜体验。

## 正月十一日

沅弟左右：

弟军不能进剿东坝、二深，自是审量谨慎之计。余自接澄弟密信一片，已决不欲令弟军雕剿各处。上年凯章病重，余即批准令其回籍调养。况弟谊属手足，岂亲爱反不如凯乎？况澄意但请调至安庆身边，并不求回籍。目下金陵大局苦于无人接办，而尽可不必远出雕剿，尤不宜亲身督队，除坚守金陵老营外，有余力则派人助剿含、巢、无、庐一带。今年望弟笃守恐惧和平四字，以弭灾而致福。

本日解去银四万，作抵去冬上海一款。

春霆初六日大获胜仗，立解泾围，军威或可再振。

## 正月十三日

沅弟左右：

东征局保案，昨日奉到朱批谕旨，一概照准。恽次山已超擢湖南藩司，而南坡翁仅以道缺提奏，想尚有后命也。李筱泉调广东粮道，圣意

亦为广东厘务而设。王文瑞擢赣南道，则因克复祁门新得记名故耳。季弟追赠按察使，昨日具折谢恩，抄稿寄阅。

少荃调浦东各营潘鼎新、刘铭传等救援常熟，盖因常熟贼目周兴隆等投诚后，伪忠王以大股贼前往围攻。少荃欲力争常熟一城、福山一隘，为克复苏州张本，专函来调树字五营。余不得已，调韦部五营守无为州，而腾出树字五营赴沪。少荃麾下之将，仅程学启一人能当大敌，余不足深恃。余屡劝其约旨卑思，不宜多拓疆土，而少荃不甚相信，颇为虑之。

## 正月十八日

沅弟左右：

左臂疼痛不能伸缩，实深悬系。兹专人送膏药三个与弟，即余去年贴右臂而立愈者，可试贴之，有益无损也。拂意之事接于耳目，不知果指何事？若与阿兄间有不合，则尽可不必拂郁。弟有大功于家，有大功于国，余岂有不感激、不爱护之理？余待希、厚、雪、霁诸君，颇自觉仁让兼至，岂有待弟反薄之理？惟有时与弟意趣不合。弟之志事，颇近春夏发舒之气；余之志事，颇近秋冬收蓄之气。弟意以发舒而生机乃旺，余意以收蓄而生机乃厚。平日最好背人“花未全开月未圆”七字，以为惜福之道、保泰之法莫精于此。曾屡次以此七字告诫春霆，不知与弟道及否？星冈公昔年待人，无论贵贱老少，纯是一团和气，独对子孙诸侄则严肃异常，遇佳时令节，尤为凛凛不可犯。盖亦具一种收蓄之气，不使家中欢乐过节，流于放肆也。余于弟营保举银钱军械等事，每每稍示节制，亦犹本“花未全开月未圆”之义。至危迫之际，则救焚拯溺，不复稍有所吝矣。弟意有不满处，皆在此等关头。故将余之襟怀揭出，俾弟释其疑而豁其郁。此关一破，则余兄弟丝毫皆合矣。

再，余此次应得一品荫生，已于去年八月咨部，以纪瑞侄承荫。因恐弟辞让，故当时仅告澄而未告弟也。将来瑞侄满二十岁时，纪泽已三十矣，同去考荫，同当部曹。若能考取御史，亦不失世家气象。以弟于祖父兄弟宗族之间竭力竭诚，将来后辈必有可观，目下小恙断不为害，但今年切不宜亲自督队耳。

## 正月二十日

沅弟左右：

肝气发时，不惟不和平，并不恐惧，确有此境。不特弟之盛年为然，即余渐衰老，亦常有勃不可遏之候。但强自禁制，降伏此心，释氏

所谓降龙伏虎。龙即相火也，虎即肝气也。多少英雄豪杰打此两关不过，亦不仅余与弟为然。要在稍稍遏抑，不令过炽。降龙以养水，伏虎以养火。古圣所谓窒欲，即降龙也；所谓惩忿，即伏虎也。儒释之道不同，而其节制血气，未尝不同，总不使吾之嗜欲戕害吾之躯命而已。

至于倔强二字，却不可少。功业文章，皆须有此二字贯注其中，否则柔靡不能成一事，孟子所谓至刚，孔子所谓贞固，皆从倔强二字做出。吾兄弟皆禀母德居多，其好处亦正在倔强。若能去忿欲以养体，存倔强以励志，则日进无疆矣。

## 正月二十四日

沅弟左右：

北岸可虑者，在毛竹丹一军，吾已添调元中、瑞左两营益之。闻其营柴米子药足支月余，应不怕围营截粮。只要处处守定，待三月间希庵及江、席同来，北岸当可得手。左帅新复一府三县，军威大振。鲍亦米粮充足，士气渐王。春水生后，舟师会剿，南岸或亦无虞。目下吾所虑者，少荃因教常熟之故，兵力全出，老营空虚，及北岸之贼不羁巢、含，直犯桐城以上耳。

臂疼未大愈，膏已试贴否？千万莫多服药。筋脉之间，岂水药之力所能達到？利未达于筋络，恐害已中于他脏。吾近年不轻服药，实有确见，弟可参酌。

南云三营暂不可高三山，吾之视南岸始终重于北岸，不知弟意何如？

## 正月二十七日

沅弟左右：

臂疼尚未大愈，至为系念。然治之之法，只宜贴膏药，不宜服水药。余日内当赴金陵看视，正月当成行也。接奉寄谕，知少荃为季弟请二品恤典、立传予谥建祠一一允准，但未接阅谕旨耳。陈栋之勇既好，甚慰甚慰。纪梁宜荫一节，余亦思之再四，以其目未痊愈，读书作字均难加功。且弟有功于家庭根本之地，不特为同气之冠，亦为各族所罕，质诸祖父在天之灵，亦应如此。

九洲洲北渡之贼果有若干？吾意尚以南岸为重。刘南云、王峰臣两军，弟幸勿遽调北渡。盖北岸守定安、合、无、庐、舒五城，此外均可挽救；南岸若失宁国，则不可救矣。

## 二月十四日 金陵大胜关舟次

澄弟左右：

二月初十日，在金陵沅弟营中接弟正月二十日信，痛悉兰姊于十四日仙逝。同产九人，二月之内，连遭季弟与伯姊之戚，从此只存吾等四人。抚今追昔，可胜伤恻！又闻临三外甥哀毁异常，其至孝可敬，其体弱又可怜。伯姊遗命不令长子入营，自当谨遵。吾即日当寄银二百两，料理伯姊丧事，即以为临三、临八甥家用之一助。

余于二月初六日抵金陵，在沅弟营中住五日，十一日仍回舟次。沅弟送至舟中，同住三日。俟风息即行西旋，周历芜湖、金柱关、无为州等处，再行回省。鲍春霆于二月初一日大战，将围营之贼击退，乘胜攻克西河、小淮窑、湾沚等贼巢十余处。自去秋以来，奇险万状，竟得转危为安，各军稳如泰山，国之福也。

余身体平安，齿疼痊愈。目下惟李世忠九洲、二浦危急，余无可虑。

## 二月二十日 裕溪口

沅弟左右：

江浦、新河口俱陷，北岸贼势浩大可知。然二处之不保，亦意中事也。

余于十八日至金柱关，即与厚、杏查阅三汊河、龙山桥等营。朱洪章两次败挫，士气已伤。其濠墙亦极草率，全不可靠。十六之役，李祥和以五百人苦战力堵，朱营并无一人随之堵御者。幸水师彭罗、陆师朱罗继进，乃能转败为胜。然长胜军目下已为极劣之营，而渣家湾、新圩角防河之法亦甚不妥。厚庵力劝余将该防兵调回老营稍为休息。余令李祥和亲往调之，以余察度，该河长近八十里，与永丰河相等，深则倍之。分哨防河，可御零贼，断不可敌大股。贼即渡河，长胜军之营盘不可恃，李与朱、罗之营则皆可恃。此金陵之情形也。

十九日查阅西梁、东梁、裕溪等处。张与周、熊之营皆可恃，武明善之营则万不可恃。此外江之情形也。

余与杏南熟商，目下以熊登武三哨移守东梁。将来须由弟处再拨二新营上来。以一营协防西梁，俾熊营一哨全归东梁，张营一哨全归裕溪；以一营扎金柱之宝塔，以保三汊河朱、罗之后路。庶查家湾、龙山桥纵有疏失，而芜、金大局无碍。

### 三月初六日

沅弟左右：

贼窜东、建，便不得通徽、祁消息。以理推之，刘克庵已至屯溪，距休宁仅三十里，铃守祁、桂、徽、休，克作游兵，山内必可万全。惟贼由山外径窜江西，湖口、景镇俱为可虑。余檄春霆回救景镇，连日雨泥，师行迟滞，不知赶得上否。北岸之贼，初二日已过盛家桥，距庐江仅二十里，幸先有吴长庆三营，又截留梁美材等三营，庐邑应可保全。

近日粮台奇窘，通省城寻凑不上万金。今日作函向幼丹借银六万，指明九江新关税；向寄云借谷四万，指明近河州县仓谷；向少荃借银八万。不知均有些点绉否。

上海近无信来，常、昭业已解围。此乃极好消息。苏浙两处得手，只要此间不大决裂，夏秋必有好音也。

### 三月十二日

沅弟左右：

派杏南带五营援救毛、刘。弟处兵力不厚，何可再分五营之多？伪忠王于十年春间攻陷杭州，即系分和、张兵力以解金陵之围。此等流计，今亦不可不防。望弟即日调回三营、四营固金陵之老营，酌留一、二营于上游。若石涧埠幸而解围，即令杏南与刘南云、张光明等从西梁山、五显集进兵攻桐城闸之背，春霆从东关进兵攻桐城闸之上。即石涧埠果有不测，但留杏南略助萧守运曹，鲍在北岸必能保全无为、庐两城也。

顷闻捻匪自麻城下窜蕲水，不日必入皖境。已调周厚斋防守桐城，令成武臣跟追下来，亦可至桐、舒等处。庐州子药米粮足支月余。闻石清吉甚不得力，可虑之至。安庆留兵六营，虽不甚可靠，而缓急尚易调也。

### 三月十四日

沅弟左右：

石涧埠营盘尽可不扎，余以前疏于考核。迨亲闻以后，明知其散漫难守，又不能立刻调开，致掣动各处劲兵往救，尚不知救得上否？若调南云三营赴州城，调毛拔二营守三汊河、雍家镇，而毛率六营守桐城

县，则八面皆妥矣。余之不善用兵，此特其一端也。

目下鲍军不能救景镇，固为江西之患，而派七营上援，尤于金陵老营有碍。望弟速调数营回雨花台，而留杏南于裕溪口等处料理援剿事宜。

弟身体略愈，尚未复元，不可过于焦急。

### 三月十六日

沅弟左右：

上游之事，弟尚有不尽知者，兹分条缕告如左：

一、庐江已有贼到，扑城一次，自巳至酉，人约四五千，洋枪亦多。吴长庆三营尽足守御，近又截留梁美材三营，尤为力厚，米粮子药可支四十天。

二、桐城派厚斋带五营往守，自省拔行，约十五六日可到。只要庐江之贼不扑桐城，则守备皆全矣。舒城、三河二处皆系蒋之纯防，似可放心。石清吉甚不得众心，郡中之事却多可虑。鹤九亦非能禁风浪者。

三、麻城下寨之捻已陷广济、黄梅，此时想过宿松以下矣。成武臣一面派礼左等三营先来救省，一面亲自跟追，严中丞亦派王桐柏六营出境追剿。官军远不如捻行之速。闻捻意欲直扑安庆，此间日内略有防备。一面调申夫由东流回省，俟省防无虞，即令申夫会同成军专剿捻股。

四、湖口有丁义方、王定国水陆两军，可保万稳。黄老虎等窜江西者，闻至今尚徘徊于石门、洋塘一带。只要景镇诸军严扼昌江一河，春水盛涨，贼亦断难飞渡。若由山内穿婺源，左军或足御之。

五、希庵三月十日之期，不知果成行否？味根想难遽成行，席研香则已屡次催令赴抚州矣。枞阳竟无人往守，且站置之。弟处要火药，昨日解二万斤。银钱则竟无可解，且看丹、荃两信有接济否。

再，此次鲍军从无为州进援石涧埠，杏南与萧军从黄雉河进援石涧埠。以理推之，当可解围。解围之后，吾意以鲍军从东关进攻桐城闸之前，杏南与南云从西梁山、五显集攻桐城闸之背。即竹丹一军亦不必再扎石涧埠，尽可与杏南、南云三人合为一路，均作游击之师。三部将近万人，鲍军亦有万人。鲍以无为、运漕为后路，杏、竹、云以西梁、裕溪口为后路。两支活兵纵横驰击，则无、巢、和、含境内当可次第肃清。

上游舒、桐、庐、合节节皆有防兵，吾又派成、李两军为游击之师，大局必不致决裂。萧为则一军分守运漕、三汊河、雍家镇三处，黄

河河尽可不设守兵，此外概不置守，不可占住有用之活兵也。巢、含等处得手，以全力进攻桥林、江浦、浦口等处，直打九洲洲。北岸大定，再行回顾南岸江西。余意如此，请弟与雪帅妥议行之。余相隔太远，不能遥制，并不能往返细商也。

### 三月十八日

沅弟左右：

弟意石涧埠解围后，各军不可株守，宜急进攻，正与余意相合。所微不合者：余令萧守运漕，而以彭、毛、刘为进剿之师；弟令彭守运漕，而以萧、毛、刘为进剿之师。弟意贼将上窜，故迫剿庐江、三河、桐、舒等处；余意贼将下窜，故速剿闻镇、巢县、和、含等处。此所以微不合也。合、庐、舒、桐、三河五处，余皆有劲兵守之；潜、太以上又有成、李两军，集贼断无上窜之理。石涧埠解围以后，贼必仍归东关、巢县、闻镇三处，我军向下追击，仍宜以萧守运漕，而以彭、毛、刘为进剿之师，省得纷纷换防，耽擱工夫也。

弟统二万余人，必须分出一支活兵在外，半活半呆，半剿半守，更番互换，乃能保常新之气。此次彭带七营，刘带六营在外，恰好成一支活兵矣。若再分吉左、敏字三营过江，则十六营更成一大支活兵。杏、云、芳浦三人尽可以当大敌，弟不必过虑，恐活兵在外吃亏也。惟金陵老营兵力尚单，恐须调回一二营，弟自酌之。至于上游合、庐、舒、桐、三河、六安等城皆已守定，弟尽可放心。

捻匪至广济后并未下窜，想已至英山以内矣。

### 三月二十一日

沅弟左右：

石涧埠之贼竟于十七夜全数遁回巢县，未得痛剿，若遽调鲍上援江西，则皖北之贼必尚有一番大动作，恐貽皖鄂无穷之患。春霆欲就原船转舵西上移救江西。余当力阻，批答令其仍由东关进攻桐城闸，或由黄墩进兵亦可。其彭、毛、刘三军，则仍从西梁山、五显集进攻桐城闸之背，总须全力一打，断其犯鄂之谋，然后北岸稍得安枕。

余与雪琴、杏南皆言鲍军攻剿北岸之事。不知雪、杏接到后，能力阻春霆之西旋否。



## 三月二十四日

沅弟左右：

弟读邵子诗，领得恬淡冲融之趣，此是襟怀长进处。自古圣贤豪杰、文人才士，其志事不同，而其豁达光明之胸大略相同。以诗言之，必先有豁达光明之识，而后有恬淡冲融之趣。如李白、韩退之、杜牧之则豁达处多，陶渊明、孟浩然、白香山则冲淡处多。杜、苏二公无美不备，而杜之五律最冲淡，苏之七古最豁达。邵尧夫虽非诗之正宗，而豁达、冲淡二者兼全。吾好读《庄子》，以其豁达足益人胸襟也。去年所讲生而美者，若知之，若不知之，若闻之，若不闻之一段，最为豁达。推之即舜禹之有天下而不与，亦同此襟怀也。

吾辈现办军务，系处功利场中，宜刻刻勤劳，如农之力穡，如贾之趋利，如篙工之上滩，早作夜思，以求有济。而治事之外，此中却须有一段豁达冲融气象。二者并进，则勤劳而以恬淡出之，最有趣味。余所以令刻“劳谦君子”印章与弟者，此也。

少荃已克复太仓州，若再克昆山，则苏州可图矣。吾但能保沿江最要之城隘，则大局必日振也。

## 全 日

沅弟左右：

罗老师掌教新东皋书院，通县悦服。开张既好，以后书院必诸事顺遂，人文蔚起，可喜可庆。罗允吉婿从邓师读书甚好。业经成婚之后，欲将各书一一温熟，势必不能。惟求邓师将《五经》点一遍讲解一遍，正史约亦讲一遍，不求熟，不求记，但求经过一番而已。邓师辛苦一年，明年或另择师专教罗婿亦可。

兰姊处，余备奠仪二百两，今付回临三甥处，下次再作函慰之。

发逆上犯，围逼庐江。捻匪由鄂下窜，连陷宿松、太、潜。北岸处处吃紧，南岸徽、池群盗如毛。祁门久无信来，不知保得住否。上海军事近极顺利，大约苏杭均可图也。

## 三月二十九日

沅弟左右：

二十八夜接奉廷寄谕旨，弟蒙恩补授浙江巡抚，仍办金陵军务。弟处亦有夹板公文一分，余已拆阅。中廷寄一道、谕旨三道，与余处同。

嗣后夹板递弟处者，余均不拆，照例不应拆也。前读金陵解围后屡次谕旨及季弟优恤各谕，知圣意宠注吾弟，恐不久于两司。此次畀以开府之任，而仍不令到任，朝廷于此等处苦心斟酌，可感孰甚！吾兄弟报称之道，仍不外拚命报国，侧身修行八字。至军务之要，亦有二语，曰坚守已得之地，多筹游击之师而已。

春霆一军，已撤由舒城进援六安；申夫一军，已撤由潜山横截英、霍；枞阳张、周二营，弟可迅速调回。大江为我有，庐、桐为我有，水师可进枞阳河入菜子湖，直至练潭。省城十分可恃，枞阳不须防兵也。

### 四月初一日

沅弟左右：

弟之谢恩折，尚可由安庆代作代写代递。初膺开府重任，心中如有欲说之话，思自献于君父之前者，尽可随时陈奏。奏议是人臣最要之事，弟须加一番工夫。弟文笔不患不详尽，但患不简洁，以后从简当二字上着力。

### 四月初三日

沅弟左右：

上游近事，六安尚未解围，而守事似有把握。

南岸之局，王鈐峰大破黄文金一股，刘克庵、王心初再破黟县大股，徽境将次肃清。方深慰幸，而东、建各股从桃树店横窜而东，祁门之南景镇之北一片逆氛，刻下想已入婺源、乐平境矣。皖南无所得食，各贼不啻江西，万无一线生机，故不得不冒死上冲。流贼之势已成，江西、湖南皆不免于蹂躏。奈何奈何！

饷项十分窘迫。鲍军因无饷可支，逃者至千余人之多，病者又有二千余人。吾兄弟当时时艰，而皆居大位、负重任，亦可云不幸耳。

### 四月初六日

沅弟左右：

辞谢之说，余亦熟思之。谓才不胜任，则现在并不履浙江任谓请改武职，则稟生优贡出身，岂有改武之理？且过谦则近于伪，过让则近于矫。谓请改京卿，则以巡抚而兼头品顶戴，必改为侍郎，断无改三品卿之理。三者均难着笔，只得于谢折之中，极自明其愧慊之意。其改武一层，弟以后不宜形诸笔墨，恐人疑为矫伪不情也。谢折应专弁奏京。季

弟立祠予谥谢折，拟兄弟会衔具奏。

六安于初二日解围，闻忠酋未上英、霍，已回庐郡一路，大约仍由巢、含下窜。所虑者有三层：一则由九洲洲南渡，再行猛扑雨花台大营，如十年春得杭不守，速回攻扑和、张之故智；一则不得志于上游，将力攻扬州、里下河，以图一逞；一则因太仓州已被，回救苏州。

余拟徽蒋、成、毛攻苗以援寿州，徽鲍由柘皋进巢北，徽彭、刘、萧由东关以进巢左。俟六安确信到，再行分别咨札。弟处防忠酋，已妥为堤备否？尚须调营回金陵否？

## 四月初十日

沅弟左右：

春霆由巢北进兵，数百里内寸草不生，办柴极难，子药米粮转运亦殊不易，不知何日始至柘皋、烟场。苗逆复叛，皇上震怒，命僧邸由山东返旆旋皖会剿，命余与希庵堵剿，此后或不至更行议抚。只要贼不犯鄂，蒋、毛、成三军或足以了办苗案。

六安搜得忠酋伪文，似李世忠亦与之暗通。刻下兵力只此，不敢扬蕲下之火也。皖南久无来信。但闻二十五日大捷之后，歙、休、黟三县肃清。刘克庵将由黟赴景镇，自内打出，不知果成行否。

## 四月十六日

沅弟左右：

辞谢一事，本可浑浑言之，但求收回成命。已请筱泉、子密代弟与余各拟一稿矣。昨接弟咨，已换署新衔，则不必再行辞谢。吾辈所最宜畏惧敬慎者，第一则以方寸为严师，其次则左右近习之人，如巡捕、戈什、幕府文案及部下营哨官之属，又其次乃畏清议。今业已换称新衔，一切公文体制为之一变，而又具疏辞官，已知其不出于至诚矣。

弟应奏之事暂不必忙。左季帅奉专衔奏事之旨，厥后三个月始行拜疏。雪琴得巡抚及侍郎后，除疏辞复奏二次后，至今未另奏事。弟非有要紧事件，不必专衔另奏。寻常报仗，仍由余办可也。

## 四月二十一日

沅弟左右：

弟辞巡抚之意已详告少荃矣。余代弟作折仍请收回成命，二、三月

内弟之公族概用浙抚新衔，迨折差回时奉到朱批，如准开缺，再行换衔可也。

发、捻在定远分队，忠酋回救苏州。捻党扑临淮一次，现又回至六安，大约为皖鄂豫三省之患。少荃克复昆山，杀贼极多，苏州大有可图。苏若果克，则调程学启扎孝陵卫，或打东坝、二溧，春霆进攻和、含、二浦，大局其渐转乎？

## 四月二十四日

澄弟左右：

希庵之病至于失音，深为可虑。

六安解围后，风波渐平。上海李军连克太仓、昆山，杀贼至二三十万之多，为军兴以来所罕见。忠逆急回救苏，皖北得以少松。蒋、毛二军救援寿州，五日内必可赶到。只要寿州无恙，则自去秋至今无数之险，皆得安稳度过矣。

李少荃近日军务极为得手，大约苏杭两处必有一克，或全克亦未可知。惟饷项奇绌，米贵而雨多。皖南食人肉，每斤买百二十文。看来浩劫尚未满，天心尚未转也。

## 四月二十七日

沅弟左右：

来信“乱世功名之际尤为难处”十字，实获我心。本日余有一片，亦请将钦篆、督篆二者分出一席，另简大员。吾兄弟常存此兢兢业业之心，将来遇有机缘，即便抽身引退，庶几善始善终，免蹈大戾乎？至于担当大事，全在明强二字。《中庸》学、问、思、辨、行五者，其要归于愚必明，柔必强。弟向来倔强之气，却不可因位高而顿改。凡事非气不举，非刚不济，即修身齐家，亦须以明强为本。

巢县即克，和、含必可得手。以后进攻二浦，望弟主持一切，余相隔太远，不遑制也。

## 五月初二日

沅弟左右：

萧军分守各处，已照弟所拟咨行各处。鲍军过江，则必须打开柘林、江浦、浦口、九浍州，北岸一律肃清，然后可以南渡。即南渡后，

亦不遽扎燕子矶，以作呆兵，仍当进剿东坝、二漂，以作活兵。以理势论之，该逆经营一年，攻取二浦，无非固九洲之后身，作金陵之犄角，必将竭力坚守。余之拙见，二浦未克之前，不可先攻九洲；九洲未克之前，鲍、彭、刘不可南渡；东坝、二漂未克之前，不可围扎孝陵卫、燕子矶。此三者皆极大关键，余计已定，弟切勿执见辨驳。余因呆兵太多，徽、祁全借左军之力，受气不少。此后余决不肯多用围城之呆兵矣。

由和州进攻二浦，有山内与江滨二路，似宜让鲍军走江滨之路，彭、刘走山内之路。鲍军纪律极坏，江滨运粮较易，掳夫较少，此等大处让人，乃是真谦，乃是真厚。余牍中未说出，望弟酌定，速告春霆与杏、云也。

### 五月初四日

沅弟左右：

雨花台石垒与南门外各贼垒均已攻克，至为欣慰。我军驻雨花台而石垒为贼所占，殊为碍眼。今即得之，拔去眼中钉矣。惟调回彭杏南各营，守濠之呆兵愈多，游击之活兵愈少。弟统三万人，不筹出一支结实可靠之活兵在外纵横驰击，而专以合围攻坚为念，似非善计。

咸丰三、四、五年，向帅在金陵，兵不满三万，饷亦奇绌。向军与金陵悍贼相持，而又分兵援庐州，援宁国，打镇江，打芜湖，中外皆称向兵为天下劲旅，而余不甚以为然者，以其不能从大处落墨，空处着笔也。弟用兵之规模远胜于和，而与向相等。杏、云甫成一支活兵，而又急于调回，则空处全不着笔，专靠它军，可尽恃乎？

### 五月初七日

沅弟左右：

克复雨花台各石垒，本是极可喜之事，而多占守兵，又少杏南一支游击之师，亦是美中不足。至印子山石垒，余意尽可不必扼守。将来城池之克否，全不系乎印子山之有兵无兵也。

蒋、毛二十八日之战，阵亡哨长及有官阶者二十四员，伤亡至五百余名。据称苗逆队中有四眼狗旧部四千人在内。寿州之围固不能解，且恐蒋、毛败挫，贼窜六安，故余檄周厚斋改赴六安，继则仍留守巢县一带。现仅春霆、南云进攻二浦、九洲，窃恐地大城坚，难以得手。余意总思留杏南带五千人助攻二浦，江北多一营有一营之好处。弟意雨花

台多一营有一营之好处。此两端者，兄弟各执一端，未识用何者为中也。

折弁自京归。季弟得溢靖毅二字，皆优等溢法，远胜温弟。予季身后之荣，真无遗憾。

### 五月初九日

沅弟左右：

顷接云仙信，于弟疏稿不甚以为然。弟平日于文章一途最谦退不敢自信，以后弟文宜专从简当二字着力，每日读书一时工夫亦不可少。

方子白谨厚朴实，或有裨于弟，而无佻薄难近之态，弟若欲延之，则另派员署和州也。

### 五月十四日

沅弟左右：

东坝与孝陵卫之先后，尚可随时斟酌，余亦不敢固执成见。至于未克九洲之前，霆军不可先渡南岸，则是一定之理。盖九洲不克，断不能断洋船奸民之接济，接济不断，不能克金陵。亦犹克九江者，必令霆军先破小池口，李、彭先破湖口，克安庆者，必令嘉字营先扎南岸，韦志凌先扎枞阳，而后接济可断，文报可绝。若金陵不断接济，而谓霆军过江，洪逆可一惊而走，一逼而破，此实万无是理。故余决计不破九洲，霆军不南渡也。

味根决计东来，将来广德州与东坝，江、席或可任之。

### 五月十六日

沅弟左右：

二浦即克，现依弟议，移韦守巢县、东关，梁、王、万三营守西梁山、桐城闸，腾出萧军分守二浦，刘军围攻九洲，鲍军南渡打东坝、二漂，另有公牍知会矣。

去年进兵雨花台，忠侍以全力来援，俾浙沪皆大得手。今年攻克各石城，俾二浦速下，扬州、天、六之贼经回南岸，此弟功之最大处。然此等无形之功，吾辈不宜形诸奏牍，并不必腾诸口说，见诸书牋，此是谦字之真功夫。所谓君子之所不可及，在人之所不见也。吾时时以何为殷鉴，望弟时时以和为殷鉴。比之向忠武，并不甚劣，弟不必郁郁也。

## 五月二十一日

玩弟左右：

应商事件，条列如左。

一、十七晚有轮船自金陵经过，亲见九洲洲实已克复。宜以萧军守二浦，南云酌留二营守九洲洲，非畏长毛之复来也，畏李世忠之盘踞耳。如李业已派兵扎二浦城内，则弟须商之厚、雪，驱之使去，令萧军速入，占守二城。李见我军威方盛，必不敢十分违抗。李有牒来，报渠兵克复桥林、二浦，余当批斥之，不准渠部再入二浦城也。

二、二浦、九洲即克，霆军日内必已南渡，或竟围扎孝陵卫一带，或先打二溧，均听弟与厚、雪、霆四人商办，余不遥制。昨已函告弟处，顷又函告雪琴矣。余平日本主先攻二溧、东坝，不主合围之说。今见事机大顺，忠酋又已回苏，金陵城贼必甚惊慌，亦改而主合围之说。且天气太热，霆军奔驰太苦，不如令扎金陵东北，以资休息。待七月半间伏过暑退，弟与霆军各抽行队去打东坝、二溧，尚不为晚。届时江、席、李三军亦可由广德、建平以达东坝矣。

三、合围之道，总以断水中接济为第一义。百余里之城，数十万之贼，断非肩挑陆运所能养活。从前有红单船接济，有洋船接济，今九洲洲即克，二者皆可力禁。弟与厚、雪以全副精神查禁水次接济，则克城之期，不甚远矣。九洲洲可设一厘卡，弟处有贤员可派否？

四、余批折稿中，有一条不当于事理，余之意，不过想弟军常常有一大支活兵在外耳。今江北既一律肃清，则大局已好，或合围或游击，均无不可，余兄弟议论不至参差矣。至于云仙之意，则当分别观之。渠不以弟疏稿为然，诚所不免；谓渠遵例回避，愿入弟幕草奏却又不然。胡文忠八年初丁艰时，屡函称遵旨夺情，不愿作官，愿入迪庵幕中草奏帮办。人人皆疑其矫，余则知其爱迪敬迪出于至诚。云仙之爱弟敬弟，亦极诚挚，弟切莫事负其意也。往时咸丰三、四、五年间，云仙之杨江、罗、夏、朱而柳鄙人，其书函言词均使我难堪，而日久未尝不谅其心。

至弟之文笔，亦不宜过自菲薄，近于自弃。余自壬子出京，至今十二年，自问于公牍书函、军事吏事、应酬书法无事不长进。弟今年四十，较我壬子之时尚少三岁，而谓此后便无长进，欺人乎？自弃乎？弟文有不简之处，无不畅之处，不过用功一年二载便可大进。昔温弟谏余曰：“兄精神并非不足，便吝惜不肯用耳。”余今亦以此意谏弟也。

## 五月二十四日

澄弟左右：

九洲洲于十五夜克复，杀毙溺毙之贼，闻实在二万以外，我军伤亡二千人，水师第一场大血战。然自此长江一律肃清，水师已功成事毕矣。余现调鲍营围攻金陵东北，已作合围之势，惟饷项日绌，殊难为计。

余身体平安。怕热则更甚于往年，竟日挥扇不輟。闻叔父七、八、九年间亦畏热异常，汗下如雨。老年体虚，大约有此情况。

## 六月初三日

沅弟左右：

鲍军只能扎幕府山一带，不能照顾孝陵卫。钟山贼垒不能遽克，印子山尚未得手，即不求争于合围，且先以自固为主。弟自固于南路，鲍自固于北路，如有大股援贼前来，彼此足以自了，不必互求救助。余咨复弟之公牒，亦以此说为要。

其次则力断江中接济，其责在余，在杨、彭，在总理衙门，而不在陆军。然查水师之果严查与否，查洋船之常送接济与否，则须弟督飭刘南云、曾良佐辈细细稽察也。断截江中接济，实足制贼死命，不在西门之合围与否耳。

## 六月初六日

沅弟左右：

淮北盐运行淮南引地，近吴仲仙漕师专案奏办，谕旨允准；都、富专案驳之，谕旨亦允准；运使专详驳之，余处亦批准。吴帅将办成之事竟不能行，盖利少而害太多，不能不驳。弟请运北盐之咨，与漕帅事同一例，余当详细咨复。

江西厘金近日颇有起色，秋冬间粮米于药断不缺乏，弟可放心。今年米贵，此间度过荒月，尚可余谷五万石，预备早也。



## 六月初十日

沅弟左右：

临淮倘有疏失，朝廷必于厚、雪、霆三公中派一人接办，盖环顾别无它人可以承认也。故此时不得不以救援临淮为要着。义渠与士卒同食豆粥，论私谊亦须往援。去舢板八十号，于金陵水次大局无损，望弟便中丛愚成之。合围之举，吾意待江、席、李军到齐再办不迟。若弟意必求早早合围，则或调镇防二千人，调扬防三四千人，皆可应调而来。余当办咨文二角封存弟处，听弟何时调镇、扬之兵可也。

## 六月十二日

沅弟左右：

寿州失后，吾心日益忧灼。蒙城马方伯一军万难保全，临淮唐中丞恐亦孤危难支。昨东征局解到三万，已全供防苗诸军，致弟与霆军毫无接济。乃知军事悉如弈棋，各路失势，一隅虽胜无益也。

调冯、都两处之兵，弟以为可调，则发之。合围之或缓或急，全凭弟作主，官阶与物望所在，弟不必推诿。只要水路无接济进城，陆路纵有接济文报，贼亦终无可久之道。若必围得水泄不通，恐困兽犹将死斗。一蚊溃堤，全局皆震，不可不防。余所求者，水路无接济、弟与霆军不败二事而已。不求如安庆、九江之围攻严密也。

## 六月二十七日

沅弟左右：

军中多病，忧灼实深，只有斋心默祷，无它法也。

何饒专利多年，众口沸腾，适会乔、郭交替之际，而有堂见张守之案。筠公宽厚，不知肯一施辣手否？

改商栈为官栈，自是目前急务。然楚岸西岸已被川私粤私占尽，上游盐价大减，淮引厘卡太多，成本太轻，不特商运有亏本之虞，即官运票盐亦必无利可图。若不于江西、湖北力堵邻私，淮盐竟无售处。虽有良法，无如之何。吾之所以迟迟不讲求盐利者以此，昨见南坡与弟信，所虑者亦在此。

## 七月初一日

沅弟左右：

奏折一事，弟须用一番工夫。秋凉务闲之时试作二三篇，眼界不必太高，自谦不必太甚。上次惠甫、次卿二稿，只须改润一二十字，尽可去得。目下外间咨来之折，惟浙沪湘三处较优，左、李、郭本素称好手也。此外如官、骆、沈、严、僧、吴、都、冯之折，弟稍一留心即优为之。以后凡有咨送折稿到弟处者，弟皆视如学生之文，圈点批抹。每折看二次，一次看其办事之主意、大局之结构，一次看其造句下字之稳否。一日看一二折，不过月余，即可周知时贤之底蕴。然后参看古人奏稿，自有进益。每日极多不过二三刻工夫。金眉生与鹤侪积怨甚深，吾辈听言，亦须独具权衡。权位所在，一言之是非，即之他人之荣辱予夺系焉。弟性爽快，不宜发之太骤。

## 七月十一日

沅弟左右：

鹤侪拘留弟营委员至三个月之久，宜弟恚怒不平。

何饒之事，本拟俟筠仙查复后再行严办。今筠公有抚粤之行，后来者不知为谁。意欲严惩何饒，竟不知如何下手乃为恰如题分。盖逮罚有罪，亦须切当事理，乃服人心。

近人折稿，弟处咨到者少，余当仿抄成本，陆续寄去，每月寄送二分。古人奏疏，亦当抄二三十篇，以备揣摩。

强字原是美德，余前寄信亦谓明强二字断不可少。第强字须从明字做出，然后始终不可屈挠。若全不明白，一味横蛮，待他折之以至理，证之以后效，又复俯首输服，则前强而后弱，京师所谓瞎闹者也。余亦并非不要强之人，特以耳目太短，见事不能明透，故不肯轻于一发耳。又吾辈方鼎盛之时，委员在外，气焰薰灼，言语放肆，往往令人难近。吾辈若专尚强劲，不少敛抑，则委员仆从等不闹大祸不止。

## 七月十五日

沅弟左右：

初九日大获胜仗。凡逼城开仗，向不能多杀贼。此次杀贼甚多，想是群贼欲趁此猛战，扑我营盘，解其城围，故能得机得势如此。然傍城

而战，例为彼此杀伤相当之局，以后若非贼来扑营，似不必常寻贼开仗。盖贼粮路将绝，除开仗别无生路；我军则断粮路为要着，不在日日苦战也。

## 七月二十一日

沅弟左右：

丁道以前二年在福建寄信来此，献礮炮之技。去年十一月到皖，已试验两次，毫无足观。居此半年，苟有长技，余方求之不得，岂肯弃而不用。至欲在雨花台铸炮，则尽可不必。

凡办大事，以识为主，以才为辅；凡成大事，人谋居半，天意居半。往年攻安庆时，余告弟不必代天作主张。墙壕之坚，军心之固，严断接济，痛剿援贼，此可以人谋主张者也。克城之迟速，杀贼之多寡，我军士卒之病否，良将之有无损折，或添他军来助围师，或减围师分援他处，成功靡于垂成，或无心而奏捷，此皆由天意主张者也。譬之场屋考试，文有理法才气，诗不情平仄拍头，此人谋主张者也。主司之取舍，科名之迟早，此天意主张者也。若恐天意难凭，而广许神愿，若恐人谋未臧，而多方设法，皆无识者之所为。弟现急求克城，颇有代天主张之意。愿弟常存畏天之念，而镇静以缓图之，则善耳。

弟于吾劝诫之信，每不肯虚心体验，动辄辩论，此最不可。吾辈居此高位，万目所瞻。凡督抚是己非人、自满自足者，千人一律。君子大过人处，只在虚心而已。不特吾之言当细心寻绎，凡外间有逆耳之言，皆当平心考究一番。故古人以居上位而不骄为极难。

## 七月二十三日

沅弟左右：

专丁送信，具悉一切。所应复者，仍条列如左。

一、折稿皆轩爽条畅，尽可去得。余平日好读东坡《上神宗皇帝书》，亦取其轩爽也。弟可常常取阅。多阅数十遍，自然益我神智。譬如饮食，但得一般适口充肠，正不必求多品也。金陵战事，弟自行具奏亦可，然弟总以不常奏事为妥。凡督抚以多奏新事、不奏故常为露面。吾兄弟正在鼎盛之际，弟于此等处可略退缩一步。

二、鲍军仍须由大胜关进孝陵卫，决不可由下面绕来。待过中秋后，弟信一到，余即咨鲍由南头进兵。

三、弟禀添多营，本与余平日之规模不相符合。然贼势穷蹙之际，

力求合围，亦是正办，余亦不敢以弟策为非。惺中丞余曾保过。凡大臣密保人员，终身不宜提及一字，否则近于挟长，近于市恩。此后余与湘中函牍，不敢多索协饷，以避挟长市恩之嫌，弟亦不宜求之过厚，以避尽欢竭忠之嫌。

四、江西厘务，下半年当可略旺。然余统兵已近十万，即半饷亦须三十万，思之胆寒。弟处米除每月三千外，本日又解四千石矣。

## 七月二十四日

澄弟左右：

前接弟信，已将寅皆、牧云两兄不宜送眷之故，致函排遣至家，不知到否？途次有曾恒德、张德富照料，又系自己座船，又有水师护送，千稳万慎。寅皆、牧云二公如已成行，请于中途婉辞谢之。吾家富贵气不可太重也。

纪瑞侄完姻，吾实嫌其太早。兹寄银五十两暨五品顶戴、补褂、朝珠以为贺礼。吾恐家中日习于奢，故诸事从俭薄也。

江西已一律肃清，惟兵勇病痛尚多。苗逆猖獗，唐中丞十分危急，袁午帅业已仙逝，淮事殆无了日耳。

## 七月二十七日

沅弟左右：

郭帅与金前司所陈盐务一一阅过。金所虑者，恐难缓第一批之厘。究之盐务变法，无论改何新章，断无不缓厘免厘之理。若概如今日之逢卡抽厘，则不得谓之新章，不得名曰盐法矣。

余所虑者，却不在缓厘，而在终无实效。盖江西自道光年间从无销足额引之事，乱后人口减少，即令全食淮引官盐，亦不能销至六万大引之多，况引地被邻私侵占殆尽，焉能一一骤尔夺回？商人凑办三万引之成本四十余万已极不易，二分之利，又不足动其涎美之心，加以引地毫无把握，销售难期畅旺。时日稍滞，获利愈微，商利既薄，则所谓包缴厘金盈余者，皆成拖欠展缓之局。余之所虑无实效者，谓此类也。然此时办法，除重税邻私、指岸认运二者，别无下手之处，应即照金君所拟办理。

黄南坡兄七月在湘启行，节前当可到此。余再与之商定一切，乃行具奏。其泰州招商认运，即可一面兴办。

## 八月初二日

沅弟左右：

所保各员，均奉允准。惟金安清明谕不准调营，寄谕恐弟为人耸动。盖因金君经余两次纠参，朝廷恐余兄弟意见不合也。大抵清议所不容者，断非一口一疏所能挽回，只好徐徐以待其自定。近世保人，亦有多少为难之处。有保之而旁人不以为然，反累斯人者；有保之而本人不以为德，反成仇隙者。余阅世已深，即荐贤亦多顾忌，非昔厚而今薄也。

景、河、委、乐四卡，左帅业已归还余处。上海四万，余志在必得，恐不免大有争论。霞仙升陟抚，先办汉中军务。闻李雨苍系多帅所劾也。

## 八月初五日

沅弟左右：

小河西岸尽为我有，贼船万不能过，且凭河为守，又可当一道长濠，可慰之至。然城内有数十万悍贼，上游黄、胡、古、赖等即日下援金陵，穷寇有致死于我之心，抑又可惧之至。河之东岸暂不必谋，少息兵力，以打援贼可也。

金眉生参者极多。二三年来胜帅屡疏保之，升于九天；袁帅屡疏劾之，沉于九渊。余十一年冬查参革职，胜帅又以一疏劾我，谓为党袁而不公。余偶与汪曜奎言之，汪以告胜，胜又寄函于我，自陈前疏之误。即如下游诸公，李、吴、乔皆痛恶眉而不知其美，郭又酷好眉而不知其恶。此等处弟须详询密查，不可凭立谈而遽信其人之生平耳。倘恨今日解去三万，湖南又另解四万与弟，节下当可敷衍。

生日在即，万不可宴客称庆。此间谋送礼者，余已力辞之，弟在营亦宜婉辞而严却之。家门大盛，常存日慎一日而恐其不终之念，或可自保。否则颠蹶之速，有非意计所能及者。

## 八月初九日

沅弟左右：

青阳米粮太少，援兵不得至城下，万难久支。青邑若失，则南陵、泾县、宁国殆将瓦解，不得不调霆军救援皖南。昨日已备牍咨行，请弟

速催春霆启行，无贪城北地道万不可成之功，而忘上游数城万不可失之地。弟兵暂扎小河以西，只要背后无援贼，但御前面之城贼，力自有余。待至秋末冬初，春霆击退黄、李、古、赖各股，或可进攻东坝。弟之新勇募到，亦可扎过小河以东，暂达孝陵卫矣。

古人用兵，最贵变化不测。吾生平用兵，失之太呆，弟亦好从呆处着想。霆军五月从燕子矶南渡，本是呆着，挖地道则更呆，此际皖南危急，不能不测之使活耳。

## 八月二十三日

沅弟左右：

通江关与石埠桥相近，为李部济贼之区。自当咨李，请将石埠桥之兵悉数撤回江北。惟此咨目下尚难遽发。渠之两岸设兵，中间又设炮船，为通江关厘卡计也。日内因定盐务新章，咨请渠将厘卡撤回，每月由运司衙门解渠银一万两，以作抵款，尚不知渠肯应允否。待渠咨复到日，肯撤通江之厘卡，然后可并撤石埠之防兵。余本日拟解银万两、子药各万斤协济滁州，亦为求渠撤通江厘卡，先有以慰其心也。大凡办一事，其中常有曲折交互之处，一处不通，则处处皆窒矣。

## 八月三十日

沅弟左右：

来缄，内附新刻西省饷盐招商章程，具悉一切。新章中余亦有不以为然之处，已批出交麓轩复核，即日另刻一本寄阅。

盐务自应由余与运司两衙门作主，界限不可不清，始基不可不慎。护票不必由弟营填发，船单与认旗皆可不用，恶其全是洋人规模也。凡商皆可招，不必认说全归大营认办，并不必立营运名目。总之，余之主意重在商运，不重在官运、营运。金君之主意，时重商，时重官营，夹杂之中，不免自相矛盾。故此次刊刻新章，不可不慎，以其遍传官绅商贾也。

## 九月十七日

沅弟左右：

接弟两缄，心气和平，事理通达，大慰大慰！

皖盐亦向泰局领票，由安庆总握其权，则食岸亦渐就范围。日内将南坡米盐互市之议略定章程，作一长折，将清务澈底一说，即日具奏。

弟增募二万人，银米恐接济不上。且安庆克复，弟添新兵近二万人，此次又添二万，前此老营能战能守之将弁分散太多。此余之所深虑。

至水师十二营，尤可不必添募。弟意不过恐杨、彭师船不能应手耳，天下事焉能尽如人意？古来成大事者，半是天缘凑泊，半是勉强迁就。余当寄信与郭意城，请其停止弟募水勇之事。寄信杨、彭，请其不必代弟造船。望弟亦寄信止之。长江肃清之后，忽添水师十余营，于清议亦说不去也。

## 九月二十二日

沅弟左右：

十五日十七日信，有畏慎而无怫郁，极慰极慰！老弟之意量远矣，先世之气脉长矣。

杜小舫文澜往年经郭雨三专函力保，去年又经晏彤甫函保，故余一见即器重之，许以驻汉口办督销局务。近日与南坡亦极水乳，南亦请以汉口督销局委之。其品望虽未必果翕舆论，然亦当稍优于金、许也。许之条陈多有可采，候与南坡商之。

杨守炮船一事，弟之公牍甚为婉逊，即照弟所拟办理。末世好以不肖之心待人，欲媒孽老弟之短者，必先说与阿兄不睦。吾之常常欲弟检点者，即所以杜小人之谗口也。

何饬罚款断不放松，幸毋听谗言而生疑。

## 十月初四日

沅弟左右：

纪鸿母子及全家到营，一路平安，足慰家中悬念。寅皆先生意欲速行旋里，牧云当度岁乃归也。袁婿在此，尚无为非之事，惟不肯读书作字，难期有成。内人以下，历述老弟数年以来照料黄金堂诸事，心思之细，仪节之恭，送情之厚，均为近世兄弟中所未见。吾家数宗收族、承先后后诸大端，皆发于沅弟之谋，而成于弟之手。沅弟费财，老弟费心，均可为祖父累代之功臣。余愧未能悉心经营，幸两弟有以补余之过也。

沅军连克上方桥、七瓮桥等贼垒，城外接济将断。朱云岩招降古隆贤一股，收复石埭、太平二城。春霆进攻水阳、金宝圩一带，尚无开仗之信。临淮唐中丞处近亦平安，惟蒙城粮尽援绝，断难保全。发逆稍衰，而苗逆方盛，良可虑也。

## 十月十七日

沅弟左右：

徐士衡等归，言弟于十二日往看孝陵卫营基，余且喜且惧。喜贼之接济将断，惧弟之新营太多，占地太广，恐百密而一疏也。意城亦以弟招新勇太多为虑。余以弟力谋此城，苦心孤诣，故仅禁招水勇而不禁招陆勇，不忍重拂弟也。弟亦当谅余苦衷，将新勇之可减者减之，可并者并之。至于克城迟早，仍有天意，不尽人谋也。

## 十月二十二日

沅弟左右：

日内未得弟信，不知体中安否？东坝、溧水既克，弟又进扎孝陵卫，城中接济似已可断。其孝陵卫以北不妨空缺，不必合围。盖大致米粮难入，则城中强者可得，弱者难求，必有内变争夺之事。若合围太紧，水息不通，无分强弱，一律颗粒难通，则反足以固其心而无争夺内变、投诚私逃之事矣。不知弟亲历其境，以余此说为然否？

## 十一月初五日

沅弟左右：

初三日接程学启报苏州克复之信，初四日得唐中丞克复怀远之信。苗党张士端叛苗从官，献出怀远一城，并献炮船六十号、米四千石、钱三千串。从此苗众之心益涣。僧邸亦至蒙城，蒙围当可立解。

金陵如果克复，弟当会同彭、杨三人前衔，将大略情形飞速入告。折首云：“为官军克复金陵，谨将大概情形先形驰奏，以慰宸廑，仰祈圣鉴事。”折末云：“伏乞皇太后皇上圣鉴。再，臣等前接曾国藩密函，金陵如果克复，嗣臣三人先将大概情形会奏，早到京一日，圣怀早得宽慰一日。其详细情形，仍咨由官文、曾国藩会奏等语。除将详细战状另咨楚皖统奏外，合并声明。谨奏。”其折愈短愈妙。洪秀全之下落，银钱之多寡，不可不说大概，此外皆宜略也。

顷又接冯萃亨信。洪首全不动摇，弟切不可性急，常、杭、嘉、湖全克而金陵乃收功结果，乃正理也。



## 十一月十二日

沅弟左右：

接初五夜地道轰陷贼城十余丈，被该逆抢堵，我军伤亡三百余人。此盖意中之事。城内多百战之寇，阅历极多，岂有不能抢堵缺口之理？苏州先复，金陵尚遥遥无期，弟切不必焦急。

古来大战争、大事业，人谋仅占十分之三，天意恒居十分之七。往往积劳之人非即成名之人，成名之人非即享福之人。此次军务，如克复武汉、九江、安庆，积劳者即是成名之人，在天意已算十分公道，然而不可恃也。吾兄弟但在积劳二字上着力，成名二字则不必问及，享福二字则更不必问矣。

厚庵坚请回籍养亲待疾，只得允准，已于今日代奏。

苗逆于二十六夜擒斩，其党悉行投诚。凡寿州、正阳、颍上、下蔡等城一律收复，长、淮指日肃清，真堪庆幸。

弟近日身体健否？吾所嘱者二端：一曰天怀淡定，莫求速效；二曰谨防援贼城内外猛扑，稳慎御之。

## 十一月十四日

澄弟左右：

匡山嘴桥稍嫌用钱太多，南塘竟希公祠宇亦尽可不起。沅弟有功于国，有功于家，千好万好，但规模太大，手笔太廓，将来难乎为继。吾与弟当随时斟酌，设法裁减。此时竟希公祠宇业将告竣，成事不说，其星冈公祠及温甫、事恒两弟之祠皆可不修，且待过十年之后再看。至嘱至嘱。

余往年撰联赠弟，有“俭以养廉，直而能忍”二语。弟之直人人知之，其能忍，则为阿兄所独知；弟之廉人人料之，其不俭，则阿兄所不及料也。以后望弟子俭字加一番工夫，用一番苦心，不特家常用度宜俭，即修造公费，周济人情，亦须有一俭字意思。总之，爱惜物力，不失寒士之家风而已。弟以为然否？

## 十一月二十四日

澄弟左右：

衡州之粤盐，只禁船载，不禁路挑，弟所见极为有理。江西新城县亦为禁闽盐之路挑，竟被私贩将委员殴毙。现在衡州每挑既补二百四

十，若再加，亦必激变。从前道光年间，衡州严禁粤私，从未禁遏得住。将来新章到衡，弟可与府县及厘卡说明，只有水卡查船载之私每斤加作八文，其陆卡查路挑之私概不再加分文。亦不必出告示，亦不必办公牒，但得水卡一处稽查，便算依了我之新章耳。兹将新刻章程寄回。

弟家之渐趋奢华，闻因人客太多之故。此后总须步步收紧，切不可步步放松。

总之，家门太盛，有福不可享尽，有势不可使尽，人人须记此二语也。

## 十二月初一日

沅弟左右：

接春霆信，知深水失守，王可陞不战而溃，殊为骇异。新军之不可恃如此！弟处七瓮桥、孝陵卫诸营尤为吃重。新营太多，余实不放心。留丁泗滨二营水师，调志字五营陆师，皆已照准咨复。志营万不可恃。虽有五营，弟视之如无一营可也。神策、太平二门断不可合围。人以收全功求速效望于弟，吾所望者一稳字而已，不求速不求全也。

## 十二月初十日

沅弟左右：

城上有墨气灰气，意者天欲殄此寇乎？然吾辈不恃天人之征应，而恃吾心有临事而惧、好谋而成之实。火药银两接济尚可不断，惟米粮极难。江西、两湖皆卖至三两四五钱，且处处阻隔通渠，无米可卖，深堪忧灼。只要各军有可食之米，吾兄弟有敬畏之心，此役当有了日耳。

## 十二月十四日

澄弟左右：

李氏兄弟五人而殁其三，九与五固系名将帅，即二亦系克家之令子。五年之内，先后沦谢，振亭姻伯虽康健，想亦怆恻不可为怀。拟湊奠仪万金。迪、希前存历年薪水，尚有万金寄存蒋、成、萧、毛等处，亦拟提回作为姻伯养贍之资。余送贍仪千金，沅弟拟另送四百，皆在拟湊万金之内，大约可多不可减也。

金陵军务近尚平稳。伪忠王久至金陵，尚未出城猛扑。鲍军在东坝平安。少荃一军又在浙江克复二城，下游事机极顺。所虑者，群贼旁出四溢，终为江西、两湖之患耳。

## 十二月十八日

沅弟左右：

日内雨雪严寒，深以弟营缺米缺银为虑。湖南之十万金，本派定全解弟处，不料十一月初八日起行，至今四十天未到。昨派炮船四号迎提，又为大雪所阻。一俟提到，即用洋船拖送，不知年内可到否。

弟派王子鉴办江西之米，朱守谟办湖北之米，余为力主其事。尚斋在江，厉、杜在鄂，亦无不认真之理。但昂贵异常，其能多与否，仍未可知。

## 十二月二十一日

沅弟左右：

大炮守垒，只可偶一用之，多用则实可不必。吾在水营多年，深知大炮之长短。

凡炮火之利有二：曰及远，曰命中。大炮之大子可以及远而难以命中，谓其愈远则行愈迟慢，且有声可以回避，又往往自上落下，不能横穿也。其群子可以命中而难以及远。包得合膛，筑得极紧，可及二三箭之远，否则仅及一箭而已。群子所能及之处，先锋包亦几能及之。

军兴日久，各弁勇事事外行，徒慕大炮之名。见贼在二三里外，纷纷开大炮大子击之，喜其响之震、烟之浓而已。见贼不畏炮而排进如故，则以为凶悍无匹，而不知大子实不伤人也。吾在水营时，教将弁专用群子包得圆、筑得紧、开得近三语者，内湖各营罕能做到，外江间有做到者，便是无敌之将。陆营善用大炮者，吾尚无所闻。弟营善用大炮者共若干人？然大约不满三百人，而营中之炮，却不止三百尊。弟去年请黄南翁解炮四尊，今年请丁道铸炮数尊，皆外行之举动也。

余恐火药接济不上，故于地洞、大炮二事详悉言之。

## 十二月二十三日

沅弟左右：

弟营之米太少，余亦知之，竟无法可以多购。待三月后江达川办蜀米、王子鉴办江米、朱守谟办鄂米，三处所得，当较多耳。

弟问芳浦、惟堂等是否可全调金陵。余意句容之贼可由秣陵关、小丹阳而至金柱关。贼若以一支稳扎秣陵关，一支进攻金柱关，不特鲍营

远在东坝不能遽破秣陵之贼，即弟营近在雨花台，亦不能猛打秣陵大股也。弟军前攻破秣陵关伪城后，不知曾派兵守之否？若已有劲兵守之，则不特金柱关可以无虞，即三汊河、江宁镇之兵亦可少减。若秣陵关并未设守，则朱芳浦不可轻离金柱关也。或调芳浦驻守秣陵关，于鲍、王皆可联络，于金、芑亦可屏蔽。请弟裁酌。

十二月二十六日

沅弟左右：

日内所忧弟营之事，专在米粮一宗。贩米二千石，日内必解赴金陵。江西之米，官固认真稽查，民间尤阻遏甚紧。余顷已札行各卡，正二三月一律免厘。此风一播，应可松活也。

太平、神策二门，余意不遽合围，实因另无统令之故。如东头初一日开仗，西头之兵初二日驰援，尚只能走路，不能接仗，必须初三日乃能交手。而东头存亡呼吸之顷，固不能靠西兵以救危，又岂能向西帅以问计策哉？欲求东头另立统领，近则调鲍春霆，远则调程学启，或竟请少荃亲来，乃可当此一面。余顷有信寄少荃，调程学启还弟麾下。如少荃不允，余于正二月必设法调一统领大员围扎神策、太平二门，并拟于灯节后坐轮船与弟一会。

弟宜以保身体为主，不必焦灼也。弟此次两信，胸怀颇宽舒，心志颇敬慎。以后须常存此意，总觉得人力虽尽到十分，而成功纯是天意，不可丝毫代天主张。至嘱至嘱。

同治三年甲子岁

正月初四日

沅弟左右：

九弟及各军近日均无战事。苗沛霖既诛，其部下头目为僧王擒斩殆尽。李世忠亦知畏罪。近有文书来，将渠所据城池交出，请派人去守，其枪炮亦愿缴出。将来江北可无后患。

余身体平安，合署内外俱好，惟俭字日减一日。余兄弟无论在官在家，彼此常以俭字相勸，则可久矣。

## 正月初七日

沅弟左右：

余思至金陵一行，不过因弟太辛苦，或兄弟一会，以畅欢怀。近见弟累次来信，襟怀甚恬畅，字画甚光润，心意甚敬谨，可卜其神不外散，别无波折。余即决计不赴金陵矣。盖洋船虽快，往返亦须八九日也。少荃决不能来，显而易见。程学启之能来，亦姑听之。余已有函商之少荃，此后不加吝腴可耳。

## 正月十四日

澄弟左右：

吾不欲多寄银物至家，总恐老辈失之奢，后辈失之骄。未有钱多而子弟不骄者也。吾兄弟欲为先人留遗泽，为后人惜余福，除却勤俭二字，别无做法。弟与沅弟皆能勤而不能俭，余微俭而不甚俭，子侄看大眼吃大口，后来恐难挽回。弟须时时留心。

## 正月十七日

沅弟左右：

金眉生到此已交银二万，令买米解弟营。箕轩履宁藩之任，凡眉生有善策无不采纳，凡弟处有函商无不遵允。晋鹤既调皖抚，自不能干预淮北盐务。惟用人极难，听言亦殊不易，全赖见多识广，熟思审处，方寸中有一定之权衡。如眉生之见憎于中外，断非无因而致。筠仙甫欲调之赴粤，小宋即函告广东京官，以致广人之在籍在京者物议沸腾。今若多采其言，率用其人，则弹章严旨立时交至，无益于我，反损于渠。余拟自买米外，不复录用。许小琴老而自用，亦未便付以北轡重任。且待忠鹤奉相见，李军全撤之后，再议淮北章程。

闻弟宅所延之师甚善讲解，可慰之至。后辈兄弟极为和睦，行坐不离，共被而寝，亦是家庭兴旺之象。余所虑者：弟体气素弱，能常康强无疾，至金陵藏事之日不起伤风小恙；其次侍、辅、堵等首不上江西，不变流贼；其次洪、李城贼猛扑官军，弟部能稳战稳守。三者俱全，如天之福。雪、厚、南、竹等皆以弟新营太多为虑，余苦无良将调以助弟，极歉仄也。

## 正月二十三日

沅弟左右：

城事果有可望，大慰大慰。此皆圣朝之福，绝非吾辈为臣子者所能为力。不特余之并未身临前敌者不敢涉一毫矜张之念，即弟备尝艰苦，亦须知谋事在人，成事在天，劳绩在臣，福祚在国之义。刻刻存一有天下而不与之意，存一盛名难副成功难居之意。蕴蓄于方寸者既深，则侥幸克城之日，自有一段谦光见于面而盎于背。至要至要。

## 正月二十四日

澄弟左右：

沅弟在金陵甚顺遂。待逆之党上窜江皖，徽军已屡获胜仗，驱贼回窜。惟另股窜遂安者，未知浙军能否得手。大约杭州、金陵春间皆可望捷音。只求败贼不至江西，则大局日稳矣。

李家两昆仲先后殁谢，以名贤而兼高位，一旦长逝，其家冷落之状可想而知。余为筹画各处奠仪并公项共得三万余金，专人送去。

新正人客甚少，不似往年军营光景。余虽力求节俭，总不免失之奢靡，日日以俭字诤戒妻子，现略知遵守，亦望吾弟常告内外周知也。

## 正月二十六日

沅弟左右：

天保城以无意得之，大慰大慰。此与十一年安庆北门外两小垒相似，若再得宝塔梁子，则火候到矣。

弟近来气象极好，胸襟必能自养其淡定之天，而后发于外者有一段和平虚明之味。如去岁初奉不必专折奏事之谕，毫无怫郁之怀，近两月信于请饷请药毫无激迫之辞，此次于莘田、芝圃外家渣滓悉化，皆由胸襟广大之效验，可喜可敬。如金陵果克，于广大中再加一段谦退工夫，则萧然无与，人神同钦矣。富贵功名皆人世浮荣，惟胸次浩大是真正受用。余近年专在此处下功夫，愿与我弟交勉之。

闻家中内外大小及姊妹亲族无一不和睦整齐，皆弟连年筹画之功。愿弟出以广大之胸，再进以俭约之诫，则尽善矣。

## 二月初二日

沅弟左右：

金陵业经合围，只空后湖一段，大致不能以全股冲出，貽患它处，且喜且惧。喜者喜弟之苦心经营，渐有蕲事之望；惧者惧穷寇拼命决战，如黄河将合龙之际，恐大溜冲决走扫也。望弟加倍小心，竟此大功。

天保城山下修二新垒，湘后二营恐不足当此要路。其营官由水师出身，不知陆路事宜。周围九十余里，围数十万悍贼于其中，吾弟布置之劳，责任之重，思之不觉惴栗。

谕旨前令都兴阿南渡至句容一带助剿，本日改调都赴山西，派富将军南渡，飭余区画调度。余拟复奏富不必南渡。徽州之贼虽退，已从浙境上窜玉山、广信，势将蹂躏江西腹地。金陵若克，请弟拨二万人回顺江西、湖南，即为遣散地步。

## 二月十一日

沅弟左右：

连日风雨严寒，气象愁暗，便似咸丰十年二月光景，深为疑悚。不知弟体气何如？各营近状何如？城贼出外猛扑否？上游窜江西之贼，虽经席、韩迭获胜仗，闻有一小股由铅山之湖坊内窜，恐遂将窜抚、建，殊为焦虑。

金陵果克，弟之部曲断不能全数遣散。一则江西是管辖之境，湖南是桑梓之邦，必派劲旅防御保全。二则四五万人同时遣撤，必无许多银钱。而坐轿者愿息，抬轿者不肯，其中又有许多人情物理层次曲折。勇退是吾兄弟一定之理，而退之中次序不可凌乱，痕迹不可太露。待兄弟相见，着着商定，再行办理。

## 二月十四日

澄弟左右：

正月下冻冰雪太久，恐非佳兆，而弟决谷米之必贱，何也？此间亦苦风雪严寒，气象黯惨，余深以为忧。幸二日内已放晴矣。

沅军平安如故。自正月底合围，贼至今未出城猛扑。探称洪逆积柴绕屋，自誓城破则放火自焚。上窜江西之贼近日未闻的报，不知已至

## 曾国藩家书

抚、建否？

寓中大小平安。纪泽之病已愈，但尚禁风。后辈体气远不如吾兄弟之强壮。吾所以屡教家人崇俭习劳，盖艰苦则筋骨渐强，娇养则精力愈弱也。老弟以为然否？

### 二月二十四日

澄弟左右：

金陵之贼外援已绝，计瓜熟蒂落之期当亦不远。惟米粮昂贵，且无处可买，颇以为虑。江西之贼自席军在金溪获胜，大局不致糜烂。然穷寇觅食纷窜，闽广两湖均属可虑，不可以其为残败之匪而忽之。如省城、衡州有与弟商及贼情者，宜互相谨慎也。

俭之一字，弟言时时用功，极慰极慰。然此事殊不易易。由既奢之后而返之于俭，若登天然。即如雇夫赴县，昔年仅轿夫二名，挑夫一名，今已增至十余名，欲挽回仅用七八名且不可得，况挽至三四名乎？随处留心，牢记有减无增四字，便极好耳。

### 三月初四日

澄弟左右：

沅弟营中久无战事。金陵之贼，亦无粮尽确耗。

杭州之贼目陈炳文闻有投诚之信，克复当在目前。天气阴雨作寒，景象似不甚佳。吾在兵间日久，实愿早灭此寇，俾斯民稍留子遗。而睹此消息，竟未知何日息兵也。

纪泽兄弟及王甥、罗婿读书均属有恒。家中诸侄近日勤奋否？弟之勤为诸兄弟之最，俭字工夫，日来稍有长进否？诸侄不知俭约者，弟常常训责之否？至为廑系。

### 三月十二日

沅弟左右：

句容克复，从此城贼冲出益无停足之地，当不至貽患他方，至以为慰。弟增十六小垒，开数处地道，自因急求奏功，多方谋之。闻杭城克复之信，想弟亦增焦灼，求效之心尤迫于星火。惟此等大事，实有天意与国运为之主，特非吾辈所能为力、所能自主者。虚心实力，勤苦谨慎八字，尽其在我者而已。



春霆既克句容，宜亲驻句容，专打金陵破时冲出之贼。幼丹截分厘金之事，今日具疏争之，竟决裂矣。

季初六日寄谕，恐金陵军心不一，欲余亲往督办，盖亦深知城大合围之难。余拟复奏仍由弟一手经营。惟常常怕弟患病，弟千万保养，竟此大功。

### 三月十四日

澄弟左右：

杭州、余杭皆于二月克复。鲍春霆攻剿句容，于三月初七日克复。大致极为顺遂。惟金陵城贼坚守如常，并无粮尽确耗，又新插麦禾甚多，竟不知何日始能了此公案！江西之贼尚在南丰、新城，其气甚衰，逃者甚众，应不能为害他方。惟广东之贼强悍，无散归之志，终当变成流贼，蔓延闽粤两湖，是可虑耳。

县中文庙费在万串以外，余当捐五百串，以为之倡，此外各营凑捐，当易成事。

季弟专祠，即卖南门之专祠亦无不可。谕祭文到日，遣官致祭。其遣来之官，即天使也。京师大员得遣谕祭者，系礼部堂官充天使。余曾充过数次。奠酒三杯，天使立而不跪。读文毕，天使三揖而退，孝子跪迎跪送。丧家以酒席陪敬天使，并赠送袍褂、朝珠、冠补等物。极多八色，少或六色、四色。此京中以尚书、侍郎充天使者之概也。外间充天使者，从前陶文毅家，系省城派遣员前往。近来罗、李、王家，皆系派本县知县，其仪注如何，余不得知也。

邓寅皆兄总以到馆为妙，果非愿受乾修之人，余亦向不肯荐乾馆。天下不义之财，乾馆亦其一也。

### 三月二十六日

沅弟左右：

金坛、丹阳次第克复，慰甚。鲍军上援江西，余已飞檄调之。但春霆于元年冬丁艰，力求回籍治丧，余许以打开宁国四面之贼即准回籍。二年二月，春霆求践前约，余展限打开东坝乃准回籍。东坝克后，春霆又求践前约，余展限五个月，以今年二月底为度。至三月初，春霆要请甚迫，余又展限以金陵克复为度。此次不待金陵克复而遽令援江，在我则失信太多，在霆则坚求还蜀，此意中之事，亦无可强派之事，望弟与之再三细商。但借渠之威望援救江西，以安江西官绅士民之心。只须宋

镇、娄、冯等率之以往，不必春霆亲往督办。春霆行至安庆等处，余即具疏奏请准渠回籍治丧。一至九江，渠即可分手回蜀，听宋、娄等带队入江西援剿可也。夷约太多，人必不复见信，望弟与霆一一详说，言此番决无夷约之理。并请春霆速发告示咨文至江，言渠即日来援，以安人心。至要至要。

余昨日具疏告病，一则以用事太久，恐中外疑我兵权太重，利权太大，不能不缩手以释群疑。一则金陵幸克，兄弟皆当引退，即以此为张本也。

### 三月二十七日

沅弟左右：

傍晚兰泉归来，备述弟款接之厚、才力之大而言弟疾颇不轻，深为忧灼，闻系肝气之故。

余日内甚郁郁，何况弟之劳苦百倍于我？此心无刻不提起，故火上炎，而血不养肝。此断非药所能为力，必须放心静养，不可怀忿怫气，不可提心吊胆，总以能睡觉安稳为主。

今日接到寄渝，江西厘金之讼，仍是督抚各半。然官司虽输，而总理衙门奏拨五十万两专解金陵大营，未必尽靠得住，而其中有二十一万实系立刻可提者，弟军四五两月不致哗溃。六月以后，则淮北盐厘每月可得八万，故余转恼为喜。向使官司全赢，则目下江西糜烂，厘金大减，反受虚名而无实际。想弟亦以得此为喜也。

### 三月三十日

沅弟左右：

张仙舫稟食盐事并未与弟说及，殊为大谬，当严飭。此后凡事当先禀弟处。其人似尚胆小，或不至敢违吾与弟之训。

抚恤一局，万难裁撤，听弟斟酌。吾因安庆、池州饥民纷纷赴江南大营就食，吾恐此名一播，万难应付，故功停也。

上海拨五十万至金陵之旨，二十八日续奉廷寄一道，重言以申明之。大约可实得二十四万。湖北发、捻交集，甚为震恐。天气阴寒，余深虑别有祸变。但求每月除米以外，凑得十余万金，俾弟军、鲍军不至决裂，竟此一赞之功。然后兄弟熟商引退之法，则大幸矣。

## 四月初三日

沅弟左右：

地道既难中止，听弟加工再挖，余不复逼制。徽、休、祁、黟俱无恙，贼已由婺源横窜遂安、华埠，将仍走玉山、广信以犯抚、建。闻剃头者甚多，并不杀人放火，或有各自逃散之意亦未可知。弟军今年餉项之少为历年所无，余岂忍更有挑剔，况近来外侮纷至迭乘，余日夜战兢恐惧，若有大祸即临眉睫者。即兄弟同心御侮，尚恐众推墙倒，岂肯微生芥蒂？又岂肯因弟词气稍慧藏诸胸臆？又岂肯受他人千言万语遂不容胞弟片语乎？老弟千万放心，千万保养。此时之兄弟，实患难风波之兄弟，惟有互助互励互恭维而已。

余日内所患者三端：一则恐弟过劳生病，弁勇因餉絀而散漫；二则恐霆营人心涣散，另生祸变；三则恐汉中大股东事，庐、巢、和、潜俱不能守，西梁山亦无兵可以援防。此三事中，弟有法可以补救一二否？

## 四月初四日

沅弟左右：

接弟所发排单一信，痛悉蕙妹去世。吾同产骨肉九人，至是仅存吾与弟暨沅弟三人矣，哀哉！自丁巳至今八载，亲属死丧九人。久处兵戈之中，长闻哀感之事。昆八外甥适于是日由金陵来皖，因催令登舟上行，而未将讣音告之，大约至湘潭等处始得闻知。

金陵围师稳固如常。霆军攻克金坛，现调春霆统率全军救援江西，须俟李少荃派兵接防东坝、句容后，鲍军乃能上行，大约起程在两月以后。比又派周军门宽世、金逸亭两军救援江西，共八千人，当在十日内由安庆起行。湖北之贼已由枣阳等处下窜，将自皖境救援金陵。闻发、捻近三十万，实属应接不暇。江西之贼若至瑞、袁等处，则湖南处处须设防兵。如有调弟带兵出境防剿者，弟千万不可应允。即在本县办团，亦须另举贤员为首，弟不可挺身当先。吾与沅弟久苦兵间，现在群疑众谤，常有畏祸之心。弟切不可轻易出头露面，省城则以足迹不到为是。

## 四月初五日

沅弟左右：

近日肝疾已愈，湿毒亦十去七八，大慰。

初一以后，贼果出城猛扑否？若非有绝大便宜，我军并不出濠，仅稳稳为自守计，应可无碍。元年七月二十二日出濠之战，吾至今尚觉心悸，盖吾胆气素薄故也。日内阴雨寒森，气象不佳，务望老弟不求奇功，但求稳着。至嘱至嘱。

吾虽亦有肝气，然善眠善食。兰泉诊我脉，言六脉平和，养生家所求之不得，断无疾恙云云。但每日懒于作事，未免积搁文件耳。弟可放心。

## 四月初六日

沅弟左右：

湖州、丹阳既皆未克，则鲍军未可轻动，而浙江群逆亦必由东坝、丹阳等处援救金陵。特此飞函商吾弟，细告彭、刘、萧、张诸将蓄养锐气，专为前打城贼后御援贼之用，断不可因地道将成，竭力猛攻，致多损锐，反不能力破援贼也。千嘱千嘱！好事多磨，自古而然。即东坝疏失，鲍军小挫，亦未始非意中或有之事，虽有其事，而弟军仍安如泰山，乃为铁汉。

自苏杭克复，人人皆望金陵之速克。吾独不期其速，而期其稳，故发信数十次，总诫弟之欲速。盖深知洪逆非诸贼可比，金陵非他城可比也。此等处吾兄弟须有定识定力，望老弟巍然不动，井然不羣。将克未克之际，必有一番大风波。吾弟若破地道，且待大风波经过之后再行动手，实不为晚。吾所虑者，一恐弟求速效而焦灼生病，一恐各营猛攻地道，多损精锐而无以御援贼耳。弟其体我此意，稳慎图之。至于弟军银米，九月以前必可敷衍。

## 四月初九日

沅弟左右：

今日天雨如注，气象阴森，寒似深秋，实增焦灼，想老弟亦同此愁闷。然事至今日，惟有小心安命、埋头任事二语兄弟互相劝勉，舍此更无立脚之处。据宴兰泉云，大丹将成，众魔环伺，必思所以败之。雪琴上赴九江过此，则云金陵贼粮尚足，夏秋难望克复。二说虽微不同，总之事局艰难，吾兄弟适当其任。湖州、广德未克，日内必有大变。

弟所挖地道，如果四月告成，不宜于四月装药轰发。吾观天时人事，似非于月内遽获大捷者。危心苦口，弟其谅之。弟派沈鹤鸣赴沪提银二十六万两零，而余已先拨九万与霆军，弟心不免郁郁。余实因周纲堂之信，恐生他变，故待霆军独厚，亦望吾弟谅之。

## 四月十三日

沅弟左右：

适闻常州克复、丹阳克复之信，正深欣慰，而弟信中有云肝病已深，痼疾已成，逢人辄怒，遇事辄忧等语，读之不胜焦虑。今年以来，苏浙克城甚多，独金陵迟迟尚无把握，又忧项奇绝，不如意之事机、不入耳之言语纷至迭乘。余尚怙郁成疾，况弟之劳苦过甚百倍阿兄，心血久亏数倍于阿兄乎？余自春来，常恐弟发肝病，而弟信每含糊言之，此四句乃露实情。此病非药餌所能为力，必须将万事看空，毋恼毋怒，乃可渐渐减轻。螻蛇螯手，则壮士断其手，所以全生也。吾兄弟欲全其生，亦当视恼怒如螻蛇，去之不可不勇。至嘱至嘱。

余年来愧对老弟之事，惟拔去程学启一名将，有损于阿弟。然有损于家，有益于国，弟不必过郁，兄亦不必过悔。顷见少荃为程学启请恤一疏，立言公允，兹特寄弟一阅。李世忠事，十二日奏结，又忧恤情形一片抄阅，即为将来兄弟引退之张本。余病假于四月二十五日满期，余意再请续假。幕友皆劝销假，弟意以为何如？淮北票盐、课厘两项，每岁共得八十万串，拟概供弟一军。此亦巨款，而弟尚嫌其无几，余于咸丰四、五、六、七、八、九等年，从无一年收过八十万者，再筹此等巨款，万不可得矣。

## 四月十四日

沅弟左右：

接弟信，知黄鼎甫侄婿去世，不胜悲惻。侄女青年无子，何堪当此大故！温弟妇忧患余生，何以遣此悲怀？天之厄人，每有理所不可测者。而老弟二十年以来，凡亲属疾病死丧之事，皆弟一人历其危险，尝其劳苦，精力竭矣，忧虑饱矣。弟所尽职于骨肉之际，其劬劳盖百倍于阿兄。且愧且怜。

蕙妹于十四去世，乃延至二十日始大殓，未免太迟。凡地师及选择方术之言，其近情理者信之，其不近情理者决不必信。七日始大殓，此不近情理之言也。吾祖星冈公于僧道巫医及堪舆星命之言皆不堪信，故凡不近情理之言不敢向之开口。以后吾家兄弟子侄，总以恪守星冈公之绳墨为要。

常州克复，丹阳克复，江苏全省只剩金陵一城未克耳。沅弟忧灼殊甚，肝疾颇深，余常常以信解之。

## 四月十六日

沅弟左右：

常、丹之克，此间已先得报。各城皆得，仅余金陵。城之坚而大，贼之悍而多，实非他处可比。弟切勿焦灼致疾，听其自然而已。如奉旨饬少荃中丞前来会攻金陵，弟亦不必多心，但求了毕兹役。独克固佳，会克亦妙。功不必自己出，名不必自己成，总以保全身体，莫生肝病为要。善于保养，则能忠能孝，而兼能悌矣。

## 四月十八日

沅弟左右：

湿毒已愈，又添脚气之疾，总因忧劳过久之故。然天相劳臣，当不至于大碍。观弟昔年无数月不病，此次两年未尝一日不写字、一刻不办事，则知尽忠王事者，自有神明佑助，理不爽也。

少荃派兵来接东坝、句容之防，余已咨明弟处。春霆马步万六千人，师行二千余里，九万途费本不可少。兹拟先交五万，请弟于轮船经费或大通解饷项内拨五万济之，余四万设法续解。弟需大批饷，除沪上十五万外，实无可指之款。子药则今日起解三万矣。

## 四月二十日

沅弟左右：

弟收沪银十三万零，今日再由江外粮台解去六万，合之各卡厘金，计亦可勉强不决裂，实天幸也。

事事落人后着，不必追悔，不必怨人，此等处总须守定畏天知命四字。

金陵之克，亦本朝之大勋，千古之大名，全恧天意主张，岂尽关乎人力？天子大名，吝之惜之，千磨百折，艰难拂乱而后予之。老氏所谓“不敢为天下先”者，即不敢居第一等大名之意。弟前岁初进金陵，余屡信多危悚徽戒之辞，亦深知大名之不可强求。今少荃二年以来屡立奇功，肃清全苏，吾兄弟名望虽减，尚不致身败名裂，便是家门之福。老师虽久而朝廷无贬辞，大局无他变，即是吾兄弟之幸。只可畏天知命，不可怨天尤人。所以养身却病在此，所以持盈保泰亦在此。千嘱千嘱，无煎迫而致疾也。

## 四月二十四日

澄弟左右：

捐务公事，余意弟总以绝不答一言为妙。凡官运极盛之时，子弟经手公事格外顺手，一倡百和，然闲言即由此起，怨谤即由此兴。吾兄弟当于极盛之时预作衰时设想，当盛时百事平顺之际预为衰时百事拂逆地步。弟此后若到长沙、衡州、湘乡等处，总以不干预公事为第一义。此阿兄阅历极深之言，望弟记之。

## 四月二十八日

沅弟左右：

余已于二十七日具片销假矣。弟信既惠至，雪琴又由潮口特来此间一行，遂不复续假，亦恐人疑我此举专为沈中丞也。

富公数千人预备助剿金陵，谕旨令其以江北为重，富来函亦谓即将调回扬防。大约除少荃亲来外，别无一支来弟处帮忙者。事权之一，可喜；担荷之重，亦可惧。究竟中关之接济已断否？望示及。

弟病在水不能生木，余亦夙有此疾，非药物所能为力。每日无论如何忙迫，总须略有抽闲之时，或静坐，或渴睡，或散步，火不动，则水得所养矣。

## 五月初一日

沅弟左右：

日内无他信息，惟闻江西省城人心惊惶，纷纷搬徙。雪琴已带船晋省，藉助声威。抚州解围后，贼攻扑建郡，亦不得逞。谕旨派厚庵督办江西、皖南军务，大约系左帅奏请，亦因余屡奏责重事烦，分此仔肩也。

## 五月初三日

澄弟左右：

金陵之贼，援虽绝而粮实未断，沅弟焦灼之至而无可奈何。幸身体平安，面色甚好。江西之贼攻扑抚、建，两府俱得保全。鲍军自东坝起行，五月必可到江。又奉旨派杨厚庵督办江西、皖南军务，应可渐有起色。惟湖北之贼蹂躏过久，副都统舒保阵亡，系一马队名将，殊有关

系。严中丞以道员降补，义渠暂署鄂抚，不知能平此风波否。

## 五月初六日

沅弟左右：

来信具悉弟腹泄小愈。腹泄及不食油荤均不足介意，惟肝脾二家全仗老弟以心治之，非阿兄所能助谋，亦非良医所能为功，弟之天君即神医也。

江西宜黄、崇仁失守，省城吃紧，实出意外。金陵贼情常、丹克复与未克时有异乎？无异乎？

## 五月初十日

沅弟左右：

厚庵到皖，坚辞暂办一席。渠之赴江西与否，余不能代为主持。至于具折，则必须渠亲自陈奏，余断不能代辞。厚帅现拟在此办折，拜疏后仍回金陵水营。春霆、昌岐闻亦日内可到。春霆回籍之事，却不能不代为奏恳也。弟病近日少愈否？肝病余所深知，腹疼则不知何症。屡观朗山脉按，以扶脾为主，不求速效，余深以为然。然心肝两家之病，究以自养自医为主，非药物所能为力。今日偶过裱画店，见弟所写对联，光彩焕发，精力似甚完足。若能认真调养，不过焦灼，必可渐渐复元。

## 五月十二日

沅弟左右：

日内深以弟病为虑，接来信并与泽、鸿两儿信，字有精光，兼有静气，词语亦不迫促，卜病体之必将全愈，为之大慰。惟金陵持久不下，以吾弟平日之性情，恐肝气之病，愈积愈深。吾与昌岐久谈，知少荃于吾兄弟处实有相亲相卫之意，吾意欲奏请少荃亲带开花炮队、洋枪队前来金陵会剿。接弟此次复信，余即一面出奏，一面函咨少荃，请其迅速西来。如苏军齐到成功，则弟受其劳，而少荃享其名。既可以同膺懋赏，又可以暗培厚福。盖独享大名为折福之道，则与人分名即受福之道矣。如苏军虽到，而城贼仍坚持不下如故，则谤可稍分，而责亦稍轻。余昨日已咨少荃派炸炮至金陵会剿。细思弟之肝病，不宜再郁两月，而恤项亦断难支至三四月，故决计奏请少荃前来。苏军近亦仅支五成之饷，并非十分充足，可无贫富相耀之患，想弟能谅我苦衷也。

厚庵新授陕甘总督，可谓非常特恩，仍督办江西、皖南军务，断不



可辞矣。金陵水师防务，余请昌岐与弟会办。雪琴仍回裕溪等处，当不至疏失。多公仙逝，劳苦可悯。

## 五月十四日

澄弟左右：

杨军门放陕甘总督，仍督办江西、皖南军务。鲍春霆全军已至青阳，本月必至瑞州。瑞州、临江两府相隔仅九十里，由江西窜两湖，必由瑞、临经过。杨、鲍二人由瑞、临下手，所以援江西，即所以保两湖也。由江西犯湖南，约有三路：北由瑞、临犯平江、浏、醴，中由吉安犯茶陵，南由南赣犯郴、桂。现在三路俱有布置，吾乡应可安居。湖北之贼几犯汉口，幸为水所隔，不日必来皖北。金陵之贼坚抗如故。谕旨问少荃能亲赴会剿否，余拟即日奏请飭派少荃亲来会剿。速克则共乐其功，缓克则稍分其谤。沅弟外症虽好，而肝病已深，断不宜再久郁郁矣。

弟比余小十岁，何以白头遽已一半之多？以后总宜节劳，至癩至癩。余发仅白数茎，惟精神日衰，牙齿松疼。看来吾兄弟寿年均难及上三代，惟当加意保养。弟于诸昆中劳苦独甚，尤宜静养耳。

## 五月十五日

沅弟左右：

昨日寄信一件、咨文一件，拟请李少荃来金陵会剿，千思万想，皆为恐弟肝病日深起见。不请少荃来会剿，则恐贼城相持太久，倘细太甚，弟以郁而病深。请少荃来会剿，则二年之劳苦在弟，一旦之声名在人，又恐弟以激而病深。故展转踌躇，百思不决。此次将咨与函送弟处自决。弟之声名，即余之声名也；弟之性命，即余之性命也。二者比较，究以保重身体为大，弟自问身体足以久磨久炼，则余自放心矣。

## 五月十六日

沅弟左右：

接弟信，字秀劲而有静气，知弟病体大愈。因复一缄，商请少荃来金陵会剿。

细思，少荃会剿金陵，好处甚多，其不好处不过分占美名。后之论者曰：洵克鄂省，迪克九江，沅克安庆，少荃克苏州，季高克杭州，金陵一城沅与泉各克其半而已。此亦非甚坏之名也。何必全克而后为美名

哉！人又何必占天下之第一美名哉！如弟必不求助于人，迁延日久，肝愈燥，脾愈弱，必成内伤，兄弟二人皆将后悔，不如及今决计，不着痕迹。少泉将到之时，余亦必赶到金陵会剿也。

## 五月十七日

沅弟左右：

三日未接弟信，不知弟身体何如？不更加焦灼增疾否？余闻昌岐言弟精神充足、小恙无碍而放心，闻曾恒德、刘高山言弟病势不轻而悬念，见弟信字迹奇润而喜慰，见弟信言贼米日发一斤四两而忧灼。春霆过此，其于吾弟感激钦佩，迥异寻常。厚庵于弟亦契合无间言。故余与少荃一寄一信，惟愿弟之速送，又惟恐弟之竟送，反复无定，为弟所笑，亦必为弟所谅也。

今日命纪泽赴金陵省视老弟。余于六月初间亦必往，兄弟晤叙。届时少荃若到，余即在彼，不遽回皖。如少荃不到，余即坐轮船速归。总之，弟以保身为主，无论少荃与余会剿与否，于弟威名微减，而弟之才德品望毫无损也。

## 五月十九日

沅弟左右：

少荃意在助吾兄弟成功，而又不敢直言，其意可敬。弟复信盼他早来，甚是甚是。戈登今日来此晤谈，亦甚服弟之营垒坚固、号令严肃。吾观近日认真办事者，外间尚有公论。如弟元年初进金陵，远近谤有烦言，至二年浮言尽息，三年而众论翕服，从未闻有谤议入吾耳者。盖实见弟办事极有条理，军民之最近者心悦诚服，则远处之浮言亦无由而起。若亲者如杨如鲍，疏者如襄如戈，则尤极口赞叹。不知弟耳中别闻毁言否？如有所闻，亦望置之度外，照常治事，到底不懈。开花炮若不效，仍恃严断接济破之耳。

## 五月二十三日

沅弟左右：

内疾外症果愈几分？凡郁怒最易伤人。余有错处，弟尽可一一直说。人之忌我者，惟愿弟做错事，惟愿弟之不恭。人之忌弟者，惟愿兄做错事，惟愿兄之不友。弟看破此等物情，则知世路之艰险，而心愈抑畏，气反愈平和矣。

## 五月二十五日

沅弟左右：

接弟信，知地道又被斗穿三洞，实堪愤闷。然与其轰开而被贼以火球堵住，伤亡尤多，又不如被其掘穿，我之士气不大挫减也。弟须多方劝慰诸将无过忧郁。凡子弟生徒，平日懒惰，场文荒谬而不售者，则当督责之；至平日劳苦，场文极佳而不售者，则当奖慰之。弟所统诸将，皆劳苦佳文之生徒也。余中厅悬八本堂扁，跋云：养生以少恼怒为本，事亲以得欢心为本。弟久劳之軀，当极力求少恼怒。纪泽事叔如事父，当极力求得欢心也。

又闻江西之贼将由青阳、芜湖回救金陵。厚庵调湘后三营，兼金柱关之防，余极不放心。渠言当面商吾弟，果商及否？望弟加意慎重。陆防江西、潮州之援贼，水防江面之接济，只要此二事办得认真，金陵终有藏事之日，无以地道无成、苏军将至稍涉大意也。

## 六月初一日

沅弟左右：

苦攻无益，又以皖北空虚之故，心急如焚。我弟忧劳如此，何可再因上游之事，添出一番焦灼！上游之事，千妥万妥。

两岸之事，皆易收拾。弟积劳太久，用心太苦，不可再虑及他事。

弟以“博文约礼”奖泽儿，语太重大，然此儿纯是弟奖借而日进。记咸丰七年冬，胡帅寄余信，极赞三庵一琴之贤，时温弟在坐，告余曰：“沅弟实胜迪、希、厚、雪。”余比尚不深信。近见弟之围攻百数十里而毫无罅隙，欠饷数百万而毫无怨言，乃信温弟之誉有所试。然则弟之誉泽儿者，或亦有所试乎？余于家庭有一欣慰之端，闻妯娌及子侄辈和睦异常，有姜被同眠之风，爱敬兼至。此足卜家道之兴。然亦全赖老弟分家时布置妥善，乃克臻此。余俟江西案办妥乃赴金陵，弟千万莫过忧灼，至祷至囑。

## 六月初四日

沅弟左右：

连接两城，知又攻破地保伪城，吾弟焦灼情怀或为少纾。贼周城而呼援贼已到安徽云云，正是情急无聊者之所为。苏军如到溧水，弟速调

王可陞渡扎浦口，则城内众心绝望，必益大慌。此虽闲着，万万不可少也。李文合三营业已调之替守高淳，何能再调守无为州？鄂贼徘徊黄州，不似遽下事者。万一下窜，吴竹庄三营先到无为，周厚斋七营亦将继到，上游北岸之事，弟尽可放心，慎毋轻撤高淳之兵也。

## 全 日

澄弟左右：

震四果尔早逝，四妹适朱家，万缘皆空。吾骨肉中今年何多变也！老弟终日奔波劳苦，深为系念。

沅弟病亦愈，闻每日又骑行百余里。余命泽儿往看沅病，初二归来云“尽可放心”，但体亦弱矣。弟能从此少管公事，甚慰甚慰。余蒙先人余荫忝居高位，与诸弟及子侄谆谆慎守者但有二语，曰有福不可享尽，有势不可使尽而已。福不多享，故总以俭字为主，少用仆婢，少花钱，自然惜福矣；势不多使，则少管闲事，少断是非，无感者亦无怕者，自然悠久矣。

## 六月初九日

沅弟左右：

王绍羲、陈万胜阵亡，实深惋惜。地道一二处既穿，则它处亦断难奏效，不必时时焦急也。王可陞既不必调至浦口，则当至无为州听调。上游英、霍、宿、太湖日日告急，然亦闻惯而不惊也。余赴金陵之期，从弟之意暂缓起行，以少荃将到之日为定。弟以倔强之性，值久劳久郁之后，一见亲人，涕泣一场，大闹一场，皆意中所有之事。然为涕为闹，皆可以发摅积郁，皆可以暗调肝疾。会到在少荃之前四五日方为妥善，望弟届时先寄一信为要。寄谕虽催金陵迅速成功，然无甚苛责之辞，不过寻常因物付物之言，弟不可看得太深。较之昔催向、和之醉松话多矣，亦并无甚倾滴者。弟少见多怪，难禁风浪耳。

## 六月初十日

沅弟左右：

少荃信阅过，其片稿则已抄寄余处矣。观少荃屢次奏咨信函，似始终不欲来攻金陵。若深知弟军之千辛万苦，不欲分此垂成之功者。诚能如此存心，则过人远矣。

余从弟意，秋初再赴金陵。老年畏热异常，阿弟深知而体恤，兄即依弟之议，实受其福矣。英山、宿、太日内警信迭至。余调王可陞守无为，再急则调陈自明池州之二千人守庐江。惟调守桐、舒之铨军为江西官绅所留，拟改调恂军上援皖北，亦难遽到也。春霆于六月四日抵南昌，江西人心大定，想不至别有风波耳。

## 六月十一日

沅弟左右：

苏沪厘情一事劝警详明，深识名论，可慰可敬。弟近年于阿兄忿激之时，辄以嘉言劝阻；即弟自发忿激之际，亦常有发有收。以此卜弟之德器，不可限量，后福当亦不可限量。大抵任天下之大事以气，气之郁积于中者厚，故倔强之极，不能不流为忿激。以后吾兄弟动气之时，彼此互相劝诫，存其倔强，而去其忿激，斯可耳。

初十日接奉寄谕，词旨温润，无催迫之意，兹抄阅。将来咨文不另抄也。

## 六月十四日

澄弟左右：

科四之文，一种清气洋溢纸上，科六之字秀润绝伦，两侄今年长进如此，大可喜慰。

沅弟病已大愈，日来骑马周历各营，辛勤不辍，意气亦极平和。余偶有忿怒之事，沅反作书来劝。无论金陵克复之迟速，但求沅弟病痊而气平，则万事皆顺矣。

## 六月十六日

沅弟左右：

接弟信，知连日辛苦异常，猛攻数日，并未收队，深为惦念。弟向来誓攻，好往来于炮子如雨之中，此次想无二致也。少荃前奏至湖州一看，仍回苏州。此次启行，不知径来金陵乎？抑先至湖州乎？古来豪杰、吾家祖父教人，以懦弱无刚四字为大耻。故男儿自立，必须有倔强之气。惟数万人困于坚城之下，最易暗销锐气。弟能养数万人之刚气而久不销损，此是过人之处，更宜从此加功。

余启行之期，仍候第一确信也。

## 六月十九日

沅弟左右：

接弟咨文，克复金陵。弟功在社稷，岂仅一家之光哉！虽有志者事竟成，然弟苦矣，将士苦矣。未得弟详信，不知弟平安否？将士伤亡不甚多否？进城巷战不甚久否？洪、李二酋未逃出否？俟得详函发详折后，再赴金陵与弟相会也。

## 六月二十日

沅弟左右：

自十八夜三更接弟克复金陵之咨，十九日未得弟信。想因进城巷战，搜诛余匪，遣散降人，千头万绪，皆须弟一手经理，弟之劳苦想更甚于肉薄环攻之日。十九夜有自泰州来者，据云十八日戌刻坐轮舟过金陵，见城内火光二十余处，但知城已克，而不知如何情形。兄尤系念之至，恐巷战三日未休也。兄俟接弟详报后，乃能赴金陵与弟会晤。酌带赏号，大约不过三万，不知三日内别有进款否。

曾国藩家书卷之十

同治三年甲子岁

七月初四日

澄弟左右：

到金陵后曾寄一信，连日周览城内城外各处，见沅弟布置之详密，用心之劳苦，将士之用命，皆为近日所未见。伪忠王讯供未毕，拟即在此正法，不必解京，用陈玉成、石达开之例。余拟在金陵稍宴三日，七月中旬仍回安庆，中秋后再来办善后事也。沅弟精神业已复元，营中疾疫又作，新营较多，老营尚属平安。余虽极畏热，而日内应酬一切，亦不甚以为苦，弟可放心。

七月十四日

澄弟左右：

初十日接奉恩旨，余蒙封侯爵、太子太保，沅弟蒙封伯爵、太子少保，均赏双眼花翎。沅部李臣典子爵，萧孚泗男爵。殊恩异数，萃于一门。祖宗积累阴德，吾辈食此厚报，感激之余，弥增数悚。沅弟五六月来辛苦迥异寻常，近日湿毒十愈其七，初十、十一、十二等日戏酒宴客，每日百余席，沅应酬周到，不以为苦。谚称“人逢喜事精神爽”，其信然欤！

余拟于七月下旬回皖，九月再来金陵，十一月举行江南乡试。沅弟拟九十月回籍。各营应撤二万人，遣资尚无着也。

七月二十四日

澄弟左右：

前接排单信，知家中已得金陵克复之信，顷又接七月朔来缄。余以二十日自金陵起行，二十三日始行三百里至芜湖上之鲁港。将近八月，

舟中尚燥热异常。回皖小住一月，九月初仍须赴金陵，换出沅弟请假回籍。顷二十日奏片已将沅弟旋归之意略露端倪。沅弟热毒虽未全愈，而精神甚好，当是寿征。余亦幸托平安，惟眼蒙甚，不能不改用加光眼镜。弟畏热异常，亦是老境，但不知眼光如何？

春霆在抚州之许湾大获胜仗，杀贼四万有奇。厥后崇仁、东乡、金溪次第克复，听王率六万人投诚，江西指日当可肃清。惟湖北之贼尚难逮了耳。

## 七月二十九日

沅弟左右：

数日未寄信于弟，想弟悬念无已。余回省寓内外平安。弟撤勇之事，余必一一速办，除催李世忠及办厘下河之捐外，再札上海官绅办沪捐六十万，并加函托苏、常绅士，必有收获，弟可放心。昨得云仙信，已办六万径解弟营。弟之退志，兄应成全，兄之门面亦赖弟成全。第一要紧守金陵、芜湖、金柱三处，第二要分一支出剿广德，以塞众望。即令朱南桂与刘松山、易开俊三人进剿广德。而弟处分三枝，防宁郡、泾、旌，或亦一道，望弟早为酌定。倘兄之门面撑立不住，弟亦无颜久居山中矣。熊登武、张诗日、刘南云三人，弟万万不可放走。陈舫仙稍迟一步，明年再退可也。此外孰留孰散，听弟裁酌。

弟肝气不能平伏，深为可虑。究之弟何必郁郁？从古有大勋劳者，不过本身得一爵耳！

吾弟于国事家事，可谓有志必成，有谋必就，何郁郁之有？千万自玉自重。

## 八月初二日

沅弟左右：

弟肝气尚旺，遇有不称意之端必加恼怒，不知近日如何？实深虑系。天下之道，无感不应，无讹不伸。以吾心之且怜且敬，知外间必千里应之，亦必怜弟敬弟，万口同声。弟少耐数月以待之，而后知吾言之不谬也。吾所望于弟者三大端：一守金陵、芜、金，一皖南北两支游兵，一修贡院赶十一月乡试。三者皆办到，则弟为我挣得十分体面，而弟回家亦心安梦恬矣。



## 八月初四日

沅弟左右：

余在金陵二十日起行，至安庆，内外大小平安。门第太盛，余教儿女辈惟以勤俭谦三字为主。自安庆以至金陵，沿江六百里大小城隘皆沅弟所攻取。余之幸得大名高爵，皆沅弟之所赠送也，皆高曾祖父之所留貽也。余欲上不愧先人，下不愧沅弟，惟以力教家中勤俭为主。余于俭字做到六七分，勤字则尚无五分工夫。弟与沅弟于勤字做到六七分，俭字则尚欠工夫。以后各勉其所长，各戒其所短。弟每用一钱，均须三思。至嘱。

## 八月初五日

沅弟左右：

贡院九月可以毕工，大慰大慰。但规模不可狭小，工程不可草率。吾辈办事，动作百年之想。此间所购木料，中秋前可到一批，九月再到一批。

弟中怀抑郁，余所深知。究竟弟所成就者，业已卓然不朽。古人称立德、立功、立言为三不朽。立德最难，自周、汉以后，罕见以德传者。立功如萧、曹、房、杜、郭、李、韩、岳，立言如马、班、韩、欧、李、杜、苏、黄，古今曾有几入？吾辈所可勉者，但求尽吾心力之所能及，而不必遽希千古万难攀跻之人。弟每取立言之中，万难攀跻者，而将立功中之稍次者一概抹杀，是孟子钩金舆羽，食重礼轻之说也。乌乎可哉？不若就现有之功，而加之以读书养气，小心大度，以求德亦日进，言亦日醇。譬如筑室，弟之立功已有绝大基址，绝好结构，以后但加装修工夫。何必汲汲皇皇，茫若无主乎？刘、朱两军，望弟迅速发展。必须安庆六县无贼，兄乃可速赴金陵。至要至要。

## 八月初九

沅弟左右：

保举单收到，准于十二日出奏，一字皆不更动。其千总蓝翎可奏可咨者，现虽未定果奏，然要之不改耳。潮郡、广德既克，皖南自可不派游兵，刘、朱、朱皆来皖北甚好，惟苦无行粮。江西盐厘七万金在途为风所阻，焦灼之至。萧为则七营，吾意仍以遵徽为是。

秋纲早开，业经批准。里下河之捐，余只索二十万，盖深知彼间捐事有名无实也。

弟肝气未痊，全靠自己以心医之。弟若不知自爱，懊怒不已，剥丧元气，则真太愚矣。祁幼章方伯宿藁与余同年，其尸葬金陵城中，闻春浦先生派二仆来寻，望弟善视之。陆、涂诸公之尸，余虽有札与上、江两县，均望弟留心寻觅也。

## 八月十四日

沅弟左右：

沅弟湿毒与肝郁二者总未痊愈。湿毒因太劳之故，肝疾则沅心太高之故。立此大功，成此大名，而独怀郁郁，天下何一乃为快意之事？何年乃是快意之时哉？余于本月为代具请假折，九月再奏请开缺，十月当可成行。余之精神日疲，亦难当此重任，然目下不能遽行引退，且待沅弟退后再作计议。

近日家中内外大小，勤俭二字做得几分？门第太盛，非此二字断难久支，务望慎之。

## 八月二十日

沅弟左右：

今日乃弟四十一大庆，吾未得在金陵举樽相祝，遂在皖作寿诗，将写小屏幅带至金陵，以将微意。一则以纪泽寿文不甚惬意，一则以近来接各贺信，皆称吾兄弟为古今仅见。若非弟之九年苦战，吾何能享此大名？故略采众人所颂者，以为祝诗也。东坡有寿子由诗三首，吾当过之耳。

## 八月二十四日

沅弟左右：

沅弟之肝疾未平，湿毒更炽，克城封爵之后而郁抑之气并未稍减。余在金陵住二十余日，察沅心怀似稍开豁，病亦日减。近与余相隔二十余日，情复郁结，疾亦略增。余定于初一起程，再赴金陵，家眷同去，并具折为沅弟告病开缺回籍调理。沅兄归期已近，或可速痊。然起行总在十月，但能归家过年，不能赶十一月初三也。

吾家子侄，人人须以勤俭二字自勉，庶几长保盛美。观《汉书·霍

光传》，而知大家所以速败之故。观金日磾、张安世二传，解示后辈可也。

## 八月二十六日

沅弟左右：

弟疾日减，周旋众客，精神照应得到，至以为慰。曾恒德等今日自京归。温、恒两弟又奉恩命，兹将谕旨抄寄弟阅。朝廷待忠勋之家有加无已，但愿吾家丁口日繁，子弟读书勤俭稍有成立，则弟之功所以垂裕后昆者远矣。

## 九月十四日

澄弟左右：

余于初一日自安庆起行，初七日到金陵，初十日入署，内外平安之至。沅弟湿毒未愈，而精神尚极充足。肝疾虽深，而亦尚能自持，不至遽损真元。惟夜睡多不成寐，不知何日始得全愈。初十日奉到谕旨，准其开缺回籍调理，愿赏人参六两。大约九月底十月初可以起行，十一月初三日或可到家赶上祭期也。

## 九月二十四日

澄弟左右：

弟为送考两次晋省，实觉过于勤劳，兄闻之深抱不安。且弟于家庭骨肉之间劳心劳力已历三十余年，今年力渐老，亦宜自知爱惜保养，不特为家庭之际，不可过劳也。

吾人金陵署中已半月，大小平安，隔日至沅弟处看病。劝沅不必吃药敷药，此等皮肤之疾，终可不治自愈。惟夜不成寐，却是要紧之症，须用养心和平之法医之。褚一帆事，不能请谥。盐局之事，全依次帅与黄、郭之言，断不掣肘。

## 十月初五日

澄弟左右：

初一日，沅弟起程旋湘，吾送百里至采石矶。初四早，兄弟分手，吾于本日即还金陵，令纪泽送至芜湖以上矣。初五日已刻，纪鸿与叶亭

缚到金陵署内，不知何以与沅船相左，不得一谒见也？

余身体平安，惟诸事丛集，撤勇极多，欠饷难清，尚费周章耳。

## 十一月十四日

澄、沅弟左右：

接澄弟十月初九日一函、沅弟在汉口发信，具悉一切。

沅弟病势十愈六七，欣慰无已。余近日心绪多不适：一则前有楚北之行，深虑各营欠饷无着；一则自上游来者，皆言沅弟病体增重；一则科场雨雪交加，严寒侵人，而萧、梁等约期之饷尚无着落。兹余既免湖北之行，而沅弟之病大愈，寸心帖然无忧。至幸至幸。乡试虽风雪苦寒，而头二场清吉平安。少荃感寒颇重，二、三场未能点名。若迅速就痊，则科场完美矣。甲五侄又生一女，望从此三女之后继以三男。科四完婚后，吾三家桐孙秀发，瓜瓞绵绵。斯为至祝。

## 十一月二十四日

澄、沅弟左右：

科九、鼎三两侄字姿俱好。鼎三善读书，大慰大慰。温弟蘧奇未发，将来其食报于此子乎？

余于十七日仍接督篆，少泉中丞之病已十愈其六，余今日进闱看视，尚有余热未净。澄弟谓城中住扎万人太多，所论极是。然昨日科场士子万余在城，与兵勇并无半点口舌。沅弟与余约定，苟有银钱，即随时裁撤。今冬纵不能撤，明春必遣撤也。

盐务日有起色。目下淮南之盐以泰州河涸不能出江为苦，淮北之盐以洪泽湖冻不能运淮为苦，新春当大旺矣。

## 十二月十六日

澄、沅弟左右：

腊月初六日接沅弟信，知已平安到家，慰幸无已。少荃于初六日起行，已抵苏州。余于十四日入闱写榜，是夜二更发榜，正榜二百七十三，副榜四十八。闱墨极好，为三十年来所未有。温斋先生与副主考亦极得意，士子欢欣传诵。温师定于二十六日起程，平景孙编修奏请便道回浙。此间公私送程仪约各三千有奇。各营挑浚秦淮河，已浚十分之六，约年内可以竣事。

澄弟所劝大臣大儒致身之道，敬悉敬悉。惟目下精神实不如从前耳。

《鸣原堂论文》抄东坡万言书，弟阅之。尚有不能解者，宜写信来问。弟每次问几条，余每次批几条，兄弟论文于三千里外，亦不减对床风雨之乐。弟以不能文为此生缺憾，宜称此家居时苦学二三年，不可抛荒片刻也

## 同治四年乙丑岁

正月十四日

沅弟左右：

前奉枋南云赴豫之旨，殊难筹画，少荃亦以刘铭传赴豫为难。此次渝旨概免中州之行，以后诸事皆易措置。惟春霆须速赴新疆，刘铭传赴闽归左帅调度，尚非二将所愿耳。

弟病近日大愈否？疮癣皆皮肤之疾，决无损于元气，切不可轻用克伐之剂，谓之无罪攻伐。吾观弟在途所寄篋轩之对、眉生之屏，皆圆湛秀劲，其福泽必方兴未艾。槐斋先生谓京中言及弟者，贤愚皆俯首无异辞。弟若无端而郁恼，是与无罪而攻伐同一失也。

余近事极顺，弟可放心。愿兄弟常诵《常棣》、《小宛》二诗以自保耳。

正月二十四日

沅弟左右：

弟信言寄文每月以六篇为率，余意每月三次，每次未滿千字者则二篇，千字以上者则止一篇。选文之法，古人选三之二，本朝人选三之一，不知果当弟意否？

弟此时讲求奏议尚不为迟，不必过于懊悔。天下督抚二十余人，其奏疏有过弟者，有鲁卫者，有不及弟者。弟此时用功不求太猛，但求有恒。以弟攻金陵坚苦之力，用之他事，又何事不可为乎？

## 正月三十日

澄、沅弟左右：

陈舫仙放陕西臬司，兹将伤知排递长沙转送。请沅弟专送陈家，并囑舫仙迅速屏当，由家赴鄂，由鄂坐轮船来金陵，拜发谢恩折。折内照例声明迎折北上，进京请训。如谕旨令即赴新任，无庸来京，则舫仙仍坐轮船回鄂，由襄阳赴陕履任。如谕旨着令来京，则或即从金陵北上，或回鄂由樊城北上，均无不可。请沅弟与舫仙商定一切，先行排递函复。或仿照江达川元年之例，谢恩折件请意城代办，附恽中丞奏事之便具奏。俟奉到批旨，如进京，则坐轮船由金陵北上，亦属妥协。二者似后一策更为易行，以达川有样子可循也。

## 二月初五日

澄、沅弟左右：

少荃派郭松林等带八千人由轮船赴闽助剿，二月杪可以成行。待、康二逆在闽，其焰尚张，将来必为江西楚粤之祸。吾乡近日风气人情，两弟细察之，不至更遭浩劫否？若沅弟仓卒用兵，足以捍桑梓之难否？次山中丞被查之事，不至去位否？环顾各省疆吏，殊乏满意之选，不审天意竟复何如。

金陵已撤八营，截至正月末止。将来拟再撤八营，留四千人守城。朱云岩定于五月遣撤，余亦次第撤散。

余身体无恙，惟心血日亏，目光不耐久视。

## 三月初四日

澄、沅弟左右：

初二日接奉寄谕，伤沅弟迅速进京陛见。兹用排单恭录谕旨咨至弟处。上年十二月，樞斋先生力言京师士大夫于沅弟毫无闲言，余即知不久必有谕旨征召，特不料如是之速。余拟于日内复奏一次，官弟所患夜不成寐之病尚未痊愈，赶紧调理，一俟稍痊，即行进京；一面函商臣弟国荃，令将病状详细陈明云云。沅弟奉旨后，望作一折寄至金陵，附余发折之便复奏。

余意不寐屡醒之症总由元、二两年用心太过，肝家亦暗暗受伤。必须在家静养一年，或可奏效，明春再行出山，方为妥善。若此后再有谕

旨来催，亦须稍能成寐，乃可应诏急出。不审两弟之意以为何如？

筱荃来抚吾湘，诸事尚不至大有更张。惟次山以微罪去官，令人悵悵。沅弟前函有长沙之行，想正值移官换羽之际，难为情也。

### 三月初七日

澄、沅弟左右：

金陵昭忠祠纪将士劳苦之碑，沅不肯稍编节略，其名似谦，其实懒耳。

弟以不能文为深耻，无以征仲体弱，过于自恕自逸。如元年八九月雨花台之役，弟昼夜不眠至五十余日之久。三年四、五、六月，弟忧劳更甚，为日更久。岂当时体气忽健，异于生平哉？因众人蔑视沅浦非能克金陵之人，发愤欲一雪其耻而伸其志，故忘其为积弱之軀也。目下用力于奏议文章，亦当稍存昔年拼命之意。不过一二年，谕旨必屡催出山。一经履任治事，诸务冗杂，欲再专力于文章，则不能矣。

### 三月十八日

沅浦弟左右：

十七日接奉三月初八日寄谕，首行军机大臣之上少议政王三字，殊堪大詫。以前无不有此三字者，虽恭王病假之时，亦尚有之。三月初六日寄谕亦尚有之，若非生死大变，则必斥逐，不与闻枢密大政矣。此事关系绝大，不胜悚惧。

顷又闻河南之贼窜至山东单县、汶上，僧邸亦追至汶上。汶上去山东省城仅二百余里，去直隶境亦二百余里，深为可虑。

有识之士与相爱之友多劝弟暂缓出山。余意亦欲弟久养病軀，闭户三年，再行出膺艰巨。若各路不靖，则恐又有征召之旨。弟身体未痊，总宜再三斟酌。如有复奏之疏，专人至鄂，搭洋船至金陵，由余代递，最为妥叶，免致兄弟辞意两歧也。

### 四月十五日

澄、沅弟左右：

山东回军之捻尚在江南徐、宿一带，调淮勇二千余人驻扬州，三千余人驻清江，并昌歧水师百余船，均到防矣。刘铭传等万余人自六安赴徐州，尚未到防。大致足御寇氛。惟霆军八千人在湖北金口登岸，不听

号令，各持军器洋枪成队南行，不知果叛逆乎？抑仅溃散已乎？此事关系极大，殊深焦灼。此军若溃，则厚庵一军亦属可虑。

厚庵奏分六省厘金，万做不到，徒托空言。其奏改西征局，不能不妥为调停。

## 四月二十四日

澄、沅弟左右：

接两弟信并渠侄夫妇安禀，欣悉。新妇有和顺载福之象，从此和室宜男，家庆绵长，企慰无似。纪鸿儿于四月二十一日完婚，外间即无一客。衡门办喜事，似较家乡稍简易也。

沅弟寄到折稿，当略为修饰，日内拜发。陈舫仙、朱心樵到此陈谢恩折，亦于日内附报发去。魏柳南自京师归，亦恰至此。凡从弟当差者，无不思明谊美，将来出任，当能束躬自爱。

弟病以怔忡不寐为最要之症，外毒及善忘多感伤皆不甚要紧。开卷心疼，总由于心肝血亏之故。治之之道，非药力所能遽效，自以不看书不用心为良方。

余因闻霆营之变，近日毫无欢悰。又接两弟信，梁葆颐在衡既不相宜，余即批令归湖南酌委署事，不复与闻盐务耳。

## 五月初五日

澄、沅弟左右：

日内未接弟信，想家中各宅平安。

余于初二日接奉廷寄，飭余出省督师剿贼，尚未开江督之缺，不过驻江南境内。初三日接奉廷寄，则僧邸在郢城阵亡，飭余赴山东督剿，以李少荃署江督，刘松山护苏抚。现约少荃于月半后来宁，余于月底起行。金陵之八千人，现札令愿随征者，自告奋勇，愿撤散者，遣发回籍，各营自行具禀。或北征，或西归，拟令同日起行。但留一营护卫衡署，暂不搬动。家眷应否回湘，秋凉再作计较。

淮勇现有刘铭传等万余人在徐州，张树声三千五百在清江，余拟带此万四千人赴东，此外又调寿春镇易开俊三千人以行。金陵之告奋勇者，无论多少，皆与易同打一路。此外，令申甫至山东就地新募马勇数百。合计二万余人，当足以御寇氛。

沅弟复奏之折业已拜发，兹将原稿寄回。



## 五月十五日

澄、沅弟左右：

余自初三日奉到北征山东之命，厥后屡奉寄谕严催。金陵十六营勇丁，人人思归。直至初八日始议定张诗日带仁字一营随征，又新招峻字一营，罗茂堂招晋字、豫字两营，朱星樞招星字左、右两营，合成三千人。初九日飞檄刘松山来金陵。顷已来此商定，渠带三千人随征。又易开俊专弁稟告奋勇，亦经批准。渠所部亦三千人。通共带湘勇九千人，淮勇二万二千人，除刘铭传、周盛波、张树声外，又添派潘鼎新五千人，由轮舟赴天津也。步兵已厚，只须添练马队。若赋不渡黄，剿办尚不甚难；一渡黄，则手脚忙乱，万目悬望，万口讥议，余实应接不暇，难乎其免于大戾矣。

寄谕中两次催沅弟出山任事。昨奉批旨，亦催弟进京。沅弟曾为封疆大吏，又系立功受爵之臣，札数稍优，自不必轻于一出；况病势尚重，万难遽膺艰巨。筱荃中丞录旨宣示，到家时，不知弟曾呈请筱荃代为复奏否？

余待少荃来宁接篆，十五营开船西归后，定于二十五日起程。此后相去愈远，不能再用专差送信，但每月三次家信，由驿递至筱荃转交而已。

## 五月二十五日

澄、沅弟左右：

纪瑞侄得取县案首，喜慰无已。吾不望代代得富贵，但愿代代有秀才。秀才者，读书之种子也，世家之招牌也，礼义之旗帜也。淳嘱瑞侄从此奋勉加功，为人学与为学并进，切戒骄奢二字，则家中风气日厚，而诸子侄争相濯磨矣。

吾自奉督办山东军务之命，初九、十三日两折皆已寄弟阅看。兹将两次批谕抄函。吾于二十五日启行登舟，在河下停泊三日，待遣回之十五营一概开行，带去之六营一概拔队，然后解维长行。茂堂不愿久在北路，拟至徐州度暑后，九月间，准茂堂还湘。勇丁有不愿留徐者，亦听随茂堂归。总使吉中全军人人荣归，可去可来，无半句闲话惹人谈论，沅弟千万放心。

余舌尖塞涩，不能多说话，诸事不甚耐烦，幸饮食如常耳。沅弟湿毒未减，悬系之至。药物断难奏效，总以能养能睡为妙。

闰五月二十四日 洪泽湖东口

澄、沅弟左右：

罗茂堂与张朱等六营、刘松山六营先后赴临淮。临淮距清江四百二十里，距金陵四百六十里，距安庆六百六十里，以后仍可专人由安庆送信到家。

雒河集营盘被发捻围困，英方伯冲出后，诸将尚坚守无恙，然亦岌岌难久保矣。易开俊扎西洋集，距雒河五十里，遁以目疾出营，轻赴徐州，不能不予以严参。徽、休、青阳三军闹饷，情同叛逆，不知近日安戢否，实深忧系。沅弟屢念金陵各军悉宜早撤，良有卓见。今金陵之营，仅存刘、朱、朱三军尚在瑞、临，每月由江西盐局发给满饷，不知有它变否？望就近体察，商之小荃中丞办理。

兄身体平安，惟不能耐劳苦。捻贼已成流寇，斯难收拾，余亦做一日算一日而已。

六月初五日

澄、沅弟左右：

沅弟病虽愈，而尚黄瘦，实深悬系。建非常之功勋，而疑谤交集，虽贤哲处此，亦不免于抑郁牢骚。然盖世之事业既已成就，寸心究可自怡而自慰，悠悠疑忌之来，只堪付之一笑。但祝积年之劳伤湿毒，日渐轻减，则正气日旺，固可排遣一切耳。

枋仙知沅颇深，感恩尤切。每言沅公精神极好，后来勋业方长，区区小病，不足为虑。余闻之常为一慰。李季荃与枋仙亲如骨肉，言其功劳极大，牢骚甚深，而病颇可虑。余观季荃虽瘦削异常，而精神尚足，当无他虑。

兄抵临淮，罗、张、朱六营于初二日到，刘松山亦到。雒河集之围危急如故。刘铭传一军日间可到，不知能解围否。若果解围，则西窜河南、湖北，恐不出沅弟所料；若各路重兵齐到，而卒不能解围，则中原糜烂矣。余身体尚好，惟朱、唐、金三军闹饷，处置宽严皆有不宣，寸心忧灼。蒙、毫、宿、颍一带人心甚坏，亲近捻匪，仇视官兵，亦久乱之气象也。

## 六月十五日 临淮

澄、沅弟左右：

日来淮水涨发，罗、朱、张六营，刘松山六营及陈自明之四营皆在水可淹人之处，营之周围筑堤御水，若不幸而堤穿，则垒中有人水二三尺者，有人水四五尺者。不得已，今日用船渡至南岸，大约五六日乃可渡毕，然使再涨水一丈，则百里内几无一可驻之处，又无草柴可觅，然后知临淮之苦，为他处所未有也。

雒河集已于初三日解围，贼踪西窜，尚无确信。大约河南之南、汝、光，湖北之德、黄、襄皆当其冲。此贼已成流寇行径，殊难收拾。吾所用淮勇诸将，自以刘铭传为首选，然其心志是否翕服，尚未深知。又有一骁将陈国瑞，桀傲难驯。昨发去一批，抄寄弟阅。

## 六月二十四日

澄、沅弟左右：

接两弟闰五月信，知沅弟又复大病。久劳久病之躯，又多服攻伐之剂，殊为悬虑。

次日接奉六月十八日寄谕，沅弟已拜山西巡抚之命。既感天恩高厚，不为浮言所摇，予以最称完善富庶之区，又虞沅体尚未复元，恐不宜遽出任此劳勋。计湘乡奉到谕旨，不过七月。沅病若已大愈，应诏赴晋，则七月初旬当具折谢恩，自请进京陛见，再履新任；若尚未全愈，稍为调养，再行北上，计拜折之期，不及待兄此次之信耳。

山西号称富国。然年来京饷，全以该省为大宗，厘金尚未办动，人款较道光年间不见增多，出款则较昔日增。去京极近，银钱丝毫皆户部所深知。沅弟有手笔太靡之名，既为安静省分督抚，则正杂各款不能不谨慎节俭，丝丝入扣。

外间拟弟再出，当系军务棘手之处。此时山西虽无寇警，而圣意虑擒匪入晋，逼近畿辅。弟到任，似宜多带得力将官，勇丁则就近在晋招募。南人不惯面食，晋中尤无稻米可买，不似直东，尚可由大海及运河设法也。弟进京，可由安庆登陆，至徐州与兄相会，曹论一切。

闻钦差至山西，实系至陕查办霞仙之事。一波未平，一波复起，宦海真可畏耳。

## 七月二十五日

澄、沅弟左右：

接弟信，沅弟定辞山西巡抚之任。以弟之荣利泊如、尘视轩冕，可喜可敬，观弟之病势未减，反可虑也。

究竟弟病状比在金陵时痊愈几分，不能构思。则兄于八年春，数月不眠，奄奄欲尽，厥后六月再出，愤发自励，不过半年，精神大振。弟目下之病似尚不如余八年之甚，惟小便太多，殊为可虞。宗气动摇，是何症象？下次详以告我。此次纵或恩准开缺，而数月之内，恐不免再有征召。兄因相隔太远，奏疏中只能作活笔，不敢太说呆了。余在外太久，精力日惫，已与少荃订约，决不回江督之任。捻事亦茫无头绪，惟因所部各军尚有少半未撤，不能遽尔引退。惟望弟振刷精神再出，则吾担轻矣。

## 八月初六日

澄、沅弟左右：

八月初四日抵徐州府，接沅弟七月两缄并折稿二件。前颇以弟病甚深为虑，得此二缄，益为放心。年仅四十二岁，即再养二年，报国之日方长。此次固辞恩命，能认真调养年余，于保身之道、出处之节，均属斟酌妥善。特恐朝命敦促，不容久住林下耳。二折措辞均极得体。养病之期，总以养到自己能用心作奏时再行出山。接舫仙及各处信件，似前此谣诼之辞业已涣然冰释，尽可安心静摄。刘、朱撤营之早迟，金、唐各营之变否，余当细心料理，弟可概置不问。

余决计不回江督之任，拟于九月间将全眷送回家乡。郭宅姻事，拟于十二月初二日在湘阴成礼。顷有与泽儿一信，抄寄弟阅。

## 八月二十五日

澄、沅两弟左右：

朱金权来徐，言我五家昆弟之和协，后辈子侄之贤良，闻之令人心怡神旺。

兄自出金陵后，公事较简，气体较健，惟捻匪劲骑万余，飘忽难制。昨任柱、牛洪等股，十三、十五等日在周家口附近为刘铭传一军所败。不过五日，即已窜至山东之曹、单等县，每日行百四五十里。余所

接僧邸马队，皆人疲马乏，屢挫之后心惊胆寒，何能破此悍贼！殊为焦灼。

接纪泽信，家眷不愿仍住黄金堂，拟即在长沙小住。余以长沙繁荣，不如暂留金陵数月。令纪泽先回湘乡稟商两弟，觅一妥屋，修葺就绪，再缄告金陵，全眷回籍，庶几有条不紊。请两弟先为筹度一处，以不须新造者为妙。纪泽今冬先归，全眷须明年也。

沅弟请开缺一疏，此间尚未奉到谕旨。震仙得降调处分。其辨诬一疏，不愧名作，不料竟以获咎，可慨耳！

## 九月十六日

澄、沅弟左右：

闻邸抄，弟仍未开晋抚之缺，赏假六个月，在籍调理。明年二三月间体气复元，或可赴山西。如精神尚难任事，届时再行疏陈，目下则须具折谢恩。不开缺而在籍养病，亦旷典也。

贼窜山东后，蹂躏于曹州各属。徐州派去之兵六千人，日内当可接仗。顷奉寄谕，欲以李少荃视师河、洛，而吴仲仙署理两江。垂询当否，复奏颇难措辞。李不在两江，则余之饷无着矣。

## 九月二十五日

澄、沅弟左右：

十日内未接两弟信。徐州去湘太远，营勇送信者均难如期往返。风闻沅弟近已留须，多而且美，不特不似病人，并加丰腴。果否？

贼在徐郡百里内外沛县等处。徐州仅有吉中八营，系今夏新招者，忠朴四营，系兼胜营旧部，只堪坚守，不能出战。调山东之兵回援，三日内必可赶到。江南另调八千人来徐，五日内亦可续到。兵到则贼又他窜，恐未必能一痛剿也。少荃入洛一案，已于十九日复奏。金、唐两饷一案，已在徽正法二十余人，并解营官数人来徐，当可了结，不致决裂。惟与朱云岩三军同时遣撤，须欠饷七八十万，恐难应手耳。

接云仙信，婚事改期明年。纪泽今冬尚不可回，明岁再送全眷回湘。移屋之事，即求两弟代为料理。纪泽虽先归，渠亦不善经理，须全稟叔父命也。

## 十月初五日

澄、沅弟左右：

复奏少荃不宜入洛、李丁不宜遽跻封疆一疏奉旨留中，并无寄谕，颇不可解。

东抚阎丹初与此间水乳交融，豫抚吴少村多所牴牾。吾以位望太隆，从不肯参劾邻封疆吏，故河南公事，不甚顺手。若少荃长任两江，恂事不至掣肘。吾将于撤朱、唐、金军后，接撤刘、朱二军，腾出六军之餉概养淮军，专办捻匪，或可有济。若少荃不在两江，军情断难应手，吾不能不引疾告退。月内当有明降谕旨也。

《张文瑞公家训》一本，寄交纪渠侄省览。渠侄恭敬谦和，德性大进，朱金权亦盛称之。将来后辈八人，每人各给一本，又给沅弟所刊《庭训格言》一本，又以星冈公书蔬鱼猪早扫考宝八字教之，一门之风气自盛矣。

## 十月十五日

澄、沅弟左右：

吾以淮军分布济宁、徐州、归德、周家口等处，此次捻匪东窜，处处被我军拦头痛击，若自投罗网者然。从此或不敢肆意流窜，恐将为湖北之害耳。

沅弟已具折谢恩否？如身体果未全好，明年二月再行辞谢，尚不为迟，目下则不宜疏辞。以朝廷之仁厚，凡任事之臣，当可善始善终。两弟悉心酌之。

《鸣原堂论文》已抄若干篇？此间无底稿可查，请弟抄一目录寄来，拟再继续数十篇以成完编。或取佳文，或取伟人，总期足以感发兴起耳。

## 十月二十五日

澄、沅弟左右：

衡、永、宝三府改食粤引，澄弟所陈，本系便民之举。然盐法不便民者极多，如瓜洲系淮盐出产之区，然对岸之镇江府仅隔八里，例食浙引，不准食淮引，不便孰甚焉？盖处处求便于民，则近者只食三四文之盐，而远者虽出钱一二百而尚无盐可买，故不能不画配引地以销货，均

匀贵贱以裕课也。吾今不为江督，不复与闻盐政，遂不言衡、永、宝之事矣。

米捐保奖，俟有保案即当附奏。吾经手事件，拟一一清理完竣。朱、唐、金三军现均遣撤将半。三军遣竣，即遣撤刘、朱、朱三军。至明年夏，遣王可陞一军，则大致粗了矣。

## 十一月初五日

澄、沅弟左右：

近一旬中军务并无一事。贼在河南南阳一带，吴少村中丞沥陈河南万难情形，其语颇侵伤余处。震仙仍为陕抚，不失旧物。此近数十年未见之事，朱石翘之技俩始终不得一逞耳。

余定以李幼荃、刘省三两军为游击之师，而徐、济、归德、临淮、周家口等处仍旧驻防不动。驻防者，以备拦头要截；游击者，以备跟踪尾追。余亦于新年移驻周家口。沅弟若决计出山，则弟汉口坐轿至周家口，早路不过八天。

余上次所商之信，言以以腊底之信为定，两弟想必能熟商妥策矣。

## 十一月十六日

澄、沅弟左右：

余经手事件，只有长江水师应撤者尚未撤、应改为额兵者尚未改暨报销二者未了而已。今冬必将水师章程出奏，并在安庆设局办理报销。诸事清妥，则余兄弟或出或处，或进或退，绰有余裕。

近四年，每年寄银少许与亲属三党，今年仍循此例。惟徐州距家太远，男丁不能携带，因写信与南坡，请其在盐局兑汇，余将来在扬州归款。请两弟照单封好，用红纸签写菲仪等字，年内分送。千里寄此毫毛，礼文不可不敬也。

## 十二月初六日

澄、沅弟左右：

本房连添二丁，尚有梦熊者五人，深为喜慰。星冈公之后，想亦必瓜瓞繁衍。吾近岁纯是老人情怀，专盼家中多添幼孩也。

鼎三体不甚弱，尤为欣慰。凡后天以脾为主。脾以谷气为本，以有信为用。望两弟常告鼎三，每日多吃饭粥，少吃杂物；无论正餐及点

心，守定一个时辰，日日不差；若有小小病症，坚守星冈公之教，不轻服药。至要至要。

富托本算一等屋场，弟若肯代为收拾，必是第一等妥当。乃必待纪泽母子到家看定再行修葺，且令先在大夫第小住，实属情文周至。手足至亲，不复言谢。

进退大吏伤易，余亦深以为虑。然少荃不果赴洛，震仙不果去位，朝廷择善而从，不肯坚执自用，即恭邸大被亦不久即平，是非究不颠倒。沅弟自以再出为是，下次再详论。

## 十二月十五日

澄、沅弟左右：

近日贼情，张总愚一股尚在南阳，赖汶光、任柱等股尚在光州、固始一带。闻京师之东北、山海关外、奉天等处马贼猖獗，派文尚书、福将军剿办，尚未得手。新授徐海道张树声为直隶臬司。圣意盖欲多调淮勇北卫畿辅，局势又当少变矣。

沅弟出处大计，余前屢次言及，谓腊月乃有准信。近来熟思审处，劝弟出山不过十分之三四，劝弟潜藏竟居十分之六七。

部中新例甚多。余处如金陵续保之案、皖南肃清保案全行议驳，其余小事动遭驳结；而言路于任事有功之臣，责备甚苛，措辞甚厉，令人寒心。军事一波未平，一波复起，头绪繁多。

西北各省饷项固絀，转运尤艰。处山西完善之区，则银钱分文皆须入奏，难以放手办事。若改调凋残之省，则行剥民敛怨之政，犹恐无济于事。去年三四月间，吾兄弟正方万分难窘，户部犹将江西厘金拨去，金陵围师几将决裂。共事诸公易致齟齬，稍露声色，群讥以为恃功骄蹇。为出山之计，实恐愠气时多，适意时少。若为潜藏之计，亦有须熟筹者。大凡才大之人，每不甘于岑寂，如孔翠洒屏，好自耀其文彩。林文忠晚年在家，好与大吏议论时政，以致与刘玉坡制军不合，复思出山。近徐松龛中丞地方官不合，复行出山。二人皆有过人之才，又为本籍之官所挤，故不愿久居林下。沅弟虽积劳已久，而才调实未能尽展其长，恐难久甘枯寂。目下李筱荃中丞相待甚好，将来设与地方官不能水乳交融，难保不静极思动，潜久思飞。

以余饱阅世变、默察时局，则劝沅行者四分，劝沅藏者六分。以久藏之不易，则此事须由沅内断于心，自为主持。兄与澄不克全为代谋也。余前所谓腊月再有确信者大率如此，下二次更当申明之。



十二月二十五日

澄、沅弟左右：

捻匪全入湖北，任、赖、牛、李等股与成大吉之叛卒勾结在黄、孝、罗、麻一带，张总愚亦在襄、樊一带。余调刘铭传九千人由周家口驰援黄州，不知赶得及否。闻关东之骑马贼甚为猖獗，刘印渠带兵至山海关防堵。广东一股亦不易了。

天下纷纷，沅弟断不能久安，与其将来事变相迫，仓卒出山，不如此次仰体圣意，假满即出。余十五之信，四分劝行，六分劝藏，细思仍是未妥。不如兄弟尽力王事，各怀鞠躬尽瘁死而后已之志，终不失为上策。沅信于毁誉祸福置之度外，此是根本第一层工夫。此处有定力，到处皆坦途矣。

同治五年丙寅岁

正月初六日

澄、沅弟左右：

近日未接来信，想各宅平安，新岁内外多祐为慰。

任、赖、牛、李等酋全萃湖北黄、孝、黄、麻等处，余调刘省三全军九千人援鄂。成武臣之叛卒，闻官相以二十万金抚之，业经招集七营。官相并未将叛变情形入奏，但言拔营索饷，适为捻所乘，挫退而已。湖北军政多出于閹人、仆隶及委员之嗜利者，奏牍则一味欺蒙，深为可叹。以各省用事之人言之，军事将见日坏，断无日有转机之理。沅弟假满出山，与各邻省督抚共事，亦必齟齬者多，水乳者少。然吾兄弟受厚恩，享大名，终不能退藏避事，亦惟循前信所言，置祸福毁誉于度外，坦然做去，行法俟命而已。

## 正月十五日

沅弟左右：

沅弟出处大计，余腊月十五日信六分劝藏，四分劝行，而以久藏之不易，又囑沅内断于心，自为主持。至腊月、正月两信，则专劝弟出山，盖终不免于一出，不如假满即出，最为体面。惟决计出山，则不可再请续假，恐人讥为自装身分太重。余此信已为定论，下次不再商矣。

沅弟以余待朱、唐等稍失之薄，余心亦觉不甚安帖。然天道不能有舒而无惨，王政不能有恩而无威。近日勘吴少村及驱逐在徐之王、刁两团数千人全回山东，亦似稍失之薄，而非此实办不动也。

夹袋中并无新储之才，惟幼泉及张敬堂较优，不知果有所建树否？

## 二月初一日

沅弟左右：

顷奉正月二十六日谕旨，弟调湖北巡抚，且令即赴新任。虽明发谕旨中无无庸来京字样，而寄谕中似飭弟就近履任，即办鄂境之捻。朝廷为地择人，亦即为人择地。圣恩优渥，无以复加。而余办捻事，正苦鄂中血脉不能贯通，今得弟抚鄂，则三江两湖均可合为一家，联为一气，论公论私，均属大有裨益。

余前调张诗日、刘松山二镇带十九营赴鄂助剿，定于二月中旬起程。又春霆一军，谕旨令赴楚豫之交，归余调度。余正虑相离太远，呼应不灵，弟在湖北，则就近调遣，节节灵通。弟奉旨后，即于谢恩折内声明，一面酌带营勇赴鄂剿贼，俟鄂难稍平，人心稍定，即行进京陛见。如谕旨不令来京，亦尽可带兵出境，兄弟相会。

赴鄂行期，或可不待六月假满。如待假满，亦断不可展限。君恩过厚，无令外人疑为装腔做势也。

## 二月初四日

沅弟左右：

接二十六日谕旨，弟调补湖北巡抚，迅赴新任。又奉寄谕，俟弟接印，郑小珊中丞乃行交卸。又接胡莲舫京信，鄂人亦望弟拯救甚切。其时尚未得弟抚鄂之信，已有云霓之望，一闻新命，中外悬盼，自为更切。

弟此次履鄂，似不可稍涉迟回。至募勇之多少，由弟自行斟酌，大约以八九千为率，另增马队千余，成一大军，可为游击之师。余处本有刘省三、李幼泉、刘仲良三支淮勇游击之师，刘寿卿、张田峻合成湘勇一支游击之师，合之鲍春霆全军，赴鄂已五支游兵矣。弟既接印，公事甚多，似不能亲临行阵，即偶一督战，亦可暂而不可常，宜另派一可靠之统领。弟驻扎或在黄州，或在德安、襄阳，细看再酌。

### 三月初五日

沅弟左右：

接弟排遣之信，知弟将以三月初间赴鄂履任，至以为慰。

兄到济宁数日，恰值张总愚大股来齐，不惟不能遽赴周家口，并不敢出阅视黄河、运河，盖恐州县将领但顾接差，反不御贼。本日有陈奏军情一折，鲍君慎项一折，另牍咨达。

纪泽等送全眷回湘，乡间若无良师，拟在皖吴择师，留纪鸿在弟署读书。不知纪瑞等随母来鄂否？余在济宁小驻。若贼不渡运，张逆一股又将回豫，余稍徘徊旬日。任、赖等股若不东窜，则余仍赴周家口，再谋兄弟相见之法也。

### 三月十六日

澄、沅弟左右：

前闻捻匪不如发逆，张总愚一股又不如任、赖等一股，不知张逆狡猾若此，竟无术可以制之。

沅弟到任后，仍须以治兵自强为第一义。小宋到鄂藩任，已作函商之。乔鹤侪请其一面派人接署，一面附片奏明。

弟驻襄阳甚好，春霆可驻南阳，其粮台则设于襄阳，刘仲良则改驻徐州等处。谢恩折尚稳适。好折奏手竟不可得。

近年如沈幼丹在江，蒋香泉在浙，皆以联络绅士大得名誉，臆道攀留。而云仙以疏斥绅士，终不得久于其位。闻渠与左季高甚为齟齬，罢官后必更郁郁。弟此次赴鄂，虽不必效沈、蒋之枉道干誉，然亦不可如云仙之讥侮绅士，动成荆棘。大约礼貌宜恭，银钱宜松，背后不宜多着贬词，纵不见德，亦可以远怨矣。

### 三月二十六日

澄、沅弟左右：

沅弟定于十七接印，此时已履任数日矣。督抚本不易做，近则多事之秋，必须筹兵筹饷。筹兵，则恐以败挫而致谤；筹饷，则恐以搜括而致怨。二者皆易坏声名。而其物议沸腾，被人参劾者，每在于用人之不当。沅弟爱博而面软，向来用人失之于率，失之于冗。以后宜慎选贤员，以救率字之弊；少用数员，以救冗字之弊。位高而资浅，貌贵温恭，心贵谦下。天下之事理人才，为吾辈所不深知、不及料者多矣，切勿存一自是之见。用人不率冗，存心不自满，二者本末俱到，必可免于咎戾，不坠令名。至嘱至嘱，幸勿以为泛常之语而忽视之。

陈筱浦不愿赴鄂。渠本盐务好手，于军事吏事恐亦非其所长。余处亦无折奏好手，仍遣子密前来，事理较前清晰，文笔亦见精当。自奏折外，沅弟又当找一书启高手，说事明畅，以通各路之情。

纪泽母子等四月中旬当可抵鄂，纪鸿留弟署读书，余以回湘为是。

### 四月二十一日

沅弟左右：

来缄与我订五日一信之约。此次出营查阅黄、运两河，并察看泰安形势，登岱礼神，未发家信，有愆夙约。将来不知果能践五日之约否。

山东军情，半月前事已具折片之中，捻匪长处在于专好避兵，不肯轻战，偶尔接战，亦复凶悍异常。好用马队四面包围，而正兵则马步夹进。马队冲突时，多用大刀长棒。步队冒烟冲突时，专用长镞猛刺。我军若能挡此数者，则枪炮伤人较多，究非捻匪所可及，劈山炮尤为捻所畏。弟可详告刘、朱、彭、郭、熊、陈诸人也。调四将之折，甚为条畅妥叶。谢绝陋习，慎重公事，严密以防门内，推诚以待制府，数者皆与余见相合，声誉亦必隆隆日起矣。

### 五月初三日

沅弟左右：

纪泽母子已到阳逻，纪瑞母子已自湘起程。兄弟宦游在外，眷属得以团聚，亦足喜也。

弟信亦不必太密，仍以十日一封为率，或有他事则加一封，无事亦

不可减。不仅说军务饬务之大政，即幕友、家丁及亲友、相从、将弁、投效者多说几句，司道风气、属僚贤否，亦可略述一二，以广见闻。余之日记详于小而略于大，弟则互有详略可也。

弟现募步队万二千人、马队千余人，与余初次函商相符，以后不必再行添募，恐项不继。所裁官相之勇仅发数成，所募弟部之勇必须全饷，一撤一招之际，厚薄悬殊，相形见绌，营头太多，必生怨望。厚庵之优待楚勇，薄视甘兵，遂有三月三日之变，可为前车之鉴。

## 五月十一日

沅弟左右：

纪瑞侄母子已抵鄂，姊为东而姒为宾，客到先而主到后。乱离之世，骨肉相聚本极难得，老年得之为尤难也。弟足疾复发，极为虚系。湿毒在下，总非本原之病。然一求速效，杂投药剂，则难于见功。吾阅历极久，但嘱家中老幼不轻服药，尤不轻服克伐之药，即是善于养生之道。鄂抚衡署风水之说，弟能毅然不信，可谓卓识定力。如足毒不愈，亦须略为变通。兄向来不信择日风水，老年气怯，遂徇俗见，惟弟亮之酌之。

## 六月初五日

澄弟左右：

乡间谷价日贱，禾豆畅茂，尤是升平景气，极慰极慰。

贼自三月下旬退出曹、鄂之境，幸保山东运河以东各属，而仍蹂躏于曹、宋、徐、泗、凤、淮诸府，彼剿此窜，倏往忽来。直至五月下旬，张、牛各股始窜至周家口以西，任、赖各股始窜至太和以西，大约夏秋数月山东、江苏可以高枕无忧，河南、皖、鄂又必手忙脚乱。余拟于数日内至宿迁、桃源一带察看堤墙，即由水路上临淮而至周家口。盛暑而坐小船，是一极苦之事，因陆路多被水淹，雇车又甚不易，不得不改由水程。余老境日逼，勉强支持一年半载，实不能久当大任矣。因思吾兄弟体气皆不甚健，后辈子侄尤多虚弱，宜于平日讲求养生之法，不可于临时乱投药剂。

养生之法约有五事：一曰眠食有恒，二曰惩忿，三曰节欲，四曰每夜临睡洗脚，五曰每日两饭后各行三千步。惩忿，即余篇中所谓养生以少恼怒为本也。眠食有恒及洗脚二事，星冈公行之四十年，余亦学行七年矣。饭后三千步近日试行，自矢永不间断。弟从前劳苦太久，年近五

十，愿将此五事立志行之，并劝沅弟与诸子侄行之。

余与沅弟同时封爵开府，门庭可谓极盛，然非可常恃之道。记得己亥正月，星冈公训竹亭公曰：“宽一虽点翰林，我家仍靠作田为业，不可靠他吃饭。”此语最有道理，今亦当守此二语为命脉。望吾弟专在作田上用些工夫，以辅之以书、蔬、鱼、猪、早、扫、考、宝八字，任凭家中如何贵盛，切莫全改道光初年之规模。凡家道所以可久者，不恃一时之官爵，而恃长远之家规；不恃一二人之骤发，而恃大众之维持。我若有褫罢官回家，当与弟竭力维持。老亲旧眷、贫贱族党不可怠慢，待贫者亦与富者一般，当盛时预作衰时之想，自有深固之基矣。

## 六月十二日

沅弟左右：

足毒居然全好，大慰大慰。

一万二千之数，恐不足保鄂省疆土，自可量力多招。

此间军情，凡大处调度，均已咨达弟署。若各股均渡至沙河、淮河之南，余当以淮军扼守沙河、贾鲁河。此数月内鄂境虽十分吃紧，而使贼不得回窜东北平旷之区，各军得悉萃于西南山多田多之处，剿办当稍易为力。恐其半过沙河以南，半留沙河以北，则尤疲于奔命耳。

## 六月二十三日

沅弟左右：

日内未接弟信，想因余自济起程，驿夫不知行迹所在，或展转迟误耳。十五日登舟，阻风三日，今日可至台庄。携暑小舟，殆非老年所堪。

运河大雨盛涨，民居水皆封檐，数十万难民转胸皆成流寇。而运河东岸堤塘雨后塌卸殆尽，秋冬无以制寇，尤深焦灼。防守沙河之策未必可恃，而业已出奏，不得不试行之。春霆已自黄州起行否？若需帐棚等物，请弟飭局办给，将来于万五千内拨还鄂局。江西两客来商，不欲于七万外更增杂支。少泉亦畏霆而远避之。弟既敬霆之为人，即可一力维持，使之迅速集事。杂款实有盈余，余已囑刘申孙详随时稟请弟作主也。

## 七月初三日

沅弟左右：

吾湘哥老会公然有谋反之意，可恶可畏，若一连惩创几次，当可戢其凶志。目下犹耽耽思逞也。

兄至宿迁，衰年怕热，登岸小住。闻任、赖又窜睢州，将回山东，徽调帖、鼎、盛三军追剿，不知何日乃能见贼接仗。军务毫无起色，加以大水成灾，酷热迥异寻常，心绪实为恶劣。然亦只好安命，耐烦做去。拟日内由杨庄换船泝淮西上，八月可达周口耳。闻弟近甚辛苦，前示养生五诀，曾行之否？老年兄弟，相勉惟此而已。

## 七月初六日

澄弟左右：

久未接弟信，惟沅弟寄弟信言哥老会一事，粗知近况。吾乡他无足虑，惟散勇回籍者太多，恐其无聊生事，不独哥老会一端而已。又米粮酒肉百物昂贵，较之徐州、济宁等处数倍，人人难于度日，亦殊可虑。

吾兄弟处此时世，居此重名，总以钱少产薄为妙。一则平日免于覬觎，仓卒免于抢掠，二则子弟略见窘状，不至一味奢侈。纪泽母子八月即可回湘，一切请弟照料。早扫考宝书蔬鱼猪八字，是吾家历代规模。吾自嘉庆末年至道光十九年，见王考屋冈公日日有常，不改此度。不信医药、地仙、和尚、师巫、祷祝等事，亦弟所一一亲见者。吾辈守得一分，则家道多保得几年，望弟督率纪泽及诸侄切实行之。富托木器不全，请弟为我买木器。但求坚实，不尚雕镂，漆水却须略好，乃可经久。屋宇不尚华美，却须多种竹柏，多留菜园，即占去田亩，亦自无妨。吾自济宁起行至宿迁，奇热不复可耐，登岸在庙住九日，今日始开船行至桃源。计由洪泽湖沿泝淮至周家口，当在八月初矣。身体平安，惟目光益蒙，怕热益甚，盖老人之常态也。

## 七月十六日

沅弟左右：

兄以七夕至清江，初十渡洪泽湖，十六日至临淮。十五酉刻在临淮之下十里遇大风暴，危险之至，幸免于难。今年大水，自济宁至临淮千三百里，民无栖息之所，业已伤心惨目，而又值非常之酷热，受非常之

大惊，殊觉行役劳苦，老境不能堪此。惟闻刘松山、张诗日等在上蔡、郾城一带剿张总愚一股屡获大胜，差堪一慰。尚未接禀，不知其详。春霆迭奉严旨诘催，弟须嘱其迅入豫境，不可再缓。渠制车二千辆之多，不知做法何如，恐未必适于用。闻捻用长矛者，进身极矮，湘、淮洋枪均失之高而不中。此次刘、张系以劈山炮取胜，近亦习脆装洋枪，请弟告之鲍、郭、彭、熊也。

七月二十四日 临淮

沅弟左右：

余在临淮，本不欲久住，定二十四日成行，已咨明弟处矣。乃病体日深，殊觉支持不住。余力守不药之戒，竟不能坚持到底。服张敬堂所开桂枝汤，外感之寒已觉轻松，而积受之暑湿未能清理，腹疼作胀，屢思大便，而登厕辄不爽快。现定二十六日起行，不知届时能勉强登舟否。今年出汗太多，身体遽瘦，自问精力大减，断不能久当大任，到周口后与弟谋一会晤，共筹引退之法，但不以鹬蚌出之耳。

八月初十日

澄弟左右：

哥老会之事，余意不必曲为搜求。左帅疏称要拿沈海沧，兄未见其原折，便中抄寄一阅。提镇副将，官阶已大，苟非有叛逆之实迹实据，似不必轻言正法。如王清泉，系克复金陵有功之人，在湖北散营，欠饷尚有数成未发。既打金陵，则欠饷不清不能全归咎于湖北，余亦有与有过焉。因欠饷不清，则军装不能全缴，自是意中之事。即实缺提镇之最可信为心腹者，如萧孚泗、朱南桂、唐义训、熊登武等，若有意搜求，其家亦未必全无军装，亦难保别人不诬之为哥老会首。余意凡保至一、二、三品武职，总须以体貌待之，以诚意感之。如有犯事到官，弟在家常常缓颊而保全之。即明知其哥老会，唤至密室，恳切劝谕，令其首悔而贷其一死。惟柔可以制刚很之气，惟诚可以化顽梗之民。即以吾一家而论，兄与沅弟带兵，皆以杀人为业，以自强为本。弟在家，当以生人为心，以柔弱为用，庶相反而适以相成也。

孝凤为人，余亦深知，在外阅历多年，求完善者实鲜。余外病全去，尚未复元。初九抵周家口，此间或可久住。



## 八月十二日

沅弟左右：

八月以内连接弟信，询及帮办应否疏谢。余意似可不必具疏。近年如李世忠、陈国瑞等降将皆得帮办，刘典以臬司、吴棠以道员得之，本属极不足珍之目，本朝以来亦无此等名目。若具折，则不可辞，亦不可有微辞。疏忽则可，不平则不可也。余于弟之衔不署，弟于公牍似亦可不署。奏疏结衔，则不可不书帮办字样，酌之。

## 九月初六日

澄弟左右：

弟于八月初一、初四得生二孙，而兄亦于初十日得生一孙。祖宗之泽，家庭之幸。兄年来衰态日增，他无所图，专盼家中添丁，闻此喜慰无量。昔星冈公于四十七岁得见五孙，二男三女。今弟四十七岁，亦系二男三女。将来弟之福泽，可继星冈公而起，祝贺。

余身体将次复元，惟衰年不能用心，不愿再肩艰巨，急切不得脱卸之法。云仙已归，震、厚亦先后告病开缺，殊为可羨。季高有陕甘之行，则较我尤难，渠精力过人，或足了之。家中妇女渐多，外则讲究种蔬，内则讲究晒小菜、腌菜之类，乃是兴家气象，请弟倡之。

## 九月十二日

沅弟左右：

接弟信，具悉一切。弟谓命运作主，余素所深信，谓自强者每胜一筹，则余不甚深信。凡国之强，必须多得贤臣工；家之强，必须多出贤子弟。此亦关乎天命，不尽由于人谋。至一身之强，则不外乎北宫黝、孟施舍、曾子三种。孟子之集义而慊，即曾子之自反而缩也。惟曾、孟与孔子告仲由之强，略为可久可常。此外斗智斗力之强，则有因强而大兴，亦有因强而大败。古来如李斯、曹操、董卓、杨素，其智力皆横绝一世，而其祸败亦迥异寻常。近世如陆、何、肃、陈亦皆予知自雄，而俱不保其终。故吾辈在自修处求强则可，在胜人处求强则不可。若专在胜人处求强，其能强到底与否尚未可知。即使终身强横安稳，亦君子所不屑道也。

贼匪此次东窜，东军小胜二次，大胜一次，刘、潘大胜一次，小胜

数次，似已大受惩戒，不似上半年之猖獗。但求不窜陕、洛，即窜鄂境，或可收夹击之效。余定于明日请续假一月，十月请开各缺，仍留军营，刻一木戳，会办中路剿匪事宜而已。

### 十月初六日

澄弟左右：

弟之两孙元五、元六派名广文、广敷，余孙元七拟取派名广钧，既无偏旁合为一律，惟广字下一字用十一真、十二文之韵，声调较为清亮。科三侄以直隶州知州用，系克复金陵后第二次恩旨。季洪弟赠内阁学士，亦系确有其事，即日当查出付回，尽可不花部费。蔡贞斋投营，无好差使可派。若其果来，不过如邹至堂、沈蕙亭之致，赠银百金，附案保奖。在我已属竭力周旋，而在渠仍无大益。或渠不来，余便寄百金遽周故旧，不知可否？弟一酌之。

服药之事，余阅历极久，不特标病服表剂最易错误，利害参半，即本病服参茸等味亦鲜实效。如胡文忠公、李勇毅公以参茸燕菜作家常酒饭，亦终无所补救。余现在调养之法，饭必精凿，蔬菜以肉汤煮之，鸡鸭鱼羊豕炖得极烂，又多办酱菜腌菜之属，以为天下之至味，大补莫过于此。《孟子》及《礼记》所载养老之法、事亲之道皆不出乎此。岂古之圣贤皆愚，必如后世之好服参茸燕菜鱼翅海参而后为智耶？星冈公之家法，后世当守者极多，而其不信巫医地仙，吾兄弟尤当竭力守之。

兄近日身体平安。军事总无起色，西股已过洛阳，东股尚在山东，无术制之，实深焦灼。

### 十月二十三日

沅弟左右：

余初闻弟折已发，焦灼弥月，直至十月朔日得见密稿，始行放心。所言皆系正人应说之事，无论输赢，皆有足以自立之道，此后惟安坐听之而已。

余腰疼旬余，今将全愈。开缺辞爵之件，本拟三请四请，不允不休。昨奉十四日严旨诘责，愈无所庸其徘徊。大约一连数疏，辞婉而意坚，得请乃已，获祸亦所不顾。春霆奉旨入奏，震仙亦催之甚速。然米粮子药运送万难，且恐士卒滋事溃变，已批令毋庸赴奏，又函令不必奏事。

日者言明年运蹇，端已见矣。

## 十月二十六日

沅弟左右：

日内未接弟信，想在熊营驻扎，一切平安。

吾十三日请开各缺疏片，奉批旨调理一月，进京陛见一次。余定于正月初间起行。此间幕客有言不必进京，宜请一省墓假回籍。余意余与筠仙、义渠情事迥不相同。古称郭子仪功高望重，招之未尝不来，麾之未尝不去，余之所处亦不能不如此。准开各缺而以散员留营，余之本愿也。或较此略好，较此略坏，均无不可。但秦、晋、齐、豫、直隶、苏、皖责成一身，即不能胜此重任。此外听命而已。

## 十一月初二日

沅弟左右：

《古文四象》目录抄付查收。所谓四象者，识度即太阴之属，气势即太阳之属，情韵少阴之属，趣味少阳之属。其中所选之文，颇失之过于高古。弟若依此四门而另选稍低者、平日所嗜者抄读之，必有进益。但趣味一门，除我所抄者外，难再多选耳。

## 十一月初七日

沅弟左右：

得初一日寄谕，令回江督本任。余奏明病体不能用心阅文，不能见客多说，既不堪为臬使，又岂可为江督？即日当具疏恭辞。余回任之说，系少荃疏中微露其意。

余仍请以散员留营，或先开臬使、江督二缺，而暂留协办治军亦可，乞归林泉亦非易易。弟住家年余，值次山、筱泉皆系至好，故得优游如意。若地方大吏小有隔阂，则步步皆成荆棘。住京养病尤易招怨丛谤。余反复筹思，仍以散员留营为中下之策，此外皆下下也。

弟开罪于军机，凡有廷寄，皆不写寄弟处，概由官相转咨，亦殊可诧。若圣意于弟，则未见有薄处，弟惟诚心竭力做去。吾尝言“天道忌巧，天道忌盈，天道忌贰”，若甫在向用之际，而遽萌前却之见，是贰也。即与他人交际，亦须略省己之不是。弟向来不肯认错，望力改之。

## 十一月十二日

沅弟左右：

任、赖南寧，据报已至信南、罗山，未知果否入鄂。兄标病腰痛等症渐已痊愈，惟不能多语，舌端寒湿之症未好，恐遂成痼疾矣。

春霆不能入寨，余以函咨劝之强之。果使霆军援寨，湘军防晋，则西路张股亦不足为大患。任、赖一股得诸淮军与鄂军夹击，或易得手。余拟于十五后具疏复陈不能回任，请令少荃署江督，兼握钦篆。余以散员留营，仿咸丰八九年之例，刻一木质关防，照旧办事。数月之后，或另放江督，或另简星使，再听朝廷定夺。目下但求降旨，言曾病不克回任，李仍兼署而已。余视江督一缺实难称职，前数年幸未浚汤，此际何必再作冯妇？留军而不握大符，或者责望稍轻，疑谤稍减，是好下场也。

二竹在省，弟惟专心治军，一切置若罔闻为妥。

## 十二月初六日

澄弟左右：

余于十月二十五日接入觀之旨，次日写信召纪泽来营，厥后又有一次信止其勿来，不知均接到否？自十一月初六接奉回江督任之旨，十七日已具疏恭辞。二十八日又奉旨令回本任，初三日又具疏恳辞。如再不获命，尚当再四疏辞。但受恩深重，不敢遽求回籍，留营调理而已。余从此不复作官。同乡京官，今冬炭敬犹须照常馈送。昨令李鸿汉回湘送罗家二百金，李家二百银，刘家百金，昔年曾共患难者也。

前致弟处千金，为数极少，自有两江总督以来，无待胞弟如此之薄者。然处兹乱世，钱愈多则患愈大，兄家与弟家总不宜多存现银。现钱每年足敷一年之用，便是天下之大富，人间之大福。家中要得兴旺，全靠出贤子弟。若子弟不贤不才，虽多积银积钱积谷积产积衣积书，总是枉然。子弟之贤否，六分本于天生，四分由于家教。吾家代代皆有世德明训，惟星冈公之教尤应谨守牢记。吾近将星冈公之家规编成八句，云：“书、蔬、鱼、猪、考、早、扫、宝，常说常行，八者都好；地、命、医、理、僧、巫、祈祷、留客久住，六者俱恼。”盖星冈公于地、命、医、僧、巫五项人，进门便恼，即亲友远客久住亦恼。此八好六恼者，我家世世守之，永为家训。子孙虽愚，亦必略有范围也。

## 十二月十二日

沅弟左右：

郭子美皂吊挂后又有白口之挫，殊为忧灼。人皆言捻子善避兵，只怕打不着。余则谓不怕打不着，只怕打不胜。即鲍、刘等与之相遇，胜负亦在不可知之数。如鲍、刘不败，群捻幸出鄂境，弟当将各军大加整顿，无以曾克安庆、金陵，遂信麾下多统将之才。杏岳亦非可当一面者，祈慎使之。即与鲍、刘、周、张等通信，亦勿以灭贼劝之，姑以不败期之。百战之寇，屢衰屢盛，即仅存数十人尚是巨患，况数万乎？

人心日伪，大乱方长，吾兄弟惟勤劳谦谨以邀神佑，选将练兵以济时艰而已。湖北水师诸将中与弟颇相联络否？

## 十二月十八日

沅弟左右：

贼已回窜东路，淮、霆各军将近五万，幼泉万人尚不在内，不能与之一为交手，可憾之至！当天心果不欲灭此贼耶？抑吾辈办贼之法实有未善耶？

目下深虑黄州失守，不知府县尚可靠否？略有防兵否？山东、河南州县一味闭城坚守，乡间亦闭寨坚守，贼无火药，素不善攻，从无失守城池之事，不知湖北能开此风气否？鄂中水师不善用命，能多方激劝，扼住江、汉二水，不使偷渡否？少泉言捻逆断不南渡，余谓任逆以马为命，自不肯离淮南北，贼逆则未尝不窥伺大江以南。屢接弟调度公牍，从未提及水师，以后务祈留意。

弟之忧灼，想尤甚于前。然因心横虑，正是磨炼英雄玉汝于成，李申夫尝谓余愠气从不说出，一味忍耐，徐图自强，因引谚曰“好汉打脱牙和血吞”。此二语是余生平咬牙立志之诀。余庚戌、辛亥间为京师权贵所唾骂，癸丑、甲寅为长沙所唾骂，乙卯、丙辰为江西所唾骂，以及岳州之败、靖江之败、湖口之败，盖打脱牙之时多矣，无一次不和血吞之。弟此次鄂军之败、三县之失，亦颇有打脱门牙之象。来信每怪运气不好，便不似好汉声口。惟有一字不说，咬定牙根，徐图自强而已。

子美倘难整顿，恐须催南云来鄂。鄂中向有之水陆，则格格不入者，须设法笼络之，不可灰心懒漫，遽萌退志也。余奉命克期回任，拟奏明新正赴津，替出少泉来豫，仍请另简江督。

## 十二月二十日

沅弟左右：

捻匪忽来忽往，瞬息百里，探报最难的确。余于不确之信，向不转行各处，反不如听各统领自探自主，自进自止，犹为活着。陕西之贼猖獗日甚，余派刘松山自洛阳入关援秦。顷接渠复禀，定于十六日拔行赴秦。黄万友所带老湘四营，请弟催令赴洛，一同援秦。以后即令霆军在鄂豫一带专剿任、赖一股。

## 十二月二十二日

沅弟左右：

日来贼窜何处？由孝感而东南，则黄陂、新洲及黄州各属处处可虑。此贼故智，有时疾驰狂奔，日行百余里，连数日不少停歇；有时盘于百余里之内，如蚊旋磨，忽左忽右。贼中相传秘诀曰：“多打几个圈，官兵之迫者自疲矣。”僧王曹县之败，系贼以打圈之法疲之也。吾观捻之长技约有四端：一曰步贼长竿，于枪子如雨之中冒烟冲进；二曰马贼周围包裹速而且匀；三曰善战而不轻试其锋，必待官兵找他，他不先找官兵，得粤匪初起之诀；四曰行走剿疾，时而数日千里，时而旋磨打圈。捻之短处亦有三端：一曰全无火器，不善攻坚，只要官吏能守城池，乡民能守堡寨，贼即无粮可掳；二曰夜不扎营，散住村庄，若得善偷营者乘夜劫之，胁从者最易逃溃；三曰辎重妇女骡驴极多，若善战者与之相持而别出奇兵袭其辎重，必受大创。此吾所阅历而得之者。弟素有知兵之名，此次军事甚不得手，名望必为减损，仍当在选将练兵切实用功。一以维持大局，扫净中原之氛；一以挽回令名，间执谗慝之口。

吾复奏折昨日拜发。新正赴徐，暂接督篆，三月必切实恳辞。辛苦半生，不肯于老年博一取巧之名，被人窃笑也。

## 十二月二十七日

沅弟左右：

杏南及刘镇俱获两胜，旬日焦灼非常，闻此稍有生意。余调度最嬾，盖因贼情难审之故，弟此后亦宜斟酌。

伟勇巴图鲁恩旨，记得确系十一年八月初十日，余报克复池州案内所得，乃遍寻未得此谕旨。其时弟尚在安庆，未赴巢县、无为一带，余

将此旨行知弟处，不知弟可检查否？弟凡得好处，余俱有谢恩折，独此次未尝谢恩，不知当日何以疏忽过去？

去年终密考一折一学政片一清单，定例须亲笔自缮。余久未作楷，故未自缮，弟能自缮否？

## 同治六年丁卯岁

正月初二日

沅弟左右：

鄂署五福堂有回禄之灾，幸人口无恙，上房无恙，受惊已不小矣。其屋系板壁纸糊，本易招火。凡遇此等事，只可说打杂人役失火，固不可疑会匪之毒谋，尤不可怪仇家之奸细。若大惊小怪，胡思乱猜，生出多少枝叶，仇家转得传播以为快。惟有处处事然，行所无事。申甫所谓“好汉打脱牙和血吞”，星冈公所谓“有福之人善退财”，真处逆境者之良法也。

弟求兄随时训示申儆。兄自问近年得力惟有一悔字诀。兄昔年自负本领甚大，可屈可伸，可行可藏，又每见得人家不是。自从丁巳、戊午大悔大悟之后，乃知自己全无本领，凡事都见得人家有几分是处。故自戊午至今九载，与四十岁以前迥不相同，大约以能立能达为体，以不怨不尤为用。立者，发奋自强，站得住也；达者，办事圆融，行得通也。吾九年以来，痛戒无恒之弊。看书写字，从未间断，选将练兵，亦常留心。此皆自强能立工夫。奏疏公牍，再三斟酌，无一过当之语自夸之词。此皆圆融能达工夫。至于怨天本有所不敢，尤人则常不能免，亦皆随时强制而克去之。弟若欲自儆惕，似可学阿兄丁戊二年之悔，然后痛下箴砭，必有大进。

立达二字，吾于己未年曾写于弟之手卷中，弟亦刻刻思自立自强，但于能达处尚欠体验，于不怨尤处尚难强制。吾信中言皆随时指点，劝弟强制也。赵广汉本汉之贤臣，因星变而劾魏相，后乃身当其灾，可为殷监。默存一悔字，无事不可挽回也。

## 正月初四日

澄弟左右：

军事愈办愈坏。郭松林十二月初六日大败，淮军在德安附近挫败，统领张树珊阵亡。此东股任、赖一股也。其西路张逆一股，十二月十八日，兼军在灈桥大败，几于全军覆没。擒匪凶悍如此，深可忧灼。

余二十一日奏明正月初暂回徐州，仍接督篆。正月初三接奉寄谕。现定于正月初六日自周家口起行，节前后可到徐州。身体尚好。但在徐治军，实不能兼顾总督地方事件，三月再恳切奏辞耳。

沅弟勤官相，星使业已回京，而处分尚未见明文。胡公则已出军机矣。吾家位高名重，不宜作此发挥殆尽之事。米已成饭，木已成舟，只好听之而已。

余作书架样子，兹亦送回，家中可照样多做数十个。取其花钱不多，又结实又精致。寒士之家，亦可勉做一二个。吾家现虽鼎盛，不可忘寒士家风味，子弟力戒傲情。戒傲以不大声骂仆从为首，戒情以不晏起为首。吾则不忘蒋市街卖菜篮情景，弟则不忘竹山塆拖碾车风景。昔日苦况，安知异日不再尝之？自知谨慎矣。

## 正月初十日 行次归德府

沅弟左右：

得春霆信，贼去樊城仅六十里。余为雪所阻，今日在归德停住一日。批令霆军在河南西路六府专追任、赖一股，暂不赴秦。业已抄咨弟处。

盖以大局而论，任、赖纵横五省，不可无多军緹之。张逆仅在陕西三府一州之境，左、刘二军已足支持。以私计而论，春霆与左帅积不相能，恐其溃败决裂，又生金口之变；若留于南阳、汝、襄等处，豫西鄂北俱属有益。望弟将余苦心告知春霆，令其莫再奏事。余将来奏定，令渠军专办南、汝、襄、许四府州可也。

弟之奏稿及咨札稿，动称剿灭此股，亦欠斟酌。余于奏咨函牍，但称或可大加惩创而已。余见弟与各处函牍，亦颇觉烦琐忙乱。以后调度文书以少为好。昔胡文忠亦失之太多，多则未有不纷乱者。殄灭等字，不可轻用也。



## 正月十二日

沅弟左右：

今日至蒙城之太阳集，接弟两信并抄与春霆来往信，具悉一切。余与少荃皆坐视贼太轻，以致日久无功，弟则视贼尤轻。庄子云，两军相对哀者胜矣。咸丰三年以前，粤匪为哀者；咸丰十年以后，官军为哀者。今捻匪屡胜，而其谨慎如故；官军屡败，其骄蹇如故。是哀者尚在捻也，可虑孰甚。

## 正月二十二日

沅弟左右：

日内有战事否？留璵军剿任、赖一股，昨已附片具奏，另咨弟案。嗣后奏事，宜请人细阅熟商，不可一意孤行是己非人为囑。

弟克复两省，勋业断难磨灭，根基极为深固。但患不能达，不患不能立；但患不稳妥，不患不峥嵘。此后总从波平浪静处安身，莫从掀天揭地处着想。吾亦不甘为庸庸者，近来阅历万变，一味向平实处用功。非委靡也，位太高，名太重，不如是，皆危道也。

## 正月二十六日

沅弟左右：

顷阅邸抄，官相处分极轻。公道全泯，亦殊可惧。惟以少帅督楚，筱荃署之，又以瞿斋先生抚湘，似均为安慰吾弟，不令掣肘起见。朝廷调停大臣，盖亦恐有党仇报复之事，弟不必因此而更怀郁郁也。

少荃官保于吾兄弟之事极力扶助，虽于弟勤官相不甚谓然，然但虑此后做官之不利，非谓做人之有损也。弟于渠兄弟务须推诚相待，同心协力，以求有济。淮军诸将在鄂中者有信至少荃处，皆感弟相待之厚，刘克仁感之尤深。大约淮湘两军、曾李两家必须联为一气，然后贼匪可渐平，外侮不能侵。少荃力劝余即回江宁，久于其位。余以精力日衰，屢被参劾，官兴索然，现尚未能定计。霞仙去官，屢干谕旨诘责，余不能不与之通信。兹有一函，请弟专人妥交。

鸣原堂文亦思多选，以竟其事。若不作官，必可副弟之望。

## 二月初三日

沅弟左右：

省三挫败，春霆大胜，所得似多于所失。惟寧回河南者，究未知尚有若干耳。

余接印已十余日，公牍尚可了办。惟见客太多，甚以为苦，说话稍多，舌端塞滞如故。两奉寄谕飭回金陵，拟于初十外移驻金陵。四月十九满三个月后，再行陈表开缺。少荃屡言疏语不可太坚，徒觉痕迹太重，而未必能即退休，即使退休一二年，而他处或有兵事，仍不免诏旨促行，尤为进退两难等语，皆属切中事理。余是以反复筹思，洎无善策。申夫自京回，亦言都下公论皆以求退为非。云仙新授两淮运使，震仙与鹤舫互相纠参，计两君皆不能无郁郁。

《船山集》尚在舟次未来，余至江宁，计已近三月矣。请弟寄书筱岑，令其迅速开刷，不必等余信修改也。

## 二月初五日

澄弟左右：

正月初六日起行，十五日抵徐州，十九接印。近又两奉寄谕，令回金陵。文武官绅，人人劝速赴江宁。申夫自京归，备述都中舆论亦皆以回任为善，辞官为非。兹拟于二月移驻金陵，满三个月后，再行专疏奏请开缺。连上两疏，情辞务极恳至，不肯作恋栈无耻之徒，然亦不为悻悻小丈夫之态。允准与否，事未可知。

沅弟近日叠奉谕旨，谴责严切，令人难堪。固由劾官、胡二人激动众怒，亦因军务毫无起色，授人以口实；而沅所作奏章，有难免于讪笑者。计沅近日抑郁之怀，如坐针毡之上。

震仙系告病引退之员，忽奉严旨革职。云仙并无降调之案，忽以两淮运使降补。二公皆不能无郁郁。大约凡作大官，处安荣之境，即时时有可危可辱之道，古人所谓富贵常蹈危机也。纪泽腊月信言宜坚辞江督，余亦思之烂熟。平世辞荣避位，即为安身良策；乱世仅辞荣避位，尚非良策也。

## 二月二十一日

沅弟左右：

澄弟之孙元五殇亡，忧系之至。家中人口不甚兴旺，而后辈读书全未寻着门路，岂吾兄弟位高名大，遂将福分占尽耶？

接吴竹庄信，捻似尚未入皖境。闻巴河、武穴焚掠一空，鄂饷日绌，军事久不得手，弟之名望必且日损，深以为虑。

吾所过之处，千里萧条，民不聊生。当乱世处大位而为军民之司命者，殆人生之不幸耳。弟信云英气为之一沮，若兄则不特气沮而已，直觉无处不疚心，无日不惧祸也。

## 二月二十九日

沅弟左右：

十八之败，杏南表弟阵亡，营官亡者亦多，计亲族邻里中或及于难，弟日内心绪之忧恼万难自解。然事已如此，只好硬心狠肠，付之不问而一意料理军务，补救一分，即算一分。弟已立大功于前，即使屡挫，识者犹当恕之。比之兄在岳州、靖港败后栖身高峰寺，胡文忠在梁山败后舟居六溪口气象，犹当略胜。高峰寺、六溪口尚可再振，而弟今不求再振乎？

此时须将勋官相之案、圣眷之隆替、言路之弹劾一概不管。衰了凡所谓从前种种譬如昨日死，以后种种譬如今日生，另起炉灶，重开世界，安知此两番之大败，非天之磨炼英雄，使弟大有长进乎？谚云吃一堑长一智，吾生平长进全在受挫受辱之时。务须咬牙立志，蓄其气而长其智，切不可茶然自馁也。

## 三月初二日

沅弟左右：

接李少帅信，知春霆因弟复奏之片言省三系与任逆接仗、霆军系与赖逆交锋，大为不平，自奏伤疾举发，请开缺調理。又以书告少帅，谓弟自占地步。弟当此百端拂逆之时，又添此至交齟齬之事，想心绪益觉难堪。然事已如此，亦只有逆来顺受之法，仍不外悔字诀、硬字诀而已。

朱子尝言：悔字如春，万物蘊蓄初发；吉字如夏，万物茂盛已极；

各字如秋，万物始落；凶字如冬，万物枯凋。又尝以元字配春，亨字配夏，利字配秋，贞字配冬。兄意贞字即硬字诀也。弟当此艰危之际，若能以硬字法冬藏之德，以悔字启春生之机，庶几可挽回一二乎？

闻左帅近日亦极谨慎，在汉口气象何如？弟曾闻其略否？申夫阅历极深。若遇危难之际，与之深谈，渠尚能于恶风骇浪之中默识把舵之道，在司道中不可多得也。

### 三月初七日

澄弟左右：

沉弟治军甚不得手。二月十八之败，杏南、葆吾而外，营官殉难者五人，哨勇死者更多，而春霆又与沉弟齟齬。运气一坏，万弩齐发，沉弟急欲引退。余意此时名望大损，断无遽退之理，必须忍辱负重，咬牙做去。待军务稍转，人言稍息，再谋奉身而退。作函劝沉，不知弟肯听否？

处兹乱世，凡高位、大名、重权三者皆在忧危之中。余已于三月六日入金陵城，寸心惕息，恒惧罹于大戾。弟来信劝我总宜遵旨办理，万不可自出主意。余必依弟策而行，尽可放心。祸咎之来，本难逆料，然惟不贪财、不取巧、不沽名、不骄盈四者，究可弥缝一二。

### 三月十二日

沅弟左右：

春霆之郁抑不平，大约屡奉谕旨严责，虽上元之捷，亦无奖许之辞，用是快快者十之四；弟奏与渠奏报不符，用是快快者十之二；而少荃奏省三败挫，由于霆军爽约，其不服者亦十之二焉。余日内诸事忙冗，尚未作信劝驾。向来之诸将有挟而骄者，从不肯十分低首恳求，亦硬字诀之一端。

余到金陵已六日，应酬纷繁，尚能勉强支持，惟畏祸之心刻刻不忘。弟信以咸丰三年六月为余穷困之时。余生平吃数大亏，而癸丑六月不与焉。第一次壬辰年发僧生，学台悬牌，责其文理之浅。第二庚戌年上日讲疏内，画一图甚陋，九卿中无人不冷笑而薄之。第三甲寅年岳州、靖港败后栖于高峰寺，为通省官绅所鄙夷。第四乙卯年九江败后赧赧走入江西，又参抚、臬，丙辰被困南昌，官绅人人目笑存之。吃此四亏，无地自容。故近虽忝窃大名，而不敢自诩为有本领，不敢自以为是。俯畏人言，仰畏天命，皆从磨炼后得来。

弟今所吃之蜑，与余甲寅岳州、靖港败后相等，虽难处各有不同，被人指摘称快则一也。弟力守悔字硬字两诀，以求挽回。弟自任鄂抚，不名一钱，整顿吏治，外间知者者甚多，并非全无公道。从此反求诸己，切实做去，安知大蜑之后无大伸之日耶？

## 四月十二日

沅弟左右：

弟手痛极苦，字迹亦露艰难之状，殊深忧系。若专由于风湿，自非药物不能为力；若肝家积郁血不养筋所致，则心病还须自心医，非药力所能达，非他人所能谋也。

春霆果系真病。余前日误信人言，谓渠尚在襄城演戏燕乐，是以初七调娄云庆疏内未将霆大加褒赞，于宋国永且有贬辞。发折后接霆信，颇用悔之，幸疏中亦未说坏春霆耳。

## 四月二十日

沅弟左右：

春霆已赏参四两，娄峻山奉旨来南，不久当可到金陵。见一二次，即可坐轮船赴鄂接统霆军。芳圃遣其侄来，言病已痊愈，可出治军；并云南云于四月初旬起程，前来金陵。余令二人共招万人。已咨达弟处矣。

余回任后，诸事尚不甚棘手。惟久旱不雨，二麦已伤，稻亦不能下种，深用焦灼。湖北前亦苦旱，近得雨否？

弟之处否，无须谢恩。凡部议重而特旨改轻者，则照例谢恩；依议者则不谢。旧式然也。

余身体如常。惟眼蒙较昔年更剧，作事全无兴致。老境颓唐，分所应尔，理所当然，无足怪者。弟之手疼，尚未及遽成痼疾之年。只要弟心宽和，肝郁稍纾，即可日就康复。古语云“心病还须自心医”，千万千万。

## 五月初一日

沅弟左右：

炮位自协解直东晋豫后，现存六百尊，而可用者实已无几。顷飭伊卿带胡将等自往拣择三百尊，大约明后日可开船西上。民间修筑圩寨，

不难在炮械，而难在修寨之费与守寨为主之人。虽有告示，非年余不能办出头绪。

春霆之病，恐无生理。顷各分统谭胜达、唐仁廉等公禀不愿归娄统而愿归宋统，由春霆转咨到此。既已不愿归附娄镇，若勉强令娄驰入霆军，恐生他变，自应留娄在苏皖另谋位置。惟宋公仁柔琐碎，断非能统此万五千人者。余意竟将霆军全行遣撤，另为招集。或令娄招五千，宋招五千，各打一路，不知弟意云何？此军素无条理，即使春霆幸而病痊，亦难保其无事。亢旱千里，金陵虽得雨，尚难插秧，弟又手疼异常，焦灼之至。

## 五月初五日

澄弟左右：

吾乡雨水沾足，甲五、科三、科九三侄妇皆有梦熊之祥，至为欢慰。吾自五十以后百无所求，惟望星冈公之后丁口繁盛，此念刻刻不忘。吾德不及祖父远甚，惟此心则与祖父无殊。弟与沅弟望后辈添丁之念，又与阿兄无殊。或者天从人愿，鉴我三兄弟之诚心，从此丁口日盛，亦未可知。且即此一念，足见我兄弟之同心，无论那房添丁，皆有至乐。和气致祥，自有可卜昌盛之理。

沅弟自去冬以来忧郁无极。家眷拟不再接来署。吾精力日衰，断不能久作此官，内人率儿妇辈久居乡间，将一切规模立定，以耕读二字为本，乃是长久之计。

## 五月十二日

沅弟左右：

接两函，知贼实已出境，为之少慰。亢旱不雨，鄂苏所同。禾稻不能栽培，饥民立变流寇，亦鄂苏所同也。惟盐河无水，盐不能出场入江；运河无水，贼可以渡运事东。此则苏患较大于鄂。岂吾兄弟德薄位高，上千天和，累及斯民，而李氏兄弟亦适罹此难耶？中夜内省，忧皇无措。

湖北情势若此，朱芳圃之军自可缓招。昨已用公牍咨复，由弟与筱荃会咨提帅撤停矣。

春霆既无治军之望，其军宜全行遣撤。六月告病，七月开缺，弟意既定，余亦不便阻止。盖大局日坏，气机不如辛、壬、癸、甲等年之顺，与其在任而日日如坐针毡，不如引退而寸心少受煎逼，亦未始非

福。惟余薛江誓，筠仙薛淮运司均不能如愿，恐弟事亦难必允准。

至于官相人觀，第一日未蒙召见，圣眷亦殊平平。弟谓其受恩弥重，系阅历太少之故。大抵中外人心，皆以弟之弹章多系实情，而圣意必留此公，为旗人稍存体面，亦中外人所共亮也。

## 五月二十一日

沅弟左右：

湘乡土匪业已扫灭，为之一慰。余日来有焦虑者四事：大者则恐枯旱终不下雨，又恐捻匪窜至运河以东；小者则恐湘乡之会匪与阜宁之海匪养成气候。今幸两处之匪皆已扫除，金陵已得大雨，不至竟成旱灾，三事可放心矣。惟捻匪由东平境内窜过运河，大局弥坏，凶焰弥炽，江苏之东北四府处处可虑。

顷见邸抄，御史佛尔图春参弟之案，尚有劾官相、肃党不实照例反坐之说，虽经谕旨平反调停，而痕迹殊重。弟见之必更懊恼，又增几分退志。余观军务日形吃紧，朝廷必不允弟告病之请，而弟之中怀郁郁，勉强久留，恐致生病，兄亦踌躇不能代决。弟之主意定后，如决志告病，望派专弁搭轮船前来，将折稿送兄斟酌商定再发。盖世局日变，物论日淆，吾兄弟高爵显官，为天下第一指目之家，总须于奏疏中加意检点，不求获福，但求免祸。云仙得藉词规避之批，盖仍遵前旨进京候简等语，本不稳妥也。弟此时无论如何烦恼，如何穷窘，总以保养身体为第一着。

## 六月初六日

沅弟左右：

闻弟与内人白发颇多，吾发白者尚少，不及十分之一。惟齿落较多，精神亦尚能支持下去。诸事棘手，焦灼之际，未尝不思遁入眼闭箱子之中，昂然甘寝，万事不视。或比今日人世差觉快乐。乃焦灼忽甚，公事愈烦，而长夜快乐之期杳无音信。且又晋阶端揆，责任愈重，指摘愈多。人以极品为荣，吾今实以为苦恼之境。然时势所处，万不能置身事外，亦惟有做一日和尚撞一日钟而已。

哥老会匪，吾意总以解散为是。顷已刊刻告示，于沿江到处张贴，并专人至湖南发贴。兹寄一张与弟阅看。人多言湖南恐非乐土，必有劫数。湖南大乱，则星冈公之子孙自须全数避乱远出。若目前未乱，则吾一家不应轻去其乡也。

南岳碑文，得闲即作。吾所欠文债甚多，不知何日可偿也。此间雨已透足，夏至插禾尚不为迟，但求此后晴霁耳。

## 同治九年庚午岁

十二月二十一日

澄、沅弟左右：

连接沅弟两函、澄弟一函，具悉一切。符卿侄之次子痛亡，家中丁口不旺，殊深焦虑。

兄自十一月发眩晕后，每日服药一帖，服二十余日而停止。刻下眩晕未发，而左目甚蒙，恐又将如右目之废视。饭量少减，间食面条、薄饼之类，以换味而利脾。内人近无所苦，阖家大小平安。

澄弟汇督销局之银三千，不知已收到否？闻吾乡银钱奇窘。不练团，则有事难于应变；常练团，则中户难于捐资。此中大费斟酌，两弟为一邑之望，此等处颇难措手。

兄自患目病，肝郁日甚，署中应治之事，无一能细心推求。居官则为漏职之员，不仕又无善退之法，恐日趋日下，徒为有识所指摘耳。惟望兄弟各善调摄，异日相见，尚各康强为幸。

## 同治十年辛未岁

正月二十五日

澄、沅弟左右：

十八日寅刻，纪泽生一子，小大平安，深以为慰。纪泽今年三十三岁，正在望子极殷之际，如愿得之，满门欣喜。惟八字于五行缺水、缺火，不知易于养成否。署中内外清吉。余眩晕之疾近日未发，目病则日益昏蒙，恐左目亦不能久保。

郑小山尚书自除夕到此，初二日即督同司员审马制军之案，至今熬



审将近一月。张汶详毫无确供，即再熬亦属无益，只好仍照魁将军等上年原定之案具奏。

长江水师，外间颇有烦言。或谓遇民间有骨牌者字牌者，则以拿赌讹案，得数千或千余文乃肯释放。或以查拿私盐，查拿小钱，搜索民舟及附近人家，讹钱释放。夜索打更之灯油钱。民船拉纤，不许在炮船桅上盖过。干预词讼，至有哨官棍责举人者。甚且包庇私盐、袒护劫盗种种弊端。余设立水师，不能为长江除害，乃反为长江生害。两弟在省时，亦常闻此等闲话否？如有所闻，望详细告我。

兄精神疲惫，加以目病，每日治事甚少，任内应尽之职，不克一一办妥。而昔年所办之事，又有大不妥如水师者，贻人讥议。用是寸心焦灼，了无乐趣。境颇顺而心不适，对老弟而愧疚矣。

沅弟若果居省城，澄弟又常不在家，则吾乡五家日益寂寞，深以为念。而符、剑两侄欲求学问文章之日进，又似宜在省会，多求良友，以扩充其识而激发其志。二者利害参半，若不得良友而亲损友，则居省之利少矣。

## 二月初七日

澄、沅弟左右：

乡间帑钱紧迫，萧条气急，亦殊可虑。纪鸿儿于正月二十六日又生一子。乙丑四月完婚，六年未滴，已生四子，亦云密矣。纪泽之子名曰广铭，纪鸿之子名曰广铨。只求易于长成，将来各房丁口或者不至甚少。

郑小山于正月二十八日出来拜客一日，二十九日拜折后即行起程，干礼水礼一概不收，一清彻骨。穀山之案，竟未审出别情，仍照张、魁原拟定讞。

徐寿蘅学使于二月初五日来此。一则由浙回京，必由扬州，迂道来宁见访；一则渠以奏事上干严谨，亦欲与余一商进退之宜。余劝之回京复命，学政任满。一面谢降调之恩；如久不得缺，再行引退。渠以为然。其精力才气，将来尚当再跻崇秩。

兄身体平安，目疾则日甚一日。春日肝旺，宜其更不如冬之静。暑中大小清言。来此求差事者，无可位置。世上之苦人太多，好事太少，殊焦闷也。

### 三月初三日

澄、沅弟左右：

久未寄信，想弟望之殷殷。

正月所生兩孫俱已滿月，小大平安。內人於二月十三日患病，初似溫症，竟日發熱譫語，十余天不愈。近日變為咳嗽，左手右腿腫疼異常，多方醫調，迄無效驗。余新患疝氣疾，右腎偏墜，腫痛殊甚，旬日之後，漸見痊癒。日內痛已漸止，立坐均不礙事矣。

沅弟挈家移居長沙，不知即試館旁之公館否？住鄉住城，各有好處，各有壞處。將來一二年以後，仍望撤回二十四都，無輕去桑梓之邦為要。

省城之湘鄉昭忠祠家余匾字，自當寫就寄去。惟目光昏蒙，字比往年更劣，徒供人汕笑耳。

澄弟目光亦壞，不知兩目同病乎？一目獨苦乎？沅弟亦近五十，途來目光何如？牙齒有落者否？夜間能坐至四五更不憊否？能竟夜熟睡不醒否？

劉同坡翁恤典一事，即日當查明，行知湖南本籍。劉文恪公之後，至今尚有男丁若干？光景尚不甚窘否？吾鄉顯宦之家，世澤綿延者本少。吾兄弟叨忝爵賞，亦望後嗣子孫讀書教民，略有成立，乃不負祖宗培植之德。吾自問服官三十余年，无一毫德澤及人，且愆咎叢積，恐罰及於後裔。老年痛自愆責，思羞前愆。望兩弟於吾之過失時寄箴言，并望互相切磋，以勤儉自持，以忠恕教子，要令後輩洗淨驕惰之氣，各敦恭謹之風，庶幾不貽家聲耳。

### 三月十七日

沅弟左右：

頃接來信，知弟已移居長沙。此後兄寄兩弟信，仍各分寫，兩弟接信，彼此互閱。

內人之病，自二月十三起，今已一月零五日。初系大熱，譫語不止，三日轉變為右腳大腫，疼痛異常，呻吟至于號泣，服藥無效。近已腫至小腹，左腳及兩手亦微腫，但不甚耳。以余觀其症象，已難挽回；而醫者謂脈無敗象，尚有一線可望。李少荃送建昌花板二付，交歐陽定果帶來，昨已命工匠做成矣。

余於二月十三日發疝氣疾，右腎堅腫下墜，近已消腫縮上，不甚為

患。惟目疾日剧，右目久盲，左目亦极昏蒙，看文写字，深以为苦，除家信外，他处无一字亲笔。精神亦极衰惫，会客坐谈，即已渴睡成寐，核稿时亦或睡去，实属有玷此官。幸江南目下无甚难事，新中丞张子青心气平和，与友山漕帅皆易于共事。

省三丁艰，孙琴西署盐道亦属顺手。若无洋务突出变端，尚不至遽蹈大戾耳。闻倭相病势甚重。李相在津，众务毕兴。精神之衰旺固全视乎年齿，两弟年不甚高，不知近日精力究竟何如？便中详书告我。郑小山在清江请假养病，闻其将有退志，不知果否。

## 四月初一日

澄、沅弟左右：

三月十七日寄去一缄，专写沅弟之号，意谓此后沅既住省，信当分寄。然细思吾兄弟三人之信，断未有不互观者，仍以共写一封为妥。

两弟信皆甚密，阿兄目病，而又懒情，去信较稀，致弟殷殷悬盼，殊抱不安。

余疝气之疾已愈，眩暈近亦未发，惟目光昏蒙日甚，作字为难之至。内人病已近五十天。前半月壮热谵语，后月余脚肿奇疼，寸步不能移，视屋冈公更为难动。目盲而肢体痠痹，此病中极苦之境，而诊脉者谓其目下尚无死法。二女此次归宁，恰好待服母疾。余阖署小大平安。

广德州并未失守。土匪滋事，二月十七夜围建德城，城内团丁、差役等保守得完，生擒十余贼正法。余已鼠窜，派兵各处搜捕。江皖得雨沾足，应不至编成大变。惟万一有事，无兵可用。吾意欲招勇数营，不知沅弟意中有可靠之统领否？

## 五月初十日

澄、沅弟左右：

接寄信，报岳崧案首之喜。鲁秋航带到好茶及前此寄来之早茶俱已收到，至情佳味，感谢感谢。纪寿早得入庠，足以少慰高轩公、懿烈公于地下，良为慰幸。惟府考院考尚须敬重将事。

余昏眩之疾、疝气之疾近皆未发，目光则昏蒙如常，无法挽回。内人右脚肿已全消，疼亦大减，能伸缩而不能行走。虽眼不光脚不健为极苦之境，而三月间势处必死，竟能逃出命来，亦不幸中之幸也。其余合家平安。

澄弟问余所作慎独主敬等四条，兹抄一分寄去。诸侄辈若能行之，

于身心及治家俱有大益。《阅微草堂笔记》系纪文达公所著，多言狐鬼及因果报应之事。长沙如有可买，弟亦可常常阅之。

封爵敕书同治四年领得。错字极多，令纪泽带至湖北呈弟处。弟因其错误一笑而未收，纪泽即带回湘乡。不知今尚在富厚堂否？拟到京换领，尚未果行。养廉有领与否？可在外省藩库领否？须托人到京一查。余之爵廉未曾领过一次。

《湖南文征》收到。研翁去年寄书，意欲余为伯宜作碑传等，语甚沉痛。余顷为作伯宜墓志。其《文征》之序，少迟亦当一作，俟作就一并寄南，请弟先告研翁。精力日衰，文笔日陋，则不能强者也。

## 六月二十七日

澄、沅弟左右：

久未致书，想我弟悬望之至。屢接弟信，承寄健脾糕、茶叶、腊肉之类，谢谢不尽。

余身体尚好。今年不甚酷热，眩晕、疝气等病未发。惟目光昏蒙如常，亦不吃药点药。内人脚肿已消，膝尚作疼，略可站立，不能行动。久病之后，此已算全愈矣。

冯树堂已抵家否？渠在此小住兼旬，又至上海访涂朗仙，又至六安州代吴竹如先生相择阳宅阴地，并为涂家择地数处，又言八九月间将至湘乡二十四都等处为我预卜葬地。若果至吾乡，请澄弟殷勤款接。渠昔在祁门，余与之口角失欢，至今悔之。今年渠至此间，余对之甚愧也。

余往年开罪之处，近日一一追悔，其于次青尤甚。昔与次青在营，曾有两家联姻之说。其时温弟、沅弟均尚有未定姻事者，系指同辈说媒言之，非指后辈言之也。顷闻次青欲与纪泽联姻，断无不允之理，特辈行不合，抱惭滋深耳。

长沙无《阅微草堂笔记》，当即以此间一部寄弟。纸板亦坏，较之金陵市店之小板犹略胜耳。

## 七月二十六日

澄、沅弟左右：

久未寄函与弟，近日亦未接弟信，想各家皆清吉也。纪泽之子曰同儿者，于七月发慢惊风，便已殇亡。此儿初生时，余观八字于五行中缺水缺火，与甲一儿之缺水缺木者相同，即已虑其难于长成，不料其如是之速。纪泽夫妇年逾三十，难免忧伤。然此等全凭天事，非人力所能主

持，只得安命静听。余老年衰惫，亦畏闻此等事，强自排解，以惜余年，两弟尽可放心。

江境兵勇太少，缓急无可倚恃。现令章合才招湘勇三千东来，派朱唐洲、李健斋为营务处，梅煦庵为支应委员。薪水则朱六十金，李、梅各四十金，略为位置三人。此外谋差而无以位置者尚极多也。

余衰颓日甚，每日常思多卧，公事不能细阅，抱愧之至。看书未甚间断，不看则此心愈觉不安。偶作古文，全无是处。祖、考两处墓表皆已作就，皆不称意，下次再行寄回。如其可用，则请沅弟书就刊刻。

左帅疏荐沅弟及芑泉，此间亦闻是说。其萌退志，则未尝闻之。章合才言其精神百倍，多酒健饭，现派刘省三出关剿新疆伊犁之贼。左帅平安甘肃之后，恐下文尚长，亦由天生过人之精力，任此艰巨也。

余拟于八月初出省大阅，大约两月后乃可旋省。此间岁事丰稔。高田间有伤旱之处，而亦可望七八分。涂朗仙放湖南臬司，本属有德，近更优于才，湖南之福也。

## 八月初十日

澄、沅弟左右：

余脚上浮肿，肥而且硬，常服之袜已不能入。心血极亏，全不能用。现定于十三日出省，至淮、徐、苏、常等处大阅。日内酬应纷繁，勉强支持。同乡及外省求差事者络绎不绝，已位置十余人，而向隅者尚多。大抵老年之人，血虚则气断难振。兄近来所以日见日衰，志欲强而气血不能副者，亦由血虚之故。

盐务之事，户部奏复之文助鄂川而抑淮，轩輊之情，力透纸背。余两次在京，不善应酬，为群公所白眼，加以天津之案物议沸腾，以后大小事件，部中皆有意吹求，微言讽刺。陈由立遣发黑龙江，过通州时，其妻京控，亦言余讯办不公及欠薪水四千不发等语。以是余心绪不免悒悒。阅历数十年，岂不知宦途有夷必有险，有兴必有衰？而当前有不能遽释者。但求不大干咎戾、为宗族乡党之羞足矣。

内人目疾已久，脚疼未痊，余却平安，饭量比亦稍加，真所谓贞疾恒不死矣。

## 九月初十日

澄、沅弟左右：

自八月十三日出门至淮、扬等处，久未寄信，殊以为歉，而接弟等

信三次。有筱澄侄八月十九生子喜报，阅之不胜欢欣。兄之望甲三得子，与澄弟之望甲五得子，此其心之同，众人所共知者也。沅弟之与两兄同心，亦众所共知者也。今甲五上托祖宗之福，如愿而偿，将来甲三或亦相继而起。老年兄弟心中只有此事要紧，贺贺。

兄自八月十八至扬，阅操三日，二十二日起行。二十八日至清江，阅操三日，九月初三起行。初七至徐州，已阅一日。日内身体小有不适，幸渐痊愈。即当南旋至常、镇、苏、松等郡校阅，大约十月二十前后可以完竣。人客繁多，较之在署更为劳剧。所幸江南今年丰熟，所过无颠连憔悴之状，为之少慰。老年记性愈坏，精力益散，于文武贤否、军民利弊全无体察，在疆吏中最为懈弛，则又为之大愧。

闻法国于天津之事总不输服，现已派轮船七八号前来中国搦战，不知确否。果尔，则上海、江宁皆将震扰。久作达官，深虑蹈叶相末路之愆。少荃时望甚好，而为各灾所困，亦颇棘手。筱荃则身名交泰，无往不顺。

仕途巨细，皆关时运。余持此说久矣，然亦只可言于仕宦。若家事，亦虽有运，然以尽人事为主，不可言运也。何如何如？

## 十月二十三日

澄、沅两弟左右：

屢接弟信，并阅弟给纪泽等谕帖，具悉一切。兄以八月十三出省，十月十五日归署。在外匆匆，未得常寄函与弟，深以为歉。小澄生子，岳松入学，是家中近日可庆之事。沅弟夫妇病而速痊，亦属可慰。

吾见家中后辈体皆虚弱，读书不甚长进，曾以养生六事勸儿辈：一曰饭后千步，一曰将睡洗脚，一曰胸无恼怒，一曰静坐有常时，一曰习射有常时，射足以习威仪强筋力，子弟宜多习。一曰黎明吃白饭一碗不沾点菜。此皆闻诸老人，累试毫无流弊者，今亦望家中诸侄试行之。又曾以为学四事勸儿辈：一曰看生书宜求速，不多阅则太陋；一曰温旧书宜求熟，不背诵则易忘；一曰习字宜有恒，不善写则如身之无衣，山之无木；一曰作文宜苦思，不善作则如人之哑不能言，马之跛不能行。四者缺一不可。盖阅历一生，而深知之深悔之者，今亦望家中诸侄力行之。养生与力学，二者兼营并进，则志强而身亦不弱，或是家中振兴之象。两弟如以为然，望常以此教诫子侄为要。

兄在外两月有余，应酬极繁，眩晕、疝气等症幸未复发，脚肿亦愈。惟目蒙日甚，小便太数，衰老相逼，时势当然，无足异也。

## 十一月初八日

澄弟、沅两弟左右：

近接澄弟一信，沅弟二信，具悉一切。兄自大阅归来，倏已兼旬。身体尚好，眩晕、疝气、脚肿等症俱未复发。惟目蒙日甚，小便太多，无非以一衰字蔽之。

刘毅斋亦已告归。其欠饷五十余万，余已为之设法，约二年可以完清，渠甚以为感。盖寿卿固可敬，毅斋又极可爱，宜沅弟屡函思所以扶植之也。

吾将以十一月二十二日迁新衙门。历年有非仪寄家乡族戚，今年亦稍为点缀。乞弟即为分致。毫末之情，知无补于各家之万一。

纪鸿拟以一子出嗣纪泽。余自十月半由苏、沪归来始闻其说，力赞成之。本月拟即写约告祖，不作活动之语。中和公出嗣添梓坪，因活动而生讼端，不如李少荃抚幼泉之子作呆笔耳。

筱荃至湖南查案，必于樞帅有碍。夔石既署抚篆，藩席另放吴公，则中台开缺已无疑义。樞帅和平明慎，不知同乡京僚何以啧啧评贬？宦途信可畏哉！

## 十一月十七日

澄、沅弟左右：

余身体粗健。眩晕、疝气诸症未发，脚肿因穿洋袜而消，幸未再发。惟眼蒙日甚，无术挽回。请医诊视，云两尺脉甚虚，然尚可以补救。惟目疾难治，近世亦无精于眼科者，不如不治为上策。署中大小平安。本月二十二日移居新衙门，屋多人少，殊觉空旷。

聂宅世兄尚无来江之信。刘、王二公急欲借洋饷六十万，余前复信虽已允许，而仍多筹商为难之辞，不知樞帅接到后如何定计。新任上海沈道月内必来敝处，当再与熟商之。

湘省督销局入款分拨甘省淮军，留湘用者无几，能还此巨款否？李筱帅查办之案已就绪否？樞帅无大处分否？宦途险巇，在官一日，即一日在风波之中，能妥帖登岸者实不易易。如樞帅之和厚中正，以为可免于险难，不谓人言藉藉，莫测所由，遽至于此。

李申夫回籍后光景甚窘，今年托兄追索浙江运使任内养廉。杨石泉慨然许给三千七百余金，亦小可慰也。